新体制発足! 6.17『ハッスル・エイド』で大勝負!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE



enterbrain MOOK

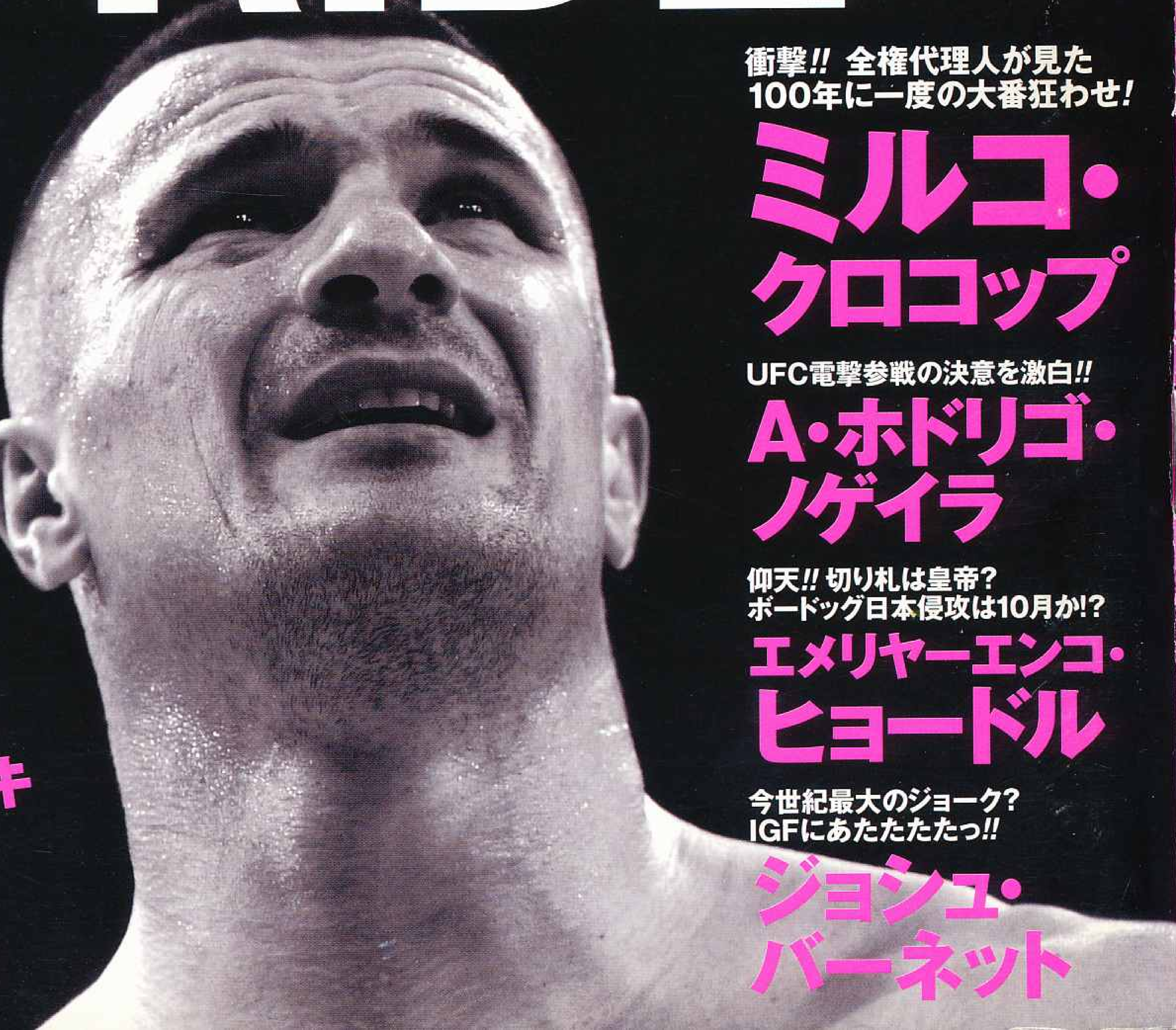
2007

111

880yen

霸王（ミルコ）散る! 皇帝（ヒョードル）、太陽（ノゲイラ）、北斗（ジョシュ）も流れゆく

さまよえる PRIDE



見たい! "最後"の相手にあの秋山成勲を指名!!
金原弘光

研鑽三昧!! 狂気師弟の矛先は!?
柴田勝頼×船木誠勝

GKが魔性の魅力を大探検!
インリン様

本隊をぶっ潰す勢いの平成維震軍座談会だって!
越中詩郎×小林邦昭×ザ・グレート・カブキ

ウワサの底抜けイベントIGF 全16ページのフルスイング大特集!!
2007年のアントニオ猪木

衝撃!! 全権代理人が見た100年に一度の大番狂わせ!
ミルコ・クロコップ

UFC電撃参戦の決意を激白!!
A・ホドリゴ・ノゲイラ

仰天!! 切り札は皇帝? ボードッグ日本侵攻は10月か!?
エメリヤーエンコ・ヒョードル

今世紀最大のジョーク? IGFにあたたたたっ!!
ジョシュ・バーネット

kamipro 111 さまよえるPRIDE

印刷・製本／図書印刷株式会社

キリン、越中の次は"虫"だ!!

"最凶の虫"リオック衝撃の初登場!!



2007 No.111 CONTENTS


kamipro

表紙写真/乾晋也



MMA新世界 さまよえるPRIDE

無音、無風、身の毛がよだつほどの静寂。
新生『PRIDE』は5月中旬の時点で
不気味な沈黙を貫いたままだ。
いったい何が起こっているのか。
本誌が発売される頃には大きな発表が
されているというウワサもあるが



1年前には想像もつかなかった状況だ。
世界最高峰は夢か、幻か——。
〝PRIDE〟を根っこに持つ戦士たちは
MMA新世界をさまよい続けている。
次なる舞台へ旅立つ者——
無惨に散ってしまった者!!
いまを憂う者もいれば
涙の帰郷をはたした者もいた。
うまい話にダマされる者も!? ンムフフフフ!!
——いまだ夜明けが見えぬ闇の中で
戦士たち、そして『PRIDE』は
どこへさまようのか——!?



俺はいまどこにいるんだ……？

JOSH BARNETT

ジョシュ・バーネット

仰天！ あのIGFに衝撃参戦決定!! 北斗の男はMMA荒野のどこへ行く——!?

すでにご存知だと思われるが、このニュースには、さすがのダナ・ホワイト代表も腰を抜かしたに違いない!! それは、『PRIDE』の体制チェンジにより、その去就が注目されていたジョシュ・バーネットの決断である——。

未曾有のMMAバブルで選手争奪戦は激化を極め、完全に売り手市場となったMMAシーン。『PRIDE』、UFC、ボードッグ、K—1……。ジョシュを喉から手が出るほどほしがるプロモーションは枚挙にいとまがないが、北斗の選択は、あのアントンが主催するプロレスイベントIGFだった!! ひでぶっ！

もう『PRIDE』に興味はないのか。ダナ・ホワイトとは犬猿の仲だし、『PRIDE』&UFC圏には止まらないのか。

デリケートな時期にまさかの決断。人生は遠回りしないと見えてこないものもあるけれど、いったい"蒼い瞳のケンシロウ"の視線の先に見えるものとは？

——ジョシュさん！　いったいどういうことなんですか!?

ジョシュ　ほわたっ!!　そんなに慌ててどうしたんだい？　まるでケンシロウに助けを請うバットみたいだね（笑）。

——そりゃ慌てもしますよ！　だってジョシュさんが、あの底抜け（＝底が抜けるほどおもしろそうな）プロレスイベントIGFに出場するって発表されたんですから。

ジョシュ　そうだよ。イノキサンのイベントに出ることになったんだよ。

——ああ、本当なんですか……。確かに『kamipro』読者にはゲノムマニアがたくさんいるんですけど、なんだか複雑だなあ……。IGFとは正式契約を交わしたんですか？

ジョシュ　契約というか、1ヵ月ぐらい前に「いい試合を組むから出てくれ」とオファーがあったから、「出るよ」って返事しただけなんだけど。まだ対戦相手も決まってないんだけどね。

——でも、同じくIGFに出場予定のブロック・レスナーとカート・アングルへ対戦メッセージを出していましたよね？

ジョシュ　うん。でも、あの二人と闘うのはちょっと難しそうなんだよね。だから、できればミノル・スズキ（鈴木みのる）と試合をしたいんだ。

——三冠王者の鈴木みのるですか？　そういえば、ジョシュさんは以前から対戦を熱望してましたよね。

ジョシュ　彼とならいい試合ができると思う！　とにかくIGFにはいい対戦相手を見つけてきてほしいな。IGFはまだ何色にも染まってないけど、どういうカラーにするのかはやっぱり出場する選手次第だからね。

——……とんでもない色に染まっていると思うんですけどねえ（小声で）。

ジョシュ　ん？　なんか言った？

——いやいや。でも、最近の猪木さんのイベントって、何度も開催が延期になったりしてるんですよ。まあ、そこがゲノムマニアを増やしている魅力の一つでもあるんですけど。

ジョシュ　大丈夫だよ！　イノキさんのイベントがここ最近何回か延期になったり中止になったりしたことは知ってるけど、今回は大丈夫だ!!

——なぜそこまで太鼓判を!?

ジョシュ　だってIGFはビッグプロモーションだからね！（キッパリ）。

——ビッグプロモーションですか！　確かにいろんな意味でビッグなんでしょうけど（笑）。ジョシュさんがUWFの大ファンだということはよく知られてますけど、猪木さんへの思い入れもやっぱり強いんですか？

ジョシュ　もちろん！　だって彼がカール・ゴッチから学んだ技術がいまの日本のプロレスのベースとなり、それが脈々と受け継がれて、UWFからいまのソウゴウカクトウギ（日本語で）に発展したわけだからね。そんな彼の団体で闘えることはたいへん光栄だよ!!

——日本のファンが一番、気にしているのは、今後もMMAを続けるかどうかなのか？　ということなんです。

ジョシュ　ちょっと待ってくれ！　ボクはこれまで一度もプロレスとMMAを分けて考えたことはないよ。どちらにも出続ける!!

——いや、それは決してMMAにこだわってほしいというわけじゃないですけど、ズバリ言えば、日本の関係者のあいだでは、ジョシュさんがあの闇の勢力ボードッグに出るんじゃないか？　という話題でもちきりなんですよ。

ジョシュ　ボードッグ？『PRIDE』との契約上、いまボクはほかの団体とは交渉できない立場なんだ。ただ、ボードッ

構成／ジャン斉藤
撮影／Banhera Pires

グは素晴らしいカンパニーだと思うし、彼らには成功してこのビジネスを続けてほしいと考えている。もし、ボクが加わるようなことになれば、彼らにとって成功の要因になるだろうけどね。

――では、ジョシュさんの具体的な今後のプランは？

ジョシュ　じつはいま『PRIDE』とは今後のことを話し合っている真っ最中なんだ。というのも、ボクはすでに『PRIDE』で積み重ねてきた歴史があるからね。そこはできるだけ大事にしたい。ただ、いまの『PRIDE』の状況は、みんなも知っているように非常にややこしいことになってるでしょ？

――オーナーが榊原代表からロレンゾ・フェティータ氏にチェンジして新体制発足に向けて動いていますが、まだ大会スケジュールが出てないですね（5月13日現在）。

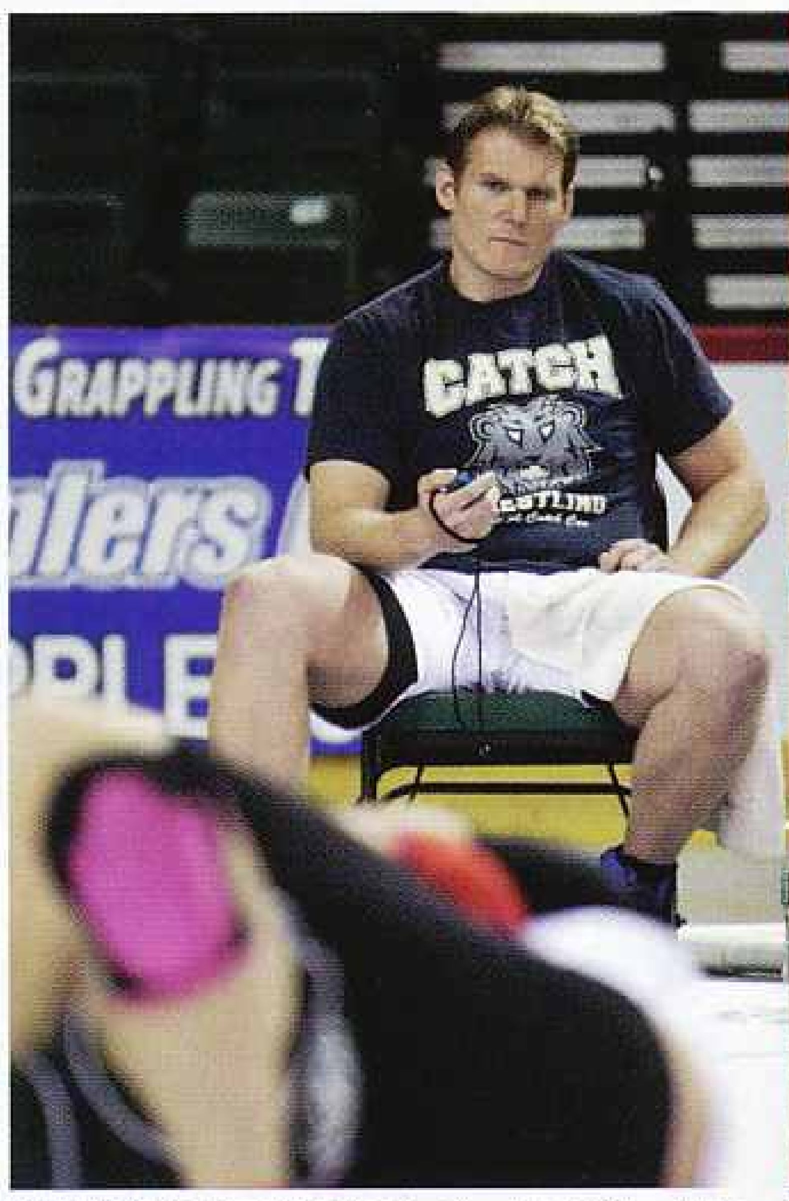
ジョシュ　だから、ボクはいまの『PRIDE』の状況を理解しようとしているというところだね。すべての決断はそれから。状況がわからないのに「どうするか？」なんて聞かれてもなんとも言えないよ。ボクはいま自分がどこにいるのかすらわからないんだ。

――かつてジョシュさんとトラブルのあったUFCが『PRIDE』と同一資本になることへの不安もあったりしますか？

ジョシュ　それはまったくないね。過去のイザコザはもう関係ないよ。それよりも、今後自分がどうなるかだからね。まあ、慌てないで見ていてくれよ。

――了解しました。話題を変えますが、いまのところ最後の試合は昨年の大晦日『PRIDE男祭り』でのアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ戦ですよね。

いまは『PRIDE』の状況を理解しようとしている。すべての決断はそれからだよ。





寝技の祭典『アブダビコンバット』では、鬼コーチに徹していたジョシュ。日本女子軍団との記念撮影は、向かって左から塩田さやか、シャノン・フーパー、藤井恵、赤井仁美。ちなみに塩田は55キロ以下のクラスで見事、優勝!!　菊田早苗以来となる日本人選手の快挙の模様は、ちゃんとした格闘技雑誌を立ち読みしてください。

ジョシュ　あの試合には本当にガッカリしたよ！　ノゲイラを確実に仕留めることができたはずなのに。関節を極めることも、KOすることもできた。

――そのノゲイラは『PRIDE』からUFCへ転出してしまいましたが……。

ジョシュ　ノゲイラを勝ち逃げさせてしまったことは本当に残念だけど、彼がUFCで成功することを願っているよ。そして、彼がUFCで成功したときにおいしいところをいただくつもりさ（ニヤリ）。ボクはこの14ヵ月のあいだに8試合も闘ってきた。だからこれからボクが一番必要なことは身体を回復させて、コンディションを整えることだね。

――でも、当初はこの『アブダビコンバット』で試合をするという計画もあったとか。

ジョシュ　じつはそうなんだ!!

――休む気があるんですか、本当に（笑）。

ジョシュ　というのは、前回のアブダビを観に来たときに、ボクは試合をするべきだと強く感じたんだ。それで闘う準備もしてきたんだけど、調整がうまくいかなかった。それでもべつに試合に出て勝つことはできたと思うよ。ただ、ボクは中途半端な状態で試合をしたくなかった。とにかくボクはうまくトレーニングが積めなかったから、今回はコーチに徹することにしたんだ。

――なるほど。話をMMAに戻しますが、半年前とはこの世界もだいぶ変わってしまいましたけど、現在のトップ選手を挙げていただけますか？

ジョシュ　それは半年前と変わらないよ。ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ、そしてボク。ほかの連中はこの4人のレベルじゃないさ。

――でも、そのベスト4のミルコがUFCでガブリエル・ゴンザガに敗れました。

ジョシュ　ミルコはメンタルの面で準備ができてなかったように見えたね。技術的にはシンプルな試合だった。ただ、ミルコにとっては『PRIDE』とまったく別のゲームだったんじゃないかな。

――ゲームの主導権はゴンザガが握ってましたね。

ジョシュ　彼はミルコ相手に何もさせなかったんだからね。テイクダウンからのヒジは有効だったし、ふらつくミルコにハイキックを打ったのもスマートだった。ゴンザガは世界でベストファイターかと聞かれたら、そうでもないし、これから負けることもあるだろうけど、それがなんだっていうんだい？　彼はもっと経験を積んでさらに強くなるよ。

――勝敗のポイントになったのは『PRIDE』で禁止されていて、UFCでは認められているヒジによる攻撃ですけど、ヒジありルールについてはどういう意見がありますか？

ジョシュ　ボクはかつてUFCでチャンピオンになった男だし、それにエルボー・マスターなんだよ！（笑）。

――ハハハ！　三沢さんクラスの！

ジョシュ　UFCの闘い方はどういうものかは肌で知っている。実際に闘うことになってもな～～～んの問題もない。むしろボクにとってはヒジありのほうが楽なんだよ。

――では、UFCルールのほうが都合はいいと？

オクタゴンの闘い方は肌で知っている。実際に闘うことになってもなんの問題もない。

ジョシュ　いやいや、そうでもないね。ボクは上からでも下のポジションからでもエルボーを使えるけど、エルボーで観客が盛り上がるような試合にはしたくないんだ。それより、サブミッションで一本を極める美しい試合をしたい！　ヒジありだとカットですぐに流血して試合を止めなくちゃいけない。それ、全然クールじゃないよ!!

――じゃあ、もしゴンザガと闘うことになったら、サブミッションで極めると？

ジョシュ　え～っと、有効な攻撃ならなんでもするかなあ（笑）。

――ハハハハ！　クールじゃない仕留め方をするかも（笑）。

ジョシュ　スタンドで闘って彼の動きを見てもいいし、グラウンドで闘ってもいい。とにかく先にゴンザガに判断させて、相手を動かすようにするよ。ボクはもう11年間もキャリアを積んでいるんだ。だからどんなシナリオにも対応できる自信はあるよ。とにかく自分のリズムで闘わせるようにする。ま、その前に生活のリズムをしっかりしなくちゃ！

――しばらくはカリフォルニアですか？

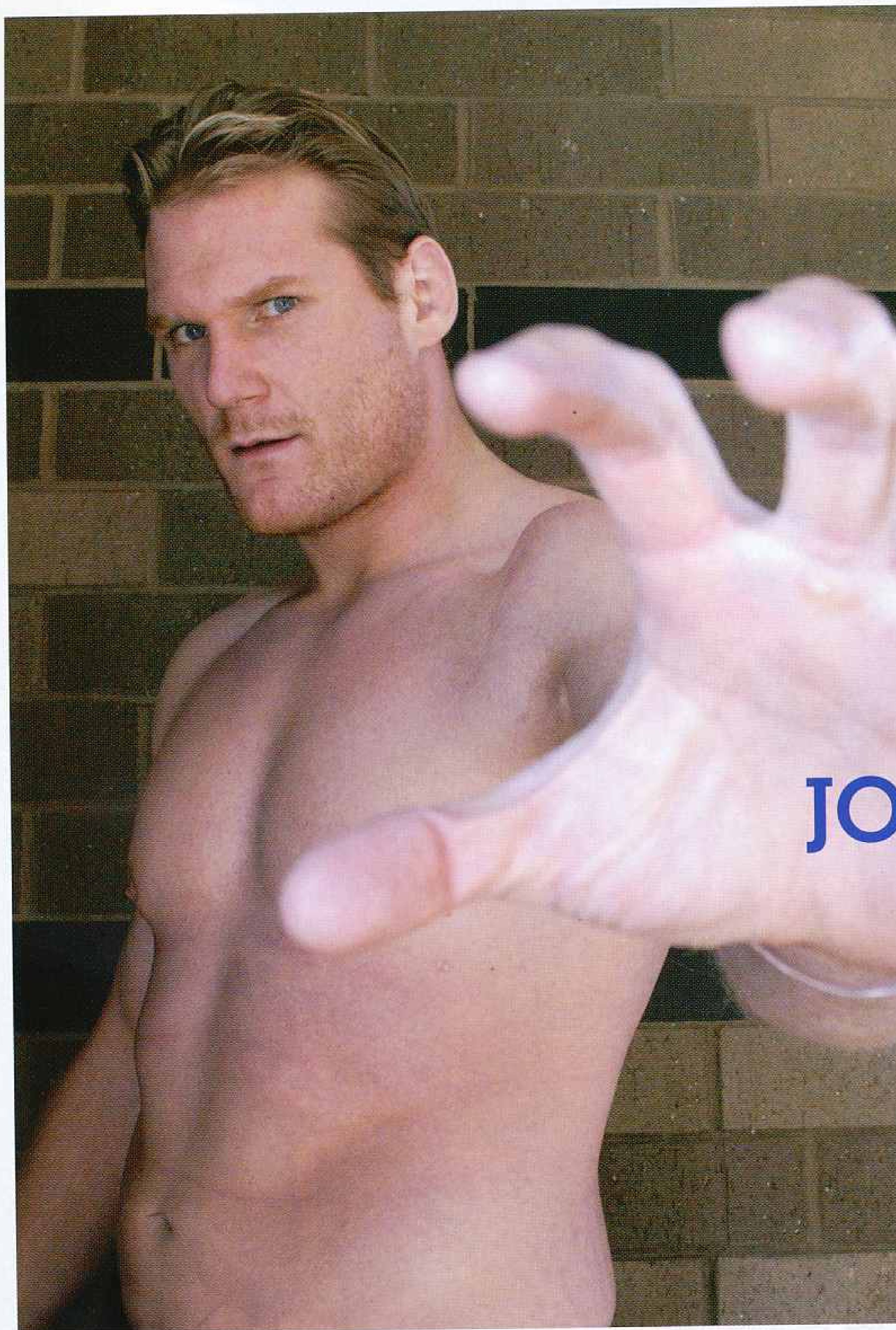
ジョシュ　そうだね。カリフォルニアでトレーニングを続けることになるだろう。いつも練習しているオレンジカウンティ群のシュートレスリングの道場には優れたファイターが集まってるし。それと今度、ウチのチームにレナート・ババルが加入することになる。

――あ、それは心強い加入ですね。

ジョシュ　うん。彼の加入はチームにとっても大きいし、逆にチームで彼のことを助けてあげられたらと思うけどね。

――ところで、ご存知だと思いますが、『PRIDE・34』で桜庭さんが戻ってきたんですよ。で、リング上で田村さんと対戦を約束したんです。

JOSH BARNETT



JOSH BARNETT■1977年11月10日、アメリカ・ワシントン州出身。UFCヘビー級王者、現キング・オブ・パンクラス無差別級王者。06年のPRIDE無差別級GPでの快進撃でブレイク。日本のプロレスやUWFへの造詣は深く、また、日本文化をこよなく愛する世界最強のオタクでもある。191cm、116.5kg。

ジョシュ　ああ、サクラバサンが『PRIDE』のリングに立ったことには凄く驚いたよ！　でも……またサクラバサンが『PRIDE』で試合をする可能性は残念ながらかなり低いんじゃないかな。

――ジョシュさんは『kami-pro』で桜庭vs田村戦の論文を書かれたり、この試合を待ち望まれていましたけど、やっぱり実現してほしいですか？

ジョシュ　そうだね……観たい!!　あの二人には、Uインターがなんだったのかを体現してほしい。二人にしかできない回転体の闘いがソウゴウカクトウギで観られると思うんだ。ただ、サクラバサンの体調があんなにボロボロの状態だけど、タムラサンはグッドシェイプ。試合はタムラサンが勝つと思うけど、内容自体には凄く興味があるよ。

――なるほど。で、その桜庭選手は6・2『Dynamite!!　USA』でホイス・グレイシーとの再戦が決まったんですよ。

ジョシュ　ん～、その試合はみんながもう一度観たくないと思うのはわかるけど、まぁやるんなら観るよ。たぶんサクラバサンが判定で勝つと思うけどね。それよりもボクはブロック・レスナーのMMAデビュー戦が観たい!!

――そっちですか（笑）。

ジョシュ　レスナーがチェ・ホンマンに勝てるかなって（笑）。勝たないとレスナーはIGFにも出てこられないだろうし。とにかくいまは6月のIGFを楽しみにしていてよ。

――ボクもの凄く楽しみなんですよ、IGF（笑）。では、両国国技館の試合に期待しています!!

［07年5月6日／アメリカ・ニュージャージー州『アブダビコンバット』にて、あたたたたっ!!］

締め切りド直前の5月13日時点の情報では、ジョシュは渡米したアントンと会談を持つ予定だという。そこの席で対戦相手を含めた具体的なIGF情報がリリースされるはず。そして、気になるMMA荒野の行き先も――!?

胸に七つの傷を刻みながら続報を待て!!



©Josh Hodges / UFC

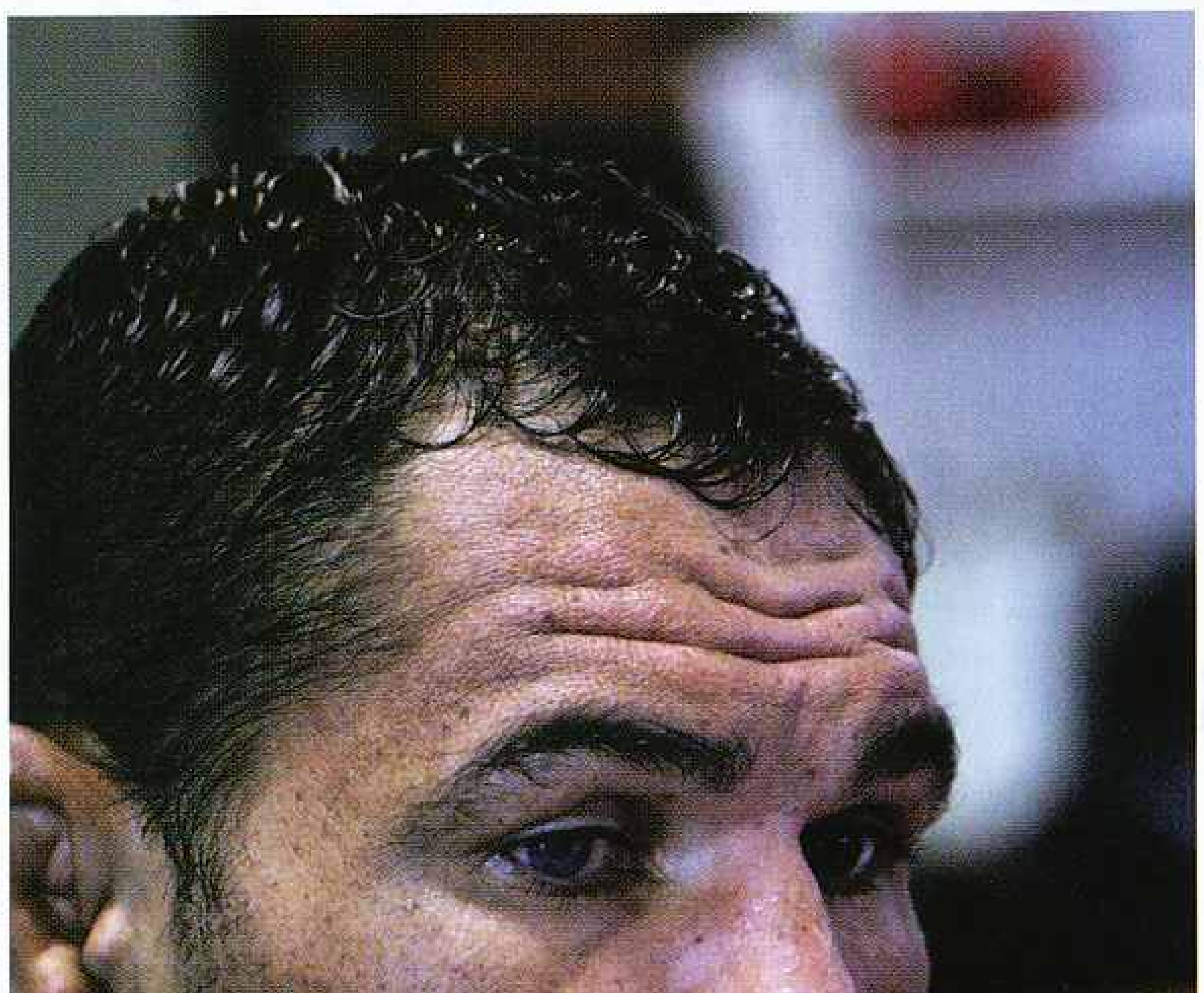
ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA

ボクはPRIDEを愛してる。でも、選手寿命を考えたら自分の将来を考えなきゃならないんだ

ブラジル・クリチバ発　独占インタビュー

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

「30歳の決断」



DSE体制“最後の夜”である『PRIDE.34』とほぼ同時刻である、アメリカ現地時間の4月7日。『UFC69』のオクタゴンに登場し、UFCへの“電撃移籍”を表明したノゲイラ。“PRIDEの守護神”とまで呼ばれた男の、この突然の行動に衝撃を受けたのはファン、関係者だけではなかった。なんと所属するブラジリアン・トップチームのメンバーですら“寝耳に水”の事態だったのだ。なぜ、ノゲイラは誰にも告げずにUFC参戦を決めてしまったのか。本誌はブラジル・クリチバに滞在中のノゲイラをついにキャッチ！ 柔術マジシャンの真意に迫った!!

聞き手／堀江ガンツ　取材協力／Banhera Pires

――ノゲイラ選手！　なかなかつかまらなくて心配しましたよ。いったいどこに行ってたんですか？

ノゲイラ　2月のPRIDEラスベガス大会に行ったあと、お母さんが住んでいるフロリダに行ったり、いろんなところを旅してたんだ。いまはブラジルのクリチバに来てるところだ。

――4・7『UFC69』（テキサス州ヒューストン）でUFC参戦をアピールして以来、まったく連絡がつかなかったんで、大騒ぎになってますよ。

ノゲイラ　それは申し訳ない（笑）。ボクも今回の件については、ちゃんと話をする機会がほしいと思っていたんだ。なんなりと聞いてくれ。

――わかりました。では、まずは今回UFCと契約を結ぶまでの経緯を教えてください。

ノゲイラ　最初の接点から話をすると、まずボクの友だちであるアンデウソン・シウバ（現UFCウェルター級王者）の紹介で、4カ月前にアメリカでダナ（・ホワイト）と会ったんだ。そこで、彼と初めて格闘技界のことについてじっくり話をしたんだけど、いい会話だったよ。彼はボクのファイトスタイルを好きだと言ってくれたし、ボクは彼がUFCをここまで成長させたことに驚いたことを話したよ。

――そんなに前から交渉していたんですか？

ノゲイラ　いや、その時点では会食をしただけだった。そこではボク自身、売り込みはしなかったし、彼もなんの提案もしてこなかったんだ。

――ダナ・ホワイト代表は「ノゲイラ選手のほうからコンタクトを取ってきた」と言っていますが、これは本当ですか？

ノゲイラ　どちらがというわけじゃないけど、4カ月前に会って以来、ボクらは連絡を取り合っていたんだ。そして『UFC69』で、ボクの親友のホアン・〝ジュカオン〟・カルネイロがデビューすることになって、彼のサポートをするために大会に行くことになったとき、ちょうど（オクタゴンで挨拶するという）オファーをもらったんだ。

――そこでUFCと正式に契約を交わしたと聞きましたが、なぜ今回はブラジリアン・トップチーム（以下BTT）を通さずに契約を結んだのでしょうか？

ムリーロがブラジルに帰国したら直接会って話をしようと思う

ノゲイラ　今回の契約はアンデウソンと、そのマネージャーであるエディのアイデアなんだ。彼らは本当によくヘルプしてくれたよ。ボクはもう30歳を迎えた経験を積んだ男だ。何が自分にとっていいことなのかは判断できる。BTTは素晴らしい練習環境だけど、契約を交わせたのはアンデウソンとそのマネージャーのおかげなんだ。

——では、これによってBTT離脱となるのでしょうか？

ノゲイラ　べつに離脱というわけじゃない。いまはムリーロ（・ブスタマンチ）がADCC（アブダビ・コンバット。世界大会を5月4～6日、ニューヨークで開催）から帰国するのを待って、そのとき彼に話をしようと考えている。

——BTTのメンバーは、あなたが何も言わずにUFCと契約したことについて、かなりショックを受けているようですが……。

ノゲイラ　アメリカのwebサイトでムリーロがインタビューに答えていて、ボクの態度を快く思っていないことは読んだよ。でも事実として言えるのは、ダナがボクを招待して、ボクは自分にとって何が良いことか知っていたということだよ。たぶん、ボクのファイティングキャリアはあと5、6年だろう。そしてそこから先、自分の将来について、何がベストか考え直さないといけない。ボクは昔から父親の意見を大事にするんだけど、今回UFCからオファーを受けたとき、彼に相談したんだ。彼は言ったよ。「息子よ、おまえは行くべきだ」ってね。サインをするとき、BTTの仲間と連絡を取ることはできなかったけど、この契約が自分にとって良いことであることはわかっていたし、もしBTTの仲間が自分と一緒にUFCに来られるのなら、彼らにとってもいいことだと思う。

——ということは、あなたにとってUFCには、BTTや『PRIDE』のファンに何も言わずに去っていくほどの魅力があったということでしょうか？

ノゲイラ　ボクはプロのファイターだ。そして自分にとって、条件のいいほうを選ぶのがプロのファイターだ。ボクは、UFCからミルコやファブリシオたちと同じように素晴らしいオファーを受けた。さっきも言ったように、ボクの選手寿命はもう限られているから、自分の将来について選ばないといけない。ボクは『PRIDE』を愛しているし、『PRIDE』がボクにしてくれたことには感謝している。彼らはボクのキャリアと名前を築いてくれた。ミスター・サカキバラ（DSE榊原代表）、ミスター・カトー（加藤専務）、ミス・モトコ（エージェント・内田統子女史）には本当に感謝しているよ。ボクがこのビジネスについて知っていることはすべて、彼らが教えてくれた。ボクが日本と日本のファンを愛していることは強調しておきたいし、日本のファンがくれたエネルギーはいつもボクに好運をもたらしてくれた。だから、もしUFCが認めてくれるなら、ボクはUFCに上がりながら、『PRIDE』でも闘い続けたい。それは本心でそう思うよ。

——UFCとの契約年数や、独占契約になるのかどうかは、まだ決まっていないんですか？

ノゲイラ　じつは、ダナとのあいだではまだ具体的には何も決めてないんだ。だからいまは何も話さないほうがいいな（笑）。

——ではBTTを離れた場合、あなたの練習環境はチーム・ノゲイラとして独立するのでしょうか？　それともアンデウソン・シウバのいるチーム・ブラックハウスに加入ですか？

ノゲイラ　そのことについては、まだ考えられないね。いまは、BTTの人間と会って、彼らの合意を得ることしか頭にないよ。

——そういえば、最近アメリカにアカデミーをオープンしたと聞きましたが、向こうに住むつもりですか？

ノゲイラ　ぜひそうしたいね。ボクの母親はフロリダに住んでいるし、よくそこには行っていたんだ。だから、これからボクはアメリカとブラジルの両方で人生を営んでいくことになる。だけど、メインのトレーニングは、これからもブラジルで行なうことになると思うよ。ボクはアメリカでアカデミーをオープンしたいという希望をずっと持っていて、ちょうどUFC参戦の話とタイミングが合ったんだ。ダニエル・バルベーダというボクの友だちがそのジムの管理をするんだけど、これでボクがいつアメリカに行ってもトレーニングができることになるんだ。

——弟のホジェリオは、あなたと行動をともにするのでしょうか？

ノゲイラ　ホジェリオは『PRIDE』と3試合の契約を残している。でも、ボクは彼を自分と同じ戦場に連れていきたい。つまりUFCで一緒に闘いたいね。

——ホジェリオまで行く可能性がありますか……。UFCに移籍することで、ヒョードルとの決着についてはどう考えていますか？

ノゲイラ　それについては心配してないよ。PRIDEファイターはUFCファイターと闘うことになると思う。ロレンゾたちは年に1回、『PRIDE』とUFCのチャンピオン同士による、スーパーボウルのようなイベントを開くしね。だから、ボクがUFCのチャンピオンになれば、必然的にPRIDEチャンピオンのヒョードルと闘うことになるだろう。これはボクのモチベーションを上げる大きな要素だ。

——ロレンゾ・フェティータ氏がUFCと『PRIDE』両方のオーナーになったことについてどう思いますか？

ノゲイラ　このスポーツにとって良いことだと思うね。彼らがUFCを買収する前、UFCは崩壊しかけていた。それをロレンゾたちは建て直して、大金を稼ぎ出すイベントに変えてしまったんだ。そしていま、ロレンゾは『PRIDE』とUFCという、このマーケットでもっとも利益を上げる二つのトップブランドを手中に収めた。さらにアメリカと日本双方でのテレビのサポートも決まったと聞いている。彼らはこのスポーツをさらに発展させるよ。いまUFCはPPVで巨大な利益を上げている。それを『PRIDE』につぎ込んで、今度は『PRIDE』をUFCよりも利益を上げるイベントに変えるだろうね。

——では、この買収劇によって、〝世界最高峰のリング〟は『PRIDE』からUFCに移ったと思いますか？

ノゲイラ　ノー。『PRIDE』はずっと世界最高レベルだった。これからも『PRIDE』と、そしてUFCが世界最高のリングであり続けるだろうね。もし、彼らがベストファイ



GO NOGUEIRA

ターをうまく分かち合えば、それぞれが信じられないほどの素晴らしいショーを提供できるよ。このスポーツは成長していると確信しているし、そのことはアメリカのファンだけではなくて、日本やヨーロッパや、そしてブラジルのファンのためにもよくなっていると思っているよ。

――では、ちょっと話を変えて、4・21『UFC70』マンチェスター大会で行なわれたミルコvsゴンザガはご覧になりましたか？

ノゲイラ　もちろん観たよ！　ゴンザガはパーフェクトだったね。彼の勝利はみんなを驚かせたけど、彼が素晴らしかったのは、（最後の）ハイキックだけじゃない。彼は試合を通じて、ミルコを完全に圧倒していた。戦略は完璧だったし、勝って当然とも言える試合運びだった。ゴンザガは速かったし、準備もよくできていたし、すべてが正しかった。一発もミルコの打撃をもらってないんだからね。ゴンザガはランディ（・クートゥアー）との試合でも、ミルコ戦と同じように闘えば、ベルトを獲るチャンスは充分にあると思う。

――逆にミルコはどう闘えばよかったと思いますか？

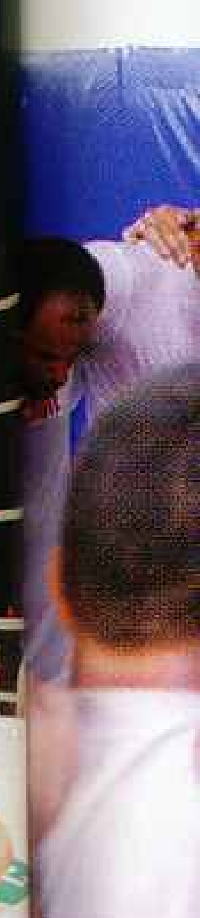
ノゲイラ　ミルコは彼のゲームをした。でもあの夜は、ゴンザガが素晴らしかった。ゴンザガは完全にミルコを無力化させたんだ。ミルコが何か間違ったことをしたかどうかについては、わからないね。ただ言えるのは、ゴンザガはやるべきことをすべてやったということだ。

――ミルコはUFCルールだから負けたと思いますか？　それとも、たとえ『PRIDE』のリング、ルールであってもゴンザガに勝つことは難しいと思いますか？

ノゲイラ　ミルコはルールのせいで負けたんじゃない。彼が負けたのはゴンザガのハイキックが、いつも彼自身が対戦相手にやるように決まったからだ。比べるものではないけど、ミルコはケビン・ランデルマンにもKO負けしたことがある。これが、このスポーツの醍醐味だろうね。ミルコはほかのファイターから狙われていたんだ。彼がオクタゴンに入ってきたときから、みんなが彼を倒して名を上げてやろうとしていたわけだからね。そして、昨日まで誰も知らなかったような選手にKOされてしまった。〝MMAシーンで一番のキックの使い手〟が、その自分の技でKOされるとは誰も思わなかっただろう。でも、それがMMAなんだ。

ミルコはルールに負けたんじゃない 彼はみんなから狙われていたんだ





（写真・右）鉄の結束を誇ったBTT。この写真は今年1月、ノゲイラが最後にBTTで練習したときの貴重なショットだ。はたしてこのままBTT離脱となってしまうのか？（写真・左）03年11月、PRIDE史上に残る名勝負を展開したノゲイラとミルコ。この二人の再戦がUFCのオクタゴンで実現する可能性も出てきた。

――ミルコを倒したガブリエル・ゴンザガをどう評価しますか？

ノゲイラ　ゴンザガは素晴らしい柔術家だよ。そして、いま彼はMMAファイターとしても能力が高いことを示した。UFCヘビー級戦線は、いま非常にバランスがとれている。みんながベルトを獲る可能性があるからね。ボクはそのベルトを獲るために、激しいトレーニングを積んでいるし、誰とでも闘うよ。

――ミルコはオクタゴンの広さや、ヒジありルールといったUFC特有の環境に苦戦しています。あなたは、それらを克服できますか？

ノゲイラ　新しいルールに適応するためにベストをつくすよ。いまはチーム・ブラックハウスにあるオクタゴンで練習しているしね。もっとも、オクタゴンだからといって、つらい試合になるとは考えていない。いつも相手を極めるために闘ってきたからね。『PRIDE』では、ロープの外に出たといって、試合がストップされることがあったけど、オクタゴンではそんな心配もない。それは関節を取りにいくボクのスタイルには合っているよ。

ANTONIO RODRIG

――ミルコが苦しんだグラウンドでのヒジ打ちについてはどうですか？

ノゲイラ　エルボーも自分にとっては不利になるようなものではないね。相手がエルボーを顔面に打ってくるときは、ガードの中で距離が近くなるだろう？　そうなると、自分にとっては三角絞めや腕を取りにいくことができるし、スイープして相手のバックも取れる。グラウンドでお尻を抱えられて膠着するより全然いいよ。それにルールについて言えば、（『PRIDE』で認められている）4点ポジションでのヒザ蹴りはともかく、サッカーボールキックやストンピングはもともと好きじゃなかったからね。あれはストリートファイトの闘い方さ。テクニックなんかないよ。

――UFCではマーシオ・ペジパーノやファブリシオ・ヴェウドゥムといったヘビー級のトップ柔術家があまりよい成績を収められていません。その点についてどう思いますか？

ノゲイラ　ファブリシオの試合はまだ観てないけど、UFCの柔術家は、結果はともかく、いい試合をしていると思うよ。ゴンザガは結果も残しているしね。ボクが思うに、これからUFCのヘビー級戦線はボクとファブリシオとゴンザガがストーリーを変えると思う。オクタゴンはレスラーにとってだけでなく、柔術家にとっても有利な場所であることを証明してみせるよ！

――UFCで闘いたい相手はいますか？

ノゲイラ　誰とでも闘う用意はできているよ。ただ、ランディ・クートゥアーと闘うのは、ボクの夢でもあったんだ。彼がビクトー（・ベウフォート）や（チャック・）リデルと闘ってきたのを観てきたからね。ぜひ彼とは闘いたいよ。


――UFCでの目標を教えてください。

ノゲイラ　もちろん、UFCヘビー級のベルトだよ。『PRIDE』で認められたサブミッションをオクタゴンでも披露したい。そして、PRIDEヘビー級とUFCヘビー級、その両方のベルトを初めて巻く男になるんだ。

――では、最後に日本のPRIDEファンにメッセージがあればお願いします。


ノゲイラ　日本のファンには会いたいし、ホジェリオか誰かの試合のときにセコンドとして行ければと思う。『PRIDE・34』の映像を観たとき、自分がそこにいないことに寂しさを覚えたんだ。ボクとBTTは『PRIDE』の歴史の一部でもあったわけだから、本当にあの場にはいたかったんだ。『PRIDE』はこれまで、ボクにとってそうであったように、すべての選手にとって夢の舞台で、多くの選手がそこで名前を上げてきた。そして一つ言えることは、この『PRIDE』の歴史は終わらないということ。これはエンディングではなくて、新しい章の始まりなんだ。『PRIDE』は死なないよ。

【07年5月1日／電話取材にて収録】



［4.21『UFC70 NATIONS COLLEDE』］
英国マンチェスター／M.E.N.アリーナ
◯ガブリエル・"ナパオン"・ゴンザガ vs ミルコ・クロコップ×
（1R 4分51秒 TKO）

ミルコのプライド!!



伏兵ガブリエル・ゴンザガにまさかのKO負け!
PRIDEの英雄、UFCの罠にハマる!!

ミルコ・クロコップ

全権代理人・今井賢一氏 独占インタビュー

試合後、ミルコはこうつぶやいたんです

「俺はUFCのド素人だった……」

大ショック! 4.21『UFC70』で、ミルコ・クロコップが、伏兵ガブリエル・“ナパオン”・ゴンザガにまさかの失神KO負けを喫してしまった。しかも、PRIDEにはないエルボーでめった打ちを食らい、UFCルールへ対応力不足を露呈しての完敗とあって、その衝撃は、ミルコだけでなくPRIDEファイター全体の強さにまで疑問符がつくほどだ。この敗戦によって、8月のUFC王座挑戦は消滅。一部では「あと4試合で引退」説も出る中、いまミルコは何を考え、これからどうしようとしているのか? ミルコの全権代理人、今井賢一氏を独占直撃した。

聞き手/堀江ガンツ 試合写真/Josh Hedges(UFC)

砕け散った、ミ

——マンチェスターでお会いして以来、しばらく今井さんと連絡がつかなかったんで心配してたんですけど、あの敗戦はやはりかなりショックでしたか？

今井　いやぁ、さすがにしばらく誰とも話をしたくなかったですね（真顔で）。2004年の『PRIDEヘビー級GP』で、ケビン・ランデルマンに出会い頭の一発でKO負けしたとき以来……いや、それ以上の衝撃だったかもしれません。ああいう状況になると、まず、頭が真っ白になるんですね。オクタゴンサイドからロッカールームまでどうやって戻ったか覚えてないぐらいですから。

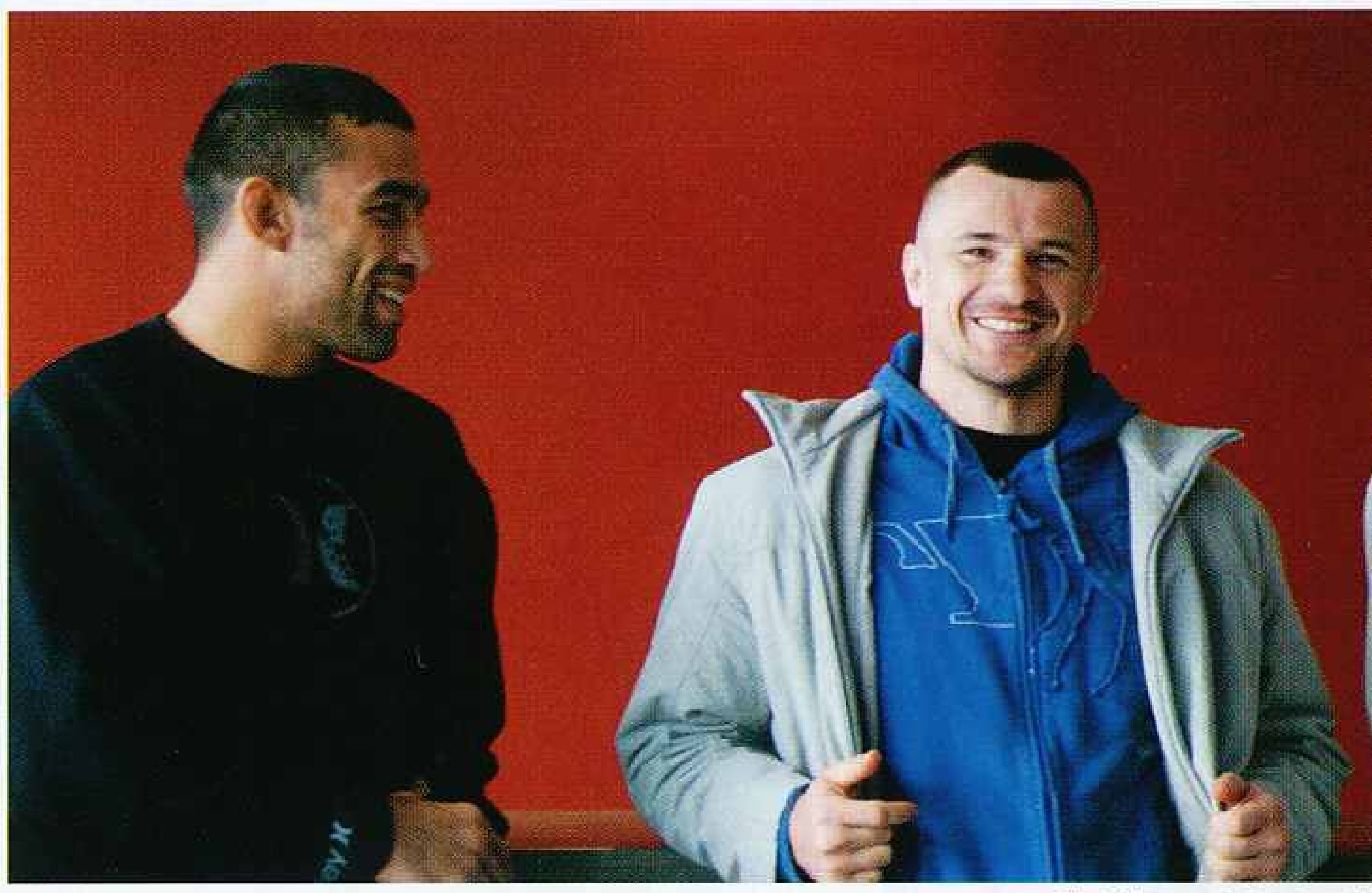
——オクタゴンサイドで観ていたボクもさすがに言葉が出ませんでしたね。

今井　ただ、ロッカールームに戻ってからは、CTスキャンやMRIをすぐに撮らせる段取りを組まなきゃならないので、正気に戻らざるを得なかったですけど。

——控室に戻ってからのミルコはどんな状態だったんですか？

今井　意識も言葉もハッキリしていたんですけど、額をパックリと割られていたんで、まずは外科のドクターに4、5針縫ってもらいました。ミルコの顔面に縫い針が当てられるなんていうのは、K―1、『PRIDE』での10年間の激闘を思い返してみても、初めてのことですね。割られた瞬間を見ていたので、予想はしていたんですけど、あのパックリと割れた額を見た瞬間、「やはりミルコはハイキックで負けたのではなく、完全にヒジにやられたんだな」と確信しました。レフェリーがブレイクに入って立ち上がったとき、もう足に力が入らないから、棒立ちになって、ガードも下がってましたし。実際、本人も、「ナパオンが3重に見えた……」と漏らしていましたしね。だか

試合後、ミルコは「ランディに謝りたい」と手紙を書いたんです





試合前日、ホテルのロビーでファブリシオと笑顔で談笑したり、クロアチアからの応援団と記念撮影に収まるミルコ。いつも試合前はピリピリムードを漂わせるミルコからは信じられないリラックスぶりだが、この余裕が凶と出てしまったか……。

らもし、あのラウンドを持ちこたえても、あれだけ額がパックリ割れていたら、ラウンド間のドクターチェックでTKO負けになったか、セコンドがタオルを投入するかという選択になっていたでしょう。

——確かに、グラウンドでヒジで、すでに勝負あったのでしょうね。

今井　UFCルールの罠、落とし穴に完全に落とされましたね。UFCで闘ううえでの自分たちの認識の甘さを痛感させられました。ホテルに戻ったあと、ネバダ州のコミッションドクターであるドクター・ワトソンが、わざわざミルコの部屋まで来てくれたんですけど、ミルコの言葉はハッキリしているし、夜間緊急病院ですぐに検査するほどではないということで、クロアチアに帰ってからCTとMRIを撮って、それを後日、アスレチック・コミッションに送ることになったんですけど。

——それで、検査の結果はどうだったんですか？

今井　結果は問題ありませんでした。頭部MRIの映像も正常だし、皆さんが心配していたダウンしたときにひねった右足首も大丈夫です。やっぱり、そのへんは筋が柔らかいんでしょう。「とにかく動くな、休んでいろ」と言ってるのに、もう腕立て伏せや腹筋を始めてるみたいですから。

——もう再起に向けて動き出してますか！　それもまたミルコらしいですけどね。

今井　いや、再起に向けてというポジティブなものではなく、再び奈落の底に突き落とされたわけですから、そのどん底にいる自分に対する嫌悪感にもがき苦しんで、体を動かさなければ気が狂わんばかりといったほうが当てはまりますね。とにかく、ゴンザガにリベンジを果たすまでは、まず心が休まらないでしょう。彼の言葉で言うと「俺はいま"ゾンビ"みたいなもんだ（街中で生きている人間に食らいつくために、ひたすらその対象となる人間を求めてフラフラ歩いている状況にある、と説明）」と。とにかく一刻も早く悪夢を払拭したいようです。

——では、復帰の時期も早くなりそうですか？

今井　ショッキングな映像や写真が大量に出回りましたから、ネバダとしては、きっちりとMRIの解析結果を確認したうえでということになるでしょうから、本人が一日も早く試合をさせろと言ってきても、以前、ケビンに負けたときのようなワガママは通じないでしょう。あのときはKO負けの28日後に金原（弘光）選手とやって、その1カ月半後に大山（峻護）選手、さらにその3週間後に（エメリヤーエンコ・）アレキサンダーとやってと、まさに何かに取り憑かれたようにメチャクチャ試合をやったじゃないですか。でも、今回はネバダのルールでKO負けしたあと、90日間は基本的にはサスペンション（出場停止）がありますからね。でも、UFC仕様のミルコ・クロコップに脱皮させるには、これくらいの期間、強制的に出られないほうが、ボクにとっては仕掛けがしやすいです。

——ただ、クロアチアのマスコミ報道では、ミルコの帰国直後のコメントとして「あと4試合やって終わりにします」という発言があったと報じられてるようですけど……。

今井　それはおそらくザグレブの空港で、負けた翌日にぽろっと漏らした一言が大きく報道されたのでしょう。ボクはマンチェスターの空港で見送るときに、「もう充分頑

張ってきたわけだから、これでやめてもいいぞ！」くらいは言いましたけどね。もう引退後の日本とクロアチア間での大きなビジネスの仕掛けまで、ボクのほうで整えてありますから。ミルコはもうビジネスマンになっても、政治家になってもいいわけです。しかし、いまは「とにかくゴンザガにリベンジするまでは、死んでも死に切れない……」という気持ちにに変わりました。「REVENGE」という言葉をタトゥーで入れると言いだしたりね。

——その執念は凄まじいですねぇ。

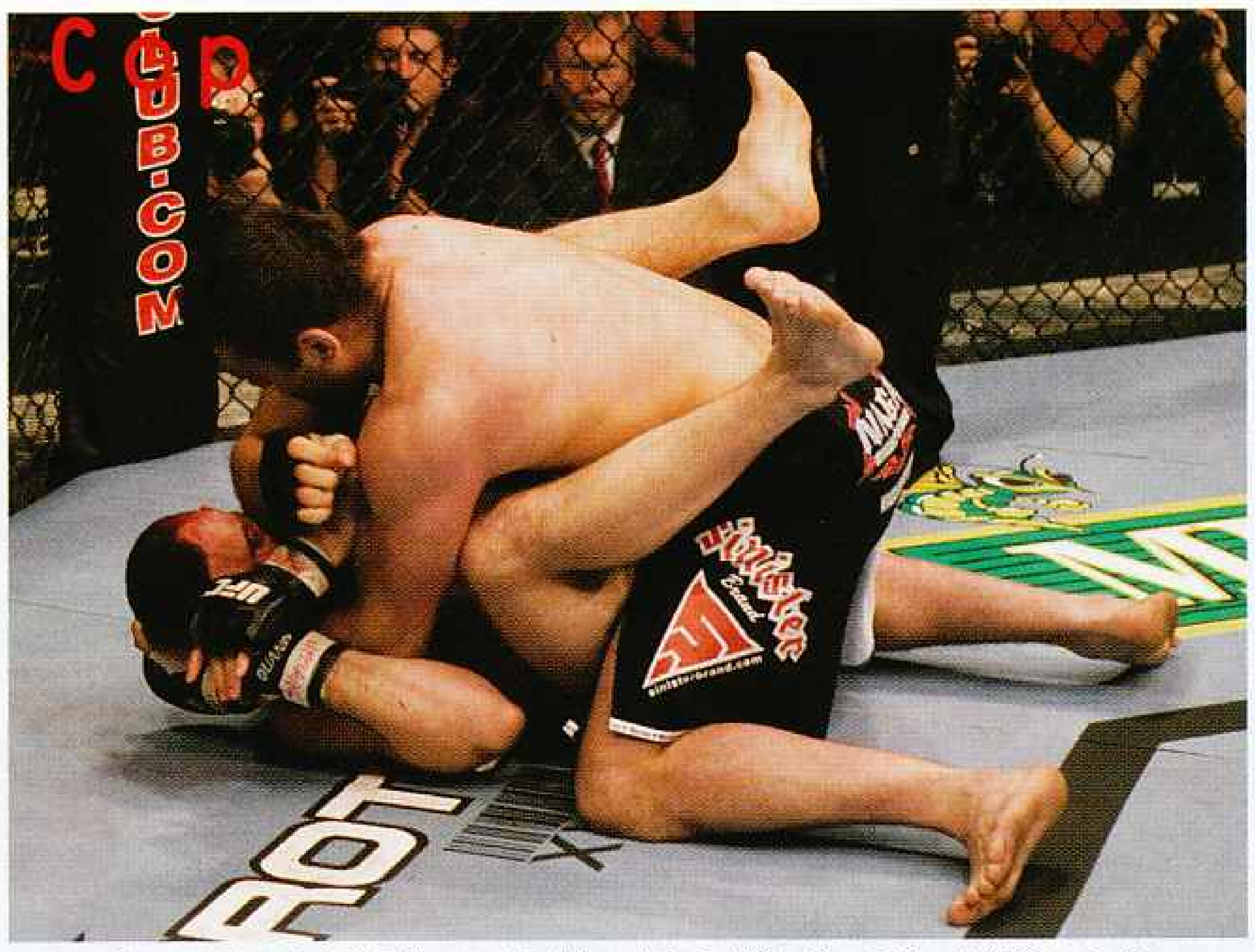
今井　あとは「ランディ（・クートゥアー）に申し訳なかったと伝えたい」と言ってましたね。だから、ミルコはランディに手紙を書いたんですよ。

——へぇ、ミルコがランディに手紙ですか。

今井　試合後、ミルコ以外のチーム・クロコップのメンバーは、同じホテルだったマンチェスター・ユナイテッドのウェイン・ルーニーやUFCの会場にも来ていたジャン＝クロード・ヴァン・ダムらと深夜から酒を飲んでいたのですが、そこへわざわざランディが「ミルコは大丈夫か？　俺が前から言っているように、あれがUFCルールの落とし穴なんだ」とお見舞いに来てくれたんです。そして今回、ミルコが負けたことで、ランディは8月にゴンザガの挑戦を受けなくてはいけなくなったわけですけど、ランディもミルコと同じぐらいの体重しかないから、ゴンザガは12～13キロ重いんですよね。だから「あんなデカいグラップラーが押さえ込んでヒジを落としてくるんだから、俺だって厳しい試合になる。しかも、ミルコが相手だったら、PPVのインセンティブも……」って（苦笑）。

——ランディがチーム・クロコップに愚痴りましたか（笑）。

Mirco Cro Cop



『PRIDE』のときと同様、テイクダウンされても落ち着いてガードポジションをとったミルコだが、この体勢からヒジ打ちの餌食に。ちょっとしたルールの違いで、ゲームプランがまったく変わってくることを痛感させられるシーンだった。

今井　まあ、少し大げさに言いましたけど、鉄人クートゥアーの現役復帰の大きな部分に、ミルコとの対戦というモチベーションがあったことは間違いない。だから「俺はあと2試合しか契約が残っていない。せっかく復帰したけど、このまま俺とミルコは交わることなく終わるかもしれないな」と、愚痴というよりも寂しそうに言ってましたね。それをミルコがチームのイゴールから聞いて、「ランディに謝りたい」ということで、手紙を書くことにしたんです。ランディはそれ以前にも、インタビューをなかなか受けないことで、アメリカのメディアに叩かれていたミルコをいつもかばってくれた人ですしね。

——だから、今回のミルコ敗戦は、ランディにとってもUFCにとっても誤算であり、くやしいでしょうね。

今井　そうですね。試合の2日前に記者会見の待合室でダナ（・ホワイトUFC代表）がミルコに「ケージの闘いに対する準備はしてあるんだろう？」って聞いてきたんですよ。そしたらミルコはけろりと、「リングとケージの違いなんて俺には関係ない」みたいなことを言ったんです。「ファイト・イズ・ア・ファイト」って。それを聞いたダナが、クルッとボクのほうを向いて「本当に大丈夫なのか？」って心配そうに聞いてきたんですけど、そのとおりになってしまいましたね……。

——ということは、UFCルールへの対策はできていなかった、と。

今井　まったくできていませんでしたね。今回、柔術家のマーシオ・コレータと、柔道金メダリストのパウエル・ナツラがクロアチアに長期滞在をしてくれたんですが、二人とも寝技はできても、ヒジの落とし方なんて知らないわけですからね。

——それでミルコは、PRIDEルールでのセオリーどおり、グラウンドでクローズドガードをとって、ヒジの餌食になってしまったわけですね。

今井　あと、アメリカから打撃のスパーリング・パートナーとして、カーター・ウィリアムスが来る予定だったんですけど、子どもの養育費の問題でパスポートを州に差し押さえられてしまい、急遽ドタキャンです。そのため、打撃のスパーリングがまったくできなかった。それからもう一つ、これはボクにとってはデジャヴとでもいうのか、試合前にジャン＝クロード・ヴァン・ダムから、彼の新作映画に出演する契約書まで届いていたんです。

——そういえば、ジャン＝クロードは『UFC70』の前は、ボードッグのロシア大会（4月14日）にも来ていたみたいですね。

今井　ボクとジャン＝クロードは、レッドデビルから一緒に招待されて、サンクトペテルブルグのヒョードルの試合を観に行ったんです。そこで数日間一緒にいて、さんざん映画の内容に関して説明を受けました。それからボードッグのボスであるカルビン・エアーとも、一緒にVIPルームでウオッカを飲んだりしましたよ。

——あのカルビン様と一緒にお酒を飲みましたか！

今井　ボクは、本当はミルコからヒョードルへのメッセージを極秘で届けにいったんです。帰ってきたら、某雑誌にプーチン大統領のVIPセクションにジャン＝クロードやピーター・アーツとともに座っているボクの写真が出てしまったので、極秘でも何もなくなったのですが、じつはミルコとヒョードルの二人に、ジャン＝クロードの次回作への出演依頼が来ていたんですよ。だからマンチェスターの会場には、ボクがジャン・クロード、映画の監督とプロデューサー、それからレッドデビルの総帥であるワジム（・フィンケルシュタイン）を招待したんです。

——ミルコとヒョードルがジャン＝クロードの映画で競演！　そんな話が進んでいましたか。

今井　ジャン＝クロードはとにかく熱心で、まず、試合の1カ月半ぐらい前に、「こういう映画があるんだ。おまえに出てほしい」って、わざわざクロアチアまでミルコを口説きに来たんです。本来なら、一番ビシッ練習しなくちゃいけない時期だったんですけど、クロアチアまで来てくれたのでミルコも時間作って会ったんですよね。

——ジャン＝クロードといえば、もともとミルコの憧れの人ですよね？

今井　ええ。ミルコの実家の2階には、い

まだに彼の映画のポスターが貼ってありますからね。それを見せたくて、ミルコはジャン＝クロードを連れて、車で3時間もかけて、生家のあるヴァンコビッツァまで行ったりしてるんだから。

――追い込み練習の大事な時期に（笑）。

今井　ただ最終的には、ジャン＝クロードはミルコから「ケン（今井氏）を説得しないと、実現は難しい」と言われて、今度はボクを説得するために、そして同時にヒョードルを口説くためにサンクトペテルブルグまで来たわけですよ。詳しく聞いてみると、その映画の話はもう撮影スケジュールまで出ていて、ミルコとヒョードルはゲスト出演ではあるけれどストーリー上、非常に大切な役で、ソニー・ピクチャーズが製作するということでした。

――かなり具体的な話だったんですね。

今井　しかし「7月末にクランクインしたい」という話で、その時点では、8月にランディのベルトに挑戦する手はずでしたから、「とてもじゃないけど、映画に出演してる場合じゃないだろう。そんなことよりいまは、ゴンザガ戦に向けて集中してくれ」とミルコに言うと、「わかってるから心配しないでくれ。俺も3年前のことを忘れたわけじゃないから……」と言うので、一応信用していたんですけど……。

――確かランデルマンに負けたときも、試合前に映画の撮影をしてたんですよね。

今井　そして打撃でKO負け。だからデジャヴだと言ったんです。あのときも同じ4月だしね。まぁ、ミルコが映画のことを考えてるとき、3年前のケビンと同じように、ゴンザガは生涯最大の大一番を前にして、とことんミルコを研究して、とことん追い込んだ練習をしていたんでしょうから、ある意味、当然の結果だったのかもしれませんね。

――う～ん、やっぱりミルコにおごりがあったんですかねぇ。

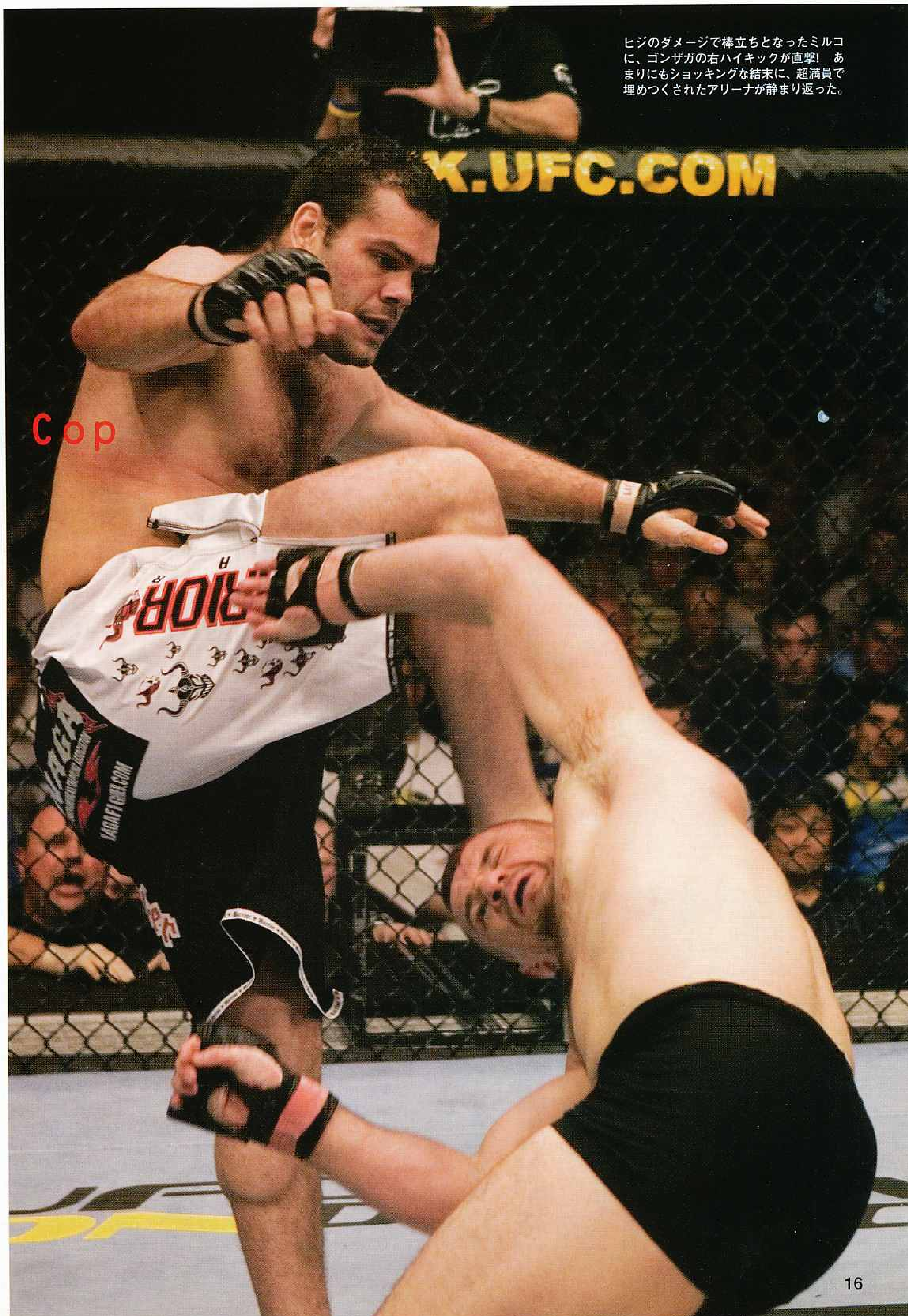
今井　3年前はまさに、おごりですよ。しかし今回は、おごり、慢心に加えて、UFCルールという落とし穴がありましたから、前回よりもさらに残酷な結果になったんです。だから、試合後にミルコがしみじみとつぶやいていましたね。『PRIDE無差

Mirco Cro Cop

別級GP』に優勝して、自分はやっとコンプリート・ファイターになったと思っていたけど、それは錯覚だった。俺はUFCルールではド素人だった」ってね。

――ヒジ打ちがあるだけで、あれほどまで変わってくるとは、正直思ってもみませんでしたよね。

今井　でも、よく考えたら、極真空手の選手は15センチくらいの間隔があれば、ヒジで瓦を20枚ぐらい簡単に割ってしまう。じつはとんでもない破壊力を持った武器であって、4点ポジションのヒザなんかよりもはるかに命中率の高い危険な武器だったんです。帰国後にTK（高阪剛）と電話で話したんですけど、そのとき「4点のヒザなんかより、ヒジのほうがよっぽど恐ろしい」「マーク・ハントのパンチよりも、UFCでリコ・ロドリゲスに食らったヒジのほうがよっ



ヒジのダメージで棒立ちとなったミルコに、ゴンザガの右ハイキックが直撃！ あまりにもショッキングな結末に、超満員で埋めつくされたアリーナが静まり返った。

ぽど脚にきた」なんて話を聞いたんです。試合前に聞いておけばよかったなあと、つくづく思いましたね。マンチェスターに移動するまえの晩、クロアチアでいつもミルコと食事をするピザ屋で、「ゴンザガはおまえを寝かせて、顔面にヒジを落とすことしか考えていないよ」とまでは話していたんですが、「TKがリコのヒジ一発で下の前歯が唇の下の皮膚を貫通した」なんて話は、あとで聞いたのでしてやれなかった。だから、あの時点でミルコは「ヒジなんて食らわないから心配するな」で、話が終わってしまった。まさに、あとの祭りなんですけど。

——なるほど。とにかく、いまはUFCバージョンのミルコ・クロコップを再構築することが急務だと思いますけど、今度はどういった対策を考えていますか？

今井　もちろん、ボクはもう動き出してます。まず、チームのメンバー一新ですね。いくらグラウンドができても、ヒジなしのグラウンドしかできないスパーリング・パートナーたちはもう役に立たない。まずはスタンドでの打撃、ヒジありのムエタイ、そしてUFCルールで寝技のポジショニングに長けたグラウンドでもヒジを落とせる新たなスパーリング・パートナーたちを早急に契約して、チーム・クロコップ自体を一新させないといけない。あとは純粋なボクシングのスパーリング・パートナーですね。もう、新メンバーの人選は最終局面に入っています。

——総合の打撃じゃなく、本職のボクサーを入れる予定なんですか？

今井　そうです。やっぱり打撃のスパーリングが全然できなかったので、スタンドでフリーズしてしまって、パンチが出なかったことが今回の敗因でもありますからね。パンチが出ないから、相手はある意味余裕を持って、キックが来るタイミングを待つことができるわけですから。まずパンチで主導権が握れるように、ボクシング技術をあらためて磨き直す必要があるでしょう。そこへさらに、ムエタイのトレーナーが加わったりすると、またおもしろいかなって思いますけどね。

——でも、ミルコがUFCルールに対応したとしても、いまのUFCヘビー級の層の厚さを考えると、再び王座挑戦権を得るのは、まあ簡単じゃないですよね。

今井　そうですね。でもね、いまはチャンピオンシップよりもリベンジですよ。ミルコもゴンザガに負けたままタイトルを獲っても意味がないとハッキリ言ってますから。それだけの屈辱を味わわされてるわけですからね。だからミルコは、2004年の大晦日だって、破格のオファーをもらっても、『PRIDE男祭り』でケビン（・ランデルマン）にリベンジすることを選んだわけ


ミルコの自宅地下にあるジムには、5本のロープが張られた『PRIDE』仕様のリングが設置され、壁にも『PRIDE』のロゴが描かれているが、ミルコは今回の敗戦を機にこれらの“思い出”と決別。リングを排除し、オクタゴンを設置することとなった。本気になったミルコの逆襲に期待したい。

ミルコ復帰戦は8月にランディvsゴンザガの“前座”でやらせたい

ですからね。

——2003年の『イノキ・ボンバイエ』じゃなくて、2004年の大晦日にも『PRIDE』以外からオファーがあったんですか⁉

今井　いまだから言えますけど、じつはあったんですよ。それも当時の基準でいうと、破格のオファーでした。でも、それには目もくれず、ケビンへのリベンジを選んだんです。

——それは『Dynamite!!』からオファーがあったということですか？

今井　そうです。ボブ・サップとMMAルールでやらないか、というオファーでした。

——ヘェ——！　そんなオファーがありましたか!!

今井　だから、ミルコにとってはベルト以上に、自分の屈辱を晴らしたい、その思いが強いんですよね。だからいまは、ゴンザガにやり返したい、それだけですよ。その思いが強すぎて、「安静にしてろ」って言ってるのに、腹筋とか腕立て伏せとか始めちゃって……。まぁ、このくやしさをバネに、3年前にケビンに負けたあとと同じように、何かに取り憑かれたかのように、トレーニングに集中してくれたら、また一皮剥けたミルコがお見せできると思いますけどね。

——なんとか、この負けをいい方向に向かわせてほしいですよね。では、復帰戦というのは、具体的にはいつ頃になりそうですか？

今井　先ほども言ったとおり、90日間は試合ができませんから。そうすると、4カ月後の8月25日の大会というのが、ちょうどいいかもしれませんね。

——そうなると、その日はランディ・クートゥアーvsガブリエル・ゴンザガのタイトルマッチが予定されていますから、本来なら自分がタイトルマッチをやるはずだった日に、〝前座〟で復帰戦を行なうというのも凄い因縁ですね。

今井　まだ、ダナとは何も話せてはいないですけどね。でも、自分に当てられるべきだったスポットライトがゴンザガに当てられて、タイトルに挑戦する姿を下から眺めて、あらためて自分のしでかしたことの重大さを「クソッ！」と思いながら味わえばいい。自分でまいた不甲斐ない種ですから、自分で拾わなければ次の次元には進めなくてあたりまえです。しょせん、ボクらの世界は負けたら脇役に転落するんですよ。負けたら、屈辱以外には何も残らない。メディアだって手のひらを返したように叩いてくる。とくに、アメリカのメディアは、敗者にこそ生じるかもしれないドラマにあまり興味を示さないかもしれない。3年前、ケビンに負けたからこそ、ミルコ・クロコップが本当の意味でのスターになった事実をもしかしたら認識していないかもしれない。皆さんの記憶の中で、これだけ派手な度肝を抜くような負けっぷりって、この前は誰だったかなと思い返すと、やっぱりミルコだったのでは？　前回も史上最大のアップセットを提供したわけですからね。

——ホントにそうですよね。では、再び何かに取り憑かれたかのようなミルコを見ることができるかもしれない、と。

今井　ボクももう一度、どん底から這い上がってくるミルコが見たい。ここで終わるような男ではないはずですから。ひさしぶりにこの言葉を使いますけど、また、目の前に「復讐の鬼」が戻ってきたという手応えを感じています。それだけですね。

——わかりました。ミルコの再起に期待してます！

【07年5月8日／東京・六本木の某所にて収録】



「ミルコはオクタゴンの罠にハマる」の〝予言〟が見事に的中！

UFCヘビー級

王者が見たミルコ敗戦

ランディ・クートゥアー

「ミルコは自分を変えなければ次もまた同じ結果になるだろう」

「ミルコはオクタゴンの罠にハマるだろう」。本誌108号でランディ・クートゥアーの予言どおりとなってしまった、ミルコvsゴンザガ戦。この結果により、ミルコのUFCヘビー級王座挑戦は吹っ飛んでしまったが、“8月にミルコと闘うはずだった”王者ランディ・クートゥアーは、この試合をどう見たのか？ 4.21『UFC70』大会終了直後、記者会見場にて王者に独占直撃した!!

聞き手&撮影／堀江ガンツ　通訳／クイズ！ 上杉!!

Randy Couture

1963年6月22日、米国ワシントン州出身。97年UFCデビューし、ライトヘビー級とヘビー級の2階級を制覇した唯一の選手となる。昨年4月のチャック・リデル戦後に引退を表明。今年3月、1年ぶりとなる現役復帰戦でヘビー級王座に返り咲いた。多くの人から尊敬を集める『キン肉マン』でいうところのロビン・マスク的存在。188cm、100kg。

時間は少しかかるだろうが彼はきっと復活してくる。ミルコはそういう男さ

——さて、いま『UFC70』が終わったばかりですが、驚きの結果となった、ミルコ・クロコップvsガブリエル・ゴンザガ戦の感想を聞かせてください！

ランディ　（冷静に）ミルコの試合について言うと、結果には驚いてないよ。

——結果には驚いてない！　試合前からゴンザガの勝利を予想していたということですか？

ランディ　そうだよ。ゴンザガが有利なんじゃないかとは思っていた。身体も大きいし、アグレッシブだし、オールラウンドだからね。ただ、ミルコの負け方には本当に驚いたよ。まさかハイキックで負けるとはね……。

——まさに衝撃的なシーンでした。

ランディ　これまでハイキックでKOの山を築いてきたミルコが、逆にハイキックで完璧にKOされたんだからね。ゴンザガの試合運びは完璧だったよ。テイクダウンして、エルボーでカットさせて、充分にダメージを与えてからの見事なKOだったね。

——そこで、おうかがいしたいのですが、どうしてミルコはこういう結果になってしまったんでしょうか？　格下の相手に対する慢心があったんでしょうか。

ランディ　そうは思わない。ミルコは相手を見下すような選手じゃないよ。激しいトレーニングも積んでいたはずだしね。それよりもゴンザガが素晴らしかったね。常に攻め続けて、一度たりともミルコにペースを握らせなかった。

——確かにミルコは何もできませんでした。

ランディ　最初のローキックでテイクダウンを許してしまい、一発のパンチも出してないんだからね。

——そしてミルコはグラウンドでヒジをもらっていました。やはりルールの違いは大きいのでしょうか？

ランディ　UFCと『PRIDE』のルールの違いが、ハイキックをもらった理由になるかはわからない。でも下のポジションになってクローズドガードしたのはミルコの大きな過ちだったね。あれによって自分自身を完全に動けなくしてしまったんだ。あの状況から、ブラジリアン柔術のトップ選手から逃れることはできないよ。ガードを開いて、足を使って、スペースを作って立ち上がるしかないんだ。立ってしまえば、ミルコは互角以上に闘えたはずだからね。だから、戦術的にはそれがミルコの大きなミステイクだ。

——なるほど。クローズドガードをとってしまったことが、ミルコの大きな敗因だ、と。

ランディ　それにミルコはケージに近い位置にいたんだから、うまくケージにもたれかかって立ち上がることもできたはずだ。そういったことはチャック・リデルは得意だよ。

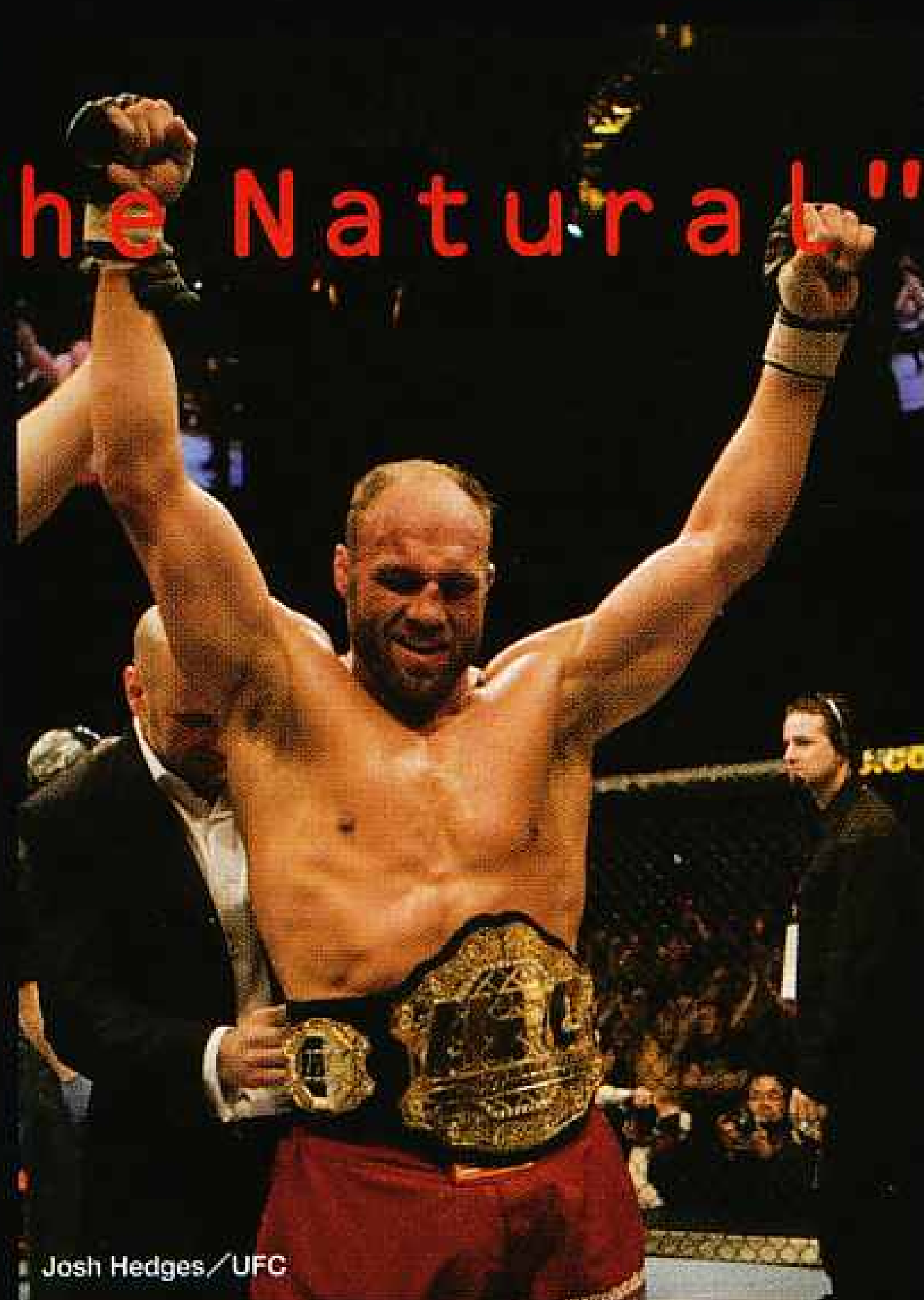
——そうなると、オクタゴンの闘い方を徹底的に研究しないと、ミルコは今後も同じような結果になってしまう可能性も高いのでは？

ランディ　そうだね。もし彼が今日のパフォーマンスを改善せずに、同じ状態で戻ってきたら、同じ結果になってしまうだろうね。なぜなら、もうミルコの弱点はみんなが知ってしまったんだから。次にミルコと闘う選手はみな、スタンドで左に回り、テイクダウンしてヒジを狙ってくるだろう。彼はクロアチアに戻って、自分を変える必要があるよ。実際、彼はかつて寝技を何も知らないK-1ファイターだったにも関わらず、グラウンドのスキルを磨き、『PRIDE』の強豪相手にもパスさせない技術を身につけてきたんだ。これからも進化できると信じているよ。

——ミルコだったら、UFCのルールも克服できる、と。

ランディ　ただ、これから彼はグラウンドで相手を固めて防御するだけでなく、下からのサブミッションや、動いて立ち上がる手段を覚える必要がある。彼にとっては、これまで以上に大変な作業になるかもしれないね。

Randy "The Natural" Couture



3.3『UFC68』でティム・シルビアを破り、43歳にしてUFCヘビー級王者に返り咲いたクートゥアー。今回の結果を受けて、8月にゴンザガの挑戦を受けることが決定した。

——ミルコが勝てば、ランディさんの持つUFCヘビー級王座への次の挑戦者になるはずだったんですが、今日の結果で拍子抜けした部分もありますか？

ランディ　拍子抜けしたことはないさ。ただミルコとの試合は二つの理由で楽しみにしていたよ。まず彼は国際的にも知られたファイターだし、彼のファイトスタイルはエキサイティングだから、ファンを喜ばせる試合ができると思っていた。そしてもう一つ、彼は私にとって闘いやすい相手だからね。ミルコのようなストライカー・タイプは私と相性がいいはずだったんだ。

——では、ランディさんにとって、ミルコよりゴンザガのほうが厄介だ、と。

ランディ　そうだね。ゴンザガのような身体の大きなグラップラーというのは、私にとってもやりにくいんだ。それに彼はグラウンドはもちろん、パンチやキックも強い。彼に足りないのは実績だけだったけど、実績なんかなくてもトップに立てるのがこの世界だろ？　正直言って、ゴンザガは私にとっても強敵だよ。

——ヘビー級のグラップラーといえば、『UFC69』で前PRIDEヘビー級王者のアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラがオクタゴンに上がりましたけど、彼がUFCに来たことについてはどう思いますか？

ランディ　ノゲイラ個人について言えば、彼の柔術ムーブはため息が出るほどの芸術品だし、スタンドのパンチもヒザも強い。彼がチャレンジャーになったら、イヤな相手だよ。そして、そういう強い選手が集まるのはUFCが大きくなっているという証拠さ。ヘビー級戦線はこれまでになかったほど層が厚くなっている。アンドレイ・アルロフスキー、ティム・シルビア、ゴンザガ、ファブリシオ・ヴェウドゥム、そしてヒース・ヒーリングもいるんだ。

——一時期、UFCヘビー級戦線は貧弱だと言われていたのがウソのようですよね。

ランディ　シルビアが王者のときには、そういう時期もあったね。でも、いまはまったく変わってしまったよ。

——こういう状況だと、ミルコがまた実績を積んで、タイトルに挑戦するには、かなり大変でしょうね。

ランディ　確かに、しばらく時間がかかるだろうね。彼はかつて『PRIDE』での敗戦を乗り越えて、無差別級GP王者になったけど、UFCヘビー級は、さっきも言ったようにどんどんタフになっている。だから、もう一度コンテンダーとして浮上してくるのは『PRIDE』時代以上に大変だと言わざるをえないね。ただ、どれだけの時間がかかるかはわからないけど、彼はきっと帰ってくるだろう。ミルコはそういう男さ。

［07年4月21日／イギリス・マンチェスター、MENアリーナ内、記者会見場にて収録］

新しい格闘技コーナーが生まれました。紙のFight&Life宣言！

“観る側”オンリーに贈る偏差値40からの技術論

TK式格闘学会『kamipro』出張講座



こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。93年リングス入門、UFCには日本人初のレギュラー参戦者として通算5回出場。パンクラスや『PRIDE』で活躍した。理路整然とした技術指導や解説には定評あり。

第1回「ミルコはなぜエルボーを防げなかったのか？」

聞き手／堀江ガンツ　構成／クイズ！上杉!!　撮影／乾 晋也　取材協力／アンドレィ渡辺

ミルコ、UFC第2戦で伏兵ゴンザガに衝撃の敗戦！　そのときオクタゴンで何が起こっていたのか？　それを知るべく、現在、ファンの観る目を養うための格闘技術セミナー『TK式格闘学会』を定期開催中の高阪剛に出張講座を依頼！　『kamipro』がまるで格闘技雑誌のように技術解説をお届けします！

――まさかのミルコ敗戦に日本中が驚いているんですが、今日はなぜこうなったのか教えていただきたくおうかがいしました。日本のファンには馴染みの薄いUFCルールということもあるので、ついに『kamipro』でも技術解説を取り入れようかなと（笑）。

高阪　ようやくかい！（笑）。

――これを機に、誌名も『紙のFight&Life』に変えてしまおう……という予定はまったくありませんが（笑）、“観る側”にとってもUFC特有の技術や戦略がわかったほうが、おもしろく観られるんじゃないかと思いまして。

高阪　ちょうど自分も同じこと考えてたんですよ。「総合の技術の進化に観る側のレベルが追いつけてないな」って。だから『PRIDE』のテレビ解説なんかやってても、リング上で凄いことやってるのに、会場がシーンとしてたりするんですよね。

――会場が静まり返る中、高阪さん一人が鳥肌立ってる、と（笑）。

高阪　ましてやUFCなんて、とにかく勝つための最低限のことだけをやっていて、余計な部分がないから、見方によっては全然おもしろくないんですけど、技術がわかる人が観ればおもしろいんですよ。

――では、よりおもしろく観るために、そのミルコ戦を教材にしてお話ししていただければと思います！　まず高阪さんは試合前に「ミルコは危ないと思う」と言ってましたよね？

高阪　これはねぇ、UFCの解説でもちょうど試合前にヒジのこと話してたんですけど、寝技でのヒジの対策をどのぐらいやっているのかというところが気になってたんですよ。というのはナパオンはもともと柔術の世界チャンピオンで、でかいのにポジショニングとか器用なんで、いいポジションでヒジ食らったら、ミルコも立てなくなるんちゃうかなって。

――やはり当初からグラウンドでのヒジを懸念されていましたか。

高阪　そうですね。ただ今回の試合に関して言うと、ヒジ云々の前にまず気持ちの部分が大きかったと思うんですよね。ナパオンからしてみたら負けても「しょうがないよ」で済まされる。でも勝てば一攫千金の相手じゃないですか。

――ある意味、人生最大のチャンスですよね。

高阪　そりゃあ、やる気もでますよ。実際、ナパオンは入場のときも凄く気合いが入っていて、ミルコが『PRIDE無差別級GP』でヴァンダレイ・シウバと試合したときと同じ顔をしていましたよね。

――心技体が最高の状況にもっていけていたわけですね。

高阪　一方、ミルコは準備はできていたんだろうけど、『無差別級GP』のときの執念は正直感じられなかったですね。だから、技術論以前にモチベーションの差もあったんちゃうかな。

――では、ここからは実際に試合の映像を観ながら解説していただきたいのですが。

高阪　（映像を観ながら）まずね、見てほしいのはナパオンがスタンドで左に回りながらミルコを追っていくかたちになりますけど、ただ追ってるんじゃなくて、ナパオンが外側にステップを踏んでるんですよ。

――外側に踏んでる？

高阪　左足を外側に出して前に出てるので、このかたちで前に出られると、ミルコは下がるしかないんですよ。それで結果的に追ってるかたちになるんです。

――その外側へのステップを先にやられることで、ミルコは主導権を握られてしまった、と。

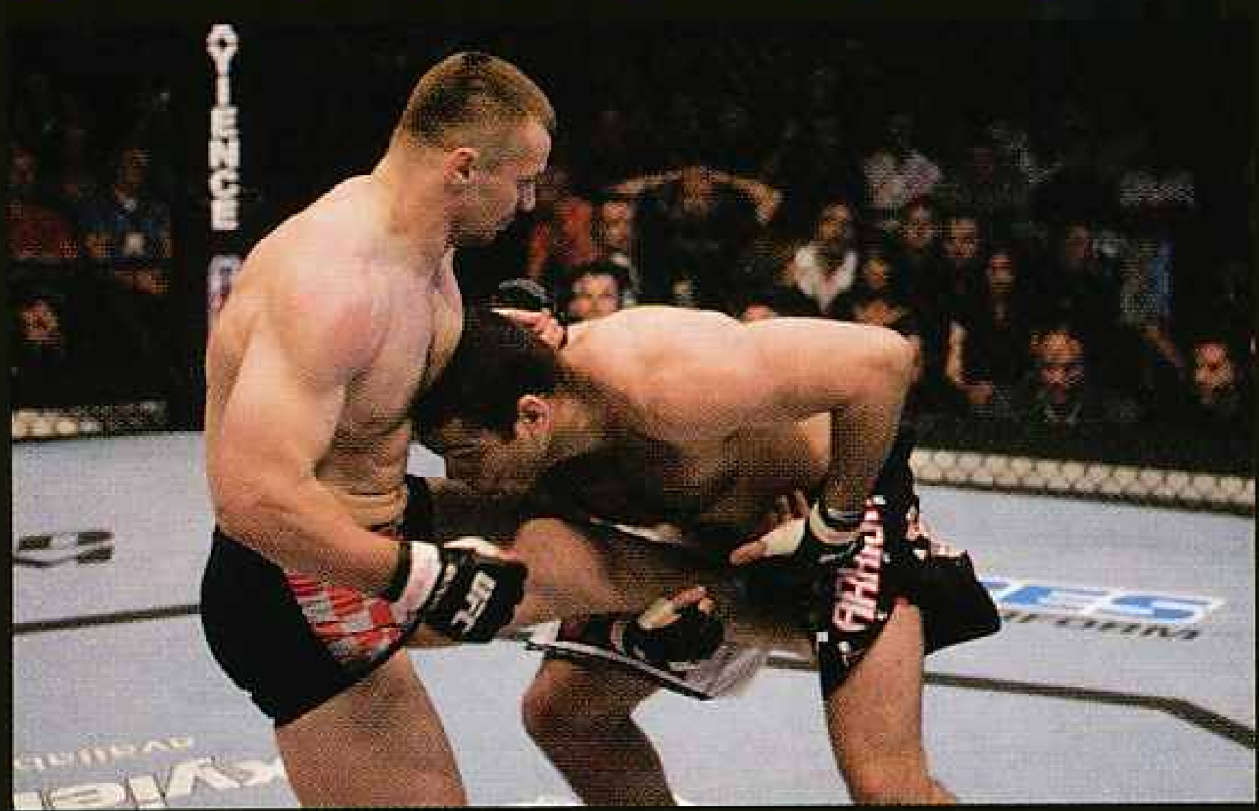
高阪　先手を取られたミルコは、ナパオンの前足に右ローを入れて止めたいところなんですけど、ナパオンがどんどん前に出てくるので、思わず得意の左で蹴ってしまったと思うんですよ。左だと外側を踏んでるナパオンとは凄く距離もあるし、ナパオンは踏み込んでるわけだから、蹴り足が取りやすいんですよね。

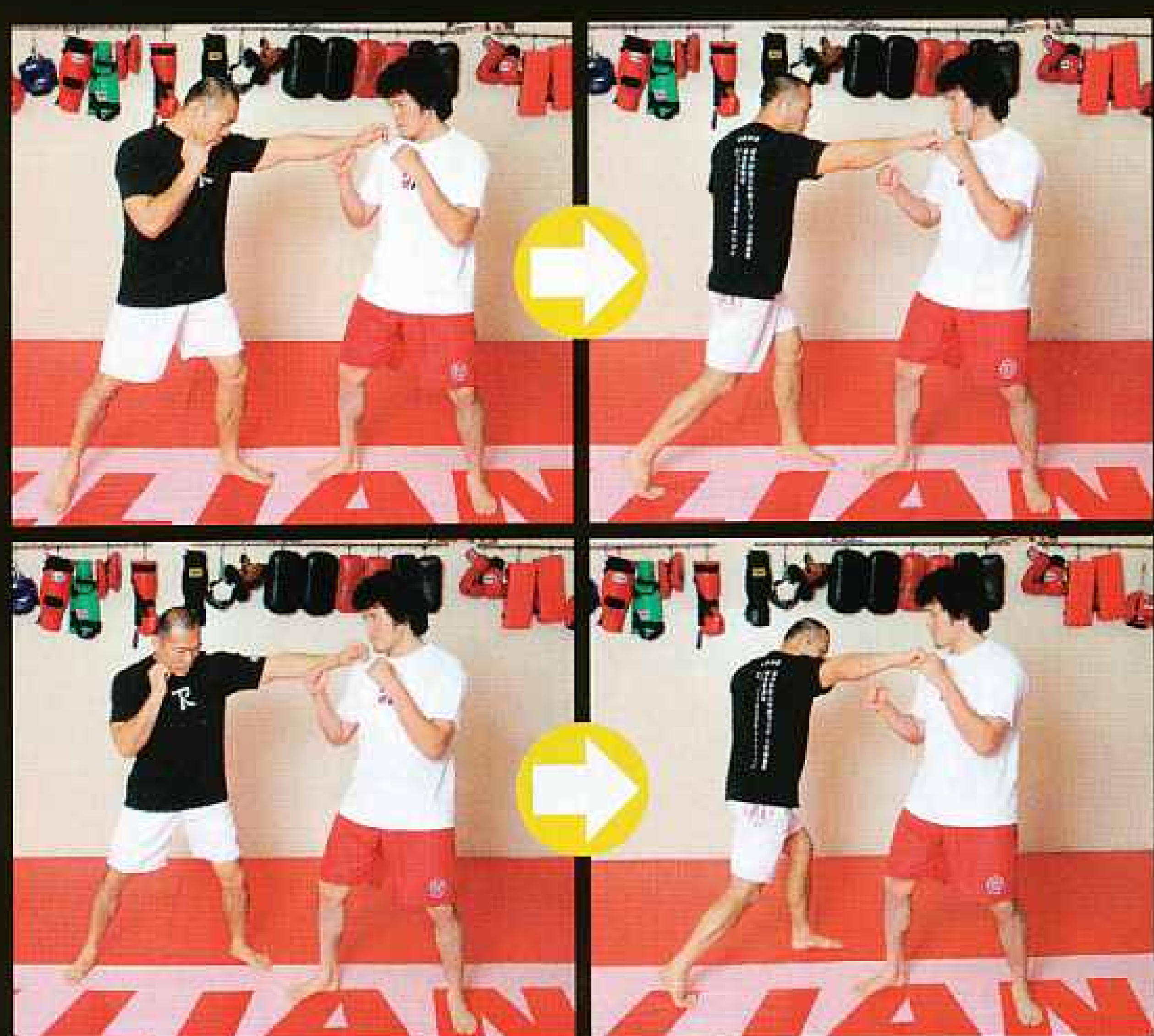
――それで簡単にテイクダウンを奪われてしまった、と。

高阪　こうやって打撃のスタンスで有利になっているから、タックルが決まるというのが総合のおもしろさですね。単調なタックルなら、ミル

紙のFight&Life 1
ミルコはなぜ簡単にテイクダウンされたのか？







上は通常のワンツー。それに対し、ナパオン（TK）は写真下のように左斜め前に踏み出しながらパンチを出し、サウスポーのミルコに左を打たせなかった。



左回りに外側に踏み込んでくるナパオンを止めるには、ご覧のように右ローが有効だった。「とっさに得意な左脚で蹴ったのはミスやと思います（髙阪）」

ナパオンは明らかにミルコをヒジで倒すつもりできていましたね

コは切るのもうまいから、決まらなかったと思うんですよ。でも、ナパオンは、スタンドで先手を取ることで、テイクダウンを取るための準備ができたんです。

──なるほど。寝技に持ち込むために、スタンドで優位に立つ必要がある、と。倒されたあと、ミルコはクローズドガードをとるわけですけど、ここでヒジ打ちを浴びてしまうんですよね。

髙阪　ミルコはパウンドをさせないように両腕を抱え込むんですけど、ナパオンは腕を抜くのがうまいんですよ。そして注目はナパオンが左手でミルコの顔を押して、その左でそのままヒジ！

──滑り込ませるように打ってますよね。

髙阪　これがＵＦＣのテクニックなんですよ。腕を抜いた状態から相手の顔を押さえて頭をマットにつけさせておいてヒジを打つ。この一発がハッキリ言って勝負の分かれ道になりましたね。

──もう、この一撃で勝負は半ば決してましたか！

髙阪　ヘビー級選手にグラウンドでヒジなんてもらったら、それだけで脳震盪起こすし、脚が利かなくなって、寝技のディフェンスができなくなるんですよ。

──そんなに効きますか！

髙阪　スタンドで頭に打撃もらうと、脚にきて立っていられなくなるじゃないですか。それと同じ状態になるんです。で、ミルコは左のヒジを落とされたその一発でヤバイと思うから、必死になってナパオンの左手をつかもうとして、反対側がガラ空きになってしまっているんです。そうするとナパオンは今度は空いている反対側でエルボーを打てばいいので楽なんですよね。

──『ＰＲＩＤＥ』とはまったく違うグラウンドゲームになっていたわけですね。

髙阪　それとナパオンは打ち方も工夫していて、真横から打ったあとに、ちょっと角度変えて上から体重をかけて打っているんですよ。上から振り落とすヒジはガードを越えてくるし、しかもヒジの硬い部分が当たるんですよね。

──一見、どう軌道が違うのかわかりづらいですけど、これでミルコは頭をカットしたんですね。

髙阪　ナパオンはパウンドを1回か2回しか使ってないので、明らかにヒジで倒すつもりできていましたね。ミルコもＰＲＩＤＥルールだったら柔術家相手にパスさせないくらいガードポジションもうまいと思うんですよ。でも、あそこまでヒジが効くものだと思ってなかったのかもしれないですね。実際、ヒジの練習は難しいんですよ。練習でやると切れてしまうし、ダメージが残ってしまいますからね。

──試合前に頭がパックリ割れたり、脳震盪を起こしたりしたら大変ですからね（笑）。

髙阪　だからヒジでの攻撃をイメージできるかどうかなんですけど。あとは経験のある選手と練習しながら、「このポジションが危ない」と

紙のFight&Life 2　これがUFC流！ エグいヒジの落とし方とは？



ヒジの恐ろしさは、ご覧のように振りかぶらなくても打てるところ。顔を押さえて滑らせて落とすヒジは頭が挟まれるため、見た目以上にダメージが大きい。



このようにエルボーを外から手で押さえて防禦しようとしても、体重をかけるだけでヒジは入るため、ディフェンスするのは難しい。



ノゲイラでさえヒジ対策をしないとミルコと同じ目に遭いますよ

いうのを常に言ってもらったりすることが重要なんですけどね。

――ランディ・クートゥアーは「ミルコは脚を使って、スペースを作って立ち上がらないといけなかった」とコメントしているんですが。

髙阪　そうですね。立ち上がるまでいかなくても、ヒジというのは安定したポジションを取らないと打てないので、その前の段階でエルボーを阻止するために脚を使わないとダメなんですね。だからミルコも相手を蹴って距離を取りたいはずなんですけど、たぶんすでにヒジが効いちゃっていて、脚が使えないんですね。

――ミルコがヒジの防戦のあまり、脚を使うのを忘れているわけではなくて、ヒジ打ちのダメージが脚にきて動けなかったわけですか！

髙阪　だと思いますよ。だからスタンドに戻されたときも、ミルコはステップもちゃんと踏めてなくて、もたついているように見えるんですよ。

――確かに、棒立ちになってますね。

髙阪　このときミルコは、脚が鉛みたいに重くなってて「おかしいな～、脚動かんやんけ！」って思ってるはずですよ。それにダメージがあるから冷静な判断もできなくなるし。いつものミルコならこれぐらいのハイキックは絶対ガードできるし、右手でパンッと弾くぐらいだと思うんですけど、反応できないぐらいヒジが効いちゃってるんですよね。

――なるほど。それで、あんなふうにKOされてしまった、と。これから『PRIDE』の選手がUFCで闘ったり、ヒジありのルールで闘うことが多くなってくると思うんですけど、その対応は急務になってきますよね。

髙阪　そうですね。まず全然違うゲームになります。ヒジがあることによって、寝技の中でKOする可能性が高くなるし、ポジショニングが得意な選手は関節技を仕掛けながら、ヒジを打っていけるんですよ。ヒジを一発もらうと動けなくなるので、「ヒジを打つため、打たれないため」の寝技の練習がもっと大事になってきますね。

――はぁ～、ヒジがあることで、ポジショニングの重要度が上がるわけですか。では今後のミルコはどうすればいいですかね

髙阪　間違いなく言えるのは、ヒジありの経験がある選手を練習のパートナーとして連れてこないと厳しいということですね。ファブリシオ（・ヴェウドゥム）も寝技はうまいですけど、ヒジありのルールは今回が初めてやったんやないですかね。

――そうでしょうね。ではガードからの試合展開が得意なノゲイラでさえも、ヒジの対策を立てていないと今回のミルコと同じ目に遭う可能性もありますか？

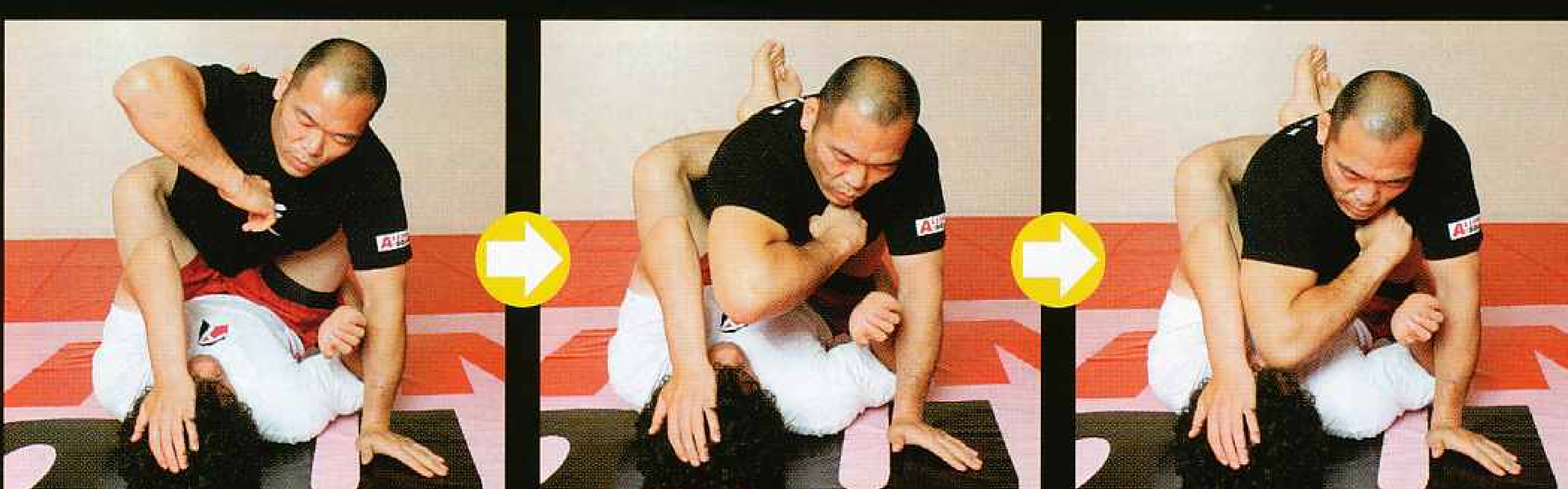
髙阪　ありますね（キッパリ）。た

紙のFight&Life なぜナパオンのヒジはガードできないのか？

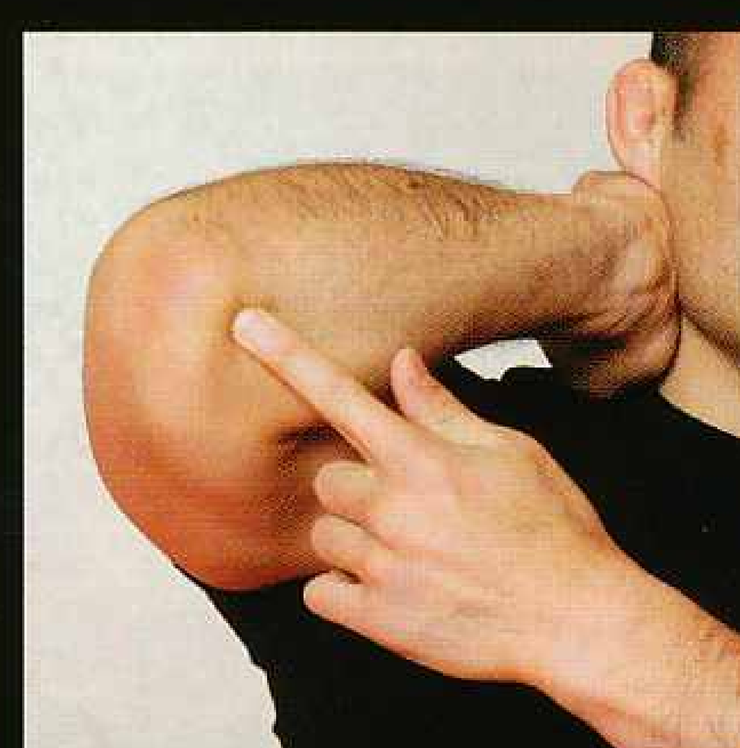




横から打つ通常のエルボーは手でガードできるが、ナパオンはガードをくぐり抜けるように下のようなエルボーを打った。

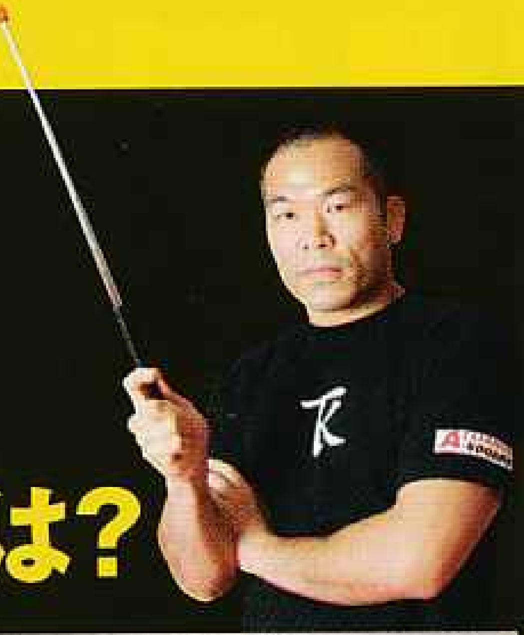


これがミルコが頭をカットしたエルボー。このように斜め上から打ち降ろすヒジは、ガードの上を通ってくるので、手で防ぎようがない。

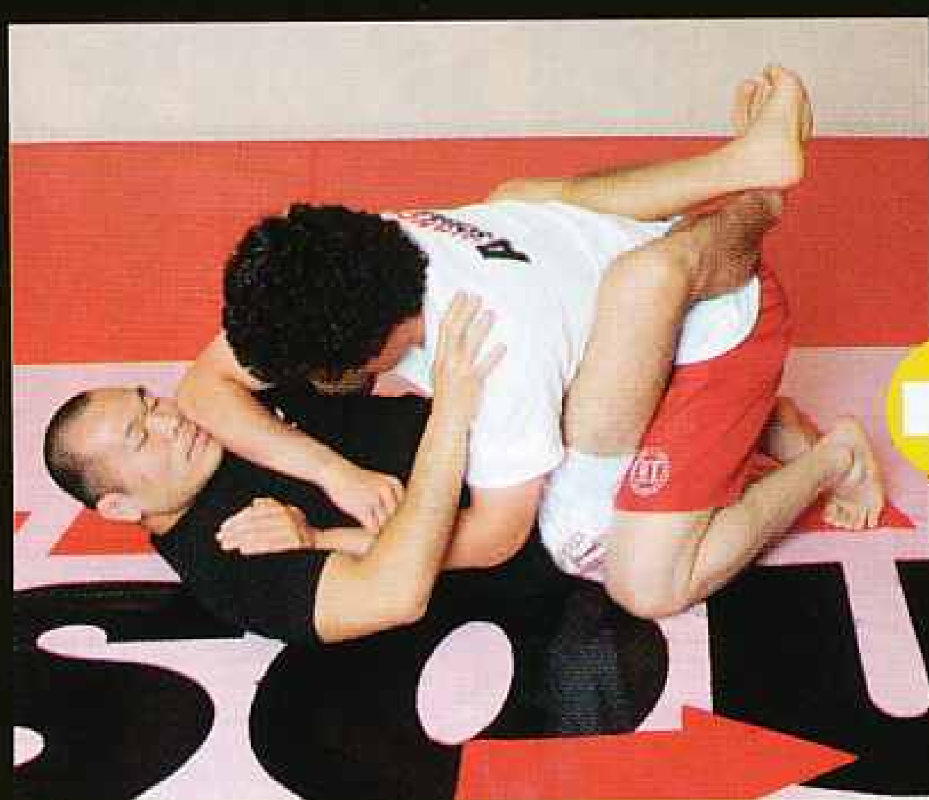


縦のエルボーで当たるのは、ヒジでもっとも尖がった骨。そのためカットする可能性が高い。

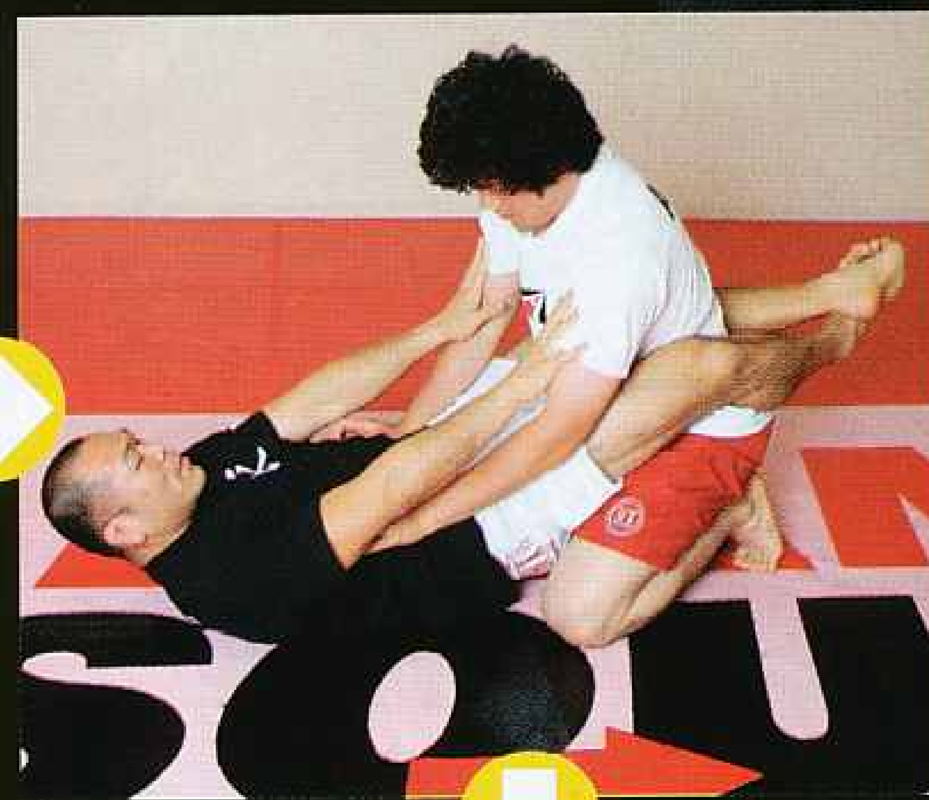
紙のFight&Life



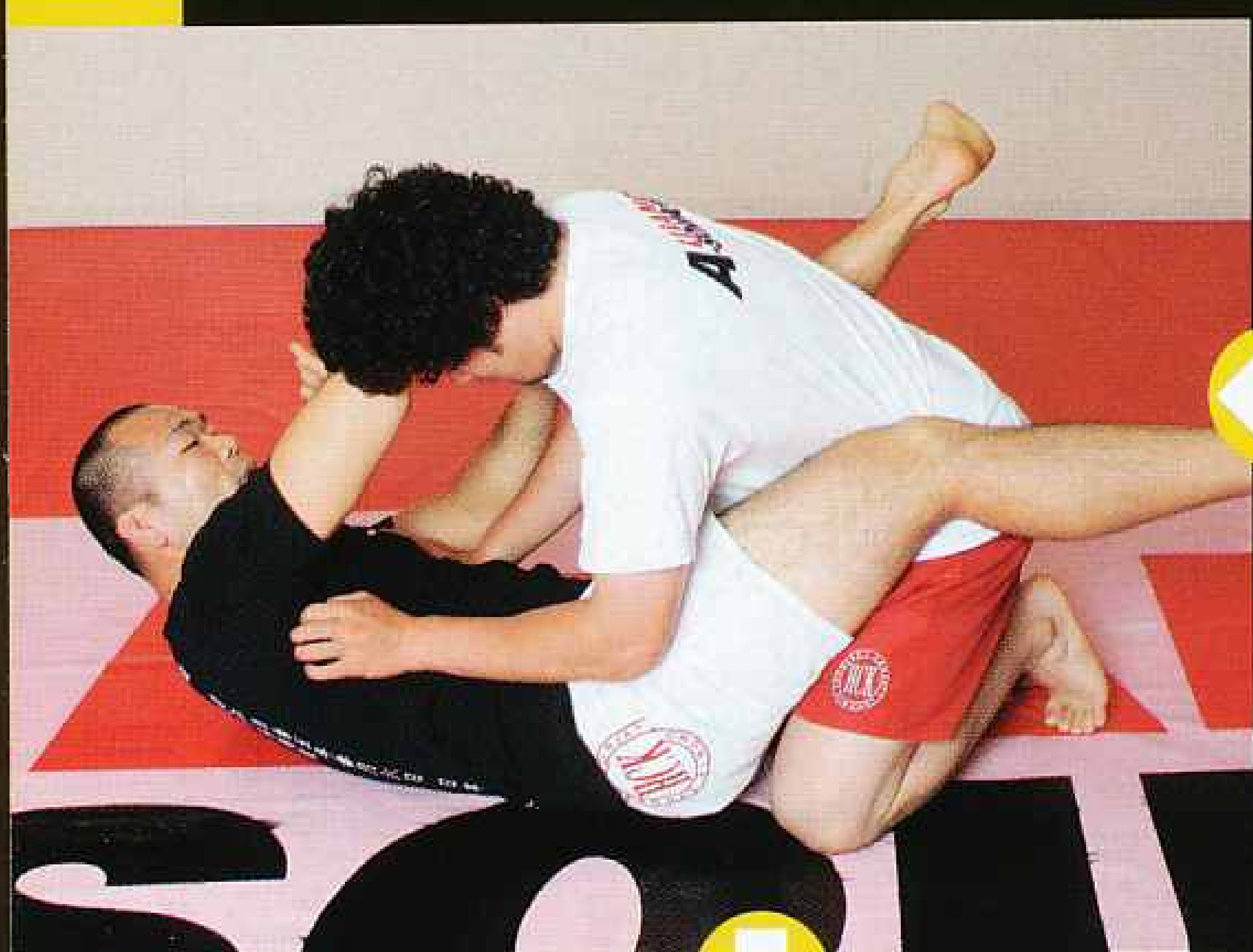
目には目を！ ヒジにはヒジを!!
下のポジションから脱出するには？

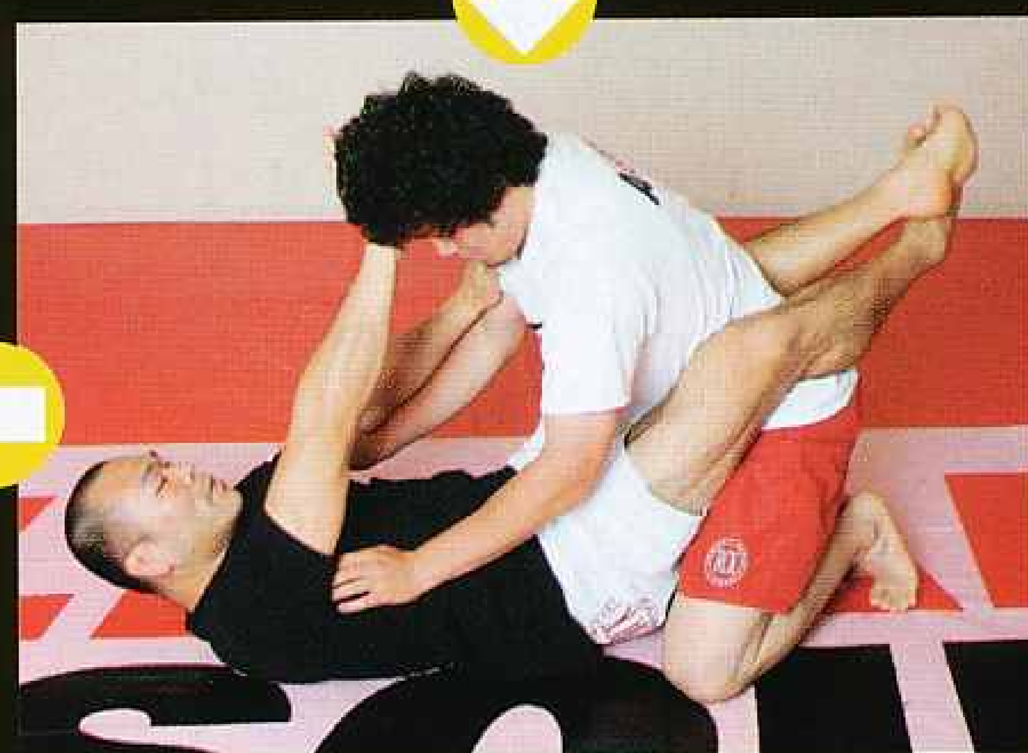


ミルコのようにクローズドガードでガッチリと引き込むと、ヒジの格好の標的となってしまう。



クローズドガードでもヒザを閉じて、相手を離せばエルボーをもらわないで済む。





相手がヒジを狙って中に入ってこようとすると、顔を手で押さえておく。それでも来ようとしたら、この体勢からなら、逆に下からヒジが打てる。「せっかくヒジがあるんだから、下からもヒジを使わないと（高阪）」





下からのヒジを嫌がった相手が頭を身体につけても、さらに下からヒジで攻撃できる。



嫌がった相手が後ろに下がったところで、腰に足をかける。







そのまま相手を蹴って、立ち上がる。「ヒジを一発でももらうと動きが止まってしまうので、体を左右に切り替えしたり、足を使って、とにかく下からでも動き続けないといけないんです（高阪）」

だノゲイラはポジショニングの重要度を理解していると思うので、ヒジありというオプションをつけるだけだと思うんですよ。ただし、そのオプションが非常に重要なオプションで、ちょっと間違えただけでも脚が利かなくなるし、カットされたらそこで試合が終わってしまうので、緊張すると思いますけどね。

――ノゲイラ自身は相手がヒジを狙ってくると、逆に腕十字とか三角絞めをしやすくなると言ってますが。

髙阪　いやぁ～、それはどうかなぁ。たとえば、打ちっぱなしにしてるとか、ヘタクソなエルボーを打つ選手ならそうでしょうけど……でもUFCに出ているぐらいの選手なら打ったあとにしっかりと脇を戻しているんで、簡単には関節を取れないと思いますよ。ノゲイラほどの選手でも、とにかくヒジに慣れることが大事ですね。

――なるほど。

髙阪　ただヒジはまだノウハウが確立されてないので、ハッキリ言って、やったもん勝ちなんですよ。自分もUFCに出ているとき、ヒジの対応は急務だったんです。それで、「ヒジの防御はこうでいいんだよね？」ってジョシュ（・バーネット）とかと話しながらやっていたんですけど、実際の試合になったら全然違って、「ジョシュ、ヒジもらったやんけ！」って（笑）。まだ、いまでもそんな状態ですから、ガードを破るヒジの打ち方とかを見つけたもん勝ちですね。

――寝技のヒジはまだまだ攻撃法も防禦法も確立されてない、研究しがいのある分野だと。ではヒジを制する者が、UFCを制するとも言えるわけですね。本日はありがとうございました！

【07年5月3日／A－SQUAREにて収録】

これはUFCなのか？（違います）

マット界最強"ヒジ"列伝

俺たちも忘れるな!!

「まるでUFCだぁぁあ!」とNOAHの実況アナに絶叫させた三沢のマウントエルボー弾をはじめ、ナパオンに勝るとも劣らないエルボーの達人たちが、マット界にはまだまだひしめいている。今回は"ヒジあり"のUFCにとって、ダナ・ホワイトも腰を抜かすこと間違いなし!の未知なる強豪がズラリと勢揃い!! 俺たちのことも忘れるな!!

文／山本宗忠（THE PEHLWANS） 構成／真下義之

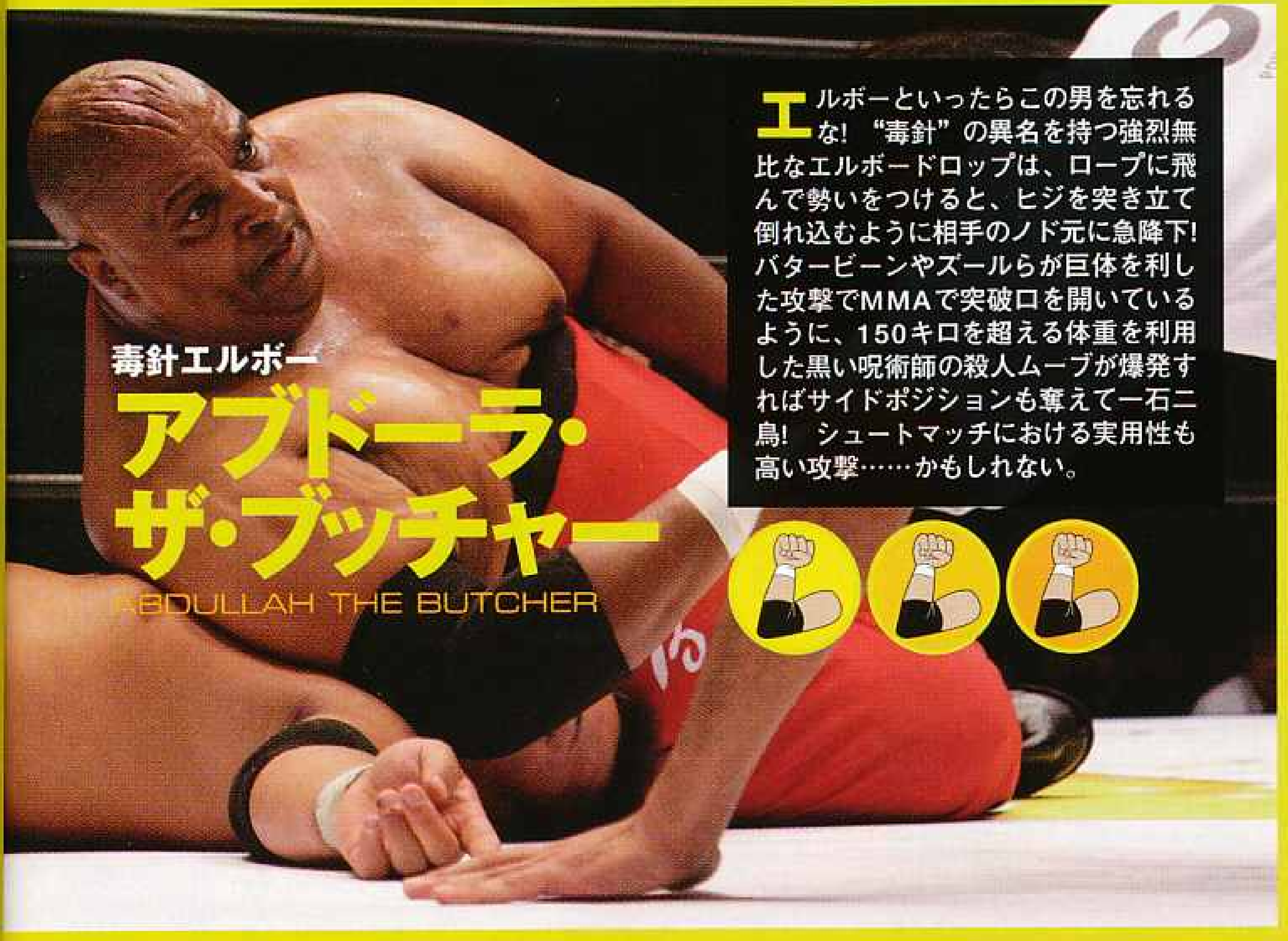


エルボーの貴公子
三沢光晴
MITSUHARU MISAWA

日本が誇るエルボーの偉い人! 三沢さんのエルボーに対するNOAHファンの信頼だけはガチ! ミルコに勝利したナパオン（おそらく三沢ファン）の過剰なエルボー攻撃で、その有効性が再クローズアップ! 今年3月のNOAH日本武道館大会では杉浦貴に20数発のエルボーを連射してTKO勝利。実況アナと解説の高山善廣に「これはUFCか!?」と叫ばせた、マウントからの高速エルボーは、MMAでも無限の可能性を感じずにはいられない! ローリング式、ランニング式にワンツー式、ここ一番のエルボースイシーダ……、変幻自在のエルボーはオクタゴンに三沢旋風を巻き起こす!

エルボーとは何か？

日本ではおもにプロレスでの認知度が高い"ヒジ"を使用した打撃技。エルボースマッシュ、エルボースタンプ、エルボードロップなどバリエーションは多岐に渡る。一方、『PRIDE』や『HERO'S』ら日本のメジャーMMA団体は、"顔面へのヒジ打ち"を禁止しているが、海外MMAシーンの猛威が吹き荒れる中、"ヒジあり"のUFCの技術体系が注目を集めている。



毒針エルボー
アブドーラ・ザ・ブッチャー
ABDULLAH THE BUTCHER

エルボーといったらこの男を忘れるな! "毒針"の異名を持つ強烈無比なエルボードロップは、ロープに飛んで勢いをつけると、ヒジを突き立て倒れ込むように相手のノド元に急降下! バタービーンやズールらが巨体を利した攻撃でMMAで突破口を開いているように、150キロを超える体重を利用した黒い呪術師の殺人ムーブが爆発すればサイドポジションも奪えて一石二鳥! シュートマッチにおける実用性も高い攻撃……かもしれない。



黄金のエルボースマッシュ
ドリー・ファンクJr.
DORY FUNK Jr.

片手で相手の首根っこをつかみ、下から突き上げるようにして打つべし! 打つべし! 打つべし! ドリー・ファンクの元祖エルボースマッシュはケンドー・カシン、西村修、大森隆男らに受け継がれるクラシック。MMAではダンヘンらが多用する、片手で相手の首根っこをつかんで放つアッパーはドリーの影響で習得したという噂も!? ドリーがヒジでジワジワとスタミナを奪い、片足タックルからスピニング・トーホールド炸裂――ロマンにあふれたムーブだ。

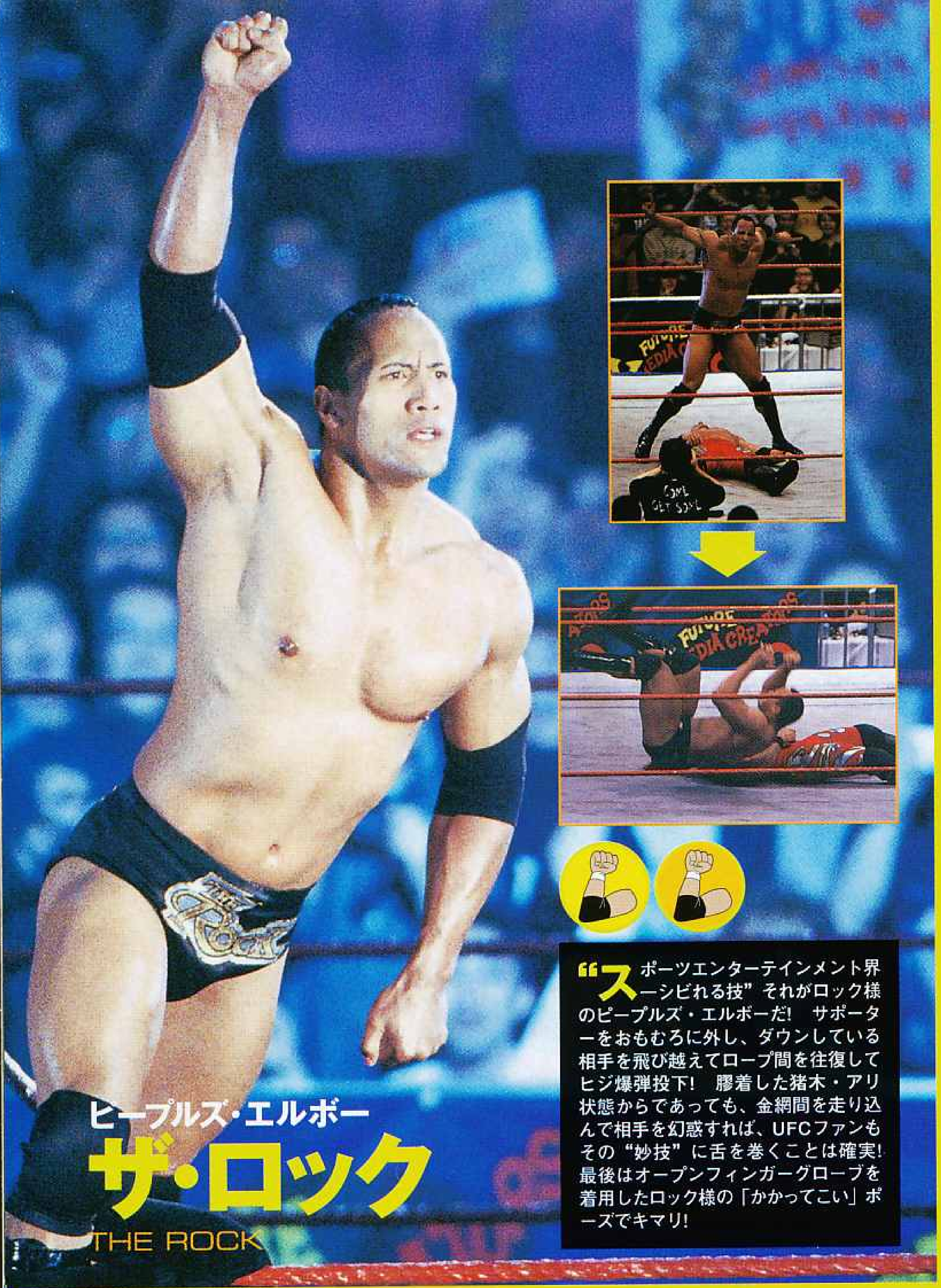


エプロンサイドの必殺エルボー
ディック・マードック
DICK MURDOCH

ローデスと"ジ・アウトローズ"を結成していた"狂犬"マードックもエルボードロップの名手。仰向けの相手をリングのエプロンサイドから額めがけてエルボー発射! そのヒジの威力もさることながら、ハイアン・グレイシーばりの喧嘩っ早い性格と無類のトンパチぶりは、多くのレスラーや関係者が口を揃えるところ。1996年に他界したが、MMAをモノともしないクソ度胸を持っていたことは間違いない!

Mr.エルボースタンプ
ダスティ・ローデス
DUSTY RHODES

"エルボー"と聞いてこのレスラーを想起するファンも多いだろう。相手のノド元を捕らえる的確なエルボードロップ、手をグルグル回し勢いに乗ってくり出すエルボースタンプ! UFCは突き落としのヒジ打ちは反則だが、これだけ器用にエルボーを使いこなすローデスのこと。熱狂的な「USA!!」コールを背に、インサイドガードからグルグルグルグルドーンッ!! 心身ともに相手のダメージは計り知れない……はず!?



ピープルズ・エルボー

ザ・ロック

THE ROCK

"スポーツエンターテインメント界ーシビれる技" それがロック様のピープルズ・エルボーだ! サポーターをおもむろに外し、ダウンしている相手を飛び越えてロープ間を往復してヒジ爆弾投下! 膠着した猪木・アリ状態からであっても、金網間を走り込んで相手を幻惑すれば、UFCファンもその "妙技" に舌を巻くことは確実! 最後はオープンフィンガーグローブを着用したロック様の「かかってこい」ポーズでキマリ!



戦慄のヒジ

ピーター・アーツ

PETER AERTS

K-1 & 『HERO'S』のアーツしか知らないファンは、アーツが入ることを不思議に思うかもしれないがK-1誕生前夜の1992年5月、リングスでの対アダム・ワット戦でコーナーに詰め、ヒジでのけ反らせ、反動を利用した死角からの "見えない" ヒジ打ち一閃でワットを撃沈!! MMAでは "大山峻護に秒殺" など不名誉な結果が続くアーツがグラウンドで! ケージ際で! 一発入れればKO必至! な "ヒジあり" MMAでこそ、その真価は発揮される!



ムエタイの "切り裂き魔"

ワンロップ・ウィラサクレック

WANROP WEERASAKRECK

スタンドでもグラウンドでも射程距離に入ったら迷わずヒジ! 切れ味鋭いエルボーで何人もの額をカット、流血させ、"リッパー（切り裂き魔）" の異名を持つムエタイ戦士。キック王者を次々と血祭りにあげる無類の強さは「ワンロップに勝ったら100万円」と賞金首になるほど。MMAのグラウンドの対処を覚えれば、UFCのカットマンが目の上に大量のワセリンを塗ろうとも、カット三昧、レフェリーストップ三昧で連勝街道間違いなし!



"バックランド＝エルボー" と聞いてニヤッとしたあなたは、なかなかのエルボーマニア。1989年5月、第二次UWF。船木優治（現・誠勝）からボコボコにされ続けたボブは、苦し紛れにUWFでは反則のエルボー連打! 結果、「UWFスタイルに適応できない」とレッテルを貼られるも、ボブはレスリング元全米学生王者。確かなレスリング技術にケン・シャムのごとく顔を真っ赤にしてのエルボー。金網でも "帝王" と呼ばれるだけの資質は充分にあった!

新生UWFで反則ヒジ殺法

ボブ・バックランド

BOB BACKLUND

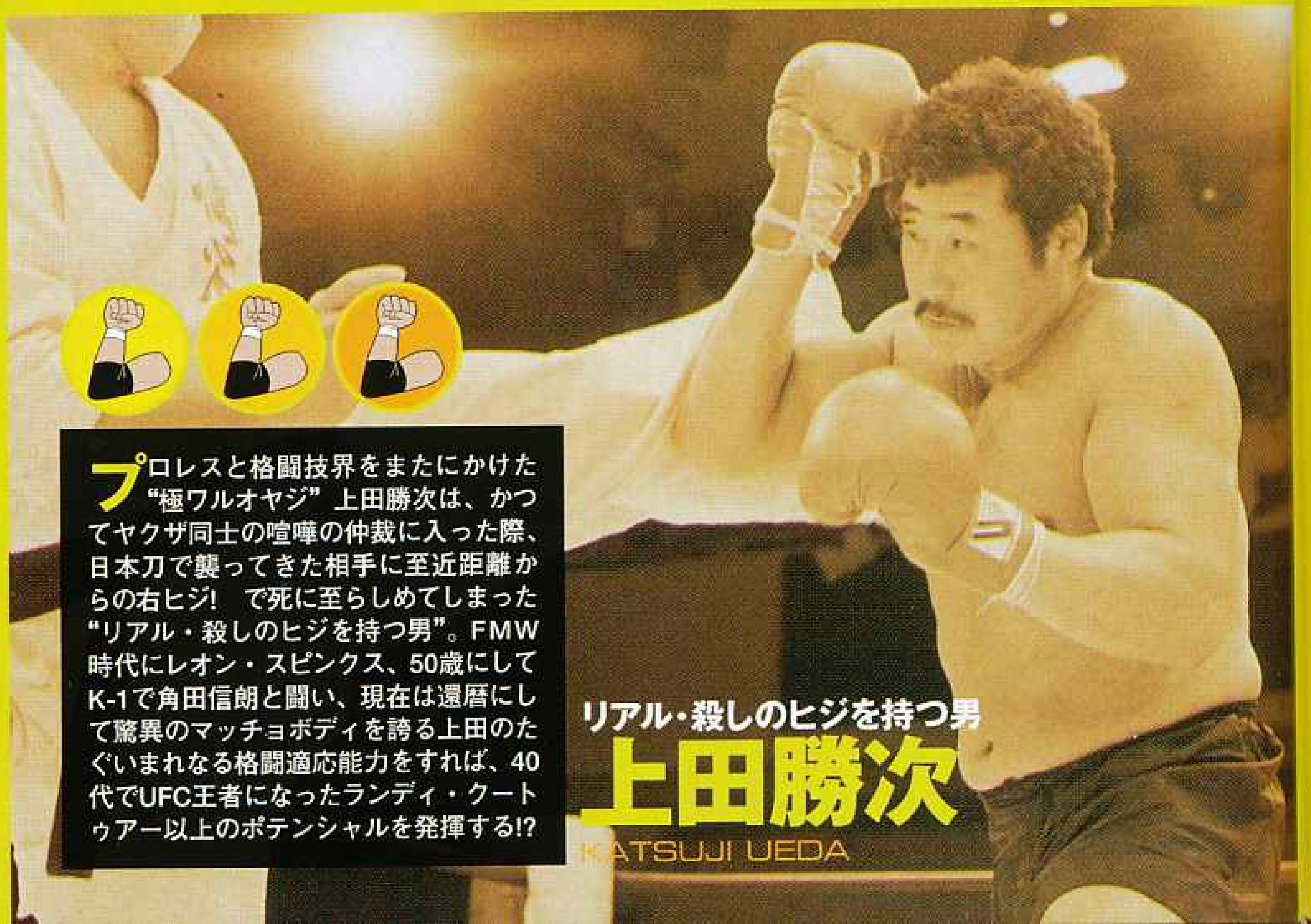


もうー丁! もうー丁!

黒田哲広

TETSUHIRO KURODA

「どーですか、お客さん!」相手の足を鉄柱に打ちつけておいて、「もうー丁! もうー丁!」とコール＆レスポンスを誘発! もう一度、鉄柱に打ちつけると見せかけて……寸止め、そして速射エルボー!! お約束のフェイント＆太ももエルボーで動きを鈍らせつつ、金網のてっぺんから「This is 哲っちゃんカッター!」（観客も唱和）を炸裂させれば、ミノワマンの "SRF8回" 以上の異様な一体感がオクタゴンを包むことになる! 黒田最高〜ッ!!


プロレスと格闘技界をまたにかけた "極ワルオヤジ" 上田勝次は、かつてヤクザ同士の喧嘩の仲裁に入った際、日本刀で襲ってきた相手に至近距離からの右ヒジ! で死に至らしめてしまった "リアル・殺しのヒジを持つ男"。FMW時代にレオン・スピンクス、50歳にしてK-1で角田信朗と闘い、現在は還暦にして驚異のマッチョボディを誇る上田のたぐいまれなる格闘適応能力をすれば、40代でUFC王者になったランディ・クートゥアー以上のポテンシャルを発揮する!?

リアル・殺しのヒジを持つ男

上田勝次

KATSUJI UEDA



PRIDEを含めたMMA全体を私が見る必要があるんだ

もはやこの男が

MMAの支配者か？

DSE榊原代表を超える

過激発言連発!!

ダナ・ホワイトUFC代表 独占インタビュー

3.27「重大発表記者会見」で発表されたとおり、ロレンゾ・フェティータ氏が共同オーナーとなったUFCと『PRIDE』。これによって、両団体間の“戦争”は終結したかと思われたが、4.7『UWF69』でホドリゴ・ノゲイラの“引き抜き”が発覚！ さらに『PRIDEライト級GP』へのUFC戦士派遣について、日米の言い分が食い違うなど、この“戦争”は続いているように思える。こういった事態をUFC代表ダナ・ホワイトはどう思っているのか？ MMA界再編の真っ只中、もっとも重要なキーを握る男を4.21『UFC70』大会開始前に独占直撃した！

聞き手&撮影／堀江ガンツ 通訳／クイズ！ 上杉!!

ノゲイラはほかのカス団体に取られる前にUFCでしっかり囲う必要があったんだ

DANA WHITE

—大会開始直前にも関わらず取材を受けていただいて恐縮です！

ダナ　ノー・プロブレム！　日本は我々にとっても大きなマーケットだから、こうして取材に来てもらえて光栄だよ。ましてや、ロレンゾ（・フェティータ）がUFCと『PRIDE』両方のオーナーになったんだから、日本のファンはこれまで以上に大事にしたいからね。

—それにしても、UFCと『PRIDE』の"合体"は世界に大きなインパクトを与えましたね。

ダナ　それはそうだろうね。そして、これによって今後さらに大きな変化が起こるよ。昨年まで、このビジネスの大きな問題は、「誰が本当の最強なのかわからない」ということだったんだ。でも、いまは変化してきた。今回の一件で、その答えが出せる状況が整ったんだ。

—そうですね。日本のファンも統一オーナー誕生によって二大メジャー団体間で夢のカードが実現するのでは、と同じようにワクワクしていました。しかし先日、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラが突如UFCに移籍したり、『PRIDEライト級GP』の延期が発表されたことよって、逆に『PRIDE』の今後に不安を感じているんですよ。

ダナ　まぁ、日本のファンが不安になるのもわからなくはないが、なんの心配もいらない、と言っておきたいね。では、まずノゲイラについて説明させてもらうと、簡単に言えば、彼は昨年の大晦日にジョシュ・バーネットと闘って以降、新たな契約を待っている状態だったんだ。

—『PRIDE』との契約試合数は終了していた、と。

ダナ　だから、ほかのオーガニゼーションが彼をかすめ取る前に、我々が契約したんだよ。

—では、『PRIDE』から引き抜いたというより、ボードッグやエリートXCといった新興団体に取られないために、UFCが囲った、と？

ダナ　そう、決して『PRIDE』から選手を奪ったわけじゃない。ロレンゾが『PRIDE』のオーナーになったことによって、UFCで契約しながら『PRIDE』のリングに上げることも可能になったわけだからね。だからロレンゾの陣営で囲ったということだよ。まぁ、ノゲイラの契約の状況は、ほかの誰も知らなかっただろうけど、ノゲイラほどの優秀な選手を遊ばせておくことはないだろう。

—では、あなた自身はノゲイラが『PRIDE』との契約試合数が終了していることはどうやって知ったんですか？

ダナ　それを調べるのが私の仕事だよ（ニヤリ）。世界のベストファイターとサインすること。私はそうやって生計を立てているんだよ（笑）。あと、キミたちは勘違いしがちだから一つ言っておくが、ノゲイラだって、そもそもボードッグのようなカスみたいな団体には行く気はどのみちないんだ。

—カス団体！

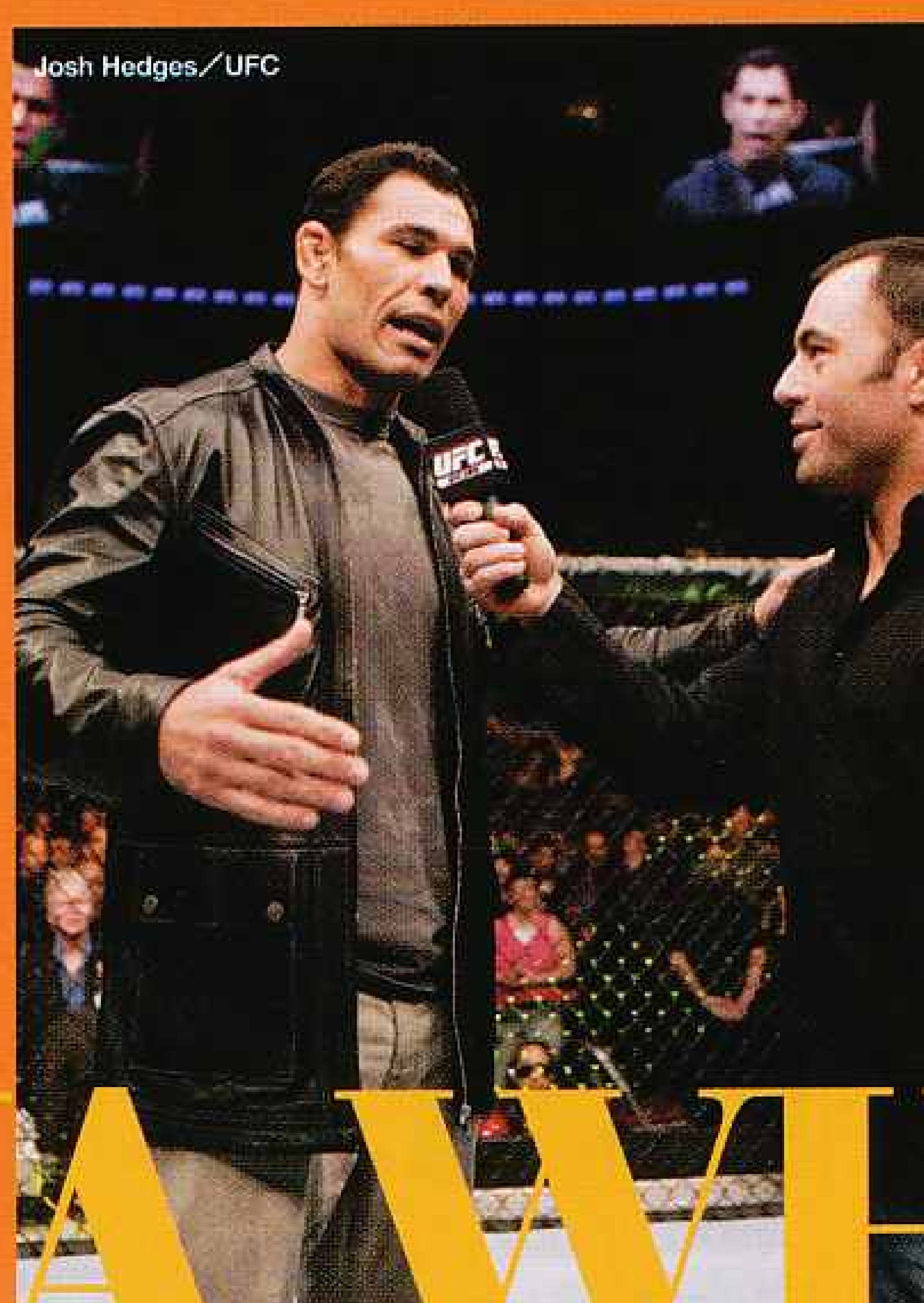
ダナ　彼からすれば、契約が終了していた。そして、今後UFCか、もしくは、その提携団体である『PRIDE』のリングに再び上がるために我々と契約を交わした。それだけだよ。

—しかし、なぜ今回はノゲイラが所属していたブラジリアン・トップチームを通さずに彼と契約したんですか？

ダナ　……ブラジリアン・トップチーム？　なんだ？　それは。

—えぇ⁉　ご存知ないのですか？　ノゲイラが所属していたチームですけど……。

ダナ　そんなものは関係ない（キッパリ）。ファイターが私のところに来て、契約を結ぶ。その際、ファイターがほかの団体と契約していなければ、なんの問題もない。私は、彼とそのブラジリアンなんとかの関係すら知らないね！



4.7『UFC69』でダナ代表の呼びかけに応え、初めてUFCに登場したノゲイラ。"PRIDEの守護神"とまで呼ばれた男が、再び『PRIDE』のリングに上がることはあるのか?

—あくまで、選手個人と契約を結ぶ、と。

ダナ　そもそもだ！　そういったエージェントの存在もこの業界の悪習だよ。エージェントなんて必要のない存在だろ？　彼らがファイターをコントロールする時代は終わったんだよ。

—ずいぶんとエージェントを目の敵にしますね。確か、あなたもかつてはティト・オーティズらのマネージメントをされていたと思うのですが……。

ダナ　（無視して）だから日本のファイターも同様でUFCに出場したければ、オフィスに電話してくれればいいんだ。エージェントなんて、ファイトマネーを搾取しているだけの"ゆすり屋"だよ。

—ゆすり屋！　では最近、元ウェルター級王者のマット・ヒューズと、彼のエージェントであるモンテ・コックスを通さずに直接契約を結んだと言われているのも、そういった理由からですか？

ダナ　（怪訝な表情で）ん？　モンテ・コックス？　彼とはもともと何もないよ。彼とは一度だって話したことはないし、ハッキリ言って彼のことは嫌いだからね。

ジョーク団体で階級下の選手と闘うなんてヒョードルもバカげた行為をしたもんだよ

—そうなんですか⁉　でもモンテ・コックスは多くの選手をUFCに派遣していますよね。

ダナ　そうだ。だが私ではなくて、（ブッキング担当の）ジョー・シルバがモンテ・コックスの窓口になっている。モンテ・コックス経由で多くの若い選手がオクタゴンに上がっているが、マット・ヒューズとは、最初から自分が話しているんだよ。

—そうだったんですか。つまりトップ・ファイターとは直接契約を交わしているわけですね。

ダナ　そういうことだ。

—そしてノゲイラとも直接契約を結んだわけですが、彼は今後、どうやって使っていこう考えていますか？　ノゲイラは初代PRIDEヘビー級王者ですが、いきなりデビュー戦でUFCヘビー級王者と頂上対決もあり得ますか？

ダナ　それはないね。彼が将来的にタイトル戦線に絡んでくることは間違いないと思う。でもデビュー戦でタイトルに挑戦するようなシステムはここにはないよ。ミルコと同じようにまず何試合か闘ってもらうつも

りさ。デビューの時期は、夏頃を目安に考えているけど、まだ何も固まっていない（※後日、7・7『UFC73』でのノゲイラvsヒース・ヒーリング戦を発表）。

—それにしても、ミルコ、ノゲイラがUFCに移籍し、ヒョードルもボードッグに出場していたりする現状を考えると、今後UFCと『PRIDE』の〝MMA版スーパーボウル〟が実現したとしても、ことヘビー級については、戦力バランスの面で成り立ちにくくなったと思うのですが、それについてはどう考えていますか?

ダナ （ニヤリと笑って）問題ない。ヒョードルは必ず『PRIDE』に戻ってくるさ。

—しかし、実際にヒョードルは4・14ボードッグのロシア大会に出場していますが、そのことについては?

ダナ バカげた行為だと思うよ。彼にふさわしいのは、『PRIDE』のリングだろ。〝世界最強〟と呼ばれる男が、なぜあんなリングで、しかも2階級も下の選手であるマット・リンドランドとわざわざ闘ったのか理解に苦しむね。彼にも言ってやりたいよ、「ボードッグ・イズ・ジョーク!」とね。

—キメ台詞が出ましたね（笑）。日本でも、その言葉はすっかり定着していますけど。

ダナ ハッハッハ。それは嬉しい。ヒョードルにもちゃんと伝わるように報道しておいてくれよ。

—しかし、ノゲイラとの契約を急いだことを考えると、イベントのクオリティはともかくとして、金銭面では、ボードッグやエリートXCといった新興勢力を脅威だと感じていますか?

ボードッグの野郎は犯罪者。エリートXCの連中はボクシングで儲からないからMMAに来ただけさ!

ダナ ノー。恐れてなんかないさ。トップファイターは、あの大会のレベルがわかっているし、この先どうなるかわからない怪しいところには出場しない。あんなところに出ようとするのは、まだ一人前じゃない選手だけさ。そして、ボードッグは、コンペティション（競合）ではないし、これからもコンペティションになることはない（キッパリ）。

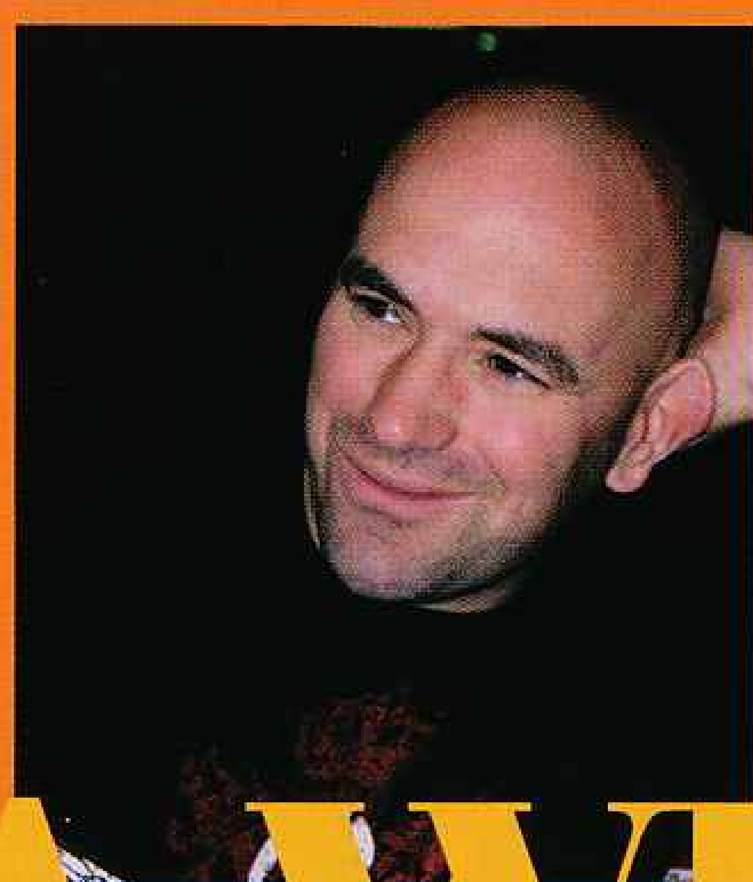
—徹底的に嫌ってますね（笑）。

ダナ それはそうだ。彼らはMMAを愛していないし、彼らが愛しているのは金だけだ。そして、ボードッグのヤツ（カルビン・エアー代表）はオンライン・カジノの犯罪者だ。エリートXCの連中はボクシングで儲からないから、MMAに来たんだろ?

—ブームになっているMMAに金の匂いを嗅ぎつけた、と。

ダナ 彼らと違って、『PRIDE』の前オーナーであるミスター・サカキバラはMMAを愛していたし、日本のファンもDSEを愛していた。それはUFCも同じで、本当のMMAファンのために試合を組む。しかしボードッグやエリートXCの連中はそれができない。なぜなら、それは（心臓を指して）ここからの感情で動いていないからだ!

—う〜ん、なるほど。そんな彼らがK—1（FEG）とアライアンスを組んでいたりもしますが、『PRIDE』とUFCにとって、このアライ



DANA WHITE

アンスはライバルになりえますか?

ダナ フッ（鼻で笑って）、私にはその質問自体がジョークとしか思えないね（笑）。

—質問自体がすでにジョークですか（笑）。

ダナ だってそうだろう? ジョーク同士が集まっても、UFCや『PRIDE』にはなれない。よりジョーク度が増すだけじゃないか（笑）。

—巨大なジョークになるだけ（笑）。

ダナ K—1は、このファイトビジネスで成長してきた立派な会社だと思っている。でも、なぜジョークみたいな団体と手を組むのかは、正直、理解に苦しむね。K—1が弱体化したような印象を受けるだけだ。そこまで落ちぶれたのか……とね。

—むしろ、K—1の株を下げる行為だ、と。そのアライアンスは、6月2日にロサンゼルスのメモリアル・コロシアムで『Dynamite!! USA』という10万人規模のイベント開催を予定していますが。

ダナ 笑わせてくれるよな（笑）。ジョーク連合にふさわしい、じつにくだらないジョークだ。キミたちは我々のラスベガス大会を取材しているから、何人集まっているかわかるだろ? 1万5000人ぐらいだ。そこにきて、10万人だって? 言っておくけど、あのフリーク・ショーだと、彼らは10万人ぶんのタダ券をばら撒いたとしても、ガラガラだろうな。

—メインイベントに予定されているチェ・ホンマンvsブロック・レスナーへのニーズというのは、北米ではあまりないわけですか?

ダナ ニーズなんてどこにもないだろう（あっさり）。

—どこにもない（笑）。

ジョーク団体と手を結ばなきゃならないとはK—1もそこまで落ちぶれたということか……

ダナ 正直に言えば、ブロック・レスナーは素晴らしいレスラーだと思っている。でも、ファンは彼がWWEにいたことさえすでに忘れているだろうな。ましてや、その対戦相手なんて、アメリカでは誰も知らない。そんなマッチメイクで「10万人集める」なんてジョーク以外の何ものでもないだろう。

—まぁ、ホンマンvsレスナー以外にも好カードを用意する予定なんでしょうけど……。K—1の谷川さんは、昨年UFCにホイスを貸したことを持ちだして「UFCに男気があるなら、『Dynamite!! USA』にマット・ヒューズを貸してほしい」と言ってましたが?

ダナ 一つ言っていいかな。ミスター・タニカワは貸しがあると思っているみたいだけど、あのホイスの取り引きで儲けたのはK—1だろ。いったいいくら払ってやったと思っているんだ? だから、貸しがあるのは、むしろこっちのほうだよ!

—まったく貸す気はなさそうですね（笑）。

ダナ まぁ、そのジョークイベントに言えることは、10万人なんてタダでも集まらないということと、彼らが大赤字を食らうということだけだ。いっそのこと、いまからでも中止にしたほうがいいんじゃないか?

—急遽、延期になった『PRIDEライト級GP』のように（笑）。

ダナ イベントを本気で成功させたいなら、ときには勇気を持って中止や延期をすることだって必要なん

“借り”があるのはK−1のほうだろう。ホイスの取り引きでいくら払ってやったと思ってるんだ？

だ。準備が中途半端な状態で大失敗して、取り返しのつかないことになるより、よっぽどいい。

——では、その『ライト級ＧＰ』は、いつ頃、開催できそうですか？

ダナ　わからないね。いまは、まだインフラを整備している段階と聞いている。まずは会社組織を整えることが急務だろうね。人的資源とかね。『ＰＲＩＤＥ』は、ＵＦＣのライバルとしてさらなる飛躍を目指すことになるんだろうから、新体制の第一弾大会にはもう少し時間がかかるだろう。

——それと今大会前の記者会見では、『ＰＲＩＤＥライト級ＧＰ』を１５５ポンドか１７０ポンドでやりたいと言っていましたが、そうなると桜井〝マッハ〟速人や青木真也らは出場が難しくなりますけど、それについてはどう思いますか？

ダナ　う〜ん……そこが難しいところでもある。

——日本では73キロで行なってきた歴史があり、73キロ以下級のベストファイターが揃っているわけですが、たとえば彼らを無理矢理に減量させてでも１５５ポンドでやるんですか？

ダナ　それはいい質問だ。まさにそのことこそ、どうにか解決しないといけない問題だ（笑）。

——一部報道によると、ＵＦＣからは『ライト級ＧＰ』に選手を派遣しないとも発言されてましたよね。

ダナ　それは間違いだ。私は「出さない」と言ったことはないよ。ただ、そうやって伝わってしまったのは、「出さないかもしれない」と言ったからだろうね。

——それはどうしてですか？

ダナ　想像してほしいんだ。『ＰＲＩＤＥ』とＵＦＣが対抗戦をする光景を。世界の二大メジャー団体が闘う以上、それはスーパーボウルのような巨大なイベントでなくてはならない。大掛かりに派手にやる必要がある。だから、それをやる前に、『ＰＲＩＤＥ』に１〜２名選手を派遣して、チョコチョコと対抗戦をやる気はないんだよ。

——なるほど。

ダナ　どうせやるなら、タイトルホルダー同士の試合が観たいだろ？　ただ、『ＰＲＩＤＥライト級ＧＰ』に選手を派遣するかどうかは正式には決めていない。トップファイターを送る可能性だってある。そして、その大会で優勝した選手と、ＵＦＣライト級チャンピオンを闘わせるのも悪くないだろう。

——ところで、『ＰＲＩＤＥ』がＵＦＣと対等の立場で対抗戦をするには、『ＰＲＩＤＥ』自体がもっと盛り上がる必要があると思いますが、それについてはどう思いますか？

ダナ　そのとおりだ。いまの『ＰＲＩＤＥ』はアメリカでの認知はまだまだだからね。ただ、露出については、まったく心配ない。『ＰＲＩＤＥ』はアメリカで大きなテレビ契約を結びつつあるからね。

——大きなテレビ契約！　それはいつ頃結ばれる予定なんですか？

ダナ　（笑顔で）近いうちにさ。まだ正式な契約までは至ってないけど、うまくいくはずさ。

——そうなると、これまで『ＰＲＩＤＥ』を放映していたＦＯＸスポーツネットワークとは契約終了ということですか？

ダナ　いや、ＦＯＸスポーツネットワークでの放映は続ける。ただし、クオリティを高めてね。

——そこで日本のファンが再び心配しているのは、『ＰＲＩＤＥ』をアメリカで流すために、マッチメイクがアメリカ向きになる可能性があるんじゃないかということなんですが。

ダナ　その質問への答えは「ノー」だ。なぜなら『ＰＲＩＤＥ』はアメリカだけでなく、日本のテレビ局とも放映の話がある。それに、あくまで『ＰＲＩＤＥ』は日本の団体だし、これまで日本で成功してきたんだから、その世界観は崩さないつもりだ。



ロレンゾ氏が共同オーナーとなっても、ライバル同士であることは変わらないUFCと『PRIDE』だが、ダナの影響力は『PRIDE』にも少なからず及ぶこととなるか。

——しかし、アメリカで放映するのなら、やはり変える必要があるのではないですか？　たとえば、日本では吉田秀彦vs小川直也とか、桜庭和志vs田村潔司といった、チャンピオンシップとは半ば無縁なカードが、タイトルマッチ以上の価値があったりしますけど、アメリカでは、それだけの価値はないですよね？

ダナ　まず言いたいのは、ＵＦＣと『ＰＲＩＤＥ』はグローバルなマーケットを相手にする団体だということだ。日本向けとかアメリカ向けというものではない。ＵＦＣはこうしてイギリスにも来たし、『ＰＲＩＤＥ』はアメリカに進出している。これからは両団体ともヨーロッパやアジアの市場に出て行くだろう。そしてその中で、二人のファイターに闘う意味があれば、それを正しく伝えるのが我々の仕事だし、そのカードがストーリーとして展開できるのなら、当然、そのマッチメイクは組む意義があるさ。

——そこはプレゼンテーションの問題だ、と。

ダナ　それに、サクラバvsタムラなら私もミスター・サカキバラと同じく観たいしね。すべてはどうやって〝売る〟かという話だよ。たとえば、サクラバvsタムラなら、日本では二人の人間関係やストーリーをファンに提示するし、アメリカなら彼らのファンタスティックなファイトスタイルを強調する。同じカードでも、地域によってアピールする要素は変わってくるんだ。それがマーケティングというものだ！

——なるほど！　しかし、こういう話を聞いていると、あなたがすでに格闘技界全体を牛耳っているように感じるのですか？（笑）。

ダナ　（ニヤリと笑って）私が動かしているのはＵＦＣだ。もちろん、それはすなわちＭＭＡ全体を視野に入れている、と言えるだろう（笑）。つまりだ。私からすれば、たとえば、日本人同士のいい試合があれば、日本だけでなく、ほかの世界の人にも観てほしいし、それを伝えるためならば、『ＰＲＩＤＥ』でもＵＦＣでも関係ない。いい試合があれば、それを見せるようにあらゆる努力をするのが私の仕事だ。それだけだよ。

——わかりました。では、お忙しい中、ありがとうございました！

【07年4月21日／イギリス・マンチェスター、M.E.Nアリーナにて収録】

PRIDEはまず会社組織を整えることが大事 新体制第一弾大会開催まではもう少し時間がかかるだろう



発表、難航!?

な沈黙

ORLDWIDEの行方

この1カ月あまり、格闘技界はかつてない状況だったといえるだろう。なにしろ最大の話題が〝何もないこと〟なのだ。

「『PRIDE』、どうなってんの?」

記者同士が顔を合わせれば、まずはその話題である。3月27日の『重大発表会見』でロレンゾ・フェティータ氏の新オーナー就任が発表され、4月8日にDSEラスト興行である『PRIDE・34』が開催。だがそこで『PRIDE』の動きはばったりと止まってしまった。4月14日には、ライト級GPの開催延期が発表された。新会社PRIDE FC WORLDWIDEに関する詳細も、なんら明らかにされていない。

『重大発表会見』で高田延彦統括本部長が語ったところによれば、『PRIDE』とUFCの関係は「上でも下でもない」、「ポジティブな競争関係」であり、「ロレンゾというオーナーが、野球でいえば二つの球団を手にしたということ」になる。だが、そのわりにはUFCを運営するズッファ社のダナ・ホワイト社長の発言が目立つ。ルールや階級の統一など、今後の『PRIDE』の方向性に大きな影響力を持っているように感じられるのだ。しかもミルコ・クロコップに続いてアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラまでもがUFC参戦を発表。これではファンは混乱するばかりだろう。

フェティータ氏は「私は二人の子どもを、同じようにこれからも愛し続けます」と語っている。『PRIDE』とUFCがフェティータ氏を親に持つ兄弟になったのは確かだが、〝兄〟は間違いなくUFC。しかも、すこぶる出来のいい兄である。となれば、〝弟〟の進路を決めるにあたって、親であるフェティータ氏が兄の意見を参考にしてもおかしくはない。MMAビジネスに関して、誰よりもフェティータ氏の信頼を得ているのは、UFCをここまで大きく育て上げたダナにほかならないからだ。

ダナの意見が重みを持つのは、フェティータ氏が『PRIDE』というビジネスに本腰を入れている証拠とも受け取れる。『PRIDE』は世界でも有数のMMAプロモーション。DSEからPRIDE FC WORLDWIDEへの〝営業権の移管〟が、そう簡単にいくわけがない。成功させようとしているからこそ慎重に、時間をかけているのだ、という考え方もできる。

たとえば、ライト級GPの延期である。これまでの『PRIDE』なら、約1カ月の間隔で大会を開催することは不可能ではなかっただが、いまの『PRIDE』は〝これまで〟とは違う。オーナーが変わり、会社を新たに立ち上げ、その上で万単位の観客を集めるソフトを作らなければならないのだ。それには、やはり1カ月という期間は短すぎる。

ましてフジテレビによる地上波中継を失なってからの『PRIDE』は、ほとんど意地で大会を続けてきたようなものだ。まずは大会を継続させること。ファンに『PRIDE』を見せ続けること。極端にいえば、採算度外視である。そこに悲壮なヒロイズムを見出すこともできるが、ビジネスとしての危うさを抱えていたことは確かだ。

そしてフェティータ氏は"太っ腹なスポンサー"ではなく、あくまでオーナー、ビジネスマンである。「新体制第一弾大会をなぜ短い準備期間で開かなきゃいけないんだ?」と考えたとしても無理はないだろう。
　おそらく、PRIDE FC WORLDWIDEがやろうとしているのは"『PRIDE』の引き継ぎ"ではない。『PRIDE』はビジネス的に窮地に立たされていたからこそフェティータ氏に売却されたのであって、それをそのまま引き継いでも発展性はないのだ。新生『PRIDE』は、だからビジネス構造の見直しと再構築から着手しなければいけない。しかも、その本拠地は日本。アメリカ人オーナーにしてみれば、重要ではあるが遠い場所に違いない。
　加えて、『PRIDE』という大会、日本という市場の特異性もある。日本の総合格闘技シーン、とりわけ『PRIDE』は、その根っこにプロレスがあるのだ。ヒクソン・グレイシーvs高田延彦戦を原点とする『PRIDE』、その人気のあり方を、簡単にスポーツビジネスの雛形にあてはめるわけにはいかない。そういう場所でビジネス構造を再構築するには(それもアメリカ人が)、相当な困難が伴なうだろう。
　新生『PRIDE』は、その大会名を残しつつも、一からビジネスをスタートさせようとしている。かつて『PRIDE』の運営母体がKRSからDSEに変わった際には、『PRIDE・4』(98年10月)から『PRIDE・5』(99年4月)まで約半年の期間を要している。フェティータ氏とい



新体制発表

不気味

PRIDE FC WORL

う大資本がついているとはいえ、変革の度合いでいえばおそらく前回以上。時間がかかるのも当然、ということか。
　フェティータ氏サイドは現在、『PRIDE』再構築のため細部にわたり徹底的な見直しを図っているという。『PRIDE』ほどの巨大な規模となれば、どれもこれも一筋縄ではいかない作業となるのだろう。
　新社長は内定していると聞くが、まだ正式発表はされていない。ただ、フェティータ氏が派遣するPRIDE FC WORLDWIDEの新スタッフの中には、アメリカのテレビネットワーク・CBS出身の人間もいるようだ。この情報が確かなら、新生『PRIDE』では放送メディア戦略が最重要テーマとなる。『PRIDE』を再び地上波で見られるのはファンにとって歓迎すべきこと。"何もない"現在から、万全の体勢を整えての再スタートへ。そうなれば、何も言うことはないが……。
　ただしそれは"すべてがうまくいけば"だ。『PRIDE』再構築に本腰を入れるということは、ビジネスとして真剣に考えるということでもある。そしてフェティータ氏の考えるビジネス的成功と、ファンが思い描く"あるべき『PRIDE』の姿"がイコールであることなど、誰も保証できない。この原稿の校了日は5月15日。そこから本誌発売日までのあいだに、『PRIDE』に何が起こったとしても不思議ではないだろう。新オーナーは"何もない"新生『PRIDE』の舵を、逆方向に切ることさえできる立場にあるのだ。(橋本宗洋)


毎日更新
携帯サイト『kamipro Hand』
ワァオ!!
青木真也日記
月額
315円
(税込)
大型新連載「やる気! ○起!? 青木日記」
PRIDEライト級の新エースが日々配信中!!

25通のメールを残して

サップはどこへ逃げたのか？

そのズンドコぶりがたまらない



K-1オランダ大会に続き ケージ・レージ ロンドン大会も

ドタキャン!!

英国ケージ・レージ ロンドン大会になんと、あのサップが出場！ とのニュースを受け、同大会に特派員を派遣した『kamipro』。しかしながら、まさかというかやっぱりというか、前日になってサップの欠場が発表される事態に……。いったいサップに何があったのか!? ドタキャンの真相とは？

聞き手／クイズ！上杉!! 撮影&取材協力／Lee Whitehead 写真協力／Ken Pishna

“禁断の野獣”に逃げられた男

英ケージ・レージ代表

デイブ・オードネルが語る サップそしてK－1連合の実情



2月にサップがオクタゴンに突如乱入し、遠い日本からでも俄然、注目を集めるようになった英老舗団体ケージ・レージ。そこで4月大会翌日にサップに会う約束を取りつけた本誌だったが、サップはまたしても失踪！ やってくれるぜ、ビースト！ そこで大会直前にサップと計25通のメールを交わしたという代表オードネル氏を直撃！『PRIDE』と近い関係にありながらも、K－1＆エリートXC連合へ参加表明した同団体の動向が、今回のドタキャン劇にどう影響したのか？ そして、そのメールの内容とはいかに!?

――今日はケージ・レージ代表のオードネルさんに、ここ英国での格闘技界のお話をおうかがいできればと思います。

デイブ どうぞ（ニッコリ）。

――まずは昨日のロンドン大会、成功おめでとうございました！

デイブ ありがとう。といっても、あなたたちはマンチェスターで開催されたUFCに行ったんでしょ？（笑）。

――……申し訳ないです。昨日の大会はボブ・サップが出場するということで、日本のファンのあいだでも非常に注目が高かったのですが……結局、直前になって欠場となったんですよね。しかも発表された欠場の理由が、「サップの個人的な理由」というまた珍しいというか、サップらしい理由だったんですが。

デイブ （首を横に振りながら）まったく、彼の臆病さには参ったよ。

――臆病！ いったい何があったんですか？

デイブ 簡単に言うと、我々がK－1＆エリートXCらと手を組んだことが原因となっているんだ。

――6月2日にロサンゼルスで開催される『Dynamite!! USA』の記者会見の席で発表されたアライアンスのことですね。

デイブ そう。前大会で乱入したサップは、今大会のメインに出場してもらうことが決まっていた。でも、アライアンスの発表のあと、彼からメールをもらったんだ。「俺はどうなる？ 俺はどうなる？」って（笑）。

――ダハハハハ！ サップはK－1とのあいだでトラブルを抱えていますから、必死ですね（笑）。

デイブ そういうメールが山のように届きだしたんだ。しまいには「オマエたちは俺を見捨てようとしている」って！ まるでパラノイアのようだったよ（笑）。

――なるほど（笑）。つまり、サップからすると、ケージ・レージがアライアンスに加盟したことが不安の種になったというわけですよね。

デイブ 結局、彼とは25通もメールのやりとりをしたよ。私は「K－1サイドとはちゃんと話をしている。我々としては問題ない」と何度も伝えたんだが、大会が行なわれる週になって、ついに連絡が取れなくなった。

――バンデージを巻いたまま逃げたわけではない（笑）。もともと、このサップ出場の話は、どちらからあったんですか。

デイブ サップのほうからさ。昨年、「K－1との契約が完全に切れるので、そうなったらケージ・レージで闘いたい」という申し出があったんだ。

――日本でも昨年10月に契約解除のリリースがサップ側からあって大騒動になったんですよ。

デイブ それ以降、交渉して進めていた話だったんだけど。これで、もう二度と使うことはないだろうね！

――ダハハハハ！ ちなみにデイブさんはK－1側とも連絡を取っていたんですよね。

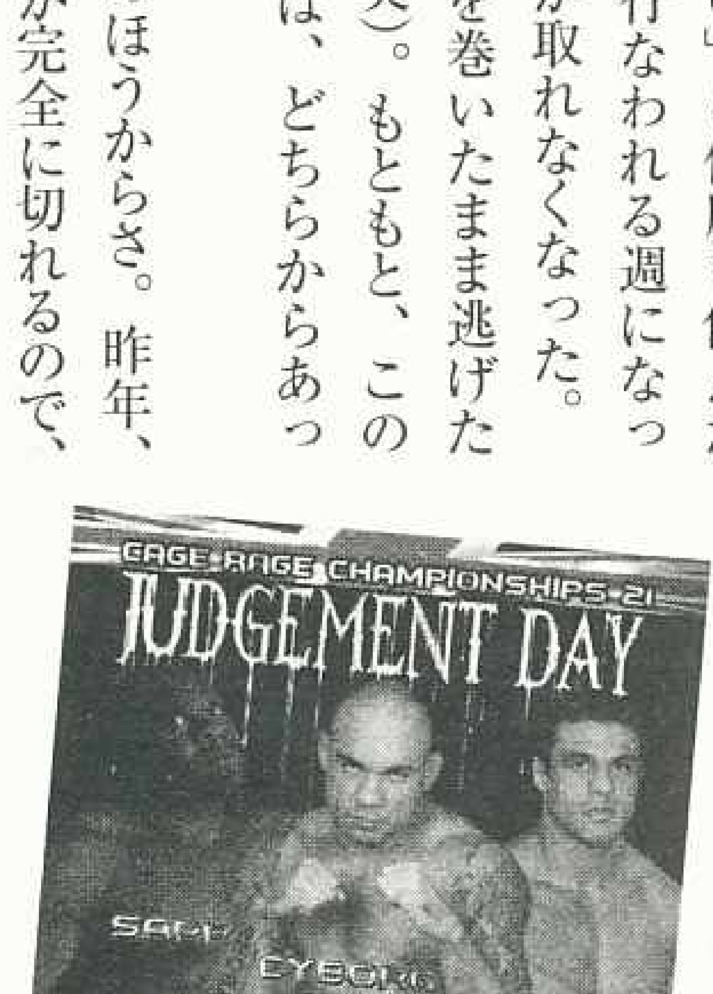
デイブ もちろんK－1側にも連絡はしていたよ。サップのブッキングを考えていると伝えた。彼らは「はい、そうですか」と。ただ、「ケージ・レージさんとは何もありませんが、試合に出れば、サップを訴えることになる」と言っていた。もっともサップは、「K－1とはもう関係ない」と言っていたんで、そこは彼の問題だろうと判断して、ブッキングしたんだ。

――そうしたら、ケージ・レージとK－1が提携したことを勝手に怖れたサップが蒸発した、と（笑）。

デイブ おかげで、もう大会直前まで大変だったよ。代わりにタンク・アボットをブッキングしたりとね。

――しかし、サップ抜きでも大会は大成功だったようですね。

デイブ 凄く盛り上がったよ。75



ロンドン市内で配布された、今大会のフライヤー（チラシ）には、サップの写真がデカデカと掲載されていたが……。

「俺を見捨てようとしている」ってサップはパラノイアのようだった！

００人の観客が集まったし、その集客数以上に、ビクトー・ベウフォート、マツイ（松井大二郎）らが、いい試合をしてくれた。

――日本でも名前の知られている選手がかなり出場してますけど、ＵＦＣのビッグイベントが同じイギリス国内で開かれて、しかもリアルタイムでＰＰＶが流されている中で、その数字は凄いですよね。

デイブ　ああ、今大会は彼らが同じ日程でぶつけてきたんだけど、負けずに頑張ったよ。本当にＵＦＣのヤツらは……！

――ＵＦＣとは穏やかではない関係のようですね。その詳しい話はあとからうかがうとして、ケージ・レージそのものについて日本のファンは詳しく知らないので、教えていただけないでしょうか。

デイブ　では、まずは我々ケージ・レージの始まりから話すと、まず私はもともと20年以上、いろんなマーシャルアーツをやっていたんだ。ボクシングやキックやレスリングなどをね。

――そのたくましい身体は、やはり長いトレーニングの賜物なんですね。

デイブ　いまならケージファイト（金網の試合全般）はどこでも観られるだろうけど、当時はもちろんなかった。それで、当時からやんちゃだった私は自分でチームを作って、グラップリングの試合をしたり、アンダーグラウンドでファイトクラブを始めたんだ。〝ノー・ホールド・バード〟クラブって呼んでいたけどね。

――〝なんでもあり〟という意味ですよね。

デイブ　ノールールだったから、相手の口に手を突っ込むのも、指の関節を取るのもありという状況で、いま考えたらメチャクチャ危険だったよ。しかも趣味でやってるんだから、試合をするのに一銭も出ないわけでね。

――ただただ強さへの憧れが動機で。

デイブ　そのあと、アルティメット・ファイティングがアメリカで出てきた。ホイス・グレイシーのビデオを観たときは衝撃だったよ。朝の４時に、テープがスリ切れるほど何度も巻き戻して観たけどまったく理解できなかった。

――グレイシー・ショックは日本格闘技界も襲いましたが、イギリスでもショッキングだった、と。

デイブ　で、そうやって個人レベルでクラブ活動していたときは、技術の発展もとくになかったんだけど、サーカス・レスラーの男が仲間に加わったんだ。

――サーカス・レスラー？

デイブ　サーカスの興行に同行して、「誰か俺に挑戦するヤツはいないか？　５分もったら、賞金をやるぞ！」っていうヤツだよ。

――へえ～。そういうレスラーがまだいたんですね。

デイブ　さっそく挑戦したけど、そいつが凄く強くて！　首はヒン曲げられるし、見たこともない技で身体中痛めつけられるわけさ。その技術をなんて言ったかなぁ……キャッチ……たしかキャッチ・レスリングって言ってたな。

――まさかキャッチ・レスリングですか！　イギリスといえば、ビリー・ライレージムからカール・ゴッチやビル・ロビンソンらキャッチの伝承者を輩出していますけど。

デイブ　そんなに詳しくは知らないんだが……、申し訳ない。

――いや、キャッチとＭＭＡの接点が明らかになっただけで大発見ですよ！

デイブ　そのサーカス・レスラーからプロの技、つまりキャッチ・レスリングの技術を教えてもらったのが、90年代の中頃だね。そうやって、レベルを上げて、アマチュアだけど、数百人の観衆の前で試合をするようになったんだ。当時は、まだＭＭＡという名前もなかったね。

――アメリカでも〝アルティメット・ファイト〟と呼ばれていた頃ですね。どういった選手が大会に出ていたんですか？

デイブ　選手というか、従業員というか（笑）。その頃、私は建設会社を経営していたんだけど、建設会社というのは格闘技とは合うんだ。デカいやつらが集まって、重たいものを運んだりするだろう。だから、社内でちょっとＭＭＡの話をしたら、「俺もやりたい！」って続々と人間が集まってきたんだ。

――イギリスの格闘技団体の起源は、社内ＭＭＡ大会でしたか！（笑）。

デイブ　そうこうしているうちに、イギリスでも、ちゃんと選手を呼んでプロの大会が開かれるようになった。98年に、リー・ハスデルという選手が開催した『ナイト・オブ・サムライ』というイベントで、ヴァレンタイン・オーフレイムやジェームス・ジキックといった選手が出場していた。

――つまり、イギリスに格闘技を持ち込んだのはリングス・オランダだったんですね。

デイブ　で、２００２年になって、いまイギリスで2番目に大きい競合のケージ・ウォリアーが旗揚げした２カ月後、我々もついにプロ大会を開催したんだ。お客さんは３００人しか集まらなかったけどね（笑）。

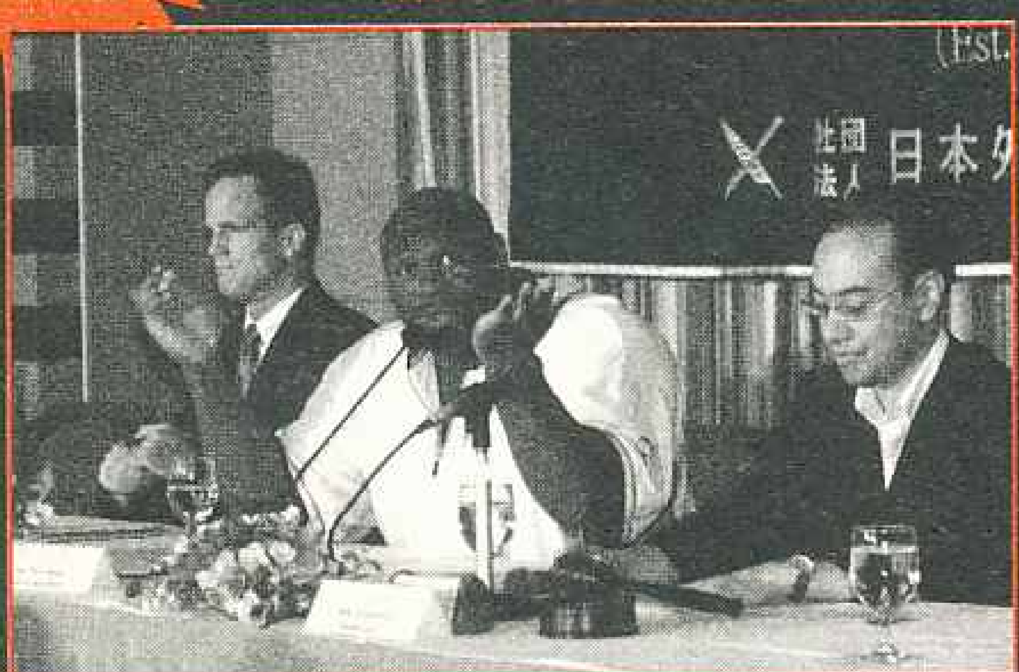
――最初はコケましたか（笑）。

デイブ　しょうがないさ。当時は興行について、右も左もわからなかったからね。そこで、２００３年の第２回大会にはホイス・グレイシーを呼んだんだ。ホイスは、試合を観て一目惚れしたときから、あらゆるコネを使いまくって、コンタクトを取っていたんだけど、その頃は柔術のセミナーをやってもらっていたんだ。

――凄まじい熱意ですね。

デイブ　プロモーターというのは、そういう仕事だよ。実際、彼が私にブルーベルトをくれたんだからね（嬉しそうに）。そこで、第2回大会でゲストとして来場してもらったんだ。ホ

サップ騒動ヒストリー



06年5月13日
K-1アムステルダム大会の試合開始直前にサップがバンデージを巻いたまま控室から失踪!

06年6月27日
サップがマスコミに声明文を発表。試合に出場しなかった理由として、K-1との契約に不備があったと説明し、また大会中に「リングサイドで凶暴そうな男に囲まれ脅された」と主張。翌日、K-1側はこれを否定。

06年7月10日
サップが日本外国特派員協会にて記者会見を敢行!　長時間にわたってしゃべりまくるも、なぜかマスコミは一切報道せず。サップも契約問題の核心には触れず。

06年10月11日
明朝、サップの代理人より、契約違反を理由にK-1との契約を解約したとする内容のFAXがマスコミに送られる。同日午後、K-1は会見を開き、契約解除の無効を訴え、「他団体に上がれば契約違反。損害賠償の請求もいく」とサップおよびプロモーターに警告。

07年2月10日
ロンドンで開催された『ケージ・レージ20』でサップが登場。4月大会のメインイベントに起用されることが発表された。



ロバート・ベリーに勝利者トロフィーを渡すサップ。その後、デイブ・レジーノに挑発されると、トンプソンらを巻き込んでズンドコな乱闘騒ぎを勃発!

UFCが広告費で7億円使ったことは我々にとってもいいことだよ（笑）

イスが来たときは、3500人を集めた。当時のMMAの状況を考えると、凄いことだよ。そんなに人が集まることはありえなかったからね。

――そのとき、このMMAがビジネスになると思いましたか？

デイブ 最初は考えてなかったよ。私もフルタイムの仕事があったからね。でも大会で儲けた金で、有名な選手を呼ぶようになって、少しずつだけど、ビッグネームが集まるようになってきた。そうやって、イベントの規模を少しずつ大きくしてきたんだ。そうするうちに、私も仕事をやめて、ケージ・レージに集中するようになっていたからね。



3月にロサンゼルスで開催されたFEGのアライアンス結成会見に出席したオーデネル氏（左から3番目）。『PRIDE』と比較的近い関係にあったケージ・レージの連盟参加は関係者を驚かせた。

――日本では私財をなげうって、というDEEPの佐伯代表のような人もいますが。

デイブ べつに私財をなげうったりはしなかったよ。ただ、このケージ・レージのためにノンストップで働いてきた。おかげで、いまでは、バタービーンや、ビクトー・ベウフォートといったトップファイターが出場するイベントになった。

――そうやって成熟した市場に、本家UFCがロンドンオフィスを開設し、乗り込んできているわけですが。

デイブ 個人的には、UFCが上陸してきたことは、我々にとってもいいことだと考えているよ。彼らは、昨日のマンチェスター大会に300万ポンド（日本円にして約7億円）も広告を使ったそうだからね。ケージファイトというこのジャンル自体を広告費してもらったようなもんだよ（笑）。

――なるほど。

デイブ ただ、UFCのビジネスのやり方は好きじゃない。彼らは我々が昨日大会を開くと知っていて、ぶつけてきたんだからね。

――偶然のバッティングじゃないんですね。

デイブ これでケージ・レージがガラガラだったとしたらスポンサーも撤退して、ウチなんかは簡単に潰れる。競合を潰していくのが彼らのやり方だろ。それか、買収してしまう。〝世界支配〟なんて、お題目でね。『PRIDE』が彼らのグループに入ったことは本当に残念だよ。

――やはり、彼らの最近の動きには危機を感じていますか。

デイブ 彼らはナンバーワンになって独占することだけが目的なんだ。ダナ・ホワイトが優れた人間なのは知っている。彼がこのスポーツを成長させたのも認める。もし彼がほかの団体についてもう少し配慮ができれば、業界のリーダーとして理想的な人物となるだろう。

――配慮が足りない、と（笑）。

デイブ 彼が何件の裁判を起こしたか知っているか？「オクタゴンは我々の登録商標だから使うな」なんて正気の人間の言葉じゃないよ。そして、二言目には「訴える！」だろ。このスポーツを自分だけのものだと思っている。三角形とか、円形とか、そんなデザインに著作権が発生するのかって話だよ？

――弱小プロモーション相手に「ファイティング・チャンピオンシップ」という名称がUFCと紛らわしいということで、裁判を起こしたこともありましたね（笑）。

デイブ 彼らが偉大な仕事をしたことは認める。だだし、ほかの団体を潰したり、買収しなくてもいいというだけの話だ。それとも、彼らは我々が怖いのか？

――ここイギリスでも、UFCがケージ・レージを買収するという話がありましたよね。

デイブ 誰が流した情報だが知らないが、上陸前にイギリス国民にアピールしたんじゃないか。「ケージ・レージのロンドン大会はなくなります。だからUFCを観よう」って（笑）。

――しかし、そもそもUFCがイギリスに進出するきっかけとなったのは、マーケットが広がったからでしょうが、それもリアリティショー『TUF』がテレビ放映されているからではないのですか？

デイブ それは違うね。『TUF』の影響はあるけど、『TUF』自体はマイナーなテレビ局で放映されているもの。それより前にITVで『ケージ・コンバット』という、ファイターが主演の番組を作ったし、私はケージ・レージを題材にしたドキュメンタリーもたくさん作った。そうやって、イギリスでこの格闘技ブームの流れを作ってきたんだ。

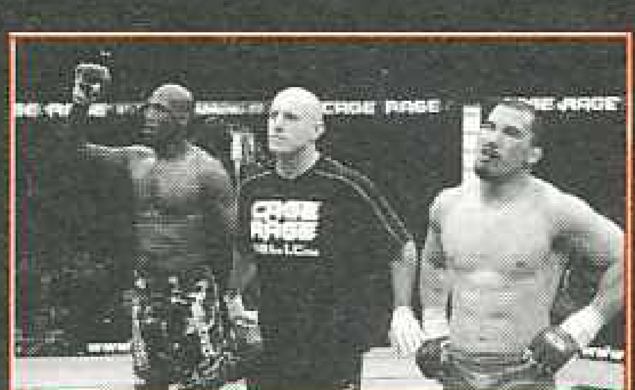
――『TUF』だけで、イギリスのMMA人気が爆発したわけじゃないということですね。

デイブ そしてもう一つ。信じるかどうかは勝手だが、以前、私はダナと交流があったとき、あるリアリティショーの企画を出したんだ。「16人の男たちが一つの屋根の下に集まって……」というストーリーをね。そして「その勝者がUFC本戦で闘うというのはどうですか？」とメールを送ったんだ。ウチの選手をUFC本戦に参戦させるためにね。

――え？ それこそ、大ヒットした『TUF』そのものじゃないですか⁉

デイブ それからしばらく、ダナから返信がなかったんだ。「企画が悪かっ

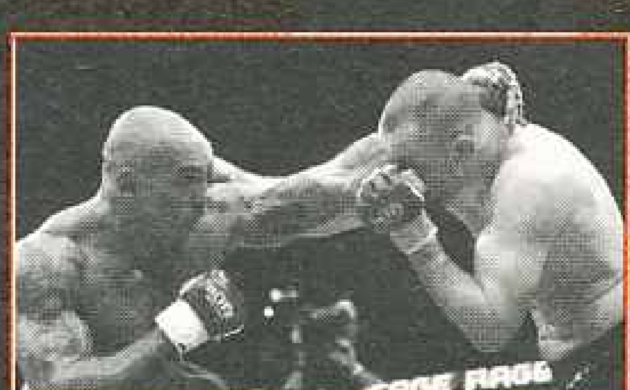
4.21ケージレージ ロンドン大会



○マーク・ウィアー vs 松井大二郎×

［3R 判定3-0］

ケージ・レージで5戦目を迎え、すっかりレギュラー感のある松井。『PRIDE』への出場経験も多いことからイギリスでの人気は高いが、この日の試合ではヒザ十字の体勢に入ったほかは攻め込むことができず完敗。



○ジェームス・ジキック vs エヴァンゲリスタ・サイボーグ×

［3R 判定3-0］

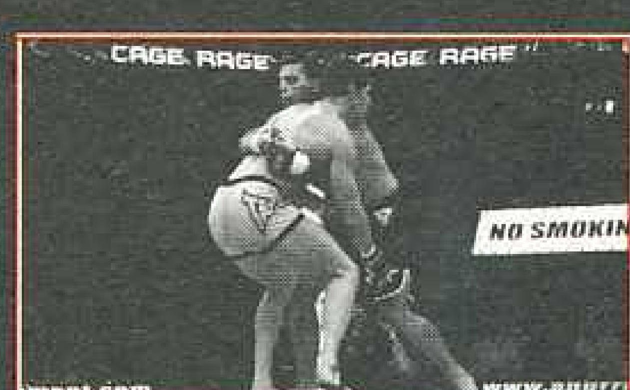
メルビン・マヌーフが返上したため、空位となったケージ・レージライトヘビー級王座が懸けられた、この一戦。サイボーグの打撃を研究し、封じ込めたジキックが新王者に。



○ビクトー・ベウフォート vs アイバン・セラティ×

［1R 3分47秒 TKO］

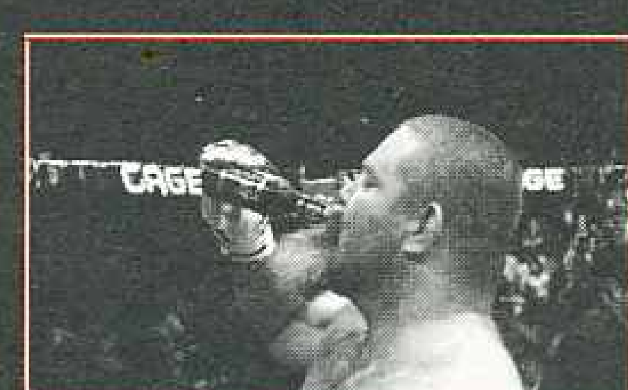
こちらもケージ・レージの常連となりつつあるベウフォートは、格下のセラティ相手に得意のパンチで危なげない試合を展開。最後は倒れたセラティにパウンドを叩き込んでTKO勝ち。



○ムリーロ・ニンジャ vs アレックス・リード×

［1R 0分28秒 TKO］

ケージ・レージにはシュート・ボクセ勢も多数出場、ニンジャもレギュラー参戦している。試合開始早々のニンジャの蹴りでリードが脛から大出血し、秒殺決着となった。



○ゲーリー・ターナー vs タンク・アボット×

［1R 2分31秒 TKO］

サップ欠場の代役でメインを務めたのはアボット。1R、テイク・ダウンに成功したものの、なぜか自らヒールに移行し、あっさりとパウンドをもらってTKO負け。それでもビールを豪快に一気！

『TUF』はもともと私の出した企画。ダナがどういう人間かよくわかったよ

たのかなぁ」と思っていたら、『TUF』の放映がアメリカで始まった。タイトルまで私の企画と同じ『The Ultimate Fighter』だったからひっくり返ったよ。

――タイトルまで同じ！　にわかには信じられない話ですけどね。

デイブ　私が一番ビックリしたよ。しかも「シーズン3」では、私の選手だったマイケル・ビスピングを勝手に引き抜いてね。彼は、昨日のUFCマンチェスター大会でセミ前に出場して、大歓声を集めていたらしいね。

――まさに、仁義なき争いですね。その天敵であるUFCがイギリスに進出してきたことで、ケージ・レージがK―1とエリートXCのアライアンスに加入したという見方もあるのですが。

デイブ　K―1はイギリスのマーケットの可能性をよく考えている。我々をサポートすることで、K―1がヨーロッパへ進出する強力な拠点を築くこともできるわけだしね。もちろん『PRIDE』もヨーロッパ市場を大事にしている。彼らとは手を組んできたし、素晴らしい選手を借りることもできた。ただし、『PRIDE』はすでにUFCと同じグループだからね……。

――『PRIDE』とケージ・レージの関係は近かったわけですが、今後どうなりますか？

デイブ　『PRIDE』とは問題はないと考えたいね。次のイベントにも、『PRIDE』の選手はぜひ来てもらいたいし。実際、昨日の大会にも、K―1と『PRIDE』の関係者が私の両側で同席していたんだから、大丈夫じゃないかな（笑）。ただ、我々はダナをよ～く知っているからね、残念ながら。

――よく知っている（笑）。

デイブ　彼らは、『PRIDE』でうまく利益が出せなければ、選手だけ獲得して、見捨てるかもしれないしね。ダナはそういうヤツさ。

――ダナへの怨念がまったく止まりませんね（笑）。

デイブ　とにかく我々にとってK―1との関係は喜ばしいことだよ。これで、さらにおもしろいカードが組めると思うし、こうした統括的な流れは世界的なMMAの発展にとっていいことだ。我々の目標はMMAがオリンピック種目になることだからね。

――なるほど。しかし一方で、ボードッグやストライク・フォースなど、アライアンスへの不参加を表明している団体も多いですが。

デイブ　ボードッグは昨日の我々の大会のスポンサーだった。不参加を表明したという件についてはよくわからないが、我々とは一緒にやっているわけだし、仲間だと思っているよ。それに今週末には、ボードッグが提携しているテレビ局のIONTVで、昨日の大会が放映されるからね。

――以前から報道されていたアメリカでのケージ・レージ放映というのはボードッグが提携しているIONTVだったんですか。

デイブ　オファーの声はたくさんあった。いまでもCBSや、ファイトネットワークなど多くのアメリカのテレビ局から放映したいと手が挙がっているんだ。

――3大ネットワークのCBSまで！　それは凄いですね。

デイブ　アメリカだけじゃない。フランスなどほかのヨーロッパの国からもオファーが来ている。だから、これだけは言えるけど、あと半年以内に、ケージ・レージを取り巻く環境は激変するよ。

――凄い自信ですね。

デイブ　じつは日本でもあるテレビ局と交渉していたんだ。フジテレビが『PRIDE』との契約を切る前だけどね。

――そうだったんですか⁉

デイブ　そうだ。だから、一時期から日本人選手の起用が増えたんだよ。マツイ、イマナリ（今成正和）、ショウジ（小路晃）、ミノワマン……彼らだけでも番組ができるぐらいだろ。

――それが『PRIDE』ショックの余波をかぶってしまった、と。

デイブ　日本進出には成功しなかったから、日本でのケージ・レージの認知は高くないんだろう。でもアメリカとヨーロッパでの成功は見えているよ。リアリティショーの企画もすでに3本進んでいるんだ。

――へ～、日本からだとよくわかりませんが、ケージ・レージ周辺は景気のいい話ばかりなんですね。MMAバブルが起こっているのは、アメリカとロシアだけじゃない、と。その拡大するマーケットでしのぎを削ることになるUFCとの大きな違いというとなんでしょうか？

デイブ　UFCとは比べてほしくないな。だって、UFCは単調でつまらないだろう？（笑）。我々のプロダクションの目指すところはエンターテインメント。

――エンターテインメント？

デイブ　たとえば、WWEのようなテイストを大事にしていきたいんだ。UFCは同じオクタゴンを使用しているけど、ただの競技でしかない。私たちはステージや花道を設けて、ショーアップしているし、演出に力を入れているんだ。『PRIDE』のようにね。

――シンプルなUFCとは違う、と。

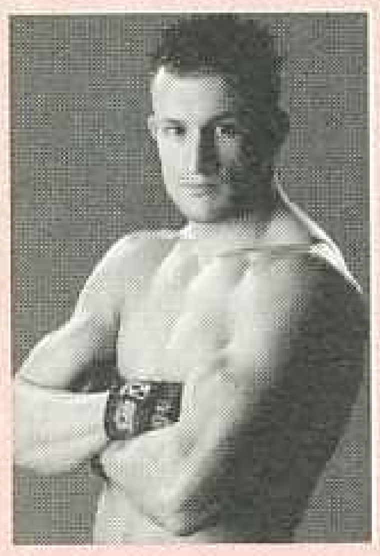
デイブ　オクタゴンの中はもちろんガチンコだけど、ファイトの上にストーリーがいるよ。だって、そうしないと、たとえば家族みんなが楽しめないだろう。だから、エルボーもストンピングも禁止にすべき。そうやってMMAを楽しむことが、このスポーツの発展につながると思う。それができているのがケージ・レージさ。

――なるほど、UFCには負けないという自信の根拠がよくわかりました。サップからメールがあったら、ご連絡をお願いいたします（笑）。

デイブ　サップにはもうこりごりだよ（笑）。

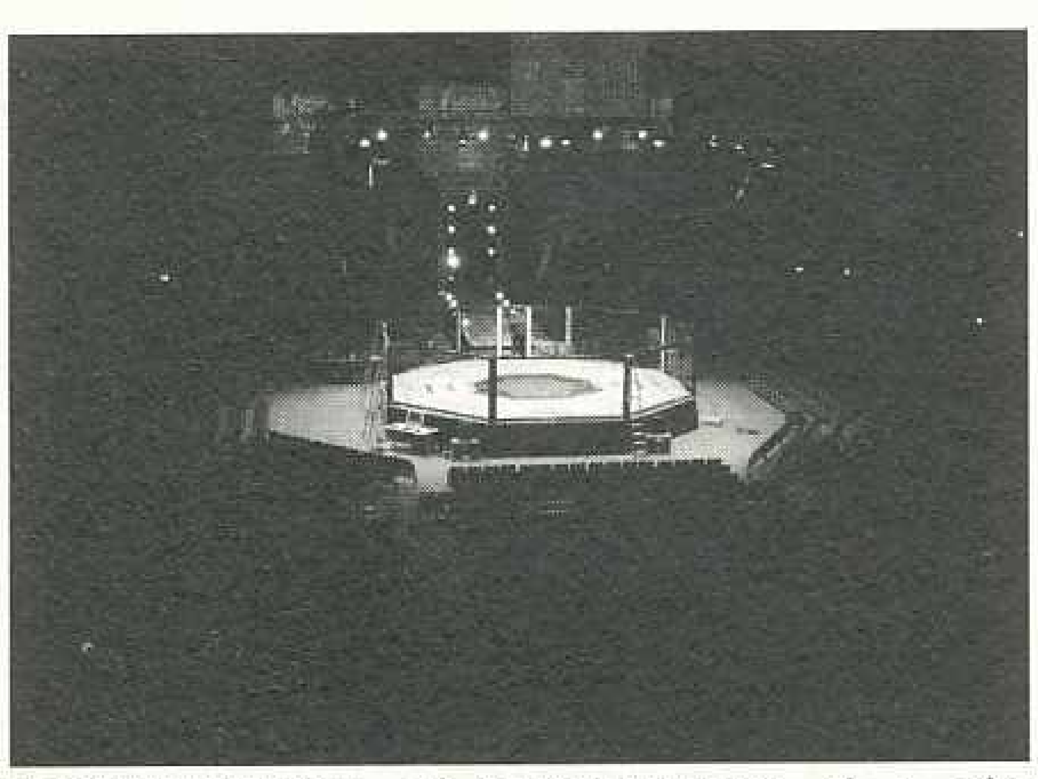
【07年4月22日／オードネル氏宅にて収録】

英国最大の127億円強盗!!
UFCファイター リー・マーレイを追え!!



サップに負けないお騒がせファイターといえば、イギリス史上最大の強盗事件を起こした元UFCファイター、リー・マーレイだ。02年のUFCロンドン大会直後、バーでティト・オーティズをKO!　また同じく地元ロンドンのクラブでギャングと抗争し、肺を刺され重体に陥ったこともあるトンパチ野郎（しかもたった5週間で練習に復帰したという噂）だが、そのマーレイを一躍有名にしたのは05年の警備会社襲撃事件。仲間とともに警備員を誘拐し、金庫にあった5300万ポンド（=約127億2000万円!!）を強奪したマーレイはアフリカに逃走。この事件は格闘技界だけでなく、世界的なニュースとなった。

しかし、マーレイは逃亡先のモロッコで薬物所持容疑で逮捕されてしまうハメに。イスラム圏では薬物への処分が厳しいため、これでジ・エンドかと思われたが運良く無罪に。さらにモロッコ国籍も持つマーレイは、イギリス政府の引き渡し要求からも逃れ、いまでは悠々とモロッコで王様のような生活を送っているという。マット界一のセレブはこの男か⁉



UFCの競技路線と違い、エンタメ路線を目指すケージ・レージはステージや花道を設けて大会をショーアップ。サップ乱入劇も立派な演出手段の一つだ。

UFC、アメリカ格闘ビジネスの頂点へ―

現役IBF王者をオクタゴンに捕獲!?



ボクシングにも忍び寄る魔の手

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

Vol.14

USA Cool 宅急便

『PRIDE』との資本統一、そしてヨーロッパ進出！　と、勢いに乗りまくるUFCがジャンルに遠心力をつけるさらなる一手を放なった。ダナ・ホワイトの次のターゲットは、アメリカ格闘技ビジネスの頂点・プロボクシング。ダナの仕掛けた巨大なアングルの構造とは!?

聞き手／デューク東郷　助手／クイズ！　上杉!!



PROFILE

Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』（http://www.mmaweekly.com/）を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「付き合った時点で結婚を考えてました。自分の中に新しい命が宿ったことが嬉しい」。

MMAをさらなるビッグビジネスへ ダナ・ホワイトの次なる一手とは？

スコット　せ〜の！　ボクシング大国のアメリカに生まれて本当によかったねっ!!

──は？　まったく意味不明。いきなり何を叫んでるんだよ。

スコット　いや〜、時代はボクシングだよ、ボクシング。"世紀の一戦"と騒がれていた、WBC世界スーパーウェルター級タイトルマッチ、オスカー・デラホーヤvsフロイド・メイウェザーを観なかったのかい？

──そんな試合、知らん。だいたいなんでGWに格闘技とかを観なくちゃならないんだよ。こちとらそんなにヒマじゃないんだ！

スコット　あいかわらず格闘技関係者とは思えない発言だなあ。でもこの一戦のPPV購入件数が、215万件を超えたと聞いたら、さすがに興味あるでしょ。UFCでの推定最大件数とも言われる100万件のダブルスコアだよ。

──ウッヒョ〜！　アメリカではボクシングの人気が落ちていると言われて久しいけど、やっぱり凄いじゃんか。

スコット　PPV件数も凄いけど、ファイターへのギャランティもべらぼうだよ。これまでのファイトマネーの最高額は、ヘビー級のマイク・タイソンとイベンダー・ホリフィールドがそれぞれ受け取った3500万ドル（約42億円）だった。それが今回勝ったメイウェザーは2000万ドル（約24億円）、そして王者だったデラホーヤは史上最高額の4500万ドル（約54億円）を受け取ったんだ。

──ファイトマネー54億！　最近、UFCと契約を更新したマット・ヒューズのファイトマネーにはソフトバンクホークスの松中（信彦）が腰を抜かす額だったけど、また桁が違うわけだ。

スコット　PPVの売上金額も1億2000万ドル（約144億円）と巨大でMMAのビジネス規模を大きく上回っている。ただ逆に言えば、MMAもまだまだ"伸びしろ"があるってことだね。で、この日の会場にはレオナルド・ディカプリオらセレブも多数来場していたんだけど、ボクシング出身のあの首領がリングサイドで観戦してて、格闘技関係者を驚かせた。

──ああ、○○○○○のことでしょ？

スコット　なんでだよ！　リングサイドにいたのは、UFC代表のダナ・ホワイト！

──へ〜、ダナがいたんだ。ダナもアマチュアボクサーだったけど、単純に試合が観たかっただけじゃないの？

スコット　いや、それがそうじゃないんだ。この日は、あのショーン・シャークも一緒だったんだよ。

──ああ、『PRIDE武士道』で上山龍紀に勝ったことのある選手ね。

スコット　もうちょっとショーン・シャークの幻想が高まる言い方をしてくれよ。UFCライト級王者のショーン・シャーク！　じつはダナ・ホワイトは、この日勝ったメイウェザーとタイトル戦の前からメディアを通じて激しく口論をしていたんだ。MMAとボクシングとどっちが強いか？　ってことでね。

──そんなアングルを恥じらいもなく打ち出すのは、TBSくらいにしてよ。せ〜の、こんなアングルなんて意味がないからなくなってしまえ!!（涙を流して抗議する京都の学生調）。

スコット　まあ、聞けよ。メイウェザーは「ボクシングで勝てないヤツが、MMAに行ったんだから、MMAファイターがボクサーに勝てるわけがない」なんて言って、ダナを挑発していた。それでダナは「だったら、俺の選手と闘ってみろ」って。シャークはメイウェザーとほぼ体重が同じだからね。

──それから、それから？

スコット　それにメイウェザーは試合前から引退を表明していたから、一部のファンやマスコミも、彼がUFCで闘うんじゃないかと思っていたんだ。でも試合後にメイウェザーはMMA転向を否定。結局、WBC王者とUFC王者の試合は実現には至



第2代UFCライト級王者、ショーン・シャーク。昨年4月の『UFC59』では、『PRIDE・33』ラスベガス大会で五味隆典から一本勝ちしたニック・ディアズに判定3－0で勝利している。

らなかったんだけど、じつはダナの狙いは、もともとメイウェザーじゃなかったんだ。

——どういうこと？

スコット　さすがにメイウェザーとの契約は難しい。そこでダナはもう一方で、現実的にボクシングとの対抗戦を進めていたんだ。UFCは以前から有力ケーブルテレビ局HBOでの放映を目指していた。そして、そのHBOはボクシング団体IBFをPPV放映している。そこに目をつけたUFCは、契約の目玉として、ボクシングとの対抗戦という切り札を提案したらしい。

——もしかして、メイウェザーは当て馬だったとか。

スコット　そういうこと！　ダナはメディアでメイウェザーと舌戦を繰り広げている裏で、現IBFウェルター級チャンピオンのカーミット・シントロンをオクタゴンに引き上がる話を進めていたんだ。

——誰だかよく知らないけど、いきなりチャンピオンの登場かよ！

USA NEWS Cool宅急便

リデルが俳優転向!?

リデルが現役引退？　HBO局の人気コメディドラマに出演したチャック・リデルに俳優転向の噂がささやかれている。リデルは昨年、ゴールデングローブ賞（最優秀テレビ・シリーズ／ミュージカル・コメディ部門）にノミネートされた『エントラージュ』に出演。その際は、“チョイ役”としての出演だったが、番組ディレクターがどういうわけかリデルを主人公にしたシリーズの製作を希望。37歳となり、現役生活の限られてきたリデルも乗り気なため、オクタゴンから遠ざかる可能性が出てきた。

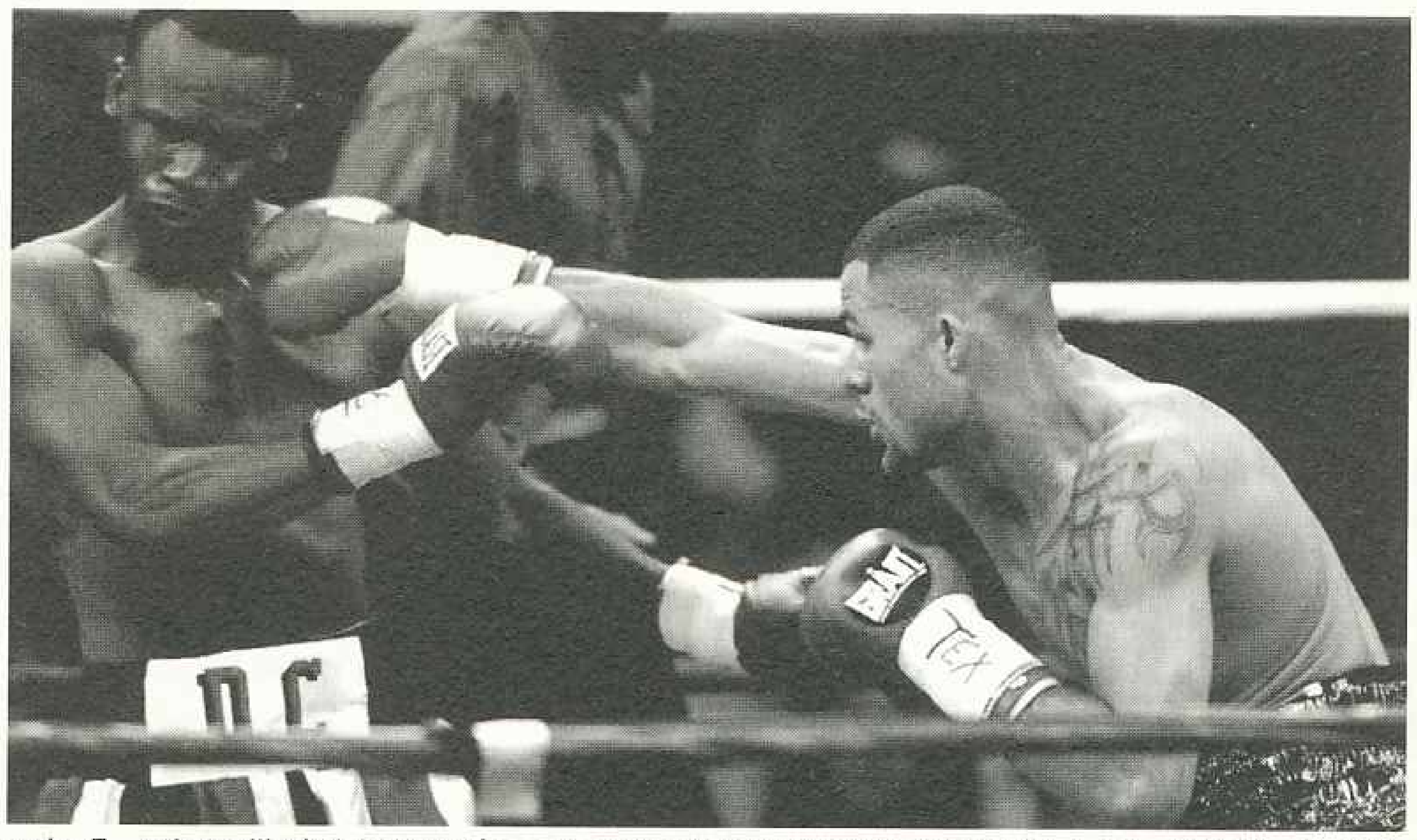
米MMAファイターに薬物汚染の嵐!?

4月5日の『UFN.9』でメインを務めたメルビン・ギラードが薬物使用疑惑でネバダ州アスレチック・コミッションから8ヵ月間の出場停止処分を受け、2100ドル（約25万円）の罰金を科せられた。コミッションの公聴会に出席したギラードの証言によると、ギラードは大会6日前の3月31日に友人らとパーティを開催。その際、友人の誘いに応じてコカインを吸引したとのこと。同大会でギラードは、ジョー・スティーブンソンと対戦、1ラウンドに秒殺負けを喫しているが、コカイン使用による影響との関連性は明らかになっていない。なおアメリカでは、『PRIDE.33』で五味隆典と闘ったニック・ディアズが大会前のマリファナ使用により、アスレチック・コミッションに試合結果を無効にされたり、昨年12月にリコ・ロドリゲスがカリフォルニア州でのMMAイベントでコカインおよびマリファナの摂取で処分されるなど、ファイターの薬物使用が増加している。

アブダビが近代化も欠場選手続出!!

5月5～6日（現地時間）、米国ニュージャージー州で、“寝技世界一決定戦”『アブダビコンバット2007』が開催された。“出場選手”がなんの予告もなく覆るいい加減な運営で知られるアブダビだが、今年は開催直前になって9名が欠場。日本での試合から遠ざかっていたイゴール・ボブチャンチンや“ミルコをKOした男”ガブリエル・ゴンザガらの出場に注目が集まっていたが、結局彼らも出場せず、多くのファンを失望させることになった（ボブチャンチンはケガによる欠場が明らかになったが）。今大会は、スーパーファイトでユノラフ・エイネモを下したホジャー・グレイシーと契約するボードッグがメインスポンサーに。またエリートXCを主催するプロエリート社が19.99ドル（約2400円）でインターネット配信した。

©Main Events



04年7月、テキサス州で行なわれたテディー・レイドと試合で8回TKO勝ちを収めたシントロン（写真右）。アメリカでもっとも権威のあるボクシング専門誌『リング・マガジン』で世界7位にランキングされている実力者だ。

対ボクシングというアングルに興味はないが、ビジネスとしておもしろい

スコット　だから、じつはメイウェザーとのメディアを通じたやりとりは、あくまでファンが注目している中でのアドバルーン。メイウェザーの名前を使って、MMA vs ボクシングという構図を煽っておいて、現実的にはシントロン vs シャークを進めていたというわけ。IBFはWBAやWBCと比べると肩書きとして落ちるものの、立派なメジャー団体。その王者が出てくるのは、インパクトがある。しかもIBFの放映権を持つHBOともうまく業務提携できるわけ。

——ダナは「HBOとの契約には自信がある」と話していたけど、この手があるとは思わなかったね。

スコット　アングルの作り方、ビジネスの仕方がうまいね。挑発していたメイウェザーとは何も現実的な話はなかったらしい。メイウェザー自身もタイトル戦のあとに、「ロレンゾ・フェティータやダナ・ホワイト、そしてUFCファイターに必要のないことを言ってしまったことを謝りたい」とコメントした上でMMA参戦を否定していた。

——どんだけ大物なんだよ、ロレンゾたちは（笑）。で、一方のシントロンはどんな選手なの？

スコット　これがかなりの強豪。ボクシング28戦27勝1敗。しかも27勝のうち25ノックアウトという脅威的なKO率を誇るハードパンチャーだよ。それにシントロンはハイスクールとカレッジでレスリングをやっていて、スター選手だったらしい。

——ダニー・ホッジみたいなもんか。

スコット　シントロンは自信満々で、「俺はレスリングもできるし、パンチも打てる。UFCファイターをヤツらのルールで、打ち負かせてやるぜ！」とコメントしている。

——ついでに、中学進学の次は「高校進学する妹のために闘うぜ！」という意気込みもあるみたいだしね。

スコット　誰の話をしてるんだよ、まったく。まあ、ボクシングvsMMAというアングルはそんなに興味はないけど、ビジネスとしてどうなるのかは気になるね。どっちが強いか？　という視点でおもしろがれない読者にも、ジャンルのターニングポイントとしてチェックするべきってことで。

スコット　デラホーヤvsメイウェザー戦が爆発的にヒットしたとはいえ、ボクシングがMMAに押されているのは確かなことだしね。

——でも、本当にやるのかな？　日本でも徳山（昌守）が『PRIDE』参戦をほのめかしたけど、結局、行なわれなかったし。それにUFCでもさんざん「やる」と言って進まなかったボクシングマッチがあったでしょ。

スコット　それは、ティト・オーティズとダナ・ホワイトのエキシビションでしょ！　そんなの最初から誰も期待してないよ！

【07年5月11日／国際電話にて収録】





ハッスルのページが
こんなにあるのなんでだろう〜♪

ハッスル
新組織
発足だから!!

ハッスル新組織が
6.17『ハッスルエイド』で大勝負!!

前号のNo.110ではたったの1ページしか割かれなかった怒りが爆発!
『ハッスル』が「コンノヤロ〜ォ!!」と怒濤の大逆襲だ!
運営新組織が発足し、6月にはいきなりビッグマッチを開催。
なんと地上波復活の足音も聞こえてきた!
う〜ん、ひさしぶりに降って湧いた景気のいい話。ハッスル特集を敢行!!　恐縮です。



新生ハッスル、念願の地上波中継復活へ

『ハッスル』新組織発足！ 6・17『ハッスル・エイド』で大博打!!

すでに耳にされている読者も多いと思われるが、5月9日『ハッスル・ハウスvol・24』後楽園ホール大会より、『ハッスル』の運営がこれまでのDSEから新会社「ハッスルエンターテインメント株式会社」に委ねられることになった。

新会社の代表は、なんと本誌・前編集長の山口日昇氏！ 電撃就任の経緯は44ページからのインタビューを参照していただきたいが、『ハッスル1』立ち上げ以前から山口氏は大会運営に携わっていたという。どうりでここ数年、山口日昇が編集部に顔を出す回数が、東北楽天イーグルスの球団通算勝利数にさえ、到底届かなかったわけである。

地上波中継の復活は？

新生『ハッスル』についてのさまざまなウワサの中で、一番のサプライズは地上波放映の復活だ。5月15日現時点での情報では、二つの地方局が手を挙げており、どちらとも前向きに折衝が進められていて、どちらに転んでも放映の確度はすこぶる高いという。

「地方局!? コンノヤロ〜ォ!!」と、高田総統ばりに怒るなかれ。『ハッスル』は昨年の〝PRIDEクライシス＝フジテレビ・ショック〟の余波を受け、初の全国中継が決定していた『ハッスル・エイド』の中継がド直前で中止！ 東海地区限定なものの、好評だったTHK（東海テレビ）でのレギュラー番組も打ち切りに追いこまれてしまった。『PRIDE』のほうは、いまだ地上波復活が見えない状況だが、『ハッスル』は新組織にしての船出が早くも功を奏した格好だ。

放送の日時・時間帯は当然未定だが、6・17『ハッスル・エイド』から始まり9月までは毎月1回の中継スタイルでの特番放映。10月からは週イチのレギュラー放送という具体的なプランまで挙がっているという。また来年以降、念願の全国放送に向けての見通しも明るい、といった、まさにハッスルなウワサまで聞こえてきている。

『エイド』の仰天プラン

6・17『ハッスル・エイド』は新体制一



『ハッスル・エイド』のサプライズは!?

発目のビッグマッチとなるだけに、力の入れようはハンパじゃないはずだ。

すでに発表されているHG vs天龍源一郎、坂田亘vsセレブ小川は、『ハッスル』上半期のストーリーにおいて、まさに天王山的な2大カード。

そして昨年は、あのエスペランサーや有田総統を生み出したミラクルイベントだけに、今年もサプライズの準備は進行中。ウワサによれば、なんと谷川貞治FEG代表に曙とのタッグで出場オファーまでしたという!! んあ〜!? ホントかよ!! あたりまえのように断られた模様だが、この調子で行けば、セレブ小川と角田信朗の社交ダンスマッチが実現してもなんら不思議ではないだろう。

『ハッスル』はスタートしてから早3年が経過し、揺るぎない世界観を確立してきた。その世界観からはずれたカードやストーリーがいたずらに組み込まれることはないだろうが、新生『ハッスル』は何をしでかすかわからない迫力に満ちているのは確かだ。

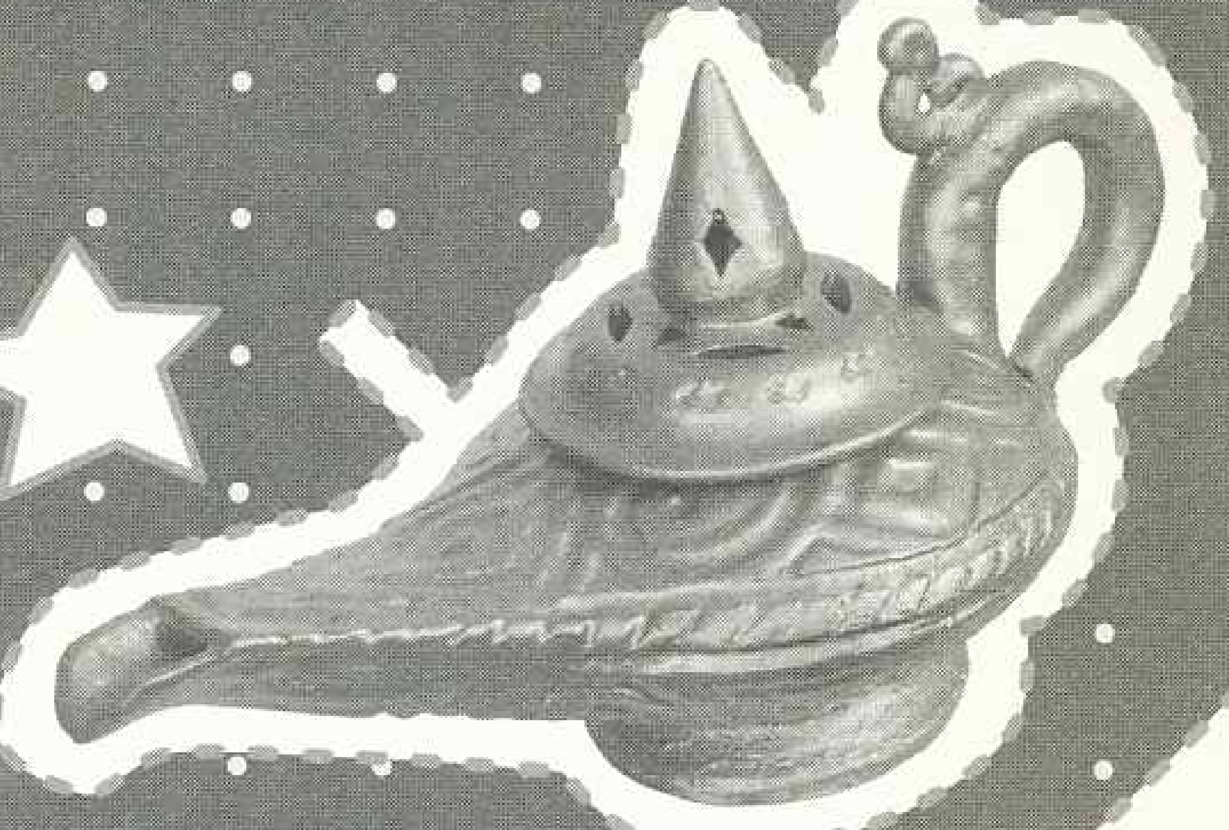
『ハッスル』下半期の行方

ビッグインパクトが用意されているのは『ハッスル・エイド』だけではない。7・11『ハッスル・ハウスvol.26 ハッスル・キング フォーエバー2007』後楽園ホール大会でも、『ハッスル』の"明るい未来"が見えるサプライズが発表される予定だという。

11月には恒例となった年間最大のイベント『ハッスル・マニア』の開催も決定!! もし『PRIDE男祭り』の開催がなければ、本気で大晦日進出までも視野に入れているという。

とにもかくにも、今後の具体的な展望や確定事項は、5月中に開催されるはずの新組織発足会見で詳しく述べられるはず。生まれ変わった『ハッスル』の怒濤の逆襲は始まったばかりだ! ひさしぶりに本誌もベタに締めますか!

3、2、1、ん〜〜〜! ワッタル、ワッタル!!（両腕でWポーズをつくって）。

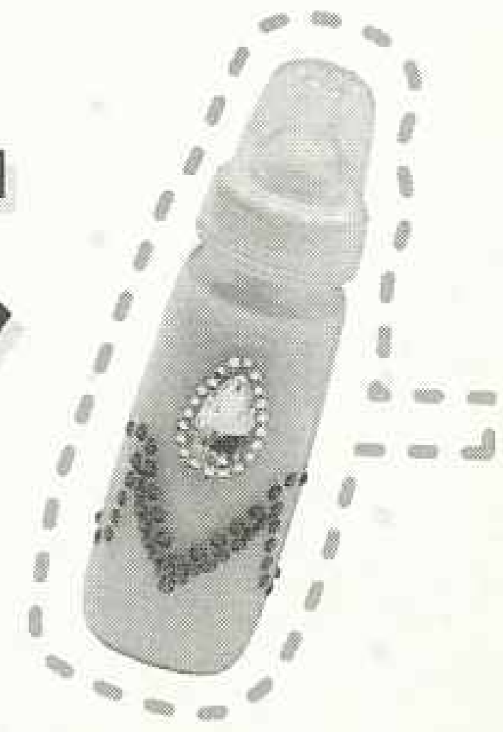


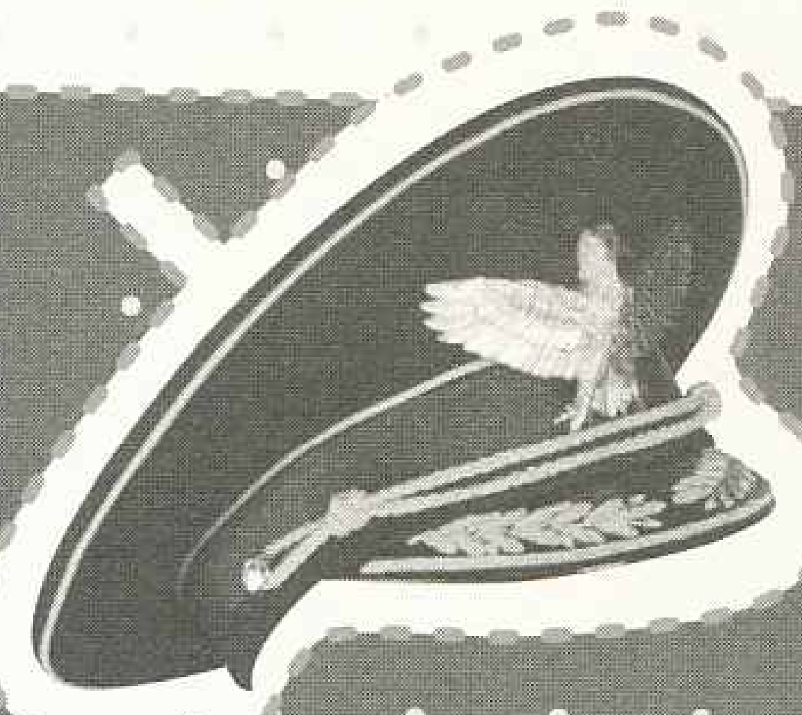


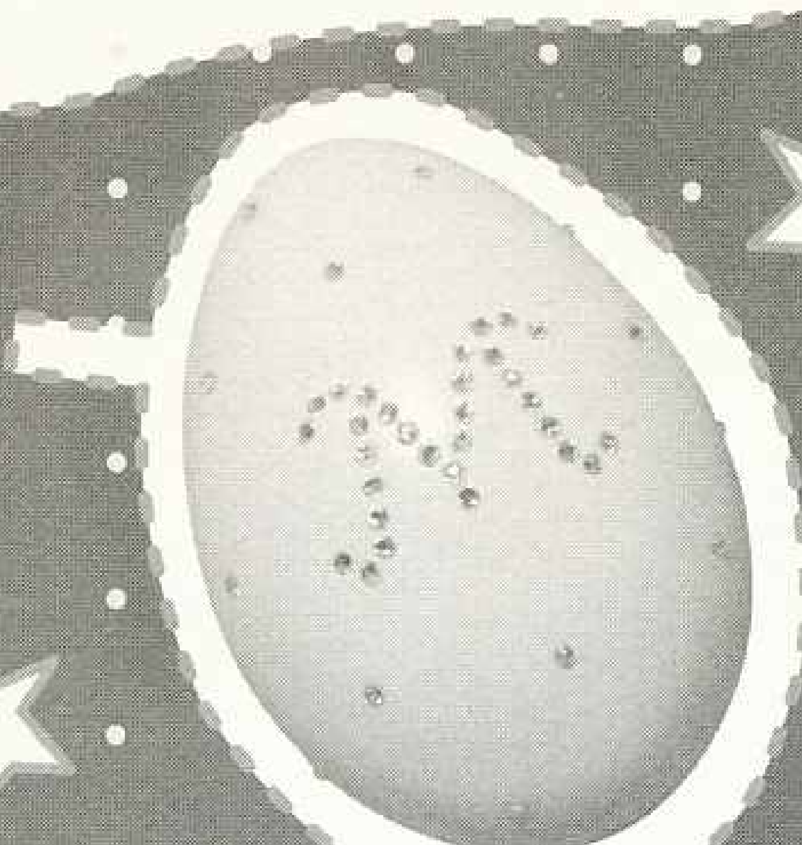
本誌前編集長がハッスルエンターテインメント代表に就任!!

山口日昇さんはいったい何をやっているんだ!!

～"お呼びでない男"がkamiproに帰ってきた!～









『kamipro』前編集長山口日昇が8号ぶりに登場〜ッ!　編集長退任後、本格的に編集部に姿を現わさなくなっていた山口さん。いったい何をやってるのかと思ったら、なんと!　5月、DSEから独立し、新組織となったハッスルエンターテインメントの代表になっていた!!　一部マスコミでは、すでにインタビューも受けており、すっかり団体の顔に。いやはや、『ハッスル』、そして山口日昇はどこへ行くんダー!!

聞き手／ジャン斉藤

ゴールドバーグとDSEの関連会社がなぜか7回ぶんの契約を結んでいたわけ

——じつにおひさしぶりです！

山口　そんなにひさしぶりだっけ？　よく覚えてないなあ。

——ああ、そりゃ忙しくて覚えてないでしょうね。会長（山口日昇のアダ名）はなんたって、ハッスル新組織（ハッスルエンターテインメント）の代表に就かれたんですから。最初の情報元が『東スポ』だったので、まったく信用してない人間も多かったですけど。

山口　自分でもまだ信じられません！

——いやいや、会長はここ2～3年、みんなから〝ハッスル大統領〟と呼ばれていたから、実質的に『ハッスル』の司令塔だということは周知の事実だと思ってたんですけど、意外と知られてなかったんだなあって。だから今日は『ハッスル』の基本的なことを知らない人にもわかるようにですね、ごくごくあたりまえのお話から、会長の考えるハッスルの今後までおうかがいしようと思ってるんです。

山口　ちょうどボクも整理したい時期だったんで、なんでも聞いてください！

——では初めに、そもそも会長は、なぜ『ハッスル』に関わるようになったんでしょうか？

山口　えっと、なんでだろう？　……忘れた！

——いきなりつまずきますね（笑）。元をたどればK－1と全日本プロレス、そしてDSEが手を組んで始めたファンタジーファイト『WRESTLE－1』（以下『W－1』）がきっかけですよね。

山口　そうそう！　でも、ボクは『W－1』自体には間接的にしか関わってないけどね。

——読者の方に簡単に説明すると、『W－1』というイベントは、第1次と第2次の2パターンあって、第1次は、石井（和義）館長と全日本プロレスの武藤敬司社長が協力して開催した。で、縁の下の力持ちとして、現在FEGの代表である谷川貞治氏、それからブレーンの柳沢忠之氏、それから榊原信行前DSE代表が手を貸したんですよね。

山口　いま考えると、夢のような布陣ですね。なぜ失敗したんでしょう？（笑）。当然、継続させようと思って立ち上げたんだろうけど、第1次『W－1』は幸か不幸か2回目で頓挫してしまった。で、その第1次にはビル・ゴールドバーグが出場したでしょ？

——当時の大物外国人レスラーですよね。

山口　そのゴールドバーグとDSEの関連会社がなぜか7回ぶんの契約を結んでいたわけ。しかもバカ高いギャラで。

——7回ぶんも！　本当に長期的な計画を持って臨んでいたんですね。

山口　それで、確か全日本に2回、それから『W－1』に2回出場して、あと3回分の契約が残ってたんだよ。

——つまり、『W－1』は頓挫したけど、DSEとしてはゴーバーの契約を消化しないといけなくなった、と。

山口　そう。ババを引いちゃったかたちだね（笑）。K－1と『PRIDE』のタッグが分裂しちゃって、ゴールドバーグの契約だけがDSEサイドに残っちゃったから、DSEは単独で何かプロレスのイベントをやらなければならない事情も絡んできた。そういう事情も加味されて誕生したのが『ハッスル』だったというわけですよ。



『ハッスル』という名が初めて世間に発信されたのが03年12月4日『ハッスル1』開催発表記者会見。この日、榊原代表の「プロレスだから」発言（紙プロ69号参照）に小川＆橋本がブチ切れ、大暴れしたのは記憶に新しい。

——しかし、そこで会長が関わることになったのは、どういう経緯からなんでしょう？

山口　ボクは『ハッスル』を立ち上げる前から、『PRIDE』を軸に、いろいろDSEとは仕事していたんですよ。

——田村潔司の出場交渉とか。

山口　じつに嫌なことを思い出させるね（笑）。それでボクと榊原（前）代表とあと数人で、さっき言ったような事情も踏まえて、「何かプロレスのイベントをできないかな？」って話しだしたことがきっかけですね。ただ、従来のフレームのプロレスをDSEがやっても意味がないし、髙田総統が常々おっしゃっているとおり「日本のプロレス界を根こそぎブチ壊して、瓦礫の山の上に新たな道を切り開こう」という意気込みのもとに、髙田総統の古くからの友人である髙田延彦氏や、当時ZERO－ONEで抜群なおもしろさを発揮していた破壊王（橋本真也）やキャプテン（小川直也）、それから中村祥之氏たちに相談し始めた。それが『ハッスル』の始まりだった。動き始めたのが2003年の夏前くらいだったかな。

——でも、当時の破壊王とセレブ（小川直也）はDSEとまったく向き合いがとれてませんでしたよね。ほぼ断絶に近いような状態。そこを会長がうまく取りまとめたってことですか？

山口　〝取りまとめた〟っていう響きは、悪徳ブローカーみたいだから、やめてくれませんか？（不満げに）。

——ああ、ご不満ですか（笑）。じゃあ、〝前向きに調整した〟ってことですよね？

山口　いいねえ～、その言い回し。よっ、さすが編集長！　というより、右肩下がりのプロレス業界に起爆剤を与えるには、それから本当に新たなフィールドをつくるためには、いったいどうしたらいいんだろう？　っていう話し合いをみんなで真剣に始める音頭を、たまたま流れの中でボクがとったっていうことですよね。

——でも、そこまでタッチするからには、当時からプロデューサー的な役割で関わっていたんですよね。

山口　いや、最初は自分もどういう立場で関わっていたのか正直よくわからなかった。でも、関わったからには成功させなきゃ誰にとってもメリットがなくなってしまうから、ある意味、役割を度外視して一心不乱にやってましたよね。それこそイベント名を榊原代表が発表した会見から、自体も、『ハッスル』というイベント見切り発車的に動き始めたようなもんだから。

——じゃあ、構想段階では、いまの〝ファイティング・オペラ〟の世界観はなかったんですか？

山口　まったくなかった!!　……と

『ハッスル1』の大失敗があったからこそ、大きく舵を切れたんでしょうね

いうと嘘になるし、頭の中に漠然とはあったんだけど、それが実現するまでには時間がかかるんじゃないか、というのが正直なところだったね。

――なるほど。すると、真の『ハッスル』の始まりは、髙田総統が登場したのが『ハッスル2』ですから、『ハッスル1』から『ハッスル2』という短期間のあいだに、あの世界観を練られたということですか？

山口 実質的にはそうだね。『ハッスル1』の大失敗があったからこそ、大きく舵を切れたんでしょうね（笑）。

――『ハッスル1』は大失敗!! 自分で言いますか！（笑）。

山口 『ハッスル1』はプロレス界の伝統・恒例行事だった1・4新日本プロレス東京ドーム大会にぶつけたら話題になるんじゃないか？ という、いま考えると非常に浅はかな考えのもとで開催されたんだよね（笑）。まぁ最初はぶつけるつもりもなかったんだけど。しかも4万人も収容できるさいたまスーパーアリーナのスタジアム・バージョンでやったでしょ？

――いまや『PRIDE』ですら難しいのに（笑）。

山口 あまりの客の少なさに、第1試合が始まっているのに「いつ開場するんだ？」ってみんなで自虐的に言ってましたから。

――あの不入りは会長の見込み違いなんですか？

山口 うん。おおいなる見込み違いですね！（なぜか堂々と）。

――ダハハハハハハ！

山口 まあ、『PRIDE』が大晦日に『男祭り』をやった4日後だから、設営などでうまく連動できれば会場費が安くなるっていう理由もあったんだけど、それよりも予想以上にプロレスマスコミとファンの反発を食らったんですよ。新日本プロレスのファンはもちろん、それに加えて髙田延彦が『ハッスル1』の直前に『泣き虫』を出版したでしょ？ その本の中で、プロレスの核心に触れる表記があるということでマスコミやファンから総スカンを食らってしまった。

――『ハッスル』は髙田延彦が復帰するための舞台で、『泣き虫』もそのためのプロモーションだと深読みする関係者までいましたね。

山口 本の発売と『ハッスル』のスタートはまったくの偶然だったんだけどね。でも、そういった逆風の中で、『ハッスル』は今後どう展開したらいいのか？ ということを、さらに2歩も3歩も踏み込んで考えだしたのが『ハッスル1』のあとということだね。

――しかし、『ハッスル2』まで1ヵ月半しかなかったわけですけど、その短い中で、〝髙田延彦の古くからの友人〟である髙田総統が現われた。大きな目で見ると『ハッスル1』にまだこびりついていた『W－1』の幻影や、DSE系プロレスイベントの色をそぎ落としたかのように見えたんです。

山口 『W－1』と『ハッスル』の演出チームって一緒だから、『ハッスル1』以降、演出の人たちともさらに踏み込んで話してね、まず『W－1』カラーを完全に消さなきゃいけないって思った。『W－1』はエンターテインメント・プロレスとしては中途半端だったし、フレーム的にも従来のプロレスの尾てい骨、それも腐りかけてた尾てい骨が残ってた。だから『W－1』の延長線上が理想の舞台ではないんだから、その色は消そうと。それと『PRIDE』をイメージさせるような〝勝負論〟中心のプロレス、真剣勝負ふうなプロレスはやめようと。そういうところから、『ハッスル1』には髙田PRIDE統括本部長が登場してたんだけど、『ハッスル2』からは、『PRIDE』をイメージさせる髙田延彦ではなく、髙田総統という怪物が生み出されたわけです。

――それにしても、振りきりましたねえ、おもいきり。

山口 でも、その針の振り方がその当時としては明らかにマット界にはない方向性を目指したもんだから、「いったいハッスルは何をやってるんだ？」っていう冷たい空気がさらに増したよね。でも、それがいまの『ハッスル』の発火点になっているのは間違いないですよ。

――そもそも髙田本部長は『ハッスル』に乗り気だったんでしょうか？

山口 従来のプロレスと関わるということについては、いまでも乗り気じゃないでしょ。だけど、「瓦礫の上に新たな道を作る」というクリエイティブな部分に対してのモチベーションは当時からメチャクチャ高かったと思いますよ。

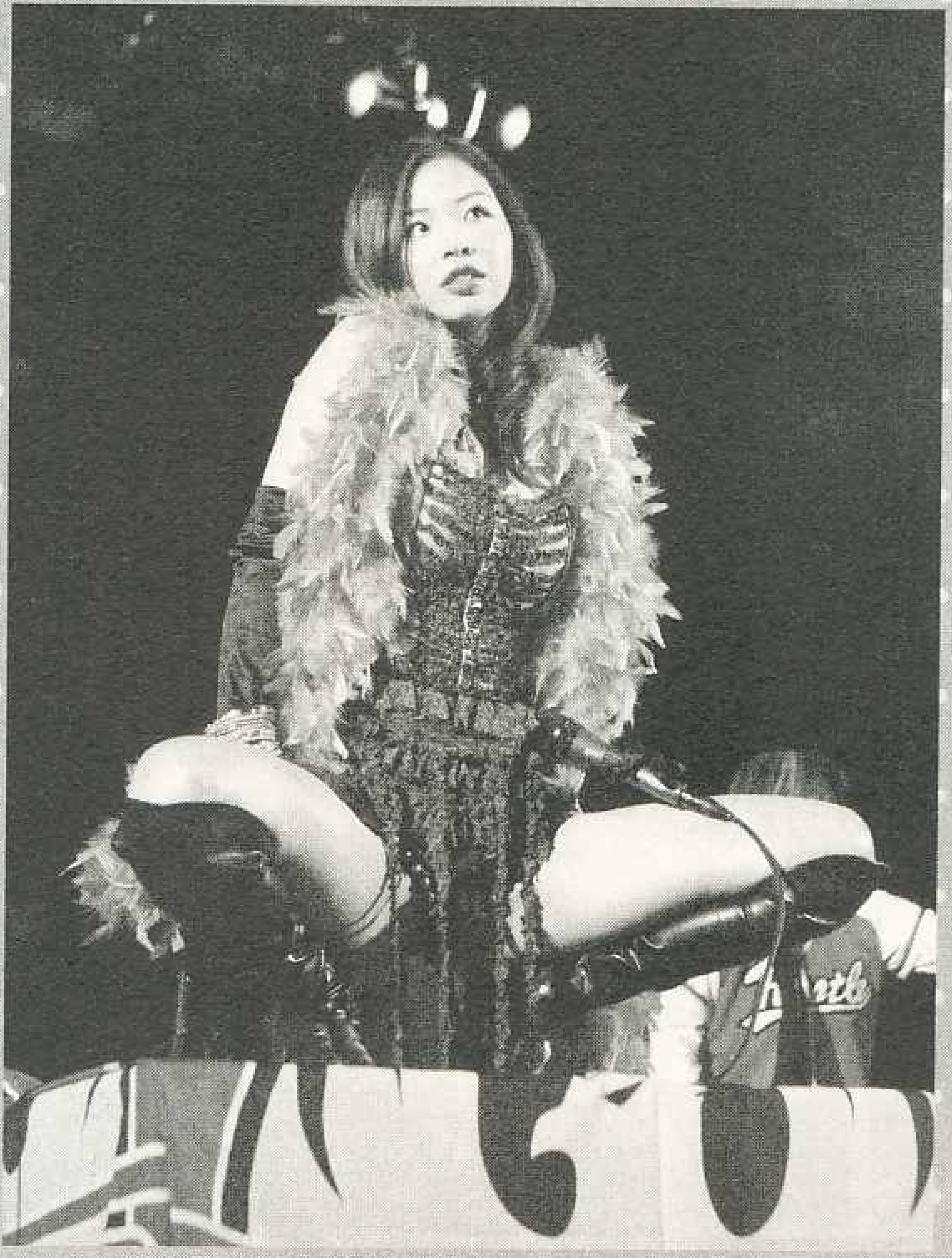
――でも最初の頃の髙田総統への反応は厳しいものがありましたよね。

山口 本当に厳しかったね！ 総統が初登場した『ハッスル2』の横浜アリーナの空気は。怒号、罵声、罵詈雑言、それから悲鳴！ 空気が冷たすぎて天井にはツララが垂れ下がってたもん（笑）。まだ『ハッスル』的な概念や表現がマット界になかったから仕方ないけどね。

――一応おうかがいしますが、『ハッスル2』をプロデュースしていたのは会長なんですよね？

山口 それはさっきも言ったとおり、自分でもどういう立場でやってるのかよくわからなかった。

――じゃあ、誰に最終決定権があったんですか？



インリン様が初M字をお披露目したのが04.12.24『ハッスル・ハウス クリスマススペシャル』。一時期はM字パワーを失ない、表舞台には姿を現わさなかったが、ニューリン様監禁後、復活！ もはや『ハッスル』には欠かせない存在である。

2003年	12月	『ハッスル1』開催発表記者会見。
		小川直也&橋本真也が『PRIDE男祭り』のリングに登場。
2004年	1月	『ハッスル1』開催（さいたまスーパーアリーナ）。
	2月	ZERO-ONE両国大会に髙田延彦が来場、髙田総統が軍団の指揮を執ると発表。
	3月	『ハッスル2』開催（横浜アリーナ）。髙田総統が初降臨。
	4月	小川直也が『PRIDE ヘビー級GP』に出場。
	6月	『ハッスル・ハウス vol.1』開催（後楽園ホール）。
	12月	『ハッスル・ハウス クリスマスSP』開催（後楽園ホール）。インリン様登場。
2005年	7月	HGのハッスル軍加入が発表される。
		“ハッスル・キング”橋本真也、急逝。
	10月	和泉元彌が『ハッスル・マニア2005』参戦を表明。
	11月	『ハッスル・マニア2005』開催（横浜アリーナ）。
2006年	4月	『ハッスル16』開催（大阪府立体育館）。イン卵からニューリン様が誕生。
	6月	『ハッスル・エイド2006』開催（さいたまスーパーアリーナ）。タマアゴからザ・エスペランサーが誕生。
	11月	『ハッスル・マニア2006』開催（横浜アリーナ）。
2007年	2月	髙田総統が『ハッスル』をDSEから買収。
	3月	『ハッスル・ハウスvol.22』開催（後楽園ホール）。“ハッスル・キャプテン”小川直也がセレブ小川となりモンスター軍入り。
	5月	ハッスルエンターテインメント発足。山口日昇氏が代表に就任。

山口　なんとなく中身に関しては……ボク……なのかなぁ？（笑）。

――ということは、ツララが垂れ下がっていた状況でも、プロデューサーとしては『ハッスル』の明るい未来は当然見えてたわけですよね？

山口　こんなこと言うと、資金を投下してくれていた榊原前代表には怒られるかもしれないけど、天井からツララが垂れ下がることは、あらかじめ予想はできてました!!（胸を張って）。

――なんで胸を張ってるんだ、この人は（笑）。ああなることがわかっていながら、『kamipro』の表紙で前煽りをやったんですか？

山口　うん（かわいらしく）。

――かわい子ぶってもダメです!!

山口　だけど、『PRIDE』がこの世に生み落とされたときもそうだったけど、既成の価値観と違うものを生み出すときの反発力は大きいもんですよ。

――まあ、波紋は投げかけてましたし、派手に表現してましたよね、確実に。その年のうちにハッスルポーズがブームになって、年末には大きなターニングポイントとなるインリン様もデビューしました。

山口　1年目からとんでもないことばっかやってるんだね、『ハッスル』って（笑）。

――いやあ、そう考えると『ハッスル』ってツイてますよね。

山口　それはインリン様という存在が確立しているいまだからそう思うんであって、最初にインリン様を『ハッスル』のリングに絡ませるときは〝本当にいいんだろうか？感〟みたいなものは確実にあったからね。

――いや、そうなんですけど、さっきも言ったとおり、DSEとの向き合い上、破壊王や小川直也が『ハッスル』に出ることはまずあり得なかったわけじゃないですか。そして高田総統もあり得ない。そのうえインリン様が誕生してるんですよ。

山口　「そんなことできるわけねーじゃん」っていうことを実現させることに対してスタッフや選手は本当に真剣に向き合ってきたし、「それはやっちゃダメなんじゃない？」っていうことに関しても、なぜダメなのか？　根っこの部分から考え直していった。その過程がいまの世界観を構築していったと思うんだけどね。

――しかも、よくもあれだけアクの強い演者が集まっているのに、一つの目標に向かって共通認識をもってやっていけてるのか、不思議でしょうがないんですよね。

山口　それはボクも不思議なんですよねぇ（笑）。

――たとえば、『ハッスル1』の川田利明は自分の意志や主張をもって、マーク・コールマンと異種格闘技戦みたいな試合をやってるわけですよ。それなのに、いまやリングで歌まで歌ってる。いったい何があったんだ？と（笑）。

「漫画の世界の住人です!」と誇りを持って打ち出したのが『ハッスル』なんですよ

山口　いや、乱暴な言い方をすると、ハッスルは「バカバカしいことを真剣にやるリング」「真っ赤な嘘から真実を生むリング」っていうことを選手が理解して実践していって、それがファンに受け入れられてきてる実感があるから、方向性としては間違ってないという部分でスタッフを信用してくれてるんだと思いますよ。要するに高田総統にしても、以前から高田延彦という人間のいわゆる核の部分というか、いままで高田延彦というキャラの中では出せなかった部分を引っぱり出したらおもしろいだろうなっていう確信はボクの中にあったんですよ。高田総統というのは絶好調に酔っぱらったときの高田延彦が表現されてるような人物だからね（笑）。



『ハッスル・マニア2005』でハッスルデビューをはたした和泉元彌。必殺の空中元彌チョップで鈴木健想に勝利し、花道を去るときに、スクリーンには写真のような文言が映し出されていた。

――Uインター勢の話を聞くと、よくそういうふうに言われてますよね。

山口　ボクは高田本部長より高田総統のほうが好きだから（笑）。で、かつての川田利明も仏頂面で、ウッチャンナンチャンが取材に来ても途中でインタビュー打ち切って帰っちゃうキャラだったわけでしょ。でも、裏には違うキャラを持っているんじゃないか？　って思ってて、やっぱり川田利明も酔っぱらうと、いまのモンスターKみたいな、じつにおもしろい人格が出てくるんだよね。

――泥酔人格が浮き彫りになるリング、それが『ハッスル』（笑）。

山口　『ハッスル』の裏テーマとして、抑圧されたものを解放させるリング・舞台でありたいと思うんですよね。たとえば、宗家（和泉元彌）も『ハッスル』に出た当時は狂言の協会や世間からもフタをされかかっていて、やれダブルブッキングだ、さらには駐車違反だなんだってさんざんに叩かれてた。でも、宗家自体は素晴らしいパフォーマーなわけだから、そういった抑圧された状況を解放するお手伝いができれば、あるいは抑圧されたエネルギーをリングにぶつけてもらえればっていうところで理解し合えて、参戦する運びになったんだけどね。

――和泉元彌さんは、いまさらにたいへんな状況になってるみたいですけどね（笑）。

山口　ねえ？（笑）。だから2回目の出場があるならいまなのかなって思いますね。

――そもそもプロレスってそういう抑圧されたものを解放する舞台でもありますよね。

山口　いいこと言うね、編集長!!　プロレスっていつの世でも世間から白眼視されてるジャンルだからさ、それをカッコつけて「プロレスはスポーツ競技です！」って言っても、もはや通用するわけがない。だから、取り繕って「ボクらは怪しくありませんよ!!」ってごまかすんじゃなく、「ボクらはドキュメンタリーやノンフィクションの世界の住人ではなく、漫画の世界の住人です！」と誇りを持って打ち出したのが『ハッスル』なんですよ。まあ、そのヒントになったのは、じつは長州力という存在なんだけどね。長州さん、以前は『ハッスル』に出てたでしょ？

――新日本プロレスの現場監督になってからは、足が遠のいてますけど。

山口　『ハッスル4』の総統劇場のときに長州力がボソッとマイクで「おい、高田。何、マンガの世界に浸ってるんだ！」と言ったよね。あの当時は、まだプロレスをドキュメンタリーやノンフィクションの世界だと思いたい選手やファンのほうが多か

ったからウケたけど、正直ボクは「漫画の世界でいったい何が悪いんだ。あなたたちがやってきたことだって充分に漫画の世界だろう」って思ったんだよね。

——まあ、そうなんですけど（笑）。

山口　べつに馬鹿にして言ってるわけじゃなく、長州力というキャラも漫画の世界のキャラとしてはじつに尊敬できるわけですよ。でも長州さんは自分がノンフィクションやドキュメンタリーの世界の住人だという思いに固執しすぎちゃったんじゃないかなぁと。だから〝腸捻転〟が起きる。漫画って軽んじられるけど、漫画を読んで感動したことがない人なんていないと思うよ。漫画の世界からドキュメンタリーやノンフィクションが生まれることだって多々あるじゃない。だからプロレスはドキュメンタリーやノンフィクションの世界ですよ、という思いはわかるけども、50歳半ばの人が次々と若い選手を通り一辺倒のラリアットでなぎ倒していくドキュメンタリーやノンフィクションというのは、格闘技が確立しきったいまの時代の中では説得力が薄くなってくるよね。

——でも、当時はもちろん、いま現在でも、老舗団体なんかはプロレスはスポーツとノンフィクションの世界だと見せかけるほうがまだ楽だと思ってるんじゃないですか？

山口　楽だけど、「誰vs誰」っていう勝負論を前面に出して、それを「観戦」するという魅力は、それこそ『PRIDE』やK−1に根こそぎ持っていかれてるわけだから、それ以外のプロレスにしかできない表現方法やスキームに針を振ってしまったほうがいいんじゃないか？　っていうことを、たまたま我々は真剣に考える機会を天に与えてもらったということですよね。『ハッスル』は「スポーツか作品か？」と問われたら、「作品です」と堂々と答えたいんですよ。総合格闘技が根づき、「プロレスと格闘技は違う」という考えが世間に浸透していく中で、本当にプロレス界としては巨大な風車を建てないといけなくなった時期に『ハッスル』が生まれたということですよね。

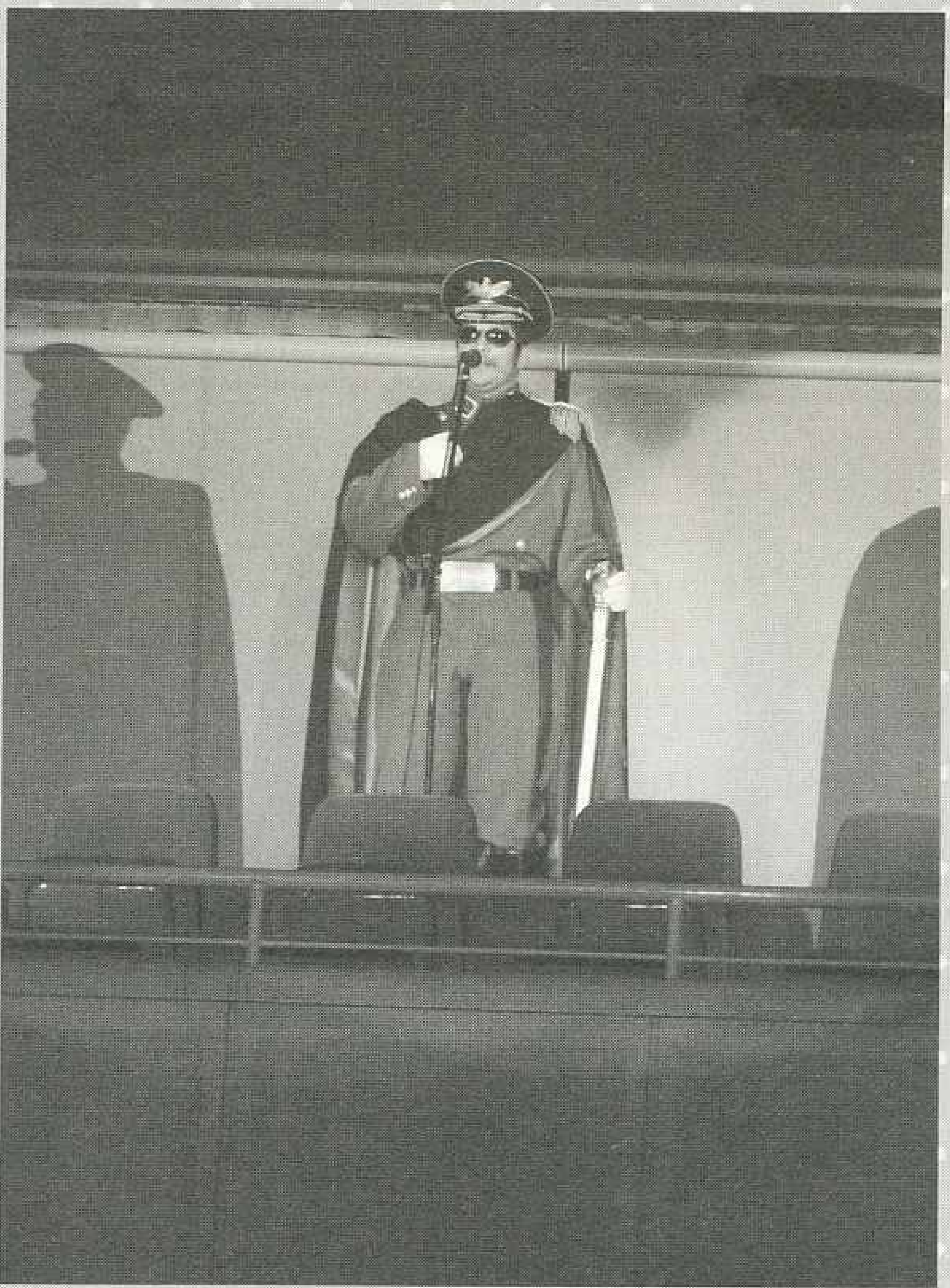
——風車？　その巨大な風車のエピソードは前に聞いたことが……。

「巨大な風車を建てよう!」って実行に移させてくれたのが榊原信行ということですよ

山口　（さえぎって）あのね、山形県の立川町っていうところが、長年〝ダシ風〟って言われる強風に悩まされてきたんだって。農作物は育たないし、それに連鎖して町は貧困に喘いで人々の心は荒んでいく。そこで誰かが、町を苦しめる〝ダシ風〟にビビってたじろいでいるばかりじゃなく、そのメチャクチャ強烈な風の力を町のために逆利用することはできないか？　と考えたんだよね。

——長い話がまた始まっちゃいましたね（笑）。

山口　（話をまったく聞かずに）で、その〝ダシ風〟を逆利用するのに巨大な風車をつくろうとしたんだけど、何億もかかってしまうから不可能だとわかった。それでもめげずに、それならアメリカから巨大な風車を輸入しようと考えた。それも政府の許可が下りなかったりと紆余曲折があったわけですよ。でも最終的に努力が実って巨大な風車を3機輸入できた。で、その立川町は巨大な風車を使った風力発電で温室栽培に成功して、余った590万キロワットアワーの電気は電力会社に売って、しかも巨大な風車は観光名所にもなって、町は経済的にもよみがえった。まさに「電気があればなんでもできる」状態。



04.3.7『ハッスル2』横浜大会で髙田総統が初お目見え！　いまと違って、取り巻きが一人もいないのが非常に寂しいところであるが、それ以上に、この日は横浜アリーナの会場のほうが寂しかった……。

——この期におよんでダジャレですか！

山口　（無視して）これって4年くらい前の『プロジェクトX』で観た話なんだけど、その番組のナレーションが泣かせるわけよ。「母を泣かせた風、妻を痛めつけた風、その風が希望の風になった」……だったかな？　で、その立川町以外でも北海道の襟裳町や茨城の波崎町っていうところも強風に悩まされ続けてたんだけど、立川町に習って巨大な風車を導入して町を立て直したらしいんだよね。これって、『PRIDE』やK−1を始めとした「格闘技」という強風が吹きつけてくるプロレス界にも当てはまる話だなぁと当時は思って観てたわけ。

——プロレスは、総合格闘技が浸透してきて、ずっと逆風が吹いているジャンルですもんね。

山口　そう。つまり立川町と同じように、巨大な風車を建てて、逆風をエネルギーに替えようっていうのが『ハッスル』の発火点ですよ。

——まさに〝風車の理論〟ですね。

山口　その巨大な風車の一つが髙田総統だったわけ。そして、「風がやむまで隠れとこう」「お金がかかるから風車なんて建てるのはよそう」って言ってる人がプロレス村の中には多かったんだけど、バツグンの決断力で「とにかく巨大な風車を立てようよ！」って実行に移させてくれたのが榊原信行ということですよ。

——榊原さんはずいぶん費やしたんじゃないですか、建設費用。

山口　バラさんのイベント事業をやっていく上でのダイナミックな先行投資の仕方や踏んぎりのつけ方は、天才的なものがありますね。

——関係者が榊原さんに惹かれる理由がよくわかりますね。でも、今度からは会長がその役割を担うことになる、と。

山口　……いや、それはどうだろう？　俺、そんな金ないしなぁ……（ポツリ）。

——ウチの人間が会長を遠ざける理由がわかりますね（笑）。

山口　でも、これまでの『ハッスル』のメインスポンサーである京楽さんにも引き続き応援していただけるし、ほかにも出資してくれる企業があったりと、ビジョンに共鳴してくれる人がたくさんいるんですよ。

——そういった経営面はよくわかりませんけど、ボクは『ハッスル』の世界観というのは盤石だなって思うんですよね。つまり、発信する側がいちいち「これはこういう意味があるんですよ」って説明しなくても、リング上で起きていることを観れば「あ、な

何世代あとにも口ずさんでもらえる楽しくて凄い〝歌謡曲〟でありたい

るほどね」って思える舞台だと思うんですよね。

山口 それは嬉しいことをおっしゃってくれますねえ。

――でも、3月の新シリーズでものの凄くガッカリしちゃったんですよ。

山口 なんだよ、それ！ さんざん持ち上げといて落とすわけ？

――いや、世界観やおもしろさはいままでと変わらないんですけど、『『ハッスル』が充電期間を置いたのはなんのためだったんだ？」って思ってしまったんですよね。リスタートしたものの、新組織としてのインパクトがまるでなくて。

山口 まあ、本当だったら3月から「地上波復活！」っていうことをブチあげたかったんだけど、諸々の事情があってね。ただ、『ハッスル・エイド』から地上波放映が復活しそうだし!!

――おおおお〜!! 土壇場で全国放送が頓挫した、いわくつきのあの『ハッスル・エイド』で!!

山口 ドラマチックでしょ？（笑）。全国放送が中止になってからの1年間、じつは汲々の思いでやってたのは事実だから、これは我々にとってもモチベーションが上がる材料ですよ。

――でも、よくよく考えたら、窮地に立たされたあの『ハッスル・エイド』がなかったら、ザ・エスペランサーも誕生しなかったわけですからね。

山口 ド不幸中の幸い。そういう意味ではFテレビさままですね。

――Fテレビへの怨念が生んだ怪物、それがザ・エスペランサー（笑）。

山口 しかも去年は、全国放送が中止になったという余波から、HGをはじめとしたタレントさんも『ハッスル・エイド』に出られないんじゃないか？ という状況もあったからね。

――それを考えると、地上波がつくというのは非常に感慨深いものがありますね。

山口 ただ、いきなり全国放送っていうステップは踏めない。あまりテレビに依存しすぎても怖いから（笑）。まずは『ハッスル・エイド』から地方局で月イチの特番を放送していって、秋から週イチのレギュラー放送。力を蓄えて、そこから全国放送を狙うステップを考えてます。

――じつにいいニュースですね。そういう話がどんどん聞きたいんですよ。そういう話に興奮するんですよ、ボクは！

山口 大丈夫？ ストレス溜まってんじゃないの？（笑）。

――だってどんなに素晴らしい試合や仕掛けが繰り広げられようが、広がっていく装置がなければ意味がないですから。『ハッスル』に限ったことじゃないですけど、いまのプロレスには、つまらなくてもいいから、とにかく派手に成功してもらいたいんですよね。

山口 いや、つまらないものは成功しないですよ。だから、『ハッスル』もつまらなくなったら終わりです。でもさ、もともとプロレスって、音楽の世界でいうと〝歌謡曲〟的な位置づけにあったジャンルだよね。

――漫画、風車の次は歌謡曲。恐縮ですが、その話も前に聞いたことあります。

山口 （無視して）プロレスって、もともとマニアックなジャンルではあるにしても、力道山や馬場さんや猪木さんが抑圧されたものを世間に向けて解放してきたっていう歴史がある中で、なぜかいつの間にか限られた人向けのジャンルになっていってるよね。ボクはプロレスという存在は歌謡曲じゃないといけないと思うんだよね。だって、プロレスってかつては大衆娯楽って言われてたわけでしょ。戦後の歌謡曲って『○○サンバ』だったり『△△ルンバ』だったり、世界中の音楽を歌謡曲というわかりやすい音楽に変換して大衆に届けてた歴史がある。いまパッと思いつく曲でいうと……『てんとう虫のサンバ』だったりとかさ（笑）。

――……『てんとう虫のサンバ』。いまの読者に非常にストライクですね。

山口 じゃあ、『コーヒールンバ』でもいいよ（笑）。だけど、本場のサンバやルンバを聴いたことがある人が少ない時代の中で、歌謡曲を通じて「あ、サンバってこういうのなんだ」って知った人ってもの凄く多いと思う。

――歌謡曲に変換することによって大衆に届かせるってことですよね。

山口 それを格闘技に置き換えてみると、たとえばサンボやキックボクシングだったり、カポエラだったり、世界中の格闘技がプロレスっていう装置に一旦変換されて大衆に届けられてきた役割もあるんですよ。いまだったらそれをK−1や『PRIDE』がやってるわけだけど、でも本来、プロレスは大衆に向かって発信しなければ、極端に言うとなんの意味もないわけ。



いまや、だ――れも使っていない『kamipro』編集部の社長室。山口日昇曰く「もう撤去していいんじゃないでしょうか」とのことです。しかしこの部屋、とても社長室とは思えない空間である。

――う〜ん。それはそうかもしれないですね。

山口 まあ歌謡曲全盛の時代といまでは違うから、一概には言えないけど、本来プロレスが持ってるエネルギーって、限られたマニアの人だけに向けて放射するものじゃなくて、大衆を巻き込んでいく力を持ってるはずなんだよね。時代的に歌謡曲が消えていく方向の中でプロレスも時代と歩調を合わせて、UWFから始まってどんどん専門化していって、専門的じゃなければ本物じゃないっていう風潮になっていった。でも、『ハッスル』は歌謡曲を目指したいんですよ。一部のマニアには「しょせんあんなの歌謡曲じゃん。本物じゃないじゃん」って斜に構えて見られてもいいから、何世代あとにも口ずさんでもらえる、楽しくて凄い歌謡曲でありたい。そういう方向性でいきたいと思ってますけどね。

――ほう。なんとなくわかります。

山口 これから『ハッスル』を大きくして『kamipro』さんにも還元できるように頑張りますんで、『kamipro』さんも、ぜひ『ハッスル』を応援していただきたいなと思います。

――なんだか最後はベタベタのおべっかで終わりましたが、じゃあ、『週刊プロレス』ばかりじゃなくて、山口さんのかわいいかわいい『kamipro』にも『ハッスル』の広告を入れてください！

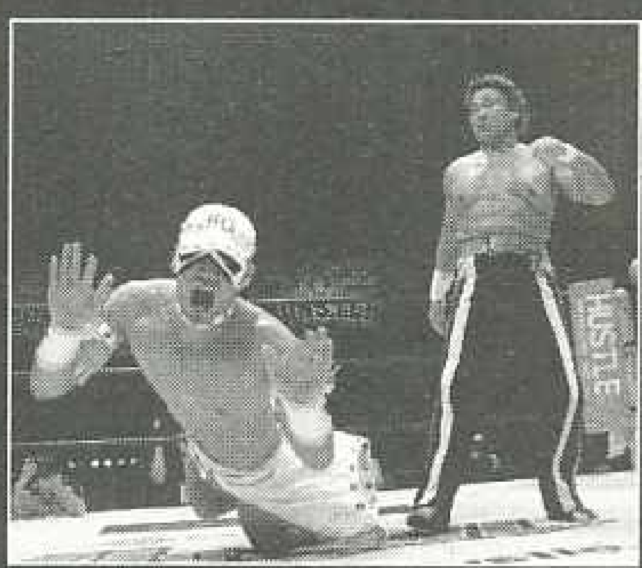
山口 あのさ、それってどのくらい安くなる？

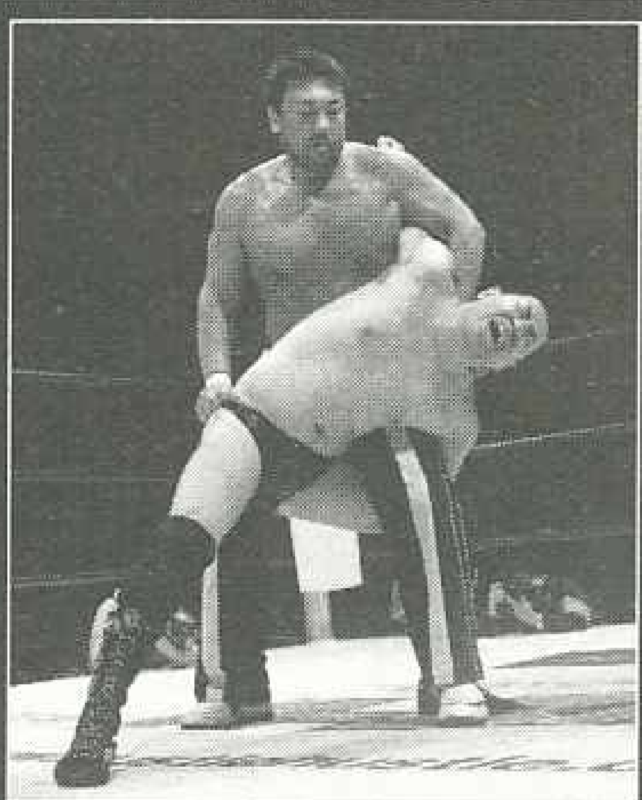
【07年5月1日／ハッスルエンターテインメント事務所にて収録】

川田を相手に大健闘!

コバヤシが明かす

ーラモン(HG&RG)







プロレスファンのあいだでも評価が急上昇中のHG&RG!!
波乱万丈の10年間を見守ってきた陰のプロデューサーが衝撃の事実を明かす!!

激闘伝説

本誌前号の越中詩郎選手との対談が大反響を呼んでいる“越中芸人”ケンドーコバヤシが再度登場!! 今回のお題は『ハッスル』で激闘を繰り広げるレイザーラモン!! 大阪府立体育会館で行なわれた『ハッスル22』を生観戦したケンコバさんに後輩の活躍をどう見たか? さらに彼らの知られざる伝説の数々を衝撃的に明かす!!

聞き手/坂井ノブ　試合写真/平工幸雄
写真提供/ハッスルエンターテインメント

──レイザーラモンの話をうかがう前に、越中さんの話をうかがわせてください。

ケンコバ　急遽、IWGP王座ということで風が吹いてきたなぁと思ったんですけどね。

──残念な結果に終わってしまいました。

ケンコバ　昨日、敗戦の知らせを受けたとき、ちょうど『アメトーーク!』の収録やったんですけど、スタッフの人たちもみんな愕然としてましたね。「長州さんに手紙書こうかな」って言うてる人もいましたからね(笑)。

──ガハハハハ! 「越中さんをチャンピオンにぜひ!」って(笑)。

ケンコバ　こうなったらG1に期待するしかないですよ。今年は優勝してほしいですね、絶対にいいタイミングだと思うんで。

──期待しましょう!

伝説その一
『ハッスル22』の直後に発生した大事件とは!?

──では本題に入ります! 今回は「私だけが知ってるレイザーラモンの激闘伝説」ということでケンコバさんにお話ししていただければ、と。4月21日の『ハッスル22』は会場でご覧になったんですよね?

ケンコバ　はい、会場で観させてもらいました。いい試合でしたねえ……(しみじみ)。

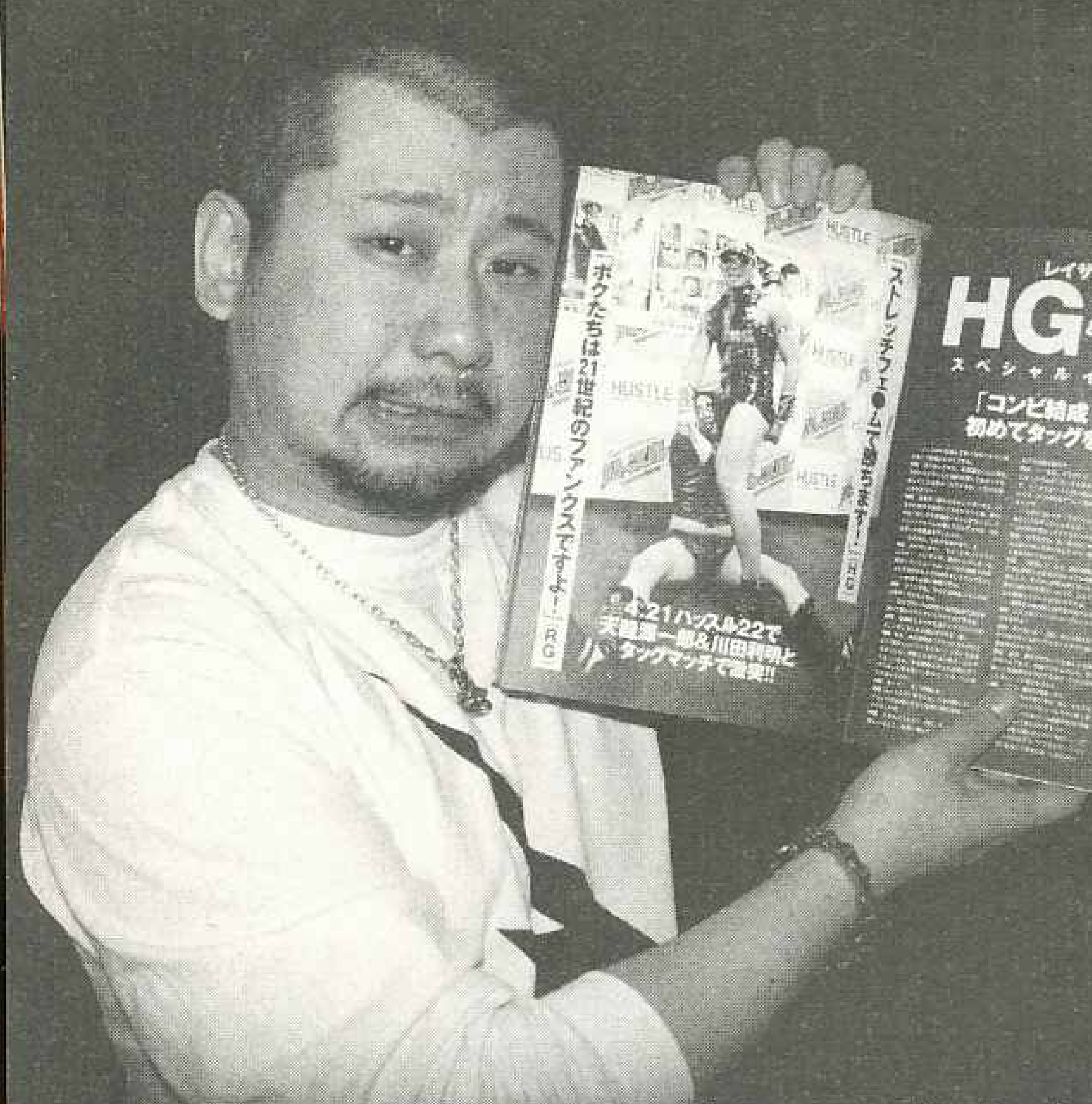
──試合前の煽りVTRも10年前の学生プロレス時代から二人の足跡をさかのぼって、コンビ結成10年目にして初めてのタッグ結成というストーリーを追ってましたよね。

ケンコバ　ただ、あのVTRを観ながら僕の席の近くに座ってた親子連れのお子さんが「チン先真性ってどういう意味?」って

4.21『ハッスル22』で天龍&

先輩芸人 ケンドー

レイザー



けんどーこばやし■1972年7月4日、大阪府大阪市出身。プロレス・格闘技に造詣が深い吉本興業所属のお笑い芸人。過去には大阪プロレスのリングで試合をしたこともある。越中ブームの火付け役でもある。『HEY!HEY!HEY!』（フジテレビ系／月曜日）、『オビラジR』（TBS系／毎週火曜日に出演）、『Shibuya Deep A』（NHK BS-2／金曜日）、『うえぶたき』（テレビ東京／隔週金曜日）等に出演中。172cm、77kg。

お父さんに聞いてたんですよ。

――学生プロレス時代のRGの恥ずかしいリングネームに引っかかりましたか（笑）。

ケンコバ　ええ、非常にお父さんが苦しそうでしたね（険しい表情）。

――説明できないでしょうからね（笑）。

ケンコバ　そうなんですよね。まあ、「お父さんとは違う感じ」とは説明してましたけど（笑）。RGはあいかわらず人を困らすヤツだなっていうのはありましたけどね。

――試合自体は、天龍、川田というプロレス界で最もハードヒットな二人に初めボッコボコにされていましたよね。

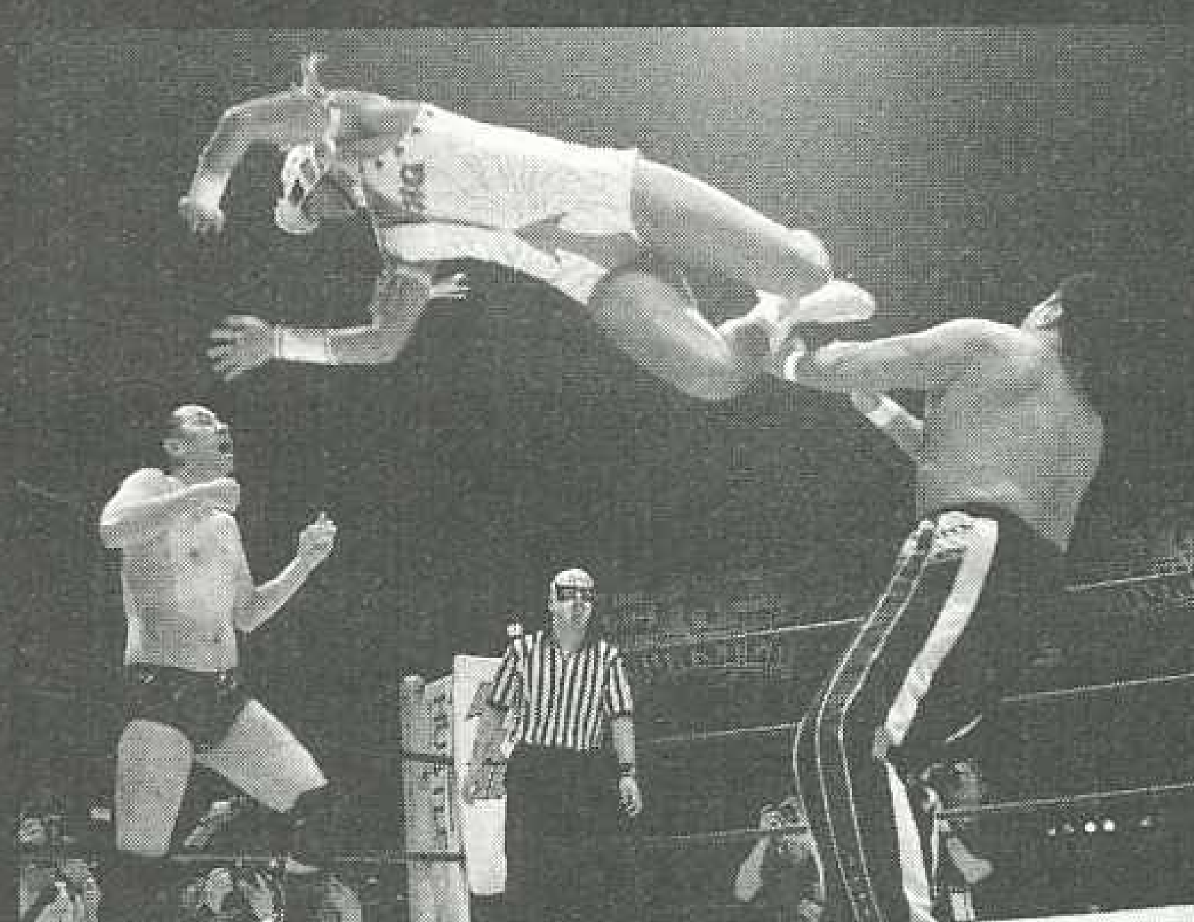
ケンコバ　とくにRGに放ったグーパンチは凄かったですよね。

――押さえつけてゴンッて（笑）。普通、プロレスラーにもあんなことしないですからね。敗れはしたものの大健闘で、RGはリング上からすでに泣きが入ってましたよね。

ケンコバ　じつはあの試合のあとに、RGが情けない事件を二つぐらい起こしたんですよ。

――え、そうなんですか!?

ケンコバ　新生ハッスル軍が全員でリングから四方に手を振ってたじゃないですか。僕らは芸人5人ぐらいで並んで観てたんですね。僕らもほんま感動してて、「こいつら凄かったな」と思って。本気で手振って「よかったぞ！」って言ってたんです。HGとRGも気づいてくれて、手振り返してくれたんですよ。で、感無量の中、帰路についたところで、RGから号泣の電話がかかってきたんです。「ありがとうございました。「あ



『ハッスル22』メインイベントでHGとRGがタッグを組んだ。いきなり出てきたRGは激しく川田を挑発、そこにHGがスワンダイブ式のドロップキックが炸裂した。序盤はレイザーラモンがペースを握りかけた。鮮やか!!

試合後に先輩たちの顔が見えて、涙が止まりませんでした！」とか言うて。細かいこと言うたら、野性爆弾の城野がいて、僕がいて、ザ・プラン9の浅越ゴエがいて、バッファロー吾郎の竹若さん、木村さんと5人並んで観てたんですね。でも、RGは「先輩たちの……4人の顔が見えて」って。「あれっ?・」てなって（笑）。「城野さん、コバヤシさん、浅越さん、竹若さんの顔が見えて」って。じつはRGってバッファロー吾郎の木村さんに一番世話になってた男なんですよ（笑）。公私ともに渡って一番世話になった人の顔だけ見えてなかったっていう事件を起こしたんです。

――ガハハハハ！

ケンコバ　最初は緘口令を敷いたんですね、みんなに「この件は木村さんに言うな」と。あまりにも痛ましいと思って。でもどっからか漏れて、とうとうRGは絶縁宣言されました。「二度と俺に関わるな」って（笑）。レイザーラモンはデビューがバッファロー吾郎さんの舞台やったし、イベントでもゲストで呼んでもらったりしてましたから。さらに、僕らの一つうしろの席には、あいつが大阪時代に所属してた吉本新喜劇の座長とかもいたんですけどね、それも見えてなかったみたいで（笑）。HGは一人一人にお礼の電話したりしてたんですけど、RGは大事な人を見落としてるわ、俺にだけ「みんなに伝えといてくれ」みたいな電話で済ますわ。「皆さんによろしくお伝えください！」って。

――号泣しながら、凄い失礼なことを（笑）。

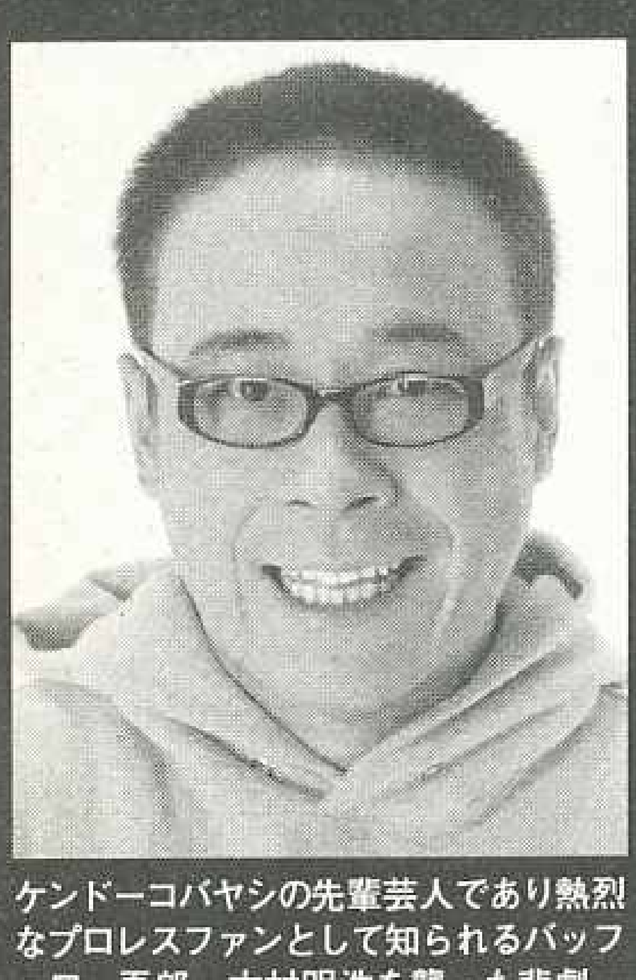
ケンコバ　今後の二人の明暗はクッキリ分かれたなっていう感じがありましたね。そのあと、レイザーラモンの二人とメシに行ったんですよ、焼肉でもおごったろうと思って。RGはずっと「見てくださいよ、この胸！」「天龍にグーパンチされた跡です、これが！　この腫れ、写真撮ってください！」って裸になって自慢してましたからね、焼肉屋で（笑）。

――ガハハハ！

ケンコバ　僕も凄いなと思ったから、「ほんま凄いなあ、よう頑張ったわ」って言ってたんですけど。でも、HGはあんまりそういうこと言わなかったんですね、HGの身体も腫れてるのは見えてたけど。

――身体中が真っ赤でしたもんね。

ケンコバ　で、気がついたらHGは耳に治療の跡みたいなのがあったんです。「おまえ、それどうしてん?」って聞いたら「じつは僕も気づかなかったんですけど、試合



ケンドーコバヤシの先輩芸人であり熱烈なプロレスファンとして知られるバッファロー吾郎・木村明浩を襲った悲劇…。さすがRGとしか言いようのない事件である。

中に耳が裂けちゃって4針縫ってきたんですよ」って。

——うわっ！

ケンコバ 「えっ、お前なんでそれ言わへんかってん？」って聞いたら、「いや、ケガなんか自慢するもんじゃないでしょ」って（笑）。で、RGが恥ずかしそうにスッと服を着だした事件があったんです。

——そこでも明暗分かれてますね（笑）。

ケンコバ そのあと、HGは「部屋戻りますわ」って言うて、RGと僕だけになったんです。「次はどこに行こうか？」って話になって。前にプロレスファンが集まるバーにRGを連れてったことあるんですけど。本人も手応えあったんでしょうね。「コバヤシさん、ちょっとあそこ行きませんか？」って自分から言ってきたんですよ。喝采を浴びたかったみたいで（笑）。

——プロレスファンが集まってるところに行けばチヤホヤしてくれるだろう、と。

ケンコバ 「正直、今日モテモテなんじゃないですかね、僕」みたいなことを言いだして。確かに僕も感動したのは真実ですし、今日ぐらいはいい思いをさせてあげたいって思って「よし行こう！　おまえ、グラサンとヅラと帽子を被って店に入っていけ」って言うて。RGも「もちろんそのつもりです」って。で、入ったんですけど、いまーつお客さんの反応が鈍いんですね。じつはその日、IMPホールで大阪プロレスのビッグマッチがあって、バーのお客さんはみんなでそっちを観に行ってたみたいなんです。

——『ハッスル』じゃなかったんだ（笑）。

ケンコバ 「あ、RGや」とは言われてたんですけど、さっき凄い試合したなんてことは誰も知らない状態で（笑）。

——貧乏クジ引きますねえ。

ケンコバ 結局、3～4言グチ吐いて帰りましたね。ちなみに、あの日はもう一人報われなかった人がいるんですよ。

——そうなんですか？

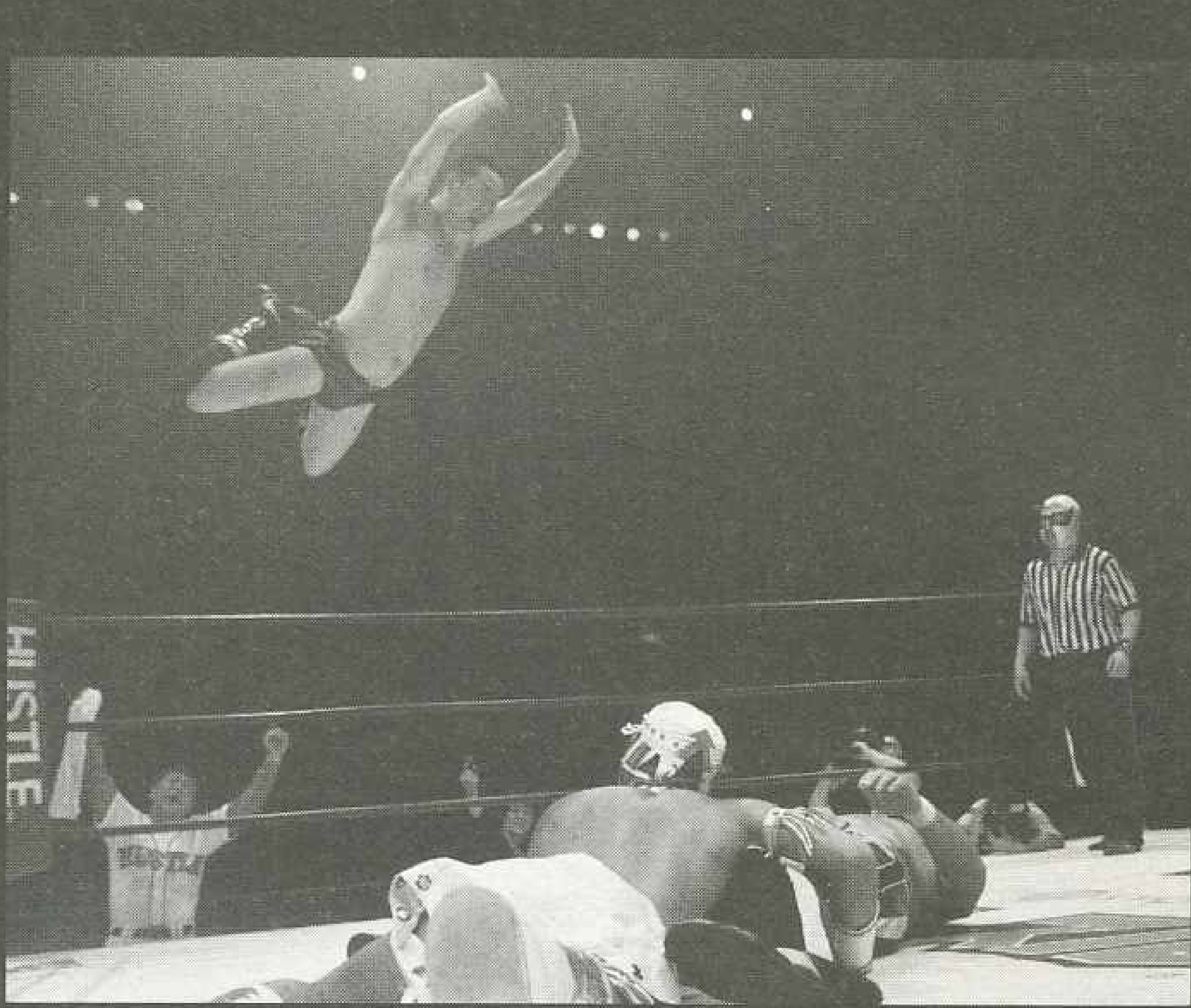
ケンコバ セミファイナルでタイガー・ジェット・シンが大暴れしてて、僕らの真ん前に来て。ちょうど僕の目の前にいた子どもが恐怖のあまり崩れてしまって。シンはどうするんやろうと思ったんですよ。子ども踏みつけていくしかないなって思ったんですけど、僕の甘さというか、子どもを助けちゃったんですよね。

——甘さって（笑）。

ケンコバ まあ、あたりまえなんですけど（笑）。シンが去ってグシャグシャになったあとにバッファロー吾郎の木村さんが「俺のビールがない！」って言いだして（笑）。「ビールどこや！」って探してたら、モニターに大映しで木村さんの飲んでたビールの缶で坂田を殴ってるシーンが映ってて（笑）。

——木村さんにとっても凄い一日ですねえ。

ケンコバ 「シンとRGは俺に触れるな」ってシンにも絶縁宣言しましたから（笑）。



ボコボコにされたレイザーラモン。RGは顔面が腫れ、HGは胸がドス黒く変色して完全にグロッキー状態。しかし、HGの雪崩式フランケンが天龍に決まり、RGが決死の覚悟でダイビング・ボディプレス！　観客がこの日、もっとも沸いたのがこの場面。情けなく、弱々しいけれど、なぜか胸が熱くなる、そんなシーンだった。

伝説その二

〝吉本の鈍獣〟と呼ばれた若手時代の衝撃秘話とは？

ケンコバ 今回のタッグ結成のタイミングは裏側から見ててよかったと思うんですね。ほんまにあいつら仲が悪い時期があって。

——いつ頃ですか？

ケンコバ ここ2年ぐらいずっと仲悪かったんじゃないですかね。

——HGさんがブレイクしたぐらいからですかね。

ケンコバ そうですね。で、RGが誕生したぐらいから、ほんまにけっこう険悪なムードやって。僕もなんとか取り持とうとはしてたんですけど、修正不可能やなっていうとこまでいってたんですよ。まあ、RGは鈍感なんで気づいてなかったんですけど（笑）。HGが「もうイヤです」と。

——そもそも仲が悪くなった原因ってHGさんがブレイクしたときに、RGさんがパクリで追っかけてきたっていうところが引っかかってたんですかね。

ケンコバ そうですね。

——でも、RGがHGをパクリを始めたのはケンコバさんのプロデュースですよね？

ケンコバ まあ、そのことは伏せてたんですけどね。HGをプロデュースしたことは大々的に言ってたんですけど（笑）。RGという不良債権を作り上げてしまったことはね……（渋い表情で）。

——番組の企画だったんですか？

ケンコバ いや、ほんまに飲んでる席です。HGがブレイクしたときに、RGが「これからどうしましょう!?」って言ってるから、一晩中「ツッコミでも勉強しろよ」って言うてたんです。それが一番正しいアドバイスやと思うんで。

——お笑い的にはそうですよね。

ケンコバ でも、あいつ「イヤです」って言うんですよ。「なんでや？」って聞いたら「あいつばっかり目立つでしょ」って（笑）。

——ガハハハハ！

ケンコバ 「あいつが目立つぐらいやったら僕が目立って共倒れのほうがマシです」とか言いだして。しかもけっこう本気で言うんですよ。やっぱり目立つほうがモテる、みたいなのがあるみたいで、地味な相方にはなりたくないらしいです。

——なるほど（笑）。

ケンコバ それで僕も、「もうええわ、好きにせい。おまえもリアルゲイとかやったらどうや？」みたいに言うたら、その日のうちにあの衣装を買い揃えてたんです（笑）。

——そもそも『ハッスル』に上がる前、若



容赦のない顔面蹴りとグーパンチが顔面に襲いかかる。こんな激しい攻撃はレスラー相手でも、めったにやらないんじゃないかというようなエグさだった。天龍がRGを認めたということか!?

―手芸人時代のレイザーラモンってケンコバさんから見ていかがでしたか？

ケンコバ 僕らのあいだでは「鈍獣」って呼ばれてたんですよ。なんせ鈍かったですね、お笑いに関して。飲み込みが遅かったです。

―そのあと、二人は吉本新喜劇に入ったんですよね。

ケンコバ そうです。あの二人が新喜劇に入ってちょっとしてからしゃべったとき、「どうやねん、新喜劇？」って聞いたら、「正直、新喜劇の仕組みがわかりました。観に来てください」って言われて。「え？ 入って数ヵ月でそんなこと言うんか？」って思って観に行ったら、うどん屋の客なんですね。オープニングだけ出るような。で、定番のギャグで、お客が帰ろうとして「いくら？」って言うたら「500万円」言うてみんなでバーッとコケるところがあるんですよ。周りがみんなコケてるのに、あいつら2人だけうどんを吐いて。そのあと片づけとかも自分らでやって、もの凄い間が悪かった（笑）。



試合後、リング上でがっちりと握手を交わすHG&RG。普段はボロクソに言い合っているが、ほんの数秒だけ視線を合わせずに握手を交わした。いいシーンだ！

―ガハハハ！

ケンコバ 慌てて楽屋に乗り込んで「あれか、お前らがつかんだっていうのは」「はい！」「周りはもの凄い迷惑やったぞ、あれ」って。

―いわゆるお約束のギャグですよね。

ケンコバ はい、転んどけってとこなんですけど。前途多難やなと思いました。HGは「あかん」って言うたら、気づいてちゃんとするようになって、全体を回すツッコミ役みたいなとこまでいったんです。ここが一番テクニックがいるとこなんです。RGはいつまでもうどん屋の客やったんですけど（笑）。ただ、HGも変わってて、そういう回しの役やから、いわゆる村の好青年とかそういう役なのに髪型をモヒカンにしちゃうんですよね。それで怒られたりしてましたけど（笑）。だから二人とも鈍獣は鈍獣やったんです。

伝説その三
激闘伝説
女子社員の悲鳴が響く阿鼻叫喚の大ゲンカとは？

―レイザーラモンは2005年ぐらいに東京に出てくるわけですよね。

ケンコバ 東京に行くときも、今回の府立終わりと同じ事件があって。HGはほんまに一人一人に直接挨拶に来て「東京に行くことになりました。お世話になりました」って。RGはメールで一斉送信したんです。「東京行きますYO！」みたいなこと書いてあって。

―ガハハハ！

ケンコバ 最低でしたね。僕は笑っちゃったんですど（笑）。

―大阪時代に二人が揉めてたりとかっていうのはご覧になりました？

ケンコバ これ、プロレス誌でこういうこと言っていいのかどうかっていう事件なんですけど、二人で殴り合いの喧嘩したことあるんですよ、楽屋で。そのときに、ほんまに学プロのクセが染みついてんねんなと思ったんですけど、マジのケンカやのに、HGは蹴り入れたときに手で自分の太股叩いたんですよ。

―ガハハハハ！

ケンコバ パーンと音させて。でも周りは「ウワッ！」ってみんなビックリして、スタッフの女の子とか泣きだしたりして。

―凄い音がしたもんだから（笑）。

ケンコバ でもRGはそんなこと関係なしに、こんなことケンカでもしたらあかんでっていうような、真正面からヒザを蹴るみたいなことしたんですよ（笑）。

―うわ、最低だ！（笑）。

ケンコバ はい、最大の禁じ手をやったんですよ。そのとき僕が「やめとけ！」って言うて。「原因はなんやったんや？」って聞いたら、RGが昼寝をしてて、HGが「そろそろネタ合わせしよう」って起こしたら、RGがいきなりキレたっていう（笑）。

―ほんとに鈍獣ですねぇ（笑）。

ケンコバ でも、なんだかんだ言いながらも、やっぱり愛されてますよ。ダメな息子ほど可愛いじゃないですけど、先輩たちのあいだで一番話題になってるのはあいつらですよ。「大丈夫か、あいつら？」って（笑）。そういう意味では相当に愛されてると思いますね。

―確かに愛されてますね、それは。

ケンコバ 「まあ、どうしようもないやろ」って結論でいつも終わるんですけど（笑）。

―では最後に先輩の立場から、今後のHGとRGの二人に期待することを聞かせてください。

ケンコバ そうですねえ……いっそのこと、しばらく『ハッスル』に専念したらどうかと思いますけどね（笑）。「もう無理や」っていうまで傷つくとこ観たい（笑）。プロレスファンとしては、大阪のラストで天龍源一郎選手に「シングルでやっていい」って言われてたのは、凄いことやと思いました。

―当然、ハードな試合になるでしょう。

ケンコバ やるからにはホントに勝ってほしいですね。

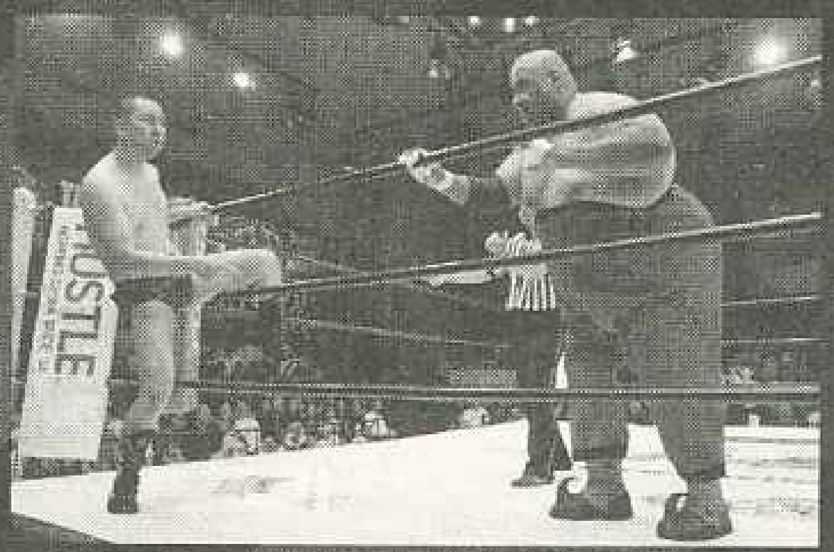
【07年5月3日／都内ホテルにて収録】



毒針エルボードロップでRGを始末したブッチャーは、リングインしてきたインリン様とともに勝利をアピール。ブッチャーが空手のポーズを決めれば、インリン様はムチを掲げる。う〜ん、フォトジェニック！



つかまらなければやられないという戦法でひたすら逃げまくったRG。ここ最近、後楽園で人気抜群のRGを相手にしても大「ブッチャー」コールが発生した。パウダー攻撃を繰り出したRGに地獄突きが炸裂。



インリン様の魔法のランプ、略してインランプから飛び出したのは“黒い呪術師”アブドーラ・ザ・ブッチャー！　RGはシン、川田、天龍に続いての大物だ。このヒリヒリとした間合い、まさに異次元対決！



3月以降のハッスルのオープニングはモンスターKの独壇場。「私より目立つな!」がログセの高田総統もギャグで応戦！　テツsndトモと同時期にブレイクしたダンディ坂野のネタで「ゲッツ！」



プロレスとお笑いの融合 ここまできたのは ♪なんでだろう〜？

5.9『ハッスル・ハウスvol.24』（後楽園ホール）大会レポート

撮影／平工幸雄　構成／坂井ノブ

「♪なんでだろ〜　なんでだろ〜」とテツandトモが歌って踊る真ん中で、黄色いジャージを着た〝モンスターK〟川田利明が右手と左手をクロスさせながら踊っている。5月9日の『ハッスル・ハウスvol・24』のオープニング劇場の場面だ。

今年に入り、芸達者ぶりをいかんなく発揮しているモンスターKはコブクロの『桜』を歌い、NHK紅白歌合戦でブレイクした『千の風になって』を熱唱し、ムーディ勝山とともに『右から左へ受け流すの歌』を歌い上げた。もはや〝鉄板〟といえるだろう。

一方でHGとRGは4月の『ハッスル22』で天龍&川田にボコボコにされながら、肉体を痛めつけて芸人魂を発揮、いままでのハッスルにはない激しい一面を見せつけた。

今年3月から再スタートを切ったハッスルでは、プロレスラーが芸能に足を踏み入れ、芸能人がプロレスの洗礼を受けている。そう、モンスターKが「♪なんでだろ〜」とクロスさせた両手のように、芸能とプロレスのクロスオーバー現象が起きているのだ。

では、クロスオーバーするのはなんでだろう？　現在のハッスルは地上波放送獲得へ向けてのラストスパートに突入している。現在、スタートから4年目のハッスルは、旗揚げから3年間で確立した世界観を深めていく作業に取りかかっている。芸能とプロレスが〝接触〟する段階は終わり、〝融合〟していく段階なのだ。それを地上波放送という巨大なメディアに乗せてこそ、ハッスルはさらに大きな広がりのあるステージに進むことになるはずだ。

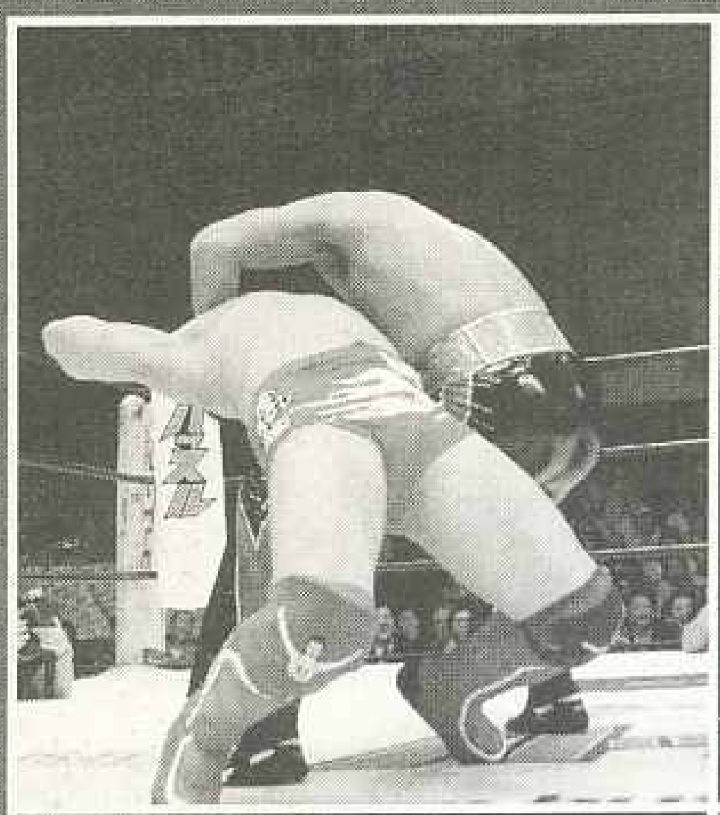
これぞ新感覚 プロレス!!

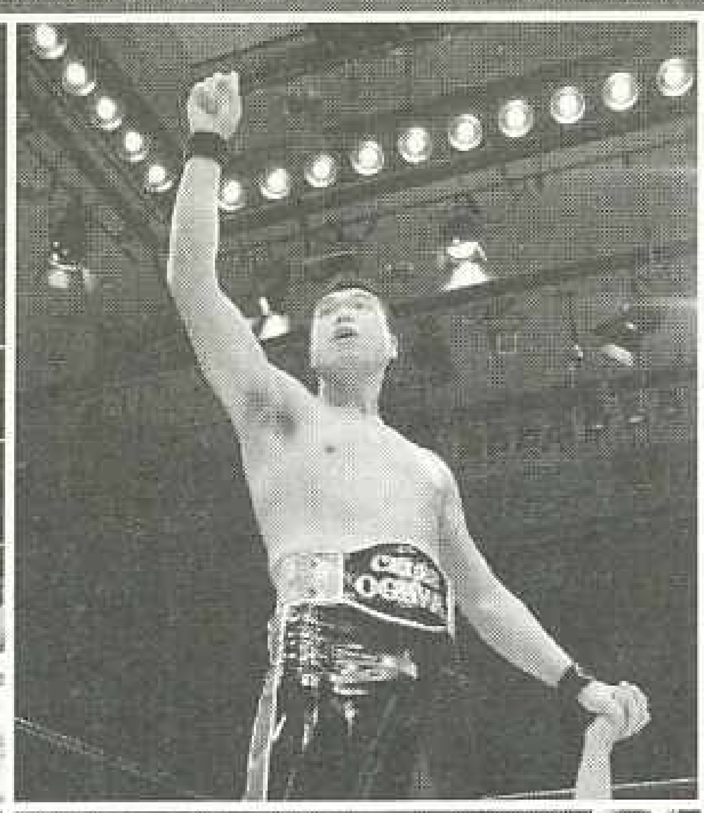


「熱い空気が一瞬で凍る!」(by髙田総統)

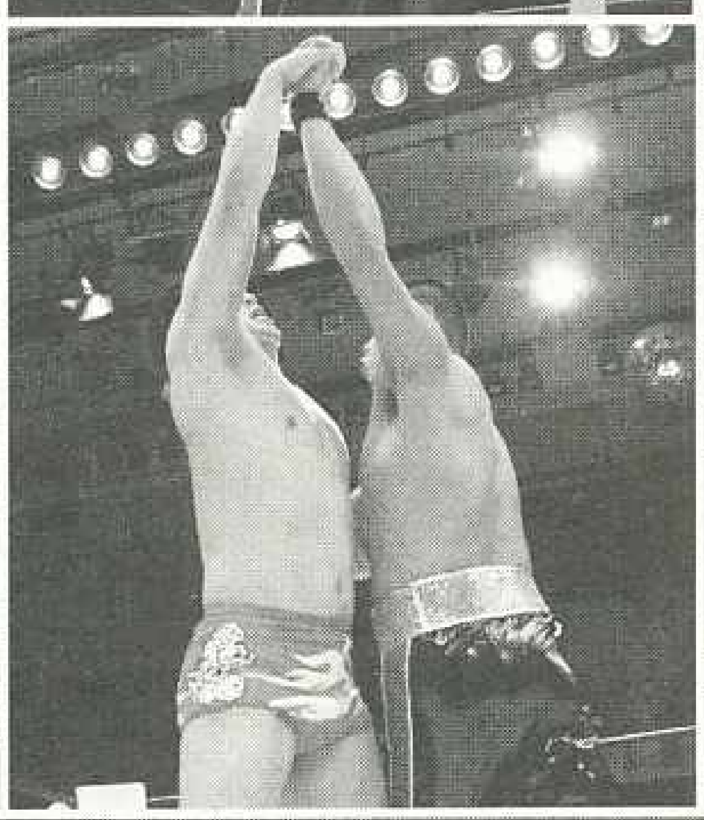
凄まじい内容に中毒者が続出!

これがセレブだ!! 徹底図解









セレブたる者、優雅でなければならない。社交ダンスを得意とするセレブ小川は崔を抱き起こすとダンスを踊るように足払い。倒したあとは美しいお辞儀。流れるように一連の動作を行なう。この技、対戦相手はもちろん観客も受け身が取れないぞ!!



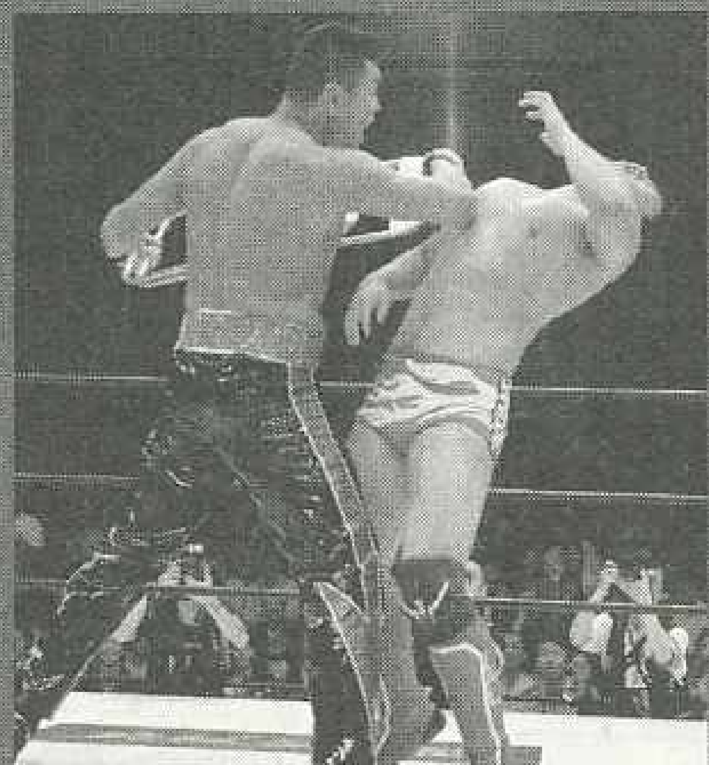
「¥マーク」をそのまま崔の喉に突き刺す！あまりの衝撃に観客は声を失なってしまう。



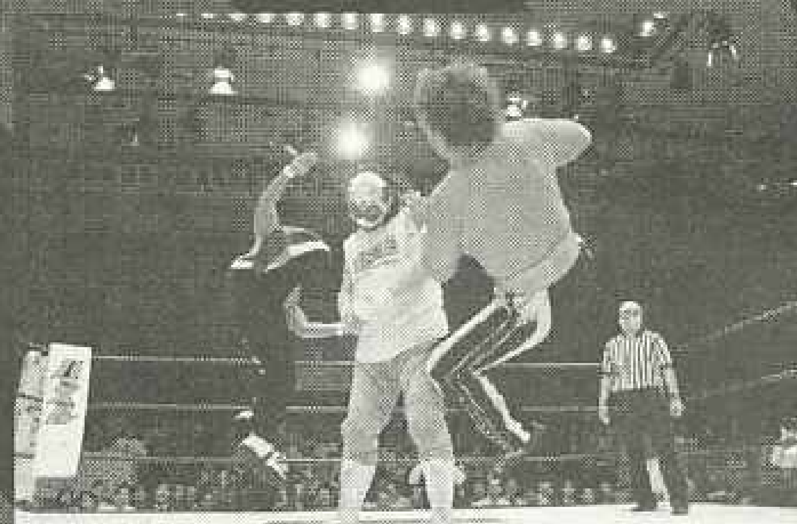
右手で「¥マーク」を作って観客にアピール。しかし、銭ゲバに飛ぶ歓声は少ない。



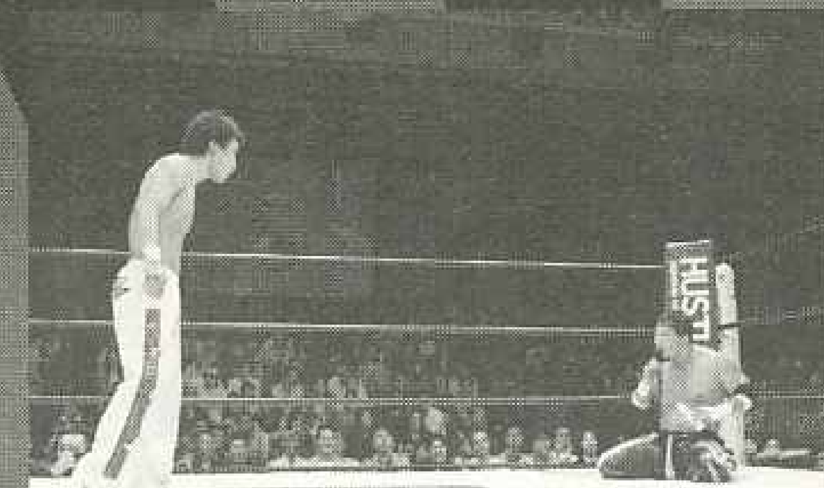
試合後は“プチセレブ”島田二等兵とマネーポーズ。中毒者からは惜しみないブーイング！



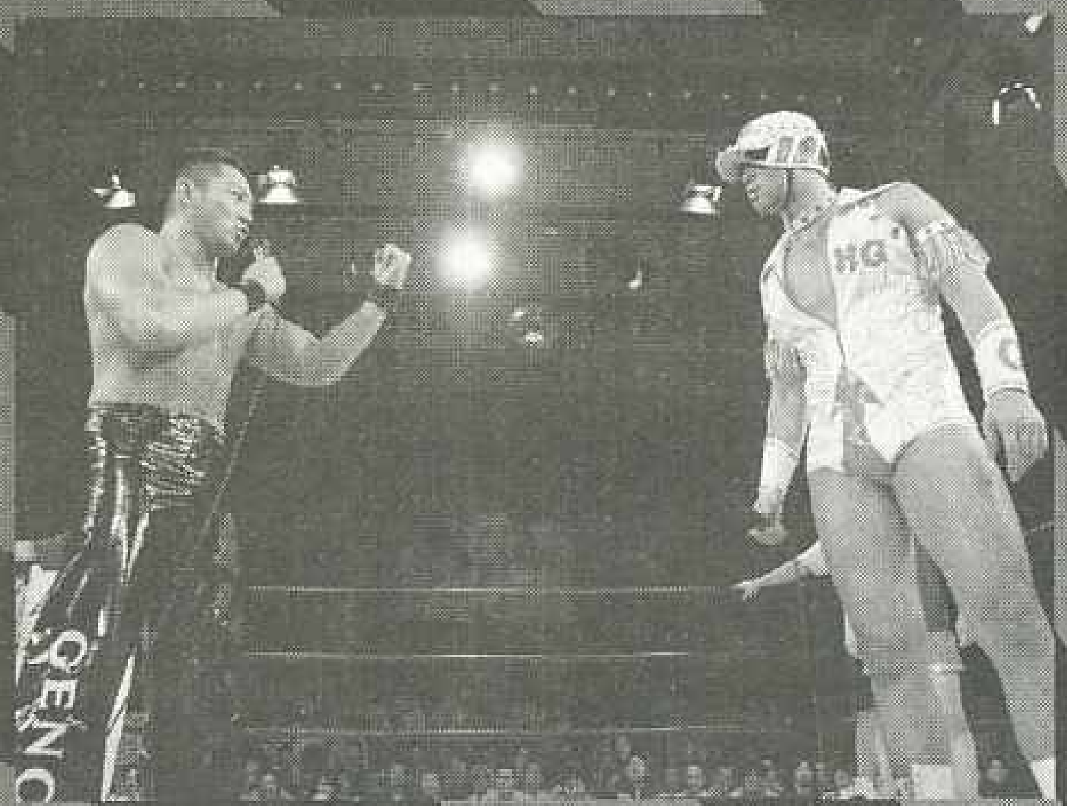
セレブの持ち物は高価。フィニッシュに使用するのは金色に輝くゴールデンチェアーだ。



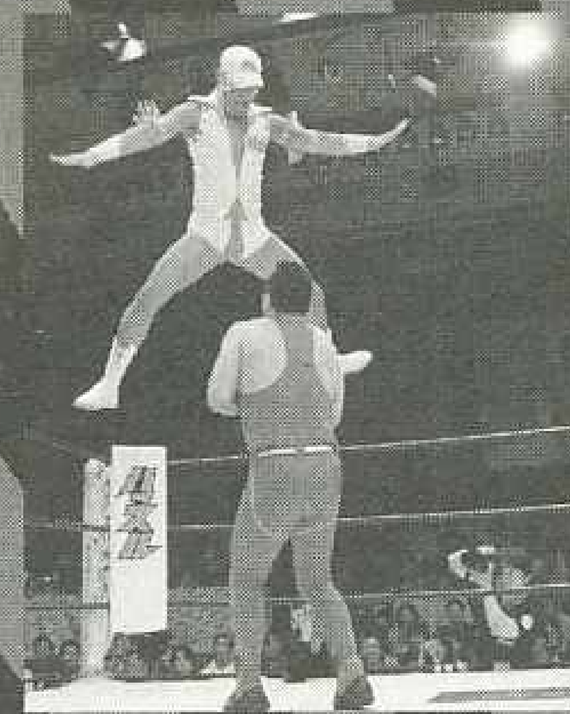
金村そっくりのキンターマンと黒田そっくりのクローダーマンが天龍＆川田を相手にド派手な場外乱闘を繰り広げたが、最後はキンターマンのマスクも吹っ飛ぶサンドイッチ延髄斬りでフィニッシュ。



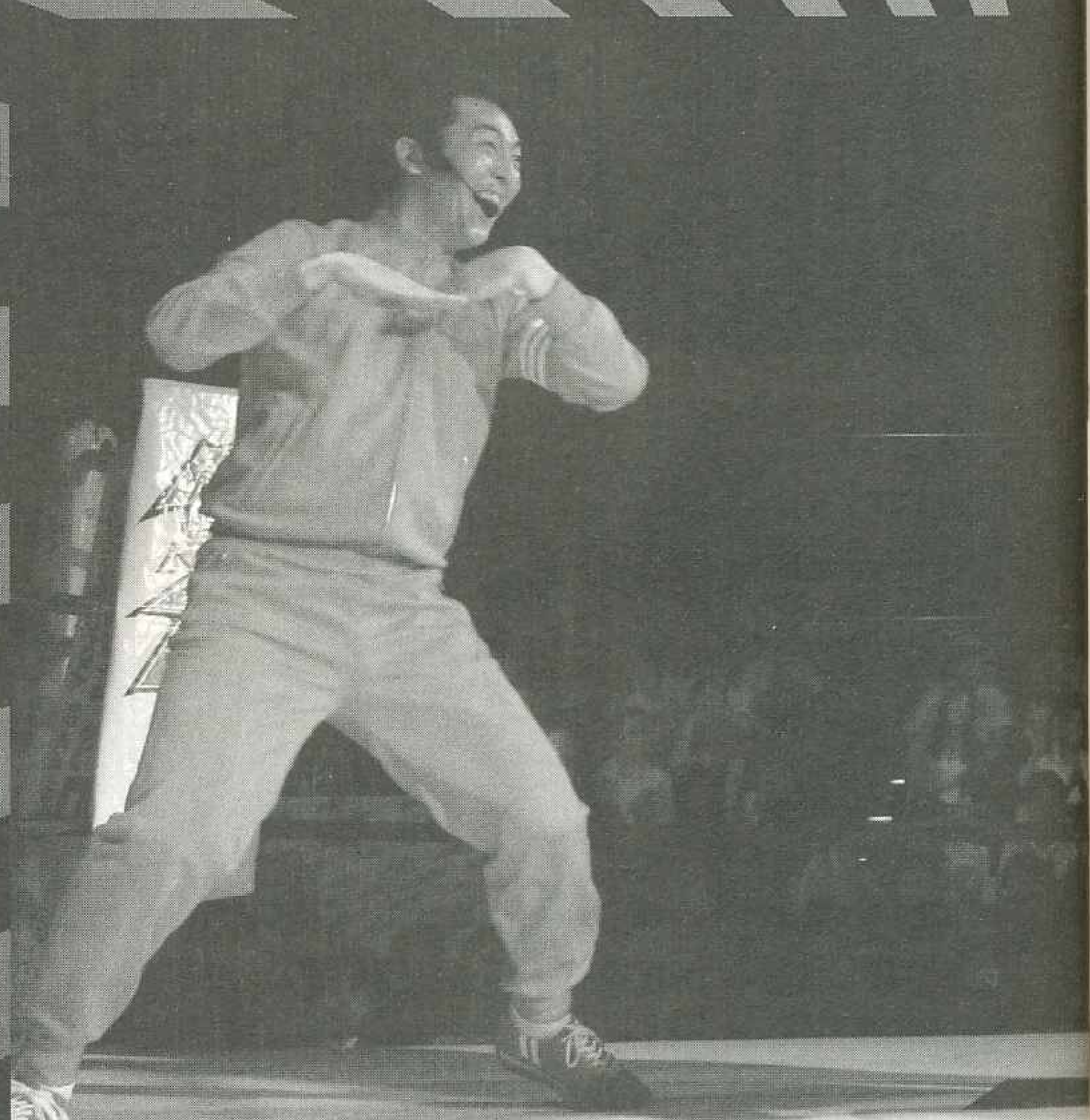
イン乳を飲んで洗脳されてしまったTAJIRIの変わりはてた姿にKUSHIDAは絶望。6.14『ハッスル・ハウス』後楽園大会でのシングルマッチが決定。洗脳後のTAJIRIはホントに気味が悪い!!



総統が一方的に天龍とHGのシングルマッチを発表すると新生ハッスル軍の坂田も黙ってはいない。「セレブ気どりの小川とやらせろ」とアピール。髙田総統は「特別ルールで闘わせてやる」と承認した。



空から股間が降ってきた!! ひさびさに後楽園ホールでの試合に挑んだHGはモンスター軍を翻弄。フィニッシュはコーナーから相手の顔面に股間を豪快に押しつける荒業だ。





髙田総統は天龍のリクエストに応えて6.17『ハッスル・エイド2007』(さいたまスーパーアリーナ)でのシングルマッチを決定した。天龍は「住谷君、おまえはタチの悪いシロウトだ」と断罪！


越中詩郎が
“人生相談、
やってやるって!!”
解決してやるって！
ダナ・ホワイトも腰を抜かす
最強のプロ格サイト
kamipro Hand
『kamipro』本誌、3号連続登場の越中詩郎がついに『kamipro Hand』まで進出！　苦労人の人生相談は絶対心にしみるって！　『kamipro』読者もいますぐ人生相談しろって!!
ユーザー待望のコラムが6月、ついにスタート!!
毎日更新コラムも登場！
青木真也の日記スタート！

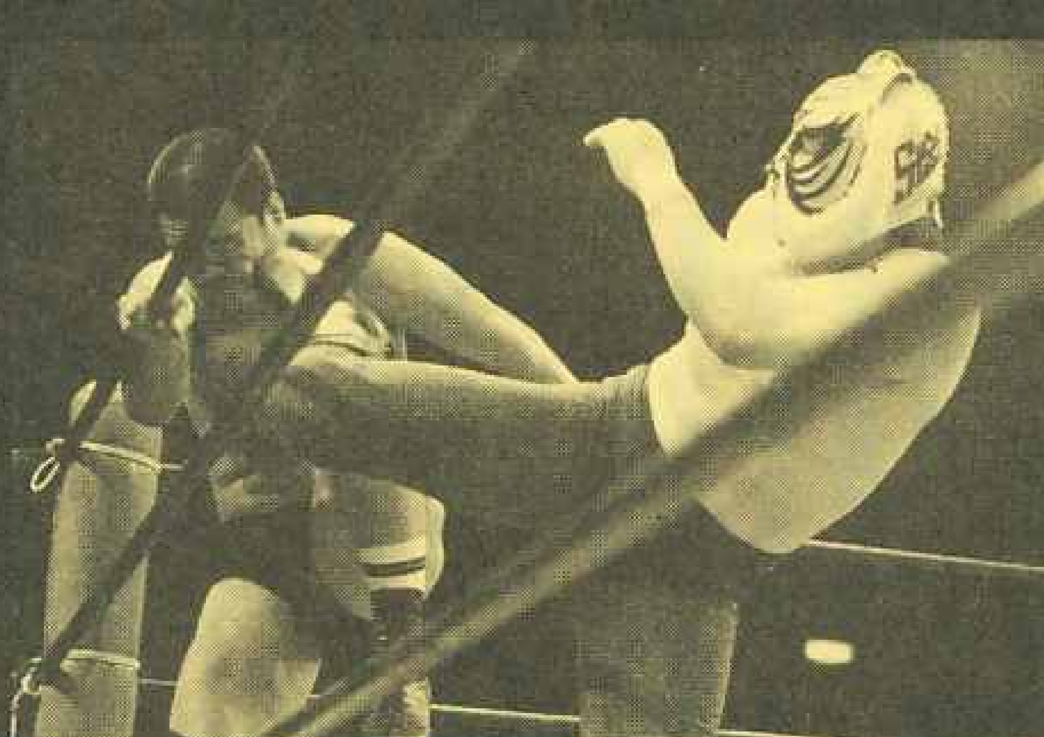


桜庭和志×田村潔司のルーツを探れ!

語ろう! U.W.F.

～"変態"座談会～







4.8『PRIDE.34』でのビッグサプライズによって、いよいよ実現機運が高まってきた桜庭和志vs田村潔司戦。この一戦を解き明かすキーワードとして、またにわかにUWFがクローズアップされつつもあるが、最近のPRIDEファンの中には、UWFを知らない新しいファンが大多数。そのためイマイチ、ピンときてない現実を踏まえ、UWFに変態的なこだわりを持つ男たちが緊急集合。UWFとは何か、桜庭vs田村の因縁とは何か、をいまこそ語りつくします!



三沢が佐野戦の前に「最強の挑戦者だ」って言ってたのが、なぜか無性に嬉しかった（笑）（井上）

原タコヤキ君（以下タコ） え〜、本日は花の金曜日の夜にも関わらず、UWF変態座談会にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます！

堀江ガンツ（以下ガンツ） 30代も半ばを迎えたいい大人たちが、周りはカップルだらけの中でUWFをおおいに語ってしまおうという、素晴らしい企画ですね（笑）。

井上崇宏（以下井上） 俺、今日は風邪で体調最悪なのに、何やってんだろうなって（笑）。

椎名基樹（以下椎名） ここに来る前の仕事で、「これからUWFについて語らないといけないので、ケツがある」って言ったらみんなに爆笑されました。

タコ もう人には言えない空気ですわ（笑）。まぁ、4・8『PRIDE・34』で提示された桜庭和志vs田村潔司戦が実現するかどうか知らんけど、最近の読者には、UWFを知らん若い人も多いんで、桜庭や田村たちのルーツであるUの魅力っていうものをもういっぺん再検証しましょうと、〝変態〟の皆さんに集まっていただいたんですよ。

ガンツ 今日のメンバーは桜庭と田村あたりは、デビュー当時から観てる筋金入りばかりですからね。

椎名 ガンツは**第一次UWF**からファンだったんでしょ？

ガンツ 小学5年生からUWF信者でした。

タコ どんな小学生や（笑）。

椎名 **第二次UWF**は？

ガンツ 新生Uも好きでしたよ。日本武道館とかに〝**密航**〟してましたから。

椎名 俺は第1次UWFを完全にガチだと思って好きになったから、新日本にUターンしたあとは、「うわっ、やられた！」って嫌いになっちゃったの。

井上 越中詩郎と激闘後のU戦士に、すでに闘う気力は残っていませんでしたか（笑）。

ガンツ ボクは新生UWFオフィシャルファンクラブの会員ですからね。ホラ、これが会員証（と言って見せる）。

井上 すげ〜！ じつは俺も今日、Uインターのマグカップ持ってきてるんですよ（笑）。

タコ なんでかばんにマグカップ入っとんのや（笑）。

椎名 俺は持ってきてないけど、『**UWF無限大記念日**』で木戸修が投げたカラーボール取ったよ。あと、リング上でチャリティオークションやってて、ラッシャー木村のパネルを10円で競り落としたり。

ガンツ 『無限大記念日』行ってたんですか！ うらやましいな〜。僕は当時出始めのレンタルビデオで観ましたよ。なぜかタイトルが『**さよならザ・タイガー**』っていうビデオ（笑）。

井上 第一次UWFって、試合映像の通販サービスやってましたよね。俺、買ってたよ。VHSのテープにダビングされただけのヤツだけど（笑）。

椎名 売ってた！ あのときの熱は凄かったよ。高1のときに第一次Uの末期で、磐田市にUWFが来るっていうんで、先生に部活休むってまで言って、静岡から磐田まで行ったもん。行ったら、中止になっててビックリしたけど。なんの予告もなしに（笑）。

タコ さすが第一次Uやなあ（笑）。

椎名 あの頃、佐山（サトル）がまだサマーソルト・ドロップを使ったりしてたんだけど、タイガーマスク時代のフワリじゃなくて、凄く素早くダーン！って落ちるやつでさ、「あ、ガチンコだからこうなんだ！」って思ったからね（笑）。

ガンツ あとスーパー・タイガーが途中で素顔で闘い始めたとき、「やっぱり真剣勝負のシューティングにマスクは必要ないよな」と、妙に納得しましたよね（笑）。

椎名 そうそう。あとチキンウイング・フェースロックとか、UWFで使ってた関節技の理にかないっぷりね。ビジュアル的に全部理にかなってるんだよ。

井上 確かにアキレス腱固めにしても、脇固めにしても、やってみると全部痛いっていうのはありましたよね。あれでプロレスごっこの体系もずいぶん変わりましたよ。

椎名 でも、いまバーリ・トゥードを観ると、チキンウイング・フェースロックとか、腕まで極める必要ねぇじゃねぇかって（笑）。

ガンツ それこそ、『**ケーフェイ**』じゃないけど〝**半ば永久に決まらない技**〟ですよね（笑）。

タコ でも、そこで組長（藤原喜明）なんかもいい仕事してるやないですか。「1ミリずれたら関節は極まらない」って言ったりして。ところが、いまバーリ・トゥード観てもけっこうみんな雑な入り方してるやん（笑）。

椎名 藤原が頭突きをやる、やらないで揉めたりしなかった？ ルールで髪をつかむのがいけないとかで。

タコ あった。そうやってルールをアングルにしてるわけやろ？ やっぱりUWFはプロレスの歴史の中では凄く斬新なことやってたんですよね。

椎名 そういうのを考えたのは、きっと全部、佐山だよね。天才すぎると思うよ。

井上 あとUWFで良かったのは、あのレガースを着けたときのキックの音！ ピッチャーをその気にさせるのが上手なキャッチャーのミット音ですよ、あれは（笑）。

椎名 あのレガースの音があることで、痛み

UWF変態座談会に集まった
筋金入りの“変態”プロフィール



椎名基樹

本誌の好評長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみのフリーライター。放送作家。構成作家。UWF、真剣勝負、タイガーマスクにあくなきこだわりを持つ。

【私のU系オールタイム、ベストレスラー】
佐山サトル、前田日明、藤原喜明、ミスター空中、ノーマン・スマイリー

【私のU系オールタイム、ベストバウト3試合】
田村潔司vs山本宜久（96年12月21日、福岡国際センター）
スーパー・タイガーvs前田日明（85年1月7日、後楽園ホール）
スーパー・タイガーvs藤原喜明（85年1月16日、大阪府臨海スポーツセンター）

【上記を選んだ理由】
フィニッシュの飛びつき逆十字が凄いから。フィニッシュ前のビンタが凄いから。腕を折った藤原が「オレは同志になんてことをしてしまったんだ」と嘆き、折られた佐山が「気にするなこれが俺たちのプロレスだ」的なこと言ったところ。



井上崇宏

携帯サイト『スカパーバトルLIFE!!』制作に携わっていたペールワンズの総帥。髙田延彦にあくなきこだわりを持ち、かつては「アイ・アム・プロレスラー」Tシャツも制作。

【私のU系オールタイム、ベストレスラー】
1992年10月23日の髙田延彦

【私のU系オールタイム、ベストバウト3試合】
髙田延彦vs北尾光司（92年10月23日、日本武道館）
髙田延彦vsトレバー・バービック（91年12月22日、両国国技館）
安生洋二vsゲーリー・オブライト（91年8月24日、静岡産業館）

【上記を選んだ理由】
「男性の気になるカラダの部分は?」との問いに、女子が「手」と答える感覚が長年理解できなかったが、こないだ天龍のゴツい手を間近で見たとき、瞬間的に「この手で髪の毛 触られてえ……」と思った。髪の毛といえば第二次UWF時代、船木は宮戸に「猪木さんと同じ髪型にしませんか?」と進言されたらしい。宮戸が最初に猪木化計画を目論んだのは船木だったか。そんな船木も当時最高に驚いたという高田vs北尾の衝撃の結末!! 鳥肌立った!!



堀江ガンツ

本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的UWF信者として鳴らし、『kamipro』編集部に入ってからも、UWF研究家を自称。とくにリングスの謎究明にあくなきこだわりを持つ。

【私のU系オールタイム、ベストレスラー】
前田日明、ヴォルク・ハン

【私のU系オールタイム、ベストバウト3試合】
田村潔司vs山本宜久（99年6月24日、後楽園ホール）
A・コピィロフvsカステロ・ブランコ（99年12月22日、大阪府立体育会館）
前田日明vsドン・ナカヤ・ニールセン（86年10月9日、両国国技館）

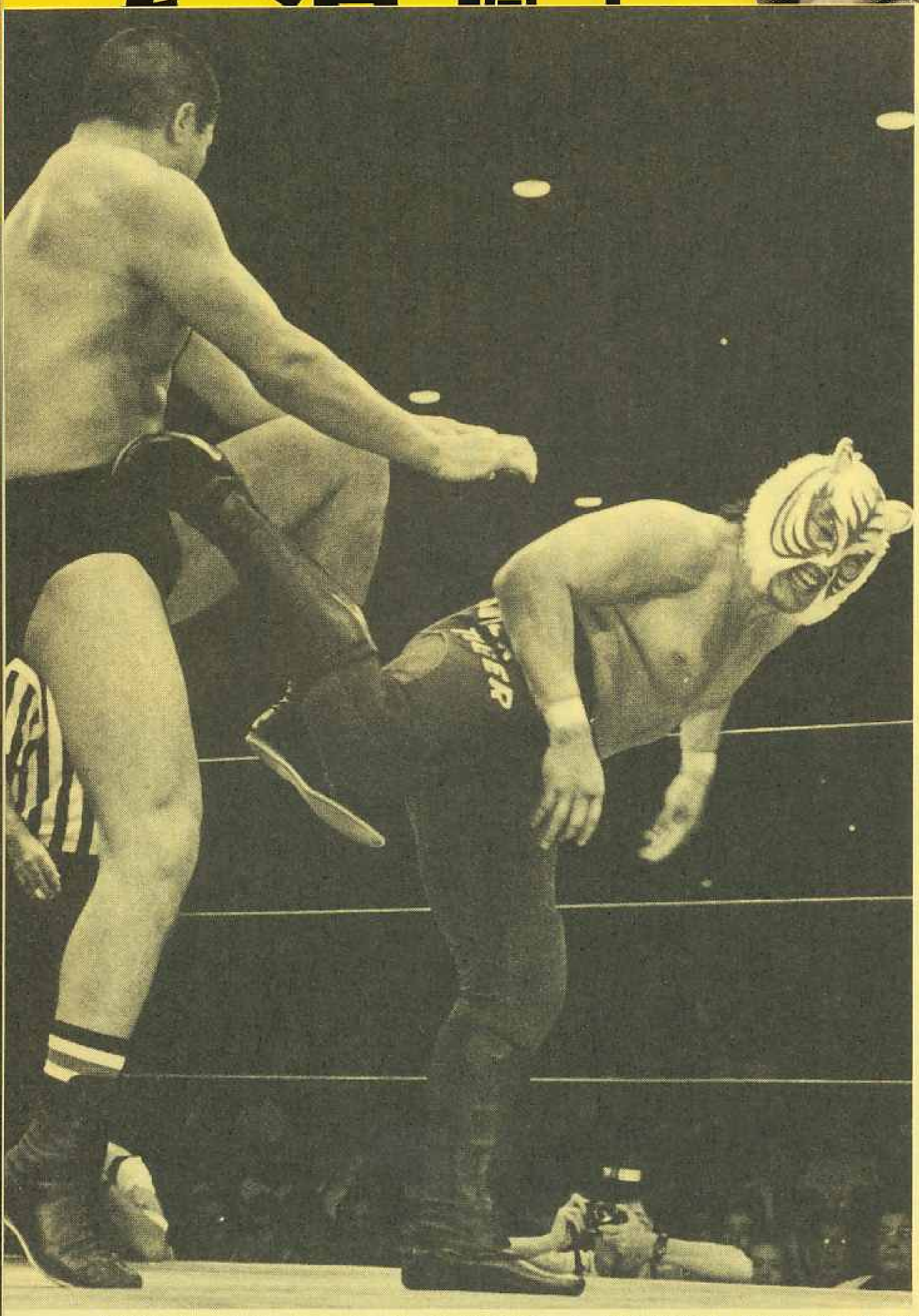
【上記を選んだ理由】
田村vsヤマヨシは、サミングを繰り出すほどのガチンコの潰し合いをやった両雄が、その3年後にU系史上最高の名勝負を展開。この試合こそUWFスタイルの総決算であり到達点。この後、リングスはリアルなKOKに移行するが、コピィロフの16秒勝利はリアルが生んだ超ファンタジーだ。



カリスマ司会者プロフィール
原タコヤキ君

元・小さい版型だった頃の『紙プロ』編集者。カリスマ司会者の名をほしいままにし、UWFにはたいしたこだわりはないが、自転車にはあくなきこだわりを持つ。

が伝わるんだよね。見た目もカッコよかった！　あと宮戸（優光）のローリングソバットの威力が1トンみたいな話とか。
ガンツ　テレビ番組かなんかでUWF各選手のキック力を測定したんですよね。
井上　でも、Uインターにバッドニュース・アレンが参戦したとき、宮戸のソバットくらってもダウンしなかったんだよな。ちょっとキョトンとしてて（笑）。
タコ　不思議やなぁ、1トンのはずやのに（笑）。
椎名　でも、第二次もそうだけど、第一次UWFってガイジンがみんな日本人に負けてたじゃん。それ観て、俺は当然だって思ってた。「だってあいつらシューティングがわかってないもん。無理だよ」って（笑）。
ガンツ　全日本プロレスで大物だった**マーク・ルーイン**が、若手の高田（伸彦・当時）にコロッと負けたりしてましたからね。
椎名　あと第1回UWF公式リーグ戦で木戸修が優勝したじゃん。それで完全にガチだと思い込んだ。
井上　佐山、藤原、前田ら大物が揃う中での木戸優勝はそう思いますよね（笑）。
タコ　それまでのプロレスじゃあ、およそ優勝しそうなタイプじゃないもんなぁ。
ガンツ　あと旧UWFって、エースであるはずの前田が勝てないところにリアリティがありましたよね。前田が**AリーグからBリーグに格下げ**になったりして（笑）。
椎名　いま考えたら、そういうことが全部計算ずくだったのかと思うと、凄いよね。
井上　そういえば、この前のノアで三沢（光晴）vs佐野（巧真）のタイトルマッチがあったんだけど、三沢が試合前、「いままでで最強の挑戦者だ」って言ってたんだよ（笑）。
ガンツ　それって、佐野がいま、木戸の役をやってるってことなんですかね（笑）。
椎名　ダハハハハ！　じゃあ、いまだにUがアングルとして使えるってことだ。
井上　それがなぜか無性に嬉しくて（笑）。
タコ　ホンマにどいつもこいつも変態ばっかりや！　話を戻すと、そのUWFがあったからこそ、『PRIDE』が生まれたと思うんやけど、君らみたいな〝変態〟は別にして、いまのPRIDEファンには、桜庭vs田村戦へのニーズってあるのかね？
ガンツ　「よくわからないけど、ありがたいものなんだろうな」って感じでしょうね。だって桜庭vs田村を一番観たかったのって、田村がリングスでヘンゾ（・グレイシー）に勝って、桜庭がホイスに勝った頃ですからね。もう7年も前ですよ。
井上　その頃の桜庭vs田村の興味っていうのは、言ってみれば総合のアイドル的な存在だった桜庭が、田村に対してだけは「日本人で唯一素手でぶん殴れる相手」とかってキラーなこと言ってる、と。そんなキラーモードな桜庭も観てみたいっていうことだったわけで。
椎名　いまは桜庭と田村、どっちが強いか知りたくないの？
井上　そこはちょっとですね、田村潔司が年齢やキャリアのわりに異常にコンディション良さげなのが気になるわけですよ（笑）。確かにUには、藤原組長の「最強は長生きした人間！」っていう理論もあるんですけど。
ガンツ　田村はいまだにメチャクチャいい身体してますからね。
井上　たとえば髙田vs田村戦は昔、田村がリング上で「髙田さん、真剣勝負してください！」って直訴したという、ちゃんとしたストーリーがあったじゃない。その訴えに髙田が最後の最後に応えるかたちで、真剣勝負のリングで引退試合の相手に田村を指名したっていうのはやっぱシビれるし、キッチリKOで介錯した田村にもシビれたんだけど……あの時点でさえ、じつは東京ドームはポカンとしてたもんね。
タコ　あの頃からすでに、『PRIDE』から観始めたファンが多かったんやろうな。
井上　だからいろんな意味で、あの髙田vs田村戦がUインターの総決算だったと思うんですよ。あれを節目に『PRIDE』の世界観もガラリと変わってブレイクしたし。前号で谷川（貞治FEG代表）さんが「どうしてそんなに桜庭vs田村戦にこだわるの？」って言ってたけど、それにはボクも凄く共感できるんですよ。
ガンツ　試合が観たいというより、二人がリング上で顔を合わせるということには意味があると思いますけどね。だから、ある意味、4月8日のリング上での握手が終着駅であってもいいし、試合が実現したとしても「観させていただきます」っていう、儀式的なものになるような気がします。
タコ　日本らしい、枯れた味わいの総合格闘技みたいな（笑）。
椎名　昔、桜庭の「ぶっ殺してやる」発言があった頃に実現できてりゃ凄い盛り上がったんだろうけどね。ところで、そもそもなんで桜庭が「ぶっ殺してやる」って言うほどの因縁が生まれたの？　そこらへんがイマイチわからないんだよね。
ガンツ　その因縁のルーツについてはですね、自称・UWF研究家として、今日はちょっと考えてきたんですよ。
井上　おお、今月もまたイタコに霊が降りるか？（笑）。
ガンツ　最近、『**1976年のアントニオ猪木**』という本が出ましたけど、〝1995年の田村潔司〟っていうのが桜庭vs田村の因縁のルーツとなるキーワードなんじゃないか、と。
タコ　1995年の田村に何があったん？
ガンツ　『1976年のアントニオ猪木』って猪木さんが76年にやったvsモハメド・アリ戦、vsパク・ソンナン戦、vsアクラム・ペールワン戦という3つのリアルファイトと、初の



本格的なキックといったファイトスタイルだけでなく、ルールや試合形式、興行形態にいたるまで、のちの総合格闘技に通ずる数々の実験を行なったスーパー・タイガーこと佐山サトル。4.8『PRIDE.34』でサクがこのスーパー・タイガーモデルのサクマスクを被って登場したが、『PRIDE』もやはりルーツをたどれば佐山に行き着くのだ。

や
〝人
越
解

異種格闘技戦であったvsウィリエム・ルスカ戦を含めた〝異常な4試合〟がその後のプロレスを変えたという話ですよね。95年の田村潔司もvs垣原賢人戦、vsゲーリー・オブライト戦、vsパトリック・スミス戦という3つのリアルファイトと、「髙田さん、ボクと真剣勝負してください！」という掟破りの発言。この4つが、その後のU系を大きく変えて、桜庭vs田村のルーツでもあったんじゃないか、と。

タコ ほうほう、そのへんのことが全部95年に起こってたわけやね。

ガンツ で、なぜそういう試合が生まれたのか、その背景を説明しますと、前年である94年の末に安生（洋二）による**ヒクソンの道場破り失敗**があるんですよ。

椎名 あれはインパクトあったね〜。

ガンツ でも、あの事件を境にUインターは急速に求心力を失なっていって、伝え聞く話によると、エースである髙田も急速にプロレスへの情熱を失なっていったと。

井上 確かに、それからしばらくしてから**「きわめて近い将来引退します！」**って言っちゃってました。

ガンツ まぁ、それに対して、当時の旧『紙のプロレス』は「髙田やめるな！ 他、同様のはがき2通」とか、ひどい表紙コピーを打ってましたけどね（笑）。

タコ あったな〜。ホンマ、タチ悪いわ。

ガンツ で、その時期っていうのは、髙田延彦に情熱が薄れてきただけじゃなく、宮戸、安生の取締役コンビの仲もギクシャクしてたんですよ。そんな中で、田村と垣原を中心にした若手はけっこうまとまってて、自分らが中心になって団体を盛り上げていこうみたいな熱はあったようなんですね。

椎名 山ちゃん（山崎一夫）は、どうしてたの？

ガンツ 当時を知る人の証言によると、鍼灸師の資格取得に忙しくて、ほとんど道場に来てなかったそうです（笑）。

椎名 なるほど。それでその後、治療院開業したんだ（笑）。

ガンツ で、当時の田村と垣原って、新生UWF時代の同期である富宅（飛駈）を通じて、プライベートでパンクラス勢と交流があったんですよ。そういったこともあって、若い選手のあいだでは、Uインターのリングを〝パンクラス〟のようにしたい、という意向があったようなんです。要は船木たちがパンクラスを作る直前の藤原組みたいな状況だったんだと思うんですよね。

井上 それは、俺の髙田をはずして新団体を作ろうっていうこと？

ガンツ いや、新団体ではなく、Uインターの闘いの質を変えようという団体内の運動だったと思いますね。〝田村革命〟とでもいいますか（笑）。実際に96年2月の田村vs垣原戦は、まさにパンクラスと同質の試合をやったわけですよ。その証拠に、当時、ほとんどUインターを扱ってなかった『**格闘技通信**』が、この田村vs垣原戦だけ、突然カラーページで大きく扱ったりしてましたから（笑）。

タコ 谷川さんも露骨やなぁ（笑）。

ガンツ そして6月に田村vsオブライトのいわゆる〝セメントマッチ〟があるんですけど、なぜこの二人の試合が〝セメント〟になったのか、自称・研究家としても長年の謎だったんです。〝第二の前田vsアンドレ戦〟なんて呼ばれてるとおり、オブライトが田村を潰しにきたんだろうけど、オブライトが田村に対して〝仕掛ける〟理由が見当たらないんですよね。

椎名 前田vsアンドレみたいな〝陰謀〟とかがないんだ。

ガンツ でも、これは発想を逆にしたら、その理由が見えてくるんです。仕掛けたのは、当時、Uインターの〝完全実力主義化〟に燃えていた田村のほうなんじゃないかって。

タコ ほう！

ガンツ だから、そんな試合はやりたくないオブライトは、試合前からイスぶん投げたりして荒れてたし、田村との2連戦後、Uインターを辞めて全日本に移籍してしまった、と。

馬場さんがシュートを仕掛けて団体を離脱するような〝問題児〟をわざわざ迎え入れるとは思えないから、これはやっぱり仕掛けたのは田村のほうなんじゃないかと。

井上 ほぉ〜、じゃあ田村がその試合後に泣いたのはなんだったの？

ガンツ そのときのコメントから推測するに、いまの『PRIDE』とかと同じように、リアルファイトでいい試合をしようと思っていたのが、オブライトのほうはそんなつもりはなく、不細工な〝セメントマッチ〟になっちゃったので、その悔し涙だったと思われます。

椎名 じゃあ、なんで田村はわざわざオブライトとシュートをやろうと思ったの？ それがやりたかったら、垣原とか桜庭、金原みたいな若手日本人選手相手にやればいいんじゃないの？

ガンツ それもUWF研究家として考えたんですけど。

タコ いろいろ考えるなぁ（笑）。

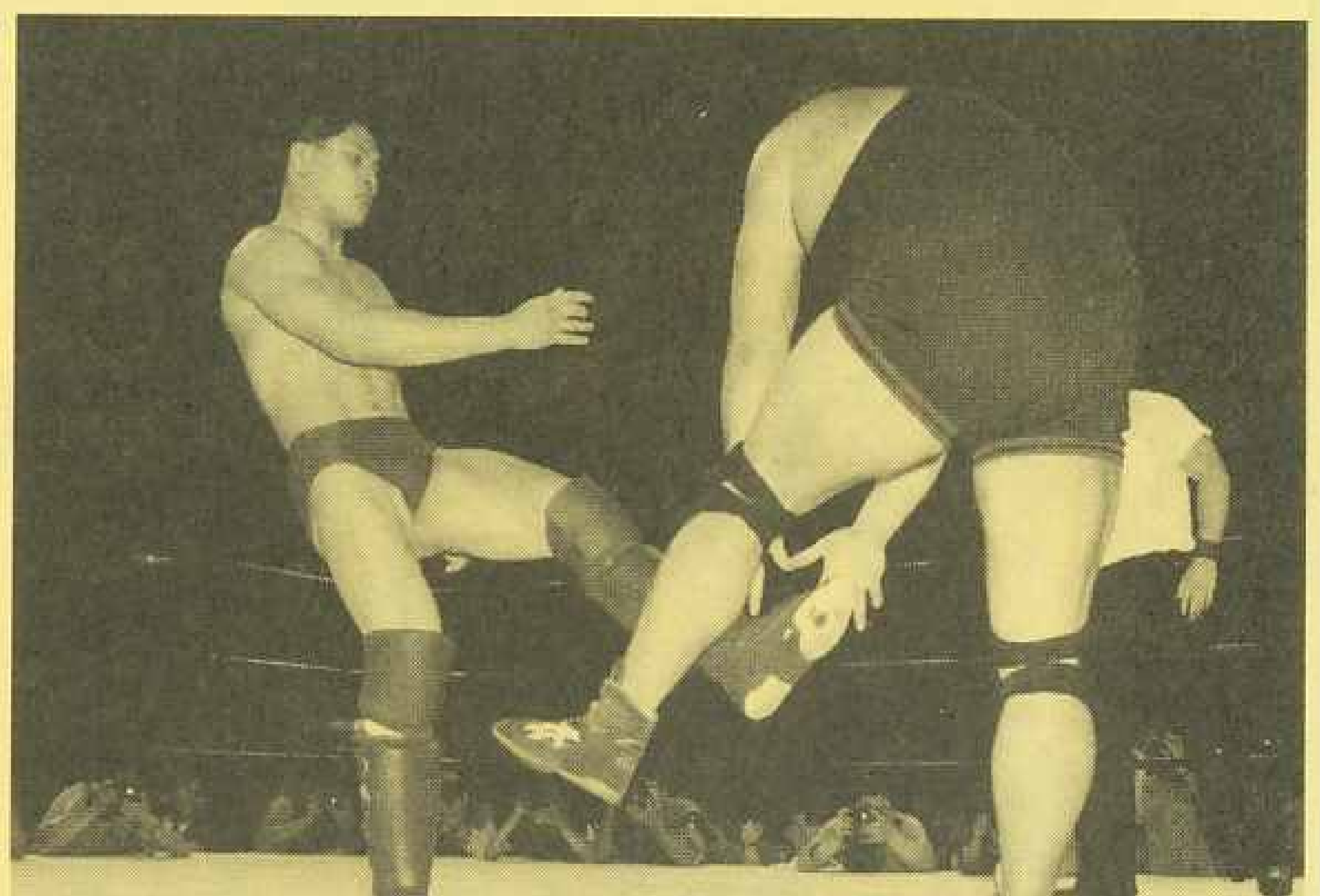
ガンツ この謎のオブライト戦が、その2カ月後の「髙田さん、ボクと真剣勝負してください！」につながるんですよ。田村って昔から「実績がないと発言権がない」って繰り返し言ってるんですよね。つまり、髙田への挑戦を口にするためには、外国人のトップであるオブライトに〝真剣勝負で〟勝つ必要があった。だから、あの発言は「ボクは垣原とオブライトに真剣勝負で勝ちました。ですから髙田さん、ボクと真剣勝負してください！」という意味だったんじゃないかと思うんです。

タコ う〜ん。そう考えると理屈は合ってるけど、でもなんで、その田村に若手はみんなついて行かへんのよ？

ガンツ いや、その時点では、若手は反・田村にはなってなかったと思いますよ。リング外での好き嫌いはともかく（笑）。その証拠に、それからさらに3カ月後、田村は新日本プロレスとの対抗戦を拒否して、K−1でパトリック・スミス相手に初のバーリ・トゥードをやったじゃないですか。

椎名 俺、観に行きましたよ。もう泣きながら応援ですよ（笑）。

ガンツ あのとき田村はUインターを干されていたにも関わらず、桜庭、金原（弘光）、高山（善廣）、和田（良覚）さん、ボーウィー・チョーワイクン、大江（慎）が、わざわざ名古屋まで応援に来てるんですよ。





（写真・上）95年6月18日、両国国技館で行なわれた田村vsオブライトは、“第二の前田vsアンドレ”と呼ばれる不可解な試合に。結果はスリーパーで田村の一本勝ち。（写真・下）新日本との対抗戦出場を拒否した田村は、95年12月9日、K-1名古屋大会で初のバーリ・トゥード出陣。圧倒的不利の下馬評を覆し『UFC2』準優勝の狂犬パトリック・スミスにヒールホールドで見事一本勝ちを収めた。じつはこれが、日本人（男子）プロレスラーが初めてバーリ・トゥードで勝利した試合でもあるのだ。

桜庭との因縁やその後のU系変遷のルーツは"1995年の田村潔司"にあるんですよ（ガンツ）

タコ　それが"Uインター内パンクラス"を推進してたメンバーや、と。

ガンツ　みんなが推進していたかどうかはわかりませんけど、若手がまとまっていたのは確かですよね。でも田村は、その半年後にリングスに移籍しちゃうんです。つまり「俺がリーダーになってUインターを変えるぞ！」ってやってた人が、仲間を裏切ってリングスに行っちゃったかたちになるわけですよ。

タコ　そっから亀裂が入ったわけけか。

ガンツ　その3年後の99年にUFCジャパン・トーナメントで優勝したヤマケン（山本喧一）が、「田村潔司、あいつだけは大ウソツキの偽善者です」ってマイクで言ったことがあったじゃないですか。

椎名　あったねぇ！

ガンツ　あの発言をもう1回ちゃんと読むと、ヤマケンがそのときのことを批判してるんですよ。「真剣勝負の世界を作るって言ってたヤツが、何もやっとらんやんけ！　髙田さんを悪者にして。でも、髙田さんはみんなにちゃんとメシ食わせてましたよ。あいつは何にもやってない偽善者です」って。この発言こそ、田村離脱後のUインターの若手選手たちの代表意見なんじゃないかと思います。

椎名　なるほどね。ここまでの話を聞いて、ある程度は納得できるんだけど、田村が桜庭とか若手選手たちを束ねていたっていうイメージが、どうしても湧かないんだよね。

ガンツ　束ねていたっていうより、田村が一番先輩であり、ほかの若手はまだ当時は無名だった頃ですから、そういう発言権があるのは、田村しかいなかったっていうことだと思いますよ。

タコ　言うたら会社の中の労働組合みたいなもんで、一番古株の田村が"委員長"をやっとったみたいなもんか。

井上　でも新日本vsUインターが始まるときに、桜庭は「長州（力）と闘える」って喜んでいたらしいじゃん？「俺は真剣勝負をやりたい」ってUインターを出た田村と「長州と闘える」って喜ぶ桜庭。そう考えるとガンツくんの説は合わないんじゃない？

ガンツ　田村は"赤いパンツの頑固者"の異名どおり、思い込んだら一直線だと思うんですよ。でも、桜庭は真剣勝負もやりたいけど、新日本で長州力と闘うのもいいな、みたいな感じじゃないですか。

タコ　そうなの？

ガンツ　そうだと思いますけど。

井上　もう、まるで本人に聞いてるかのようだよね（笑）。……すいません、ここらでちょっと体調悪いんで横にならせてもらいますが、俺の髙田の話題になったら起こしてください……。

ガンツ　まぁ、あくまで自称・研究家の仮説ですけど（笑）。それと現実的には、対抗戦をやらなくちゃUインターがもたないっていう会社の方針があって、桜庭はまだ全然ペーペーで名前もない頃だから、「俺は対抗戦よりも真剣勝負がやりたい」なんて言えなかったっていうのもたぶんあるのかも。

タコ　まあ、それは組織やったらしょうがないのかもね。

ガンツ　それで、田村がリングスに移籍したあと、Uインターは崩壊して、その若手が中心で活動していたキングダムも1年もたずに潰れちゃったわけじゃないですか。

タコ　つまり、リングスに行った田村が「偉そうなこと言ってたくせに、一人だけいいとこ就職しやがって」って見えたんやろうな。

椎名　でも、田村はなんでリングスに行ったの？　パンクラスみたいな試合がやりたかったら、普通パンクラスに行くんじゃないの？

ガンツ　まず、田村はリング内を実力主義にはしたかったけど、完全な競技化を望んでいたわけじゃないと思うんです。おそらく田村が望んでいたのは、その時点で実力がある人がトップをとる団体にすること。だから、のちにヤマケンに批判されましたけど、リングス移籍後、ちゃんと長井（満也）、ヤマヨシ（山本宜久）に実力で勝ってから、団体のエースとしてUWFスタイルの試合をやっていたわけですから。

椎名　あのヤマヨシとの試合は凄いよね。潰し合いの試合で飛びつき腕十字で勝っちゃうんだもん！

ガンツ　あと、なぜリングスに入団したかというと、田村の本を読むと「リングスだけが、ちゃんとプロ選手としての条件を提示してくれた」ってありますね。

タコ　なるほど。たしかに、いまも契約にこだわったり、ジムの運営に熱心なところを見ると、リングスのときはそこが最優先やったんやろうな。

椎名　フリーのライターから言わせてもらうと、田村のとった行動はもの凄いあたりまえの行動です（笑）。だけど、みんなはそこで頭にきたんだ。

1995年前後
田村潔司を中心としたU系年表

93年9月21日	●パンクラス旗揚げ。
93年11月12日	●第1回UFC開催。ホイス・グレイシーが優勝。
94年12月7日	●安生洋二、ヒクソン・グレイシー道場破り失敗
95年1月16日	●田村がジーン・ライディックに勝利後、激白「凄く冷めている。勝っても勝っても上に上がれない。踊り場で一人踊ってる状態ですからね……。負けてもいい。負けて涙を流してみたい」
95年2月18日	●田村潔司が垣原賢人にチョークスリーパーで秒殺勝利。
95年2月19日	●山本宜久がオランダでルディ・イウォルドを破るも、あまりの過激な内容に、現地でフリーファイト開催の是非論がメディアや政府から持ち上がる。
95年4月7日	●元UWFインターの常連ガイジン、ダン・スバーンが『UFC5』で見事優勝。NWA世界ヘビー級と併わせて2冠王になる。
95年4月20日	●『バーリトゥード・ジャパン95』で山本宜久、ヒクソンに敗れる。同日、UWFインターは名古屋大会を開催。高田と当時、東海テレビ事業の社員だった榊原信行氏が初めて出会う。
95年5月13日	●パンクラスにアラン・ゴエス初来日。U系に初めてグレイシー柔術の選手が出場。
95年6月18日	●田村潔司、不可解なセメントマッチでゲーリー・オブライトに勝利。髙田延彦は垣原賢人戦後、マイクで「きわめて近い将来、引退します！」と宣言。敗れた垣原は試合後に控室で「これからはスタイルが変わっていく」と発言。
95年7月17日	●髙田延彦、選挙出馬のため静岡大会を欠場。メインを務めた田村は、試合後に「任せてもらえるのか、もらえないのか、ハッキリさせてほしい」と発言。
95年8月19日	●田村潔司、ゲーリー・オブライトに再び快勝。試合後に「髙田さん、ボクと真剣勝負してください！」とマイクアピールするも、髙田はノーコメント。オブライトはこの試合を最後にUインターを離脱し、全日本プロレスへ移籍。
95年8月24日	●新日本vsUWFインター全面対抗戦、電撃決定。
95年9月6日	●10.9東京ドーム大会のカード発表。田村の出場ボイコットが発覚。
95年10月9日	●髙田延彦、武藤敬司に足4の字固めで敗れる。対抗戦に出場しなかった田村は、道場で宮戸優光と二人だけで練習する。
95年12月9日	●田村潔司、K-1名古屋大会で初のアルティメット戦（素手のパンチが認められたバーリトゥードルール）に出陣。ヒールホールドでパトリック・スミスを破る。セコンドには宮戸優光。会場には桜庭、金原、高山、ヤマケン、和田良覚、大江、ボーウィーが来場。
96年3月1日	●田村潔司vs桜庭和志、UWFインターの第1試合で実現。
96年5月27日	●田村、桜庭との3連戦を最後にUWFインターを離脱。リングスに移籍。

タコ　ホンマ、一般社会に当てはめれば田村の選択は当然で、誰でも絶対にそうするよなあ。ワシかてガンツに「タコ兄さん、ボクと理想のプロレス雑誌を作りましょう。でも月給15万円です」って言われたら、「どうぞ、ご勝手にお作りください」って言うもんなあ（笑）。そうやって考えたら、田村をそれだけ裏切り者扱いしたとされる桜庭も……。

ガンツ　今回『PRIDE』では出戻りになるわけですからね。

タコ　それを過ちというならば、結局、同じ過ちを犯した者同士がいままさに闘おうとしてるのか。人生のコクやねえ、ホンマに（しみじみ）。だからあんまりね、他人のことを裏切り者って言うたらアカンっちゅうことやね（笑）。いままでトップの人ってみんなそうじゃないですか。前田だって猪木さんにあんだけ言うといて、「おまえもかい」ってさんざんファンに言われて、みんな繰り返すわけやからね。

ガンツ　タコ兄さんなんて、ダブルクロス（『kamipro』）とローデス（各自調査）の両方を裏切ってるわけですからね（笑）。

タコ　裏切ってへんわ！（笑）。しかし桜庭vs田村は不思議な運命をたどるねえ。

ガンツ　まぁ、ここまで長々と話しておいてなんですけど、今日ボクが話したことは、あくまで状況証拠から推測した仮説であり、井上（義啓）さんが言うところの、〝井上小説〟でしかないんですけどね（笑）。でも、『PRIDE』がUFCと同じような競技競技した世界になったら、こういう妄想や想像力を駆使した楽しみがなくなっちゃいそうで、それが寂しいですけどね。

タコ　イメージで言うと、UFCってやっぱりアメリカ的な大味な感じがするよなぁ。

ガンツ　単純に勝った、負けたの世界になっちゃったらねぇ……。UWFファンって長年、真剣勝負の世界を夢見てきたわけですけど、たどりついた現実がこれなのか？　っていうことになりかねない。

タコ　あと、そこに至るまでに5年、10年、20年ってずっと観てるコクがあるけど、UFCにおけるドラマ的な〝溜め〟って、要するに、『TUF』の何クールかぶん程度の思い入れやろ？　そんなふうにダイジェストで、桜庭vs田村を説明しようにも、難しいよ。

椎名　世界がバーリ・トゥード全盛になっていく流れの中で、日本だけに「Uの理念」と「プロレスから真剣勝負へ」っていうコンセプトがあったわけでしょ。凄く特異な感じがするよね。でも、それこそが、俺たちがUWFが大好きな理由だと思う。で、そういう順を追った桜庭vs田村というものが今度『PRIDE』でやるんだよって言っても、そういうことはアメリカの人はわからないから（笑）。

タコ　そこはもう、日本は力道山時代からずっと八百長論議があって、猪木さんの格闘技戦やUWFを経て『PRIDE』に行き着いた贅沢な歴史があるわけやんか。そこの醍醐味は、最初からエンターテインメントとしてのプロレスとガチンコとしてのボクシングがあった国ではわからないんやろうな。

椎名　逆に日本のUWFは何か？　って考えると、やっぱりカール・ゴッチで。日本にはゴッチイズムがあったから、倒して極めるんだっていう発想があったんだろうね。

タコ　でも、カール・ゴッチの昔の試合をビデオで何試合か観てるけど、あざやかにサブミッション取ってるような試合なんか観たことないやん。不器用でさあ。

ガンツ　あれは観ちゃいけないんですよ。幻想の中の〝神様〟でいてもらわないと（笑）。

タコ　ジャーマン・スープレックスを発明したのは間違いないやろうけど、ブリッジとかだって全然きれいじゃないし。身体の硬いロボットレスラーやで、言うちゃ悪いけど（笑）。

ガンツ　ゴッチさんって、きっとクリス・ドールマンみたいなタイプだったんだと思いますよ。強いことは強いけど、テクニシャンというより、力が強いっていう。

タコ　結局、新間さんか猪木さんか知らんけど、そういう幻想に仕立てたっていうだけなんやろうな。

ガンツ　武藤（敬司）が言うには、格闘技経験のない猪木さんがゴッチさんにかぶれちゃったっていう、これがUWF、そして『PRIDE』の原点じゃないのかなって。

椎名　そのおかげで日本がバーリ・トゥード大国になったのも不思議だけどね。

ガンツ　そうですよね。それで猪木さんとルスカの格闘技戦があったからこそ、ルスカのブラジル遠征があって、それがあったからこそ、イワン・ゴメスが新日本に入門したりと



UWFインター崩壊後、いち早くオープンフィンガー・グローブでの顔面パンチや、マウントパンチを導入し、バーリ・トゥードに近いルールを採用したキングダム。しかし、エース格である桜庭和志と金原弘光は、まだ一般的には無名にすぎず、経営に行きづまり、1年もたずに解散。桜庭はその後、『PRIDE』で大ブレイクをはたすこととなる。

修斗という特異な組織だって元をたどると みんなタイガーマスクファンだもん（椎名）

UWF変態的注釈

【第1次UWF（旧UWF）】

前田日明、佐山サトル（スーパー・タイガー）、藤原喜明、木戸修、高田伸彦（現・延彦）、山崎一夫らが所属した伝説のプロレス団体。84年に旗揚げ。

もともとは、アントンハイセルへの資金流用疑惑で新日本プロレス内の立場が弱くなったアントニオ猪木のために、新間寿らが設立した団体だったが、猪木はテレビ朝日の引き止めにより結局参加せず。そのため旗揚げシリーズだけで終了するはずだったが、24歳のエース・前田日明や若いフロントスタッフが新日本への復帰を拒否。自分たちだけでUWFを続行することを決意する。

その後、前田の師匠格である藤原、弟分の高田、さらに引退していたタイガーマスク（佐山）が、スーパー・タイガーとして参加。これを機に、試合スタイルをそれまで道場だけで行なわれていた関節技を取り合う攻防に転換。さらに佐山が本格的なキックを持ち込み、ロープワーク、空中殺法、場外乱闘といった従来のプロレスにあったショー的要素を排した格闘技色の強い〝シューティング・プロレス〟を展開。従来のプロレスに飽き足らなくなった一部のファンに熱狂的に支持され、UWF信者という熱心なファンを生み出した。

また佐山が中心となり、ルールを整備。3カウントフォールやロープブレイクも廃止にした試合を行なったり、巡業をやめて試合数を極端に減らすなど、のちの総合格闘技興行に受け継がれる実験的な試みが数多く行なわれたが、資金繰りが悪化。さらに佐山と他の選手の確執が表面化し、団体はわずか1年半で崩壊。佐山は完全にプロレス界と決別し、新格闘技「シューティング（のちの修斗）」創立。前田らは業務提携というかたちで、古巣・新日本プロレスに復帰した。

【第二次UWF（新生UWF）】

前田日明、高田延彦、藤原喜明、船木誠勝、鈴木みのる、田村潔司らが所属した伝説のプロレス団体。

〝長州力顔面蹴撃事件〟により新日本を解雇された前田が、88年に高田、山崎らと旗揚げ。試合はショー的要素を排除した格闘スタイルとするなど、ルールを明文化。シリーズ巡業ではなく月に一度の興行形態とし、従来のプロレスとの違いをメディアにアピールすることに成功。それによって、大ブームを引き起こすが、90年に資金の流れを巡りフロントと選手の対立が表面化し、当時の神新二社長が全選手を解雇するかたちで興行停止。その後、選手たちだけで新会社を設立し、UWFは続くはずだったが、ここで前田と各選手が考えの違いから決裂。藤原、船木らの「プロフェッショナル・レスリング藤原組（当初は新UWF藤原組）」、高田、宮戸、安生らの「UWFインターナショナル」、前田の「リングス」の3派に分裂した。

【密航】

UWFブーム当時、UWFの試合が観たいがために、学校や会社を休み、鈍行列車に乗って長時間かけて全国各地へ遠征する若いファンが続出。それらの行為を当時の『週刊プロレス』編集長、現・ひとこと塾塾長および乙女塾塾長のターザン山本！が名付けた造語。元祖〝密航者〟は、UWF札幌大会を東京から鈍行列車を乗り継いで観に行った、現『週刊プロレス』鈴木健記者だとされる。

【UWF無限大記念日】

1984年7月23、24日に後楽園ホールで2日連続で行なわれたUWFの大会タイトル。この大会から、佐山サトルがザ・タイガーのリングネームで参戦。初日のメインイベントのザ・タイガー&前田組vs藤原&高田組の試合は、キック、関節技、スープレックスが中心となった格闘スタイルの試合となり、この一戦からUWFの方向性が明確になったことから、この日が事実上のUWFスタートの日とされている。

【さよならザ・タイガー】

当時、大人気のタイガーの試合を中心に、『UWF無限大記念日』の模様を収めたビデオ。タイトルが『さよならザ・タイガー』なのは、佐山のリングネーム「ザ・タイガー」が、権利関係の問題から、この2連戦だけで封印されたため。ビデオ全編にわたり、佐山が熱唱する名曲（？）「バーニングタイガー」が流れまくっていることも、変態的マニアにはたまらないところだ。なお、88年に新日本プロレスに突如登場し、すぐに消えた謎の塩レスラー、ザ・タイガー&ザ・ジャガーとは、なんの関係もない。

【シューティング】

現在の修斗のもともとのネーミングであるが、当時はまだシューティングだけの興行はスタートしておらず、UWFの試合がシューティング、もしくはシューティング・プロレスと呼ばれた。シューティングは「真剣勝負」を意味するプロレス界の隠語「シュート」が語源であるが、英語のスラングで「射精」を意味することから、カール・ゴッチが反対したという話がある。そのためか、のちに佐山は名称を「斗いを修める」という意味付けをしたうえで「修斗」と改名。現在は英語表記でもSHOOTINGではなく、SHOOTO

マッ 超大

プロ 元『週 金 新

か、全部つながってるんですよね。

椎名 そのUWFの幻想がUFCの第1回で衝撃的に壊されたんだよね。俺、やる前は絶対に（ケン・）シャムロックが勝つだろうと思ってたから。なぜなら「UWFだから」っていうのがあって（笑）。

ガンツ 打・投・極が全部できるシャムロックが、〝異種格闘技戦〟で負けるわけがないって思いましたよね（笑）。

椎名 真剣勝負がなんたるかアメリカ人はわかってねえだろ！ っていうのがあったんだけど……。

タコ こっちがわかってなかった（笑）。だけど、やっぱり日本がバーリ・トゥード大国になってるのは、その幻想につきるでしょ。思い込みがいつの間にか現実になっているわけでさ。だから結局、桜庭vsグレイシーがあれだけ盛り上がったっていうのも全部その流れですよ。キムラロックがどうのこうのって雑誌を読んで一生懸命勉強してさ。ほんで「ウォーッ！」言うて興奮して（笑）。

ガンツ サクがホイラー・グレイシーに勝ったとき「木村政彦vsエリオ・グレイシー以来、48年ぶりに日本人がグレイシーに勝った」なんて、とんでもない大河ドラマに仕立て上げてましたからね（笑）。つまり我々の格闘技観は、余計な知識を持って観る世界なんですよ。

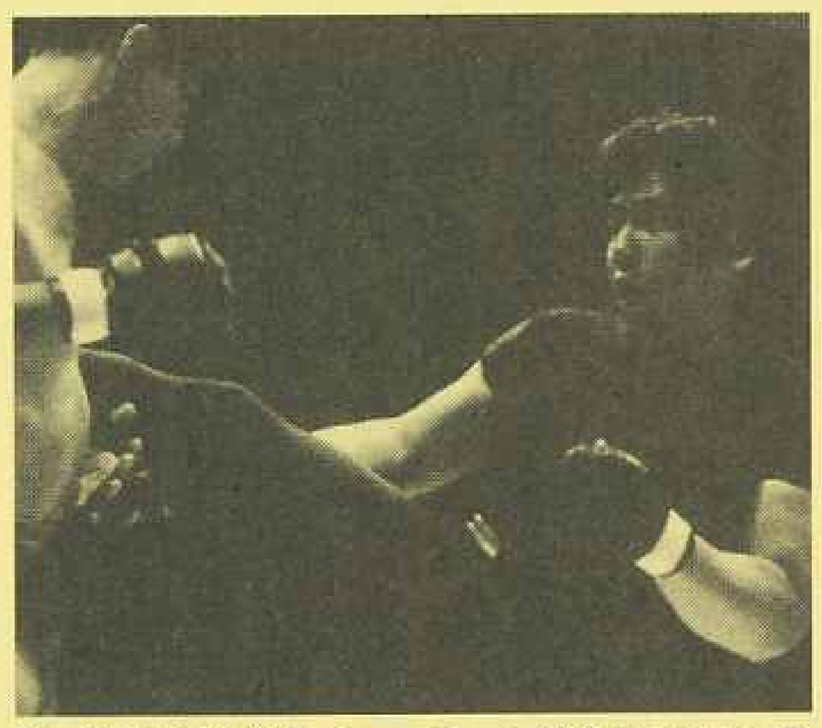
タコ ただね、ここまで言うといてなんやけど、日本人だけが記憶をドラマチックに仕立てる見方をできて、アメリカ人とかにそういう習性がないかっていうと、当然そんなことはないやんか。たとえばWWEでもちゃんと歴史を大事にしたり、レジェンドをリスペクトするやん。だから、たぶんUFCでもこれから5年、10年やっていくと、大河ドラマに見えてくるんやないかな。

ガンツ 去年のマット・ヒューズvsホイス・グレイシーなんか、そんな感じですもんね。

タコ アメリカにも〝変態〟として「UFCにおけるホイスっていうのは……」って勉強してるマニアがおるわけでしょ。だから「アメリカのファンはどっちが強いかってだけを観たがっていて、それで満足してるだけの人種や」っていうのはきっと間違いなんやろうね。それであと10年後ぐらいに俺も「UFCもちゃんと観とったら、ドラマあったんやなあ、全然観てへんかったな」っていうときが来るかもしれへん。ストーリーとかレジェンドを大事にせえへん国民がおるわけがないよね。だってボクシングとかだってアメリカ人はそうやって観てるわけじゃないですか。

ガンツ ベースボールもNFL（アメリカンフットボール）もみんなそうですよね。

タコ むしろ凄くそのへんを大事にするから。



第一次UWF離脱後、シューティング普及に尽力した佐山は、選手としてリングに上がることはなかったが、毎大会デモンストレーションを行ない、興行をなんとか成立させようとしていた。そして94年には、初めてヒクソンを呼び『バーリトゥード・ジャパン』を開催。その先見の明には、つくづく驚かされる。

ただそこで、日本みたいに八百長視されながら真剣勝負にたどり着いたっていう、そのねじれた価値観のドラマっていうのはないんやろうね。そういうところで、日本のプロレスファンはどっかでエリート意識を持って『PRIDE』も観てるじゃない？

椎名 いまこうやって盛り上がって語ってるのは、「俺ら最先端だったんだ」っていう思い込みで観てるってことなんだろうね（笑）。

ガンツ ボクも小学生の頃から「俺はUWFのファンなんだ。そこらのプロレスファンと一緒にしないでくれ」って思ってました（笑）。

タコ どんな小学生や（笑）。

椎名 いま、シューティングは修斗っていう、日本格闘技界の特異な組織として残ったけど、あれを始めた人たちも元をたどるとみんなタイガーマスクファンだもん。だから憧れとかって凄く重要なんだよね。

ガンツ 桜庭だってタイガーマスクに憧れてプロレスラーを志したわけですからね。そして今回、スーパー・タイガー仕様のサクマスクを被って『PRIDE』のリングに上がったのを見ても、桜庭vs田村戦はプロレスから格闘技への大河の流れの末にあったものなんだな、と思いますよ。

椎名 そのカードを『PRIDE』で執拗に組もうとした榊原（信行DSE代表）さんも、やっぱりそういった憧れとか思い入れがあったのかな？

ガンツ いや、榊原代表自身はべつにUWFへの思い入れとか、憧れはまったくない人ですよ。でも、なんとか組もうとしても組めない、桜庭vs田村戦というカードには強い思い入れがあるんでしょうね。

タコ ファンが望むものとか、『PRIDE』の世界観を表現できるとかやなしに、「この野郎、俺を手こずらせやがって。なんとしても実現させてやる！」っていうこだわりなんや（笑）。

ガンツ だから榊原代表は、ボクらとはまったく違う部分で、桜庭vs田村戦に変態的なこだわりがあるんですよ（笑）。

井上 （やおら起き上がり）あ！ そういえば昔、谷川さんがバラさんと長電話してて「バラさん、変態ですねぇ！」って連呼してたことあったなぁ。また全然違う意味での〝変態〟だろうけど（笑）。

タコ ダハハハ！ ほな、ファンも田村も佐山も、Uに関係する人はみんな変態やけど、一番の〝変態〟は榊原代表やったということで、UWF変態座談会をお開きにしたいと思いま～す（笑）。

【07年4月29日／新宿区・周りはカップルだらけのオシャレなダイニングバーにて収録】

としている。

なお、まったく関係ないが、当時シューティングの知名度アップにおおいに貢献したターザン山本一は、61歳になったいまでも、夜な夜な悶々とシューティングに励んでいるそうだ。

【ケーフェイ】

85年にナユタヤ出版会から発行された佐山の著書。「ケーフェイ」とはプロレス界の口外してはならないタブーの総称で、第一級の隠語。「フェイク（FAKE）」逆さにしたことが語源とされるが、本当の語源は「keyfabe」という説が有力。「ケッフェイ」「ケーフェー」とも言われる。

「ミスター高橋本」と並ぶ〝暴露本〟として有名だが、内容を読んでみると、暴露的なのはロープワークやブレーンバスターといった大技が相手の協力なしではできないことなど、いまでは誰でも知ってることだけであり、じつにかわいいものだったりする。しかし、85年当時はすさまじいインパクトを与えたことは確かだ。

なお、一部では「ターザン山本！がゴーストライターを務めた」との噂が、半ば真実として一人歩きしているが、実際はターザンが行なった佐山インタビューをもとに、「ほとんどジョーク」で知られる更級四郎氏がまとめたとの説が有力である。

【半ば永久に決まらない技】

佐山の著書『ケーフェイ』の中で、プロレス特有の大技を実名で40個近く挙げたうえで、「これらは、いわゆる〝暗黙の了解〟がないと、半ば永久に決まらない技で、ボクたちシューターには、まったくの無用の長物」と切り捨てた記述のこと。

しかし、それから15年後、その佐山に憧れてプロレスラーとなった桜庭が、『PRIDE』のリングでホイス・グレイシー相手に、『ケーフェイ』で〝半ば永久に決まらない技〟とされたモンゴリアン・チョップを見事に繰り出し、プロレスファンをおおいに涙させたのであった。

【マーク・ルーイン】

66年にルー・テーズを破りWWA世界王者となり、70年代には全日本プロレスで活躍したプロレスラー。ネームバリューのある外国人レスラーがなかなか呼べなかった第一次UWFにおいて、数少ない大物の一人だったが、若手の域を出ない高田に完敗を喫し驚かせると同時に、シューティングの優位性が示されることとなった。

【AリーグからBリーグに格下げ】

第一次UWF後期は、サッカーJリーグのJ1とJ2のごとく、Aリーグ（1軍）とBリーグ（2軍）に分けて公式戦を行なっており、当時スランプに陥っていたエース前田が若手の高田と入れ替わるかたちで、Bリーグ転落するという事態があった。

【1976年のアントニオ猪木】

文芸春秋刊、柳澤健著。1976年にアントニオ猪木が行なった、〝異常な4試合〟の真実を徹底した周辺取材によって明らかにしたノンフィクションの傑作。その内容は各方面から絶賛された。

【ヒクソンの道場破り失敗】

94年当時、「プロレスこそ最強」を標榜していたUWFインターは、格闘技ファンのあいだで〝最強幻想〟の真っ只中にあったグレイシー一族の打倒を宣言。Uインターのリングで、「ノールール、金網デスマッチ」での対戦を迫ったが、中立なリングでの対戦を望むグレイシー側との交渉は難航。このままではらちが開かないと判断したUインターは、グレイシー一族がこれまで〝グレイシー・チャレンジ〟と称して、道場破りの挑戦を受けていたことを知り、〝ヒットマン〟として、道場では最強と噂された安生をロサンゼルスに派遣。12月7日に報道陣を引き連れ、ヒクソン・グレイシー柔術アカデミーに乗り込んだが、安生は血だるまにされ完敗を喫した。

これにより〝グレイシー最強幻想〟は一気に巨大化。一方、UWFインターは急激に求心力を失い、その後、新日本プロレスとの対抗戦を経て、崩壊することとなる。しかし、この道場破り事件こそが、のちの高田vsヒクソンを生み、『PRIDE』を誕生させたことは、まぎれもない事実である。

【きわめて近い将来引退します！】

安生によるヒクソン・グレイシー道場破り失敗後、プロレスへの情熱が一気に冷めていったと言われる高田は、95年6月18日両国国技館での垣原賢人戦後、マイクで「きわめて近い将来引退します！」と宣言。その後、「校庭を芝生に！」とのマニフェストを掲げ「さわやか新党」から参院選に出馬するが落選。もし、ここで当選していたら、本当に引退していたのではないかとも言われる。

【格闘技通信】

現FEG代表、サダハルンバ谷川氏が編集長を務め、アルティメット大会（UFC）を第1回大会から徹底的に報道。グレイシー最強幻想を煽り、バーリ・トゥートを格闘技界に定着させるのに多大なる役目をはたした、当時の格闘技ファン必読の雑誌。その後、この雑誌がどうなったかは各自調査。



『kam:ipro』未公開!! "幻の喫茶店トーク"も収録!!



殺し

活字プロレスの哲人
井上義啓 追悼本



全国書店にて
発売中ですよ、アンタ!
B6変型判 304ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

これぞ究極の"I予言集"!!
喫茶店トーク傑作選
◎"殺し"とは何か?
◎嵐山哀歌トーク ほか

"I文学"の真骨頂がここにある!
井上小説傑作選
◎昭和のプロレスとは何か?
◎『紙プロ』という名の公園 ほか

言うちゃ悪いけど、名言三昧!
殺しのI語録

【井上義啓とは何か?】

I編集長が生涯、追いかけ続けた男
アントニオ猪木インタビュー

過剰な"I編集長LOVE"の証を大公開!!
水道橋博士(浅草キッド)

井上学校の中退生、GKが見たI編集長
金沢克彦

I編集長との最後の日々……
松島弥生(井上義啓・姪)

ジョン・コロシ/モンターニャ・シウバ

井上文学の金字塔、ここにあり!! この本を偉大なる"I編集長"に捧げます。

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)[通信販売のお問い合わせ先]http://www.enterbrain.co.jp/

マット界震撼!!

超大型連載が堂々スタート!?

プロレス記者歴20年——。

元『週刊ゴング』編集長

金沢GK克彦が新たな旅に出る!!



GKスペシャル

プロレス探検隊

次のページより超感動巨編がスタート!

構成/坂井ノブ
撮影/山口比佐夫

「プロレス探検隊」とはマット界に残された数少ない謎を解明する男たちのドラマである



新日本プロレス凸凹大学校の先生として、本誌編集部の松下ミワをビッシビシ鍛えながら、老舗団体の歴史と魅力を余すところなく伝えてきた元『週刊ゴング』編集長〝GK〟こと金沢克彦。この凸凹大学校は開校以来、スペシャル講師を迎えて新日本プロレスの魅力を松下に叩き込んできた。山本小鉄、星野総裁、藤波夫妻、永田裕志、アブドーラ・ザ・ブッチャー、越中詩郎、武藤敬司、そして夏目ナナ。これだけ超豪華な講師に教われば、どんなプロレスど素人であっても「プロレスのことが何もわかりません」とは口が裂けても言えないはずだ。幸いなことに松下に一定の成長が見られたということで、このたび仮免許皆伝となった。

では、この先GKは何をすべきか？

GKは〝プロレス村の若頭〟としてテレビや雑誌でプロレスの魅力を伝えることを使命とする男である。しかし、読者に伝えるだけでは得られないこともある。もともと『週刊ファイト』で記者としてキャリアをスタートさせていることもあり、好奇心と行動力は人一倍旺盛だ。そこでGKは本誌編集部とともに新たなる一歩を踏み出した！

プロレス界のありとあらゆることを知り尽くすため、そして残された数少ない謎を解き明かすためにGKは探検隊を結成！本家・川口浩探検隊へのリスペクトを胸に、探検隊DVD BOXセットの付録だったツナギ（本誌編集部・堀江ガンツの私物）を着用、気合いの入り方もハンパではない。さらに探検隊員には『SRS・DX』『スカパー！バトルLIFE!!』で活躍してきた〝モグ〟こと小松伸太郎を起用！GK隊長と小松隊員はすでに何年も一緒に仕事をともにしてきた戦友と言っていい存在である。あうんの呼吸でプロレス界の謎に切り込んでくれるはずだ。

そんなわけで、今回GKスペシャル・プロレス探検隊が最初に選んだ謎は、復活したインリン様だ。〝エロテロリスト〟インリン・オブ・ジョイトイさんにとてもそっくりなインリン様は、はたして本当に別人なのか!? そして、『ハッスル』の会場でファンや選手を魅了してやまない謎の力「M字パワー」とはいったいどのようなものなのか!? これは決してGKが夏目ナナ取材で、味をしめたわけではないということを最初に断言しておきたい。そしてこの探検は非常に危険な任務であり、一歩間違えば命さえも落としかねない危険が伴なっているということも――。

プロフィール



〝GK〟こと金沢克彦 隊長

かなざわ・たいちょう■GKスペシャル・プロレス探検隊の隊長。元『週刊ゴング』編集長であり、『週刊ファイト』の一編集長こと故・井上義啓氏の弟子にあたる。テレビ朝日『ワールドプロレスリング』の解説も務め、『ファイティングTV SAMURAI!』にも出演中だ。本誌携帯サイトでもコラム「プロレス村から愛をこめて」を連載中（金曜日更新）。今回からは小松隊員とともに、プロレス界に残された謎に鋭い角度でメスを入れる！



〝モグ〟こと小松伸太郎 隊員

こまつ・たいいん■鬼才・井上崇宏ペールワン率いるペールワンズ所属。学生時代には相撲部に所属、最もフンドシが似合うビジュアル系編集者。かつて『SRS・DX』の編集に携わり、今年3月までは携帯サイト『スカパー！バトルLIFE!!』で、現在は本誌でも活躍。『週刊ゴング』でも座談会に出席するなど、以前からGK隊長と多くの仕事で接点があり、ドラフト1位指名で今回の起用となった。

GKスペシャル・プロレス探検隊、インリン様の秘密に迫る！



GK探検ファイル
No.001

インリン・オブ・ジョイトイ
（インリン様のおともだち）

ついにデビューするGKスペシャル・プロレス探検隊！ 最初の探検はセクシーグラビアやバラエティ番組で活躍するインリン・オブ・ジョイトイさんだ！ ……いきなり「プロレスと関係ないだろ?」と突っ込まれそうだが、『ハッスル』をよく知らない人のために説明しておくと、インリン・オブ・ジョイトイさんは高田モンスター軍の愛と美と闘いの女神・インリン様の“おともだち”である。そのインリンさんにGKが鋭いメスを入れる！ 隊長が取材した「ハッスル至近距離の真実」をとくとご覧あれ！

構成／小松伸太郎（THE PEHLWANS）　撮影／山口比佐夫　スタイリスト／櫻井かおり

白×ピンクボーダーホルターキャミソール¥3,675（Lil marv）／白キュロットスカート¥7,245（one spo）／ゴールドネックレス¥3,045（Lil marv）／ゴールドネックレス¥7,245（FLAG-J）／その他、スタイリスト私物

GK さあ、記念すべき初探検は、お美しいインリン・オブ・ジョイトイさんに迫ります！

小松 "エロテロリスト"を目の前にして、隊長のテンションも最高潮ですね！

インリン よろしくお願いします（笑）。

GK えー、隊長の金沢です。さっそくですけど、過激なグラビアを始めるのに抵抗はありませんでした？

インリン 抵抗はありましたよ。セクシーな女性への憧れはあったんですけど、自分に対して自信もなかったし、家庭が厳しかったので「親が怒るかもしれない」という不安で悩みましたね。で、一回挑戦してみたら、自分じゃない感じの凄く格好いい女性の写真ができたんですよ。それを見て自信がついて、やっていくうちに快感が出てきて、ドンドン過激になっていきましたね。

GK 写真集とかDVDに出ている自分は、本当の自分じゃない自分ですか？

インリン う〜ん、どうなんですかね？ 私生活はそこまで過激じゃないんですよ。逆に写真とかで「セクシーで格好よく強い女性でいたい！」っていう私の思いを強くアピールしているような気がするんですよね。だから、最近、本当の自分がわからなくなってきちゃった（笑）。

GK たぶん、本当の自分がわからなくなってしまった要素として、友人のインリン様っていう人の存在が挙げられると思うんですよ。インリン様に代わって答えてほしいんですけど、インリン様はプロレスのリングに上がることに抵抗を感じなかったんですか？

インリン 本人はまったく感じていなかったみたいですね。逆に試合をするって聞いたときに、新しいものに挑戦するってことで凄くエキサイトしてましたね。

GK 怖くなかったんですかね？

インリン リングに立つ前までは怖くなくて、むしろいい緊張感があったみたいなんですよ。でも、いざ試合になったら、選手が倒れたときの振動の凄さや、ロープに相手が飛んできたときに自分も飛ばされるんじゃないか？っていう怖さが出てきたみたいです。

GK そういう恐怖感は本番にならないとわからないですよね。

インリン だから、「私、できるかな？」ってビクビクしながらやったみたいなんですけど、常に冷静にやらなきゃいけないという思いがあったので、無事に終わったときは「凄く嬉しかった」って喜んでましたね。

小松 隊長！ これは大発見ですね。まさか、そういう動揺を微塵にも感じさせなかったなんて……。

GK 落ち着くんだ、小松隊員。やっぱり、自分が試合を壊しちゃいけないっていう気持ちが、恐怖に打ち克ったってことでしょう？

インリン そうらしいですね。いままでで大勢の観客の前に立ったことがなかったらしいので、「ここで何かをしでかしたら大変だ。何がなんでも冷静でいよう」と思ってたみたいですからね。それと、「相手が小川（直也）さんで良かったな」とも言ってましたね。私も、小川さんのキャラクターとインリン様の雰囲気が凄くマッチしててよかったと思います。

GK それは新鮮なご意見ですね（笑）。ところで、インリン様のしゃべり方、あれはムチャクチャいいですね。上品にゆっくりと厳しくというね。言葉責めですよ、言葉責め！ 痛いのはイヤなんだけど言葉責めは大好き！

小松 ああ、ラジャーですよ、隊長！ そのお気持ちは理解できますね。

GK だろ？ インリン様の中にもそういう女王様的要素はもともとあったわけですか？

インリン あったんじゃないですかね？





ハッスルではインリン様の友人インリン様（上）とその娘ニューリン様（下／現在はインリン様によって監禁されている）が活躍。

私生活はそこまで過激じゃないですよね。本当の自分がわからなくなっちゃった（インリン）

ないと、いきなりはできないと思いますよ（笑）。

GK ムチで叩くのはけっこう気分がいいもんなんですかね？

インリン みんなの背中がだんだん赤くなっていくのがおもしろいみたいですね（笑）。

小松 や、やっぱり！ 隊長、我々の事前の調査どおり、インリンさんにはSの素養はありますね。

GK 浮かれるな、小松隊員。探検の道のりは長いぞ！ ちなみに、叩かれているレスラーで凄く喜んでいる人っているんですか？

インリン みんな喜んでいるみたいですけど、とくにTAJIRIさんはメチャクチャ嬉しいみたいです（笑）。

GK なるほどね。レスラーって痛みには慣れているから、その別種の痛みっていうのが凄くいいんでしょうね。だって、某レスラーがそういうクラブで、「俺はレスラーだからもっと強く叩け！」って要求したという噂がありますからね。

小松 態度のでかいMですね（笑）。

GK あとインリン様が回転エビ固めをムチ投げでロープエスケープしたじゃないですか？ あのシーン、じつはいままでの『ハッスル』の中で個人的には一番素晴らしいシーンだったと思



いんりん・おぶ・じょいとい■1978年2月15日、台北出身。10歳より東京で生活、95年よりヒラオカノフスキー・クラタチェンコのマルチメディアユニット「JOY-TOY」に参加。グラビア、CD、テレビなどあらゆる媒体で活躍中。05年2月に友人のインリン様がデビューしている。公式ホームページhttp://www.mostsexy.net/ 公式ブログ「愛のエロテロリズム」http://blog.livedoor.jp/yinlingofjoytoy/

男性はインリン様のほうが好きだと思います（インリン）
僕はニューリン様が好き。とくに真っ赤な舌が（GK）

いますね。あれはかなり練習してたんですか？

インリン　私もあれからムチ投げに挑戦してみたんですけど、一回も成功したことがないんです。さすがのインリン様もまさか成功するとは思ってなかったんじゃないのかな。

GK　それと、インリン様のお子さんのニューリン様についてもお聞きしたいんですけど、ニューリン様はどういう方なんですか？

インリン　同じようにセクシーなんだけど、インリン様は上品ですよね。でも、ニューリン様は生まれたてだから、凄い野蛮というか歩き方もガニ股ですよね。立ち方や目つき、姿勢も全部違うと思うんですけど。

GK　まあ、オテンバですよね。

小松　インリンさんはキャラクターとしては、どちらのほうがお好きなんですか？

インリン　ニューリン様のほうが好きですね。男性はインリン様のほうが完壁でキレイだから好きだと思うんですけども、ニューリン様は技も豪快だし、強いし、インパクトがあるし、『ハッスル』だけじゃなくてプロレス界全体の中でも凄く格好よく見えると思うんですよ。だから、ニューリン様のほうが観ていて勉強になることが多いですね。

GK　僕もニューリン様がわりと好きなんですよ。とくにペーッと出す真っ赤な舌がね（真顔で）。

小松　僕は圧倒的に花魁姿のインリン様が好きですね。あれを表紙にしなかったプロレス専門誌に憤りを感じましたもん。

インリン　花魁はスタッフ受けも良くて、みんな試合が終わったあとに写真を撮ろうと順番待ちしていたらしいですよ（笑）。

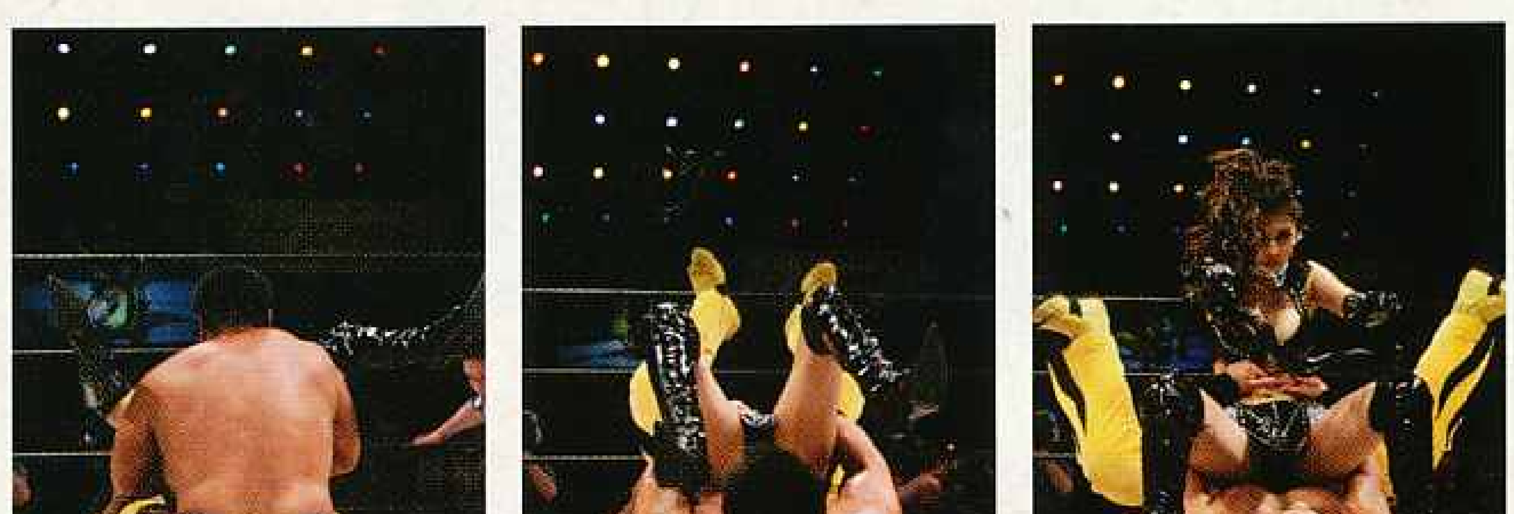
GK　でも、僕はシンプルなニューリン様が好きです！　ということで、今日の探検は大成功でした。小松隊員、次の探検地に向かうぞ！

小松　ラジャーです！　インリンさん、我々の命があれば、またお会いしましょう！

【07年5月2日／ハッスル道場にて収録】

インリン様の妙技を見よ！ ムチでロープエスケープ！

2005年7月14日、『ハッスル11』（大阪府立体育会館）でこの奇跡は起こった。インリン様のM字フォールを川田利明（当時はハッスル軍）の回転エビ固めで切り返す。しかし、インリン様の〝身体の一部〟とレフェリーに認定されているムチが宙を舞い、トップロープに引っかかる！　これでロープエスケープが成立、無効試合の裁定が下った。なお、次のページではプロレス探検隊がこの奇跡の再現に挑む！





GK大ピンチ!





奇跡の遭遇!!

インリン様

プロレス探検隊に強烈制裁!!

『ハッスル』に君臨する愛と美と闘いの女神・インリン様が降臨!! セクシーな肢体をあらわにした衣装で、プロレス探検隊を早くも悩殺!! しかし、インリン様はまるで汚いものを見るような視線を向ける。ビシッとムチを振り、カメラとテレコを持って近づいていく探検隊を威嚇した。さっそく調教モードだ!! GK隊長、小松隊員が生命の危機にさらされる!?

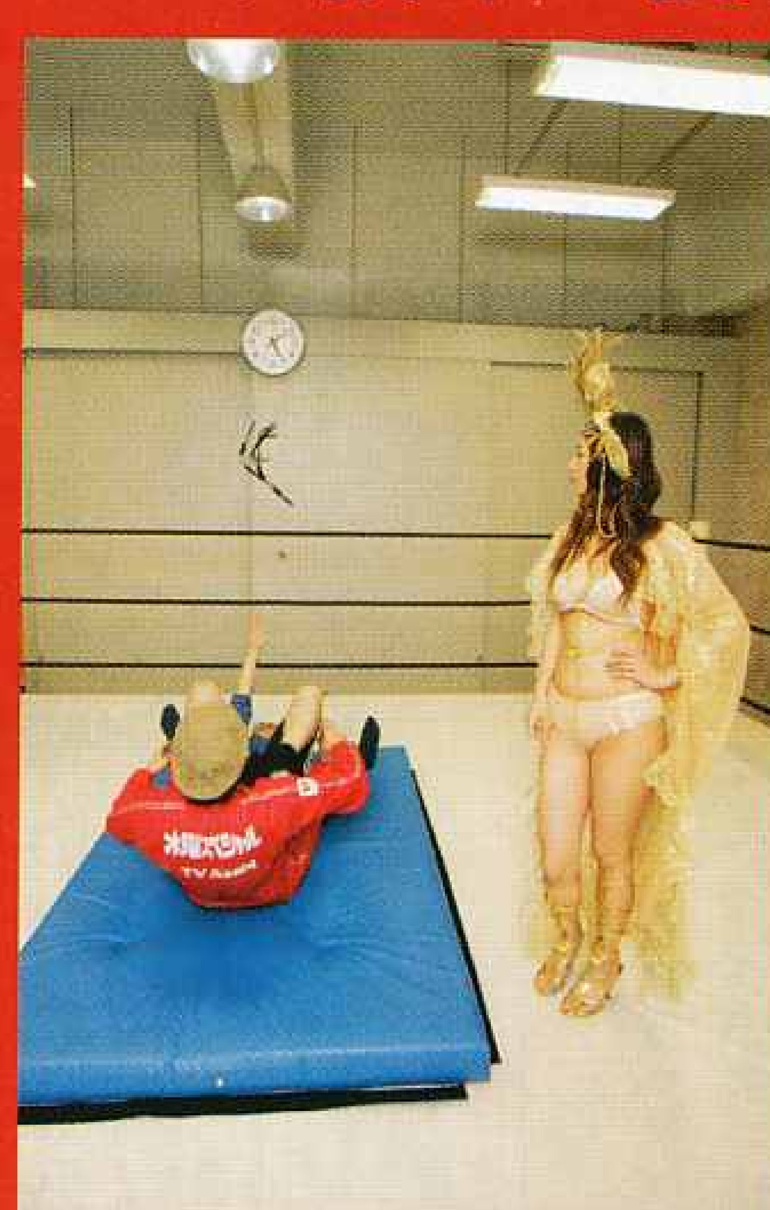


インリン様の激怒を察知したGK隊長が「てめえ！」と小松隊員に殴りかかる。シャツを脱がすとインリン様の前に半裸の小松隊員を突き出した。この変わり身はさすがだ。

インリン様の奇跡のムチ投げに挑むも再現は不可能！



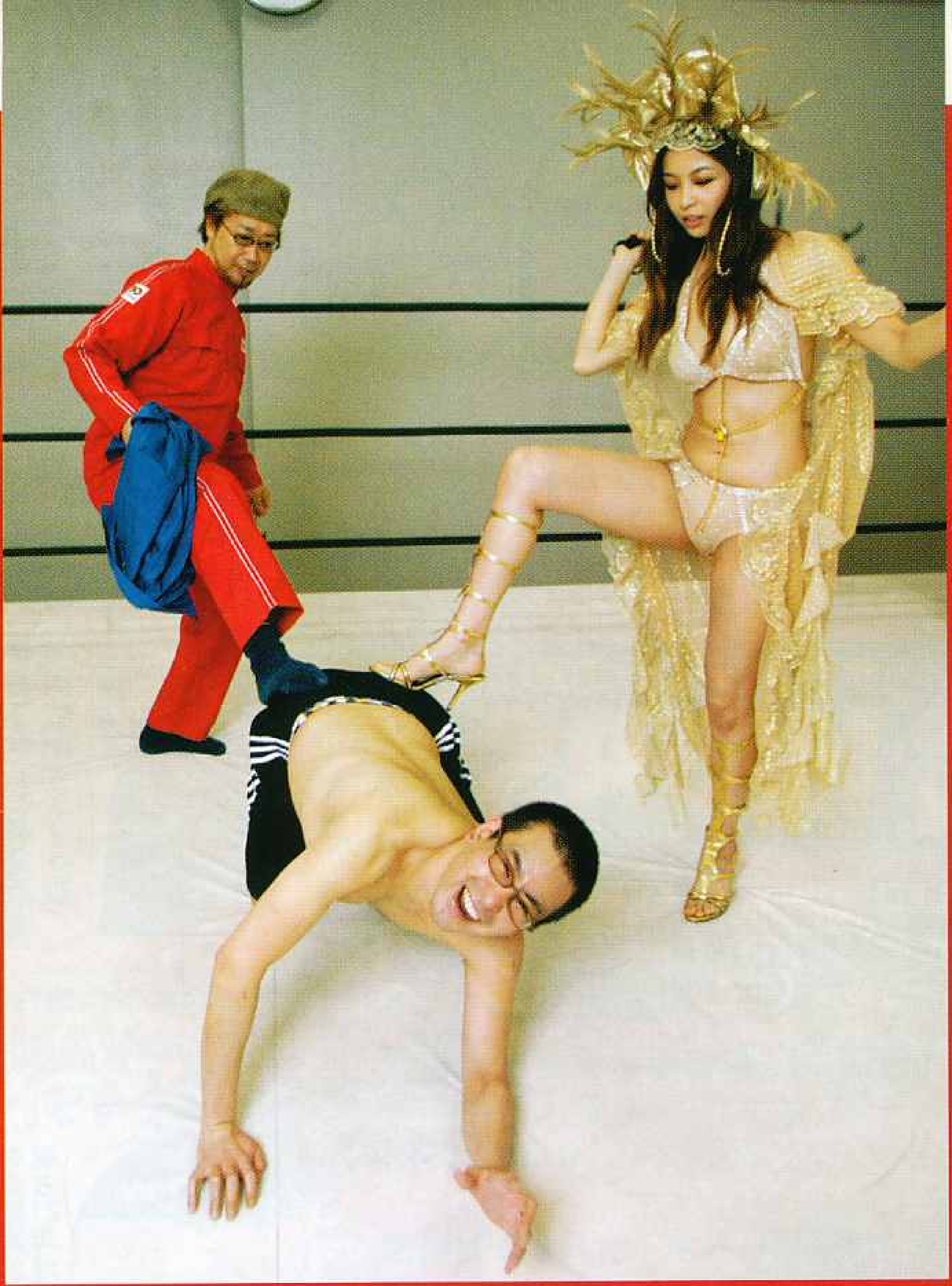
結局、何度やってもうまくいかず、インリン様のムチを放り投げるだけの結果に。「何やってんだ!?」とGK隊長が小松隊員を叱責するが、時すでに遅し！ インリン様が激怒した。



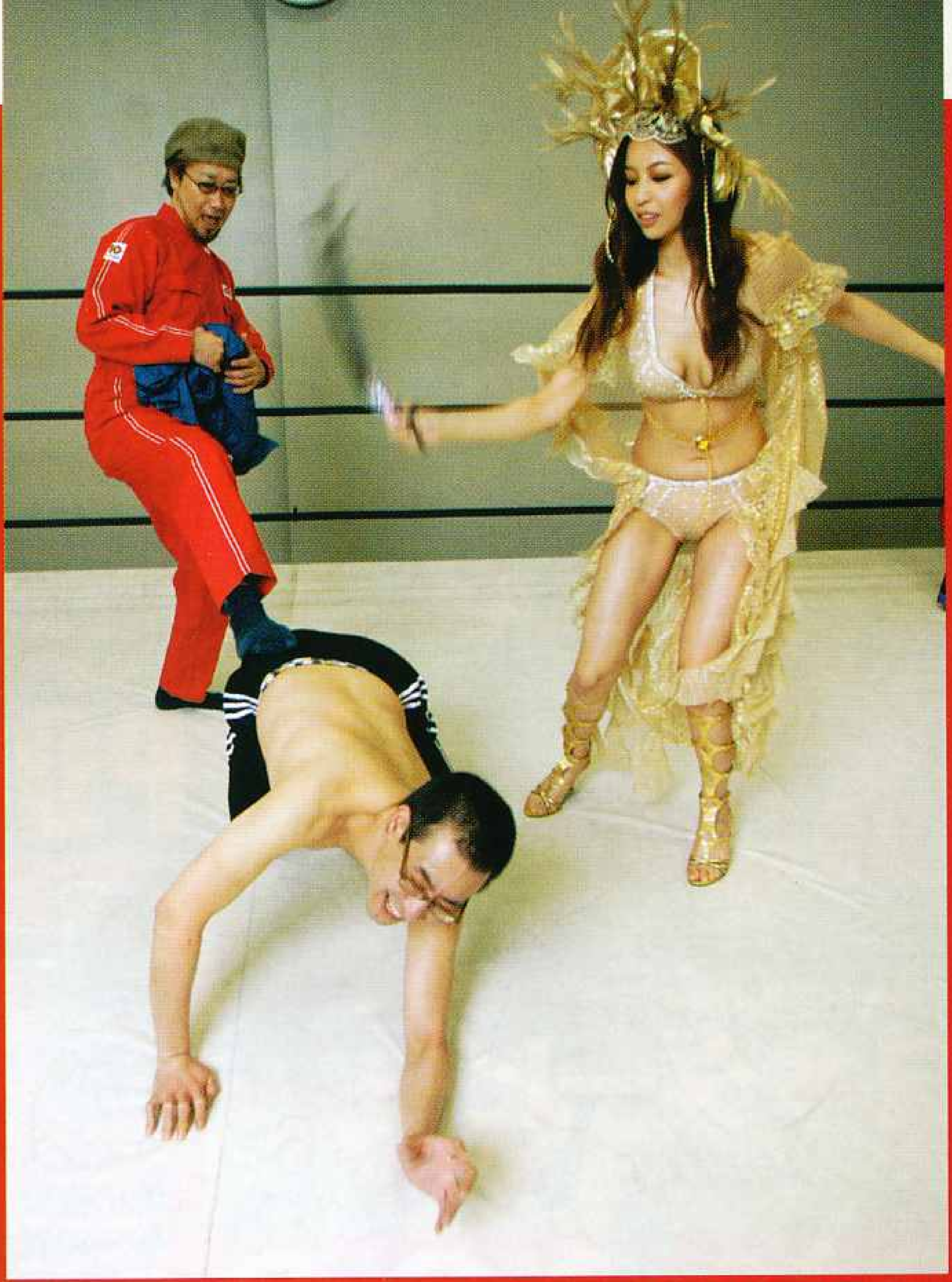
インリン様のムチが宙を舞う。何度チャレンジしてもうまくいかない。愛と美と闘いの女神・インリン様も次第に探検隊にイラつき始め、現場には不穏な空気が流れ始める。



小松隊員がインリン様の高貴なムチをお借りしてM字固め！ それにしても凄い絵だ。セクシーなインリン様が見守る中、GK隊長が回転エビ固めで小松隊員を丸め込む。



さてはGK隊長もインリン様の魅力に洗脳されてしまったのか!? この絶体絶命のピンチに小松隊員に変化が表われる。さっきまでは「ひえ～」と悲鳴をあげていたのだが、なぜか表情には次第に恍惚の色が!! インリン様のピンヒールがケツに食い込むと、ついに歓喜の笑顔を浮かべるという急展開に。これもインリン様のM字パワーの恐ろしさだ。



「ダンゴ虫みたいに丸まりなさい!!」インリン様の声ではいつくばった小松隊員。「この豚、汚いのよ!!」と激しいムチが飛ぶ。ご覧のようにシャッターでは捕らえきれない超高速で振り下ろされるムチはヒュンヒュンと音を立てる。GK隊長はそれを見て涙をこらえる……はずもなく、「オマエのせいでインリン様がお怒りになっただろ！」と逆に足蹴にする。

ご覧のとおり、セクシーすぎる悩殺コスチュームでインリン様が登場されたときに、すでに我々は今回の探検のゴールにたどり着いていたのかもしれない。

完璧すぎる曲線美で探検隊を魅了するインリン様のパーフェクトなボディ……そこはプロレス界屈指の桃源郷と言えるだろう。

探検隊はインリン様の前で、「奇跡のムチ投げ再現」をやってはみたが、そう簡単にできるはずもなくあえなく撃沈。これがインリン様の逆鱗に触れてしまい「美しくないわ！」と小松隊員に激怒！GK隊長もインリン様に加担してシャツを脱がせてしまう。そしてインリン様はピュンピュンとムチをフルスイングして小松隊員をめった打ちに！

しかし、ここで小松隊員に変化が!!（ドギャ～ンと効果音）。なんと、小松隊員がムチで打たれながら笑顔を浮かべているではないか!? 痛みをこらえながら、なぜか恍惚の表情でムチを受ける小松隊員の姿を見て、彼がすでにインリン様に洗脳されていることを知ったGK隊長であった。白いもち肌が真っ赤に染まる頃には、もう小松隊員は完全にインリン様のしもべとなっていたのだった。

インリン様の恐るべき洗脳力を目のあたりにしたGK隊長は冷や汗を拭いながら、「これがニューリン様だったら、洗脳されてムチでめった打ちにされていたのは自分だったかもしれない」と考え、ぞっとしていた。

しかし、まだ探検は始まったばかり。ここで探検をやめるわけにはいかない。プロレス界に残された謎をすべて解き明かすまでは!! ゆけゆけ、GKスペシャル・プロレス探検隊！

（次回へ続く）

プロレス探検隊の 探検レポート



隊長 レポート



『♪川口浩がぁ～洞窟に入るぅ～。カメラマンと照明さんのぉ～、あとに入るぅ～♪』という嘉門達夫の歌がある。何をおっしゃる嘉門さんだ。我々は、あの『水曜スペシャル』を世に連綿と語り継いでいくために、今回マジで立ち上がったのであーる！ たった一人の隊員・小松は相当に心もとない存在であるが、この隊長が見本となって熱い風を吹かすって！ しっかし隊長的には、たとえメイク待ち3時間でも、本当はニューリン様にも会いたかったたって!!

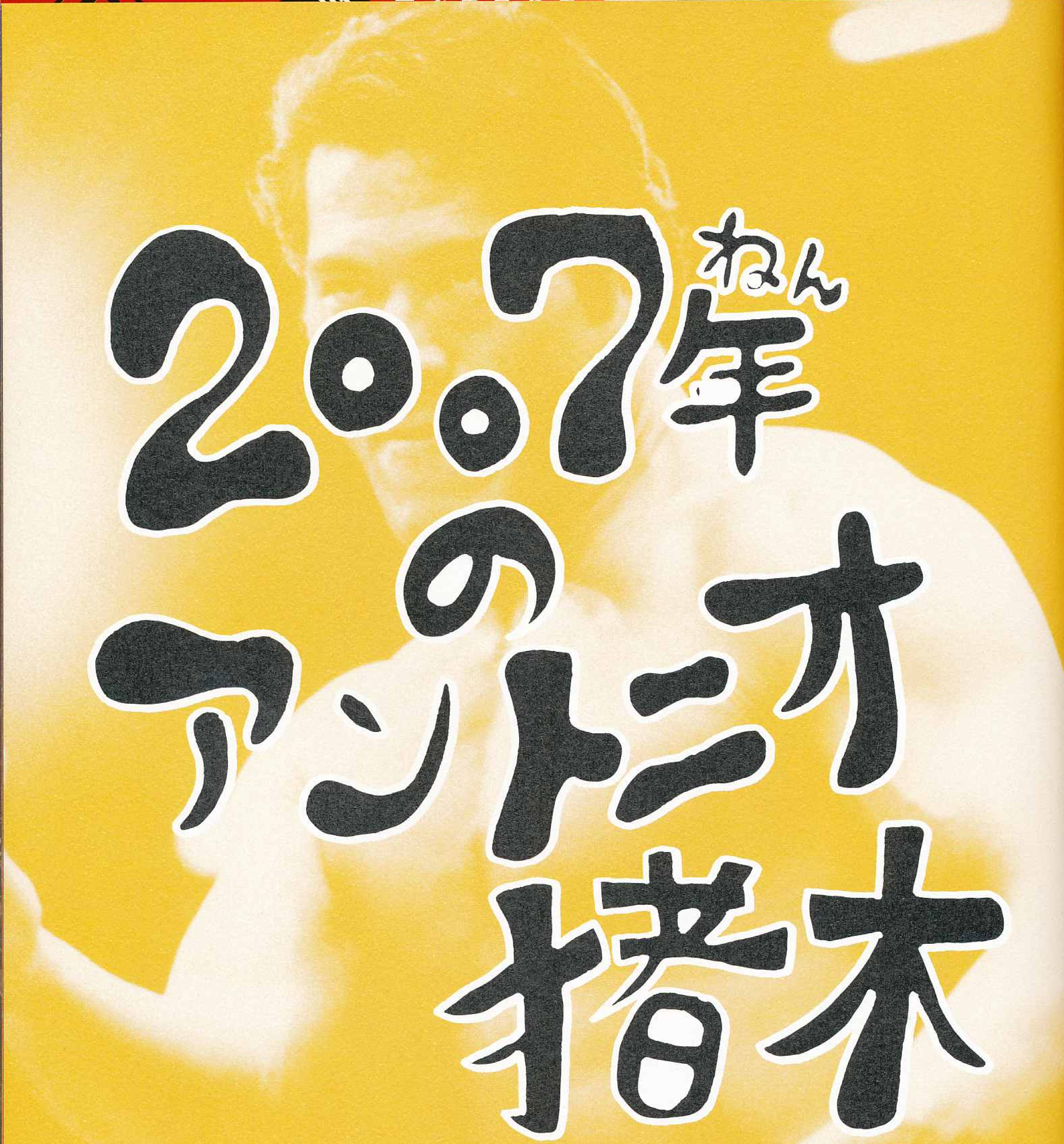
隊員 レポート



「思うに任せない悔しさを腹の底から噛みしめる」。これは私が敬愛する藤岡弘、隊長のお言葉だ。インリン様の前で四つんばいにさせられたとき、私はまさに悔しさを腹の底から噛みしめていた。しかし、インリン様にムチで打たれるうちに、私の屈辱感は心地よい恍惚感へと変わっていた。それは『ハッスル』の関係者までに醜態をさらすという屈辱感を上回るほどの恍惚感であった。この恍惚感を味わえる限り、我々の探検にピリオドが打たれることはない！

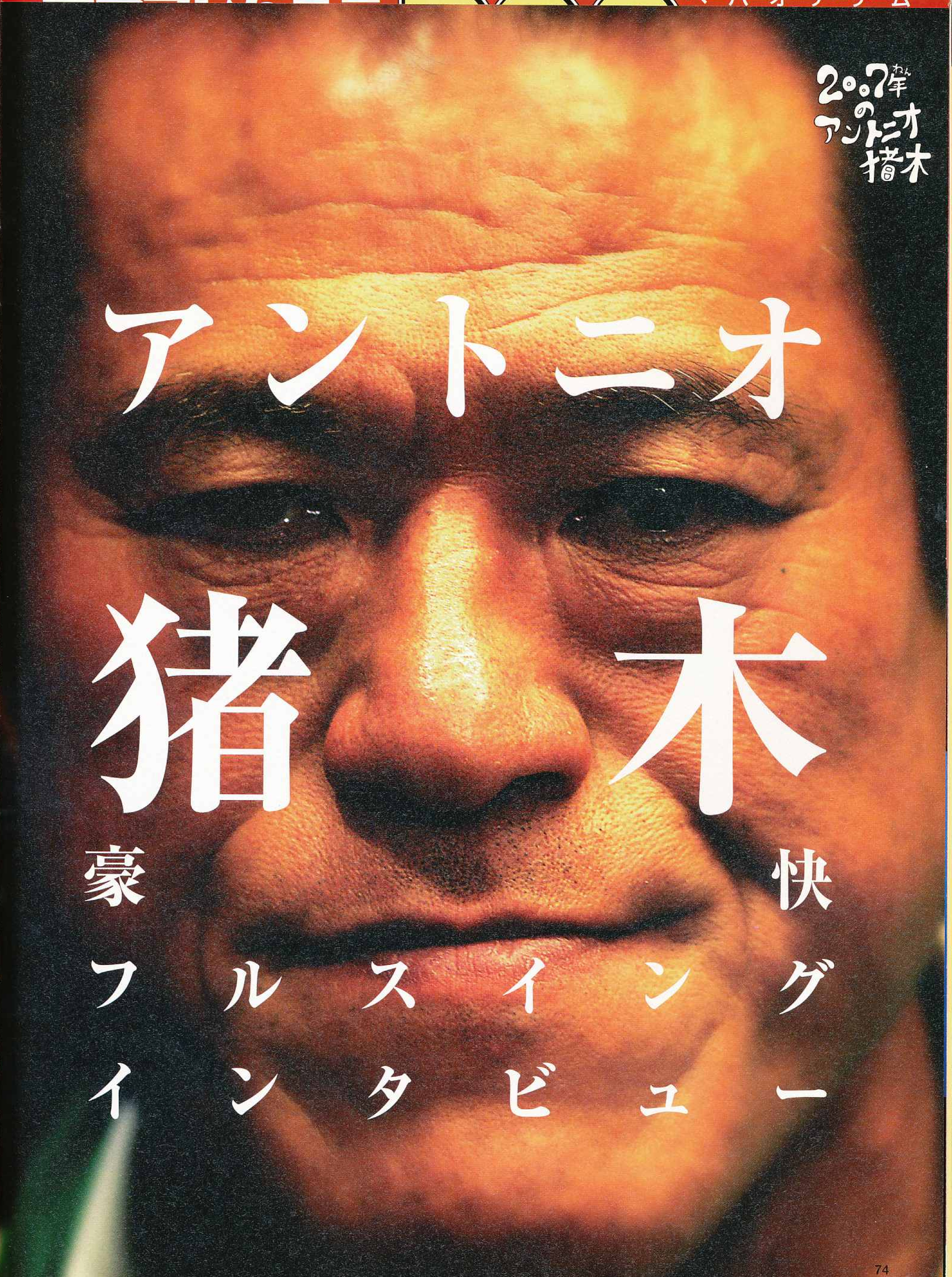


我に返り、小松隊員は自分の痴態に激しく落胆したがGK隊長は「無理もない」と気遣った。インリン様の極上なセクシーボディを目の前にして「狂うな」というのが無理な注文だ。



2007年（ねん）のアントニオ猪木

kamiproしかできない
6.29 IGF「闘今BOM-BA-YE」
底抜け大特集



2007年の アントニオ猪木

アントニオ猪木

豪快フルスイングインタビュー

永久電機も、プロレスも、俺も やっと報われる ときがきました!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

6月29日、両国国技館にて、我らがアントンが満を持してＩＧＦ（イノキ・ゲノム・フェデレーション）を旗揚げするが、ここにきてアントン熱が急激に高まりを見せている。

「1976年のアントニオ猪木」（柳澤健・著）が評判を呼び、あらゆる媒体でアントンのインタビューが掲載され、ターザン山本!さんが土下座をしてまで自身の誕生日会へのゲスト登場を懇願する（結局失敗!）。そしてなんとあのジョシュ・バーネットもＩＧＦに参戦することに！　これこそダナ・ホワイトが腰を抜かすビッグ・サプライズだよ！

それにしても、この賑わい。いよいよアントン復活の機運!?……いや、ちょっと待ってくれ。〝強いプロレスの象徴〟としてのアントニオ猪木を楽しむのもいいだろう。しかし、世の中には〝永久電機・後〟のズンドコなアントンを追う信者も多数存在するのだ（まあ、アントンの人並み外れた事業欲は〝電機・前〟も活発だったのだが）。

だからこそ、ズバリ言って本誌しかできないＩＧＦ底抜け大特集を組んでみたというか。トップバッターはもちろん、アントン。〝猪木がホラ吹きゃ風が吹く！〟を地でいくズンドコ節が炸裂だ!!

——猪木さん、今日はよろしくお願いいたします。

猪木　はい！　どうぞ。

——まずですね、ついに6月にあのゲノム（ＩＧＦ）が発進するということで、ゲノムがとっても大好きな『ｋａｍｉｐｒｏ』読者はもう待ちきれなくてウズウズしてるんです。いったいどういったイベントになるのか？　いったい何が起きるのか？　と興味津々で。

猪木　ムフ！　まあ、俺の職業は人を驚かせることだから！

——ハハハハ！　そういったゲノムへの期待はやっぱり猪木さんがこれまで関わってきたイベントがいずれも破天荒な内容だったこともあるからなんでしょうけど、今度のゲノムは過去のどんなイベントをイメージすればいいんでしょうか？

猪木　それはもう、とんでもないイベントであって、マジメなイベントです！　いつもは〝とんでもないイベント〟ばかりやっているけど、今度はマジメなイベント。

——マジメかつとんでもない！　でも、一般人のボクたちからすると、猪木さんのマジメ、イコールとんでもないという解釈になってしまうんですけども。

猪木　まあまあまあ、いまのプロレス界からすれば、とんでもないプロレスかもしれない。ムフフフフ！　〝逆も真なり〟で、俺がマジメにやれば、とんでもないプロレスになるとでもいいますか。

——ズバリ、イベントの概要はそろそろ固まってきてるんですか？

猪木　最初から何かを決めて固定しちゃうと、そのイメージがついちゃうじゃないですか。だから誰がメインとかそういうことはあまり重要じゃなくて、今回はあくまでスタート台なんです。でも、お客さんの期待に応えられる凄い選手がリストアップされていますよ。ただし契約の問題とかいろいろあってね、それをクリアしないと、あとでゴタゴタしますから。まあゴタゴタしても俺は気にしてないんだけどさ！

——ゴタゴタは気にしない！　さすがは猪木さんです（笑）。

猪木　まあ、俺はゴタゴタしてもいいんだよ。けど、選手によっては強く言えないヤツもいるから。だったらスッキリしてからしようや！って言ってます。でね、いまは世界中が**インターネット**でつながってますから、いろんなとこから選手のオファーが飛んでくるんですよ。すぐに「出たい」とかいうことではなく、要するに駆け引きを含めて。だから我々もすぐに「はい！」って飛びつくわけにもいかないんですけど。

——世界戦略という意味では、『ＰＲＩＤＥ』やＫ－１もアメリカ進出が大きなポイントになっていますけど、猪木さんは昔から海外戦略に精力的だったじゃないですか。

猪木　まあ、繰り返しますけど、いまはネットの時代ですから、日本にいながらにして世界に発信できるという。ただ、俺たちの時代はその場で世界に向けてアピールしないとできなかったんです。だから、実際に世界に飛び出していったわけですよ。いまプロレスに昔のようなパワーがなくなったのは、そういう一つの夢というか大きな目標がないんじゃないかな。「じゃあ、なんのためにプロレスやってんだよ?」という質問をされたときに即答できる人間が少ないんじゃないの?

――そうかもしれないですねえ。

猪木　うん。聞いてみてよ。なんのためにプロレスやってるか。

――生活感あふれる答えが返ってくるかもしれないですね。ごはんを食べるためとか、家賃を払うためとか。

猪木　それは間違いではないけど、そうじゃないんですよ！　ズバリ、金儲けするんだったらほかにもっといっぱいあるでしょ。金儲けするんだったらインターネットでいくらでも稼げるんだもん。でも、プロレスは金儲けだけじゃない。たとえば、かつて力道山という人が国民に夢を与えた。そういうことをいまの若い人たちはわかんないと思うんだよね。それを俺がみんなを集めてね、講演してあげましょう、と。料金は特別料金一人5万円くらいでどうだろうかなと思っていますけどね。それは俺が払ってだよ。買収になっちゃうから！　ダハハハハ！

――はあ（笑）。いまのプロレス界にいろいろアドバイスしたいことがあるんですね、猪木さんからすると。

猪木　ありますよ！　たとえば、いまここにおいしい料理を美人とブスがそれぞれ持ってきました。さて、どっちがおいしいでしょうか？

――まあ、美人のほうがおいしそうに見えますよね。

猪木　違うんだよ！

――あ、違いますか（笑）。

猪木　美人の場合は顔に見とれててよぉ、料理を味わってるヒマがない。ブスが持ってきたら食事に集中するしかないじゃんか。ダハハハ！

――そういうもんですか（笑）。

猪木　ムフ！　つまり、いまのイベントはデコレーションばかり気にして、イベント自体の中身が薄くなってしまっているということなんです。だからもっとリングに集中できることが求められるんだよ。レーザーを使ったり、ライトを使ったり、そこの部分ばかり気にしてイベント全体のバランスが崩れてしまっている。そこの振り子を戻す作業が必要というか。

――なるほど。猪木さんは**北朝鮮**や**ロス**なんかで大興行をやってきてますけど、そこで得たものって大きいですか？

猪木　大きいですよ。だって北朝鮮の興行なんて、とんでもない国家事業だもん！

――確かにとんでもないですよね。

猪木　そういうイベントを経験していますから、少々のことはなんてことない。（韓国と北朝鮮の）38度線の興行もまだ消えたわけじゃないですからね。

――猪木さんの夢の一つである〝**板門店ボンバイエ**〟の話はまだ生きていますか！

猪木　もちろん。ただねえ、いまは同時進行でいろんな仕事が重なっちゃってね。一つは**サンゴ**（の養殖）でしょ。**（永久）電機**でしょ。**エネルギー問題**でしょ。もう大変だよ、俺は（苦笑）。

――どれもこれも猪木さんのライフワークですからね（笑）。

猪木　それからプロレスに恩返ししないといけない。この4つの柱がね、これまでは別のかたちでやってきたんですが、同時進行になってしまって。だってズバリ言えばね、事業なんて金は突っ込むだけなんですよ！

――突っ込むだけでしたか。お金を！

猪木　だから、み～んな俺の悪口を言ってるわけだけど。まあ、俺には金をつぎ込みながら、未来に見えているものがあったから！　それでいよいよ発進するところまできたんですよ。もう凄いことに。ンムフフフ！

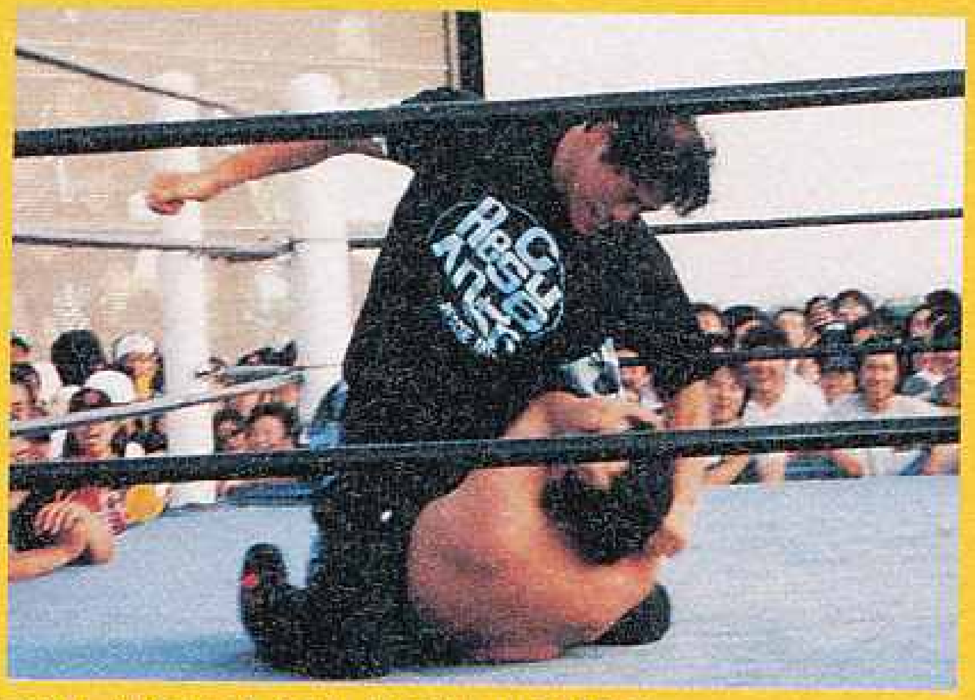
問題、永久電機、プロレスへの恩返し!!

2007年のアントニオ猪木



アントンのマジメでとんでもない興行①
95年4月28～29日
『平和の祭典』／北朝鮮・平壌スタジアム

金正日時代の北朝鮮で開催された地球規模的プロレスイベント。二日間で38万人の動員を記録。新日本プロレス、全日本女子プロレスから選手が派遣され、北朝鮮が国を挙げての協力態勢が敷かれた。このイベントを機に、アントンと北朝鮮の結びつきは強くなり、時節柄、不謹慎ということで右翼の街宣車が出動する騒ぎとなった、あの“北朝鮮・ふぐ＆松茸食べ放題ツアー”がプランニングされるに至る。



アントンのマジメでとんでもない興行②
98年7月18日
『狂人乱舞・神威』／千葉・金田海岸

マット界を根こそぎブチ壊した川又誠矢氏も絡んでいた伝説の『猪木祭り』。テーマは「猪木イズムで経済、農業、福祉、UFOにアプローチする」というキテレツなもので、ダナ・ホワイトも腰を抜かすアトラクションが数多く用意。たとえばエキシビションマッチで素人の挑戦を受けたアントンは、ギブアップの意思表示をさえぎり情け容赦なく殴打！　あわれ挑戦者は血まみれで泣きながらリングをあとに……。狂ってる！



アントンのマジメでとんでもない興行③
02年8月8日
『LEGEND』／東京ドーム

史上初のMMAゴールデンタイム生中継で、“芸能界の実力者”川村龍夫氏が陣頭指揮を執った、男なら絶対にシビれる格闘技イベント。会見のたびに川村社長が出席し、カッコイイ名言を吐きまくるから恐れおおいのであります！　チャイナがリング上から対戦者を募集して試合をやったり、「タイソンが来ます！」とアントンがいつもの調子だったり、そのタイソンの自称・代理人が超能力者だったりと、とにかく最高！



2007年のアントニオ猪木をよく知るためのゲノム注釈

〈インターネット〉
じつはアントン十八番のセリフ。途方もない世界戦略を記者陣にブチあげる際、「まあ、いよいよインターネットで試合が観られる日がきますから！」と、ことあるごとに力説。いよいよそんな時代がとっくにやってきているが、IGFの放送環境はいまだ不明。ちなみに以前、インタビューで「猪木さんはインターネットで情報収集したりするんですか？」と質問したところ、「ええ。ネットでよく相談されるんですよ」と即答！……あきらかに携帯メールと勘違いしていたが、細かいことはどうでもいいのが猪木イズムなのだ！

〈北朝鮮〉
95年、新日本プロレスの協力のもと、北朝鮮で「スポーツと平和の祭典」を開催。これを機にアントンと北朝鮮に結びつきは強固なものとなるが、北朝鮮から莫大な必要経費の支払いを反故にされた新日本プロレスは経営危機に。冗談みたいな話だが、本当なんです！　結局、UWFインターとの対抗戦がヒットしたことで倒産の難を逃れた。アントン＆北朝鮮のタッグ、凶悪すぎ！

〈ロス〉
96年、ロサンゼルスで開催された「プロレス平和の祭典」。メインにはあのオレッグ・タクタロフ（現在は俳優）やダン・スバーンが起用されるなど、総合系の色が強かったが、実際はCMLLのルチャドールが総動員され、ロスのヒスパニック層の動員を狙ったイベントだった。でも興行的には大失敗！

〈板門店ボンバイエ〉
北朝鮮と韓国の軍事境界線付近にテントを張って興行を打つという、驚ガクのファンタジープラン。あの03年大晦日の日テレボンバイエ直後に開催を提唱するから、さすがはアントン。そんなアントンの魔性に魅入られた一般スポーツ紙も「あの小川直也も出場」「大晦日開催、地上波放映」などと書いたりするから、みんなちょっと冷静にな。

〈サンゴ〉
アントンが島（イノキ・アイランド）を

――確かに電機が動けば、科学の常識を覆す事態ですし。
猪木　それで、2～3日前に韓国に行ってきたんですけど、明日からまた北朝鮮に行くんです。俺しかいねえじゃん。だって韓国へ行って北朝鮮へ行くんだよ？
――凄い行動力ですよね。
猪木　そういう特殊なキャラクターというか、そういうものがあるなら有効的に使おうということで。まあ、日朝問題も遠からず変わっていくだろうし。だからといって日本、北朝鮮、韓国の3つが関わるイベントをボーダーライン（38度線）でやるのは政治上の問題に発展する可能性があるから簡単にはできないと思うんですよね。
――かなり難しいでしょうね。
猪木　ほかにも政治的な問題をいろいろ抱えてますからね。在日問題にしろ、拉致問題にしろ。でもこれは自分の一つの考え方でね、もうそれは政府がやってることだから、ここは任せて俺しかできないことを探したほうがいいんじゃないか、と。だから**イラク**もそうだし、**旧ソ連**もそうだし、北朝鮮の問題……。ずっと俺はある意味で政治とリンクしてることをやってきてますから。
――やるからには当然、政治的な問題が浮き上がってくるイベントをやっていく、と。
猪木　まあ、そのために俺にはまだまだ武器があってね。ズバリ、**国連**から依頼を受けてるんですよ！
――えぇ～～！　あの国連が猪木さんに協力ですか！
猪木　ムフ！　みんなビックリしてますよ。
――誰だってビックリしますよ！
猪木　ここに至る前で、俺はエネルギー事業にお金を突っ込んできましたけどね、国連が興味を持ってくれて、やっと報われるときがきました！
――きましたか！
猪木　うん。いままさに！　それで、昔から俺は「プロレスのスポンサーになるよ」と言ってたでしょ？

俺の4つの柱は、サンゴの養殖、エネルギー　問



アントンのマジメでとんでもない興行④
03年9月13日
ジャングル・ファイト／ブラジル・マナウス

あのイズマイウが中心となって開催されているMMAイベント。将来性のある選手が腕を磨く場として評価を高いが、記念すべき第一弾イベントは非常にゲノム度が高いイベント。イベントのテーマとして森林保護金が募集されるも、元・新日本社長の草間氏によれば、協賛金で購入したはずの記念樹がどこに植えられたのかまったく不明。どういうわけかジャングル度ゼロの名古屋での開催が浮上したこともあった。



アントンのマジメでとんでもない興行⑤
04年11月13日
新日本プロレス『闘魂祭り』／大阪ドーム

アントンの号令を受けて急きょ開催。前売り不振のためハッスル軍をイヤイヤ招聘したことで、選手や関係者のフラストレーションが狂気を持って爆発!!　とくにテレビ朝日の吉野真治アナは全編にわたって「ハッスルなんてクソ食らえぇぇぇ!!」とノンモラルな実況。ハッスル軍にブーイングが起きれば大興奮、歓声が起きたら「聞こえない!!」と男らしい態度を崩さず業務放棄。アントン現われるところ、乱ありなのだ。



アントンのマジメでとんでもない興行⑥
03年12月31日『イノキボンバイエ2003
馬鹿になれ 夢を持て』／神戸ウイングスタジアム

あのアントンをして「もう思い出したくない」と言い放った、前代未聞ズッコケ興行。なにしろ関係者たちは試合当日になってゴングがないことに気づくありさま！　大会終了後の暴動騒ぎなどを含めて、本誌のためにわざとズッコケてるとしか思えないノーセンスなダメ興行だった。まあ、このイベントが、なぜかPRIDEだけに焦点を絞った一般週刊誌のバッシングの引き金になったかと思うととても気が重いですが……。

――ええ。電機で大金持ちになった暁には。
猪木　もう目の前ですよ！　やっぱりね、いまの時代、イベントは金が凄くかかるんです。リスクもあります。やはりそれで採算性が合わないのというのはうまくないんだけども、計算が先に立ったら夢は広がらないよ。
――それが電機に代表されるエネルギー事業の収益や、国連の協力で計算を超えたイベントにできるという。さすが猪木さん、スケールが大きすぎます！
猪木　ねえ。やりますよ！　だからまあ、会場は神宮（球場）とかいろいろ考えましたけどね、やっぱり梅雨の時期でしょう。野外だといろんなことができるんですけど、逆に規制もうるさくて。騒音の問題だとかね。まあ、そんなこともあって今回はスタートラインですから、そこまでリスクを背負うことはないと思う。
――でも、旗揚げ戦ですから派手にいきたいですよね。
猪木　そうですね。会場にお客がいっぱい入ってれば、選手も燃えるんですよね。確かに入場料はそんなに取れないかもしれない。だけど何億人という人たちがネットで観戦できれば、一つの興行で東京ドームをあふれさせてまだ足りないぐらいの商売ができるわけです。だから俺は単なる夢物語を言ってるわけじゃなくてね。
――現実的なビッグプランだ！　と。
猪木　うん。そういうものには当然スポンサーがつきますよね。テレビにスポンサーがつくのと同じように。そういう意味では、いま小さくなってしまった興行規模をもっともっと大きく、ビックバンじゃないけど爆発させないとね。
――ホントに地球的規模のイベントになるということですね。現時点でカードはいまだに一枚も発表されてないですけど、猪木さんのとてつもないスケール感に酔ってしまいました（笑）。
猪木　悪酔いなんじゃないの？　ダハハハ！
【07年4月9日／IGF事務所にて収録】

所有するパラオの近海のサンゴが年々減少傾向にあることから養殖事業に着手。そのパラオにはアントン・イルカ牧場もあるなど、けっこうなゴキゲンパラダイスなのだ。永久電機（＝アントン事業）マニアなら一度は足を運びたい。

〈永久電機〉
アントンが投資を続ける永久機関のこと。外部からの力や熱を一切受けずに運動を続けるという理論をもとに研究が続けてられているが、科学的には全面否定されている。でもアントンはあきらめない！　02年3月にはマスコミ、投資家を集めて大々的に公開会見を開催。アントンは自信満々で起動スイッチを押したが、器具トラブルにより故障。「午前中は動いていた」とアントンは力説するわ、重要なボルトを接着剤で止めていたことが発覚するわ、開発した発明家は「そもそもなぜ動くのかわからない」と衝撃的な発言を残すわで、いかに伝説な会見だったかご理解できるだろう。また、誤解している読者も多いが、ついこないだ開発された「闘魂モーター」は効率の良いモーターであって、永久電機のことではない。なお、携帯サイトkami-proHandの運営部署・電気部の名称は、この永久電機が由来している。たしか。

〈エネルギー問題〉
ブラジルで公害問題になっていたサトウキビの絞りかすを再利用するアントン・ハイセル計画に始まった、アントンのエネルギー事業。そのため億単位の借金を背負い、新日本プロレスに暗黒時代をもたらしたが、アントンのインフラLOVEの原点は、電気も水道もない過酷なブラジル移民生活にあった。

〈イラク〉
1989年、湾岸戦争直前のイラクにおいて『平和の祭典 inバグダット』を開催。プロレスやジョニー大倉のライブイベントを催し、人質状態にあった在留日本人を解放する役割を果たした。やるときはやる！

〈旧ソ連〉
ペレストロイカ政策が進むソビエト連邦とスポーツ交流。モスクワでのプロレスイベント開催、柔道やアマレスのアマチュアアスリート招聘、あの勇利アルバチャコフの橋渡しも手がけた。この事実をおもいきり広義に捉えると、リングスやボードックの道を切り開いたといっていい。凄いぞ、アントン！

〈国連〉
平和と安全の維持、国際的な共通課題の達成を目的とした国際機構。加盟国は192カ国。そんな国連が協力するという、ほっぺたをつねりたくなる夢の計画はいまに始まったことではなく、アントン実兄・猪木快守氏も以前から「アントンは国連のお墨付きをもらっている」とコメントしている。フリーメイソンから国連まで、アントンの世界戦略は底なしだ！

인사이드 코리아（インサイドコリア）

韓龍格闘技ノンフィクション劇場

第15回
本誌しかできない！
他誌はやるわけがないスクープ!!

韓国で電機ブーム!?

文／大川“隊長”義之



韓国在住の日本人ライター、大川“隊長”義之氏からとんでもないニュースが送られてきた!! 驚くことに、韓国で永久電機がフィーバー寸前だというではないか！ ウソ!?

いったい韓国で何が起きているのか？ とにかく原稿を読んでほしい。

そして本誌しか取材しなかった、アントン実兄・猪木快守氏の熱海市長選出馬会見記事に続いて「プロレスと関係ないじゃん！」と口を尖らせるそこのあなた、とまれ！ 本誌から言わせれば、これぞ“プロレス”の醍醐味が詰まっているのだ!!

★

世界の格闘技界、政治、新技術開発とグローバルに活躍する我らがアントニオ猪木は、こちら韓国でもいろんな意味で有名！ プロレスファンにとっては大木金太郎のライバルとして名が知られているし、格闘技関係者からは業界をかき乱す“ホラ吹きオヤジ”として迷惑がられている。それだけではない。アントンはあの永久電機で韓国の企業や大学と業務提携を結んで実用化を目指す人物としても有名なのだ。

今回はそんな韓国の産業界におけるアントンと電機を紹介しよう。

まずは、以下の2006年6月20日に韓国の大手報道機関『聯合ニュース』が報道した記事（要約）を読んでほしい。

全羅南道庁、先端型発電機の開発に『拍車』（『聯合ニュース』06年6月20日付）

順天（スンチョン）大学は『日韓INP－サンテック企業協力プロジェクト、ビジョン宣言式』を06年6月20日に順天ロイヤルホテルで開催した。

順天大学は順天市、全南テクノパークや革新企業協議会が共同主催する今回の宣言式を通し、日韓共同でエコエネルギー事業の世界化を推進していく計画だ。とくに今回の宣言式には（株）サンテック発電機のイ・ソニュ代表と、日本INP技術研究所のアントニオ猪木会長（世界格闘技連盟総裁）が参加して日韓投資のビジョン宣言を行ない、新しい株式会社INP－SUNTECHをスタートさせる。

今回の会見を通して紹介された新概念高効率発電機は、既存の発電機よりも10パーセントも効率が良く、低騒音および低重量に加えて半永久的に使えるように開発され、さらにはディーゼル発電機だけでなく太陽光・風力発電併合システムの開発を通して環境にやさしいエネルギー分野に驚くほどの成果をあげることが期待されている。

新設される日韓合作投資法人は、世界初の画期的な技術を適用した先端型発電機を国内外に普及させる計画で、また日韓企業協力プロジェクト事業の一環として低開発国家に対する電力エネルギーの支援事業、および日韓企業との共同で、世界“光事業”の投資に参加することになる。

この事業は、（株）サンテック発

電機は約26億円の収益が見込まれる韓国をあげての一大事業になるのだ！

電機と順天大学の産学協力中心学部が数年間にわたって積極的に推進して実現したものであり、将来的には年間200億ウォン以上の売り上げと100人の雇用を生み出す効果が期待されている。

またこの日の行事には、ヒョソン（暁星）グループ、ヨンアングループなど国内の大企業経営者と学界専門家、日本の記者団、日米の海外バイヤー、地域の企業家ら200名あまりが参加し、猪木会長は〝世界の子どもたちに光を〟という題名で特別講演を行なった。世界的なレスラーらしく、大声で「元気があればなんでもできる！」と挨拶をしたあと、「苦しいブラジル移民生活の経験を通して、貧困で苦しんでいる子どもたちを助けるために計画し、実行している」と話した。

また猪木氏の講演終了後、ホテル別館の1階玄関で500ワット電球を12個に点灯できる6キロワット級の『闘魂発電機試演会』が開かれた。

INP─サンテックのイ・ソニュ代表は「全世界で電気の供給を受けられない国に、国連を通して供給される『闘魂発電機』は、サンテックが開発した電気コイルを使わずに磁場を利用して作った発電機の新しい技術であり、効率の良い発電機だ」と明らかにした。

（資料提供『順天大学』）

日本では「絵空事」とか「永久に完成しない」などの辛らつな評価ばかりで、世間的にはほとんど相手にされていないアントンの電機も、ところ変われば評価も変わる！　なんと、韓国では大真面目な最先端の大型産業プロジェクトとして実用化に向け、大学と企業が協力して日韓の合同企業まで立ち上げて推進されているのだ。

大風呂敷を広げるアントンの気質と、細かいことは気にせず、とにかくスケールのでかい話が大好きな韓国人の気質は、意外にもぴったりと合うのかもしれない。

とにかく両者が結託すればケミストリーのような相乗効果が生まれ、想像を絶する規模の話が期待できそうなのだ。端から見ていると細かいこと気にする人が誰もいないので非常に危なっかしく見えるが、決してこのアントンと韓国企業&大学のプロジェクトは絵空事なんかではないのである！

アントンの公式ブログ『闘魂ブログ』の06年12月20日の日記には、韓国大手企業で電機に協力するヒョソングループの発電機生産工場と、アントンの会社が現実に業務提携しているサンテックの発電機工場を視察しており、生産体制が進んでいることが書かれている。

これ以外にも順天大学も全面的に電機の研究に協力している。





2005年の年末、浅草花やしきに隣接された『闘魂神社』（猪木快守プロデュースで全国都道府県に1社設置予定）で初披露された新型発電機『闘魂パワー』。アントンが開発に固執していた永久機関的装置ではなかったが、神社の照明はこの発電機の力で点灯され、韓国の暁星機械サイドとガッチリ握手！

すでに中南米やアフリカなどの発展途上国からは電気の需給依頼が来るなど、韓国では夢にまで見たアントンの電機実現化計画が大真面目に進行中なのだ。

資料ソースの大半がアントンの『闘魂ブログ』というところが信憑性に欠ける点ではあるが、この際そんなの問題なし！　なにせ200億ウォン（約26億円！）が見込まれる全羅南道（韓国の南西部）をあげての一大事業なのだ！

この際アントンの口車に乗って一緒に夢を見ようではないか。アントンを後押しするように、今年に入って韓国政府は電機が世界最高峰の発電機であることを保証する証明書も発行している（『闘魂ブログ』07年4月11日参照）。

これだけ見ると本当に実用化は目前で、あとは国際電力事業の貿易ラインに乗るのを待つばかりという気がしてしまう。

……しかしだ。ここでもう一度最初にあげた聯合ニュースのソースを見直すと、最後に「本報道資料は『聯合ニュース』の編集方針と関係はなく、すべての責任は提供者にあります」という一文が！　この記事をある新聞関係者に見せると「『聯合ニュース』の連中は滅多にこんな但し書きは載せないんだが、よっぽどこの記事の信憑性がないと判断されたのでは……」とコメント。

つまり報道側としては「ニュース性はあるので掲載はするけど、事実かどうかの責任は持たんよ」ということなのか？

それもそのはず韓国では最近、ソウル大学のエリート研究者ファン・ウソク教授がクローン技術についてノーベル賞ものの研究発表を行なったが、それが捏造であったことが明らかになったばかりである。報道関係者も怪しげな研究には慎重な姿勢で臨んでいるのだろう。この一文を見ると、アントンから伝え聞くように電機を楽観的に捉えるのは、まだ時期尚早かもしれない。

そもそも、アントンは「電機」という言い回しを続けるが、韓国で開発されているのは、効率の優れたモーター（名称は『闘魂パワー』）ではなかったか。「永久電機」ではなく単なる「電機」だとしたら、『kamipro』はこの5～6年間、なんのために偉大なる発明にページを割いて、ペンを走らせてきたのだろうか。

果たして韓国で報道されている電機の実態とは何か？　幸か不幸か、筆者は上記の『聯合ニュース』の情報提供元である順天大学の研究担当の連絡先を入手してしまった……。いずれ機会があれば、研究所に連絡して工場見学を申し込み、電機の実用化の実体を潜入レポートする日が来るかもしれない。その時まで続報を待て！（ってホントかよ……）。

『アントニオ猪木とマスコミによる

「ウチは取材拒否は一切しません！好きなようにトバシてください」

……とのアントン総帥のお言葉に甘え大放出！

旗揚げ戦へ向け連日連夜、怒濤の会見ラッシュを続けるアントン総帥率いるIGF。4月21日には報道陣を招待し、アントンとの意見交換会を実施。この意見交換会に出席した『kamipro』代表・松澤チョロと、今号からプロレス探検隊として大暴れしているペールワンズ・小松伸太郎による意見交換会をお届け、ダー！

チョロ　え〜と、ここではですね、4月21日に開催された「アントニオ猪木とマスコミによる意見交換会」についての意見交換会を行なってみたいと思います。

小松　あれ、あの意見交換会はIGFからの要請で、取材&撮影は一切なし、内容を記事にしないという約束だったんじゃないんですか?

チョロ　そうなんだけども、アントンが会見で、「ウチ（IGF）は取材拒否は一切しません。好きなようにトバシてください」とよく言っているので、あえて、そのときの様子を語ってしまおうか、と。

小松　猪木さんの好意を逆手にとる卑劣な行為ですな（笑）。

チョロ　（無視して）ということで、有限会社ペールワンズの代表として出席した小松君にお話を聞いてみようと思います。まあ、じつは記事にしちゃいけないということだったんで、他にマスコミの人が誰も来てなかったら気まずいなと思っていたんですけど、そんな心配をよそにマスコミの人はいっぱい来てましたよね。

小松　新聞社の方たちは一通り揃っていましたね。

チョロ　で、その中にあのターザン山本！さんもいたと。

小松　会場は浜松町にある居酒屋だったんですけど、僕が浜松町の駅を降りたら、黒地に金屏風柄の奇妙な帽子を被った怪しい男が目に飛び込んできたんですよね。まあ、それがターザン山本！さんだったわけですけど、それで声をかけて会場までの道案内をしたんですよ。

チョロ　ここ最近『kamipro』にはトンとご無沙汰のターザンですけど、期待どおり道に迷ってたわけですね?

小松　迷っていたというよりは、例によって会場の場所をちゃんと把握してなかったみたいですね。

チョロ　まあ、一部の興味のある人しか知らないでしょうけど、ターザンはただいま『ターザンカフェ』上の日記ではプチ炎上中で、そんな流れからするともしかしたら来るかもしれないなとは思ってたんですが。

小松　僕らも半分はそうですけど、タダ飯狙いでということですか?

チョロ　ちょっち、そんなことは言ってない！　で、僕らより遅れてGKこと金沢克彦さんが来ましたよね。

小松　あとは〝Show〟大谷泰顕氏もいましたよ！

チョロ　ヒャッ！　まあ、大谷さんは、かなり前からアントン番ですからね。で、料理はお刺身やらカニやらと豪華だし、じつにざっくばらんな飲み会でしたけど、一応、意見交換会なのでIGFの副社長の廣瀬さんから「せっかくなので猪木さんの前に行ってお話ししてください」って言われたじゃないですか?

小松　あれは困りましたよね。猪木さんには恐れ多くてボクらなんか意見なんてできないですよ（笑）。

チョロ　だから、ボクはターザンの横で会話に聞き耳を立てていたんですけど、ターザンとGKの二人は大活躍でしたよね。さすが大御所！

小松　その二人だけですよね、目の前に行って話をしてたのは。中央のテーブルに猪木さんとサイモン・ケリー猪木さんがいたんですけど、新聞社の人たちはどっちかっていうとサイモンさんのほうのテーブルに集まっているような感じで。

チョロ　で、僕が記憶に残ってるのはアントンの北朝鮮絡みの下ネタ。

小松　「北朝鮮は美女ばっかりだから、俺のミサイルはいつも北朝鮮のほうを向いている。ンムフフフ」っていうネタですよね（笑）。

チョロ　それから、「最近、朝勃ちした！」っていうネタね。そういう意味ではやっぱりアントンは元気だなと思ったんですけど、それ以上に元気だったのがターザンとGKだったという。

小松　いよいよ本題ですね！　まずは金沢さんですよ。

チョロ　まあ、会の終わり近くにGKの携帯に誰かから電話がかかってきた、と。そうしたら、いきなり猪木さんの横に電話を持っていって、「ちょっとお願いがあるんですけども、この人が猪木さんの大ファンなんですよ。ちょっとしゃべってもらえませんか?」ってお願いしたんですよね。そうしたら猪木さんが電話を持って、「元気ですか〜ッ！」って電話口で叫ぶから何事かと思って、金沢さんに聞いてみたら、なんとあの夏目ナナちゃんからの電話だったという（笑）。

小松　昨年の取材以来、金沢さんがゾッコンだという噂の、あの夏目ナナちゃんですね（笑）。ズバリ言って、『Kamipro Hand』の自身のコラムでは、ターザンのことは書いていましたけど、このことには一切触れてませんでしたね。

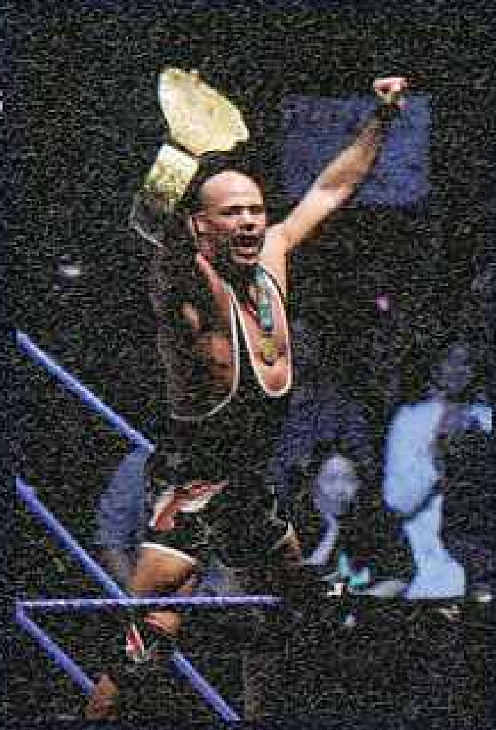
チョロ　GK—夏目ナナラインというと、もともとは本誌でやってた「新日本プロレス凸凹大学校」というコーナーでのインタビューが始まりなんですけど、どうもいい関係を築いてるっぽいんですよね（笑）。

小松　本人曰く、「一番の観戦友だち」ということらしいんですけど。

チョロ　う、うらやましすぎる！　しかも、アントン生ボイスをお届けですからね、これは相当なポイントを稼いでますよぉ（笑）。

小松　でも、このあいだも金沢さんは言ってましたよ、「いま、チョロさんに一番感謝してる」って（笑）。

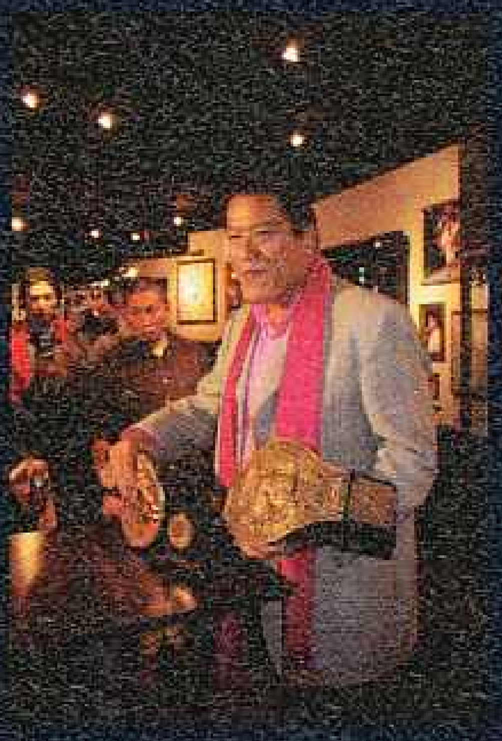
イノキゲノムが止まらない！旗揚げまでノンストップIGF劇場!!



4月16日、カート・アングルから旗揚げ戦への参戦要求がIGFに到着。「ホントかよ!?」とのツッコミが入る中、5月10日に成田会見にてアントンが参戦契約書にサインし、正式にアングルの参戦が決定！



4月18日には北朝鮮を訪問していたアントンが成田で帰国会見。少々お疲れモードだったが数日前発覚した愛川欽也の不倫疑惑について聞かれると「どうせなら子どもでも作ってください」と闘魂メッセージ！



4月25日には旗揚げ戦のチケット先行発売が行なわれた都内の「猪木酒場」に登場したアントン。ファンから永田、藤田、小川らの参戦はあるのかとの質問に「バカヤロー！もっとまともな質問しろ！」と、おかんむり。



太っ腹、アントン！　4月28日には、なんと旗揚げ戦の特別リングサイド席を購入した人の中から抽選でペア2組4名様をイノキアイランドがあるパラオ共和国へ招待することを発表。買うなら特リン、ダーッ！

『アントニオ猪木とマスコミによる 土下座！朝勃ち！夏目ナナ!?意見交換会』で何が起こったのか!?

構成／松澤チョロ



チョロ　そう思ってるなら、僕と一緒に今度のT―1グランプリを観戦するようにお願いしてほしいなぁ。AV嬢もいっぱい出るし……。それはおいといて、どっから見ても、あれはGKの公私混同ですよぉぉぉ！

小松　断罪しますね（笑）。

チョロ　しかし、それを上回る公私混同ぶりを見せつけたのがターザンだった、と。

小松　それですよ！　すでに金沢さんが『Kamipro Hand』のコラムで暴露してましたけど、なんと猪木さんに自分の誕生日パーティに来てくれって、土下座して頼んだんですよね。土下座ですよ、土下座！

チョロ　どういう状況だったか説明すると、この意見交換会の最後に、マスコミの人が自己紹介をして、猪木さんに要望を言ったり質問するというコーナーがあったんですよね。

小松　まあ、だいたい、みんな出場選手絡みのことを聞いてはいましたよね、カート・アングルとか小川直也のこととか。

チョロ　ボクも一応、「イズマイウや猪木寛子さんは出るんですか？」とか聞いたんですけど、残念ながら、それはないみたいで。で、そんな中、ターザンの登場ですよ。

小松　最初は「猪木さんがプロレス界に戻ってきたんだから、みんなここで立ち上がらなかったら、男じゃないよぉ！」とマスコミに決起を促してたんですよね。そうしたら、そのあとに「猪木さん、今度、銀座4丁目で僕の誕生日パーティがあるんですよぉ。3分でいいんで顔を出してください。僕の男が上がるんです。もう、土下座しますよぉ！」と言って、金屏風帽子を脱ぎ捨てて、おもむろに土下座ですからね。

チョロ　ウヒャヒャヒャヒャ！　本人も『ターザンカフェ』上で言ってるように媒体がないし、それによって収入も激減してお金もない、と。そんなことをアピールしている中での公私混同ぶりはじつに素敵でしたね。しかも、あの意見交換会の大トリでしたもんね。そういうことを頼むって、小松君は知ってたの？

小松　知ってるわけありませんよぉ！　でも、ターザン山本！がブレーンとしてIGFに関わっているんじゃないかという不穏な噂を聞いていたんですよね、某駅長さんから。

チョロ　ウヒャヒャヒャ、それこそ土下座が得意技と言ってはばからない、あの駅長さん（笑）。でも、日記にも書いてありましたけど、実際に事務所に顔を出してるんですよね。

小松　そうなんですよね。でも、実際に関わっていたらもっとそれとなく匂わせるはずだし、日記に書いてあるように一日中家に籠もりっぱなしっていう状況にはなってないと思うんですけどね。

チョロ　ターザンは過去に人を土下座させたことはありますよね。

小松　数年前に和民の店長を「ビールがぬるい」と言って土下座させたことはありましたけど、自分が土下座するなんてことはなかったと思いますよ。だから、本当に貴重な場面ではありましたよね。

チョロ　確かに。アントンはどうすると思いました？

小松　まあ、行かないとは思いましたけど。ターザンの土下座を見ながら、「フハハハー！」って困ったような顔で笑っていましたからね。

チョロ　でも、ターザンの土下座は意味がなかったのかなと思ったら、誕生日会の会場に猪木さんから大きな花が届いたんですよね。そこは本当に凄いと思いましたね。まあ、団体側でやったんだと思うんですけど、そういう部分も含めてIGFは素晴らしい！　ターザンとしても土下座の甲斐がありましたよぉぉ!!

小松　本人は土下座したことを一切公表してないんですけど、あれで場も盛り上がったし、お花も届いたしで、やった甲斐があったんじゃないですかね？

チョロ　そのとおりですよ。それにしても、プロレス界の景気がいいときは地方とかで、ああいう会が頻繁にあったっていう話も聞きますけど、僕らは時代のせいもあってか、ああいう機会ってないじゃないですか？

小松　そうですね、残念なことに。

チョロ　たらふく飲んで食わせてもらいましたからね。あんな意見交換会なら何度でも出たいなぁ。応援しがいがありますよ、IGFは。

小松　チョロさんを買収するには効果てきめんだったわけですね！

チョロ　はい！　でもIGFって、いろんな意味で楽しめるし、歴史の証人じゃないけど、ここ最近の旗揚げ戦の中でも一番気になりません？

小松　そうですね。毎日、目が離せないですよね。

チョロ　まあ、総括としてはGKもまさかターザンの土下座を見るとは思わなかったでしょうけど、「あなたもよくやりますね」と（笑）。

小松　あ、最後はターザンではなく金沢さんに矛先を向けますか（笑）。

チョロ　でも、これでアントンに『『kamipro』のバカヤローッ！』って激怒されてホントに取材拒否になったらどうしましょう？

小松　（無視して）I、G、F、マンセー！

【07年5月2日／都内某所にて収録】

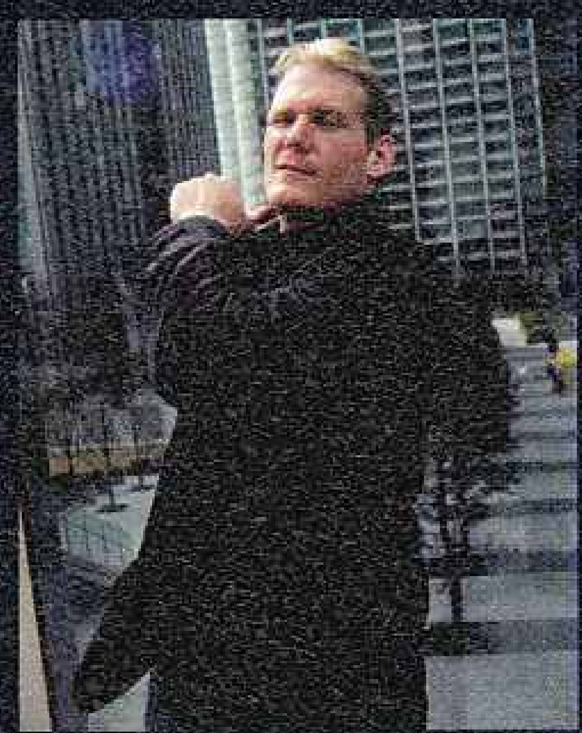
旗揚げまで待てない！おもしろすぎる、I、G、F、マンセー!!



IGF旗揚げ戦へ向けメディア露出も急上昇中のアントンが『炎のファイター』をサンプリングした『疾風迅雷～命BOM-BA-YE～』を大ヒットさせているDJ OZMAと『SMAP×SMAP』、『うたばん』といった人気番組で競演、ダーッ！



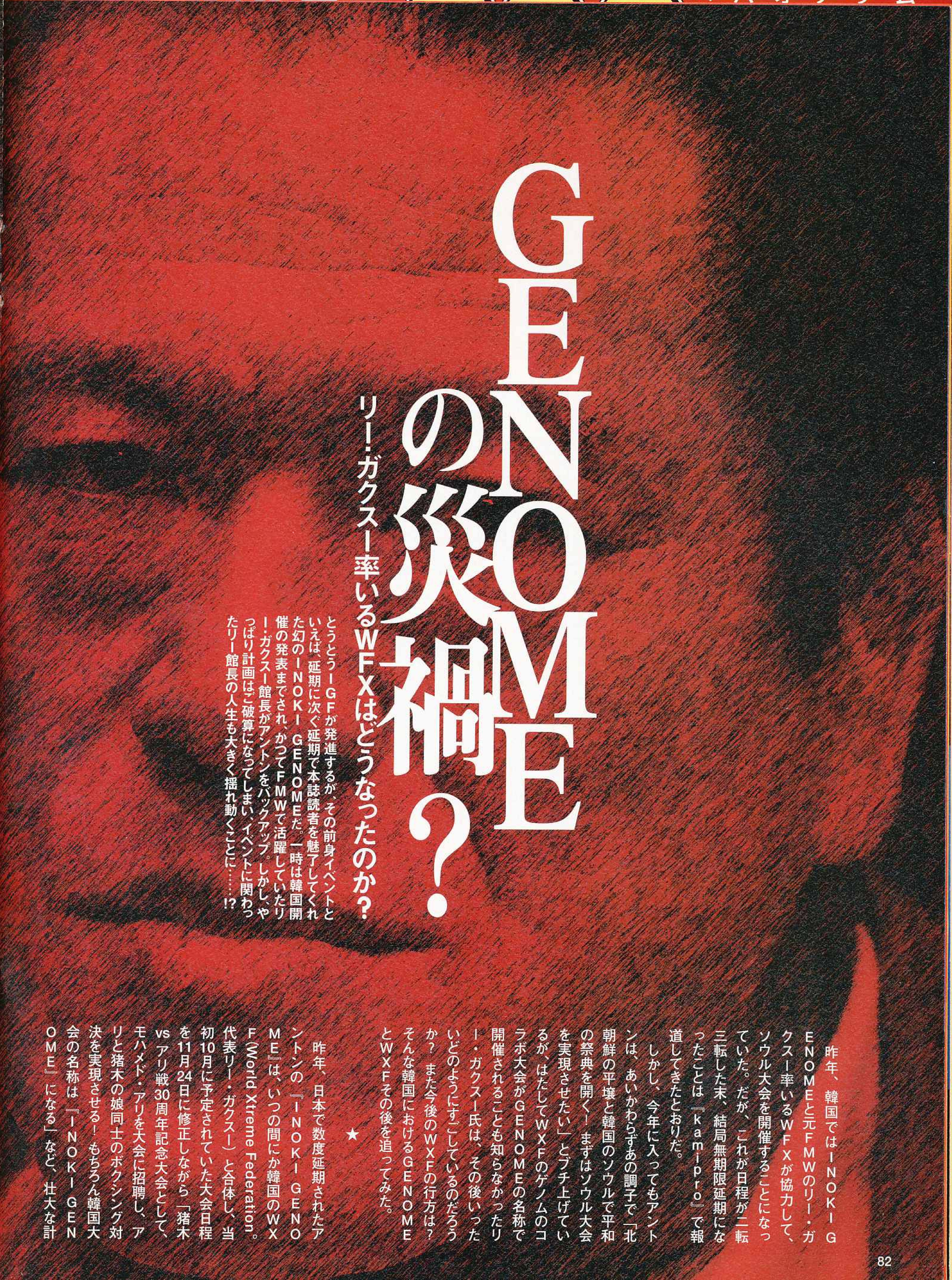
5月5日には都内各地でゲリラライブを敢行したアントン総帥。締めくくりの渋谷ではド派手なオープンカーにお気に入りの沖縄のヒップホップユニット「TRIPLE-P」の二人とともに同乗しマイク片手に旗揚げ戦とニューアルバムの宣伝三昧！



5月7日には、なんとジョシュ・バーネットの旗揚げ戦参戦を発表したIGF。「嘘だろ!?」とのツッコミに対し「カート、ブロック、オマエらはもう死んでいる！」とのジョシュのメッセージを発表。ひでぶ！



R&Bシンガーとして活躍するハルク・ホーガンの愛娘ブルックが初来日し、都内で会見を開催。この会見へ駆けつけたアントンはひさびさに再会したホーガンとノリノリで「ダー！」と「イッチバ～ン！」の競演！



GENOMEの災禍？

リー・ガクスー率いるWFXはどうなったのか？

とうとうIGFが発進するが、その前身イベントといえば、延期に次ぐ延期で本誌読者を魅了してくれた幻のINOKI GENOMEだ。一時は韓国開催の発表までされ、かつてFMWで活躍していたリー・ガクスー館長がアントンをバックアップ。しかし、やっぱり計画はご破算になってしまい、イベントに関わったリー館長の人生も大きく揺れ動くことに……!?

昨年、韓国ではINOKI GENOMEと元FMWのリー・ガクスー率いるWFXが協力して、ソウル大会を開催することになっていた。だが、これが日程が二転三転した末、結局無期限延期になったことは『kami-pro』で報道してきたとおりだ。

しかし、今年に入ってもアントンは、あいかわらずあの調子で「北朝鮮の平壌と韓国のソウルで平和の祭典を開く！ まずはソウル大会を実現させたい」とブチ上げているが、はたしてWXFのゲノムのコラボ大会がGENOMEの名称で開催されることも知らなかったリー・ガクスー氏は、その後いったいどのようにすごしているのだろうか？ また今後のWXFの行方は？ そんな韓国におけるGENOMEとWXFその後を追ってみた。

★

昨年、日本で数度延期されたアントンの『INOKI GENOME』は、いつの間にか韓国のWXF（World Xtreme Federation。代表リー・ガクスー）と合体し、当初10月に予定されていた大会日程を11月24日に修正しながら「猪木vsアリ戦30周年記念大会として、モハメド・アリを大会に招聘し、アリと猪木の娘同士のボクシング対決を実現させる！ もちろん韓国大会の名称は『INOKI GENOME』になる」など、壮大な計

画が発表されていたが、結局11月の大会も延期されてしまった。

その後、すかさずアントンは1月に開催すると訂正するも、韓国側からはなんの反応もなし。WXF側からは3月10日に開催するとホームページ上で発表されたが、専門メディアからもまったく相手にされず、やはり見事に延期されて今日に至っている。もはや韓国では、延期・中止続きのWXFに誰も期待していない状況だ。

大会延期はアントンとの不仲が原因？

『kamipro』からの取材依頼を受けて4月後半、ひさしぶりにリー・ガクスー館長に電話をかけると「おお、去年取材に来たキミね。覚えてるよ」とあの明るい声が受話器から聞こえてきた。いつもの気さくなリー館長の声だ。しかし、今年のWXFの大会予定について質問を向けると「大会の予定？　えぇ、ありますよ……」と急にトーンダウン。現在のアントンとの関係について聞こうとすると「あー……すまんが、ちょっといま、移動中で、1時間後にまたかけてくれないかな」と言われて電話を切られてしまった。その後、何度も指定された時間に電話をかけるが、いつもリー館長は忙しくて話が聞けない状況が続いた。……やはりアントンとのことは、もう語りたくないことなのだろうか。

これまでにWXF側は、昨年11月24日の大会延期について、その理由を明かしてこなかったが、韓国のある格闘技専門メディアによれば、昨年の大会直前には「アントニオ猪木側とWXFのあいだの摩擦によって、大会開催の有無さえ不確かな状況だった」というように、アントンとWXF側のあいだで問題が生じていたことが指摘されている。

GENOMEと関わる前は安定した大会だった

いまでこそWXFは信用のない団体になりはててしまったが、ドタキャンの多い韓国の団体の中で、WXFはGENOMEと関わる前までは一度も大会を延期したことのない、信頼のおけるプロモーションだった。

昨年11月24日の大会も当初は、日本のDSEと直接交渉を経たうえで、アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラとマーク・コールマンの貸し出しが決定しており、そのほかにも金原弘光、キム・デウォン、オ・ウォンジンらの『PRIDE』経験者の出場が決まっていた。

これら世界のトップ選手を韓国勢が迎え撃つという図式の国際大会として地元でも注目される大会にまでなっていた。ところがGENOMEと関わってからというもの、疫病神にとりつかれたかのように4度にわたって大会延期を強いられ、韓国の専門誌には「一部の無計画な大会が、韓国格闘技界全体の評判を落としている」とまで手厳しく批判され、リー館長は苦境に立たされてしまう。

リー館長がアントンをWXFの名誉総裁に推戴したのは、ほかでもなくアントンの世界的な名声を利用してWXFに〝箔〟をつけるためだった。

しかし、リー館長は常に大風呂敷を広げるアントンの性格までは把握していなかったように思える。リー館長に乞われて2005年にWXFの名誉総裁に就任したときのアントンのコメントは「できれば南北の休戦ライン（38度線の非暴力地帯）か金剛山（北朝鮮の山。98年に韓国からも観光が可能になり、両国交流ができる場所）で平和の祭典を開きたい」という突拍子もないものだった。これに対してリー館長は、昨年のインタビューで「イノキサンの世界構想は、まったく私の戦略と同じ！　俺たちは一心同体なんだよ！」と、やたら熱く語っていたが、はたして彼は、新日本プロレスがアントンの酔狂に付き合って会社経営を傾かせたという事実をどれほど知っているのだろうか。

アントンと志を一つにしようとすること自体が、泥舟に乗り込むような行為のような気がするが……。いまのWXFの憂き目を見ると、前述のリー会長の言葉も耳に空しく響いてしまう。

そして今後のWXFとGENOMEの関係は？

締め切り直前、当日になってもちゃんと話のできないリー館長に、なんとか話が聞けないかと交渉を続けたが、結局リー館長からは詳しいことはほとんど聞きだせずに終わってしまった。

ただ、韓国の一部の専門メディアで報じられた内容については「我々は、いまでもイノキサンと連絡を取っている。今年の4月には、日本に行ってイノキサンと会って話をしたし、もう少し待ってくれればWXFの今年の日程を話すことができるんだが……」と語り、アントンとの不仲説は否定した。

大会の開催については、昨年WXFと『PRIDE』が交渉を重ねていたときからの内部事情を知る韓国のあるインサイダーは「WXFが大会開催に動いているとか、大会を計画しているとか、そういう話は一切聞いていません。いまの状態では、当分のあいだ、WXFの大会が開催されることはないでしょう」と分析している。

もともとテコンドーの道場運営で金銭的に困っていないリー・ガクスー館長にとっては、スポンサーもなしに慌てて大会を開く必要はまったくないということだろう。ひょっとしたら、ジョシュ・バーネット獲得の噂の流れるIGFの動向を観察し、アントンとの関係を再び利用するかどうかを、冷静に分析しているところなのかもしれない。

それとも単にGENOMEと関わった結果、プロモーションとして立ち直る余裕すら失なっただけなのか……？

★

韓国ではいま、老舗のスピリットMCも総合ジムの大手であるコリアン・トップチームとの関係が悪化して、その勢力図に変化が現われ、また日本の『PRIDE』&UFC連合とK-1&エリートXC連合の成立などの影響を受けて、総合格闘技界の地盤沈下が起きている。

今後、第二グループにいるWXFやネオファイトなどの総合格闘技団体の方向性によって、韓国格闘技界も大きく変わりかねない状態にあり、彼らの動向が注目されている。

はたして、リー・ガクスー館長は、GENOMEとの関係を保ち続けるのであろうか？　GENOMEに触れてしまった今後の運命を見守りたい。

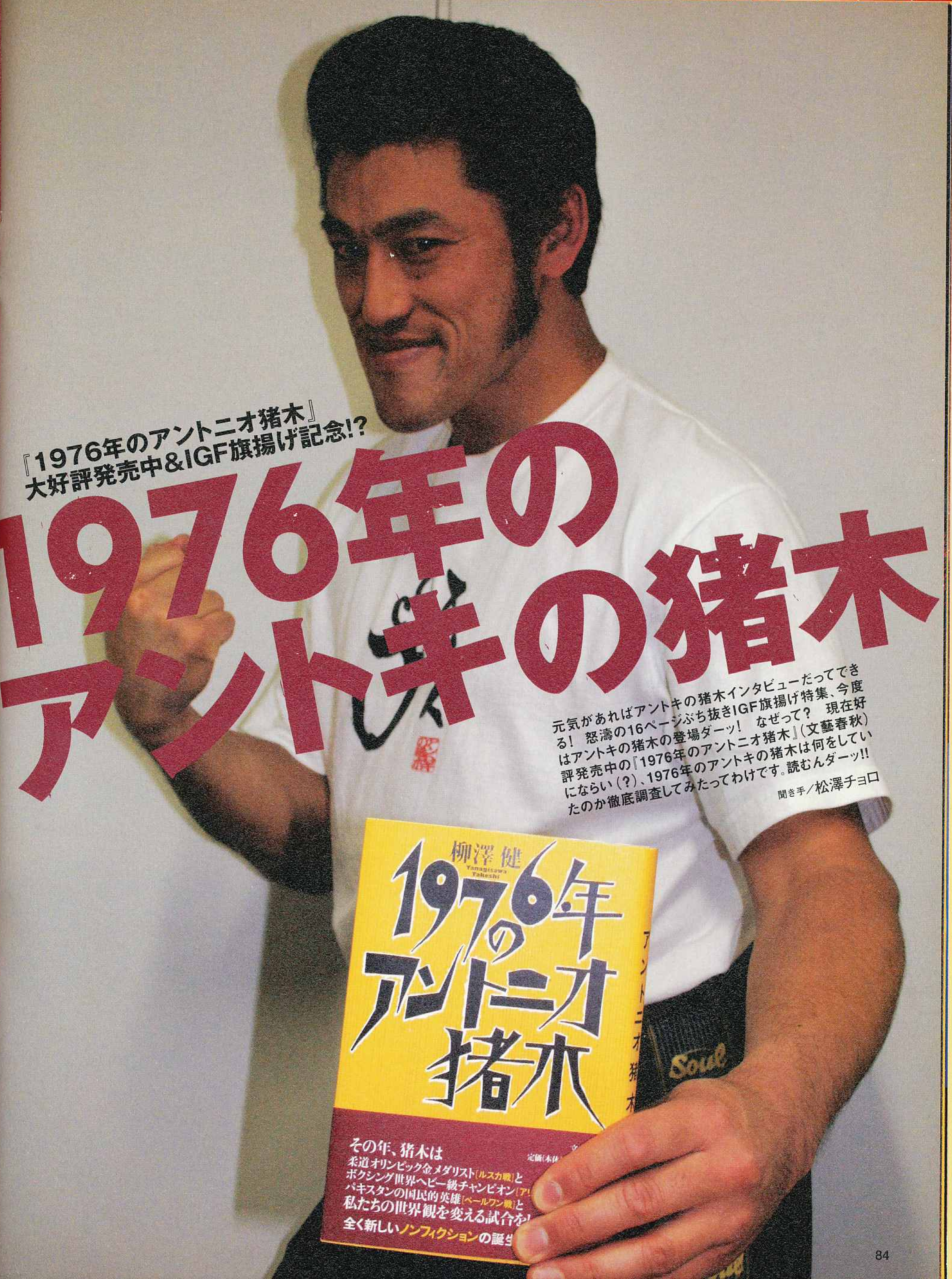
（大川〝隊長〟義之）

『1976年のアントニオ猪木』
大好評発売中&IGF旗揚げ記念!?

1976年のアントキの猪木

元気があればアントキの猪木インタビューだってできる！　怒濤の16ページぶち抜きIGF旗揚げ特集、今度はアントキの猪木の登場ダーッ！　なぜって？　現在好評発売中の『1976年のアントニオ猪木』（文藝春秋）にならい（？）、1976年のアントキの猪木は何をしていたのか徹底調査してみたってわけです。読むんダーッ!!

聞き手／松澤チョロ



1976年ですか？ え～と、1976年っていうと3歳でしたね

――え～、今回の取材の趣旨を聞いてるかどうかわからないですけど、最近こういう本が話題を呼んでまして（と『1976年のアントニオ猪木』を差し出す）。

アントキの　はいはい。私もある人からいただきまして、パラパラとは読んだんですけど、まだ全部読んでないんですよ。

――まだ読まれてませんでしたか。今回、IGF旗揚げ特集の一環として〝1976年のアントキの猪木〟は何をしてたかっていう話を聞かせてもらえればと思いまして（笑）。

アントキの　ダーッハッハッハッハッ！

――非常にくだらない企画で申し訳ないんですが（笑）。

アントキの　そういうことでしたか！　小さい頃の写真を持ってきてと言われて、どういうことかなって思ってたんですけど。

――というわけで、さっそくうかがいますが、1976年のアントキの猪木は何をされてました？

アントキの　え～と、1976年っていうと3歳ですね。

――1976年のアントキの猪木は3歳!?　う～ん。取材が終わってしまった（笑）。記憶としては何か思い出はありますか？

アントキの　3歳っていうと保育所の年少さんでしたね。

――どういった子どもでした？

アントキの　ボクはですね、凄く身体が弱い子だったんですよ。

――アントキの猪木は身体が弱かった!?

アントキの　3歳ぐらいのときは熱ばっかり出してて。よくひきつけとか起こしてたんですよ。

――へぇ～、そうでしたか。

アントキの　生まれたばかりの頃はホント生きるか死ぬかで、その頃の病院で生まれたのはボクとほかに二人ぐらい重病の患者がいたらしいんですけど、他の患者のほうが先に退院しちゃって、ボクは「もう死ぬんじゃない」って言われてたみたいで。

――そ、そんな状態でしたか！

アントキの　ホント、死ぬ勢いだったらしいですよ。で、小学校1年生の頃、ブランコで遊んでて、おもいっきり勢いつけて乗ってたら一回転して頭から真っ逆さまに落ちちゃったんですよ（笑）。

――え、頭から真っ逆さまですか!?

アントキの　そうです。それで記憶喪失になっちゃったんですよ。

――記憶喪失ですか？

アントキの　だから、その前後の記憶はボクはないんですよ（笑）。3歳の頃は何してたんですかね。



アントン好きが高じ、見た目もアントン化してきたというアントキの。ファン時代は知る人ぞ知る『闘魂猪木塾』にも参加していたというアントキの。現在は憧れの本人と一緒に仕事をするまでに成長。同時に“顎長”も20cmまで成長したという。ダー！

――1976年のアントキの猪木は、記憶喪失（笑）。いまは身長183センチで、立派な体格をされてますし、小さい頃、病弱だったとは思えないですけどね。

アントキの　そうですね。高校ぐらいまで、神経外科とか通ってましたからね。ブランコで頭に穴が開いた影響もあったりとか、ひきつけ系もあって、ずっと行ってて。

――へぇ～。でも病弱だったっていう子どもの頃の写真を見ると丸顔ですけど、いつぐらいからアゴのほうは成長されたんですか？

アントキの　いつぐらいなんですかねぇ。猪木さんに似てるって意識も、この仕事をやるまでなかったんですよ。

――えっ、そうなんですか？

アントキの　周りから言われだしたのは中学校ぐらいからなんですけどね。先生に「オイ、アゴー！」とか言われたり（笑）。

――またストレートな（笑）。

アントキの　アゴが出てれば、みんな「猪木、猪木」って言うじゃないですか。中学校ぐらいからチョコチョコ言われだしたんで、それぐらいから成長したんじゃないですかね（笑）。

――で、専門学校を卒業したあとは茨木の市役所に勤められてたみたいですね？

アントキの　そうなんですよ。猪木さんらしくはないですけどね（笑）。

――でも、その頃の写真を見ると、かなり猪木さんに近づいてますよね（笑）。

アントキの　周りからはよく言われるようになったんですけど、自分ではあんまり似てるとは思ったことはないんですよ。

――え、ないんですか？（笑）。

アントキの　まあでも、宴会とかあったら、「1、2、3、ダーッ！」とか「元気ですか～ッ！」ってやってましたけどね。

――やっぱり（笑）。これはイケるって思うようになったのはいつぐらいですか？

アントキの　イケるっていうか、誘われたんですよ。地元の茨城県に土浦市ってところがあって、ものまねのお店ができたんですよ。ショーパブみたいな感じで。そこのタレントに誘われたんです。

――ちなみに、誰のものまねをする

秘蔵写真を大公開！ 小松原裕がアントキの猪木になるまで


1973年6月8日生まれの小松原裕ことアントキの猪木が1歳か2歳ぐらいのときの一枚。どちらかといえば丸顔で、数年後にアゴが出てくるとは、この頃は両親も思っていなかっただろう。ダー！


続いては、小学校の入学式のときの写真。茨城出身の小松原裕ことアントキの小猪木だが、父親の転勤で三重県の小学校へ入学。ちなみにアントキのには姉が一人いるが、アントンに似てるかは不明。


ちょっと飛んで、こちらは小学校卒業間近の頃の一枚。写真中央が小松原裕ことアントキの猪木であるが、よく見ると、心なしかアゴが出てきたような気もする。アントキの猪木まで、もう一歩!?

タレントさんですか？

アントキの　その頃の座長だったんですけど、久保田利伸をやってましたね。

——久保田利伸!?　その方は顔&歌まねですか？

アントキの　顔っていうか、歌まねをやってましたね。その人に誘われて、致し方なく。

——"致し方なく"だったんですか？（笑）。

アントキの　はい。その頃はスロットで稼いでたんでね。いわゆるスロプロだったんで、あんまり夢を感じなかったんですよ。

——ものまねには夢を感じなかった、と？

アントキの　ええ。他人から言わせると「パチスロのほうが夢を感じない」と言われますけど（笑）。ダーハッハッハッハッ！

——スロプロで、いいときは月でいうとどれぐらい稼いでたんですか？

アントキの　余裕で100（万）は超えてましたね。

——100万！　コンスタントにそれぐらい稼いでたんですか？

アントキの　そうですね。メシ食って、パチスロ行って、夜はみんなで居酒屋行って、そのあとはキャバクラ&スナック行って、余ったお金は月40～50はありましたね。

——それは立派なスロプロですね。そういう時期に「ものまねをやらない？」と誘われたわけですね。

アントキの　そうですね。そこのタレントさんたちがベンツに乗って、ヴィトンを持って、いい女連れて、いいマンションに住んでたら、ボクもすぐ行ったんでしょうけど。

——茨城のものまねパブっていったら、そんなリッチな生活もできないでしょうね。

アントキの　そんなおいしい話はないですからね。だから、あんまり夢は感じなかったんですよ。

——では、本格的にものまねを始めたのは何年ぐらいになるんですか？

アントキの　え～と、平成16年の8月ですね。

——2004年ですね。その頃にはさすがに、ものまねに夢やロマンを感じてやっていこうと？

アントキの　まあ、そうですかね。そういう気持ちが……7対3ぐらいですかね？

——まだ、7対3ですか（笑）。



こちらが日本を代表する"猪木芸人"のお三方。説明するまでもないが、右から"ちっちゃいアントン"ことアントニオ小猪木、中央が"ガリガリ中背のアントン"春一番、そして左が"若かりし頃のアントン"ことアントキの猪木だ。"イノキントリオ"の始動はあるのか？

アントキの　いまだに怪しんでるとこはありますね（笑）。

——現時点でも？

アントキの　ええ（笑）。自分でお笑いっていうのをやってるんですけど、ネタができたのは、なんせ今年の2月ぐらいですからね。

——つい最近じゃないですか!?（笑）。

アントキの　それまでノープランだったんで（笑）。

——いまのキャラは、ライバルが非常に多いジャンルですよね？　春一番さんとかアントニオ小猪木さんとか。

アントキの　ライバルっていう意識はとくにないですね。（アントニオ）小猪木さんはけっこう飲み仲間ですし。春（一番）さんも昔から見てたんで、ライバルとは思ったことはないですね、全然。

——最近は、いま名前を挙げた3人揃っての仕事とかもちょくちょくやってますよね。

アントキの　そうですね。ボクも何回か提案したんですけど、ことごとく春さんに却下されてて（笑）。

——ちなみに、どんなアイデアですか？

アントキの　「イノキントリオってのを作りたいです」って（笑）。

——それは却下された、と。

アントキの　ええ。春さんが「（アントンボイスで）うん、正規なギャラをきっちり払ってくれれば」って言うんで、「じゃあ、ダメですね」って引き下がりました（笑）。

——アハハハハハ！

アントキの　いろんなところで3人でやればおもしろいなって思ったんですけどね。それで、局によって名前が違うんですけど、小猪木さんと「猪木.S」とか「ダブル・ボンバイエ」って名前で、たま～に仕事をするようになったんですね。

——猪木さんと初めて仕事で絡んだのっていつになるんですか？

アントキの　仕事で絡んだのは、去年の秋ぐらいの『笑いの金メダル』って番組ですね。

——仕事で絡む前にも、何度か接点はあったんですよね？

アントキの　そうですね。ボクはですね、「闘魂猪木塾」っていうのに参加してたんですよ。いまはなくなっちゃいましたけど。

——えっ、「闘魂猪木塾」といえば、猪木信者の中でも熱心なファンが集まって、猪木さんと一緒に海外に行ったりするイベントですよね。

アントキの　そうです。それで会ったのが最初で。

——春さんの猪木信者っぷりは有名ですけど、アントキのさんも熱心な猪木信者だったんですか。

アントキの　まあ、春さんとか小猪木さんほど猪木さん情報はわかんないですけどね。中学時代は野球をやってたんですけど、ファンになったのは野球が終わったぐらいからですからね。それまではテレビとかもほとんど観てなかったんで。



こちらは専門学校時代の小松原裕ことアントキの猪木。ちなみに建築系の専門学校に通っていたというアントキのは二級建築士の資格を持っている。あっ、アゴが……！



専門学校卒業から数年、友人の結婚式の二次会での一枚。この斜めからの角度、そしてアゴの出具合、小松原裕というよりは、限りなくアントキの猪木に近づいているのがわかるだろう。もうすぐ、ダーッ！



「どうだい!?」ってな感じで、もはや小松原裕というよりアントキの猪木の完成形と言ってもいいだろう。ちなみにこの写真は茨城県の市役所勤めをしていた頃のもの。どーですか、お客さん!?

——あ、そうなんですか。でも、「猪木塾」に参加してたっていうのは知りませんでしたね。
アントキの　ファン歴は短いんですけども、猪木さんに興味を持ってから本とか読みだすじゃないですか。破天荒な生き方が「おもしろいなぁ」って思うようになって。それから入り込んできたんですよ。不思議なもんで、入り込んできたら、だんだんアゴが出てきたんですね（笑）。ダーハッハッハッハッ！
——おめでとうございます（笑）。じゃあ、似てるから興味を持ったんじゃなく、好きで見てたら似てきたと？
アントキの　そうですね。ものまねの勉強のための努力とかほとんどしたことないですからね。
——アントキのさんは猪木さんとの接点で何か印象に残ってることってあります？
アントキの　「アントキの猪木でやらせてもらってます！」って挨拶したら「（アントンボイスで）ソントキでも、アントキでも、なんでもいいよ。勝手にやれよって。俺も勝手にやってきたから。ンムフフフ」とか言われたことはありますね（笑）。
——アントンジョークですね（笑）。

ボクも猪木さんみたいに借金があったんですけど、全部合コンで返しました!

アントキの　あとは「闘魂猪木塾」でイタリアに行ったときもおもしろかったですね。
——イタリアまで行ってましたか？
アントキの　はい。熱心な猪木信者も「あれほど楽しそうな猪木さんを見たのは初めてだ」って言ってましたね。もう、ワインをガンガン飲んで、一つの樽がなくなる勢いでしたからね（笑）。あれは、いい思い出ですね。いまは「闘魂猪木塾」はなくなっちゃったんですけど、月に一回は集まって飲み会やってますからね。



あんときの・いのき■本名・小松原裕（こまつばら・ゆたか）。1973年6月8日、茨城県出身。現在、おそらく一番大きな"猪木芸人"。あまり知られていないが『新宿クレイジーナイト』という大会で二度ほどプロレスの試合も経験済み。ちなみにデビュー戦の相手は破壊王に扮した三和太。好きな有名人＝アントニオ猪木、萩本欽一。183cm、92kg、顎長20cm。アントキの猪木HPアドレス→　http://park.zero.ad.jp/~zbc12599/inoki/

——「猪木塾」の飲み会に普通に参加してるアントキのさんって想像するだけでおもしろいですね（笑）。猪木本人からものまねの許可はもらってるんですか？
アントキの　ボクの知り合いの猪木塾生たちが聞いてくれたんですよ。
——またしても「猪木塾」（笑）。
アントキの　最近は出版記念パーティも呼んでくれたりとか。
——一昨年の暮れの花やしきでのイベントも猪木さんと一緒に出てましたし、去年の暮れの炊き出しも出てましたよね。
アントキの　炊き出しは好きで行ってただけなんですけどね（笑）。
——そうでしたか（笑）。アントキのさんは、若い頃の猪木さんに似てるって言われてますけど、猪木芸的に一番自信があるところはどこになりますかね？
アントキの　一番自信があるところというか、共通点は"天然"ですかね（笑）。
——確かに、猪木さんも天然ですよね（笑）。
アントキの　ボクはあんまり意識してないですけど、よく言われるのは、間とか、辻褄が合わないこと言うんです、ボクも。息詰まると、昔から必ず「バカヤローッ！」って言ってたんで。
——意識していたわけではなく？
アントキの　そうですね。黄金時代の猪木さんっていうのは、小猪木さんが西口プロレスでやってるし、あれにかなうものはないんでね。適材適所でいいんじゃないかなと思って。あとは、猪木さんに比べれば微々たるもんですけど、一時期、400万ぐらい借金を抱えたことがあって。
——確かに猪木さんといえば借金も有名ですからね（笑）。
アントキの　まあ、いまはなくなりましたけどね。
——ちなみに、どうやって返済したんですか。何か事業でも？
アントキの　ボクは合コンで返したんですよ。
——400万円を合コンで!?　もしかして、知り合った女の子に貢いでもらったとか？
アントキの　いやいや違うんですよ。合コンをセッティングする側でね。幹事としてお金を集めて、お金はポッケに入れて、支払いはカードで払うんですよ。それは問題ないじゃないですか？
——持ち逃げしたわけじゃないと？
アントキの　そういうことはしてないです（笑）。そういうのの積み重ねで支払いをして、浮いたお金で返済していったんですよ。もう、毎週金曜日と土曜日は必死になって合コンをセッティングしてましたから。人集めて、電話しまくって、アポ取りまくってましたね。だんだんとレベルも高くなって、スイートルームでの合コンになったりとか。
——さしずめ合コンプロデューサーですね（笑）。でも、合コンで借金を返したって初めて聞きましたよ。
アントキの　自分で参加したのは数回しかないんですけどね（笑）。
——そうなんですか（笑）。自分で参加すると"いっぱいいっぱい"になっちゃうわけですね？
アントキの　そうなんです（笑）。
——最後になりますが、猪木さんが旗揚げするＩＧＦについてはどう思われます？
アントキの　まだ、あんまり情報もないんで、どうなのかなって心配はしてますけども（笑）。
——心配するアントキの猪木（笑）。
アントキの　でも、ＩＧＦに関しては熱心な猪木塾生の中でも話題にはなっても「どうなんだろうねぇ。でもさぁ」って違う話題になっちゃうんですよ（笑）。
——アハハハハ！　さすがの猪木塾生でも会話が弾まない、と（笑）。で、結論から言いますと、1976年のアントキの猪木さんは……。
アントキの　虚弱体質な3歳でした。それぐらいしか覚えてないですね。申し訳ないです。（開き直って）1、2、3、ダーッ!!
——ありがとうございました！（笑）。
【07年5月1日／都内某所にて収録】



編集部の真下が自腹で買った『1976年のアントニオ猪木』にアントキの猪木が「顎にも衣装　親しき仲にも　演技あり」とサインを入れたモノを1名にプレゼント。この世に一冊のレア本がほしいという方は158ページ参照で応募するん、ダーッ！

ウワサのIGF38万円VIP席

これが黄金チケットだ!!



キミは幻のＩＮＯＫＩ ＧＥＮＯＭＥ38万円リングサイドチケットを覚えているか？ 猪木vsアリ戦30周年記念を祝して、あの世紀の一戦のリングサイドチケットと同じ値段に設定した、スペシャル・チケットのことだ。

アントンの言うことにゃ、こんなにべらぼうな値段にもかかわらず、一般発売前に１００席が完売!! ホントかよ!? 結局、興行自体が延期になってしまい、返金告知をした形跡がないことからその行方が一部のゲノムマニアに注目されていたが、どうやらＩＧＦにスライドする模様。

そして!! 〝ＩＧＦの機関誌〟と呼ばれる本誌がそのチケットを激写することに成功したのダー!!

……え？ 写真写りが悪いって？ じつはチケットが黄金でできている話を聞いてしまったばかりに、撮影者でつい最近ホームレス疑惑が浮上していた松澤チョロ記者が大興奮!! それでややピンボケてしまったのだ。

そんなことはどうでもいい。問題はこのチケットの売り上げだ。ざっと計算しても、38万円×１００枚＝３８００万円!! この破格のスケールがＩＧＦの肝なのだ。

今回の特集を読めばわかるが、16ページも割いたわりには具体的なＩＧＦ情報は下の大会告知ぐらいだ。しかし、とにかくとてつもないスケール感だけはおおいに感じるはずである！

迷わず観ろよ!! 腰を抜かすさ！

闘今BOM-BA-YE

東京・両国国技館
6月29日（金）試合開始18:30

［出場決定選手（※5月13日時点）］
ジョシュ・バーネット、カート・アングル

［チケット料金］
砂被り 20,000円／特別リングサイド 10,000円／リングサイド 7,000円／1階指定席 5,000円／2階特別席 6,000円／2階指定席 3,000円

［問い合わせ］
IGF TEL.03-5159-3380

アントンがLYOTO参戦を示唆!! しかしLYOTO本人は否定しています！

ブロック・レスナー、カート・アングル、そしてジョシュ・バーネットと、大物外国人選手の出場を続々と発表している我らがIGFだが、ゲノムにふさわしい男の登場も予告された。“猪木・最後の遺伝子”LYOTOである！

現在、LYOTOはUFC2連勝中（総合は無敗）で、チャンピオンの座も見えてきている。本当にIGFに参戦するの？

本誌は4.21UFCイギリス大会出場後のLYOTOに直接確認したところ、確かにアントンからIGF出場要請があったことを認めた！ しかも、プロレス出場も含まれるオファーだったというから、ビックリだ。

しかし、LYOTOは「いまはUFCに集中したいので、丁重に断わりました。でも、猪木さんが声をかけてくれてことには感謝していますよ！ ンムフフフ!!」とのこと。どうなってるんだ!? まあ、大会まで時間はあるし、渡米したアントンの出場説得工作が功を奏すかもしれない。べつにLYOTOが出場しなくても、そんな細かいことは気にするな！ ンムフフフ!!





ザ・グレート・カブキ

っ潰す!! あきらめてないって!!

誌上復活座談会!

――まだまだやるって!! ということで越中さんは、今回で3ヵ月連続の『kamipro』様々『kamipro』登場です。

越中 いや〜、本当に『kamipro』様々ですよ。こうなったら3カ月と言わず、5カ月でも10カ月でも連続で出てやるって!

――こうなったら、レギュラーでお願いします!（笑）。というわけで、今日は平成維震軍の誌上復活座談会ということで、小林邦昭さん、ザ・グレート・カブキさんにもご登場いただいたんですけど、維震軍解散以降にこうやって集まったというのは……?

小林 初めてですねぇ。メンバーがどうにも音信不通なもんで（笑）。

カブキ 一人一人とは会場なんかで、すこ〜しだけ会う機会もありますけどね。

――すこ〜しだけ（笑）。では、今日は貴重な機会ということで、カブキさんのお店（東京・飯田橋『串焼きとちゃんこ かぶき』）で、維震軍時代の話をたっぷり聞かせていただこうと思います! ですがその前に、先日、越中さんがIWGPヘビー級戦（5月2日後楽園ホールで挑戦。王者・永田裕志がバックドロップで防衛）に挑んだばかりなので、その話からうかがわせてください。

越中 へへへへ（と照れながら）。

――48歳にしてのIWGP挑戦はズバリ、いかがでした?

越中 ま、やってみて収穫はありましたね。自分自身、「まだまだやれる!」って気持ちにもなったしね。

――まだまだどころか、ここ数年のIWGP戦で一番ぐらいの盛り上がりでしたよ!

小林 ボクは会場には行ってないんですけど、凄い盛り上がりだったみたいだね。

カブキ ウチのお客さんも試合後に店に寄ってくれて、その試合の話をしてましたよ。

――試合前から大歓声で、入場から越中さ



小林邦昭　越中詩郎

本隊ぶ…

俺たち、まだまだ あ…

IWGP王座挑戦でピークを迎えたかと思える越中人気だが、まだまだこれからだって！　前々号で越中大特集、前号でケンドーコバヤシとの夢対談に続き、今回は伝説のユニット、平成維震軍"誌上"復活座談会を敢行!!　維震軍結成のきっかけを作った"盟友"小林邦昭と全日本時代の大先輩で維震軍の"重鎮"ザ・グレート・カブキがサムライのもとに駆けつけた!!　維震の風が吹き荒れるって！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄

"平成維新軍"誌上…

――試合前から大歓声で入場から越中さ

んの目には光るものが見えましたからね。

越中　いや、汗が目に入っちゃっただけですよ（笑）。プロがリング上で泣いてちゃダメ。泣いてるようじゃあ、まだまだですね。

小林　でもね、越中が最近、急にブレイクして驚いてる人もいると思うけど、前から組んでる自分からしたら、とくに驚いたりしないんですよ。越中の客を惹きつける力とか、客のツボを突く力は、ボクが知ってるレスラーの中では一番だと思いますから。

――その〝客を惹きつける〟部分は、キャリアの成せる業だと思うんですけど。「若いヤツに負けない！」って気持ちですか？

越中　若けりゃいいってもんじゃないからね。だから逆にこっちは「若僧、かかってこい！」ってね（笑）。現役のうちは相手にも、ファンに対しても引いたら負けなんですよ。

――引いたら、負けだって！　と。じつは小林さんも先日、一夜限りで復活（4月30日の『UWAI STATION』後楽園大会でドン荒川と対戦）されましたけど……。

小林　（さえぎって）あれはカムバックじゃないから！　あくまでもお祭り限定だからね！

――そこはきっちり言っておきたい、と。試合後のコメントで「昔みたいな動きができなかった」と悔やまれていたのを聞いて、「この人、ホントに現役時代みたいな動きをするつもりだったのか！」と驚いたんですよ（笑）。

小林　あれは、くやしかったねぇ〜。やっぱりリングに上がる以上は、自分の動きを見せたかったけど。いくら練習しても試合は違うね。

カブキ　自分もあのとき旗振りでリングに上がりましたけど、客前では「カブキ像は崩しちゃいけない」というのはありますから。

小林　この前も「ひさしぶりにやるんだけど、ヌンチャクがひっかかったらどうしよう」って控室で心配してましたからね（笑）。

越中　でも、いまだに皆さんが平成維震軍の

話をしてくれるということは、色褪せてないんでしょうね。最近の取材でも必ず維震軍の話を聞かれるんです。……だけど僕は、そういう話をするのって、本当は維震軍のメンバーがみんな集まらなきゃあ、イヤなんですよ！

——みんな揃ってこそ維震軍だ！　と。

越中　うん。俺だけが維震してたわけじゃないし。やっぱり、みんな揃って維震軍だから。本当はそういう気持ちなんですよ。でも、今日は小林さんとカブキさんが出てくれるということで引き受けたんですけど。

彰俊は旗の振り方が本当にうまかったからねぇ！（越中）

——小林さんは維震軍の前身である反選手会同盟を始める最初の同志、カブキさんは越中さんが維震軍の歴史で「カブキさんが加入してくれたのが一番、感慨深かった」とおっしゃっていた人ですね。

越中　これは自分の勝手な部分なんだけど、僕は全日本プロレス出身で、その大先輩であるカブキさんと「こういう巡り合わせで一緒に闘えるのか……」という感慨でしたよね。

——しかし、小林さんは初代タイガーマスクブームの立役者として人気を誇ってましたし、カブキさんは全日本で凄まじいカブキブームを巻き起こした。それで越中さんはもう一回、ブームを起こしている。皆さん影響力が凄いから、モノマネしたくなるし、いま30代の人で子どもの頃カブキさんの毒霧をマネしたことない人はいないですから（笑）。



こしなか・しろう■1958年9月4日、東京都江東区出身。78年に全日本プロレス入門。85年に新日本プロレスに移籍。92年には反選手会同盟（平成維震軍）を結成。今年、ケンドーコバヤシの“越中詩郎芸人”で再ブレイク！ 5月2日に永田裕志のIWGP王座に挑戦するも惜敗。ケンコバも全面協力する「越中本」も扶桑社から近日発売予定！ 185cm、105kg。

カブキ　フフフ。光栄ですねぇ。

——子どもの頃に赤いズボンを穿いてると、「お、小林邦昭！」って言われましたし（笑）。

小林　最近は赤いズボン穿くと「お、還暦か！」なんて言われるけどね（笑）。でも平成維震軍は7年間ももった。こういうユニットは普通、1年とか2年くらいでしょ。

——それが7年もった秘訣はなんでしょう？　昭和維新軍とは何が違いました？

小林　お互いに気を使わなくて済んだというのはあったね。昭和のほうはどうしても長州（力）が中心で動いていたけど、平成のほうは、メンバーが和気あいあいとしていたし。

カブキ　維震軍はメンバーみんなが、自分の役割を知っている職人の集まりだったよね。試合でもあうんの呼吸でやっていけたし。

——当時の新日本って、「目立ったもの勝ち！」「アピールしたもん勝ち！」って雰囲気が強かったですけど。

小林　ウチらは「俺が俺が」じゃなく、「どうぞ、どうぞ」の精神だから（笑）。普通はみんな人の上に立ちたがって、足の引っぱり合いになるけど。



ざ・ぐれーと・かぶき■1948年9月8日、宮城県延岡市出身。本名は米良明久。1964年に日本プロレス入門。1973年に全日本プロレスへ移籍。アメリカ遠征中の1981年に、ザ・グレート・カブキに変身。日本でもカブキブームを巻き起こす。SWS、WARを経て、平成維震軍に加入。98年9月に現役引退後は、東京・飯田橋にて『串焼きとちゃんこ かぶき』を経営。

——維震軍はフォア・ザ・チームに徹していましたよね。

越中　（齋藤）彰俊の旗の振り方も、うまかったからねぇ！　ＧＢＨの、石井（智宏）の振り方はそこまでいってないから（笑）。

——彰俊さんの旗持ちは天下一品！　平成維震軍の前身、反選手会同盟結成のきっかけは彰俊さんたち、誠心会館との抗争ですよね。

越中　最初は小林さんと誠心会館の若手が「控室のドアを閉める、閉めない」のいざこざからだから。

——いま思うと、些細すぎるにもほどがあるというか（笑）。そのあと、大田区体育館のメイン終了後に小林さんが彰俊さんと一騎討ちして、さらに小林さんと越中さんの二人で誠心会館の自主興行に乗り込んだことで、蝶野（正洋）と馳（浩）に新日本プロレスの選手会を除名されてしまったわけですけど。

越中　前も言ったけど、組合ってのは、会長と副会長が一番偉いはずなのに、そこを全部すっ飛ばしちゃうんだから、不思議でしたよ。

——当時は越中さんが会長、小林さんが副会長ですからね。その二人がなぜか除名（笑）。

越中　こっちが除名するんなら、わかるけどさ。「おまえら、ふざけんな！」って。



こばやし・くにあき■1956年1月11日、長野県小諸市出身。72年11月に新日本プロレス入門。翌年2月、栗栖正伸戦でデビュー。82年に初代タイガーマスクとの抗争で“虎ハンター”として注目される。84年ジャパンプロレスに移籍後、86年に新日本に復帰。92年には越中と反選手会同盟を結成。00年4月に引退後は新日本道場の管理人として新日本を支える。

——そのあとの越中さんと蝶野さんの最初の札幌でのシングル戦は有名ですけど、あのときは小林さんと馳さんの試合も組まれていたのが、直前で中止になりましたよね。あれはなぜ中止になったんですか？

小林　あのとき、ガンの進行もあって、肝臓を切ってたんだよ。でも、そのときも1ヵ月くらいで復活しましたから。

——そんな状態で反選手会をスタートさせてましたか！　でも当時、小林さんがガンだったなんて誰も思っていなかったと思いますね。

小林　いまは芸能人でも、ガンを公表するでしょ。でもあの頃はみんな病気を隠していたから、僕も「内臓疾患で休場」って発表したんだけど、「食いすぎで、胃下垂になった」なんて言われたりね（笑）。

——大食いで有名だった小林さんにはそっちのほうがリアリティがありますね（笑）。

越中　でも、ガンを患った人が、現役顔負けの体型してるなんて。こんな人、いないですよ！

——「ガン細胞ぶっ潰すって！」ぐらいの肉体ですよね（笑）。反選手会といえば、最初

メンバー全員が役割を知ってる“職人”の集まりだったね（カブキ）



サムライ男泣き！
汗が目に入ったんだって!!



調印式に遅刻……
でも逆ギレだって！

ふざけんなって！　4月26日のIWGP王座戦調印式で挑戦者・越中がまさかの遅刻!!　永田さんが「歳を取ると、これだ！」と毒づいていると、「何が歳だ、コラァ！」と越中登場！「5分、10分、遅れたくらいで吠えてんじゃねぇ!」と逆ギレし、「5月2日に永田の時代は終わる。三日天下で終わるって!」と、王者として13日経過した永田さんにまくしたてた。一気に臨戦態勢だって！







“煽りV”に
煽られまくったって！

佐藤大輔も腰抜かすって！　IWGP戦の前に流された秀逸な“煽りV”では“尻ひと筋”な越中の生き様をドラマチックに再構成！　ナレーションには“ブームの仕掛人”ケンドーコバヤシを起用する力の入りようで、『アメトーーク！』(テレビ朝日系)伝説の「越中詩郎芸人の企画プレゼン」から「越中芸人vsガンダム芸人」ダイジェスト、高田延彦戦から平成維震軍までプレイバック！　さらに越中が「ミスターIWGP？ふざけるなって!」「俺は越中詩郎だって!」とシビれる言葉を連発すると、場内はこれにいちいち反応してヒートアップ！　もう止まらないって！

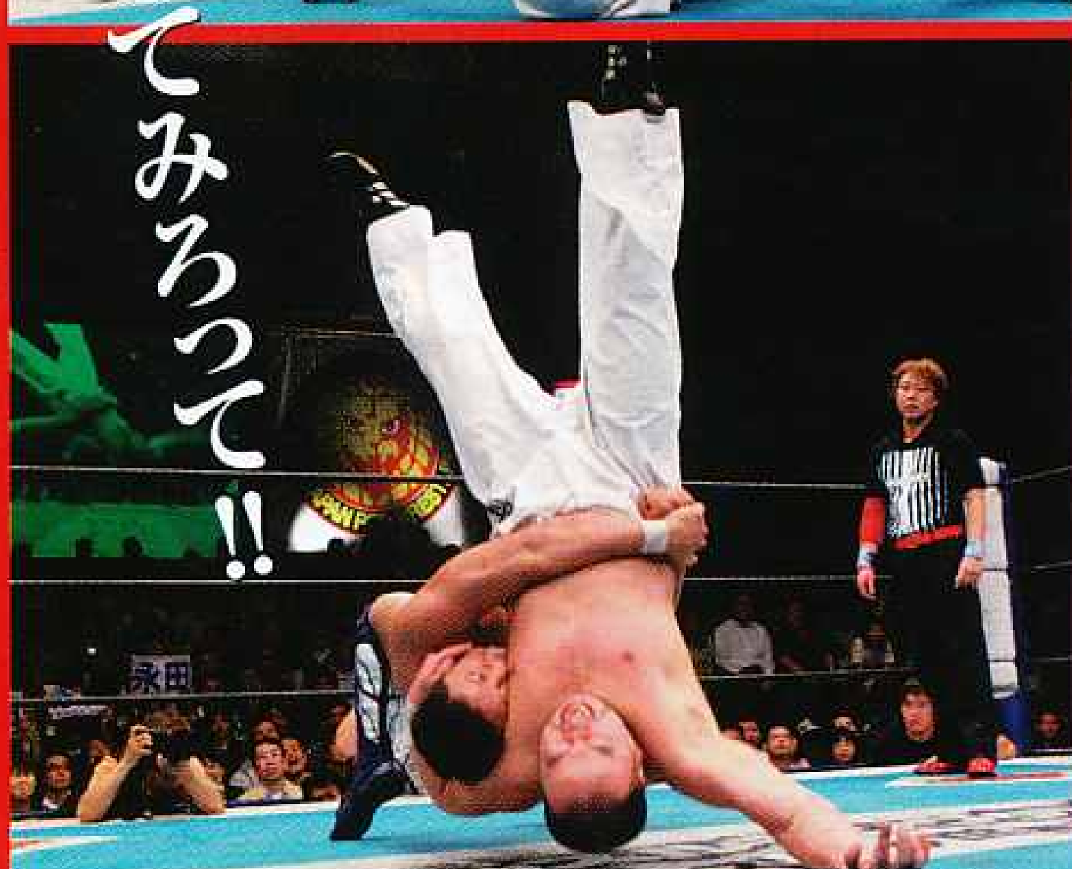


見てみぃ！　この顔！　2,005人（超満員札止め）と後楽園を埋めつくした越中フリークが場内を揺るがす「越中」コール爆発！　この歓声には、入場時点でサムライも男泣きだって!!　さらに気合い満点の羽織・袴スタイルは、なんとテレビ朝日によるこの日のための特注品！　もうやるだけだって！

「熱い風、吹かせたって!!」

越中詩郎48歳、涙のIWGP王座挑戦グラビアだって!!





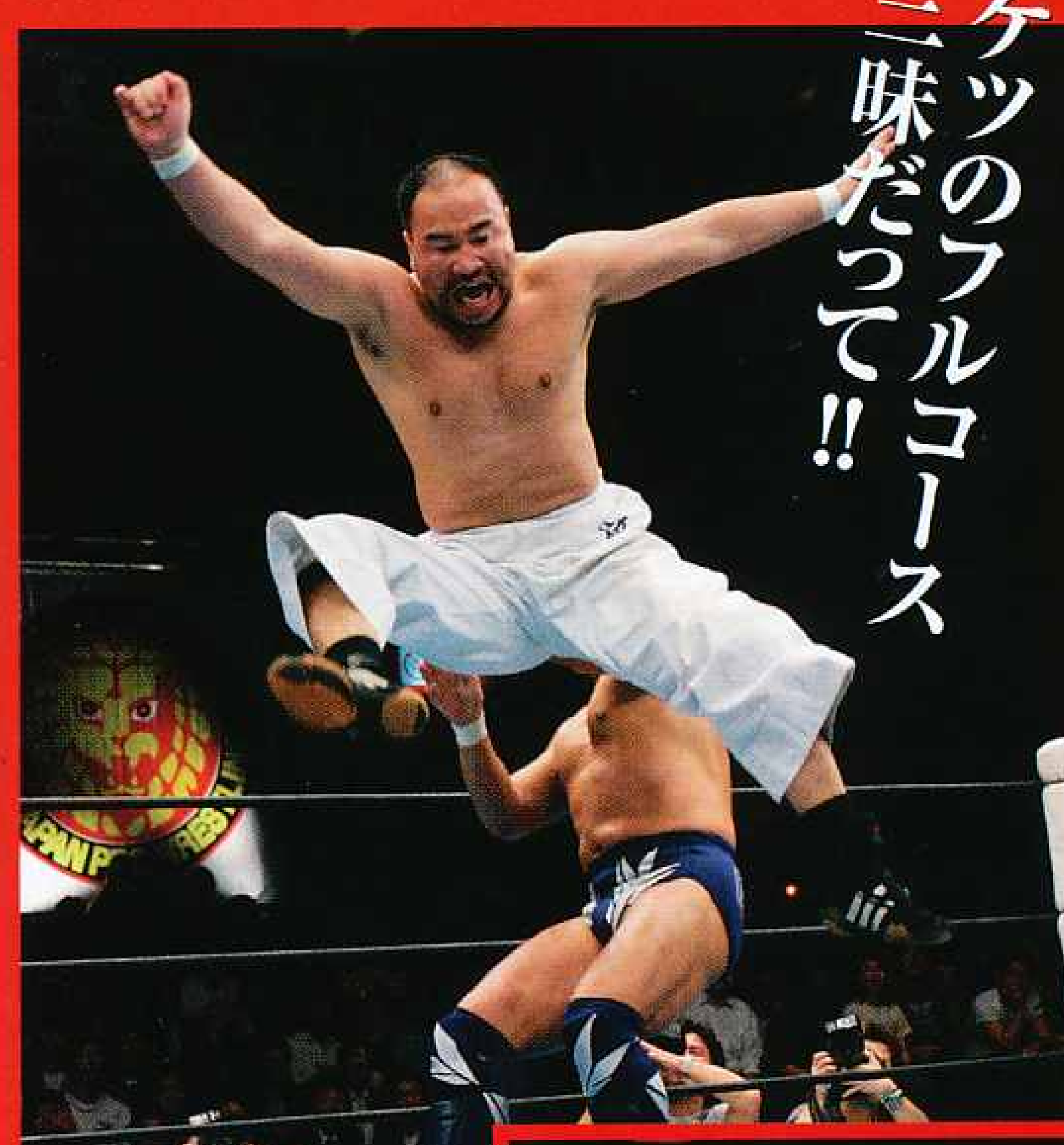
ぶっ潰してみろって!!

永田さんのバックドロップを「ふざけるなって！」と憤怒の表情でこらえる越中だが、最後はバックドロップホールドから無念の3カウント。控室ではビートルズ好きの越中らしく「サンキュー、サンキュー」と英語でコメント。まだまだ維震するって！



ケツ以外も
全開だって!!

これが維震の魂だって！　維震軍時代に一撃必殺で多用したハイアングルパワーボム炸裂！　さらに投げっぱなしジャーマン、ひさびさのジャパニーズ・レッグロールクラッチなど、場内の押せ押せムードに、“ケツ以外”の技も全開だって！



ケツのフルコース
三昧だって!!



ケツ、ケツ、ケツですっ飛ばしてやるって！　リング上で！　場外に向けて！　さらにショートレンジで！　序盤から出し惜しみないケツのフルコース三昧に「オイ！　オイ！」と激しく反応する場内。永田さんに「ケツだけで勝ってみせるって！」と気迫がみなぎる。

に越中さんが丸坊主にして、メンバーも次々と丸坊主にしましたけど、正直、皆さんの気持ちはどうだったんですか？

小林　そりゃ抵抗ありましたよ！　僕はマンションの管理組合の理事をやってたから、マンションの人には「奥さんに浮気がバレて、丸めたんじゃないか？」なんて噂されたり（笑）。

――モテモテだった小林さんにはそれまたリアリティがあるというか（笑）。長髪のイメージの強いカブキさんまで剃ってましたね。

カブキ　まぁ、みんな剃ってるし、「一度やってみるか！」って。じつは子どもと女房が出かけるときに、自分でヒゲを剃ってたんだけど、ちょっと失敗しちゃったから、その勢いで「もう、やっちゃえ！」と頭を剃ったんだよ。それで子どもと女房が「ただいま〜」と帰ってきて、「おかえり〜」と顔を出したら、「ギャ〜ッ!!」と叫ばれて、子どもに泣かれちゃって（笑）。

――「ただいま〜」でスキンヘッドが登場したら、怖いですね（笑）。

小林　僕も街に行くときには坊主じゃまずいから、バンダナとか巻くでしょ？　10代、20代ならいいけど、40近い歳でバンダナしてる人なんていないし、恥ずかしかったねぇ。

越中　ただ、みんなが大変な思いで頭を丸めてたときに一人だけ平気な顔してスポーツ刈りにしてきた人もいたから。

――あ、そういえばいましたね（笑）。

越中　あれはひどいよね。「よく、それで来れましたね?」って言っちゃったんだけど…。まぁ、名前は出さずにおきましょう。

――「イナズマ！」とだけ言っときますか（笑）。

越中　格好ばっかりつけちゃってねぇ（笑）。男はやるときはやらなきゃ。そもそもスポーツ刈りだったら、坊主じゃないって！

――夏場なんかさっぱりしていいくらいですし。維震軍には藤波（辰爾）さんも一時期、加入してましたね。なぜか試合の途中で道衣を脱いじゃったり（笑）。

マンションの管理組合の理事をしてたから、丸坊主は抵抗ありましたよ!（小林）

越中　だから維震軍に携わったのは藤波さんや天龍（源一郎）さん、野上（彰、現・AKIRA）も含めたら、かなりの人数ですよね。

――一時期、なぜかテリー・ファンクまで維震軍にいましたよね（笑）。

越中　いたねぇ！　ちょっとテキサスに電話してよ！　きっと「俺は維震軍なんて知らない！」って言われるよ（笑）。

――本人も知らぬ間に維震軍入りしてましたか（笑）。あの当時、移動も新日本の本隊と別だったんですか？

越中　ええ。だから気楽なもんだし、ほとんど本隊と口もきかなかったから、試合の緊張感も凄かった。あのときは3バカ（闘魂三銃士）に、馳や（佐々木）健介もいたし、長州や藤波も元気だった。それに対して7、8人のメンバーで「殺るか、殺られるか?」と立ち向かってたんだから。



4月30日『UWAI STATION』後楽園大会で、"あくまで一夜限定"で小林邦昭が約6年ぶりに復活、ドン荒川と対戦。「人にあげたものを借りた」赤い平成維震軍道衣で入場すれば、セコンドのカブキも旗を振りまくる！　必殺フィッシャーマンも爆発も、試合後は満足いかない表情、ブランクの大きさを噛みしめた。

小林　それに、俺たちはシリーズが終わっても休めないんですよ。

越中　新日本のシリーズオフにWARとかに乗り込んでましたからね。

――あのWAR vs反選手会同盟の抗争は、異常な盛り上がりでしたよね。

越中　土足で踏みにじってやりましたよ。おかまいなしですよ！

――客同士も一触即発、完全に殺気立ってましたからね。

越中　彰俊とか青柳（政司）なんか、「どこ行った?」と思ったら、WARの若手10人くらいにボコボコにされてましたから（笑）。

――反選手会や維震軍って、本隊の先兵隊的に抗争に火をつける役でしたよね。

越中　ただ、本隊のシリーズが終わって、WARのシリーズに乗り込んで行くんですけど、疲れきってて、試合前に昼寝をしてたんですよ。それでカブキさんから「そろそろ行くぞ」って起こされるんだけど、どうしても自分の目が開かなかった。そこまで疲れはてていた記憶もありますね。

小林　でも、維震軍は普段から練習をみっちりやってたから、ケガ人はいなかったですね。

カブキ　おもしろかったのは、最初はタッグで始まるんだけど、セコンドがついて来ると、「おまえも上がってこい！」って言い争いになって、いつの間にか6人タッグ、8人タッグになっちゃう。でも、みんなパッと上がって、パッと試合できたから凄いよね（笑）。

――みんなコンディションがいいですもんね。

反選手会同盟～平成維震軍年表

1991年

●**12月8日**　新日本プロレス後楽園大会で、誠心会館の若手が控室のドアを閉めなかったことから、小林邦昭が松井啓悟の顔面を殴打。誠心会館と因縁が生まれる。

1992年

●**1月30日**　新日本大田区大会で小林と当時、誠心会館の斎藤彰俊がメイン終了後に対戦。壮絶な喧嘩マッチの末に小林は斎藤にTKO負け。

●**6月9日**　小林と越中詩郎が、新日本に無断で、誠心会館自主興行に参戦する。

●**6月11日**　選手会の蝶野正洋と馳浩が選手会長の越中、副会長の小林を選手会より解任。新日本は両選手を無期限出場停止処分に。

●**7月31日**　新日本札幌大会で、出場停止が解けた越中が丸坊主姿で蝶野と対戦、試合に敗れるも名勝負を展開。

●**8月7日**　新日本名古屋大会に、青柳政司、斎藤彰俊が来場。選手会と軋轢のあった木村健悟も加わり、反選手会同盟を結成。

●**9月15日**　WAR横浜アリーナ大会に越中、木村、青柳が参戦。WARと抗争を開戦する。

●**12月1日**　新日本千葉大会でザ・グレート・カブキが反選手会同盟に加入。

1993年

●**8月8日**　新日本両国大会、本隊を裏切り、小原道由が反選手会同盟に加入。

●**10月1日**　新日本札幌大会で後藤達俊がレイジングスタッフを裏切って反選手会同盟に加入。

●**11月13日～16日**　反選手会同盟が"平成維震軍"と正式に改名。千葉の養老渓谷にて合宿を開催。

1994年

●**11月13日**　平成維震軍が新日本の別動隊として独立、東京ベイNKホールで旗揚げ戦。メインは越中がタイガー・ジェット・シンと対戦。レフェリーはアントニオ猪木が務めるも、テーマなき旗揚げに賛否両論。

1995年

●**1月19日～27日**　初の平成維震軍シリーズが開催。全8大会には蝶野、冬木軍らが参加。

●**2月12日**　昼に維震軍、夜に新日本本隊が後楽園で初のダブル興行。天山広吉は、越中の維震軍の勧誘を拒否して、狼軍団入り。

●**5月17日**　大田区体育館で昭和維新軍と平成維震軍が5vs5綱引きマッチ。メインで後藤が長州力からピンフォール勝利し、昭和維新軍の旗を燃やす。テリー・ファンクも維震軍側の助っ人として参戦。

1996年

●**2月3日**　新日本札幌大会で、小林が野上彰と髪切りマッチ。破れた小林はリングで断髪し、坊主頭に。

●**3月9日**　新日本山口大会で、野上が髪の毛を赤毛にして、平成維震軍に加入。

●**3月1日**　UWFインターの日本武道館大会で越中が髙田延彦のIWGP王座に挑戦も惜敗。

小林　練習量がハンパじゃなかったもん！　"心臓破り"って言われる急な階段で10本ダッシュやったり。何トンもあるトラックを引いて、1キロくらい回ったり。

——そんなことまでやってましたか！

越中　そういうのは、だいたい彰俊がやるんだけどね（笑）。

——彰俊さんが一番悲惨ですね。あと維震軍の興行も1年間くらいやってましたが、あれも賛否両論で大変だったんじゃないですか？

小林　でも、そこそこお客さんは入ってたから。俺は「俺たちだけでやっていけるんじゃないか？」なんて思ったけど（笑）。



どうだい、このイケメン（by越中）揃いの男たち！　1994年11月の東京ベイNKホールの平成維震軍旗揚げ戦を終えた、維震軍オールスターズ。この大会はテーマの不明確さゆえに賛否両論！　だが越中は「マット界に嵐を巻き起こすって！」といまと変わらぬ、やるって節を炸裂させていたんだって！

——でも、やっぱり旗揚げ戦の場所が東京ベイNKホールっていうオシャレな会場だったのはよくなかったんじゃないですか？　維震軍ならやっぱり大田区体育館とか大宮スケートセンターあたりが似合うような（笑）。

越中　いやいや、我々はイケメンだから、そんな泥臭い会場はダメですよ！（笑）。

——失礼しました（笑）。そういえば維震軍は合宿もよくやってましたよね。

越中　小林さんとは伊豆にも行ったし、みんなでサイパン合宿も行ったよね。そしたら、サイパンが決まったあと、彰俊のバカが「自分、パスポートありません」なんて言うんだよ。「ダメじゃないか！」と叱ったんだけど。

——結束が固まらないじゃないか！　と。

越中　「早く作れ！」って言ったけど、間に合わないから置いて行っちゃったよ。

——サイパン合宿では海の中で合体殺法を練習されたりしましたよね。

小林　やったねぇ。あと秩父の少林寺のお寺でみんなで座禅を組んだこともあったし。

越中　千葉の養老渓谷で真冬に「滝に入れ！」って言ったら、寒くて誰も入れなかったりね。でも青柳と彰俊は入りましたから（笑）。

カブキ　俺も足だけで、やめといたもん（笑）。

越中　あんなに冷たい水は聞いたことないって！　でもあの二人は入りましたよ！

——さすが空手家ですねぇ。ここだけの話、合宿はちゃんと特訓されてたんですか？　写真撮影のためだけじゃなく。

真冬の合宿で「滝に入れ!」って言ったら、青柳と彰俊だけ入りました（笑）（越中）

越中　もっちろんですよ！　そこが維震軍の凄いところですからね。それから、維震軍の連判状とかもずいぶん書きましたね。

——平成維震軍興行で、グッズを買うともらえた、サイン入り連判状のことですね。

越中　もう何百枚書いたか覚えてないですよ！　控室にいつも紙がドーンと積んであってね。8人全員のサインを書くんですけど、あれはかなり貴重ですよ！

——オークションで凄い値段になりそうです。この維震軍の旗は何代目なんですか？

カブキ　何代目とかじゃなく、自分が引退したときにもらったものなんです。

小林　普段振っているのはこの半分くらいのサイズですね。この旗には、カブキさんへのみんなの寄せ書きサインがあるけど……木村さんだけでっかく書いてあるね（笑）。

——ここでも一人だけ目立ってます（笑）。維震軍の旗は長州さんにびりびりに破られたり、そのあとの興行でつぎはぎの旗を飾られたりしましたね。

越中　旗の修繕も俺らでやってましたから。

——そんなことまで！

越中　あとは、旗を燃やされちゃったり……ま、こっちも燃やし返しましたけど（笑）。

——旗を燃やす場面をビデオで見返したんですけど、燃えすぎててヤバかったですね。

越中　カブキさんが「火事になっちゃう！」って慌てて消してくれたんだよ（笑）。

——あと、お揃いの道衣も似合ってました。

越中　でも木村さんなんかは最初は嫌がってたんだよ。ショートタイツだったから「なんでこんなに長いの穿くんだよ！」って。

——そこでも一人だけ身勝手でしたか（笑）。木村さんは最近も「俺みたいな正統派にはあの道衣は似合わない」と言ってましたし。

越中　そういうので、どんだけ足を引っぱったんだって！（笑）。ただ、あの道衣は、「作る」と決まったら、青柳が全部注文してくれて、あっという間に揃えてきたんですよ。ちょっと手際がよすぎる感じで……。

——空手家だけに、業者を知ってたんでしょうね。あれは刺繍も入って高そうですけど。

小林　しかも黒と赤と紫と3種類もあった。いまとなってはお宝ですよ。

越中　俺は「いつかオークションかけてやろう！」って、思ってるんだけどね（笑）。

——売るなら、いましかない！　って気もしますけどね。

越中　じゃあ『kamipro』さん誌上でお願いしますよ（笑）。当時はユニフォームの支給も半年に一回くらいあったし、"維震軍"と入っているジャージなんかも頻繁にもらえたよね。

1997年

●**3月8日**　藤波とタッグを結成した木村に、維震軍が集団リンチ。越中は木村の追放を宣言。

●**5月3日**　越中と木村が新日本大阪ドーム大会で遺恨決着戦。越中がピンフォール勝利。

●**6月22日**　新日本後楽園大会で越中が左足アキレス腱断裂の重傷、長期休場へ。

●**10月12日**　後藤と小原が平成維震軍から造反。蝶野はnWo入りを拒否し、二人ははぐれ犬軍団となる。

●**10月31日**　新日本広島大会で、藤波が維震軍に加入も、途中で道衣を脱ぐ暴挙。藤波は翌月に、早くも維震軍と決別宣言！

1998年

●**1月26日**　後藤、小原が平成維震軍に出戻り。

●**4月8日～11日**　平成維震軍が天龍源一郎とサイパンで強化合宿。彰俊はパスポートがないため断念。

●**7月15日**　新日本札幌大会で、天龍&越中組がIWGPタッグ王座を獲得。

1999年

●**2月22日**　越中、木村、後藤、小原が「やるだけのことはやった」と平成維震軍の解散を発表。

2006年

●**7月27日**　WAR最終興行にて、平成維震軍が一夜限定復活。越中&青柳&小原&斉藤組で天龍組と対戦。小林もセコンドで維震軍の旗を振った。

――維震軍グッズはぜひ、闘魂SHOPで再発売してほしいですよ！　ところで維震軍時代、反選手会時代も含めて一番思い入れのある試合ってなんですか？

越中　記憶力もあやしくなってるし、一つを挙げるのは難しいねぇ！　でも7年間で節目というのはあったんでしょうし、節目がしっかりしてなかったら、続くわけないんだから。みんなの力で乗り越えてきたんですよ。おもいきり暴れるだけ、暴れて。「知ったこっちゃねえ！」ってね。

――それが、越中語録にもつながった、と。

越中　「何クソ！」の一念ですよ！　本隊のヤツらは会社に入ってエリート街道かもしれない。でも、おまえら俺たちを窓際に放ったつもりかって！　でも、こっちは自分のコンディションさえ整えておけば、問題ないくらい信頼関係があったし、控室でも一切揉めたことはないですから！　試合で負けたって、「何やってんだ？」とかもないしね。

――でも彰俊さんなんかは、キャリアがなくて大変だったと思いますけど。

越中　ま、確かに彰俊はよく叱ってました。だから彼はあまりいい思い出はないかもしれないね（笑）。でも、これだけメンバーがいたら、「あいつとは会いたくない」とかあるもんだけど、うちらはなんにもない！　それって凄いと思いますよ。

小林　控室でもバスでも、笑ってることしか思い出がないもんね。



深い絆で結ばれている平成維震軍だが、越中＆小林とも、こちらの『かぶき』に来店するのは初！　次は維震軍8人勢揃いの再会を誓った3人だが、「そのときはカブキさんの店以外で……みんな暴れちゃうから」と過去に地方で「店ぶっ潰して、出入り禁止になったって！」な維震軍の飲みグセの悪さも告白！

越中　しかし、こうやって振り返らせてもらったり、維震軍を語り継いでもらってるのは、本当に選手冥利につきますね。

カブキ　うちのお客さんも、30代くらいの人は必ず維震軍の話をしますし……自分もプロレス人生の中で一番、楽しかったからね。

――カブキさんのプロレス人生でも一番！

カブキ　な〜んにも考えることなかったもん（笑）。アメリカの頃とも、全日本の頃とも違って、維震軍は一番、楽だったね。試合の前の作戦会議なんか、俺と（小林）邦さんは抜けて二人でお茶飲んでるの。みんなが相談したあとで「話がまとまりました。こうなりますので、こうしてください」と報告が来て、それを聞くだけで済んじゃう。

越中　それで、こっちがお願いした以上のことを必ずやってくれるんですから！

小林　あと、反選手会と維震軍の7年間は、新日本は外国人選手をほとんど使わなかったでしょ。我々がずーっと本隊の敵としてやってたわけですから、凄い経費削減ですよ。表彰されたっておかしくないよ！

いま、維震軍が揃って試合したら凄いよ
み〜んな食っちゃうって！（越中）

――逆に7年間ものあいだ「本隊、ぶっ潰すって！」と言い続けた越中さんたちのモチベーションも凄まじいと思うんですけどね（笑）。

越中　しかもまだまだ言ってますからね（笑）。でも、維震軍のメンバーは、団体に所属して身動きがとれないとかの理由がある以外、いつだって出てきますよ！　何年か会わないと「懐かしいなぁ」って思うし、選手がそういう気持ちだから、ファンもそのへんをわかってくれるんじゃないですかね。

――そんな維震軍が解散するっていうときはどうでした？

小林　（しばし沈黙して）……そういえば、どうやって解散したんだっけ？

――ダハハハハ！

越中　確かにあまり思い出せないねぇ（笑）。最後は記者会見だけだった。それも3、4人だけでしたんだよね。

――じゃあ、解散はしてるけど、まだ維震軍は続いてるような感じですか？

越中　うん。いま8人が揃って試合したら、大変ですよ！　み〜んな食っちゃうって！　なんでコレを誰も企画しないかねぇ！

――『LOCK UP』や『レッスル・ランド』をやってる場合じゃない、と（笑）。いまこそ、平成維震軍復活興行をやるべきですよ！

カブキ　僕もヌンチャクと、旗を振り回しますよ！

越中　カブキさんだって、3日ぐらい練習期間を与えたら、上がれるようになりますから。

小林　ワンナイトで復活というのはいいよね。メンバーにも心臓破りの階段をダッシュで10本やってもらってね。

――復活はぜひ、合宿からお願いします。

越中　木村さんも「選挙演説の時間を設けますから」って言ったら来てくれるよ（笑）。

――歌のコーナーも設けましょうか（笑）。

越中　それも特別に許してあげよう（笑）。じゃあ、次は『kamipro』で8人勢揃いでお願いしますよ！

――「3人じゃ、物足りないって！」と。

小林　じゃあ、みんな50歳にして、もう一回坊主にしなくちゃ（笑）。

――ダハハハ！　では、夏に向けて再び維震の風が吹くことを期待してます！

越中　やってやるって！

【07年5月4日／東京飯田橋・『串焼きとちゃんこ　かぶき』にて収録】



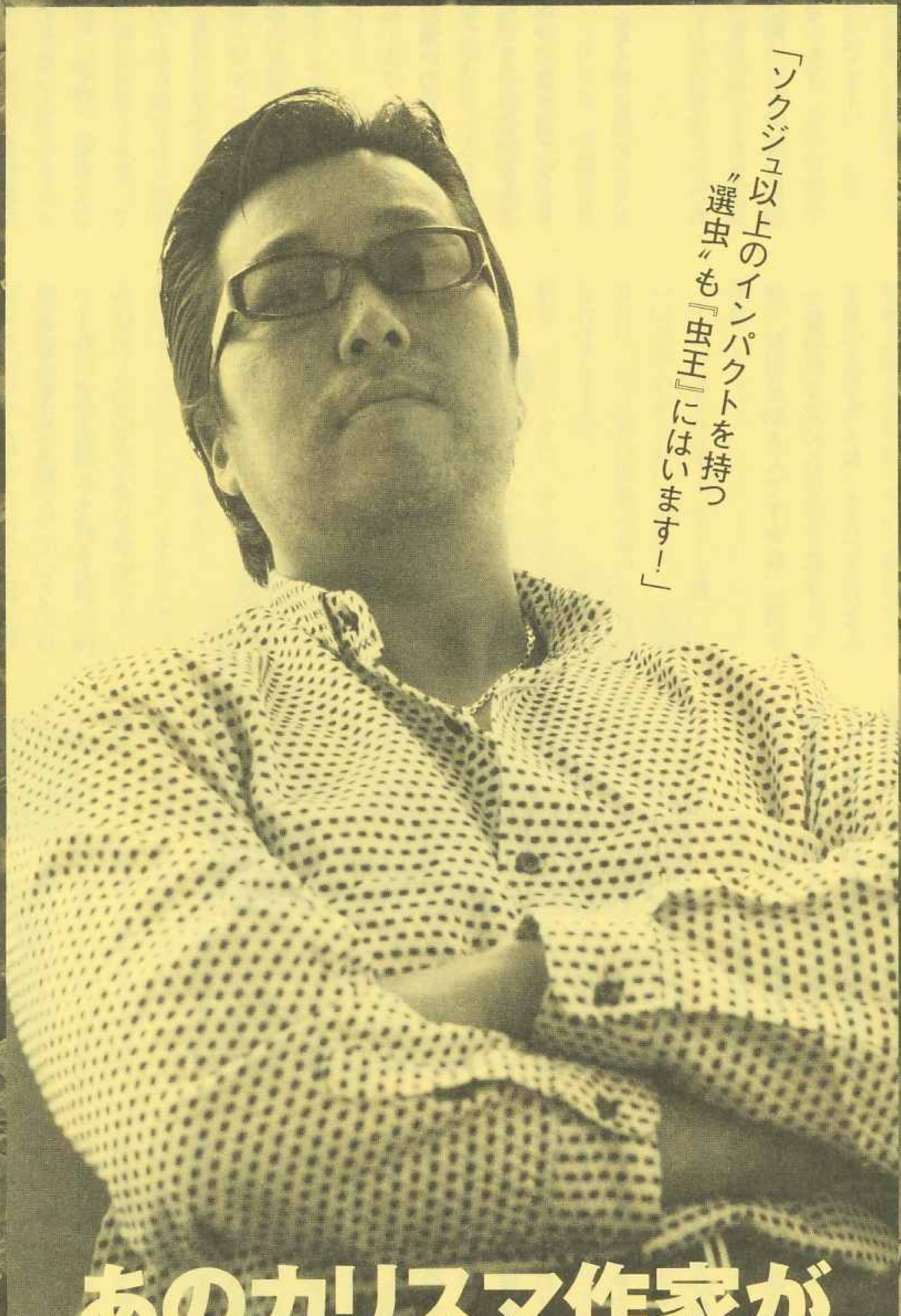
串焼きとちゃんこの店
かぶき

ザ・グレート・カブキの手料理が食べられるのがこのお店！　日本プロレスのちゃんこ番で鍛えた料理の腕を堪能できる。ちゃんこはキムチ味の『赤い毒霧』や鶏の水炊き『オリエンタル・クロー』など6種類に、串焼きも絶品！　リーズナブルな値段でユニークな料理を堪能しよう！

住　所／東京都文京区後楽2-3-17 米虫ビル
電　話／03-5800-5801
営業時間／11:30〜13:00
（ランチタイム、火〜金のみ）
17:30〜23:00
（※土曜日は22時まで）
定休日／日曜日
（プロレスのビッグマッチ開催日は営業。要確認）

キリンの次は"虫"だって!

世界最強の"虫"は
この男が決める!



あのカリスマ作家が
もう一つの顔を大公開!

新堂冬樹

ソクジュの「キリンは強い」発言が発端となり『kamipro』No.109で大々的にキリン特集を組んでみたが、この企画が好評だったため調子に乗って動物界に続き今度は虫界に注目。なぜなら、ムシキング・テリーやミヤマ仮面などマット界とも何げに接点のある虫界に"最強の虫"を決めようとしている男がいるとの情報をキャッチ、しかも、その男は人気作家の新堂冬樹氏というではないか!　これは話を聞くしかないって!!

聞き手／松澤チョロ　写真協力／信徳イベント

——No・109の『kamipro』で『PRIDE』で活躍するソクジュ選手の「キリンは強い」という発言から、多方面から動物の強さを検証してみたんですけど、どうやら昆虫の世界でも最強を決めるというか、実際に大会を開いている男がいるとうかがいましたので、今日は話を聞かせてもらいにやってきた次第です！

新堂　そうですか。私が『世界最強虫王決定戦』の全権プロデュースというか……企画、制作、販売まで手掛けている、新堂と申します。でも、これは男の子なら誰でも一度は夢見たことだと思うんですよ。

——そうですね。確かに、小さい頃は「どっちの昆虫が強いか？」っていうのは頭の中でよくシミュレーションしてました。

新堂　ですよね。カブトムシとクワガタはどっちが強いのか。そこから始まって、はたしてカブトムシとクワガタだけが最強を争う資格があるのか？　と。ほかの虫が出てきたらどうなるのか。

——まあ、とことん突き詰めたくなりますよね。

新堂　そこでいわゆる毒虫といわれてるものと、肉食昆虫、それとカブト、クワガタが闘ったら究極の異種格闘技戦ではないか？　と。ここで私はひらめいたんです！

——ひ、ひらめきましたか!?

新堂　はい。でも、そういうのってどっかでやってるんじゃないのって思って見渡してみたらどこもやってなかったんです。

——世界を見渡しても、そんな舞台はないんですか？

新堂　ないんです。だから私が世界初の〝虫〟プロデューサーなんです！（キッパリ）。

——世界初！　でも、新堂さんといえば人気作家でもあり、最近では芸能プロダクションの経営も始めたみたいですけど、虫王決定戦の全権プロデューサーをやっているってことを知らない人も多いんじゃないですか？

新堂　そうかもしれませんね。確かに私は作家もやってますし、芸能プロもやってるんですけど、この『世界最強虫王決定戦』っていうのはですね、台本も脚本も何もない、純粋に力と力のぶつかり合い。……

昔、前田日明さんですかね、「誰が一番強いか決めればええんや！」って言いましたよね。まさにあれなんですよぉ！

——虫の世界で「誰が一番強いか決めればいいんや！」と立ち上がったのが新堂さん（笑）。

新堂　そういうことです。

——でも、人間同士の闘いとなると、いろんなしがらみがあって実現しない場合が多いじゃないですか。

新堂　そうでしょ！　でも、この虫の世界には政治力も行政も何もない。まさに誰が一番強いか、ゴチャゴチャ言わんと決められるジャンルなんです（笑）。

——確かに虫はゴチャゴチャは言わないでしょうね（笑）。

新堂　言いませんね！　でもね、これをやろうって私がDVDを企画したときは、周りに全部反対されたんですよ。「そんなの誰も買うわけない」と。

——ああ、ビジネスとしては成り立たないだろう、と？

新堂　そう。でもこれがホントに大ベストセラーになって。累計でもう10万本超えるぐらい売れてるっていうのは、私の信じてたこと間違ってなかったな、と。

——あ、すでに10万本も売れてるんですか！

新堂　そうなんです。小さい頃、男の子っていうのは単純に「どっちが強いの？」みたいな、それは虫の話だけじゃなくて、動物だったらライオンとトラ、どっちが強いか。海だったらサメとシャチ、どっちが強いか。プロレスだったら馬場さんと猪木さん、ジャンボ鶴田と藤波辰爾、どっちが強いか。常にそういう……シンプル・イズ・ベストですよね、男の子の考えは。ちょっと脱線しますと、仮面ライダーとゴレンジャー、どっちが強いのとか。そこで私はイケる！　と。

——男のロマンと同時に、ビジネスとしてもこれはイケるんじゃないかと踏んでいたわけですね。

新堂　要するに私だったら買う！と。どれだけ高くても買うという確信があって。それとやっぱり虫好きって多いのは知ってましたからね。結局、カブトムシとかクワガタムシとか買ってる男の子って多いじゃないですか。

——多いですよね。コレクターも多いって聞きますし。

新堂　そうなんです。飼ってる人の何割かはコレクターなんで、鑑賞しか興味がないっていう人も多いんです。でもやっぱりね、自分のものじゃなければ闘わせたいって人は多いんですよぉ!!

——そこは勝手ですよね（笑）。

新堂　そうなんですよ。だからコレクターが見たら気絶するようなね、1匹30万とかするようなカブトムシを『虫王』ではガチガチで闘わせますからね！

——ガチガチですか（笑）。でも、新堂さんはべつに虫オタクとかそういうことではないんですよね。

新堂　ええ、虫オタクではないです。どちらかというとプロレスとか格闘オタクですかね。要するに虫であろうが動物であろうが人間であろうが、どっちが強いんだっていう。まあ、男のロマンですよね。

——よくわかります。でも、撮影というか大会のときは準備やら管理やら、モノ凄く大変なんじゃないですか？

新堂　これはねぇ、ホンットに大変なんですよぉ！　あのね、石井（前）館長の気持ちがわかりますね！

——ワハハハ！　プロデューサーとして、マッチメイカーとして（笑）。

新堂　スケールの大小はありますけど、格闘技興行をデザインするのと変わりはないんですよ。だいたい、いつも撮影のときはですね、虫部屋というのがあるんですけど、100匹超えますからね。

——虫部屋に100匹!?

新堂　というのは、やっぱり虫は生きものなんで、オファーかけてすぐに来てくれる場合と来てくれない場合があるんですよ。

——もちろん、海外から来日する場合もあるわけですよね？

新堂　ほとんど海外です。で、オファーかけて、早く到着する場合があるんですよ、虫だから（笑）。その場合、試合までにコンディションが崩れる場合があって。

——人間でも体調の良し悪しはありますからね。

新堂　ただ、人の場合は滅多に死なないですけど、虫は簡単に死にますからね。

——死んだまま来日したりってこともありそうですね（笑）。

新堂　それもあるんですよぉ!!

——あ、ホントにあるんですか（笑）。

新堂　無事に到着したんだけど、撮影前日に脱皮不全で死んだりとかね。だから必ず、余裕があるものは同じ種類のストックを用意するようにしてます。

——同じタイプというか種類の選手を……。

新堂　（さえぎって）〝選虫〟です。

——あ、失礼しました（笑）。



しんどう・ふゆき■1966年、大阪府出身。1998年に『血塗られた神話』で第7回メフィスト賞を受賞。以後、『ろくでなし』、『無間地獄』といったノワール作品から、『忘れ雪』、『あなたに逢えてよかった』などの純愛小説まで幅広いジャンルで活躍。その他、『虫王』プロデューサーや芸能プロ社長など、さまざまな顔を持つ新堂氏。プロレス＆格闘技好きとしても知られ、本誌読者ページ常連の某・有名写真週刊誌のＳ波氏は飲み仲間。



前田さんの「誰が一番強いかを決めればいいんや！」、あれの虫版です！

新堂　あとは、死ぬ、死なないの問題だけじゃなくて、固体差があるんです。へんな話だけど、ダイオウサソリが3匹いました。じゃあ、みんな同じように強いかっていうと違うの。人間と同じように、凄い喧嘩っ早いヤツ、臆病なヤツ、おっとりしたヤツとか、それはカブトムシであろうが毒虫であろうが、みんなバラバラ。

――まあ、そうでしょうね。

新堂　だからやっぱりね、理想を言えば2～3匹ずつぐらいオファーをかけて、その中で一番強いヤツを試合に出すっていう感じで。たとえば20匹のトーナメントをやろうと思ったときに、ホントだったら20種類、20匹でいいんだけど、それだったらさっきも言ったように死ぬ問題とか、あとは、たまたまその1匹が臆病すぎるとかありますから。だからパラワンオオヒラタクワガタなんて20匹ぐらい用意したことありますよ。

――たった1匹のために！（笑）。

新堂　それでカメラが回ってないところで予選トーナメントを行なうんです、私のレフェリングの下で。

――つまり、道場マッチですね（笑）。

新堂　そう。そこで一番強いパラワンオオヒラタクワガタがパラワン代表として出てくる。毒虫の場合はさすがに1種類につき20固体っていうのは危険度や値段も高いんで無理ですけど、それでも何固体かは用意します。その苦労は正直ありますね。

――人間と同じように来日自体が難しい昆虫もいるわけですか。

新堂　もちろん。マイク・タイソンのようにね、ちょっと法律的に問題があって入国禁止っていう昆虫もいますね（笑）。

――現地でだったら闘えるけど？

（笑）。

新堂　そう。

――ファイトマネーって……言っていいのかわからないですけど、1匹あたり、モノ凄い単価の高い虫もいるわけですよね。

新堂　そうですね。さっきも言ったように30万円ぐらいする固体もいますし。ウチは基本的に、できる限りオファーをかけたとき、その場で一番大きいものを仕入れるようにしてるんですね。もちろん時期とかタイミングはあるんでね。たとえばウチの場合、ムカデだと24センチが最高なのかな。ただ、やっぱり15～16センチぐらいのものが多くて、ファンの皆さまからは「30センチのムカデ入れろ！」とか言われますからね。

――最強を決めるならヘビー級のムカデを用意しろ！　と。

新堂　そうなんです。ムカデでも種類によりますが、20センチ超えると楽に3～4万、ものによっては7～8万。あとはタランチュラとかになると、これも種類によりますが、平気で10万ぐらいするものとかありますからね。

――10万円ぐらいの虫が、場合によっては何秒かで死んでしまう場合もあるわけですからね。

新堂　そうです。あとやっぱりカブトとかクワガタは高いですね。ヘラクレスも16センチ近くなると、それこそ15万とかしますし。あとヨーロッパミヤマクワガタっていう凄い貴重な種類は30万ぐらいしますし。

――そのへんのプロレスラーや格闘家のファイトマネーよりも全然高いですね（笑）。

新堂　だから、それを宅急便とかで送られるのは怖かったんで、夜中に直接、新宿の伊勢丹前に受け取りに行ったこともありますよ！

――はたから見るとモノ凄く怪しい取り引きですよね（笑）。

新堂　そうなんですけど、それが一番確実ですからね。選虫の体調をまず第一に考えて、人間は暑くても暖かくしてあげるとか、逆に人間は寒くても虫によっては涼しくしてあげなきゃならないとか。そのへんは選虫のコンディションを管理するのもウチの大事な役目ですから。

――来日して体調を崩すっていうのは、生身の人間と同じようにあるんですね。

新堂　あるんですよ。食事面でもいろいろと大変ですし、とにかくいざゴングが鳴るまで、無事にベストコンディションでリングに上げるまでっていうのが、ファンの皆さまにはたぶんわからない、血の滲むような苦労があるんです。

――ご苦労さまです。DVDを何本か観させてもらって凄いと思ったのは、どの虫もちゃんと闘うっていうのが凄いなって。

新堂　もちろん、どの虫もすぐ闘い始めるわけじゃないですよ。試合によっては30分ぐらい睨み合ったりグルグル回ったりするだけっていうのはあたりまえで、そのあいだずっと私らは1時間でも2時間でも我慢で、あとで編集してるんで、すぐに闘ってるように見えるんです（苦笑）。

――やっぱり（笑）。早送りとかされてる試合もありますもんね。

新堂　そうなんです。ですから、だいたい1本のDVDを作るときって16～17時間の撮影が二日間連続ぶっ通しでカメラを回してますね。

――それは闘うほうも撮るほうも大変ですよね。

新堂　大変です。ただ、選虫は死に直結する闘いをしているわけですから、こちらとしても気は抜けないですけどね。

――ましてや毒虫との闘いだと負傷どころじゃ済まされない場合が多いですもんね。

新堂　そうですね。あとね、私はこの取材の場を借りて、声を大にして言いたいことがあるんです！

――は、はい。なんでしょうか？

新堂　よくインターネットとかで、「オオスズメバチの毒を抜いてる」とか、「サソリの針を折ってる」とか言われるんですが、断じて『虫王』はですね、そういう贔屓はしません!!

――そういう言われ方をよくされるわけですか？　というか、そんなヤオガチ論が昆虫の世界にもあるなんて（笑）。

新堂　要するにカブト、クワガタ贔屓だと思われてるんですよ。でもね、ここでハッキリ言っておきますが、どっちが贔屓ってことはないけど、心情で言わせてもらうと、カブトもクワガタも毒針とか牙が通らなくて強すぎるから、ホントは毒虫にやっつけてほしいの、こっちの心境は。

『虫王』とは何か？



こちらが、世界各国から集められた猛獣ならぬ猛虫たちの最強を決めるトーナメント、『第二回世界最強虫王決定戦』のジャケットだ。トーナメント以外にも、リオック怒濤の五番勝負や、オオスズメバチのハンディキャップマッチも収録。



『世界最強虫王決定戦』の第三弾では、「パラワンよ、最強虫王を名のるのは、俺様を倒してからにしろ！」とばかりに"肉食昆虫界のラストエンペラー"の異名を持つオオエンマハンミョウが登場。その暴れっぷりは必見。優勝できるのか？



『世界最強虫王決定戦』の第四弾は『異種格闘技大戦争』と題して、甲虫軍vs毒虫軍vsザリガニ軍の全面対抗戦が実現。インタビューを読んで興味を持った方は世界最強虫王決定戦公式サイトをチェック！
http://www.mushio.jp/index2.html

毒虫の闘いっていうのは、髙田vsヒクソンの興奮と一緒なんですよぉ!

——カブト、クワガタ贔屓どころか、本音では毒虫に勝ってほしい、と。

新堂　本音ではね。だからカメラが回ってないノーピープルデスマッチのときに私が90ミリのセアカフタマタと15センチのダイオウサソリをやらせたことがあるんですよ。そのときは体格も違うし「またクワガタの圧勝なんだろうな……」と思ってたら、サソリの毒針がセアカフタマタの口のブラシのところにプシュッと刺さって、セアカフタマタが引っくり返って24時間手足を痙攣させて死んじゃってね。……あれは鳥肌立ちましたねぇ！

——髙田本部長ばりに「鳥肌立った!!」と（笑）。

新堂　ええ（笑）。「この闘いをDVDに入れたかった」って後悔しましたけどね。だから我々としては、毒虫が甲虫を一撃で倒すシーンっていうのをホントは望んでるんです。

——ミルコのハイキックじゃないですけど、虫同士の試合でも一撃KOは見応えがありますからね。

新堂　そうそう。だから視聴者の人がよくインターネットに書き込むようにね、『虫王』はカブト、クワガタ贔屓だっていうのはまったくなくて。どっち贔屓ってこともなくて。でもあんまり甲虫ばっかり勝つのも、主催者としては、「もうちょっと頑張れよ、毒虫軍団！」って気分になるんでね。だからスズメバチの針を抜いたりっていうのは……だって針抜くほうが大変ですよ。抜こうとしても刺されますからね（笑）。

——ホントに命懸けですよね（笑）。

新堂　そうですよ。まずスズメバチをピンセットとかで押さえなきゃいけないでしょ。それ、えらい高等テクニックですからね！　この誌面を借りて言わせてもらいますけど、それは絶対ありえない！（キッパリ）。

——わかりました（笑）。

新堂　もう一つ言いたいのは、プロレスにもちょっと関係してきますが、これもよく『虫王』で言われることで、『虫王』はカブトの足場に不利なところでやらせてるとか、逆にサソリの足場に不利なところでやらせてるとか、あとカマキリっていうのは待ち伏せ型なんで、正面でタイマンでやらせるのはかわいそうだとか、ルールについてみんないろいろ言ってくるんですよ。

——そのへんもプロレス・格闘技ファンと一緒ですね（笑）。

新堂　私は昔から一つ納得できなかったことがあって。ボクサーはよく「つかんじゃダメだ」とか「寝技は何秒以内だ」とか言ってるけど、じゃあ結局、なんでもありだったら勝てないってことを自分で言ってるようなもんじゃないですか。世界最強の格闘家っていうのは、つかもうが投げようがパンチ打とうがヒジ打ちがあろうが、真の最強を決めるっていう意味では、人間の異種格闘技でもノールールが一番だと思うんですよ。

——確かに『虫王』は初期UFC以上にノールールですからね。それこそ金的や目潰しや噛みつきも普通にありますし（笑）。

新堂　そう。まあ、ボクサーだけじゃないけども、「これはダメ、あれはダメ」って、じゃあ結局そういうふうにして勝っても、「その条件だから勝ったんじゃん」って話になるし。たとえば立ち技専門の人が総合の人とやったときに、それでもやっぱり勇気を持って踏み込んでノールールで寝技で負けたってなったら、私はたたえますよ、その勇気を。ただやっぱり昔の猪木vsアリ戦のように「あれダメ、これダメ」って、異種格闘技戦では必ずそういう問題が勃発するでしょ？

——勃発しますね。

新堂　それは私としては、闘いの本質を忘れてると思うんです。だから話を虫に戻すと、足場だとか関係ない。要はどんな環境でも、たとえば陸の虫を水の中に入れて闘わせたっていうんだったら、そりゃムチャですよ。

——それはムチャですね（笑）。

新堂　でもそうじゃなくて、ウチの場合はね、たとえばカブトムシとかクワガタムシって本当は樹皮の上が一番動きやすいんです。で、サソリとかタランチュラは砂場がいいんですよね、土とか。その中間をとって、ウチはたいていコルク。コルクっていうのは爪もある程度引っ掛かりますし、中間だと思うんです。そういう中でやらせてるんで、それでカブトに不利だっていうのは、じゃあカブトに有利な木の上でやったら、そりゃカブトが勝つだろうし、逆もまたしかりで、砂の深いところでサソリとやったらカブトもクワガタも不利なわけです。だからその中間のところでやらせる、と。基本的にはウチはノールールですから。

——なんでもありなんですね。このシリーズを続けてみて、いまのところ新堂さんが考える最強の選虫っていうとなんになるんですか？

新堂　まず、毒虫限定で話をしましょうか。

——では、毒虫部門の最強からお願いします！

新堂　毒虫でいうと、まず単純に言っちゃうとサソリ軍がいてムカデ軍がいてタランチュラ軍がいるでしょ。あとは肉食昆虫のほうにオオエンマハンミョウ。あとはオオスズメバチがいますね。まあ、このへんの中から毒虫昆虫の中での最強が決まると私は思うんですね。ただし！

——た、ただし？

新堂　ファンの中ではリオック最強説もあるわけです。

——リオックですか？

新堂　リオックという選虫はいままで『虫王』のDVDでは負けたことありませんし、ネットでもよく「クワガタとやってもバリバリ食っちゃうんじゃないの？」とか言われますけど、それはありません。

——新堂さん的にはリオック最強説は納得できない、と？

新堂　そうです。リオックはですね、日本のコクワガタとやっても負けると思います。

——コクワガタって名前のとおり小さなクワガタですよね？

新堂　はい。でも絶対に負けます。コクワガタは言いすぎかもしれませんけど、でもコクワガタに負けないかもしれないですが、勝つこともできませんよ。

——じゃあ、最強ではないですね。

新堂　リオックの牙っていうのはそこそこ硬いんです。確かに人間の指ぐらいだったら血を出すことはできるけど、コクワガタであろうと、羽根は硬いですからカブトとかクワガタといった甲虫には攻撃が通用しないんです。だから間違いなく言えるのは、日本のノコギリクワガタには絶対に勝てません。まずブチュッて身体の頭以外のところにノコギリのアゴが入っちゃうと、もうブチュッて体液出ますから。

——となるとリオックは脱落ですね。

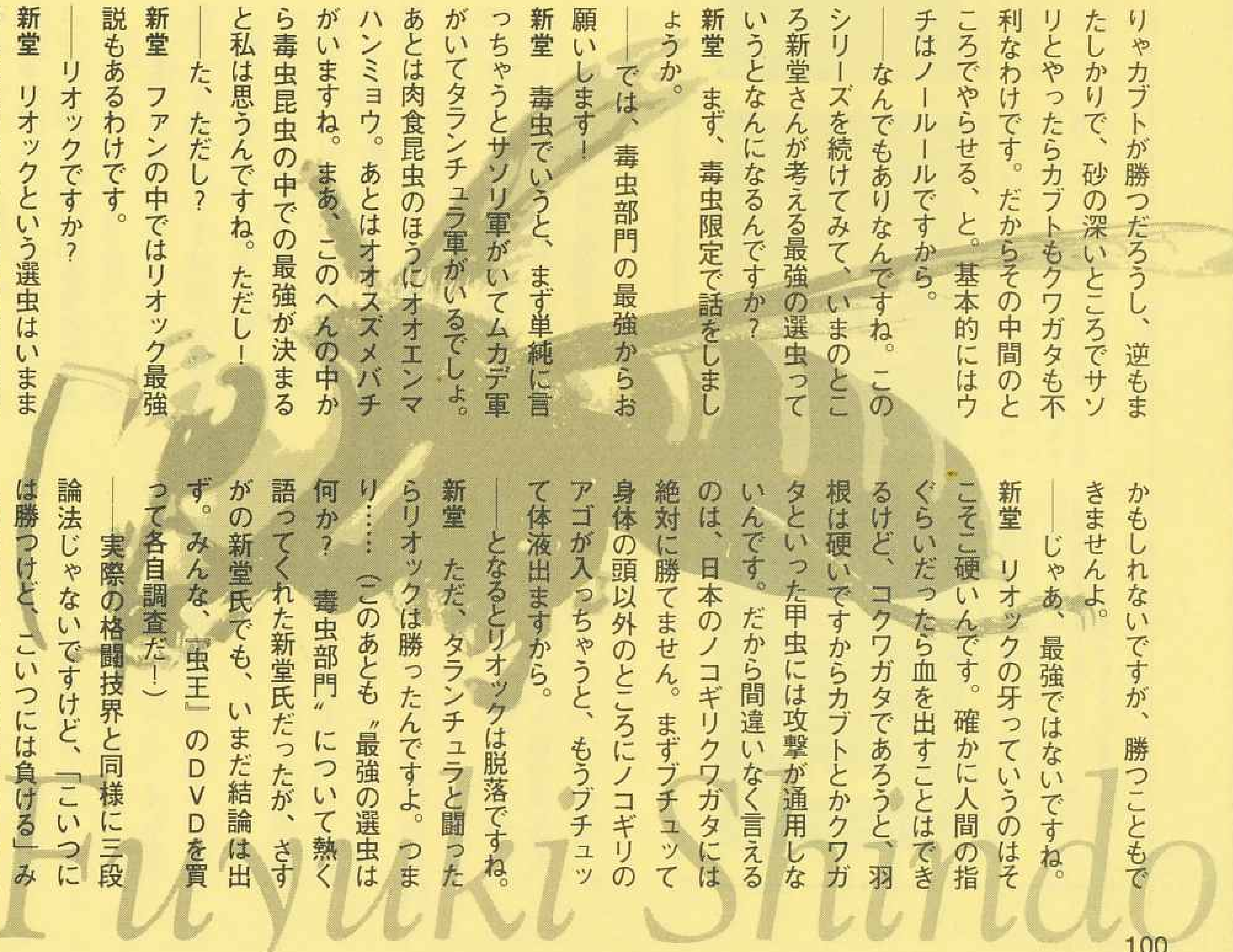
新堂　ただ、タランチュラと闘ったらリオックは勝ったんですよ。つまり……（このあとも〝最強の選虫は何か？　毒虫部門〟について熱く語ってくれた新堂氏だったが、さすがの新堂氏でも、いまだ結論は出ず。みんな、『虫王』のDVDを買って各自調査だ！）

——実際の格闘技界と同様に三段論法じゃないですけど、「こいつには勝つけど、こいつには負ける」みたいなのもあって最強を決めるのは難しいんでしょうね。

新堂　それがわからないからこそ、やり続ける意味もありますからね。現時点で言うと、毒虫、肉食昆虫の中ではマレーキャンサーっていう選虫が強いと思うけど、クワガタ、カブトには基本的には敵わないですから。となると、最強はカブトかクワガタかっていうことに絞られてくると思うんですよ。

——やっぱり、最強の選虫はカブトかクワガタですか？

新堂　ええ。そうなると私が前から主張してるのは、投げ飛ばして勝



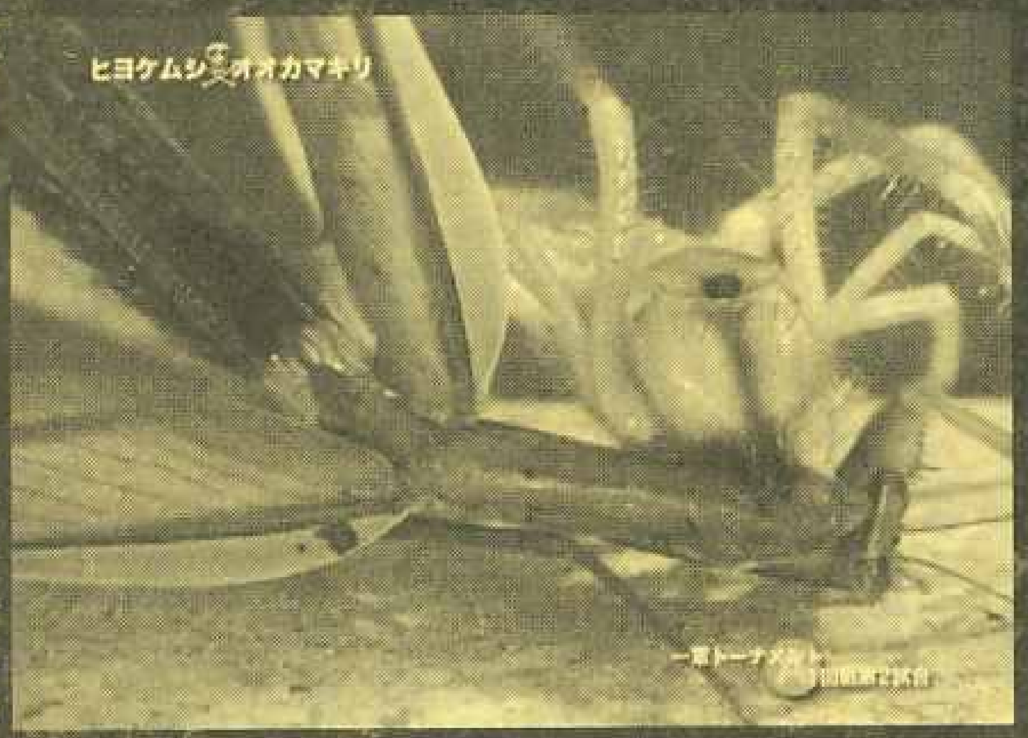
な?

アメリカ
スポーツ
WW

新堂冬樹が選ぶ『虫王』ベストバウト



「ベストバウトは、たくさんありすぎて選ぶのが難しい」という新堂氏が最初に挙げてくれたのがデザートヘアリー vs ベトナムオオムカデ戦。「たとえるならジョシュ vs ノゲイラ戦」ということの試合、最後は壮絶な結果に！



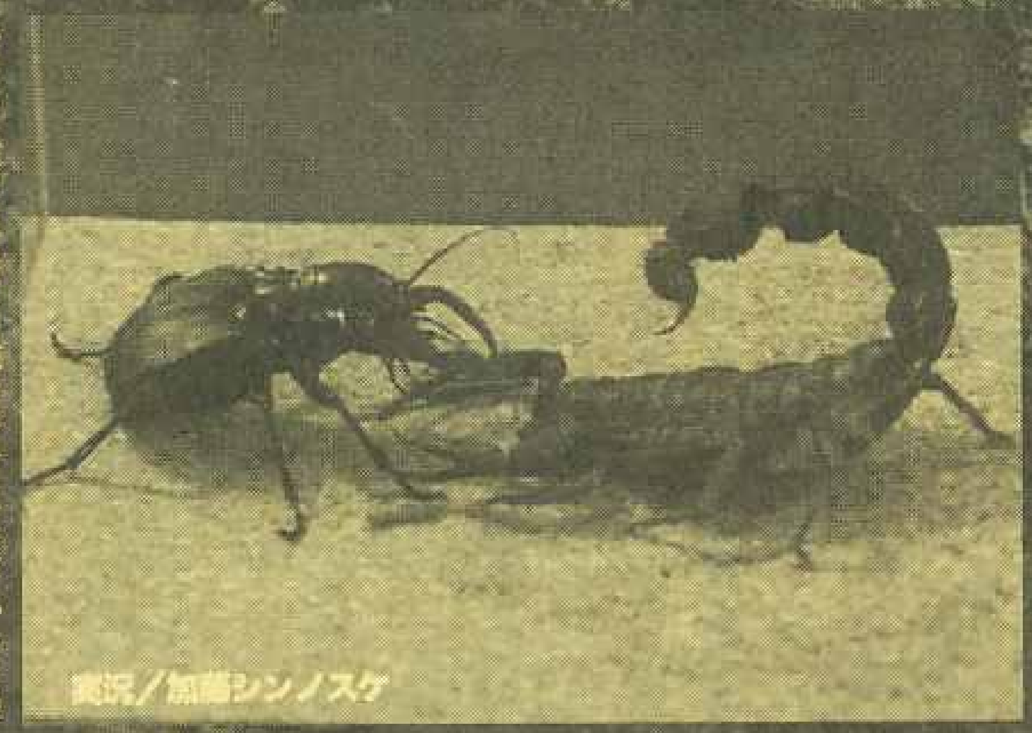
続いてはオオカマキリと〝世界三大奇虫〟のヒヨケムシの一戦。新堂氏いわく、試合巧者というヒヨケムシとオオカマキリの試合は30分以上動きが止まらない、たとえるなら無我的な攻防が繰り広げられたという。見たい！



ここからは「虫王」界の名勝負製造機、ジャイアントデスストーカー3連発だ。キングバブーンとの一戦は「ドン・フライと高山のようなノーガードの殴り合い」が繰り広げられ、勝ったデスストーカーも試合後、動けず！



デスストーカーとオオスズメバチの一戦は、ゴングと同時にスズメバチが噛みつきまくり優勢かと思われたが、最後の最後にデスストーカーの毒針がスズメバチの口の中にズブリと突き刺さり、哀れスズメバチは死亡……。



小さいながらもどう猛なオオエンマハンミョウとジャイアントデスストーカーの一戦は、毒針を目に食らいながらも、デスストーカーの尻尾を噛みまくったオオエンマハンミョウが戦意喪失に追い込んで勝利をもぎ取った。

ち、引っくり返して終わりの相撲的なルールだったらカブトですね。体力もあるし脚も太いですから。

――相撲的なルールではカブトが最強だと。

新堂 でも、それこそルールも時間も関係ない、どっちか死ぬまでだったら、これはたぶんクワガタでしょう。殺傷力がありますから。

――ホントの殺し合いではクワガタが一番ですか!?

新堂 殺し合いだったらクワガタですね。ただし、実際問題として、たとえば樹皮の上とかで闘った場合、大きいカブトに投げられますよね。で、きっこうクワガタって、とくにヒラタクワガタなんかは1回投げらちゃったりすると、もうビビッちゃうんです。学習能力があるから、そうなると向かっていかないのよ。

――精神的な弱さがある、と。ボブ・サップみたいですね（笑）。

新堂 そうなんです（笑）。たとえばプラスチックのリングの中に入れっぱなしにして、ファーストコンタクトのときにクワガタが投げられてプラスチックの壁とかに背中からバーンとぶつかって落ちて引っくり返ったりしたら、もうちょっと虫が変わったようになりますから。

――人が変わったじゃなくて、虫が変わったように（笑）。

新堂 もう向かっていけない。ただし、言えるのはコーカサスオオカブト三本角っているんですが、あれの場合だと、まれにハマリ方によってクワガタを殺すことがあるんですよ。テコの原理で。

――三本の角で潰しちゃうわけですね。

新堂 そうです。ただ、基本的にカブトって殺傷力はないんですね。だからやっぱり本当の意味でどっちか死ぬまでっていうことを考えると、やっぱりクワガタかな、と。で、私は誤解を恐れずに言うと、ホントは毒虫のほうが好きなんです。べつにカブト、クワガタが嫌いなんじゃなくて、毒虫のほうが好きなんです。

――それは何か理由でもあるんですか？

新堂 なんでかっていうと、毒虫の闘いっていうのはですね、殺るか、殺られるかっていう、それこそ『PRIDE・1』の髙田延彦vsヒクソン・グレイシー戦、あのときの興奮と一緒なんですよ、ホントに。

――毒虫の闘いは髙田vsヒクソンでしたか！

新堂 そうそう。だからホントにそういう意味では、非常に毒虫の闘いっていうのは緊迫感にあふれてて。もうホントどっちかが命を落とす、ましてやこっちも扱いのときにプチッと刺されたら大変ですからね！

――取り扱い注意のオランダ軍団というか（笑）。

新堂 そういう意味で毒虫のほうが好きかなっていうのはありますよね。

――プロレス、格闘技にたとえると、毒を持ってるっていうのは反則じゃないかっていう声ももちろんあるとは思うんですけど。

新堂 でもそれはね、身体についてないものだったら反則だけど、もともと身体についてるものだから。あ、一つ大事なことを言い忘れてた、オオエンマハンミョウのこと忘れてました。

――オオエンマハンミョウもかなり強いんですよね？

新堂 そうなんです。オオエンマハンミョウ最強論っていうのもファンのあいだで根強くて。これは世界最大のもので7センチあるんです。

――最大で7センチって、ちょっと小粒なような気もしますが。

新堂 だってハンミョウって普通2センチぐらいですから。

――あ、そんなにちっちゃいんですか？

新堂 そう、だから世界最大の7センチっていうのは、もうバケモノですよ。日本のハンミョウの4倍ぐらいあります。これは現地ではトカゲとかネズミを襲ってるんですよ、集団で。

――それはどう猛ですね！

新堂 牙も凄いし、性格的にも狂暴です。ウチのシリーズにも出て準優勝でした。ただし、決勝でヒラタクワガタに負けちゃったんですね。要するに毒虫には勝ってきたんですよ。オオエンマハンミョウは甲虫で硬いから、タランチュラの牙もサソリの針も通らなくて勝ち上がってきた。でもやっぱりハンミョウの中では世界最大っていっても7センチですからね。

――ハンミョウの中では大きいんでしょうが、2倍～3倍の昆虫はざらにいるでしょうからね。

新堂 そういうことです。7センチっていったら、クワガタでいうとバカにされてる日本のノコギリクワガタとかとあんまり変わらないわけ。

――維震軍グ
発売してほし
代、反選手会
ある試合って
越中　記憶力
挙げるのは難
というのはあ
かりしてなか
みんなの力で
いきり暴れる
ゃねえ！」っ
――それが、
にもつながっ
越中「何ク
一念ですよ！
のヤツらは会
てエリート街
れない。でも
ら俺たちを窓
たつもりかっ
も、こっちは
ンディション
ておけば、問
らい信頼関係
し、控室でも
たことはない
ら！　試合で
て、「何やって
――でも彰俊
て大変だった
越中　ま、確
だから彼はあ
ないね（笑）。
ら、「あいつと
だけど、うち
凄いと思いま
小林　控室で
思い出がない

オオエンマハンミョウの牙は確かに凄く見えるけど、ノコギリクワガタの牙部分はあれはアゴですからね。

――クワガタのハサミ部分って、あれはアゴなんですか？

新堂　そうなんです。ハンミョウの牙が凄いっていうんだったら、ノコギリクワガタの牙のほうが全然凄い。だからですね、日本のノコギリクワガタとオオエンマハンミョウがやったら、私は日本のノコギリクワガタのほうが勝つと思います。

――これまで話をうかがってきて、人間の格闘技界と一緒で三段論法じゃないですけど、「コイツこそが最強だ」っていうのは断言するのは難しいわけですね。

新堂　ハッキリ言っちゃうとそうなんです。だからこそ、こちらとしても、より最強に近い選虫を集めて闘わせるっていうモチベーションが湧いてくるわけですよ。

――いままで見てきて、新堂さんのベストバウトっていうのはどういった試合になるんですか？

新堂　いくつかありますが、毒虫が絡んだ試合で言わせてもらうとですね、やっぱりデスストーカーとオオスズメバチの試合かなぁ。

――その試合はどういった内容だったんですか？

新堂　この試合はですね、オオスズメバチが地上を走ってデスストーカーに噛みつく、噛みつくの繰り返しで。一方のデスストーカーのほうも尻尾で何回も投げるわけです。投げられて引っくり返って起き上がってまた襲いかかるスズメバチっていうことを繰り返してるうちに、デスストーカーの猛毒針が口の中にバーッて入って、オオスズメバチが急にそこで『あしたのジョー』の最後ですよ。

オオスズメバチは人気があります。『虫王』界の浜崎あゆみですよぉ！



『虫王』の人気選虫を紹介します。上から、『虫王』界の浜崎あゆみことオオスズメバチ、『虫王』ファンのあいだで最強説も根強いリオック、そしてオオエンマハンミョウ。これらの虫たちがUFCも顔負けのノールールで殴って蹴って噛みついて、ときには毒を突き刺す危険極まりない闘いを繰り広げるのが『虫王』ワールドだ。鳥肌立ちます！

――真っ白な灰になった、と（笑）。

新堂　ホント、そんな感じでしたね。あと名勝負といえば、デザートヘアリーっていう毒虫とベトナムオオムカデの闘いも凄かったですね。

――それはどういった試合になったんですか。

新堂　その試合ではムカデがデザートヘアリーに絡みついて、お腹の柔らかいところから食おうとするわけ。で、ムカデの顔が来たところで、デザートヘアリーは尻尾だけは自由だから、尻尾でパーンと跳ね返すんです。で、ムカデはまたヒューッて反対側に行くと毒針をピョーンッて突き立てる、と。今度はデザートヘアリーはマウント取られながら、下から必死に返していったり一進一退の攻防が続くんです。

――まるで総合の試合みたいですね（笑）。

新堂　ホントそうなんです。これは編集抜きにすると30分ぐらい続いたんですけど、その間、動きが全然止まらないの。ノゲイラvsジョシュ・バーネットのような感じで！　結局最後はムカデが食っちゃって勝ちましたけどね。

――壮絶なノゲイラvsジョシュ戦ですね（笑）。

新堂　あとは名勝負といえばですね、デスストーカーっていう世界で2番目か3番目に毒が強いと言われてるサソリなんですけど、ジャイアントデスストーカーっていうのがいるんですよ。

――ジャイアントデスストーカーですか！　名前だけ聞いても凄そうですね（笑）。

新堂　これは尻尾が凄く太いんですよ。で、身体は真っ黒なんです。こいつがじつをいうとサソリの中で一番狂暴なんですよ。毒も強いし。こいつがですね、キングバブーンっていう無茶苦茶デカい野生の毒虫と闘ったんですけど、これは名勝負でしたね。もうお互い毒牙と毒針のぶっ刺し合い、最後はノーガードの殴り合いになって。ほとんどドン・フライvs高山善廣戦状態ですよ（笑）。

――毒虫同士でのフライvs高山戦！（笑）。

新堂　もう、お互い大流血。で、急にキングバブーンが石のように動かなくなったの。で、勝ったジャイアントデスストーカーのほうも、しばらくしたら毒が回ってダメになっちゃって。だから『PRIDE』でいうと負傷でドクターストップ。

――うわぁ、それは凄そうです。ちなみに『虫王』ファンのあいだで一番人気のある虫っていうとなんになるんですか？

新堂　毒虫の中で一番人気があるのがリオックですね。

――先ほど名前が挙がってましたね。

新堂　有線さんで『虫王』の番組をやってるんですが、視聴率でもいつもリオックが一番いいんですよ。

――それは何が理由なんですかね？

新堂　リオックはホントにね、観てもらったらわかるんですけど、とにかくゴングと同時に、相手を食うことしか考えてない。毒も何もないんで、食って食って食いまくる。もう相手の内臓出しまくり。

――うわ〜、人間同士の闘いだったら、とても放送できませんね（笑）。

新堂　そうですね（笑）。一回、『リオック怒涛の5番勝負』っていうのをやったことがあるんですけどは、同じリオックが闘って連続で5匹食っちゃったことがあって。しかもその5番勝負終わって控室にいるときに、ほかの闘いで負傷して死んだ虫をリオックの控室に入れたら、それまでも次々と全部食べちゃったんです。

――アハハハハ！　それは凶暴どころの騒ぎじゃないですね（笑）。

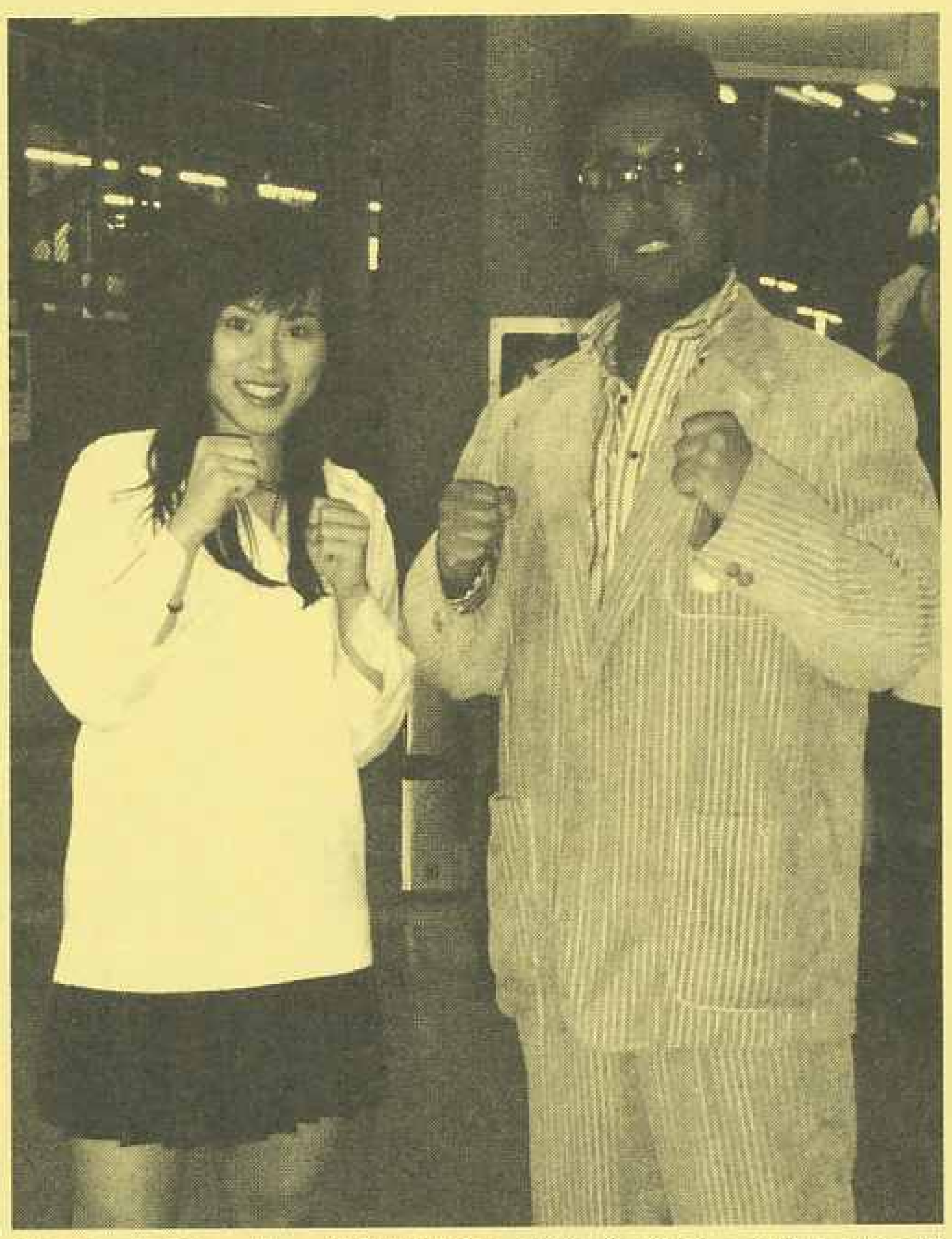
新堂　結局、1時間のあいだに8〜9匹の虫を食べて、お腹ふくらみすぎて動けなくなっちゃいましたけどね。

――アハハハハ！　谷川さんみたいですね。

新堂　あと根強い人気があるのはカマキリですね。カマキリが相手になった瞬間にまた跳ね上がりますから。だからオオスズメバチとかカマキリ

Fuyuki Shindo

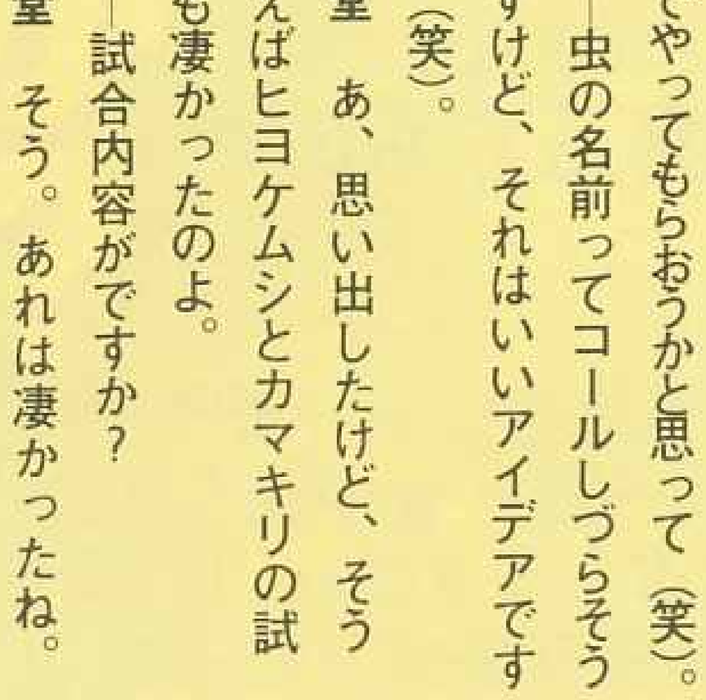
のマッチメイクは苦労しますよぉ！
―人気選虫だけに（笑）。
新堂　かといって贔屓するわけにはいかないですから。でも、トーナメントなら勝ち上がってほしい！……ホント、大変ですよぉ！
―マッチメイカーの苦悩ですね（笑）。先ほどもチラッと聞きましたが、まだDVD化されていない『虫王グランプリ』っていうのは、いつ頃開催されたんですか？
新堂　去年ですね。そのときは国産カブトムシとコーカサスオオカブトがタランチュラに全敗しちゃったんですよ。で、ネットとかの視聴者から「なんでヘラクレスを出さないんだ。贔屓してるんだろ」とか「高いから殺されるのがイヤなんだろ」とさんざん言われまして。
―プロレス・格闘技ファンに負けず劣らず熱いファンが多いんですね（笑）。
新堂　そうなんですよ（笑）。でもね、私が出さなかったのは、要するに私からするとヘラクレスオオカブトっていうのはジャンボ鶴田なんですよ。


『虫王』プロデューサー、作家以外にも、芸能プロダクション社長という肩書も持つ新堂氏。新堂氏の隣に写っている美少女は新堂プロ所属のアイドル高橋亜弓ちゃん（17）です！　新堂プロHPは→http://shindo-pro.jp/

―ヘラクレスオオカブトがジャンボ鶴田!?
新堂　私がっていうか、みんなが思ってるイメージがジャンボ鶴田なんです。プロレスでは強い、怪物。でも毒虫が待つリング、実際にコーカサスとか国産カブトは、ビガロがキモにやられたときみたいな、あのときのようなショックがありましたから！
―ビガロがバーリ・トゥードで血まみれになったような。
新堂　で、ジャンボもガチンコの場に出ていったら、そうなるんじゃないか？　と。
―ジャンボも「本気を出せば相当に強い」とは言われてましたけどね。
新堂　ですよね。そこで今回、ヘラクレスがついに立ち上がって、グランプリでは甲虫カブト代表として出たわけですよぉ！
―そ、それで結果は？
新堂　まあ、結果は言えませんが、予告編として言っておきますと、ジャンボ鶴田はセメントでも強かった！

プロレス界と違って虫界にはロマンとリアリティが共存してるんです！

―オーッ！　ジャンボはセメントでも強かった!?（笑）。
新堂　これだけは言っときます。ジャンボ鶴田ほど残酷なファイターはいないと思います！
―ジャンボほど残酷なファイターはいない!?
新堂　ええ。コーカサスよりも何よりも残酷で狂暴でしたよ。これはね、発売まで待ってもらうとして。そうやって見ると虫の世界っていうのも非常に現実の格闘家やプロレスラーとかぶる面があるんですよ。『PRIDE』でも打撃の強い選手、寝技の強い選手とかいて。ムカデはどっちかっていうと寝技ですね。絞め技が得意ですからね。だから私が思うに、たとえば鶴田さんもそうですけど、小橋さんとか長州さんとかいろんな方がいます。そういう人がたとえば絶頂の頃に、じゃあ、いまのヒョードル、ノゲイラと闘ったらどうなるのか？　これはプロレスファンにとってロマンですよね。
―まあ、非常にロマンある闘いですよね（笑）。
新堂　ソクジュっていうのがいま凄く話題になってますけど、だったら「ソクジュとヒョードルを闘わせよう」ってやっているのが『虫王』ですから。
―現実的には、その闘いを実現させるのは難しいですけど……。
新堂　虫だったらできますし、絶対に満足すると思いますから。
―じゃあ、ぜひ『PRIDE』や総合のファンにも観てもらいたいところですね。
新堂　そうですね。いまのプロレス界と違って、虫界には、まだまだロマンとリアリティが共存してますから。
―『虫王』の中にはロマンもリアリティもある、と？
新堂　間違いなくありますね。
―ボクも『虫王決定戦』っていう存在は知ってましたけど、実際観てみたら凄いハマりましたからね。
新堂　おもしろかったでしょ？　ウチの事務所のヤツもイヤがって観ないんですよ。でも彼、K－1とか『PRIDE』好きなんだよなあ。
―だったら絶対に大丈夫だと思いますけどね。
新堂　共通してるよね。だから、俺、今度のDVDで『PRIDE』のレニー・ハートに「ダイオウ～サーソーリィィィ～～～！」って巻き舌でやってもらおうかと思って（笑）。
―虫の名前ってコールしづらそうですけど、それはいいアイデアですね（笑）。
新堂　あ、思い出したけど、そういえばヒヨケムシとカマキリの試合も凄かったのよ。
―試合内容がですか？
新堂　そう。あれは凄かったね。編集したけど、30分間動きが止まらなかったからね。あれも名勝負数え唄。なんかね、無我のリングを観てるみたいで。
―え、虫界にも無我の闘いがありましたか!?（笑）。
新堂　ホントに西村修と藤波辰爾さんの試合を観てるようだった。
―倒立したりとかありました？（笑）。
新堂　ホントそんな感じなのよ。無我のね、クラシカルレスリング。決して派手な動きはないのよ。で、お互いパワーでやるタイプでもないわけ。でも相手がこう来たらこう返す、力の軸点というかね、そこらへんがね、ヒヨケムシオオカマキリの30分の闘いには、ヨーロッパレスリング……ちょっと古い話すればね、ホースト・ホフマンみたいな感じでね。
―まさか、『虫王』の話でホースト・ホフマンの名前まで出てくるとは思いませんでした（笑）。
新堂　でもホント、『kamipro』読者なら絶対におもしろいと思いますんで、一度DVDで『虫王』をご覧ください！
【07年4月9日／都内・新堂冬樹事務所にて収録】



『虫王』プロデューサーではなく、人気作家・新堂冬樹の新作が、こちらの『百年恋人』（双葉社・1400円＋税）。虫について熱く語りまくった新堂氏に興味を持った方は、こちらの純愛小説のほうもオススメしておきます。泣けますよぉ！

『虫王』に興味を持った方はこちらまで→info@mushio.com／TEL.0120-344-640

kamipro books

驚ガク！ 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ！
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!



吉田豪セメントインタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の最濃傑作！

★ストロング小林　★田代まさし　★猪木快守
★イーデス・ハンソン　★阿修羅原　★鶴見五郎
★サムソン・クツワダ　★康芳夫　★倉持隆夫
★田中健一　★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー――数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは“下調べの鬼”が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ！

全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判　344ページ　定価＝1,890円（本体1,800＋税）



夕焼けがよく似合う人生ガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる凄玉たちの
壮絶インタビュー集！

★ジュラルド・ゴルドー　★後藤達俊　★小畑千代
★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎　★中島らも
★大槻ケンヂ　★シーザー武志　★ダニー・ホッジ
★高山善廣×金原弘光　★真樹日佐夫×三池崇史

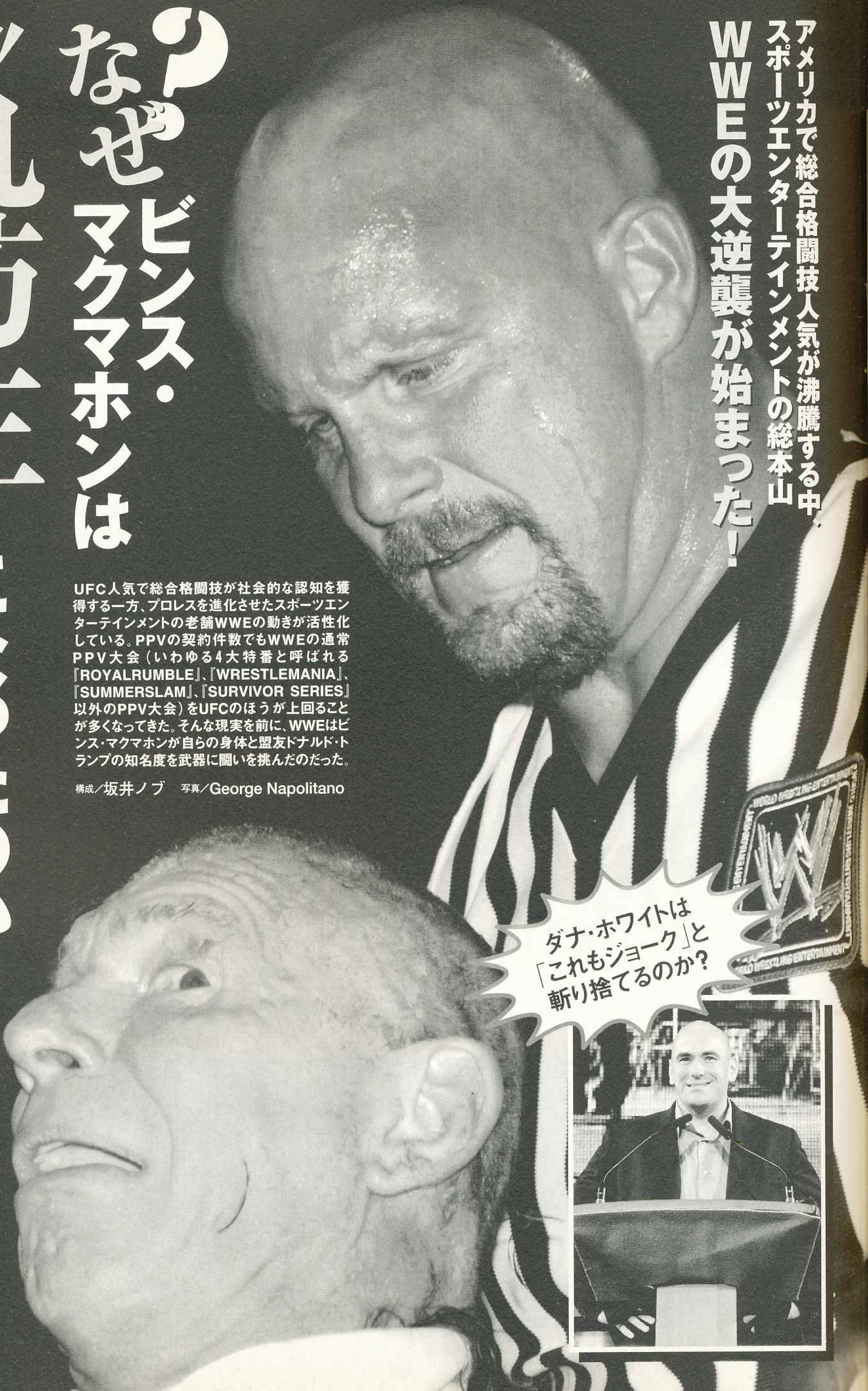
プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる――!!
プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、プロレス&格闘技専門誌『kamipro』誌上にて掲載されてきた、100本以上にも及ぶ濃厚1万字突破インタビュー。その中から特別厳選収録！　圧倒的な現実をタフに生き抜き、憧憬の的となる圧倒的な幻想をまとった凄玉たちの金言の数々をとことん読み込め！

全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判　304ページ　定価＝1,890円（本体1,800＋税）

enterbrain 株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/

アメリカで総合格闘技人気が沸騰する中、
スポーツエンターテインメントの総本山
WWEの大逆襲が始まった！

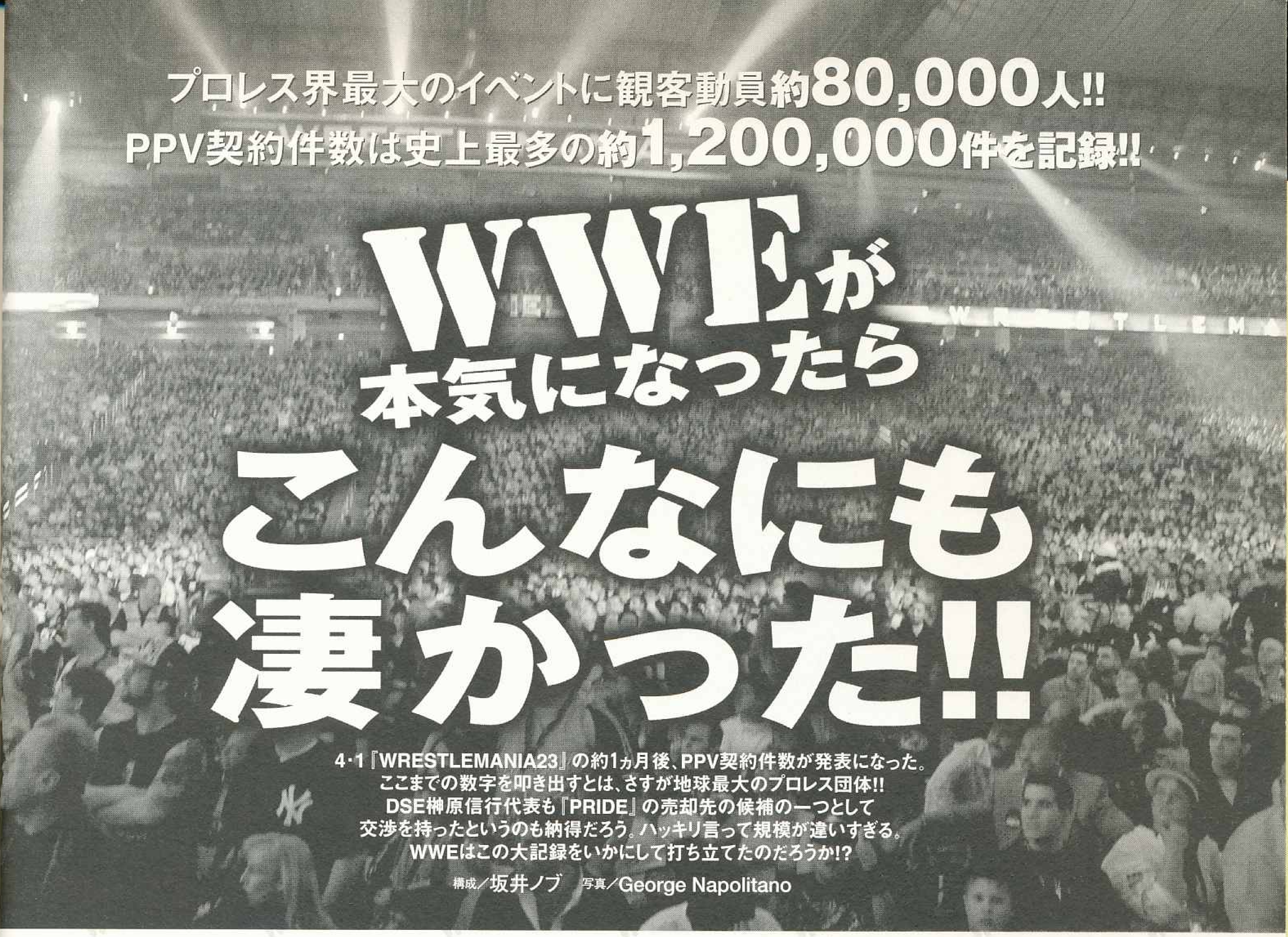
なぜ？ ビンス・マクマホンは "丸坊主"になったのか？



UFC人気で総合格闘技が社会的な認知を獲得する一方、プロレスを進化させたスポーツエンターテインメントの老舗WWEの動きが活性化している。PPVの契約件数でもWWEの通常PPV大会（いわゆる4大特番と呼ばれる『ROYALRUMBLE』、『WRESTLEMANIA』、『SUMMERSLAM』、『SURVIVOR SERIES』以外のPPV大会）をUFCのほうが上回ることが多くなってきた。そんな現実を前に、WWEはビンス・マクマホンが自らの身体と盟友ドナルド・トランプの知名度を武器に闘いを挑んだのだった。

構成／坂井ノブ　写真／George Napolitano

ダナ・ホワイトは「これもジョーク」と斬り捨てるのか？



プロレス界最大のイベントに観客動員約80,000人!!
PPV契約件数は史上最多の約1,200,000件を記録!!

WWEが本気になったらこんなにも凄かった!!

4·1『WRESTLEMANIA23』の約1カ月後、PPV契約件数が発表になった。
ここまでの数字を叩き出すとは、さすが地球最大のプロレス団体!!
DSE榊原信行代表も『PRIDE』の売却先の候補の一つとして
交渉を持ったというのも納得だろう。ハッキリ言って規模が違いすぎる。
WWEはこの大記録をいかにして打ち立てたのだろうか!?

構成／坂井ノブ　写真／George Napolitano

髪切り戦で敗れたビンス・マクマホンが“ボウズ丸もうけ”になった理由とは？

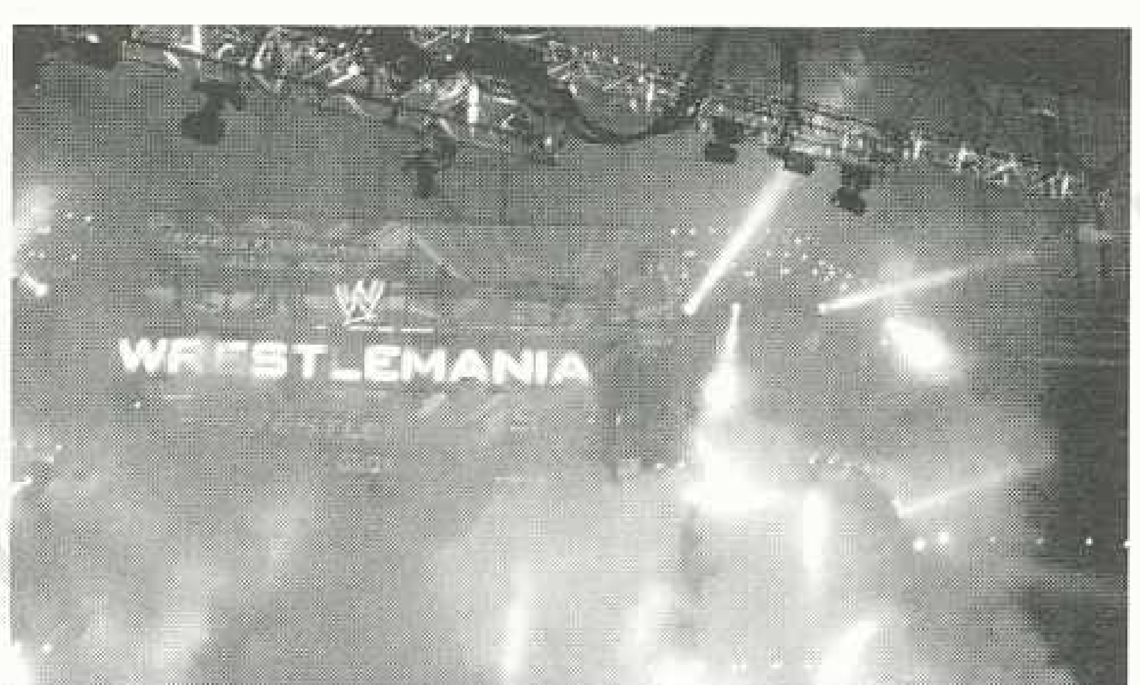
プロレス界ナンバーワンの億万長者ビンス・マクマホンは、なぜリング上で丸坊主になったのか？　結論から書いてしまえば、その原因となったのはＵＦＣ以外に見当たらない。

本誌でもさんざんお伝えしているように、アメリカではＵＦＣの台頭によってＭＭＡ人気が異常に急騰、『ＰＲＩＤＥ』をも飲み込むほどに拡大している。アメリカではチャンネルを回せばＵＦＣ、ＩＦＬ、ボードッグ、『ＰＲＩＤＥ』やＫ－１など、あらゆるものが目に飛び込んでくる状況になりつつあり、またボードッグはビルボード（いわゆる巨大看板）を使ってアメリカのいたるところで広告展開を行なっている。

そんな中、世界一のプロレス団体であるＷＷＥが巻き返しに打って出た。ＵＦＣの急速な台頭が影響しているのは間違いないだろう。ＷＷＥとＵＦＣではＰＰＶ視聴者のターゲット層がかなり被っているので、ジャンルは違えど意識せざるを得ない状況にある。実際、ＷＷＥのＣＥＯリンダ・マクマホン（ビンスの妻）は２００６年第２＆第３四半期の会計報告の際に「ＵＦＣの台頭は凄いですね」と言及している。ＷＷＥが月１回開催するＰＰＶ契約件数をＵＦＣのＰＰＶのほうが追い抜いたというのは日本でもニュースになっている。ＰＰＶで視聴者にお金を落とさせるという部分においては、両者は完全に競合しているのだ。

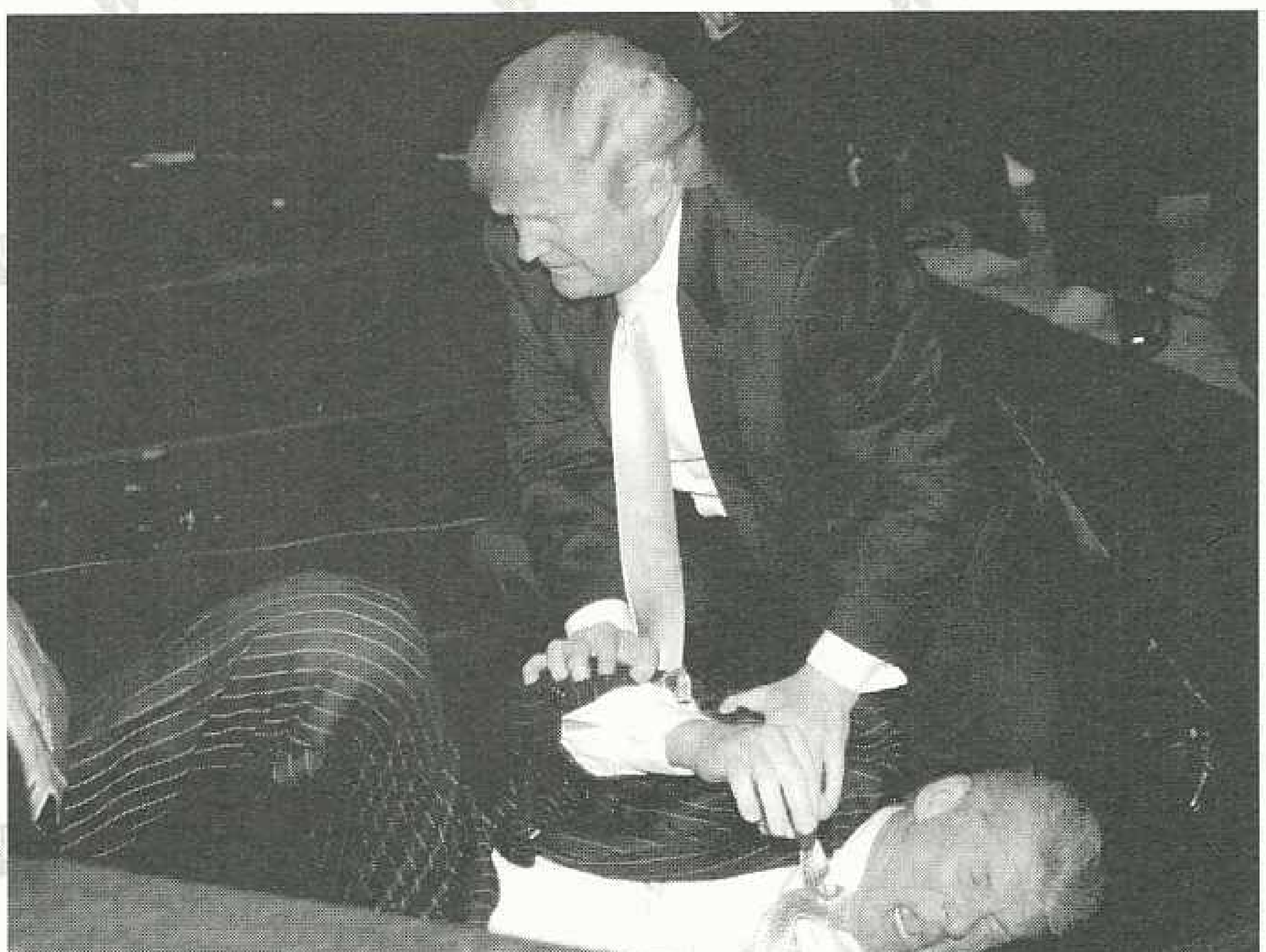
かつてのＷＷＥは、ＷＣＷやＥＣＷといったプロレス団体と熾烈なバトルを繰り広げていたが、現在は目立った対抗団体は見当たらない（ＴＮＡなどもあるにはあるが規模が小さすぎる。そちらに選手が流出することを恐れはしても、団体の規模はＷＷＥのほうが桁違いに大きい）。そこでＷＷＥはＵＦＣを仮想敵として、スポーツエンターテインメントの底力を集結させたメガイベントを開催したのだ。

４月１日、アメリカ・ミシガン州デトロイトで開催された『ＷＲＥＳＴＬＥＭＡＮＩＡ23』（以下『ＷＭ23』）には約８万人もの大観衆が集まった。ここ数年、年間最大イベントである『ＷＭ』もスタジアム級の会場では開催してこなかったＷＷＥが、ひさしぶりに巨大な会場に進出したのは理由がある。今年はハルク・ホーガンvsアンドレ・ザ・ジャイアントで９万人もの観客を動員した『ＷＭ３』（会場はミシガン州ポンティアック・シルバードーム）の20周年にあたり、その再現を狙って大会場にしたのだ。しかし、ホーガンは出場せず、むしろ急速に成長するＵＦＣのカウンターとし



超巨大な可動式エントランスゲートとパイロ（花火）によって、後方席のお客さんにも伝わる演出を展開した『WM23』。

て有効だった。
　8万人収容の会場となれば演出も通常と同じ規模ではまったく効果がない。WWEは『WM23』において通常100人のスタッフが組むエントランスゲートを300人掛かりで1週間かけて組み上げ、それぞれの選手によって異なる動きをするという超ド級のスケールの演出を行なった。またアンダーテイカー入場時にファイヤーボールを焚いたところ、火力を最大限までアップさせていたためボヤ騒ぎが発生したという。会場の一番うしろに座っているお客さえも満足させようという気構えがなければ、こういう演出は絶対に行なわないだろう。
　最も注目を集めたのは、やはりビンス・マクマホンとアメリカでは知らぬ者はいない超有名不動産王のドナルド・トランプの抗争だった。この機会を逃すまいと、WWEはほとんどすべてのチャンネルで『WM23』のPPVのCMを放送していたというから、その気合いの入り方はハンパではない。
　ちなみにトランプは試合前にCBS（アメリカ三大ネットワークの一つ）の深夜のトークショーに出演して、WWE出場について語っている。
「なぜ闘うのかって？　私は自分の番組『ジ・アンプレティス』のプロデューサー兼俳優でもある。WWEに出たことでどういう効果が出るか見てみたいんだ」
　『ジ・アンプレティス』はトランプの右腕として雇用されたい若者を一人ずつ落として生き残った一人を採用するというリアリティショーだ。番組内でトランプが失格者に対して吐き捨てる「You are fire!（貴様はクビだ!!）」の元ネタはビンス・マクマホンである。
「ビンスのYou are fireをパクった」とトランプも認めているし、この言葉を使うことについては両者のあいだでも合意しているという。そもそも両者はとても仲が良かったからだ。
「あのセリフは凄く気持ちいいね。ビンスの気持ちはよくわかる。経営者としてのビンスはああいう人間（＝ストーリー上のようなイカレたオーナー役）じゃないね。これをやったからといって自分の価値が下がることはないよ」
　はたして、トランプの言葉どおりになったのか？　詳しい内容は下の囲み記事を参照していただきたいが、試合はビンスが丸坊主になるという大団円で幕を閉じた。
　この試合の結果は、当日夜のスポーツニュースでも紹介された。

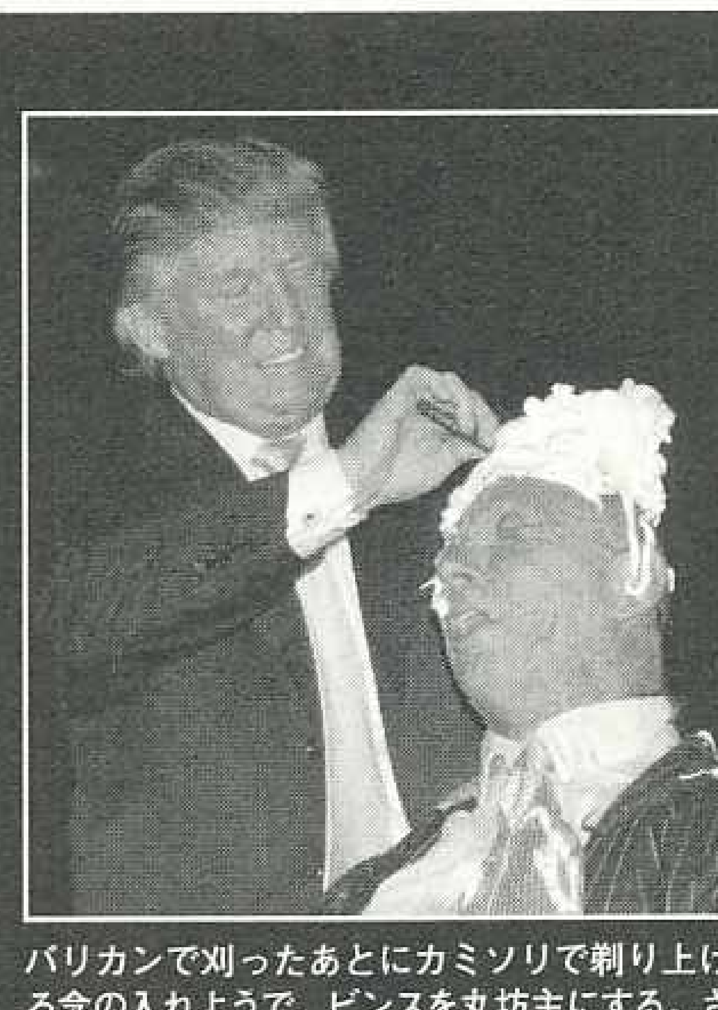


ビンスの息子シェインの乱入でフラストレーションを溜めた大富豪トランプが凄まじい勢いでリングサイドを走ってビンスにクローズライン!!　とんでもないほどの盛り上がりとなった。

「ビンス・マクマホンとドナルド・トランプが対戦して、結果はビンスが坊主になったそうです。フフフ（失笑）」
といった具合に、ほかのスポーツとは明らかに異なる軽いノリでサラッと紹介されただけだったそうだが、それはビンスとしても望むところだろう。普段、WWEがスポーツニュースで取り上げられることはないのだから。ここが「いまやUFCは4大メジャースポーツ（ベースボール、バスケット、アメリカンフットボール、アイスホッケー）と並んだ」と豪語してしまうダナ・ホワイトとの違いだろう。スキャンダルを利用して世間の耳目を集めてサバイブする手法をビンスは知り尽くしている。ちなみに、このあと現ECW王者のボビー・ラシュリーが負傷して長期欠場を余儀なくされると、約3週間後のPPV『BACKLASH』で丸坊主のビンスがベルトを奪取するという事態にも発展している。
　WWEの発表によると『WM23』は120万件（しかも料金は49・95ドルという高めの設定）というプロレス史上最多の契約件数を獲得した。普段はプロレスを観ない層までもが反応した結果の数字であろう。UFCでも、WWE自身であっても当分はこの記録を抜けないのではないか？　『WM23』の成功でWWEは「本気になればここまでできる」ということを証明してみせた。すでに対UFCの策も講じており、いままで『RAW』と『SMACKDOWN!』でブランド別に開催されてきたPPVも、今後はすべて合同開催になる。PPVの契約件数を稼ぐのにもっとも手っとり早い方法だろう。
　結局、ビンスを丸坊主にしたのはUFCの台頭だったのだが、結果的に丸もうけしたのもビンスだったということだ。

史上初、敗者髪切り億万長者対決が実現！

ドナルド・トランプが疑惑の毛髪を死守！



バリカンで刈ったあとにカミソリで剃り上げる念の入れようで、ビンスを丸坊主にする。さすが億万長者、抜かりがない。



主演映画が公開されたばかりのストーンコールドは、トランプと試合後に乾杯。このあと億万長者にスタナーを炸裂させた。

自己顕示欲の権化とも言える両者がそれぞれの代理人を立てて激突したこの試合。天井から本物の100ドル札を大量にばら撒きながら入場するというド派手な演出のトランプにはECW王者ボビー・ラシュリー、ビンスにはIC王者ウマガがつき、特別レフェリーがストーンコールド・スティーブ・オースチンという完璧な配役でゴング。レスラー同士の攻防は一進一退だが、やはりビンスが試合に介入。ストーンコールドにウマガが手を出すと息子シェインをレフェリーにして勝利を狙う。しかし、間一髪でストーンコールドが復活!!　シェインを叩き出す。場外ではトランプが「敵対的買収のような勢い」（by実況アナ）でビンスに襲いかかる。ストーンコールドのスタナーがウマガに決まったところにラシュリーのスピアーがバッチリと決まり、トランプ側が逆転勝利。ビンスはこっそり逃げようとするがラシュリーに捕まり、スタナーの餌食となり、イスにくくりつけられてバリカンで丸刈りにされたのだった。

やっぱりWWEがナンバーワン!!

SMACKDOWN!ナンバーワン・アナウンサー
FUNAKI



“SMACKDOWN!ナンバーワン・アナウンサー”FUNAKIこと船木勝一は今年でWWE在籍10年を迎える大ベテランだ。ひょっとしたら、いま全世界で最も名前の知られたプロレスラーかもしれない。WWEの持つ底力の凄さを皮膚感覚で体験している男・FUNAKIに「世界でナンバーワン」のWWEについて語ってもらった。

聞き手／坂井ノブ　撮影／平工幸雄

Profile

フナキ■1968年8月24日、東京都葛飾区出身。93年に藤原組長率いる藤原組でデビュー。バトラーツ～みちのくプロレスと渡り歩き、98年にKAIENTAIとしてディック東郷らとともにWWEへ。WWEクルーザー級タイトルを獲得するなど、確かなレスリング技術で実績を積み重ねてきた。『SMACKDOWN!』所属。各方面からナイスガイと絶賛されている。175cm、88kg。

UFC？ 確かに目に入る機会は増えた。でも、WWEの規模はどんな団体よりスゴイ

――ごぶさたしてます！『PRIDE』エグゼクティブルールディレクター・島田裕二さんとの対談（本誌77＆78号掲載）以来の登場です。

FUNAKI　ワァ～オ。

――創刊号にも出ていただいてるんですよね、バトラーツの大特集で（笑）。本誌もおかげさまで昨年12月で10周年です。

FUNAKI　そうなんですか。俺がWWEに入ったのが98年3月で今年がちょうど10回目の『WRESTLEMANIA（以下WM）』だったんですよね。こないだ『SMACKDOWN!』のメキシコツアーでバスに乗ったとき、ふと周りを見渡したら二番目の古株になってて驚きましたよ。

――もはや大ベテランじゃないですか（笑）。そんなFUNAKIさんから見て、今年の『WM23』はいかがでしたか？

FUNAKI　凄かったですね！

――スタジアム級の大会場でやったのもひさしぶりでしたよね。

FUNAKI　8万人のお客さんが入ったんですよ。あんなに大きな会場でやったのは『WM18』（シアトル・セーフコフィールド）以来でしょう。歓声が波のように押し寄せてくるんですよ（笑）。

――8万人を動員するっていうのはホントに凄いことですよね。

FUNAKI　マジで凄いでしょ？ ありえないですよ。僕も『WM14』で初めてWWEの大会場を体験したときはホントにド肝抜かれましたから。それまではみちのくプロレスで東北の地方会場ばっかり回ってたんで。

――それこそ100～300人規模の会場ばっかりだったわけですよね（笑）。

FUNAKI　そう（笑）。とにかくWWEの規模は、ほかのあらゆる団体と違うんですよ。だって、団体のオフィスにテレビの番組を編集するスタジオまで持ってるんですよ？ スタッフだって小道具さん、大道具さん、パイロ担当の人、作曲家の人、全部揃ってますから。

――凄すぎて実感が沸かないですけどね（笑）。とにかくWWEは自前ですべてをコントロールできる環境なんですね。ところで、アメリカでいまUFCが凄く盛り上がってますよね？

FUNAKI　テレビをつけててもいわゆるシュートファイトの試合が目に入ってくる機会が増えましたよ。UFCのPPVのCMが流れてますからね。ESPNってスポーツチャンネルでは『PRIDE』の試合映像が流れてるし。WWEの中にはシュートファイトが好きな選手もいますよ。

――凄く意外な感じがするんですけど、アンダーテイカーはシュートファイトが大好きみたいですね。

FUNAKI　しょっちゅう会場に行ってますよ（笑）。

――以前WWEを放送していたスパイクTV（注1）がいまUFCを放送してるんですよね？ UFCの大ブレイクとスパイクTVって何か関連はあるんですかね？

FUNAKI　そのへんの絡みはよくわからないですけど、そもそもWWEが大ブレイクした時期はスティーブ（注2）（＝ストーンコールド・スティーブ・オースチン）が

大人気でしたからね。あの人が一人で時代を築いた部分が大きいですね。
——今回の『WM23』ではビンス・マクマホン（注3）が丸坊主になりました（注4）。これも冷静に考えると凄い話ですよね（笑）。
FUNAKI　社長はね、人を喜ばせるのが大好きなんです。
——過去の『WM』でもビンスが試合をすることもありましたよね。今回、わざわざ丸坊主になったのは、あくまで推測ですけどUFCが台頭してきている中でWWEが本気になったときの底力を見せつけるという意味もあったのなかと思ったんですが。
FUNAKI　なるほど。そういう見方もできるでしょうね。俺は社長と一緒にドナルド・トランプ（注5）も丸坊主になるんじゃないかと予想してたんですけど（笑）。まあ、おもしろかったですよ。
——こういう試合があると世間的な広がりも出てきますよね。
FUNAKI　そう。普段はWWEを観ない人もテレビを観たり、会場に足を運んだりしますからね。そういうときのWWEは歓声から何から全然違いますよ。『WM』のような大会を経験すると、やっぱりWWEが世界ナンバーワンなんだろうなぁと思いますよね。

【07年4月20日／東京・ウェスティンホテルにて収録】

社長（ビンス）とトランプが試合をすることで普段プロレスを観てない人も観てくれる







フォーマルな装いで現れた3人のWWEスーパースターズは東京・芝の増上寺でDVD BOXセットの大ヒットを祈願する法要に参加した。神妙な面持ちで祈りを捧げる姿は、普段では絶対に見られない貴重な姿だ。

（注1）**【スパイクTV】** アメリカのケーブルテレビ局。日本とは違い、ケーブルテレビが普及しているアメリカでは大きな影響力を持っている。同局は成人男性向けのコンテンツが人気を博しており、UFCやプロレス団体TNAを放映している。

（注2）**【ストーンコールド・スティーブ・オースチン】** 90年代後半に登場した世界的スーパースター。リング上でビールをガブガブ飲み、中指を立て、汚い言葉で社長（ビンス・マクマホン）に立ち向かったことで大ブレイク。

（注3）**【ビンス・マクマホン】** WWEのトップ（チェアマン）に君臨するプロレス界最大のVIP。ストーリー上でも選手相手に横暴の限りを尽くす悪のオーナー役をこなしている。50代後半からリングに上がり、選手顔負けのハードバンプを取りまくり、選手に「私の尻にキスしろ」などとケツを突き出したりもする。カツラ疑惑もあったが今回晴れて丸坊主に。

（注4）**【丸坊主になりました】** 107ページ参照。

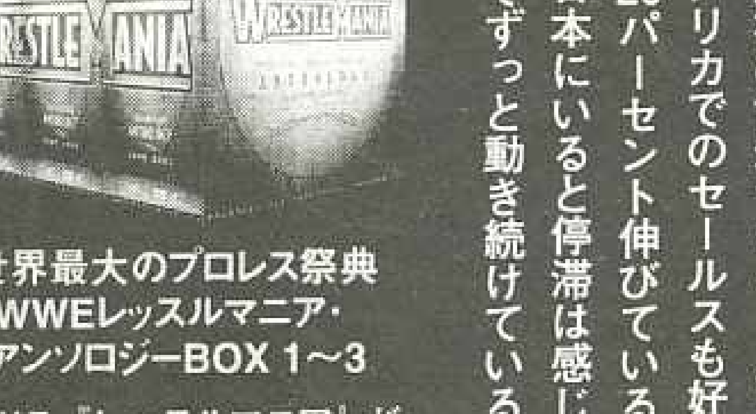
（注5）**【ドナルド・トランプ】** 不動産で財を成した大富豪。自分の名を冠した巨大ビルを持つ超VIP。自分のリアリティショーを持ち、番組ではトランプの下で働きたいと志願する若者に「You are fire!」とビンスばりに吠えまくる。知名度も絶大なだけに今回のビンスとの抗争はおおいに話題になった。

アメリカマット界の現状を直撃！
ジョエル・サティン
（WWE ホームエンタテインメント&出版 担当副社長）


FUNAKIらとともに来日したWWEのホームエンタテインメント&出版担当副社長ジョエル・サティン氏に話を聞いてみた。UFCの攻勢が伝えられるアメリカの現状、そして世界でのWWE人気の現状を聞いてみた。まず気になるのはUFCの影響だが？

「UFC？　確かに盛り上がっている。それは確かだろう。でも、WWEはチケットセールスも好調だし、PPVのセールスもいい。DVDも売れているよ（笑）。ケーブルテレビ局CWのレーティング（視聴率）でも常に上位にランクインしてるからね」と、まったく気にしていない。日本ではフジテレビでの放送がなくなってから、人気が一段落した感も否めないが……。「地上波放送がなくなったからといって、DVDのセールスが落ちているわけではない。この商品にはWWEが世界を席巻するようになるまでの21年間の歴史が詰まっているので、昔ながらのファンにもアピールするだろうね」と、こちらも意に介していない。つまり地上波テレビがなくとも、衛星放送で観ている層に向けて、そしてそれ以外の層に向けてDVDを売ることでファン層を開拓できるという自信があるのだ。現在はフランスやポルトガルといった非英語圏の新規市場を開拓する一方で、イギリス、マレーシア、シンガポール、日本という既存の市場でもセールスを増やしているという。アメリカでのセールスも好調で「DVDの売り上げは20パーセント伸びているよ」と笑顔を見せている。日本にいると停滞は感じるが、WWEは世界へ向けてずっと動き続けているのだ。



世界最大のプロレス祭典
WWEレッスルマニア・アンソロジーBOX 1〜3
WWE『レッスルマニア』がBOX1（11枚組）、BOX2（7枚組）、BOX3（13枚組）でそれぞれ絶賛発売中！
3000BOX限定生産で各22,050円（税込）。
発売元／ジェイ・スポーツ・ブロードキャスティング
販売元／東宝



SSIC”GUERRERO

ゲレロ

日本引退記念インタビュー

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄

越中ブームに“ケツの本家”が噛みついた!!

俺こそヒップアタックのオリジナル！ コシナカはフェイクだ!!



CHAVO“CLA

チャボ・

ヘイ、アミーゴ！　君はチャボ・ゲレロを知っているか？　70年代から80年代を中心にメキシコ、アメリカ、日本を股にかけて活躍した〝リビング・レジェンド〟であり、かつて藤波辰巳（現・辰爾）や大仁田厚とジュニアブームの原点となる戦慄の名勝負を展開した、気性荒めで陽気な昭和のルチャリブレ・マスターである。

グレイシー一族も顔負けの、伝統的なプロレス一家、ゲレロ・ファミリーの長男としても知られ、故エディ・ゲレロを弟に、WWEで活躍中のチャボ・ゲレロ（・ジュニア）を息子に持つ、〝チャボ・クラシック〟として、世界中のプロレスファンからリスペクトを集める男。

さらに現在、人気沸騰中の越中詩郎が必殺の〝ヒップアタック〟をパクった、〝元祖・ケツ野郎〟もチャボ・ゲレロなんだから、こいつは驚きだって!!

現在58歳、老いてますます盛んなチャボ・ゲレロだったが、この4月に盟友・藤波の主催する『無我』で日本引退ツアーを敢行！　4・11後楽園大会でのラストマッチで藤波と肌を合わせ、10カウントゴングを聞き、試合後ビール片手に興奮冷めやらないチャボをバックステージで直撃！　ヒップアタックの根源から、ゲレロ・ファミリーの伝統、そしてプロレスの未来まで、ご機嫌に語りつくしてくれた！　ビバ・ラ・ラッサ！

――チャボさん、はじめまして！　たったいま日本のラストマッチとしての大会が終わったばかりで恐縮ですが、いまのお気持ちはいかがですか？

チャボ　オ〜、アミーゴ！　今日はなかなかのグッド・マッチだったろ？（と親指を突き出して）。

――ええ。引退する58歳のレスラーとは思えない試合でしたよ！

チャボ　イヤ〜！　歳をくっちゃあいるけど、身体のほうもグッド・シェイプ、グッド・コンディションと万全だったからな。ところで、ビールを飲みながら話してもいいかい？

――もちろんです（笑）。

チャボ　（ビールをグビリとあおって）ハポン（日本）でのラストマッチにふさわしい、ファンの〝記憶〟に残る一夜になったんじゃないか？

――ファンも喜んだと思いますよ。しかも相手は往年のライバル、名勝負をくり広げた藤波さんですから、チャボさん自信も感慨深いんじゃないですか？

チャボ　イヤァ！　フジナミが相手でちょっと意気込みすぎたよ（笑）。かなりエキサイトしたし、最後はいくぶん感傷的になったかもしれないなぁ……（しみじみと）。

――なんといっても、序盤、握手をすると見せかけて、いきなりヒップアタックをぶちかましたのは最高でしたね（笑）。

チャボ　グラシアス！　今回はハポンのファンに俺のオリジナル・ヒップアタックを味わってもらいたかったんだ。

――いま、ちょうど日本でヒップアタックを得意とする選手がブレイクしてるんですけど、ご存知ですか？

チャボ　（ギロリと睨んで）コシナーカ・イズ・マイコピー!!

――あ、越中さんのことはご存知でしたか（笑）。いまや日本ではその越中さんが、ヒップアタックの第一人者として認められてるんですよ。

チャボ　ノー！　ノー！　ノー！　ヤツのヒップアタックはフェイクだ！（立ち上がって大興奮）。コシナーカはオールジャパン（全日本プロレス）で俺からあの技を盗んだ。でも、飛距離も角度も勢いも俺のほうがはるかに上！　俺から言わせりゃ、コシナーカのヒップアタックはプロとして恥ずかしいぞ！（キッパリ）。

――越中さんのヒップアタックはプロ失格！　そりゃあ、聞き捨てならないって!!　確かに越中選手はチャボさんとの対戦がきっかけでヒップアタックを使い出したみたいですけど……オリジナル・ヒップアタックはどのへんが違うんですか？

チャボ　（再び立ち上がって）いいか？

ヒップアタックはただ飛んで、ケツを当てるだけじゃない。空中でバーン！　とケツをひねってアタックするんだ！　わかるか？　相手に当たる直前にケツをひねってバーン！　だぞ。ほれ、バーン！（と身ぶり手ぶりで懸命に説明）。

——バーン！　とケツをひねるわけですね（笑）。

チャボ　そのとぉ〜〜り！　アイム・オリジナル！　俺のヒップアタックこそ、オンリー・ワンだ。（また立ち上がって）この〝事実〟だけは、ユーのマガジンによ〜く書いておいてくれよ。

——了解しました（笑）。ちなみに、その〝オリジナル〟ヒップアタックは、どんなきっかけで使うようになったんですか？

チャボ　よく聞いてくれた。この技は俺がドイツ遠征に行ったときに、地方のレスラーが使っていたんだ。それを自己流にアレンジして、ポピュラーにしたのが、何を隠そうこの俺なのさ。

——……ということは、チャボさんもそのドイツ人レスラーが使っていたのを〝コピー〟したんですね（笑）。

チャボ　ノォ〜〜〜ッ!!　ドイツ人が使っていたヘッポコ技をヒントにして、俺が素晴らしい技に作り上げたんだ！　俺こそがオリジナル!!　そこを間違えてもらったら困るぞ！

——了解しました（笑）。そんな偉大なチャボさんですが、プロレスラーのキャリアは何年になりますか？

チャボ　1971年にデビューしたから、キャリアは35年ってとこかな。最初はプロレス以外の仕事と兼業してたけど、75年からはフルタイムでレスラーだけをやっている。

——最初は、高校の教員もやられてみたいですけね。

チャボ　おお、よく知ってるな。ハイスクールでアマレスとアメリカンフットボールのコーチをやっていたし、スペイン語や世界史を教えていたこともある。

——チャボさんが世界史を！

チャボ　コーチするのも好きだったし、「教員になってもいい」という気持ちもあったんだけど、最終的に教師の資格は取れなかったし、それに俺にはもう一つ夢があったんだよ。

——それがプロレスラーの道ですか？

チャボ　イエス！　子どもの頃はみんな「スパイダーマンやスーパーマンになりたい」とヒーローに憧れるだろ？　でも俺の家は一つ屋根の下で、スーパーマンと暮らしているようなもんじゃないか（笑）。

——お父さんは伝説的なルチャドール（ゴリー・ゲレロ）ですもんね。

チャボ　だから、俺にとってレスラーになることは必然だったな。ただ、オヤジからは一度も「プロレスラーになれ」と言われたことはない。俺自信もいつの間にかレスラーになっていたんだ（笑）。ま、これぱかりはファミリーに流れる〝血〟の宿命みたいなもんだ。イッツ・デスティニー。

——息子さん（チャボ・ゲレロ・ジュニア）もWWEのスーパースターとして活躍されていますよね。

チャボ　ジュニアも俺が強制してレスラーにしたわけじゃない。自ら進んで、「レスラーになる」と言ってきたし、それどころか、いま俺には、4歳と7歳の孫がいるんだけど、彼らも「プロレスラーになりたい！」と言ってきかないんだ（笑）。

——小学校に入る前から、プロレスラー志望（笑）。

チャボ　イヤ〜。裸になって、そのへんを走り回ってるよ。寝ても覚めてもレスリング三昧、ルチャ三昧。……ヘイ、アミーゴ、普通の家のバックヤード（裏庭）にはプールとか、ブランコなんかがあるもんだろ？

——日本はともかく、アメリカの映画なんかを観ると普通はそうですね。

チャボ　ところがウチの庭にはな……リングがあるのさ（笑）。

——ハハハハ！　自宅の裏庭に、常設のリングをお持ちでしたか。

チャボ　彼らは子どもの頃からキャッチボールや砂遊びの代わりに、ロープワークをしているんだ（笑）。ジュニアやエディなんかも小さな頃から、そのリングでよく遊んでいたもんさ。

——まさにルチャの英才教育ですねぇ。

チャボ　だからジュニアやエディは小学生の頃から、そこらのプロレスラーよりはるかに素晴らしいレスリングを身につけていたよ（笑）。

——その実弟エディが2年前に亡くなってしまったのは（2005年11月13日、WWEの遠征先のアメリカ・ミネアポリスのホテルで急逝。死因は動脈硬化性疾患、享年38）ゲレロ家にとっても、つらい出来事だったでしょうね。

チャボ　（うつむいて）そうだな。エディの事件が起こってしまったことは、あまりにもつらい出来事だったけど……我々一家は敬虔なクリスチャンだし、エディの死は一族の問題として真摯に受けとめているよ。

——あの事件で、さらにゲレロ・ファミリーの結束は固まりましたか？

チャボ　ライフ・イズ・ゴーイング・オン。……一族の選手が亡くなっても、脈々と続くゲレロ・ファミリーのレスリング・ライフは途切れることはないし、エディのあとも一族の選手が続いていく。それによって彼が忘れられることはないんだ。

——エディの遺志を継いでいくわけですね。

チャボ　叔父と甥っ子の関係だったけど、兄弟のように仲の良かったジュニアもようやくショックから立ち直って頑張っているしな。

——ちなみに息子さんといえば、藤波さんの息子さんにはお会いになりました？

チャボ　オ〜！　フジナミの息子にも会ったし、お嬢さんとワイフにも本当によくしてもらったよ。ゲレロ一家に負けない、ハートウォーミングなファミリーじゃないか？

——藤波家はお風呂にも一緒に入っている仲良し家族ですからね（笑）。その藤波さんの息子さんもプロレスラー志望みたいなんですが、才能はありそうですか？

チャボ　ん？　……彼はゴルフの才能のほうがあるんじゃないか？

——チャボさん、ゴルフをやられてるのはお嬢さんなんですが……。

チャボ　ガッハッハ！　そうだったか。フジナミ・ジュニアもきっと父親の才能は受け継いでいるだろう。

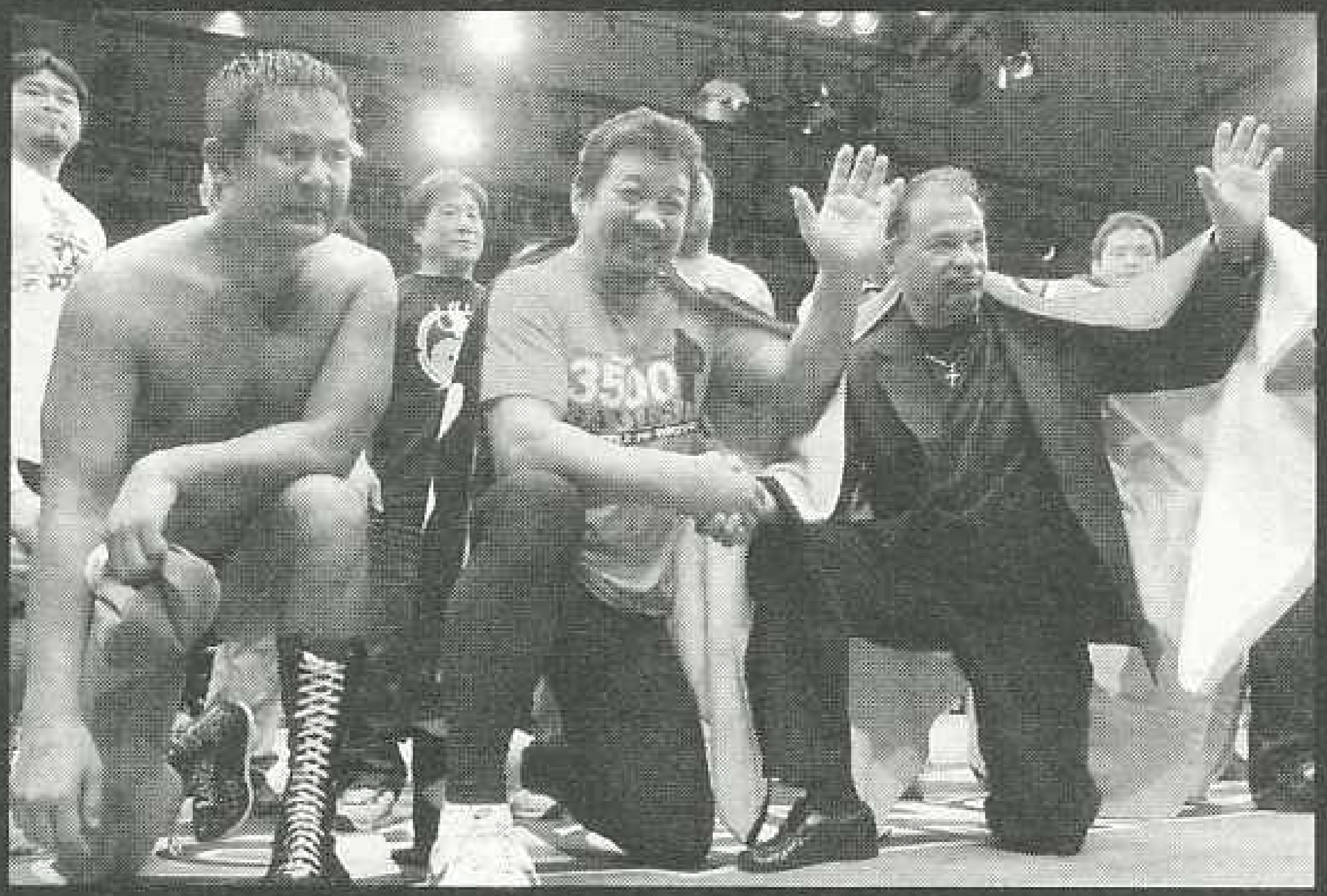
——ただ、藤波選手や奥さんの伽織さんはプロレスラーにはさせたくない、というか迷っているみたいなんです。

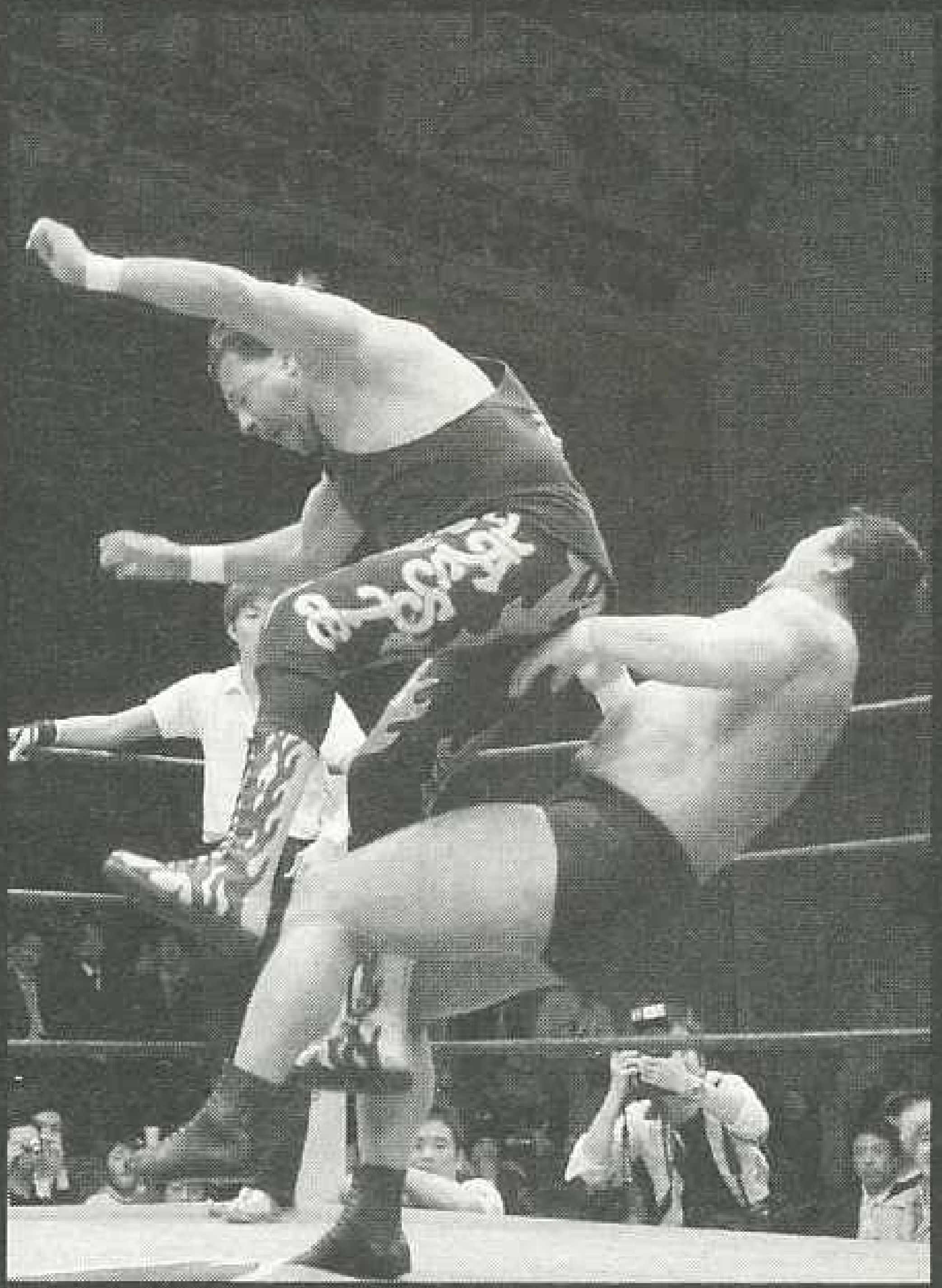
チャボ　その気持ちは痛いほどわかるよ。エディのこともあって、俺の孫たちの母親も「もうレスラーにはさせたくない」と言っているしな。ただ、フジナミのファミリーにもレスラーの〝血〟は流れているんだろう。親がどう思っていようが、それは彼の息子自身が決めることさ。

——なるほど。その藤波さんの『無我』という団体のツアーに参加してのご感想は？

チャボ　ベリー・グッド・プロモーション！　ニシムラみたいな、グッド・テクニシャンとも闘えたし、レスリングを理解してる観客に恵まれてる。なによりフジナミやほかのレスラーのファミリーが手助けして、大会の最初から最後まで一体となって自分たちでツアーを作ってるだろ？　これこそプロレスリング・ビジネスのベーシックなのさ。

——ほう、『無我』には、プロレスの原点を感じますか。





今年4月、無我ワールド・プロレスリングのツアーに参加したチャボは、4月11日の後楽園ホールで、日本引退試合として藤波辰爾と対戦。かつてのライバル相手にチャボは、いきなり得意のヒップアタックを繰り出すなど、大ハッスル。最後は逆さ押さえ込みで敗れたが、58歳とは思えぬ動きでオールドファンを喜ばせた。最後は選手全員で記念撮影。無我のリングには、こういった“かつての名優”がよく似合う！

俺も兄弟も息子もいつの間にかレスラーになっていた。これはファミリーに流れる“血”の宿命さ



チャボ・ゲレロといえば、この試合！ 78年10月20日、大阪寝屋川市体育館で藤波辰巳の持つWWWFジュニア王座に挑戦した一戦は、大流血に追い込まれた藤波が逆転のコブラツイストで勝利。チャボの日本での最高の試合であると同時に、藤波にとってもジュニアヘビー級時代最高の名勝負だった。

チャボ イヤ〜。プロレスというのはファミリー・ビジネスなんだ。それは小さなプロモーションだけでなく、ＷＷＥだってそうだろう？ 俺たちゲレロ・ファミリーも一緒さ。昔、オヤジはエルパソで興行を15年間くらい仕切っていたし、そこで我々兄弟は、リングや客席の作り方から、チケットのさばき方、プロモーションのやり方……何から何までやらされたもんだ。

——そんなチャボさんはリング上のレスリングについては、お父さんを始め、ルー・テーズやザ・ファンクスといったレジェンドからコーチを受けたそうですけど。

チャボ オヤジはもちろんのこと、多くのレジェンド・レスラーからコーチングされたよ。それはべつにジムで手取り足取り教わったというわけでなく、レスリングというのは、リング上での実戦から学び取っていくもんなんだ。そういう意味では、俺は誰よりも多くの名レスラーからコーチングされたと言っていい。ザ・ファンクスにハーリー・レイス、ニック・ボックウィンクル、ジャック・ブリスコ。ジャパンではフジナミ、イノーキ、ツルタにババ、そしてオーニタ……。レスリングそのものは、勉強すれば誰でもできるかもしれない。でも観客をコントロールし、対話することは実戦でしか学び取れないんだ。

——なるほど。そして、それこそがプロレスラーにとって大事なことなんでしょうね。では、いままで一番、学ぶところは多かった選手は誰ですか？

チャボ 昔、エルパソ（メキシコ）でザ・ファンクスと一緒になったけど、そのときには反対のコーナーからレスリングの奥深さをこってりと教えられたよ。ジャパンで一つ選ぶなら、やはりフジナミとの試合だろうな。

——藤波さんが大流血した（１９７８年10月20日）大阪の寝屋川市民体育館でのＷＷＷＦジュニアヘビー級選手権ですね。大仁田（厚）さんとの試合（１９８２年11月４日の全日本プロレス後楽園ホール大会のＮＷＡ認定インターナショナルジュニアヘビー級王座決定試合）のあと、トロフィーでめった刺しにしたシーンをよく覚えています。

チャボ ああ、あれね。ここ後楽園ホールでやったんだよ。いいスポットだったろ？ ガッハッハ！

——そんなチャボさんが考える一流のプロレスラーに必要不可欠なものってなんですか？

チャボ フフフ。俺のように、常にほかのレスラーとは違った、〝オリジナル〟であるということだろうな。そしてプロとしてコンディションをベストに保つこと。常にピーンとした緊張感を持っていなければダメさ。そしてガウンやローブ、身だしなみにも充分に気を払うこと。そして、観客にどうやって伝わりやすいプレゼンテーションをするか、どんな表情をするのかをよ〜く考えなきゃいかん。

——観客との対話こそが、最重要課題なんですね。

チャボ イエス。レスラーは優秀な〝俳優〟であり、〝エンターテイナー〟であること。観客のチケット代ぶん、エンジョイさせることがモスト・インポータント。勝ち負けなんてなぁ、どうでもいい！

（キッパリ）

——勝ち負けはどうでもいい！

チャボ そうさ。試合に勝ち続けても客を呼べないレスラーなんて、なんの価値もない。ファンは素晴らしいエンターテインメントを観て、またアリーナに足を運ぶんだからな。

——ただ残念ながら、いまの日本では総合格闘技（ＭＭＡ）に押されて、プロレスの人気が落ちているんですよ。

チャボ ＭＭＡ？ ベリー・シンプルさ。レスリングはＭＭＡの原点で、ずっと前からあるもの、古代ローマからずーっとある競技だろ。あのジュージュツなんてもんは、はるかにあとからできた、歴史の浅い文化なんだよ。

——レスラーは伝統あるレスリングにもっと自信を持てばいい、と。

チャボ イエス。ただ、アメリカでのプロレスはスポーツじゃなく、エンターテインメント路線が行きすぎたために、ＭＭＡに人気を持っていかれた。そういった意味での軌道修正は必要だろうな。ただ、いまの大衆が好むのはああいう〝セックス・アンド・バイオレンス〟の世界なんだろうという思いもある。

——その部分がエスカレートしている傾向はありますね。

チャボ （顔をしかめながら）ケージに入って殴り合って、やれ腕が折れたり、歯が折れたり、血を流したり、失神したり……そういう刺激ばかりの残酷ショーもいいかもしれない。ただ、そればっかりじゃ煮詰まっちまう。だからこそプロレスはＭＭＡと違って、一種の〝アート〟であるべきなんだ。

——スポーツ性よりも〝芸術性〟が重要ですか。

チャボ イエス。もっとファンタジーが必要だし、可能性があるジャンルなんだ。だから俺はどんなかたちであれ、今後もこの業界に関わっていこうと思っている。マッチメイカーかもしれないし、エキシビションに出るかもしれない。きっと今後のマイ・ライフもレスリング・ビジネスとともにあるだろう。

——プロレス業界から足を洗うつもりはさらさらない、と。

チャボ イヤァ！ 神様の思し召しだから、すべて思いどおりにしかないかもしれないがな。今回もハポンで俺を大事にしてくれて受けた恩を、きっちりとジャパンのファンに返したかったんだ。

——プロレス復興のためにもぜひ、チャボさんのお力を借りたいですね。

チャボ フフフフ。じゃあ俺が最後に一つ、景気のいい予言をしてやろうか？

——チャボさんが予言を？

チャボ プロレスのあとにＭＭＡが人気になったろう？ だが、俺が思うには、ＭＭＡブームの次に来るのは……ルチャリブレのムーブメントだ！

——なんと次世代のマット界は、ルチャリブレが制しますか！

チャボ イエス！ ルチャリブレのアートな側面が必ず評価される！ そしてルチャリブレがワールド・スタンダードになる日が来ると確信しているんだ。３０００人や４０００人なんてもんじゃない、何万人もアリーナに集められるようになるさ！ ガッハッハッハ！

——グラシアス！ 最後に明るい予言、ありがとうございました（笑）。

チャボ オーケー。またどこかで会おうじゃないか。俺は死ぬまでこの業界で生きていくだろうから、アミーゴたちがプロレスを見続ける限り、またきっと会えるさ。ビバ・ラ・ラッサ！

【07年4月11日／東京・後楽園ホール控室にて収録】

MMAブームの次に来るのは
ルチャリブレのムーブメントだ！



CHAVO GUERRERO■
1949年1月7日、米国テキサス州エルパソ出身。メキシコの大レスラー、ゴリー・ゲレロを父に持つゲレロ兄弟の長男（マンド、ヘクター、エディは実弟）。72年にプロレス入り。75年にロサンゼルス地区で大ブレイク。日本では新日本で藤波辰巳、全日本で大仁田厚のジュニアヘビー級時代のライバルとして活躍。近年はチャボ・クラシックとしてWWEのリングに上がっていた。181cm、105kg。

<RADICAL特選劇場>
読めばわかるさ! アントン列伝!!

no.54 猪木快守インタビュー



no.70 03年「猪木祭り」騒動記



●電機があれば、なんでもできる!! No.72では"永久電機フリーク"ジャン斉藤が、アントン実弟で、猪木事業のキーマン・猪木啓介氏を直撃! 電機話にアントン・ハイセル、『ジャングル・ファイト』の真実までが明らかに!!
●No.54ではアントン実兄、猪木快守氏を直撃! 猪木一族の家系図からブラジル移民時代にスポーツ平和党話まで。猪木家の破天荒な"血"を感じること、間違いなし! また快守氏の熱海市長選会見のゲノムな模様は『kamipro』No.102を確認せよ! (エンターブレインのHPで購入可能)。
● そして、いまやレジェンドと化した最狂イベント、03年『猪木祭り』騒動を追ったNo.70では「殺すぞコノヤロー!」「ルールを守れ!」など猪木語録炸裂の"百八つビンタ"セレモニー誌上再録など、驚異の大混乱ぶりを徹底検証!

no.72 猪木啓介インタビュー



"永久電機"から"アントン・ハイセル"まで
猪木事業伝説はRADICALで読める!!



電機ですかーッ!!
6・29 IGF旗揚げ待ったなし!

注 NO.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。
http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797
販売元 (株)ダブルクロス 平日 13:00~19:00

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERは すべて50%OFF

特集 神秘とは何か?
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!/遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!/K-1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16~87

格闘ノストラダムス!
no.16 780yen '99.03
[表紙:エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!/引退後初! 前田日明インタビュー/石川孝司

"新"プロレスとは何か?
no.32 840yen '00.10
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no.34 840yen '01.01
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ボブ&オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no.35 840yen '01.02
[表紙:サクマシン(イラスト)] ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 840yen '01.02
[表紙:橋本真也(イラスト)] ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言

小川直也は是か非か?
no.38 840yen '01.05
[表紙:髙田延彦(イラスト)] 忘れ物の正体は。髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no.39 840yen '01.06
[表紙:前田日明] 前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40 880yen '01.07
[表紙:アントニオ猪木] 蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

"最後の黒船"WWF来襲!!
no.41 880yen '01.08
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42 880yen '01.09
[表紙:アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/"ヒャッホーの真実" 辻よしなり/高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 880yen '01.10
[表紙:桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44 880yen '01.11
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45 880yen '01.12
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)] 悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46 880yen '02.01
[表紙:田村潔司] さらばリングス! 金原×和田、浅草キッド/ならず者DEEPで勝利! エル・カネック/キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 880yen '02.02
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] "天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

桜庭、満開の日は近い!
no.48 880yen '02.03
[表紙:桜庭和志] 奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 880yen '02.04
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田/菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 880yen '02.05
[表紙:桜庭和志]「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁!

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 880yen '02.06
[表紙:橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/「PRIDE」の魅力をマン開! 小池栄子/武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 880yen '02.07
[表紙:橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53 880yen '02.08
[表紙:桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久/独占肉弾スクープ! マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54 880yen '02.08
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] "首の皮一枚" ホイス&エリオグレイシー/ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55 880yen '02.10
[表紙:髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!/金原が「PRIDE」参戦!/メガトン級の男、ボブ・サップ!

驚ガクの6周年記念号
no.57 840yen '02.11
[表紙:高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる"U"が始動!! 田村/ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58 880yen '03.01
[表紙:武藤敬司&船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×髙阪/宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59 880yen '03.02
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60 880yen '03.03
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 880yen '03.04
[表紙:橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62 880yen '03.05
[表紙:ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場! 佐々木健介/現役復帰? 船木誠勝/ヒョードルが藤田を一刀両断!

マット界、超絶リボーン!!
no.63 880yen '03.06
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)]「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 900yen '03.07
[表紙:桜庭和志] "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65 880yen '03.08
[表紙:ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上! ヒョードル/ミルコついに皇帝戦へ/闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66 880yen '03.09
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー/マッハを破った男、長南亮登場!/『東スポとは何か?』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 880yen '03.10
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 880yen '03.11
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦/曙とは何者か!?/桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69 900yen '03.12
[表紙:橋本&小川] 出てこい! 泣き虫! 橋本&小川/『泣き虫』著者、金子達仁登場!/田村潔司/美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no.70 880yen '04.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告!/健介&北斗WJの真実を語る!/紙プロ大賞&語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71 880yen '04.02
[表紙:ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/川田利明初登場!/猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72 840yen '04.03
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73 880yen '04.04
[表紙:小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 880yen '04.05
[表紙:小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 880yen '04.06
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 880yen '04.07
[表紙:桜庭和志] 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77 880yen '04.08
[表紙:小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78 840yen '04.09
[表紙:小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79 840yen '04.09
[表紙:髙田総統] キャプテンに休息無し! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80 880yen '04.10
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー/ハッスルお家騒動、小川直也/「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 880yen '04.10
[表紙:桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82 890yen '04.12
[表紙:桜庭和志] "道場破り"の全てを激白! 安生洋二/WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no.83 880yen '05.01
[表紙:ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括/05年ハッスル大進撃発表! 小川直也/橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 880yen '05.02
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ] "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85 860yen '05.04
[表紙:前田日明&髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、高田/パンクラス2大王者対談 髙坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 860yen '05.04
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 860yen '05.05
[表紙:吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝×宇野薫/金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamiproHand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。 ※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

生き様に泣け。

闘いに震えろ。

69戦46勝（34KO）21敗2分——キックボクサー・小林聡の通算戦績である。全日本キックボクシング連盟を主戦場に、常にKO勝ちを追い求めた彼のファイト。その求心力はキックというジャンルを大きく超える範囲にまで届いた。

プロレスラーが憧れ、『PRIDE』関係者が惚れ込み、浅草キッドは「“ビート”の屋号をあげたい!」と最大級の賛辞を贈った。

勝利の7割以上がKOという破格の攻撃力。同時にトップファイターとしては敗戦数が目立つ。現役ムエタイ王者をKOすることもあれば、はるかに格下の若手に敗れることもある。小林ほど、試合における“感情の振り幅”が大きい選手はいなかった。

“もう終わっちゃったのかな?”、“まだ始まってもいねえよ!”。入場テーマ曲でもあった映画『キッズ・リターン』の名台詞そのものの格闘人生。常にたくましく、ふてぶてしく、己の流儀を貫き通した男につけられた異名は“野良犬”だった。だが……。

昨年11月、小林は突如として引退を表明する。誰にもその決意を明かさぬまま、彼は最後のリングに上がったのだった。不屈の闘志を持ち、どんな屈辱を味わっても復活してきた彼に引退を決意させたものとはなんだったのか——。

流浪の団体・ジム遍歴、敗北と復活、栄光と失意、ライバル、ムエタイ、譲れぬこだわり、そして引退。喜怒哀楽、あらゆる感情をむき出しにして15年の選手生活を駆け抜けた不世出のキックボクサーが、すべてを終えたいまだからこそ語る“野良犬の真実”!!

野良犬

キックボクサー 小林聡の軌跡

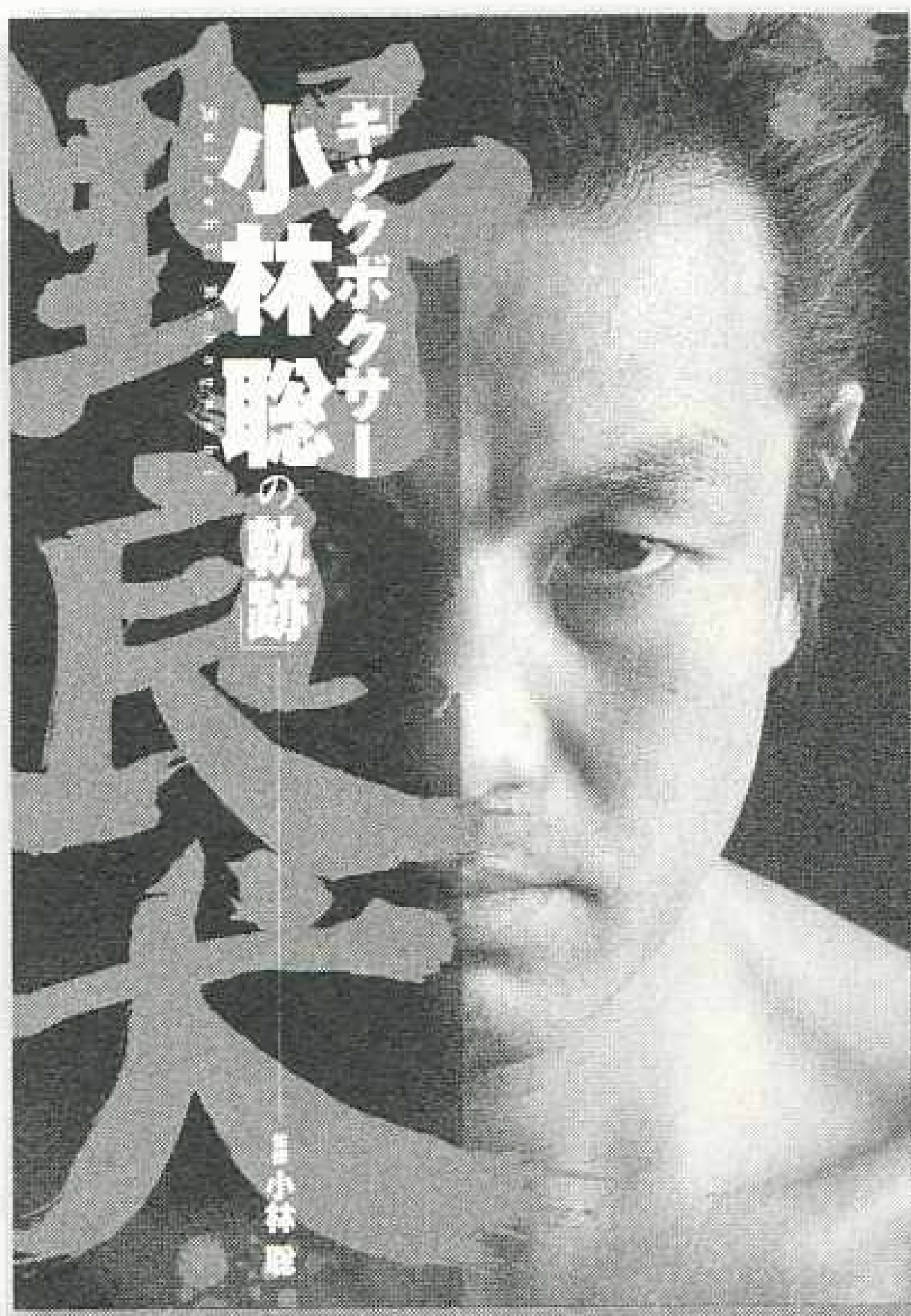
【15年の壮絶なる格闘人生、そのすべてを語る】

——監修／小林 聡

全国書店にて絶賛発売中!!

「簡単に言っちゃえば、キックしかやることがなかった〈中略〉他人のことを言い訳にしたくないし、他人に人生を振り回されたくないっていう。だから引退も、誰に何を言われようが自分で決めてやめてやるって思ったんですよ」

——本文より



B6変型判 304ページ　定価=1,680円（本体1,600円+税）

Contents

☆小林聡独占ロング・インタビュー

1.流浪

団体の分裂、倒産、失意の中で渡ったオランダ修行。そして一人ぼっちのフリー宣言……。流浪の格闘生活を、“野良犬”はいかに生き抜いたのか。

2.闘うということ

試合は常にKO狙い。「キ××イになるため」練習は一日7時間！ それでも拭えない、闘いの緊張と恐怖。観客を熱狂させ続けた男の勝負哲学とは？

3.屈辱

トップ選手でありながら、何度となく痛恨の敗北を味わってきた小林。あまりにも重い敗北の数々の陰にあった秘話が、初めて明かされる！

4.歓喜

「オレの試合には神が降りる」。小林は自らそう語る。本人でさえ予想せず、それゆえにファンをとりこにした劇的な勝利の原動力とはなんだったのか。

5.ムエタイ

立ち技格闘技の最高峰・ムエタイ。「刃物を持った相手と闘っているような」恐怖がつきまとうリングで、小林は至高の格闘ロマンを見出していく。

6.反骨

「気に入らねえんだよ！」。リングの中でも外でも吠え続けた“野良犬”。時代の流れに抗い、あくまで己の生き方を貫いた男の譲れぬ“流儀”に迫る。

7.引退

ムエタイ王者ジャルンチャイとの試合後、小林は突如、引退を表明する。身内にさえ明かさなかった悲壮な決意、ついにその真相が明らかに！

8.旅立ち

ジムの後輩と壮絶な打ち合いを演じた前代未聞の引退興行。小林がキック界に遺したかったものとは？ そしてこれから、“野良犬”はどこへ向かうのか……。

☆証言集“私が愛した小林聡”

師匠、キック関係者、選手、対戦相手etc.……。小林聡を見続け、愛し続けた者たちが語る“野良犬”への思い。

証言者=藤原敏男（藤原ジム会長）／関根勁／浅草キッド／武蔵／日高郁人ほか

☆Column／野良犬Best Bouts

格闘技の歴史に燦然と輝くムエタイ王者打倒の偉業からキック史上初の興行形式、痛烈な敗北、劇的な逆転KOまで。小林聡の闘いを語る際に欠かせない7試合を厳選！ 業界きっての“野良犬番”記者たちが、類稀なるファイターの魅力を解き明かす。

☆野良犬ウォッチャー39人の“送辞”

☆～愛さずにはいられない～ てらかわよしこの野良犬名言劇場

☆小林聡 公式戦全記録

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555 【通信販売のお問い合わせ先】http://www.enterbrain.co.jp/

新 卓球少女(似)松下ミワの

ハガキ愛ランド

「どんだけ～!」とIKKOさんに叫ばせるな!! ということで、いまや人気100パーセント爆発中のIKKOさんですが、そんなIKKOさんがもし幸楽ののれんをくぐったら……!! IKKOさん、気をつけて! それでは今号もハガキページ、スタートしましょー! 3、2、1、理不尽、理不尽、う～、得意技!!(久子)。

【静岡県・桜井靖浩さん・会社員・22歳】

⬇ファイトマネーといえば、2004年の『PRIDE GP』より、『PRIDE・34』のほうがお金がかかってたっていうのが凄い。これぞMMAバブルの兆候!

ロレンゾ・フェティータのインタビューを読んで安心した。本人の『PRIDE』に対する思いが聞けてよかったです。ヒョードル選手に関しても、「離れることはない」と言ってるので、新オーナーを信じたいと思います。

【福島県・紺野春樹さん・会社員・27歳】

⬇ロレンゾさんの年齢が本誌・松澤チョロの一つ上とは……。

谷川さんのインタビューがおもしろかったです。「なんで田村vsサクちゃんを見たがるかなあ～」とか、「ランディ・クートゥアーなんてぜんぜん興味がわかないよ～」とか、総合格闘技の中心にいるのに発言がシュートを飛び越えてる谷川さんはサイコーです。

【神奈川県・長瀬誠さん・契約社員・40歳】

⬇谷川さんといえば、いよいよ『Dynamite!! USA』が目前に迫っておりますが、"大笑い"のアメリカ進出は実現となるのでしょうか?



ザ・グレート・サスケのインタビューは酷だと思う! 選挙で敗戦した直後のインタビューなんて、サスケが悲しすぎると思います。

【千葉県・小瀬村博美さん・会社員・34歳】

⬇本当にそうですよね。

ボードッグの動向に注目していたので「怪物化してしまったヒョードル」は興味深く読ませていただきました。ヒョードルは本当にボードッグに登場してしまいましたが、今後はまた『PRIDE』に戻ってくるんでしょうか? それともまたボードッグですか? もしかしてUFCって可能性もあるんでしょうか?

【東京都・おじさん・会社員・15歳】

⬇ヒョードルの動向はよくわかりませんが、もしこのままヒョードルが『PRIDE』以外の団体に登場し続けることになると、ヘビー級のベルトっていったいどうなってしまうんでしょうか?

金原引退スペシャルの記事がよかったです! 金ちゃん本人のインタビューも和田さんの話もジーンとくるものがありました。近年はケガもあったけど、そうそうたるメンバーと対戦し、タフな試合を見せてくれた姿がもう見られなくなると思うと残念です。

【鹿児島県・友井川真理さん・会社員・33歳】

⬇今号のインタビューにも掲載されていますが、ぜひ最後の華を秋山成勲戦で咲かせてほしい!

kamipro110号へのお便り紹介

今回はひさしぶりに田村選手が表紙だったので『kamipro』を購入しました。インタビューの内容は相変わらずはっきりしない田村選手が素敵でした。レスラーは試合がおもしろければいいと思います。田村選手、ガンバレ! いつも応援しています!!

【宮城県県・奥山司さん・会社員・34歳】

⬇110号は田村選手に寄せられたハガキが多数! ちなみに、『kamipro』の取材の様子が田村さんのブログにアップされていましたが、読者の皆さんはご覧になりましたでしょうか?

110号は断然、榊原代表インタビューでした! 『PRIDE・34』で桜庭vsヴァンダレイ、桜庭vs田村を組もうとしていたことや、選手のファイトマネーの話が聞けたのでおもしろかったです。榊原さん、本当にお疲れさまでした!

デヴィ夫人が『kamipro』に登場するとは思わなかった。セレブ小川は本当にデヴィ夫人を見て、本物のセレブというものを勉強してほしいと思う。それにしても、スーパーセレブ図鑑に山口日昇さんが入るようになったのに驚いた!

【鳥取県・東田吉兵衛さん・94歳】

⬇私も早くスーパーセレブになりた～い!

「3年G組金沢先生」の武藤インタビューがおもしろかったです。リング上で3歩しか歩いてなくても走ってるように見えたり、アマチュア競技を極めてきたから格闘技に興味がなかったりと、武藤ワールドは奥が深いですねえ。

【兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳】

⬇私は、身体が故障しまくっている武藤敬司がどうしてプロレスをできるのか、いまだに疑問です。現場では「できちゃうんだよ!」で片づけられました。

越中詩郎×ケンドーコバヤシの対談が最高でした! 越中さんが妙にクローズアップされて、凄く乗せられてる感じが楽しくなってしまいました。

【香川県・高橋早苗さん・会社員・25歳】

⬇越中詩郎×ケンドーコバヤシのインタビューの様子はテレビ朝日『アメトーーク!』で放送されたのを皆さんご存知でしょうか? 聞き手の坂井ノブ、カメラマンの平工幸雄氏も全国デビュー!



エンターブレイン社長の浜村氏のインタビューがよかった。ゲーマーの僕としては、『ファミ通』の元編集長が『kamipro』発行元の社長だったことに気づき、凄く驚いた。ゲーム業界とマット界はつながっていたのかと思い、嬉しくなった!

110号・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	田村潔司
2位	榊原DSE代表
3位	金原弘光大特集
4位	越中詩郎×ケンドーコバヤシ
5位	佐藤大輔

110号の1位に輝いたのは、なんと表紙を飾った田村潔司でした。それだけ「PRIDE.34」の"サプライズ"に感激した読者が多かったということでしょうか!? その"サプライズ"を実現させた榊原DSE代表が2位に。おもわずジャケ買いしてしまいそうなCDの笑顔も素敵でした。3位は引退直前大特集を企画した金ちゃんページ。さらに、夢のご対面となった越中×ケンコバは4位に!

kamipro読者が考える PRIDE vs UFCに期待することとは?

●とにかくPRIDEファイターの大流出を避けてほしい。あとはミルコvsヒョードルに期待したいけど……、ミルコ負けちゃった!

(神奈川県・吉田圭太さん・学生・20歳)

●地上波で放送を!

(東京都・最上正光さん・会社員・32歳 ほか多数)

●あまり期待することはない。『PRIDE』はいまのままであってほしい。

(長野県・矢崎佳和さん・会社員・31歳)

●『PRIDE』がUFCに負けないこと。

(長崎県・前多料臣さん・健康指導員・34歳)

●ルールの一本化と日本のファンが喜ぶカードの提供(サクちゃんvsタムちゃんとか)。

(石川県・浅井清治さん・会社員・34歳 ほか)

●引き抜き合って、気がつけば全員が入れ替わっていた! とか。

(神奈川県・三塚貫治さん・自営業・33歳)

●PRIDE vs UFCにはプロレス的視点を失わないカードであってほしい。

(宮城県・内海秀昭さん・学芸員・24歳)

●言うちゃ悪いけど、やはり「WWEに買収されたWCWの末路」しかイメージできない……。

(神奈川県・長瀬誠さん・契約社員・40歳)

●個性を大事に、良い交流を。

(岩手県・千田進さん・自由業・36歳)

●UFCへのノゲイラ移籍には驚きました。もしかしたらUFCに統合されてしまうのでしょうか?

(兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳)

●力士に代表されるように、ファイターを憧れの対象として見る日本人と、賭けの対象として見る西洋人では根本的に違う。UFCとしては単に駒を手に入れただけではないのか!? と思っていたら、さっそくミルコが負けた!

(熊本県・斎藤豊さん・会社員・43歳)

●UFCファイターであるティム・シルビアやチャ

『ハガキ愛ランド』も〝ガバス方式〟始めましょうか。

【高知県・うずしおさん・看護士・25歳】

ソクジュのインタビューがおもしろかった！　キリンは〝100ヒョードル〟であることがわかり、あらためて勉強させてもらった。しかし、ソクジュがキリンと本当に闘ったのかどうか、僕はいまだに疑問に思っている。この男はその場のノリでとっさにおもしろいことを言ってるだけなのではないだろうか。そのあたりも『kamipro』で検証してほしいと思う。

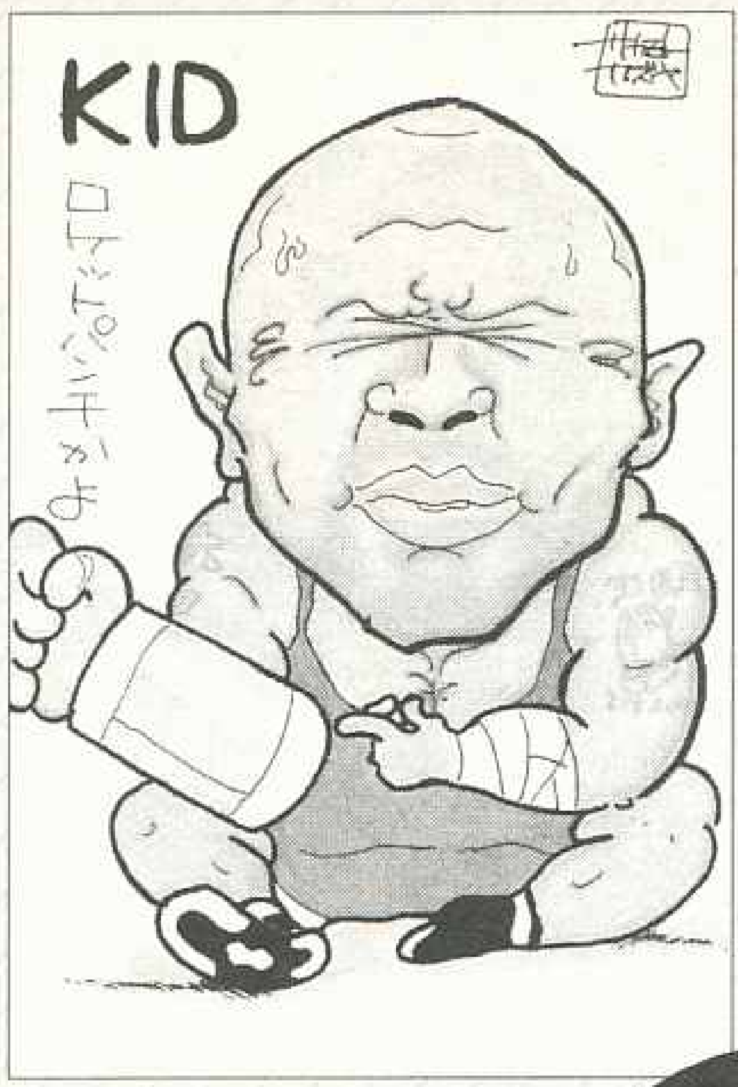
【神奈川県・上野キリンさん・中学生・13歳】

真面目なソクジュ分析、ありがとうございます



長野県・市川学さん

曙さんは『Dynamite!! USA』は見送りのようです。しかし、なぜいま曙のイラスト!?



東京都・サカモトカズヤさん

メカ仕様で闘えば、オリンピック出場確実!?　いますぐ、メカマミーに相談しよう！



東京都・進藤央司さん・高校生・15歳

『kamipro』初、ソクジュのイラストをありがとうございます。「小野田さ～ん！」と叫びたくなるようなヘアスタイル！



kamipro初！　メカが相談役に!!
メカマミーの人生相談

せーの、メカマミ～！　というわけで、今回はなんとメカ相談には珍しくマット界に関するお悩みが届いております。さっそく相談スタート！

メカはアメリカ進出しないのか

お悩みごと

■メカのアメリカ進出に関する問題
（富山県・本人ケンさん・25歳・♀）

はじめまして、メカマミーさん！　僕は最近『kamipro』を読んで、非常に世界的にMMAが盛り上がってるのを知ったのですが、翻ってメカ界の現状を考えてみると、〝世界進出〟という観点ではメカ界は非常に出遅れている感じがしてなりません。メカマミーさんはアメリカで木人ケンと闘った経緯はありますが、僕としてはその続きがほしいのです！　なんとかメカ界の復興に向けて世界規模での事件を起こしてほしいのですが、いかがでしょうか!?　ご返答、よろしくお願いします！

メカマミー

ナニー!?　メカ界が世界進出という観点では出遅れている感じがするだと!?　ブッブ～ッ、それは大きな間違いです！（なぜか丁寧に）。まあ、最近『kamipro』を買うようになって世界のMMA事情を知ったんならしょうがないな。私のほうから説明してやると、その〝MMA〟というのは、〝メガヒット・メカ・アライアンス〟の略。つまり、〝MMA〟というのは、モノ凄い人気のあるメカたちの集いみたいなものだ。わかったかい、本人ケンくん？　まあ、でも今度の6月にアメリカで『Dynamite!! USA』というビッグイベントが開催されるのは私も知っている。以前から『Dynamite!!』やK-1MAXへの参戦を表明していた私としても、キミが望むように、文字どおりダイナマイト級のインパクトを残したいと思っていた。しかし、このゴールデンウィーク中に、私の身にちょっとしたアクシデントが起こってしまったんだ。詳しく語るつもりはないが、中には『メカマミーが鼻血を出してる』だとか、『真琴！　メカ殺しのシャイニング・ウィザード出せ～!!』などとトンチンカンなことを言っている者もいたが、当然のように私はメカだ。だから、血なんて流れちゃいない。言うまでもなく、あれは赤いオイルだ。それに真琴のシャイニング・ウィザードなんかで死ぬわけがない！……でもさぁ、ゴールデンウィークも仕事ばっかだし、鼻からはオイルが漏れてくるし、いくらメカっつったって休みがほしいっての！（なぜか、ぶっちゃけトーク）。というわけで、『Dynamite!! USA』はスルーして、ちょっと遅めのGWを満喫しようと思う。名づけて『メカマミーのリフレッシュ休暇』だ。また来月！

※人生相談ドシドシ送ってください。メールでもハガキでも可。宛先は左記参照。メカマミーの近況＝リフレッシュ中です

スクープ！　ザ・目撃!!

●『PRIDE.34』の会場のホットスナック売場付近で、「まとめてー！」でおなじみの田中将人選手を発見しました。関係者らしき人と一緒にいたのですが、田中選手は「早く戻ってきてください！」とまた別のお連れの人に急かされているようなムードを漂わせており、ちょっと焦ってる様子でした。でも、プロレスラーはやっぱりカッコいい！
【埼玉県・PRIDEラストナイトさん】

●4月30日、UWAI STATIONの帰り道、後楽園の場外馬券売場ウインズでリッキー・マルビンとジャイアント・バーナードが談笑しているところを目撃しました。とても楽しそうでした。しかし、二人はUWAI STATIONを観戦したのでしょうか……。
【桃テツさん（kamipro Hand投稿）】

●表参道で自転車に乗っている窪田幸生を発見しました。じつは僕も自転車に乗っていたのですが、坂道を走る途中で窪田さんを追い抜きました。　【神奈川県・バイセくるくるさん・30歳】

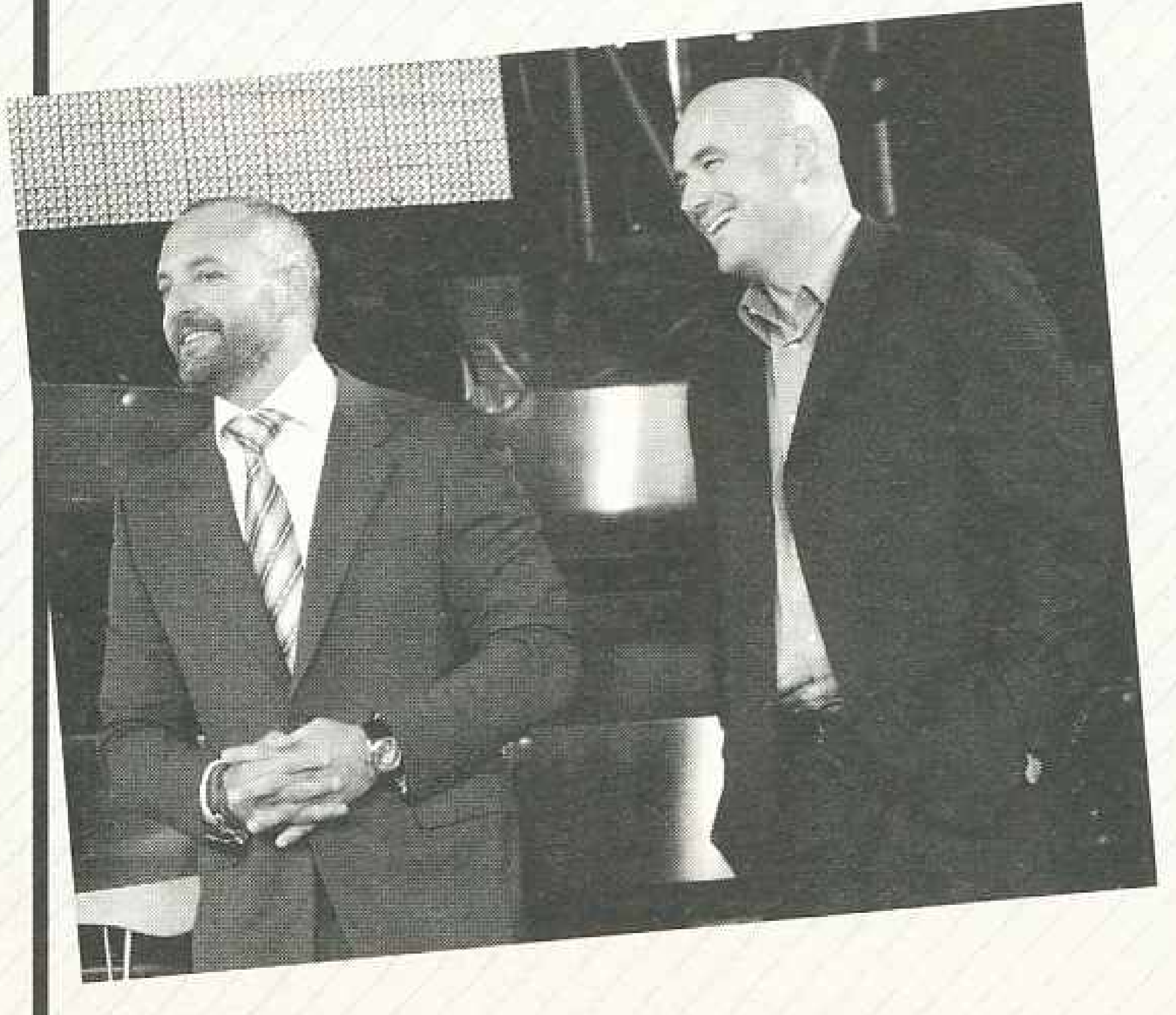


●4月19日、ハッスル・ハウスvol.23開場時ホール1Fにて、見たことのある細い目とスキンヘッドの男が……。そう！　ジョー・サンです!!　ジョー・サンはなぜかDSE関係者さんに深々とおじぎをしていました。また、始まってからは目の前の席にアントキの猪木さんを発見！　二人ともリングに上がるのかなと思っていたのですが、残念ながらそれはありませんでした。もしかして、5月シリーズではあるのかな?
【神奈川県・大内和彦さん】

●先日、原宿付近でK-1ファイターのヤン・"ザ・ジャイアント"・ノルキヤ選手をみつけました！　道路の向こう側だったので近くで見ることはできなかったのですが、あのデカさは間違いありません。当然ながら、テレビよりもデカく見えました。さすが"谷川モンスター軍"!!
【東京都・神宮球場さん】

ック・リデルにガンガン活躍してほしい。『PRIDE』より劣ると思われている部分を覆してほしい。
（三重県・カプリコンさん・会社員・33歳）

●『PRIDE』は時には涙を流しながら観るときがあります。UFCはビデオに録画し、早送りで観ています。U系の選手に頑張ってほしいです。
（宮城県・奥山司さん・会社員・34歳）



おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！　ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！　お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先＆メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス　kamipro編集部
「全額25円」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

Fight & Event May 5

22 TUE.

◆新日本／広島・グリーンアリーナ小アリーナ（19:00）
◆NOAH／宮城・ZeppSendai（19:00）

23 WED.

◆全日本／愛媛・アイテムえひめ（18:30）
◆DDT／東京・新木場1st RING（19:30）

24 THU.

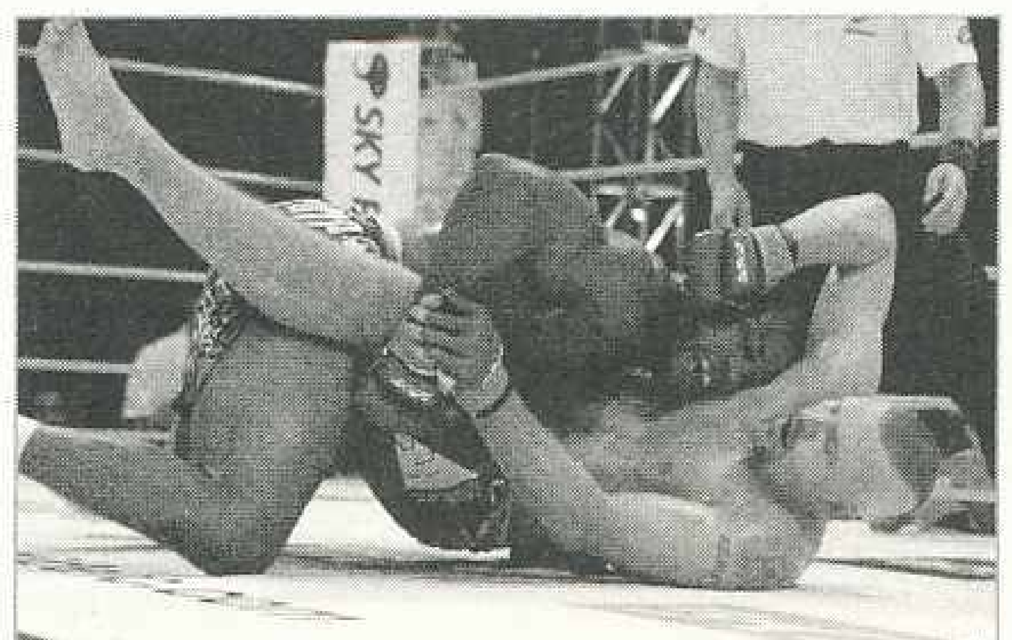
◆全日本／高知・ウェル高知（18:30）
◆NOAH／青森・青森産業会館（18:30）
◆横浜プロレス／神奈川・横浜にぎわい座（19:00）

25 FRI.

◆全日本／大阪・大阪府立体育会館第2（18:30）
◆シュートボクシング／東京・後楽園ホール（18:00）

26 SAT.

チャック・リデルvsランペイジ・ジャクソン、約4年ぶり！ 因縁の再戦がついに決定



『UFC.71』
米国・ラスベガス州、MGMグランド・ガーデンアリーナ

決定対戦カード
【UFCライトヘビー級タイトルマッチ】
チャック・リデル vs クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン

◆みちのく／東京・新宿FACE（19:00）
◆DRAGON GATE／福岡・久留米リサーチパーク（18:00）
◆大阪プロレス／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆K-DOJO／愛知・ワンダーシティ・イベントホール（18:30）
◆ZERO1-MAX／宮城・栗原氏築館運動公園総合体育館（18:30）
◆アパッチプロレス／東京・新木場1st RING（19:00）
◆橋本友彦プロデュース興行／岐阜・CLUB-G（18:00）

27 SUN.

◆全日本／神戸サンボーホール（16:00）
◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール（18:30）
◆SUN／東京・後楽園ホール（12:00）
◆NOAH／北海道・函館市民体育館（17:00）
◆GCM／東京・ディファ有明（14:00）
◆DRAGON GATE／山口・シーモール下関シーモールホール（17:00）
◆DDT／新潟フェイズ（18:00）
◆K-DOJO／大阪・デルフィンアリーナ（12:00）
◆大阪プロレス／大阪・デルフィンアリーナ（17:00）
◆K-グレイス／東京・ディファ有明（18:30）

28 MON.

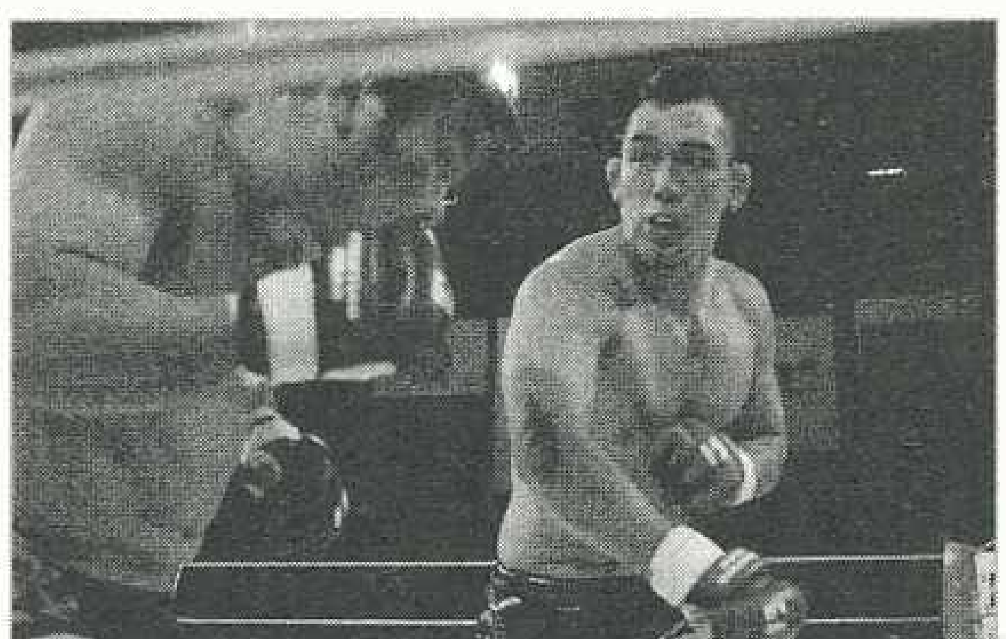
◆全日本／岡山・山陽ハイツ体育館（18:30）
◆大日本／東京・後楽園ホール（19:00）
◆WWS／群馬・伊勢崎第二市民体育館（18:30）

29 TUE.

◆NOAH／北海道・帯広市総合体育館（18:30）
◆全日本／広島・広島県立総合体育館小体育館（18:30）
◆NEO／北海道・函館市民体育館（18:30）

30 WED.

金原弘光を倒したパンクラス・川村亮が対シュートボクセ第3戦に挑む!!



『パンクラス』
東京・後楽園ホール（19:00）

決定対戦カード
川村亮 vs ファビオ・シウバ
【ヘビー級キング・オブ・パンクラスタイトルマッチ】
アルボーシャス・タイガー vs 水野竜也
◎問＝パンクラス 03-5792-0815

◆ユニオン／東京・新木場1st RING（19:30）
◆NEO／北海道・旭川大成市民センター体育館（18:30）

31 THU.

◆NOAH／北海道・旭川地場産業振興センター（18:30）
◆ソウルコネクション／東京・新宿FACE（19:00）
◆K-DOJO／長野・めいてつショーホール（18:30）
◆NEO／北海道・ゆうばり文化スポーツセンター（18:30）

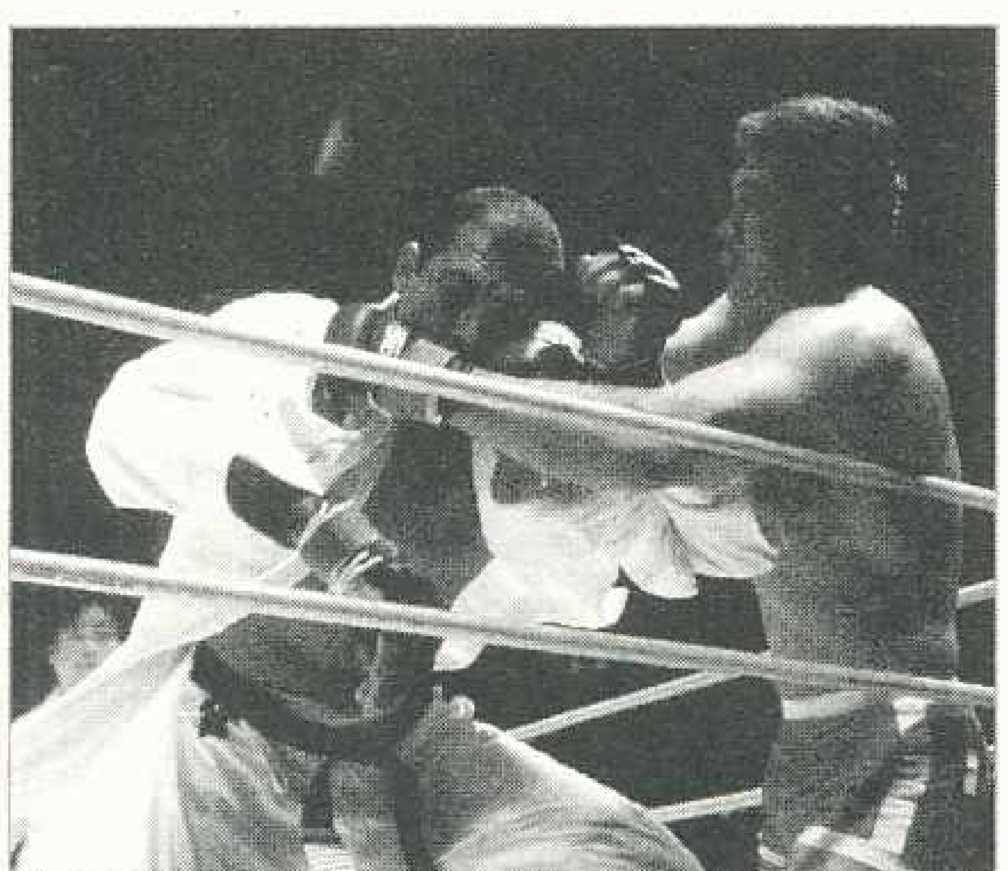
Fight & Event June 6

1 FRI.

◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆NEO／北海道・札幌テイセンホール（18:30）

2 SAT.

伝説の続きを再び！ 桜庭和志vsホイス・グレイシー決定!!



『Dynamite!! USA』
米国・ロサンゼルス、メモリアル・コロシアム

決定対戦カード
桜庭和志 vs ホイス・グレイシー
ブロック・レスナー vs チェ・ホンマン
ブラッド・ピケット vs 所英男
マイティー・モー vs チェ・ムベ　ほか

◆新日本／埼玉・草加市スポーツ健康都市記念体育館（18:30）
◆修斗／東京・新宿FACE（18:00）
◆DRAGON GATE／静岡・アクトシティ浜松（18:30）
◆大阪プロレス／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆夢名塾プロモーション／東京・西調布格闘技アリーナ（18:30）
◆NEO／北海道・小樽市民体育館（18:00）

3 SUN.

◆新日本／群馬・館林市民体育館（16:00）
◆DDT／東京・後楽園ホール（12:00）
◆DRAGON GATE／埼玉・桂スタジオ（17:00）
◆健介オフィス／埼玉・健介オフィス道場（13:00）
◆NOAH／北海道・北海道立総合センター・きたえーる（17:00）
◆K-DOJO／千葉・南房総市富山ふれあいスポーツセンター（13:00）

◆DEEP in YAMAGATA／山形・三川町民体育館（15:00）
◆北都プロレス／北海道・札幌クラップスホール（14:00）

25 MON.

◆北都プロレス／北海道・上砂川町ふるさと交流プラザ（18:00）

26 TUE.

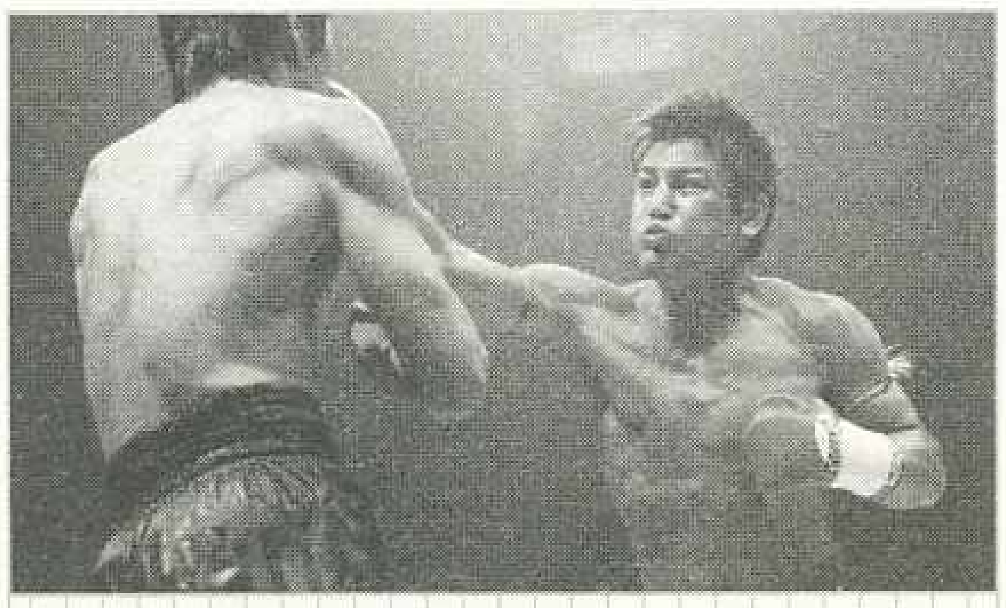
◆全日本／茨城・牛久運動公園体育館（18:30）
◆大日本／東京・後楽園ホール（19:00）

27 WED.

◆全日本／山形・米沢市営体育館（18:30）
◆T-1グランプリ／東京・新宿FACE（19:39）

28 THU.

魔裟斗の相手はJ.Z.カルバンに決定!
はたして開幕戦を勝ち抜くのは!?



『K-1 WORLD MAX 2007 ～世界トーナメント開幕戦～』
東京・日本武道館（18:00）

決定対戦カード
魔裟斗 vs J.Z.カルバン　ほか

チケット情報
SRS=23000円、SS=14000円、
魔裟斗応援シート=14000円、
S=10000円、A=6000円
◎問=FEG 03-3796-5060

◆全日本／山形・酒田市営体育館（18:30）
◆IWA／茨城・カシマスポーツセンター（18:00）

29 FRI.

ジョシュ・バーネット参戦決定!!
衝撃の旗揚げ戦を見逃すな!!



『IGF 旗揚げ大会』
東京・両国国技館（18:30）

出場予定選手
ジョシュ・バーネット、カート・アングル　ほか

チケット情報
砂かぶり=（売り切れ）、特別リングサイド=10000円、
リングサイド=7000円、1F指定=5000円、
2F特別=6000円、2F指定=3000円
◎問=IGF 03-5159-3380

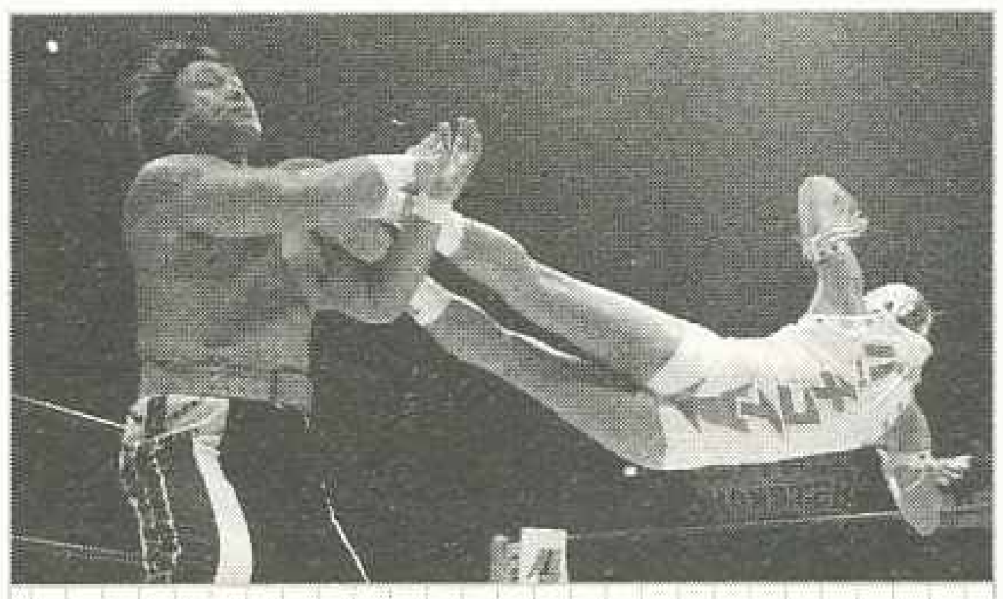
◆全日本／新潟・新潟市体育館（18:30）
◆アイスリボン／東京・市谷アイスボックス（19:30）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

◆大阪プロレス／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆UFC72／イギリス・オデッセイアリーナ
◆Club DEEP／東京・新宿FACE（13:00）
◆おやじDEEP／東京・新宿FACE（18:30）

17 SUN.

HGが天龍源一郎とシングル対決!
坂田亘とセレブ小川の一騎討ちも決定ッ!!



『ハッスル・エイド2007』
埼玉・さいたまスーパーアリーナ（16:00）

決定対戦カード
HG vs 天龍源一郎
坂田亘 vs セレブ小川

出場予定選手
川田利明、TAJIRI、ファイアーモンスターACHICHI、崔領二、KUSHIDA、＼(^o^)／チエ　ほか

チケット情報
ハッスルVIP（特典つき）=20000円、
RRS=12000円、スタンドS=8000円、
スタンドA=6000円、スタンドB=4000円
◎問=ハッスルエンターテインメント 03-5464-1531

◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆DEEP X／東京・新宿FACE（18:30）
◆みちのく／宮城・仙台港国際ビジネスサポートセンター・アクセル（14:00）
◆DRAGON GATE／岡山・山陽ハイツ体育館（17:00）
◆大阪プロレス／東京・新宿FACE（12:30）
◆R.I.S.E.／東京・ディファ有明（16:30）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:30&15:00）
◆フーテン・プロモーション／神奈川・ラゾーナ川崎プラザソル（17:00）
◆東海プロレス／愛知・日本ガイシスポーツプラザ第3競技場（13:00）
◆格闘美／東京・新木場1stRING（13:00）
◆アイスリボン／東京・市谷アイスボックス（14:00&17:00）

20 WED.

◆大日本／愛知・名古屋市体育館（18:30）
◆DDT／東京・新木場1stRING（19:30）

22 FRI.

◆DRAGON GATE／埼玉・所沢市民体育館（18:30）
◆ソウル・コネクション／東京・新宿FACE（19:00）
◆アイスリボン／東京・市谷アイスボックス（19:30）

23 SAT.

◆みちのく／東京・新宿FACE（19:00）
◆DRAGON GATE／静岡・清水マリンビル（18:00）
◆大阪プロレス／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆JWP／東京・板橋区立グリーンホール（19:00）
◆The Ultimate Fighter 5 Final／アメリカ・パームス・ア・マルーフ・カジノリゾート

24 SUN.

◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆DRAGON GATE／愛知・津島市文化会館大ホール（17:00）
◆大阪プロレス／大阪・IMPホール（15:00）
◆無我ワールド／長野・東御市ふれあい体育館（18:30）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:30&15:00）
◆アパッチプロレス／東京・後楽園ホール（18:30）
◆息吹／東京・新木場1stRING（13:00&17:00）
◆極悪同盟自主興行／東京・新宿FACE（昼予定）

◆下町プロレス／東京・浅草インディーズアリーナ（15:00）
◆NEO／北海道・伊達市体育館（14:00）
◆J-NETWORK／東京・後楽園ホール（17:30）
◆格闘美／東京・新木場1stRING（13:00）

5 TUE.

◆T-1／東京・新木場1st RING（19:39）
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）
◆NEO／北海道・釧路市観光国際交流センター（18:30）

6 WED.

◆新北京プロレス／東京・新木場1stRING（19:00）
◆NEO／北海道・帯広市総合体育館（18:30）

7 THU.

◆NOAH／東京・後楽園ホール（19:00）
◆K-DOJO／東京・新宿FACE（19:00）
◆NEO／北海道・北見市立体育センター（18:30）

8 FRI.

◆新日本／大阪・大阪府立体育館第2競技場（18:30）
◆リアルジャパン／東京・後楽園ホール（18:30）
◆El Dorado／東京・新宿FACE（19:00）
◆NOAH／神奈川・横浜文化体育館（18:30）
◆RING／東京・渋谷O-EAST（19:00）
◆NEO／北海道・稚内市体育館（18:30）
◆アイスリボン／東京・市谷アイスボックス（19:30）

9 SAT.

◆新日本／香川・高松市総合体育館（18:00）
◆DRAGON GATE／広島・広島県立ふくやま産業交流館（18:30）
◆大阪プロレス／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆NEO／北海道・倶知安町総合体育館（18:00）
◆全日本キック／東京／新宿FACE（18:30）

10 SUN.

◆新日本／兵庫・明石市立産業交流センター（16:00）
◆ZST／東京・ディファ有明（17:30）
◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆DRAGON GATE／福岡・博多スターレーン（16:00）
◆DDT／富山・イベントプラザ富山（13:00）
◆大阪プロレス／大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
◆ハッスル／青森・青森県営スケート場（16:00）
◆アパッチプロレス／東京・新木場1stRING（18:00）
◆OZアカデミー興行／東京・新宿FACE（12:30）
◆全日本キック／東京／新宿FACE（18:30）
◆格闘美／東京・新木場1stRING（13:00）
◆Club DEEP／愛知・Zepp Nagoya（16:00）

12 TUE.

◆新日本／福井・福井市体育館（18:30）
◆DRAGON GATE／熊本・興南会館（18:30）

13 WED.

◆DRAGON GATE／山口・宇部市俵田翁記念体育館（18:30）
◆DDT／東京・新木場1stRING（19:30）

14 THU.

◆新日本／徳島・阿南市スポーツ総合センター（18:30）
◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE（19:00）
◆ハッスル／東京・後楽園ホール（19:00）

15 FRI.

◆新日本／和歌山・ガーデンホテルハナヨ・ハナヨアリーナ（18:30）
◆DRAGON GATE／愛媛・テクスポート今治（18:30）
◆横浜プロレス／神奈川・横浜にぎわい座（19:00）

16 SAT.

◆新日本／京都・京都市体育館（18:30）
◆みちのく／岩手・矢巾町総合体育館（18:30）
◆DRAGON GATE／大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:30）

団体INDEX（50音順及び アルファベット順）

吉田道場が海に進出!! 『VIVA JUDO!』が今年も夏合宿を開催!



夏合宿もできるかな？ 吉田秀彦の吉田道場が主催する小学生向け柔道教室『VIVA JUDO!』の夏合宿が、今年も7月24日（火）〜26日（木）の日程で開催決定ッ！ 昨年の山から、今年は海（茨城・鹿島）に移しての開催となるが、吉田、瀧本誠、中村和裕らの講師陣が直接指導！ 対象は小学生のみだが、バーベキュー、キャンプファイヤーなどイベントも満載！ お子さんをお持ちのPRIDEファンは要注目だ。

★定員／120名（先着順） ★参加費用／39,800円（交通費・食事代含む）
★ジェイロック／03-5485-5555

教師役に鳥肌立った!? 髙田延彦が映画に出演!! 『きみにしか聞こえない』


©2007『きみにしか聞こえない』製作委員会

教師姿、観に来いや〜！ 映画『シムソンズ』に続いて髙田本部長がスクリーンに登場！ この映画は人気作家・乙一の作品を映画化したスローラブストーリー。内気な女子高生リョウは、公園で拾った携帯電話で見知らぬ青年シンヤと知り合い、うちとけてゆく。髙田は主人公で注目の若手女優、成海璃子の国語の先生役として出演。教壇に立つ本部長の勇姿を見届けよう！

★6月16日より池袋シネマサンシャインほかで全国ロードショー

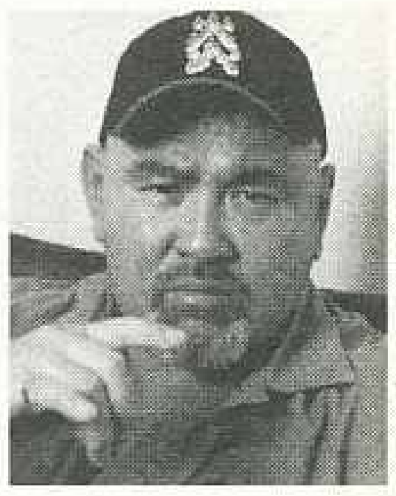
佐山総監が"青い虎"を送り込む! リアルジャパンに"2匹目の虎"が誕生!!



おまえも虎になれ！ リアルジャパンプロレスが、6月8日の後楽園で旗揚げ2周年興行開催！ この大会では2代目スーパータイガーに続く、"2匹目の虎"タイガー・シャークのデビューが決定！ "青い虎"マスクのシャークは折原昌夫とのタッグで、2代目スーパータイガー組と激突する。メインでは初代タイガーマスクが川田利明とタッグでの初対決も決定するなど、2周年興行にふさわしい豪華ラインナップに要注目だ！

★開催日時／6月8日（土）17:00開始
★会場／東京・後楽園ホール ★問／KIAI PROJECT 03-5778-4995

6月10日は"武藤の日"!! 全日本プロレスが『武藤祭り』開催!



全日本プロレスは6月10日を"武藤の日"と定め、今年は後楽園ホールで『武藤祭り』を開催！ 当日は武藤とタレントの神奈月ら、武藤のそっくりさん8人による"武藤だらけの時間差式バトルロイヤル"を予定。だが、人数が足らず「似ているレスラーは来てくれ！」とそっくりさんを募集中。また"武藤"の名字のファンに、武藤サイン入りTシャツをプレゼント！ （要証明書）など武藤三昧の大会になる！

★開催日時／6月10日（日）12:00開始
★会場／東京・後楽園ホール ★問／全日本プロレス 03-5778-4995

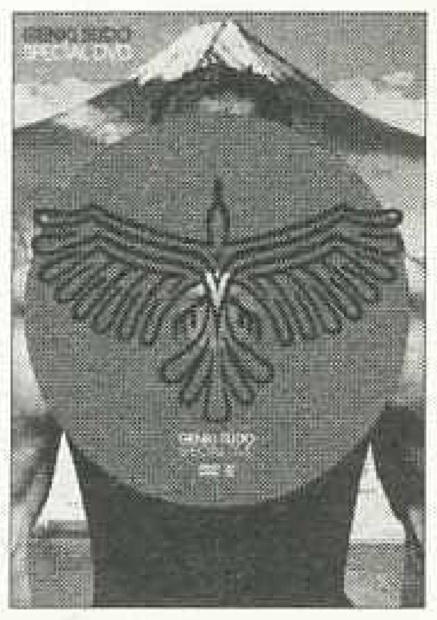
大晦日やめらんねぇ! 『PRIDE男祭り2006』完全版DVD発売!



壮大なゴスペルのオープニングからミノワマン誕生、"ワル五味"と化した五味隆典の番長モードっぷりや、吉田秀彦にまさかのアップセットを起こしたジェームス・トンプソンの勇姿、ジョシュはノゲイラにデスバレーボム炸裂！ ハントがヒョードルを追い詰めまくったヘビー級タイトル戦まで。昨年大晦日の『PRIDE 男祭り 2006 -FUMETSU-』大会をDVD化。全試合ノーカット収録の完全保存版が登場だ！

★『PRIDE男祭り2006』（ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン）5,040円（税込） 発売中
★HP http://www.universalpictures.jp/

宇野薫とのシークレットマッチ収録! 須藤元気がDVD監修! 『GENKI SUDO』登場!



昨年大晦日の『Dynamite!!』で、突如引退を表明した須藤元気が、沈黙を破って自身のDVDを発売！ なんと企画立ち上げから編集まで、須藤本人が監修！ 格闘家の顔はもちろん、歌手や俳優などタレント業、執筆などマルチな活躍の様子から、宇野薫とのシークレットスペシャルマッチにアメリカでのサブミッションレスリング映像まで、このDVDでしか目撃できないお宝コンテンツを徹底収録!!

★『GENKI SUDO』（TCエンタテインメント）5,250円（税込） 6月6日発売

大喜利大会にバッファローマン!! 『マッスルヒストリーvol.6』DVD発売!



先日の『マッスル・ハウスvol.4』も盛況に終わった『マッスル』が07年1月の『マッスル・ハウスvol.3』を収録したDVDを発売！ 『笑点』のパロディ、『頂点』で大喜利を導入！ 寝正月でバッファローマンと化した坂井が大暴走など、破天荒な展開を完全網羅！ また、満載の特典映像には『kamipro Hand』のバレンタイン企画で坂井と手作りチョコレートを作る本誌・松澤チョロもなぜか出演！

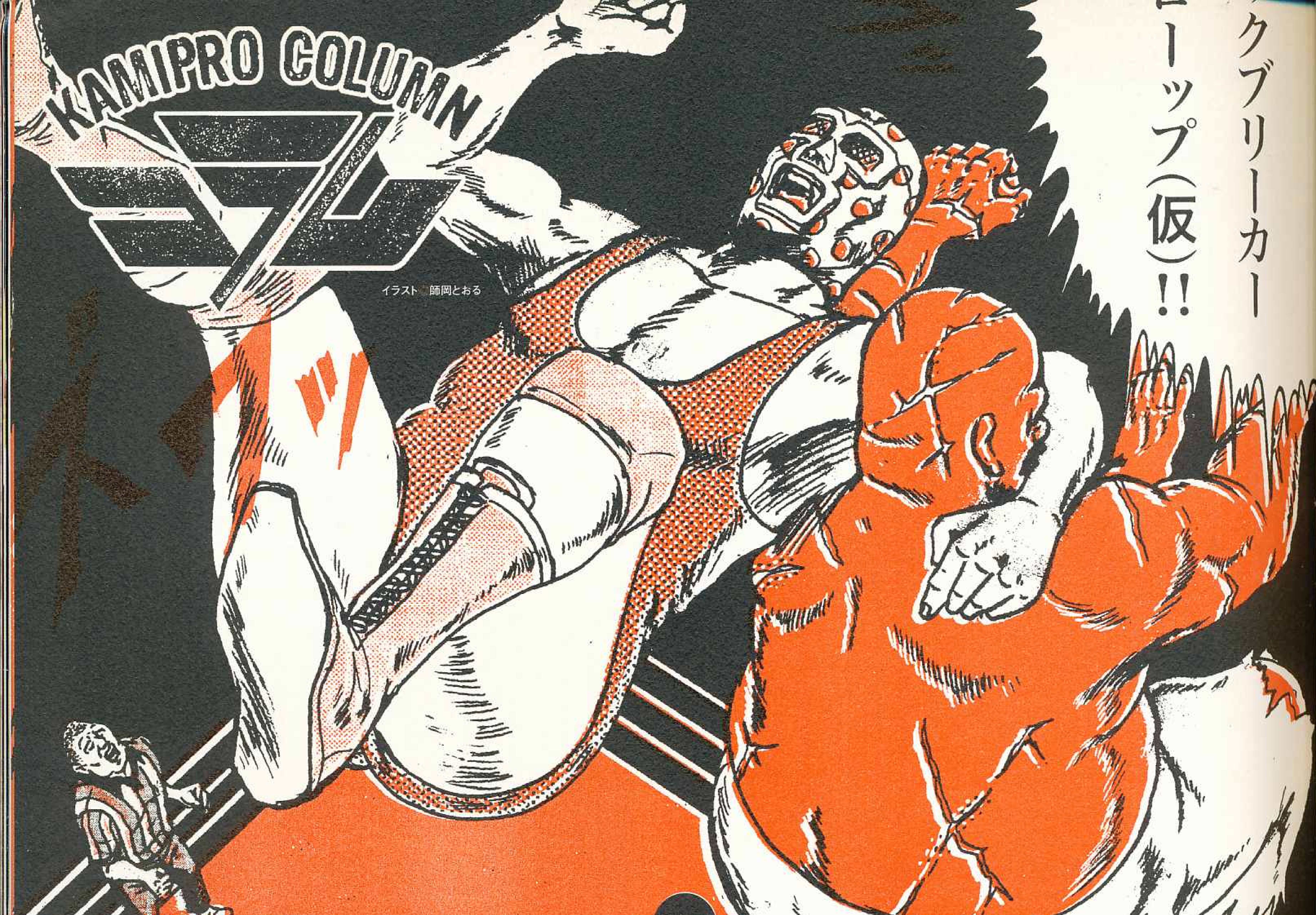
★『マッスルヒストリーvol.6』（DDTテック）3,000円（税込） 発売中
★HP http://www.ddttec.jp/muscle/

観なかったら、絶対に許さん! ドラゴンが公式ブログ『飛竜革命 最新章』開始!



エ〜！ 本当なの？ あのドラゴンが公式ブログ『飛竜革命 最新章』をスタート！ 藤波伽織夫人をはじめ、吉江豊に長井満也にケロちゃん、そして意外に筆マメな更新で話題を集める後藤達俊と、なぜかブログづいている無我ブログ戦線にドラゴンも参戦！ 自宅のパソコンを駆使して絶賛更新中！ 志茂田景樹氏との交流が明らかになるなど、その動向から目が離せない。

★『飛竜革命 最新章』 http://dragon.muga-world.com/



第19回

NYたどり着いたらあの人が……

花くまゆうさく リングの汁

『グラインドハウス』が4月に公開されると聞いて、もうガマンができなくなりGWにNYに行ってきました。以下、NY日記。

5月3日

NYの地下鉄に乗ると、車内はヒョードル出場のボードッグ大会の宣伝がいっぱい。さすが金持ち団体。大会は先月終わっているけど。

マジソン・スクエア・ガーデン近くの映画館でいよいよ『グラインドハウス』。最高でした。NYまで来た甲斐があった。映画は、ダニー・トレホ主演の架空映画予告編からスタート。もう、これから最高でつかみはOK（日本ならこの役は高野拳滋かな）。そして中学生的発想（義足代わりに銃を装着）なビジュアルが最高にシビれ、ゾンビ映画としても良質な『プラネット・テラー』が始まると、本当にNYに来てよかったと痛感。

そのあと、これまた最高な架空予告編3本に続き、タランティーノの『デス・プルーフ』。『デス～』は中学、高校の頃に東京12チャンネルで昼間流れていた映画のようだった。あの頃は『覗き魔！　バッド・ロナルド』『ザ・ベイビー』『ドーベルマン犬の島』など、70年代の名もなき、へんでおもしろい映画を12チャンネルで学んだが、あの頃が蘇るまさに〝昭和の東京12チャンネル映画まつり〟でした、『グラインドハウス』は。

映画のあとはアリアンシNYで柔術の練習。コブリンヤとスパーして、あの強さを体感。

5月4日

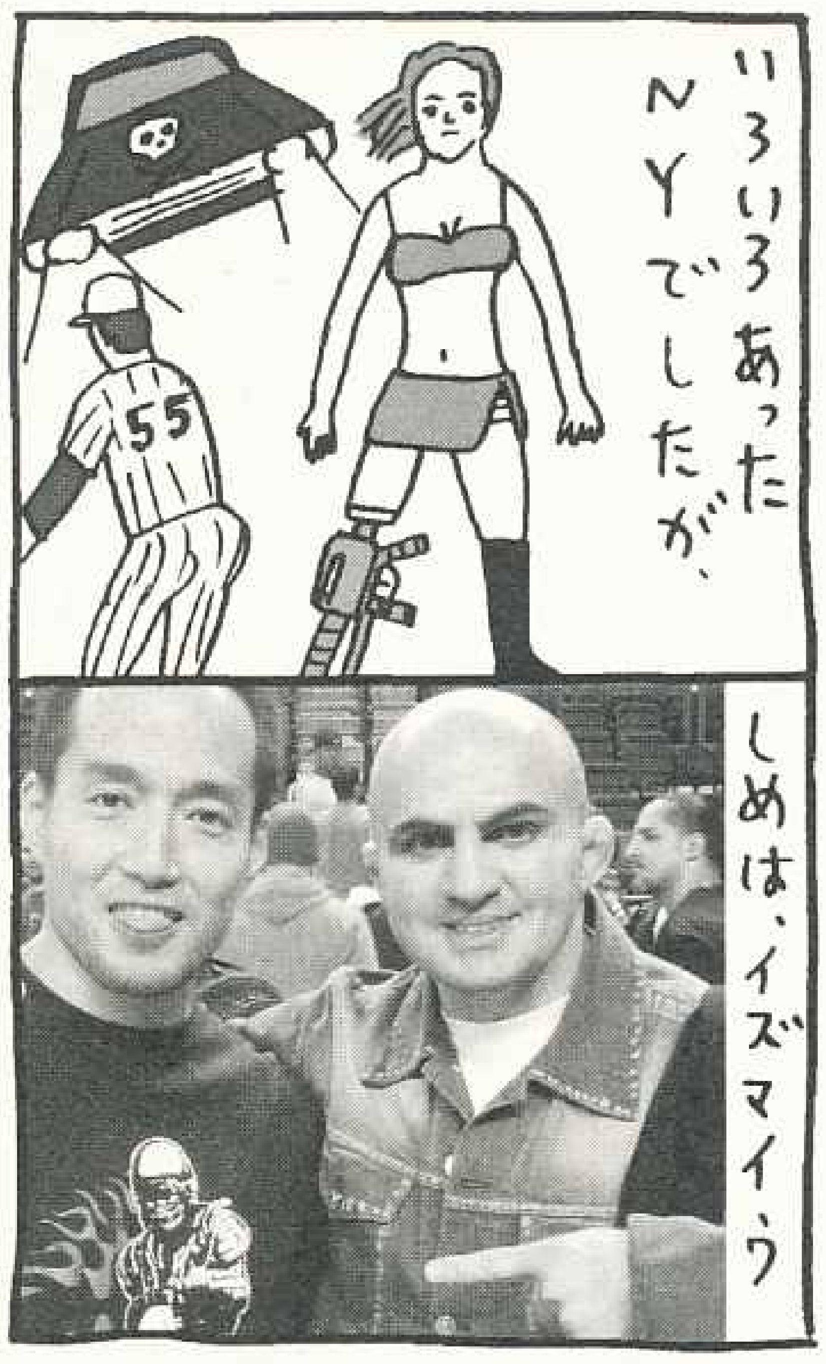
松井（秀樹）を観に、ヤンキースタジアムへ。外野席で観戦。遠くからも、立派なケツと太ももに感心。ブロディを思い出す。

5月5日～6日

いよいよアブダビコンバット。宇宙人スタイルで入場する徹肌イ郎vs植松、レオジーニョvsジェフ・グローバー、三島☆ド根性ノ助に三角極めるバレット、なんだかよくわからないけど、ポリスに捕まり手錠かけられる人など、見どころありな場面が同時に行なわれていて、どこ観ていいのか困った。全部じっくり観させてくれと心の中で叫ぶ。そして、やっぱり一番凄くて人気があるのは、マルセロ・ガルシアでした。グラップリング全世界のアイドルだ。

6日もレオジーニョを極めたハニ・ヤヒーラ、フジメグに一本勝ちしたジャンジャックの弟子フェリシア・オー、そのオーに勝ち、見事優勝したSAYAKA、無差別決勝まですべて一本勝ちしてきたガルシアと見どころ満載。無差別決勝は負けたけど、今大会MVPはガルシアでしょう。みんながその強さにうっとりして観てた。くわしくは祝復活した『GONKAKU』にまかせます。そして今大会、どこにいても目につく人がいましたが、もちろんイズマイウであった。





Hanakuma Yusaku
◎5月24日、『メカアフロ君』3巻発売します

リング上からプライベートまで!
“なんでもあり”の質問コーナー



第4回 所英男の トコロ天国

本コーナーは、読者が抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手がすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです(こじつけ)。

―今日はKAT-TUNと〝マブダチ〟の所英男さんにお越しいただきました!

所 いやあ、そうなんですよ! 番組に呼んでいただいて(4月25日、日本テレビ『カートゥンKAT-TUN』に出演)。

―さすがスーパースター! また、あっさり肯定しましたね(笑)。

所 やっぱり顔キレイですよね、KAT-TUNの皆さんは。

上原ZST広報 亀梨(和也)くんたち、いい匂いしたようですよ。

所 しました、しました! すんごいいい匂い。それに、僕、亀梨くんにマウントを取られたんですよね! (なぜかハイテンションで)。

―そうですか(冷たく)。ところで、謎のアメリカ留学を終えて突然の復帰をはたした赤西(仁)くんは……?

所 赤西くん、まだいなかったですねえ。

―なるほど(笑)。そんなわけで、今回はこの前フリを活かすべく「テレビ」に関する質問をまとめてまいりました!

所 (急に神妙になって)でも僕って、テレビに踊らされてる感じがしませんか?

―は? ずいぶん文学的な悩みですね。

所 なんか、〝所英男〟っていうより須藤元気選手とか秋山成勲選手の代わりって感じが凄くするんですよ……。

―まずは読者の疑問や悩みを解決してから考えましょう(笑)。

テレビ出演に関する質問

埼玉県・テレビ塾さん・17歳・高校生
最近、テレビによくご出演されている所さんに質問があります! いままでテレビで共演して一番、嬉しかった芸能人の方は誰ですか? または、出演して楽しかった番組でもいいです。ぜひ教えてください。

所 僕、そんなにいっぱい出てないんですけどねえ(苦笑)。でも、やっぱり嬉しかったのは所ジョージさんですね。

―所ジョージさんには入場曲の『逆境ファイター』を作ってもらったっていう縁もありますもんね。「♪SAPP Time～～!!」……じゃなくて!「♪い～け～、いけいけ、逆境ファイタ～～!!」という歌詞で。

所 それに、お年玉もらいましたし……。

―お、お年玉まで?

所 あれはやっぱ嬉しかったですね～(しみじみ)。

―そりゃあ、嬉しいに決まってますよ!! ちなみに、その後、お二人の親交は?

所 一度、親が「所ジョージさんにはお世話になってるんだから届けなさい」って山芋をどっさり僕の家に送ってきたことがあったんですよ。

―優しいですねえ、所さんのご両親は。

所 でも、3回ぐらい事務所に届けに行ったんですけど、誰もいなかったので結局コンビニのおばちゃんにあげちゃいました。

―ちゃんと届けましょう(笑)。

生活に関する質問

東京都・品川埠頭さん・19歳・大学生
僕は今年の春から東京で一人暮らしを始めた大学生です。ズバリ所さんに訴えたいんですが、僕はNHKの受信料を払いたくありません! というか、僕は一人暮らしをするまでNHKはタダだと思っていました。なので、いまは集金の人が来ると100パーセント居留守を使っています。所さん、このまま大学4年間、僕は居留守で逃られますでしょうか? 助けてください!



さまざまな問題に悩まされるNHK受信料。この投稿者のように、掟破りな考えを持つ人たちを、はたして所英男はどのように成敗してくれるのだろうか?

所 それは本人の頑張り次第だと思います(キッパリ)。

―なんの頑張りですか!? いったい(笑)。

所 いや、これは僕の知り合いの人に聞いたんですけど、集金の人が来たら「いま家にお金がないので、夕方また来てください」とか言ったりするらしいんですよ。集金ってだいたい昼間に来るでしょ?

―はー、なるほど、なるほど。ほかにはどんな手が?

所 あと、聞いたのは、「テレビがありません」っていうのもあるみたいですね!

―ほう! そんなデタラメな手法がありますか。非常にリアルなお話に聞こえましたけど。しかし、いまやテレビスターの一員である所さんとしては、この読者の方はちょっと戒めたいところですよね。

所 そうですよね。払ったほうがいいんじゃないでしょうかね。

―一応おうかがいしますが、所さんはNHK受信料は……?

所 そんなの愚問です!(妙にはりきって)。

―はあ。答えはこちらで勝手に察します。

格闘技に関する質問

愛知県・アゲハ腸さん・14歳・中学生
僕は格闘技が大好きなのですが、最近『HERO'S』以外の格闘技をあまりテレビで観られません。昨年のフジテレビの事件、そして最近もUFCのWOWOWでの放送が打ち切りになりました。なんとか『HERO'S』だけでも生き残ってほしいのですが、所さんの力でなんとかなりませんでしょうか? お願いします!



格闘技のテレビ放送事情に悩む投稿者の訴えをよそに、話はなぜか“夢の懸け橋”へ。桜庭vs田村が行なわれる日に所英男が闘いたい相手とは……!?

所 ……これ、もう質問っていうか、お願いになってませんか?(笑)。

―確かに「お願いします!」って書かれてありますもんね。

所 はっきり言って、僕の力じゃなんともならないっていうか、やっぱりそういうのって選手みんなの力じゃないですか? あとは、僕より谷川さんにお願いしたほうがいいと思います!(アッサリ)。

―んあ～! ところで、選手にとってテレビ放送がなくなるっていうのはどういう心境なんですか?

所 う～ん、やっぱり人に見られる量が減るのは寂しいですよねえ。だから僕は『HERO'S』だけじゃなくて全団体放送してほしいですよ。僕も観たいですし。

―MARSとか「MOVE ON! Kings!」とかも?

所 (無視して)しかし、UFCも放送されないんですね。僕、知らなかったです。

―そういえば、先日、桜庭和志選手が『PRIDE』に登場しましたよね。

所 あっ、そうですね。

―もし桜庭選手と田村選手が闘う〝夢の懸け橋〟的な大会が実現したとしたら、所さんは誰と闘ってみたいですか?

所 やっぱり僕は中村大介選手とやりたいです!(即答で)。

―U-FILE CAMPの中村選手。以前から対戦を表明されてましたね。

所 しかも、第一試合で!

―第一試合! というと、かつて田村選手と桜庭選手がUインターで闘ってたときみたいにってことですね。

所 だから、桜庭さんと田村さんが闘う日は絶対に中村選手とやりたいんですけど……。

―ですけど?

所 これも谷川さんにお願いするしかないですねえ。

―んあ～! 所さん、谷川さんに踊らされないようにしてください(笑)。

Hideo Tokoro◎ところ・ひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/ 【ZSTのHP】http://www.zst.jp/

※所選手に解決してほしいお悩みや質問は〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F『kamipro編集部 トコロ天国』係まで

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第15回

私だけが知っている アブダビ 日本開催の可能性

5月5～6日の二日間にわたって、アメリカ・ニュージャージー州にて『アブダビコンバット』が開催され、今回も〝寝技最高峰の祭典〟にふさわしい闘いがくり広げられました。今回は日本チームが前回よりも好成績が残せたのは嬉しいニュースです。

このアブダビの優勝賞金は1万ドル、無差別級は4万ドルを手に入れることができますが、もちろん選手たちがこだわったのは〝寝技最強〟の名誉にほかなりません。

各階級の強豪ファイターが数多く出場する中で、私は前回のNo・110において、打撃のスペシャリストのイゴール・ボブチャンチンが出場するという内容のコラムを寄せました。

運営サイドもボブチャンチンのエントリーをいったんは公開しましたが、しかし、直前でケガを負ってしまうアクシデント！急きょ欠場することに。寝技がめきめきと上達していたボブチャンチンは「絶対に優勝する」と意気込んでいただけに残念です。

次回こそ出場……とはいっても、アブダビは2年に一度の開催です。だいぶ先の話ですし、次回大会の開催場所はまだ決まっておりません。

これまでは、アブダビ現地2回、ブラジル1回、アメリカ2回という運び。そろそろ日本の開催は？　以前から日本の関係者、マスコミ、ファン、そして選手まで……つまり各方面から待望されていますが、一番期待しているのはアブダビ本体なのです。

じつは以前、私はアブダビ関係者から〝日本開催〟の計画を相談されたことがあり、日本へ来てマーケティングしたことがありました。ちょうどK－1とパンクラスの大会もあり、会場へも招待。日本の興行を生観戦してもらいました。招致するためには当然、大会運営の整備、大会を行なうにあたり運営に従事するスタッフや諸経費の捻出等、あたりまえに解決しなければならない問題はもろもろあります。中でも一番大きな障害になったのは、なにより東京の不便さだったりするのです。

まず東京には、なかなか格闘技興行を開催しやすい会場がない現状があります。手ごろなキャパではなかったり、交通手段が悪い。考えてもみてください。大会関係者、出場選手はセコンドを合わせれば、150名近くになります。文化や言葉も異なる集団をまとめあげ、都内の宿泊ホテルから郊外の会場へと移動させるのは、相当にやっかいなことだと想像できます。

「○○が来てない！」「△△が迷子になっている！」

予想されるトラブル。これまでアブダビが開催された会場は、ホテルから徒歩で行けたり、移動が簡単でした。それに日本人とは違っていい意味でいい加減さがある。極端なことをいえば、行き当たりばったりでトラブルが予想できても、GOサインを出してしまうんですね。

ただし、ある程度の計画性を持って望むのが日本の慣習（まあ、あたり前の話なんですが）。地方ならば可能かもしれませんが、新宿もしくは六本木から徒歩10分圏で、3000人収容規模の会場があれば……日本でも開催できると思うので、東京ドームの隣にできるという〝第二後楽園ホール〟に期待しているところです。

ささきぃの STAND BY ME second season

私の立ち技への旅はまだ終わらない

最終回

K-1 60キロ級開催? ムエタイへの旅はまだ行ったことがないの巻

「いろんな噂があるけど、いまはキックボクシングだろ、と。全日本キックだろ、という試合をみんなで見せたいと思います」。

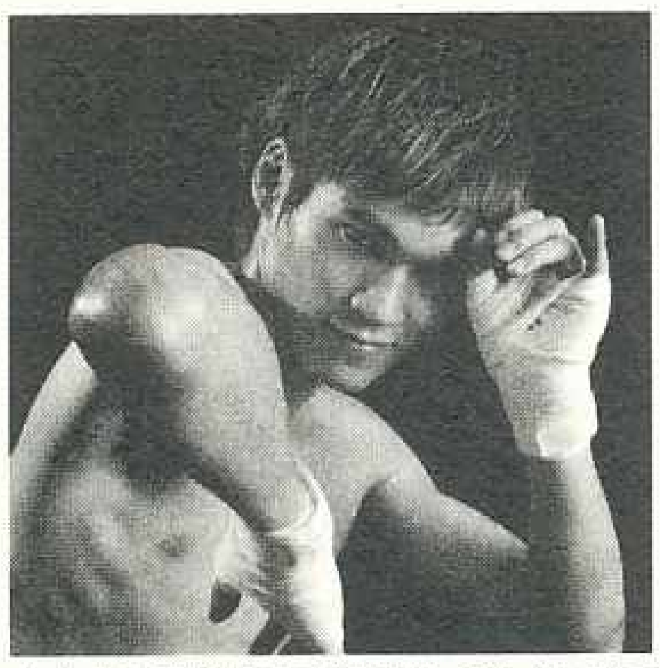
HIROYAくん効果でK－1 60キロ級開催がにわかにリアリティを増して伝えられる中、6月17日ムエタイ二大殿堂の一つラジャダムナン・スタジアムへ、全日本キックが遠征試合として所属選手を送り込むことが発表された。「ヒジ・ヒザ・首相撲あり」という、現行のK－1とは真逆を行く、キックボクサーロマンの一つ「打倒ムエタイ」。ロマンと名誉はあるけど、相手の土俵で闘う厳しさも途方もなくあって、名もなきタイ人に異国の地で負けても誰にも伝わらない。その会見で、石川直生が発したのが冒頭の言葉だった。

石川直生は全日本キックスーパー・フェザー級王者でありながら、オスカープロモーション所属のモデルという顔も持っている。もともと大のプロレスファンという石川。私が彼に注目するようになったのも、リングイン時に吹いている毒霧を見てからだった。「あれは毒霧ですか」というマヌケな私の問いに「そうです！」と笑顔で答えてくれた石川は、闘魂ショップに行って毒霧を買ったことや、風呂場で練習したら天井についてしまい、なかなか落ちなかったことを教えてくれた。

あくまで個人的にと前置きした上で書くが、K－1 60キロ級がスタートしたとして、最初に4人選ばれるとしたら石川の名前が入るだろうな、と勝手に考えていた。モデルという他にないキャラクターがあって、派手な舞台が好きで、よくしゃべる華やかな選手はとてもテレビ向きだし、イケメン好きな谷川さんが放っておかないだろうとも思うからだ。一時期の石川は、あきらかにその舞台に惹かれ、揺れていた。己がこだわる軽量級キックボクシングと、注目度の高いK－1 60キロ級。しかし、6月の『K－1 MAX』からK－1 60キロ級が試験的にスタートされるという噂が高まるここへ来て石川が選んだのは、ムエタイ遠征の道で、語ったのが冒頭の言葉だった。

K－1 60キロ級スタートの噂は立ち技業界を一瞬、活気づかせた。出てほしい選手を勝手にリストアップするなどの専門誌報道を含め〝60キロ級騒動〟を見ていて思ったのは、いつ、どんなかたちで行なわれるのかわからない大舞台を計算に入れて動くと、人の言葉に一喜一憂させられてしまうので、それよりどこで誰に見られても恥ずかしくないように、やりたいことをやって自分を輝かせておくほうが大事だなという、教科書のような教訓だった。石川はそのとおりに自分の道を決めたのだと思うし、それは5月末で『kamipro』を離れてフリーになる自分にとっても、とても大切なことだと思った。

そして髙田延彦のハイキックに憧れてキックボクサーになった石川には、ぜひとも一度『ハッスル』の髙田総統を観てもらって感想を聞きたいと思っている。今回のタイ遠征で残念なのは、日程が『ハッスル・エイド2007』と同日で、またそのチャンスを逃してしまったということである。



本文中に登場する石川直生。そんなわけで「STAND BY ME」は今月が最終回です! いままで本当にありがとうございました!
©全日本キックボクシング連盟

せき詩郎のサムライ三昧

シロー

第14回

GBHすごろくトーク

5月6日のロックアップ新木場大会。観客500人弱の中行なわれたGBH軍とアパッチ軍の8人タッグ3本勝負は2対1で見事GBH軍の勝利となった。結果こそ2対1と接戦のように見えるが、実際にはGBH軍の圧勝と言えよう。それほどGBH軍とアパッチ軍の力の差は明らかであり、それは試合後のマンモス佐々木のコメント「もう1回やらせろ。2回負けてるけど、もう1回やらせろ。もう1回やってくれ、頼むわ……」でも理解できるのではないだろうか。



アパッチ軍ともう一度闘うのか、それとも吸収してしまうのかはわからないが、GBH軍の実力がプロレスファンの間に浸透しているのは事実。そうなるとGBH軍が次に行なうべきはプロレスファン以外へのアピールだ。古くから言われてきたプロレスの市民権獲得、最近ならそれを「復権」と置き換えてもよい。とにかくプロレスファン以外にも名前が知れ渡ることによってGBH軍の人気は不動のものとなるだろう。

手っとり早いのはプロレス中継以外のテレビ番組に出演することだ。島田紳助と島崎和歌子が司会の『TBS感謝祭』にて相撲や綱引きを行なうのも一つの手ではあるが、もっとお茶の間を意識した場合、別の番組に出演することが望まれる。

たとえば『ごきげんよう』だ。

『ごきげんよう』。小堺一機が司会のこの番組は、月曜から金曜の13時からフジテレビ系列で放送されている。誰もが一度は見たことがあるだろう、国民的人気を誇る番組だ。

この番組に出演することによって、GBH軍の知名度は数倍にはね上がる。老若男女、幅広い層にGBH軍の名を知らしめることができるはずだ。アットホームすぎて似つかわしくないと思う人もいるかもしれないが、そんなことはない。たとえばゲストを考えてみよう。

橋幸夫、大東めぐみ、そしてGBH軍。

あるいは、香田晋、笑瓶、そしてGBH軍。はたまた松居直美、南こうせつ、そしてGBH軍。

どうだろう、ワクワクしてくるような面々、もしくは普通にお馴染みのメンバーみたいではないだろうか。

ただ問題もある。この番組はトークが主体であることだ。マイクアピールや試合後のコメントは得意かもしれないが、小堺さんと他のゲストとお菓子を食べながら恋の話や情けない話をトークできるとは思えない。

そこで、だ。GBH軍が話しやすいテーマだけのサイコロを作ってしまえばよい。新日本プロレスを乗っ取ってしまう勢いで『ごきげんよう』を乗っとり、自分たちのホームグラウンドにしてしまえば、懸念されるトークもなんとかうまくいくことだろう。

とりあえずGBH結成時の天山のインタビューからサイコロの出目を考えてみた。皆さんもぜひ考えてほしい。また、実際にサイコロを作りGBH軍を気取ってみるのはいかがであろうか。合コンで、キャバクラで、初めて会う彼女の両親の前でそっとサイコロを取り出し、転がしてみよう。盛り上がるか盛り上がらないか、下手すると怒られるか、最終的に酷く後悔することになるかはわからないが、頑張ってもらいたい。

GBHは何の略かの話

GBHはGREAT BASH HEELの略で『最も凶悪で偉大なヒール』を意味する。

「英米の警察の暗号コードでGRIEVOUS BODILY HARM、凶悪傷害事件ゆう意味もあるで」（天山談）

他のヒール軍団の話

「（nWo、T2000、CTU等は）どれもこれも中途半端ななれ合いや。悪の道よりカッコつけに走ってたけど、とんでもない」（天山談）

GBHの展望の話

「GBHが徹底的に悪いことをすることで、団体だけではなく、いまのプロレス界全体を活性化させていく」（天山談）

GBHはどれくらい悪いのかの話

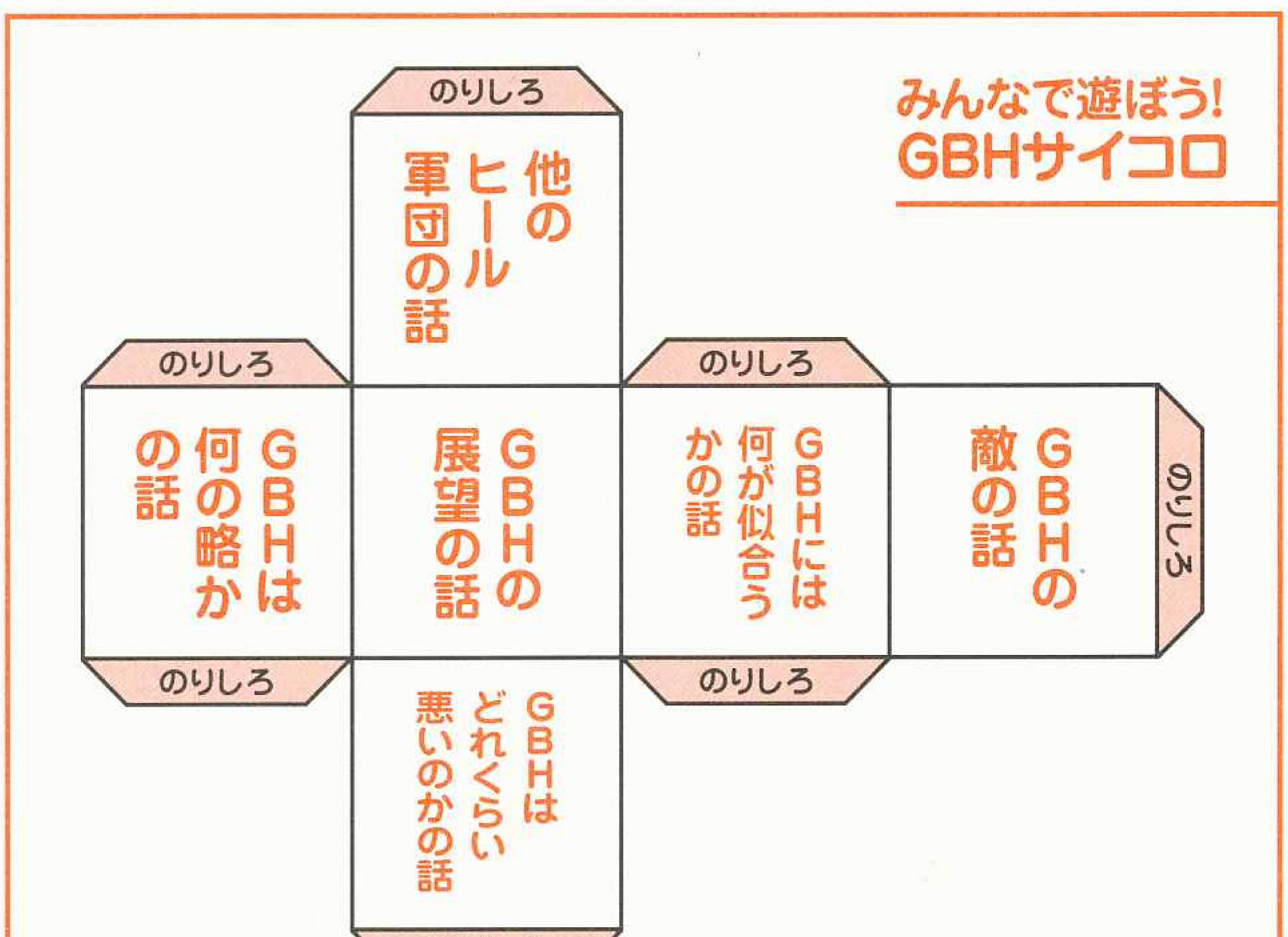
「GBHはちょいワルどころじゃないぞ。カッコなんか気にしちゃいられない。俺らがリングに入っただけで客が逃げ出すくらい凶悪だ」（天山談）

GBHには何が似合うかの話

「黄色い声援なんかいらない。俺たちに似合うのはブーイング」（天山談）

GBHの敵の話

「真の敵は本隊、チャンピオン、蝶野、中邑や」（天山談）



椎名基樹のサムライ三昧

第14回

ミルコ敗戦と井上和香

『UFC70』のミルコの敗戦。久しぶりに思わず悲鳴が出た。

衝撃的な敗戦で、自分がミルコに『PRIDE』に大変肩入れしていることを気づかされる。負けた後、悔しい、残念、もったいない、等々恨み節を独りごちる自分がいる。

しかし、かといって「絶対、ミルコが勝つ」と信じ切って観ていたワケではない。それがミルコの試合だ。ランデルマン、ノゲイラと、いままでもあっと驚く大逆転負けを演じてきたミルコだ。不安混じりで応援するのが、またミルコファンの醍醐味かもしれない。ヒョードル、ノゲイラは1本取られたり、KOされたりする姿が想像しにくいが、ミルコはいつ何が起きても不思議じゃない。

それにしても、今回の倒れっぷりは、ランデルマン戦以上の派手さであった。特に気絶した後、片足のヒザから下が、まさにグラップラー刀牙状態で、飴のように、弦のようにねじ曲がり、自らの身体の下敷きになり固定され、射殺された子鹿のようにピクリともしないで、横たわる姿には言葉を失った。

また、一方で正気に戻った後すぐにオクタゴン上でインタビューに答えたのには、絶対ヒザの靭帯が切れてると思ったのに、蹴りの名手の関節はさすがに柔らかいと、妙な感心をしてしまった。

これまで、敗戦を糧に復活のストーリーでファンを魅了してきたミルコである。UFCでもまた恐るべき巻き返しに期待したい。

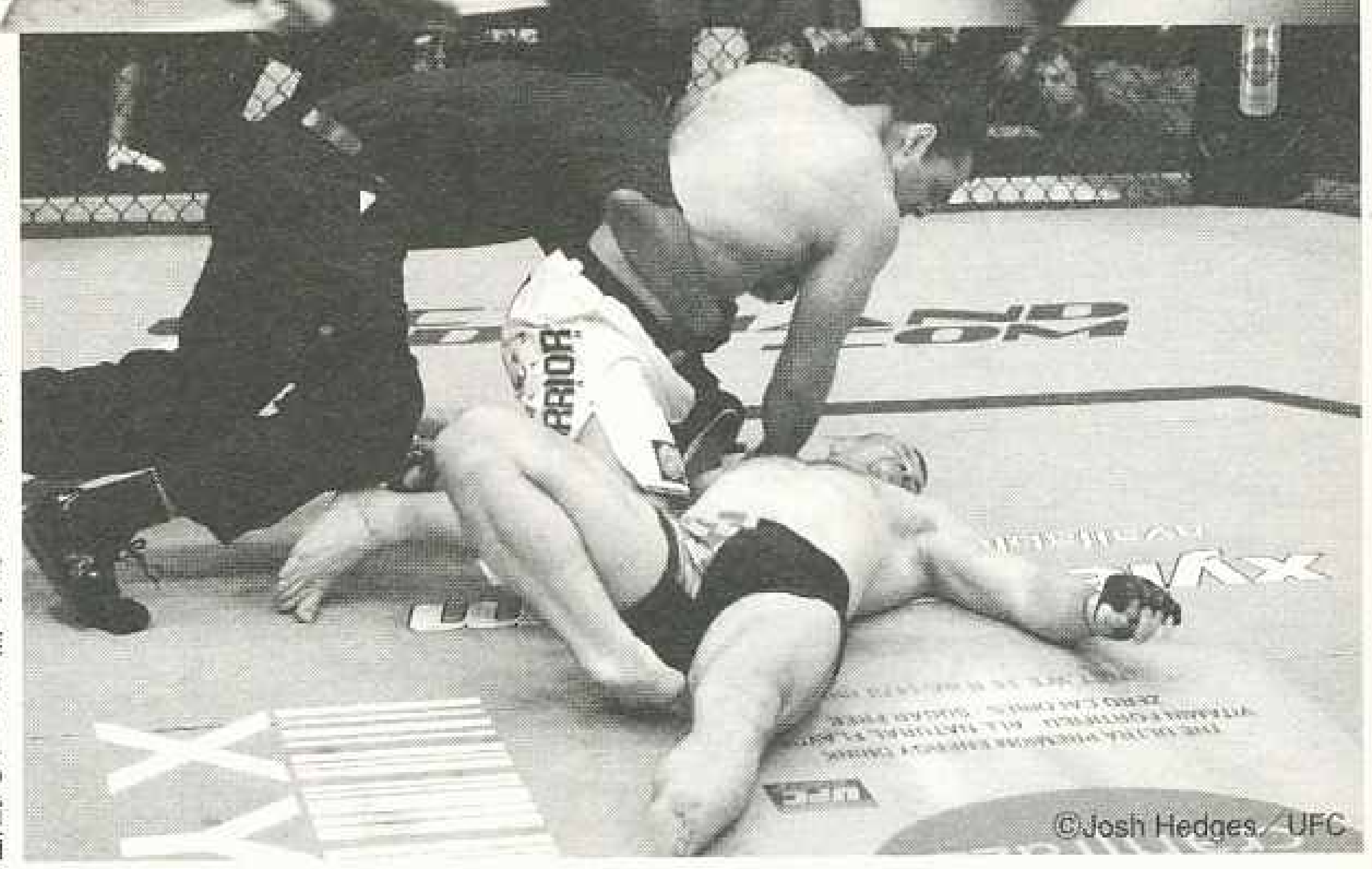
しかし、今回ばかりは、試合後、「もうミルコは終わったな」と思ってしまった。倒れっぷりの凄さ（酷さ）が一番の原因だろうが、今回の敗戦がもっとも多くの弱点が露呈したようにも感じる。

寝技で下になった時の弱さ。UFCはヒジ有りルールで、パウンドの時のように振りかぶった時に脇を差す等対処できたのがまったくできなかった。ルールの違いの戸惑いもあろーが、ガードを閉じたままでいて、解説していた五味選手が言うように、あたかも止まった「的」のような姿を見て、スパーリングではファブリシオから1本取らせない、と寝技の上達が伝えられるミルコであるが、やはり柔術家のようにはいかないらしい。

また、立ち技でも攻めがワンパターンに感じる。特にパンチは、リードのパンチ、ミルコでいうと右のジャブ、がないのが気にくわない。右のジャブの役目を果たしているのが、左の蹴りだと思うのだが、対戦相手は左の蹴りだけを警戒して、後ろに下がらないことが、ミルコ対策の基本として闘ってくる。

しかし、なぜそれだけでミルコの闘い方がずっと窮屈になってしまうのだろう？





©Josh Hedges／UFC

井上和香とミルコの共通点といえば、椎名さんの指摘するように顔の小ささ＆穴があること。穴にもいろいろあるだろうが、井上和香の穴は確かに問題ない。それにしても、何度見ても、この写真のミルコの足はエグい！

立ち技で実力圧倒しているのだから、足を使いジャブを使いローを使い、要するにもっとキックボクシングができないものか？　と、思ってしまう。ミルコは典型的なカウンターヒッターだと思うが、相手がグラップラーならもう少し先に手を出す戦術が見たい。

ミルコには穴がある。寝技で下になった時。それと打たれた時の脆さだ。顔が小さいヤツは打たれ弱い説がある。確かにシュレックのような藤田のアゴ＆エラは打たれ強い感じがする。筆者はテレビで、井上和香が出ていると、まず真っ先に、なんと打たれ弱そうな顔だろう、と思う。あの尖ったアゴの先端に軽く左フックをスマッシュしたら、ビックリするくらい脆く倒れるのではないかと、想像しながら、ブラウン管を、否、我が家の場合はプラズマ画面（←あまりにささやかな自慢）を見つめている。もちろん、井上和香は大好きで、いますぐにでも結婚したい女であるからして、左フックをただただ浴びせたいワケではない。あくまで格闘バカであるだけでのことを、読者のみなさん、そして親愛なる井上和香ちゃんにも理解していただきたい。『HERO'S』はドレスアップした和香ちゃんが見られるだけでも最高である。

話が逸れて、もうどーでもよくなって、このまま井上和香のことばっかり書いて終わりにしたいが、ミルコである。ミルコにも穴がある。井上和香ちゃんにも穴がある。和香ちゃんの穴は、まったく問題がないが、ミルコの穴は大問題。その穴のために、ミルコは考え過ぎとも思える。「あれをやったらまずい」、「これはダメ」といった、戦術的なドツボにハマる傾向にあるように感じる。

しかし、それは逆に戦術がハマった時の攻撃力は総合界一であることも示す。総合は技術が身につくと、逆にファイトスタイルが変化して弱くなるケースがある。総合で一番大切なのは自分のスタイルを作ることかもしれない。ミルコももう少し自分から行くスタイルを加味して、また新たな巻き返し劇をUFCでも見せてもらいたい。

それにしても、『PRIDE』対UFCの第1ラウンドは、五味、藤田、ファブリシオ、ミルコと大惨敗だ。ただ総合が好きだから『PRIDE』を見てきたつもりだが、やはりこの10年の思い入れは強く、悔しくて仕方ない。こうなると、やはり、1本もKOもされたことがない、「きれいな身体」の真の実力者、ノゲイラ、ヒョードルのオクタゴン登場を期待する。取りあえず、溜飲を下げたい気分だ。

しかし、TKも解説で言っていたが、それまでぼんやりしていた、UFCヘビー級であるが、『PRIDE』買収後、一気におもしろくなってた。

イナズマKのハードコアドージョー Special

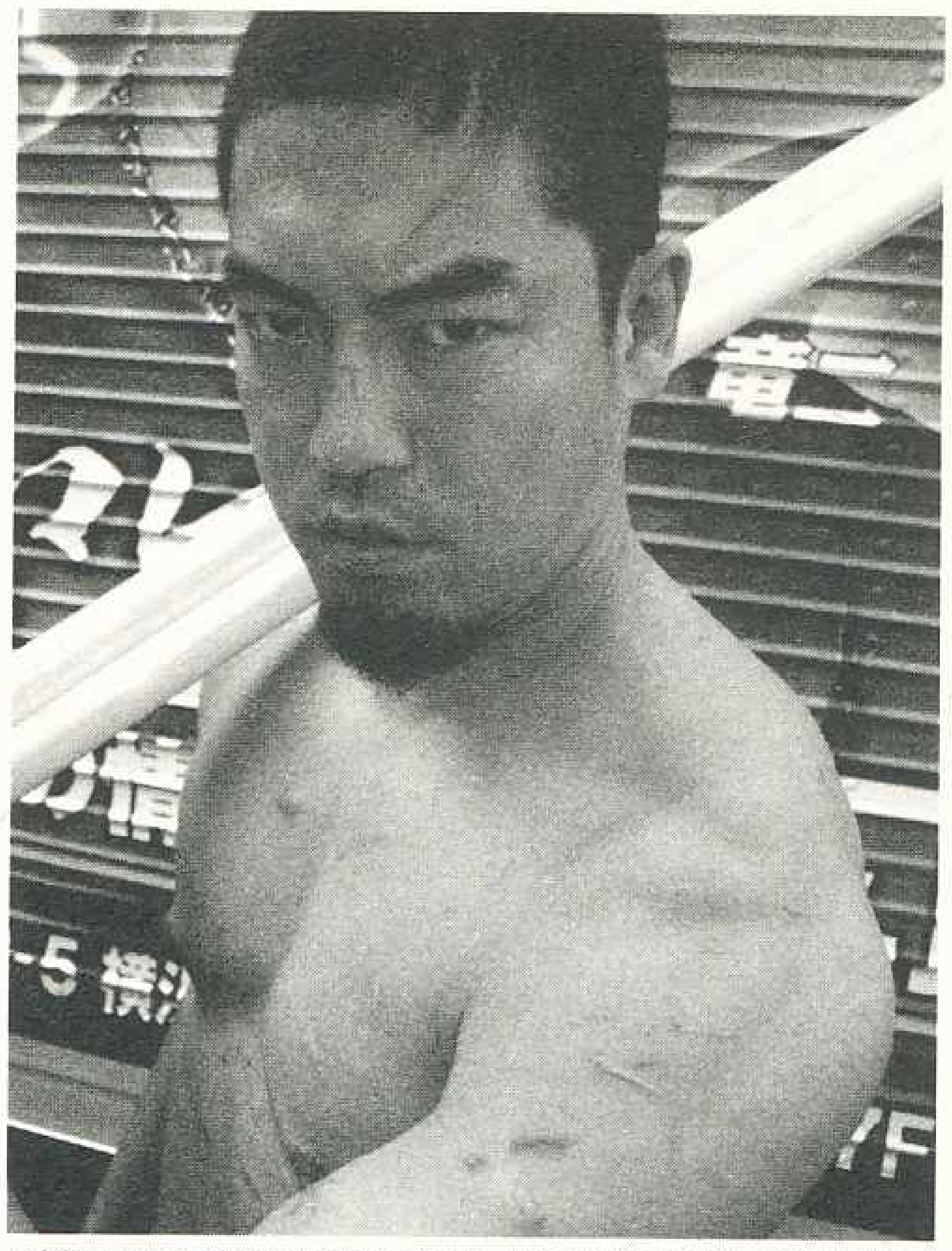
ドラゴンはドラゴンでも、今回は現在のデスマッチ界を牽引する中心人物！　大日本プロレスの〝デスマッチドラゴン〟伊東竜二がハードコアドージョー登場！

ハードコア列伝1 救急隊員から乗車拒否!?

昨年、9月に『超高層ラダー蛍光灯＆有刺鉄線四面地獄デスマッチ』（vs佐々木貴、BJW認定デスマッチヘビー級戦）で、鉄製の檻の上にラダー（脚立）を設置し、ドラゴンスプラッシュ！　を放つが、バランスを崩して急降下!!　右腕骨折＆左手首脱臼という大ケガでタイトルも返上し、半年間欠場。この5月に本格復帰をはたした伊東に、まず事故の様子から振り返ってもらった。

「檻の上のラダーをおもいっきり踏み込んだら、ガクッと檻のふたがはずれちゃったんです。それでバランスを崩して真っ逆さまに落ちて……気がついたら、腕がへんな角度で曲がってた。でも指が動いてたから、試合を続行したんですけど、控室では手に力が入らなくなって、救急車を呼んだんですけど、僕の姿を見た救急隊の人に『乗る前に、蛍光灯の破片、落としてくれる？』って言われて、シャワールームに逆戻り（笑）」とその衝撃を振り返る。

リアル〝生傷男〟伊東竜二の「傷口なんてテープで充分!!」



いとう・りゅうじ■1976年4月8日生まれ。岩手県滝沢村出身。99年大日本プロレス入門。同年、4月には葛西純戦でデビュー。03年からデスマッチに本格参戦、同年に金村キンタローからBJWデスマッチヘビー級王座奪取!　06年の佐々木貴戦で負傷し、半年の欠場期間を経て、今年3月に復帰。通称は“デスマッチドラゴン”。185cm、95kg。

病院で骨折＆脱臼が判明したが「こんな職業なのに骨折も、入院も、手術も生まれて初めて」とのこと。初めての入院生活はギプスで両腕が固まっていたようだが、「トイレだけはなんとか自力で、かろうじて届く程度だけど、お尻は拭けてました（笑）」とシモの苦闘ぶりも告白。

ハードコア列伝2 切り傷は縫わずに完治!!

そんな伊東が戻った大日本プロレスは、蛍光灯マッチで切り傷が絶えない。デスマッチの傷は何針も縫うのが常識なんじゃ～！　と思い込んでいたが、「傷を縫うなんて、めったにない」というから驚き。

「縫ったのは、50針くらいかな？　っていうか、そんなに縫う必要ないんすよ！　医療用テープを傷口を閉じるように貼れば、だいたいくっつくから、毎回のようにわざわざ縫うってのは……どうなんでしょうね（笑）」とクールに証言。

だが、リングに蛍光灯を敷き詰める『蛍光灯300本デスマッチ』では、深い傷を負ってしまう。「普段はレフェリーが大きな破片を取り除いてくれますけど、あれはリングの上に破片が山になってますから（笑）。試合後にニーパッド外したら、破片が入っててヒザがパカッと切れてたり。腕もパカッと開いてたり」。

そんな傷にも関わらず、飲みに行ってしまった伊東は「テープで止めて、お酒を飲んでたら、ドンドン血行がよくなってきて、腕から血がダラダラ出ちゃった。病院で『なんですぐ来ないの！』と怒鳴られました（笑）」。

ハードコア列伝3 救世主は元デスマッチ工作部!!

そんな伊東はデスマッチ志向の選手ではなかったが、デスマッチ・アイテムを制作するうちに変わっていく。「大掛かりなもの以外は大日本のデスマッチ・アイテムは若手が作るんです。でも工作も得意、不得意があるし、自分はなんとなく作れたのでやらされてた。簡単なスケッチをもらって、蛍光灯の配線を考えたり。でも試合では壊されちゃうから、どうせ壊されるなら自分でやるか！　と」。

最初のデスマッチは「地元の岩手県の大会で、メインには最初から名前が入ってたんですけど。僕が有刺鉄線ボードを会場で作ってたら、（グレート小鹿）社長が『今日のデスマッチは誰がやるんだ？』って聞かれたので『自分です！』って答えたら、『えっ！』って驚かれて（笑）」。

大日本は選手の自主性によって、デスマッチの強要はしない。選手の自主性によって、デスマッチをやる選手、やらない選手でマッチメイクが変わる。

「社長と（登坂栄児）部長には、〝デスマッチをやりたくない側〟と思われてたんで、『無理しなくいいんだぞ』って気遣ってくれたけど、『全然、大丈夫です！』って言ったら、部長の目がキラッと光って（笑）。優しい声で『じゃあ、今度の後楽園でもやろうか？』と。一気に〝デスマッチをやる側〟になっちゃいました」。

ハードコア列伝4 背中は無数の生傷三昧!!

リングで無茶ばかりの伊東だが、その奥さんは大日本レフェリーで伊東の試合も裁く、李日韓！　同じ職場で、奥さんがデスマッチの試合を裁き、ダンナが血だらけで闘ってる状況が一番ハードコア！　でスゲーって感じもするが、もしかして新日本プロレスの真壁刀義のように「大流血した夜は、興奮して寝れずにベッドでもう一戦！　なんてことも？」と失礼な質問をぶつけると「それはないっすね。疲れてるときはさっさと寝たいタイプなんで」とじつにタンパクな返答。

自宅では奥さんのため、〝マッサージドラゴン〟と化していると噂もある伊東に今後の展望を聞くと……。

「身体の続く限りはプロレスをして、そのあいだに宝くじをなんとか当てて、安定した生活を送りたいですねぇ」と微妙な将来設計を語り、「ドリームジャンボは毎回10枚は買ってます。300円くらいしか当たらないですけど（笑）」とデスマッチの英雄が、等身大なスケール感になってきた。

趣味はPSPのゲーム、さらに飲みの席での武勇伝も皆無、という伊東はリングでの豪快さとは裏腹にきわめて普通の人間の様子。

だが、最後に撮影のためにTシャツを脱いでもらうと……。「この前のアブドーラ小林戦の傷ですね」とその背中に残る、まだできたてホヤホヤかつ異常な数の切り傷＆生傷が目に飛び込んできた！

越中詩郎も「男は背中がものをいうって！」と断言しているが、この背中から漂うただ者じゃなさ加減は強烈！

普通っぽさと破天荒さが入り混じる、デスマッチドラゴンの今後に期待しよう！



見てみぃ！　この傷跡!!　蛍光灯の破片の上でバンプし続けた男のハードコアな存在証明！　5月28日（火）の大日本プロレス後楽園ホール大会では、沼澤邪鬼とのシングル戦も決定だ！



イラスト◎ゴローちゃん

ジンギスカンを馬乳酒で流し込んで泥酔気分でお届けする女子プロジビエ企画『萌え女々苑』。今回のゲストはなんと！　吉田万里子選手主宰の『息吹』（5・5後楽園）でデビューしたモンゴル人初の女子プロレスラー・エスイ選手！　上林愛貴じゃないほうのミス・モンゴルにノー通訳で直撃！

吉田　今日モンゴル語の辞書忘れてきちゃったんですよ！　彼女、英語は少し話せるんですけど、できます？

掟　まったくできないです！（キッパリ）。まず吉田さんにお聞きしたいんですけど、エスイ選手はモンゴルからのプロレス留学生になるんですよね。昔の全女でいうところのタイのソンティタムシスターズみたいな感じというか。

吉田　うわ〜、懐かしい！　私ははじめ、タイから誰か連れてきたらおもしろいかなと考えてたんですよ。知り合いのタイの方に『息吹』のＤＶＤ渡したり、練習風景をビデオに録って、それを持ってってもらったり。

掟　タイの格闘技界にコネクションがあったんですか？

吉田　いや、たまたま私が行ってるタイ料理の……。

掟　タイ料理屋！　大沢食堂でもない限り、それはおもいっきり無関係です（笑）。

吉田　タイ料理屋さんのお母さんがタイに帰るときに「じゃあＤＶＤ持ってって。誰かいい人いない？」って言ったら「いるよいるよ、いっぱいいるよ！」とか言うから、手渡す用意までしたことはあったんですね。でもそれと同じ時期に全然別のところから「モンゴル人を女子プロレスラーにしない？」って話をもらって、紆余曲折あって彼女が来ることになったんです。

掟　まず、モンゴルにはプロレスがないわけですよね。

吉田　そうです、ないです。なので『息吹』のＤＶＤと写真を持ってって説明して、通訳さんを通して「こういうものだよ」って。

掟　相当な冒険ですよね。プロレスのない世界にプロレスを持ち込むという。吉田さんも参戦した北朝鮮の「平和の祭典」みたいな話というか。

吉田　ハハハハハ！　あれも凄かったですね。女性が闘ってるってことがとても新鮮だったみたいで、凄いと言われました。

掟　数多くのモンゴル人の中から、なぜ彼女を選んだんですか？

吉田　背が高くてルックスがよかったのと、日本に来たいっていう気持ちが一番強かったからでしょうね。

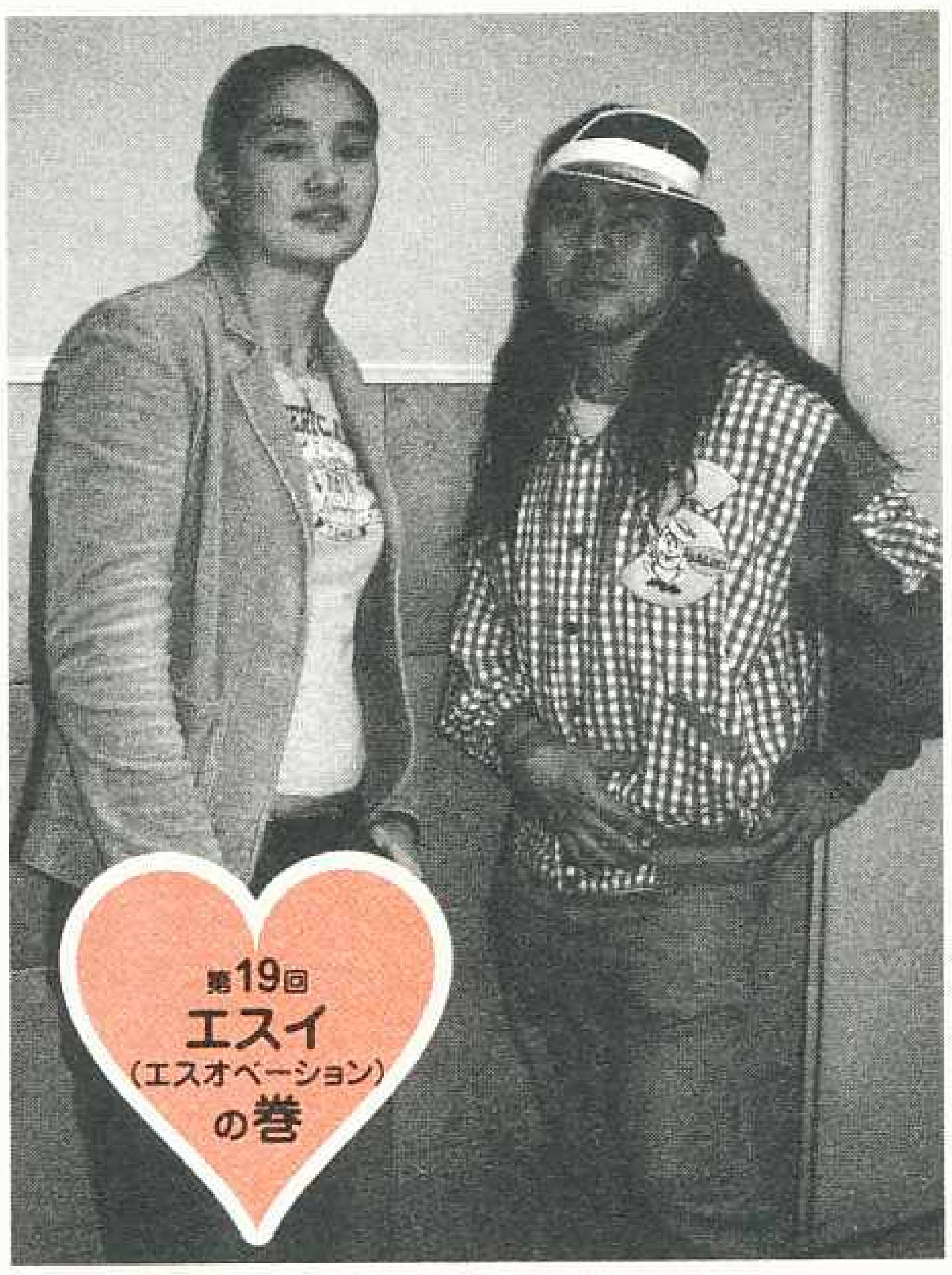
掟　確かにスター性ありますよ。ジェニファー・コネリーにリングス外人風味を足した感じで……。可愛いけど未知の強豪感あります！　プロレスを最初に観た印象はどんな感じでしたか？

エスイ　（日本語で）ビックリシタ……スゴイ。

吉田　彼女はサンボと柔道と、あと大学ではバスケットボールやってて、そのチームでのメダルも持ってるんですよ。

掟　スポーツエリートですね！　昔の全女みたいにリング上で歌を歌ったりすれば一気に人気が出そうですけど……ユー・シンギング・カラオケ？

吉田　あ、歌うまいよね？



えすい■本名・ボドルマ・エルデンビルグ。1985年5月9日、モンゴル出身。リングネームの“エスイ”はモンゴルの英雄チンギスハンの妻の一人で才媛と呼ばれた女性の名前からつけられた。5/5『息吹』後楽園大会で輝優優とタッグを組んだエスイは闘獣牙Leon & 勇気彩組と対戦。モンゴリアンチョップやジャイアントスイングを繰り出したエスイは、最後は長身を活かしたチョークスラムでデビュー戦ながら勝利をゲット！　好きな日本食は吉野家の豚キムチ丼。172cm、65kg。

エスイ　モンゴルソング？

掟　どんな感じの歌を歌うんですか？

エスイ　（携帯を取り出しモンゴルの着うたで曲を流す）。

掟　なんか村木賢吉の『おやじの海』みたいな曲が……。う〜ん、アメージングです！　で、昨日初めて試合をされたわけですよね。

エスイ　カチマシタ（ニッコリ）。

掟　ジャイアントスイングやモンゴリアンチョップまで出したみたいで。デビュー戦やってみてどうでした？

エスイ　ドキドキ。

吉田　試合前は凄い緊張してたけど、試合では大丈夫だったよね。

エスイ　ダイジョウブ。

掟　プロレスは難しいですか？

エスイ　チョットムズカシイ、デモ、インタレスティング。

吉田　彼女はモンゴルに女子プロレスを広める、その先駆者になるって言ってるんですよ。なので責任は感じてますね。「じゃあ歴史の登場人物になるね」って言ったら「そうなんだよ」って。

掟　モンゴルのショパン猪狩になると……。ついでにレッドスネーク・カモンの蛇芸も体得すると興行的に楽かもしれません！

吉田　夢としてはモンゴルでモンゴル軍団vs息吹軍団で対抗戦をやりたいですね。

掟　モンゴル軍団のマネージャーがキラー・カンさんだと燃えますね！　まぁ、あの人ホントは小沢さんですけど。

エスイ　ヨクワカラナイ。

掟　わかるように説明すると、いまは居酒屋のご主人です。え〜……いま、21歳ってことですけど、お酒は飲みますか？

吉田　あんまり好きじゃないみたいです。モンゴル料理屋さんでも口つける程度で。

エスイ　ワタシハ、スポーツマン。

吉田　ああ、スポーツマンだからお酒は飲まないんだ。

掟　それは飲むなっていう教えがあるんですか？

エスイ　イエス！　ワン・ドリンク、スリー・マンストレーニング、ノー。

掟　1杯飲んだら3ヵ月練習しちゃダメ!?

吉田　厳しいですねえ（笑）。

掟　モンゴルにも全女みたいに3禁があるんですかね？

吉田　ホント？　恋愛も禁止かなあ？　ボーイフレンド、ノー？

エスイ　ボーイフレンド、ダイジョウブ！　デモ、イナイ（笑）。

吉田　3禁じゃないんですね（笑）。全女イズ、お酒ダメ、タバコダメ、ボーイフレンドもダメ。オンリー・トレーニング。

エスイ　オーッ！（絶望的な表情で）

掟　モンゴル女子プロレスに3禁の導入はなさそうです（笑）。で、モンゴルといえば昨年自分も映画の撮影で行ったんですよ。カドカワハルキ、ユーノウ？

エスイ　アオキオオカミ！

吉田　彼女も『蒼き狼』にエキストラで出たって言ってたんですよ！

掟　お、奇遇ですね！　アイアム・あの中のワン・オブ・20000モンゴリアン。

吉田　凄い！

掟　角川映画に出演させてやるというから喜んで行ったら、一人500円のエキストラ料もらって群衆シーンに出るだけで……。エスイさんもあの中にいたんですね。俺はあの後テレビの企画でモンゴルの川まで泳がされてさんざんでしたよ。流れが速くて危険でね……。なのにペットボトルにロープつけたものを、「もし溺れたら、これ投げる」って言われて……。

吉田　ヒーイズ、モンゴルのリバー……。

掟　アイ・スイム・ラストイヤー。

エスイ　オーッ！　メニーメニーデッド！

吉田　えっ、そうなの？　多くの人が死んでるんだ！

掟　マ、マジで生きて帰ってこれてよかった……。


エスイを自宅に住み込ませ面倒を見ている吉田万里子と一緒に。エスイは大学の卒業式のため現在は帰国中で、7月に再来日の予定だ。

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）■6／16（土）札幌医科大学学園祭にて掟ポルシェのバンド『ロマンポルシェ。』のライブあり！　共演は申し訳ナイタズ、そしてPerfume!!　その他の情報は掟ポルシェブログをチェック！
[http://blog.excite.co.jp/porsche]

ファイター関係者がこだわりの選出!

“俺だけの”なんでもランキング

第5回

“ワイルドハート”・大森隆男

『僕の好きな小説ベスト5』

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキング……このコーナーはジャンルにとらわれない、“俺流のこだわり”をファイターや関係者にうかがって、独自のベスト5を選出！　第5回目のゲストは「本といえば大森さん、大森さんといえば本」とささやかれる、“プロレス界一の読書家”大森隆男が小説への思いを独白！

1



『草原の椅子（上・下）』
宮本輝（幻冬舎）

2



『弥勒』
篠田節子（講談社）

3



『恋』
小池真理子（早川書房）

4



『国境の南、太陽の西』
村上春樹（講談社）

5



『兄弟』
なかにし礼（文藝春秋）

『東京タワー』にはイライラしちゃいました

今日はわざわざ取材、ご苦労さまです！　本だけの話なのにすみません（笑）。

えーと、僕が本を好きになったのは大学の頃ですね。通学に2時間くらいかかって、ヒマつぶし的に読み出したんですが、最初にハマったのが、武者小路実篤さん！　名前が凄いから、「難しいんじゃないか？」って驚かれるんですけど（笑）。文も平易で、現代語で読みやすいんです。大学の裏に武者小路さんの設立した農業で共同生活するコミュニティ村に授業で行ったのがきっかけなんですが、悪人が出てこない、人物のポジティブな作風が気に入って、夢中で読破しました。

全日本プロレスに入った頃は、本を読んでるヒマはなかったんですが、デビュー後に、移動や巡業中に時間ができて、またハマり始めたんです。

「読書するレスラーなんて珍しい！」って言われますけど、自分が“本好き”って知られてからは、「僕も好きです」って話かけられますね。ZERO1・MAXだと高岩（竜一）選手とか日高（郁人）選手。高岩選手は、大沢在昌さんの『新宿鮫』シリーズみたいな、男臭いハードボイルド系が好きなんです（笑）。あと村浜（武洋）選手は歴史小説にハマってましたね。

そういう本好きの話題の中心は、「あのベストセラーを読んだ？」とか。僕もベストセラーはけっこう読みますけど『ダ・ヴィンチ・コード』はどうにも読み進めなくて、挫折しましちゃいましたね。リリー・フランキーさんの『東京タワー　オカンとボクと、時々、オトン』も読みましたけど、あの主人公って、ダメ人間ですよね。東京に来て何するわけでもない、親に甘えて、死んだときだけ「オカン、ありがとう」って「都合よすぎじゃねえか？」って後半はイライラしちゃいましたよ。

村上春樹は好きだけど、あまり共感できない

ベスト5の5位は、作詞家のなかにし礼さんの私小説『兄弟』。兄をビートたけしさん、弟を豊川悦司さんのドラマ化を観て小説も読んだんですが、なかにしさんが作詞家として成功するにつれ、幼少時に面倒をみてくれた兄が、寄生虫的にまとわりつく過程が凄い！　兄はギャンブル好きの浪費家で「頼むから死んでくれ！」ってくらい追い詰められていくんです。ヘビーだけど圧倒的に凄い小説です。

4位は村上春樹の『国境の南、太陽の西』。村上さんもほとんど読破してます。『羊をめぐる冒険』も好きですが、これが一番。主人公が高校のときにひどい振り方をした彼女を見かけるんですが、彼女がその仕打ちを引きずっていたというのが怖いな……と。ただ村上さんの本は凄く読みやすいけど、主人公にはあまり共感できないんです。自分と違って、フラフラしてても経済的に余裕がある人が多いし。

でも女性への接し方や、小粋な会話は参考にさせてもらってます（笑）。

3位は小池真理子さんの『恋』。小池さんは不倫とか愛憎が入り混じる女性のドロドロした恋愛劇が多いけど、その中でも一番濃厚な作品。女性の異様な心理状態が凄く勉強になります。

自分はこんな経験はないですが、嫁さんは本の趣味が合ったのが付き合うきっかけなんですよ。彼女は村上春樹とかのファンで、独身時代は本の貸し借りしたりね。でも彼女から薦められて一番印象に残ってるのは、なぜかシドニィ・シェルダンの超訳シリーズなんですけど（笑）。

2位は、篠田節子さんの『弥勒』。これはある人に「救いがないから、読まないほうがいい！」って言われて、逆に気になった作品。じつは某選手の奥さんなんですが、前にいた団体で知り合って、いまも読書仲間です。ある記者がパスキムという架空の国に入国するんですが、その国から出国できなくなる。

設定がしっかりして、緊張感があるし、アメリカ遠征時に読んでたら、自分がどこにいるかわかんなくなっちゃったくらいの凄まじいトリップ感が心地いいです。

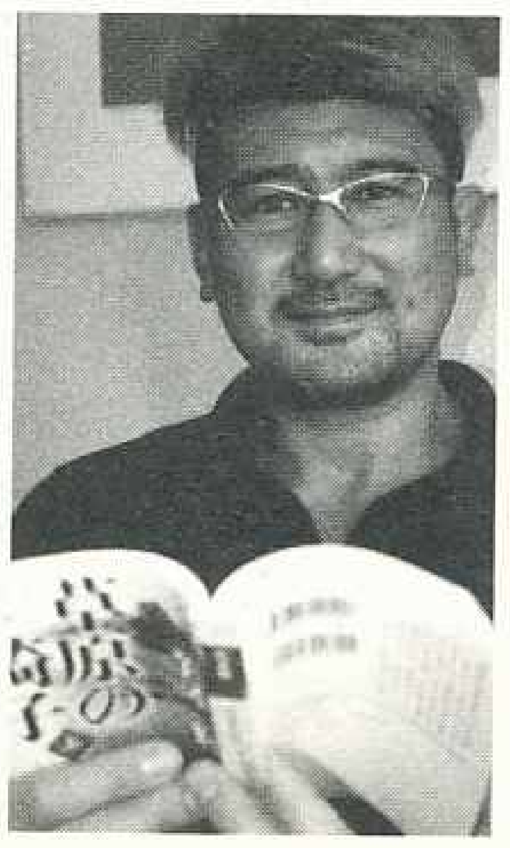
1位は宮本輝さんの『草原の椅子』。僕の身体のメンテナンスや治療をしてくれてる先生に薦められて読むようになって、もう作品に順位がつけられないくらい心酔してますね。この作品は、年齢を重ねた成功者の人生の陰陽とか「本当の幸せってなんだろう？」とか、しみじみ考えちゃう内容です。宮本さんは強烈な人間関係を描いた作品もありますけど。武者小路さんのタッチとも似てて、前向きなものが多いのも好きな理由ですね。

全体的にヘビーでドロドロしてるものが多い？　確かに楽しいだけじゃなく、考えながら読み込んでいく作品が好きですね。まぁ、プロレス界もけっこうドロドロしてますけど……僕も団体を辞めたりしてるから、他人のことは言えないですが（笑）。

『金閣寺』を読んで、金閣寺まで自転車旅行!!

NOAHの頃、ヒジの手術で入院してるときに芥川龍之介の『金閣寺』を読んだんです。小説は主人公のエゴイズムしか感じませんでしたけど、読むうちに「金閣寺って見たことないな」と思って、そのあと一人で京都に自転車で金閣寺を見に行くんです。でも片道で3日半もかかるわ、夜はホテルに泊まって、食費とホテル代で10万円以上かかるわでさんざんでした。金閣寺を見たときは達成感ありましたけど、帰りは宅急便で自転車を送って、新幹線で帰ってきました（笑）。

近年、読書離れが叫ばれてますけど、自分の子どもとは読書が共通の趣味になるといいな、と。「お父さんはこういうの好きだけど、どうかな？」とか薦めてみたいですね。もちろん武者小路実篤から（笑）。



おおもり・たかお■1969年10月16日、東京都世田谷区出身。91年に全日本プロレス入門。高山善廣とのコンビ“NOFEAR”で一世風靡。00年にNOAHに参加も、03年3月にWJプロレスへ。04年よりZERO—ONE（現ZERO1・MAX）に参戦。190センチ、110キロ。

COLUMN



“不遇の実力者”金原弘光最後の大勝負へ! “ヌルヌル男”討伐を宣言!!

Hiromitsu Kanehara

前田さんにお願いしました

秋山成勲とやらせてください!!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/菊池茂夫

3・18パンクラスでの川村亮戦後、「あと一試合で引退」を発表した金ちゃん。本誌前号のインタビューでは、その後、前田日明に引退の決意を報告した際、「俺の前でもう一試合やってくれ」と言われたため、引退試合の前に『HERO'S』で、もう一試合行なうかもしれないことをほのめかしていたが、その後、どうなったのであろうか？

それを確かめるため、本誌は〝有終の美〟に向けて、日本体育大学レスリング部への出稽古を再開した金原を取材。そこで前田日明〝御前試合〟の件について聞いてみると、最後のターゲットとして、金原の口から、なんと秋山成勲の名前が飛び出した！

――今日は日本体大レスリング部での練習を見せてもらったわけですけど、引退表明してもちゃんと練習はしてるんですね。

金原　いやぁ、まだ引退したわけじゃないし、他にやることもないからさ（苦笑）。でも、最後の練習を楽しんでる感じかな。でも、まだ練習再開し始めたばかりだから、身体中が筋肉痛だよ。

――日体大にはよく来るんですか？

金原　うん。キングダムや高田道場でレスリングのコーチだった安達（巧）さんが日体大レスリング部の監督やってるからさ、前から練習に来させてもらってたんだよね。オリンピック代表選手とか、全日本チャンピオンとかもいるから、凄くレベル高いよ。

――みんなメチャクチャ強そうですよね。

金原　強そうでしょ？　総合にスカウトしたい選手がいっぱいいるよ。でもさ、学生と練習してると、つくづく歳取ったと思うよね。だって、いま俺36歳だから、1年生なんて俺の半分の歳なんだもん（笑）。

――ダブルスコアですか（笑）。でも、その中に36歳のプロ選手が一人混じって練習してるっていうのも、たいしたもんだな、と思いますよ。

金原　いい練習になりますよ。みんな技術も馬力もあって、スタミナもメチャクチャあるからね。

――ところで、前回お話しされていた、「引退試合のほかに、前田さんの前でもう一試合やるかもしれない」という話は進展ありましたか？

金原　一応、前田さんに引退を決意したことを報告したときに話したんで、やる方向で考えてるんだけどね。

――前田さんとは直接電話で話されたんですか？

どうせ秋山は近いうちに復帰するんでしょ？だったら〝一番おいしくない〟俺が最後にヌルヌル男をぶん殴ってやろうかなって

金原　うん。まずカミさんが連絡して、そのとき「もったいないなぁ。じゃあ、俺が試合組んでやるから、俺の前でもう一試合やってくれ」って言われたんだよ。そのとき、カミさんが「相手は誰がいいんや？」って聞かれたらしくてさ、「秋山とやらせてください」って言ってもらったの。

――秋山って、あの秋山成勲ですか!?

金原　うん。そのときは「ちょっと難しいけど頑張ってみるわ」みたいなことを前田さんが言ってて。そのあと俺があらためて前田さんに電話したんだけど、そしたらいきなり「このあいだの試合の話やけどな、6月のアメリカ（『Dynamite!! USA』）は無理やで」って言うのよ。俺は「アメリカの試合に出してください」なんて一言も言ってないんだけど（笑）。

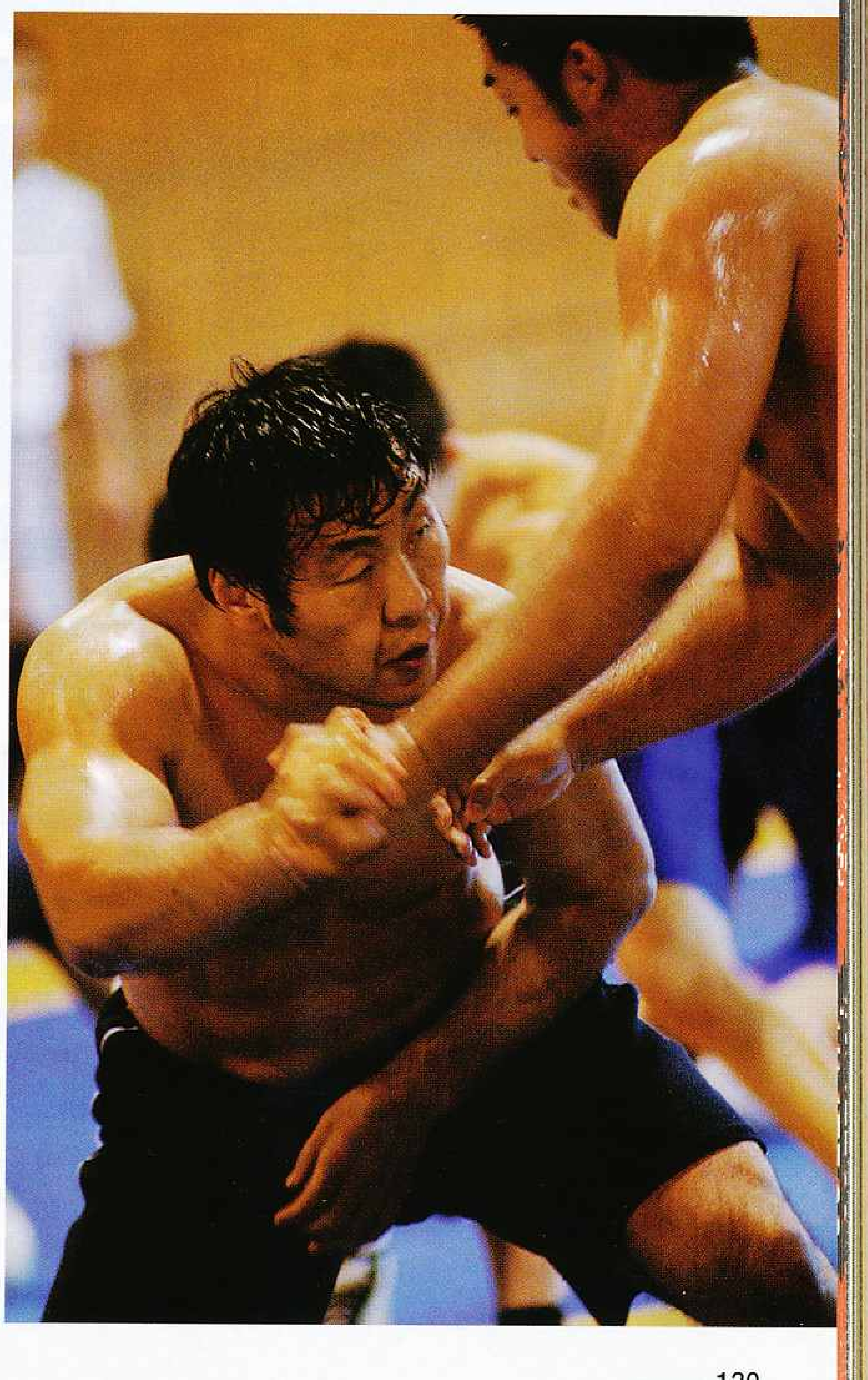
Hiromitsu Kanehara

――非常に前田さんらしいというか、どっかで前田さんの中で話がすり替わってたんでしょうね（笑）。

金原　それで、結局「7月に『HERO'S』があるから、それぐらいで聞いてみるわ」とか言って。そのあとまた「対戦相手は誰がいい？」って聞くのよ（笑）。

――ダハハハ！　前回の電話の内容は覚えてない。

金原　前田さんってその都度、記憶が飛ぶんだよね。俺も「えっ!?　前回言ったのに」って思ったんだけど、あらためて「前田さんが選んだ人なら誰でもいいですけど、できれば秋山とやりたいです」って、一応言っておいたよ。



――それは何回か繰り返し言っておいたほうがよさそうですね（笑）。それにしても、「秋山成勲」という名前が出てきましたが、なぜ引退前に、よりによって秋山とやりたいんですか？

金原　やっぱりさ、あの〝ヌルヌル事件〟を観て、腹が立ったというのが一番だよね。この前もDEEPの会場で会ったんだけど、知らない仲じゃないのに、挨拶すらしないからね。金メダリストの吉田（秀彦）さんだって、俺に対してちゃんと挨拶してくれるのにさ。

――そんなことがありましたか（笑）。

金原　ヌルヌルに関しては、俺もリングス時代はオランダ人と闘うと毎回のようにヌルヌルしてて、「なんだ、こいつ？」っていうのはいっぱいいたけど。でも当時

は、前田さんに「あいつヌルヌルしてました」とか言っても、「それがどうしたんや？　そんなことで文句言うな！　女々しい！」とか言われる時代だったからさ（笑）。

――ヌルヌル黙認の時代（笑）。

金原　でも、いまはもう時代が違うからね。みんなで格闘技をよくしていこうって、ルールなんかも整備されてきたのに、いまだに小賢しいことをやろうとする精神が腹立つよ！

――大晦日のメインイベントという格闘技界全体にとって重要な試合で、「自分だけよければいい」ということをやってるわけですからね。

金原　やっぱり男と男の闘いだからね。そういう闘いをお客さんに観てもらうのが俺たちの仕事なんだから、正々堂々とやらなきゃ、そりゃ詐欺だよ。まだ総合格闘技って歴史が浅いし、コミッショナーみたいなものもないから、汚いことやろうと思えばできちゃうんだけど、男としてそれは許せないよね。それでも秋山とやる機会なんかないと思ってたんだけど、前田さんが「俺の前で試合しろ」って言ってくれたんで、どうせだったら引退前に秋山をぶん殴ってやりたいな、と思ってさ。

――いやぁ、それはメチャクチャ観たいですけど……現時点では秋山選手は無期限出場停止処分中ですよね。

金原　でも、どうせ復帰するでしょ？

――まぁ、6月の『Dynamite!! USA』でも復帰の噂が立ったばかりですからね（笑）。

金原　興行主としても、絶対に使いたいと思ってるだろうしさ。だって、いまや大ヒールで、かつての"北尾状態"でしょ？　宮戸（優光）さんが興行主だったら絶対に使ってるよ（笑）。

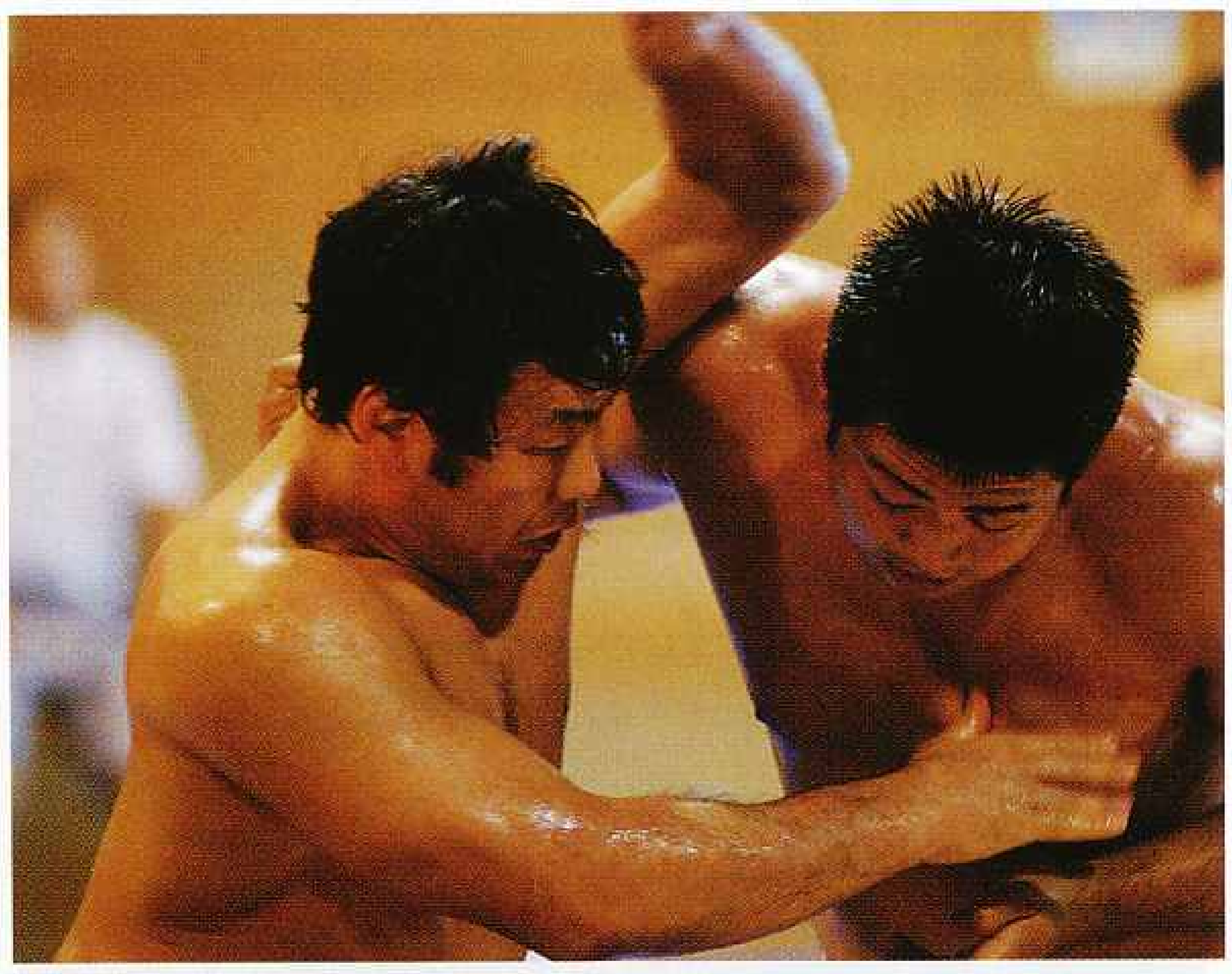
――ダハハハ！　確かにUインター時代、プロレス界を半ば追放されていた北尾光司を使いましたからね。

金原　宮戸さんなら「あんな、いいヒールいないよ」とか思ってるはずだよ。もともと、ああいう「"プロレス界の敵"は我々が倒します」っていうのがUインターイズムだからね。ホントは桜庭がキッチリ倒すのが一番いいんだろうけど、桜庭自身は二度とやりたくないだろうし、再戦どころか一緒の興行に出ることもイヤだと思うんだよね。

――あんなことやられたわけですからね。

金原　ホントのところは本人にしかわからないだろうけど、二度と関わりたくないだろうね。それぐらいイヤだし、軽蔑してると思うよ。あれは「すいませんでした」って謝って済むような問題じゃないからね。賠償金ぐらい発生してもおかしくないでしょ？

柔道上がりの優遇っぷりは腹が立つ！俺なんて地上波ゴールデンタイムで放映されたことすらないからね（笑）



――公衆の面前であんな目に遭わされたわけだから、ある種、名誉毀損ですよね。

金原　秋山選手も強いんだからさ、なんであんなことするのかね。俺は彼の強さっていうのは凄く認めてる部分はあるんだよ。それなのに、正々堂々と闘わずに汚い小細工を使うからさ、そういうところが余計に腹立つんだよね。それで、クリームたっぷり塗ってたくせに「認識不足でした」とか言ってさ、あとの対処の仕方もどうかと思うし。謝罪会見を見ても、謝り方が足りないんじゃないの？　って気がしたし。

――「ホントに反省してんの？」って感じでしたもんね。

金原　あれは反省してないでしょ。ホントに反省してたら、頭でも丸めて出てくるはずだしね。そんなヤツは、このまま永久に復帰させないほうがいいのかもしれないけど、どうせ遠からず復帰するなら、俺がやりたいと思ってね。

――復帰するとしたら、誰かが相手しなきゃならないわけですからね。

金原　そうでしょ？　あんなことやっといて、桜庭ともう一回やりたいなんて虫のいい話だしさ、弱いヤツとやって無難に復帰するのも違うと思うしね。そう考えると、引退発表して、一番おいしくない俺とやるのがいいんじゃないの？

――一番おいしくない俺（笑）。

金原　そう思わない？　引退決まってる人間に負けたときのこと考えたら、リスク大きいよ。

――確かにそうですね。

金原　どうせさ、秋山が復帰するときの相手っていうのは、誰がやるにしても、復帰するお膳立てのための"噛ませ犬"として用意されると思うのよ。そんな役目を現役で未来がある選手にはやらせられないでしょう。その点、引退発表してる俺は何も怖くないからね。汚名をかぶっても、どうせあと一試合で辞めるんだから、関係ねぇやって（笑）。

――開き直ってますか（笑）。

金原　でも、こうなると自分で言うのもなんだけど、俺は手強いと思うんだよね（笑）。もう「負けたらどうしよう」って怖れる気持ちがないからさ、メチャクチャ強気で闘えると思うんだよ。逆に秋山にしたら、「引退する人間に負けたらどうしよう……」って思うわけじゃん。これはイヤだと思うよ。まぁ、でも秋山は、これまで相性のよさそうな相手と組んでもらってる印象があるから、謹慎明けぐらい、このおいしくない相手とやってみろって（笑）。

――復帰するにしても、秋山選手がイヤがる相手じゃないと、ペナルティにはなりませんからね。

金原　だいたいさ、秋山に限らず、柔道上がりで鳴り物入りで総合に来た選手って、マッチメイクでもなんでもやたら優遇

されてるでしょ？　それが腹立つんだよね。総合格闘技では新人なのに、いきなり待遇が全然違うんだもん。だから俺、柔道衣着て試合する、柔道上がりって嫌いなんだよ。

――柔道上がりは嫌いですか（笑）。

金原　だって、そういう人たちってデビュー戦から、もうメインイベンターみたいな扱いでしょ？　いい相手用意してもらって、ゴールデンタイムでテレビ放送されてさ。俺なんて17年間もプロでやってて、ゴールデンタイムでまともに放映されたの一回もないんだから！（笑）。

――ダハハハハ！　それも逆に凄いですね。

金原　ＷＯＷＯＷはゴールデンだけど、地上波はホントに一回もないんだよ。ミルコとやったときも『ＰＲＩＤＥ武士道』だったから、深夜枠だったしさ。それなのに、柔道上がりはいきなり大晦日とか、そんなのばっかりだから。

――吉田選手は国立競技場、瀧本選手は『男祭り』、そして秋山選手は『Ｄｙｎａｍｉｔｅ‼』でデビューですからね（笑）。

金原　まあ、吉田さんとか瀧本選手は天下の金メダリストだからさ、ビッグマッチの目玉としてメイン級でデビューするのはわかるんだよ。でも、秋山選手はオリンピックに出てないわけでしょ？

――そういえばそうですね（笑）。

金原　オリンピックにも出てないのに、メダリスト並みに優遇される意味がわからない。韓国で『ＨＥＲＯ'Ｓ』やったとき、韓国のマスコミの人たちも怒ってたからね。

――何を怒ってたんですか？

金原　あのときってさ、韓国vs世界の対抗戦っていうかたちで、秋山選手が韓国側の大将で、キム・ミンスが副将だったでしょ？　そしたら「我々の国で開催しているのに、なぜ銀メダリストのキム・ミンスが副将なんだ。秋山なんてオリンピックにすら出てないじゃないか」って怒っちゃったの（笑）。

――それは知られざるいい話ですねぇ（笑）。

金原　オリンピック以外でも、柔道で実績はあるんだろうけどさ、総合は別だろうって！　……まあ、要はうらやましいんだよね（笑）。

「〝プロレス界の敵〟は俺たちが倒す！」それがＵＷＦインターイズムだから！

――ダハハハハ！　うらやましいからこそ、ふざけんな！　っていう（笑）。

金原　そう、嫉妬ですよ（笑）。こっちは雑草だからね。Ｕインターで来る日も来る日も第一試合を務めてさ。俺が先輩と初めて試合するまでに３～４年かかってるからね。

――先輩と闘うだけで３～４年ですか！

金原　ホントそうだよ。初めて宮戸さんとやらせてもらうまでは、同期の前田（雅和）くんとか、後輩の高山（善廣）くんとか、あとはトム・バートンね。トム・バートンなんて、何回やったかわからないよ！

――来る日も来る日もトム・バートン（笑）。

金原　そういう叩き上げの人間からしてみたら、柔道上がりがうらやましくてしょうがないもんね。だから、その選手が人間として好きとか嫌いとか関係なく、その優遇っぷりに腹が立ってる人ってけっこういると思うよ。だいたい「柔道衣を着ても着なくてもいい」なんていうルールがあること自体、不公平だよね。ましてや、ゴングが鳴るまで柔道衣を着るか着ないか選べるなんて、不公平以外の何ものでもないじゃん！

――対戦相手としたら、柔道衣ありの場合と、裸の場合と両方を想定して練習しなきゃいけないわけですからね。

金原　そうでしょ？　事前に着るなら着る、着ないなら着ないでわかってたら、それ用の練習すればいいけど、試合するまでわからないなんて、そんなバカなルールはないよ！　実際、こんなルール採用してるの日本だけでしょ？　いい加減、撤廃しなきゃダメだよ。

――そういうこともあってか、田村さんと吉田さんが試合したとき、金原さんは、あまり仲のよろしくない田村さんを徹底的に応援してましたよね（笑）。

金原　そうそう、猛烈に応援したよ。あのとき田村さんは、ＵＷＦとかプロレスの看板を背負ってたわけだから、絶対に負けてほしくなかったし、負けるわけないと思ってたから。あのときも道衣使っての絞めでやられたわけでしょ？　俺はＵインターの新弟子時代から「プロレスこそ最強だ！」って叩き込まれてきたから、ホントに悔しかったな。

――プロレスがアマチュアの柔道家に負けるのは許されない、と。

金原　やっぱり「最強」ということと同時に、「プロとはなんぞや」ということも徹底的に叩き込まれてきたからね。そういう俺たちからすると、秋山とかは〝プロ〟だとは思えないんだよね。

――それは、プロは勝つだけでなく、お客さんを満足させなきゃいけないという部分ですか？

金原　そうそう。プロの興行っていうのは、第１試合からメインイベントまで、それぞれ役割があるんだよ。俺が新人の頃、宮戸さんに言われたのは、「一つの興行っていうのは、コース料理みたいなもんだ。いま第１試合に出てるおまえは前菜なんだ。前菜はパッと火を点けて盛り上げるんだよ！」って。

――ガハハハハ！　さすが炎の料理人・宮戸味徳（みや・とみとく）らしいたとえですねえ（笑）。





昨年大晦日の『Dynamite!!』での桜庭和志戦で、身体中に保湿クリームを塗りたくっていたことが発覚した秋山成勲。現在、無期限出場停止処分中だが、近々復帰するのでは？　という噂は絶えない。6.2『Dynamite!! USA』後になんらかの動きはあるのか？

金原 「前菜を食べたときに、次も食べたいなって思うだろ？　そんな試合をするんだよ！　メインディッシュのステーキの役目は高田さんがやるから、おまえらは次に食べたいなって思わせるような試合を見せればいいんだ」って叩き込まれて育ったからね。

――なるほど。そういう意味でいうと、それこそ桜庭vs秋山戦なんて、非常に〝後味〟の悪いメインディッシュでしたよね。

金原 あんなヌルヌルさせてね。あれをやるってことは、「何をやっても勝てばそれでいい。観客のことは関係ない」って考えてる証拠でしょ。それはプロじゃないだろって。

――そうですよね。

金原 それにさ、俺はヌルヌル以上にこいつ嫌らしいなと思ってることがあって、あの桜庭との試合での秋山選手って、カウンター狙いで桜庭がミスするのを待ってるだけで、自分からは全然攻めないんだよ。

――あ、そういえばそうだったかもしれないですね。

金原 ビデオで観直したらわかるよ。ミドルキックでもタックルでも、最初に仕掛けるのは全部桜庭だから。攻めるときってどうしても隙ができるし、総合格闘技ってグローブが小さいから、カウンター待ってるのって凄くやりやすいんだよ。でも、お互いカウンター待ってるだけじゃ、全然おもしろい試合にならないわけじゃん。それなのに、最近はそういう選手多いんだよね。

――スタンドで膠着してるのって、だいたいそんな感じですよね。

金原 リスクを承知で仕掛けるのって勇気もいるし、技術もいるから、待ってるほうがそりゃ楽なんだけどさ、それじゃおもしろい試合にならないから、桜庭は自分から仕掛けてるわけじゃん。それがメインイベンターの務めだし、俺たちは「それがプロだ」って叩き込まれてきたからさ。そういう俺らからしたら、カウンターを待ってるだけの闘い方する選手はプロとは呼べないよね。

――なるほど。

金原 ましてや秋山選手は昨年の『HERO'S』の（ライトヘビー級）チャンピオンなわけでしょ？　チャンピオンなら、せめてプロらしい試合をしなさいって。

――このままの秋山に総合格闘技は任せてられない、と（笑）。

いまの俺は前田さんを場外心中に持ち込んだ上田馬之助さんの気持ち。「秋山！　おまえを地獄へ道連れにしてやる」って書いといてよ

金原 そうそう。だから俺にとって、同じ対戦表明でも近藤（有己）くんと秋山選手じゃ、正反対の気持ちなんだよね。近藤くんに対しては、リベンジとか決着をつけたいなんていう考えじゃなしに、U系の未来を彼に託したいから、勝ち負けより純粋に試合がしたいから対戦表明したのよ。それに対して秋山選手の場合は、単純に引退前に彼をぶん殴っておきたいというかさ（笑）。

――あいつを殴らなきゃ死ぬに死ねない（笑）。

金原 やっぱり桜庭と同じ流れを汲む俺がやらないとね。引退前の一仕事としてはいいんじゃないの？　秋山を復帰させることに反対の人もたくさんいるだろうけど、あんなことをやっておいて、なおかつ引退する俺に負けたら彼も引退でしょう（笑）。一緒に引退を迎えるのもいいんじゃない？

――秋山成勲を〝無理心中〟に持ち込みますか（笑）。

金原 引退はするけど、俺もただじゃ死なないから。昔、新日本とUWFがイリミネーションマッチで全面対抗戦やったとき、上田馬之助さんが前田さんを〝場外心中〟に持ち込んだときあったでしょ？

――ありましたね〜。二人とも場外に落ちて、両者失格という。

金原 いまの俺は、そのときの上田さんの気持ちだよね。だからさ「秋山！　おまえを地獄に道連れにしてやる!!」って書いておいてよ（笑）。

――いいですねぇ。まさに平成の上田馬之助（笑）。なんとかこの対戦は実現させたいですね！

金原 前田さんの男気に期待してますよ。でも、今回の件について、谷川さんと一回も話してないから、話が通ってるかどうか心配なんだけどさ（笑）。

――前田さんが言うのを忘れてるかもしれない（笑）。

金原 あと何回か前田さんに電話しとかないとダメかな〜。そこでまた「金原、誰と試合したいんや？」って言われるかもしれないけどね（笑）。

――ぜひ、何度も電話することをオススメします（笑）。

【07年5月6日／日本体育大学にて収録】

Hiromitsu Kanehara

1970年10月5日、愛知県尾張旭市出身。91年にUWFインターに入門。その後、キングダム、リングスをわたり歩き、"リングス最後のエース"と呼ばれる。リングス解散後はフリーとして『PRIDE』などに参戦。桜庭和志とはUインター時代からの盟友関係にある。178センチ、87キロ。



秋山成勲の10年間を綴った衝撃ノンフィクション!!

『秋山か、チュか？』

――赤か、緑か――とは何か？

秋山成勲の半生を一冊の本にしたためた男が存在する。韓国、米国、日本で活躍するスポーツジャーナリスト、朴氏がその人である。“世紀のノーコンテスト”から約半年、コリアン・パワーが結集する『Dynamite!! USA』だが、無期限出場停止中の秋山の名は、当然、出場選手の中にはない。この事実、自著、韓国。3つのキーワードから秋山成勲をあぶり出す!



私は彼の心のひだにまで迫りたかった。秋山はなぜ帰化したのか。柔道着に着けている二つの国旗の真意はなんなのか。

朴 志一

朴 志一（パク・ジイル）

韓国・ソウル生まれ。NPO法人「Answer Asia」およびインターネット新聞「NewsJapan」代表。韓国、米国、日本の雑誌新聞などで記者、コラムリストなど歴任。前アジア体育記者連盟海外部ディレクターおよびスポーツエージェント。日本の高等学校でグローバル時代・韓日関係についての講演活動多数

「まばゆいばかりのいくつものスポットライトが照らすリングの上で、秋山成勲はセコンドや支援者たちに囲まれ、至福の笑顔を見せていた。

一方、対照的に対戦相手の桜庭和志は納得のいかない顔で呆然とそれを見ていた。そのときが、日本の総合格闘技界における世代交代の場面だった。

韓国・釜山と日本・福岡県のあいだにある玄界灘。1998年4月、在日コリアン4世の秋山成勲は祖国で柔道をするために、この海を渡った。ここから彼の類まれな人生が始まる」

これは、私がこれから出版する本『秋山か、チュか?―赤か、緑か―』(仮題)の冒頭部分だ。2006年年末に行なわれたK―1『Dynamite!!』の試合で起こったクリーム塗布問題で、無期限出場停止処分中の秋山成勲。

私はスポーツジャーナリストとして約10年間、秋山を見守ってきた。私は在日コリアンのスポーツ選手の愛国心に興味を持っていたが、秋山は私が思い描いていた愛国心を覆す存在だった。

これまでの取材と私と秋山の不思議な運命的な出会いを通して、秋山が起こした今回のクリーム事件だけでなく、秋山の過去と現在、そしてこれから予想できることを書いた。

そのほかに、今回の事件を通じて起こっている韓国と日本のファンのまったく正反対の反応と現象、韓国と日本を含んだ秋山を取り囲んでいるスポーツ界と世界総合格闘技のマーケットにまで踏み込んだ内容になっている。

また、日本とはまったく違ったシステムで成り立っている韓国のスポーツ界についても詳しく記述してある。

チュ・ソンフンは〝秋山成勲〟として日本に帰化したあと、2002年の釜山アジア大会で金メダルを獲得した。

この大会は秋山にとって、これまでの試合の中で最も忘れることができない大会だろう。釜山は秋山の母親の故郷であり、秋山自身が韓国で柔道生活を送った場所だった。日本人になった秋山が、韓国との決別を象徴するような大会(実際、決勝で韓国人選手と対戦して判定勝ちをする)に、秋山は複雑な思いで臨んだだろうと想像できる。

私は彼の心のひだにまで迫りたかった。秋山はなぜ帰化したのか。柔道着に着けている二つの国旗の真意はなんなのか。一人の柔道選手の歩んできた道には、秋山成勲とチュ・ソンフンが存在する。それはメリットなのか、デメリットなのか。そして何より、韓国人である私は在日コリアン4世の秋山が持つ背景に興味を持ち、秋山を通じて民族的な差別問題や韓日関係を訴えようと、秋山のドキュメンタリー映画を企画したが、断念。

なぜ断念しなければならなかったのか。そこからこの本のストーリーは始まる。そのあたりのことについては、書店に並んだ際に読んでもらいたい。



一人の柔道選手の歩んできた道には、秋山成勲とチュ・ソンフンが存在する。

今年1月に原稿は完成して、1月末には出版する予定だったが、いろいろな邪魔があり、刊行が遅れている。原稿が完成してから約半年のあいだに、『PRIDE』の危機と売却、日本格闘技団体のアメリカ市場進出の失敗、ルール変更等など、私の書いたことが日本の格闘技界で現実となって起こってきている。

6月にはK―1の世界進出の明暗を分ける『Dynamite!! USA』大会がロサンゼルスで開催される。K―1にとって日本のマーケットはすでに飽和状態で、さらに新しい需要を創出することが難しい状態だ。総合格闘技はほかのスポーツに比べて市場が小さく、人的資源が乏しいため、必然的に競争が激しくなり、選手の値段が高くなる。

ソニーが中国へ、トヨタが世界へ進出するように、K―1も新しいマーケットを開拓するしかない。アメリカの総合格闘技マーケットは世界一だ。6月のロス大会が失敗すれば、K―1は総合格闘技界でメジャーからマイナーに落ちてしまうという危機感を持って、この大会に臨むべきだろう。日本で唯一のメジャー格闘技団体として、ロス大会は何がなんでも成功させなければならない。そして、その目的を達成するためには、いままでにない何かが必要だ。

その何かとは、韓国人の力だ。

以前から定期的に行なわれているK―1アメリカ大会において、K―1は米国のファンたちの徹底した無反応に遭った。これはアメリカ市場の中でのボクシングを軽視した結果だ。キックボクシングのような打撃格闘技は、世界ではマイナースポーツと捉えられる。

たとえば、ムエタイが有名なタイでも、賭け事は抜きにして、ムエタイよりは世界タイトルがあるボクシングのほうがはるかに人気がある。K―1はアメリカ進出の戦略変更をしなければならない。

9万2000人も収容できるLAメモリアル・コロシアムを会場に選択したのは、LAと周辺地域に居住している韓国海外同胞を考えてのことだろう。

この一帯に住んでいる韓国海外同胞の数は30万人に達しており、そしてテコンドーネットワークを考えれば、韓国と縁がある人の数は計算ができないくらいだ。おそらく、K―1は韓国人テコンドーメダリストをスカウトできなかったことについて、くやしい思いしているだろう。

さらに、同じ海外同胞という立場を米国進出の武器に使おうとしていた秋山まで出場できない状況は、K―1にとっては好ましくないことだろう。

格闘技というスポーツは一般スポーツよりも、民族性に訴えることが比較的容易である。だから、チェ・ホンマンと秋山は無条件で必要だった。そしてアメリカのヒーローとして出場するブロック・レスナーの対戦相手は、当然のことながらチェ・ホンマンだ。

K―1はチェ・ホンマンの登場で予想される米国居住韓国人の動員、そして米国がアレルギー反応を見せる(北朝鮮)ノース・コリアと呼ばれる〝悪党〟のイメージを利用することもできる。

そのうえ、チェ・ホンマンは巨人だ。巨人の選手たちは、悪役のイメージを持たれる。これはすでに世界的な基準である。

今大会に出場が予想された韓国人選手のラインナップは、ほかの大会よりも華やかだ。しかし、UFCの〝レジェンド〟であるホイス・グレイシーの相手として、秋山を出場させることができなかったことを、K―1は長らくくやしく思うだろう。

誰よりも、秋山自身がとても残念だっただろうと想像できる。秋山は柔道の現役時代から英語に興味を持っており、アメリカへ進出することは彼の夢だったのではないだろうか。もし、秋山が出場できていたならば、K―1は『HERO'S』ソウル大会と同様に秋山をマッチメイクの面で優遇し、その期待に応えて秋山は勝利し、米国居住韓国人に同胞としてアピールすることができたはずだ。

K―1と秋山は今回の事件を通して、もっと成熟しなければならない。

これに加えて、さらにいくつかの準備ができたら、K―1のロス大会は必ずや成功という評価を受けるだろう。その〝いくつか〟については、ここでは明らかにしない。K―1がアメリカのスポーツエンターテイメントという市場をきちんと理解することができれば、そんなに難しいことではない。

K―1にその市場を見る目と、スポーツエンターテイメントを結びつける想像力がどれほどあるのか、真の実力を『Dynamite!! USA』で見てみたい。

そして秋山成勲の今後は――。

秋山は今年の7月ないし、年末の大会で復帰すると考えられるが、私の書いた本が秋山のことだけでなく、格闘技ファンたちにとって、さらに格闘技を楽しむための一翼を担えることを願う。(朴志一)

ルビン・エアー　——いや！　日本にはこの男がいる!!

川貞治“総統”

ite!! USA、桜庭vsホイス、そして秋山成勲を語る！

ついにアメリカ進出まぢか！

“日本最後の砦”が、いよいよアメリカ出陣！　世界的MMA大戦の中、ダナ・ホワイト、カルビン・エアーに挑戦すべく、谷川総統が10万人興行となる『Dynamite!! USA』に向けて思いを激白!!　と同時に、前ページに登場した金ちゃんの秋山成勲に対する発言、さらには10年間にもわたって秋山を追った本の出版など、ここにきて再熱しつつある“秋山問題”についても、こっそり聞いてきました〜。

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

——谷川さん、相変わらずかなりお忙しいみたいですね。

谷川　本当に忙しいすぎるよぉ。だって、6月って大きな大会が3つもあるんだもん！

——アメリカへの総合初進出となる6・2『Dynamite!! USA』、6・23K—1 WORLD GPオランダ大会、そして6・28K—1MAXですよね。やっぱり大変ですか、アメリカは。

谷川　もっと時間があればいろいろできることもあったんですけどねえ。あとアメリカ人とのビジネスって凄く凄く勉強になりますよね……（憔悴しきった表情で）。

——すでに何かトラブルがあったんですか、アメリカさんと。

谷川　もう気分は硫黄島ですよ！（笑）。

——ハハハハハ！　谷川総統たるお方が何をおっしゃいますやら（笑）。

谷川　いやあ、栗林中将の気持ちがよ〜くわかりますねえ（しみじみ）。最後はルーズベルト大統領に書簡を宛てたい気分だなあ。「あなたたちの勝ちです！」って。

——あ、もう降伏宣言ですか（笑）。

谷川　それは冗談だけど、アメリカ人ってそれぞれが自分の利益だけを勝ち取ろうとするじゃない。それにさ、大概の人が自分のミスを認めない！

——ミスをしても謝ることすらしないですね。

谷川　そう！　ボクも含めて日本人はある程度、土下座外交すれば物事がうまく進むみたいに思うじゃないですか。でも、アメリカ人は謝らないし、絶対に退かないんですよ！　だからいろんなことが全然進まないんだよなあ。

——要は国民性の違いってことですよね。それに加え、今回はイベント自体もMMA史上最大規模の会場になるわけですよね。それだけに、全体をコントロールするのは本当に骨が折れるんじゃないですか？

谷川　だから本当はさあ、軍隊式の命令系統で上から下にドーンと「突撃せよ！」みたいな感じにしたいんですよ。本当にどこが主催者で金を払ってんだ！　って言いたいですよ、ボクは!!

——かなり怒ってますね（笑）。カードは続々と発表されてますけど、やっぱり気になるのは再戦となる桜庭vsホイス戦が組まれた経緯ですね。両選手にオファーしたときの反応はどんな感じでしたか？

谷川　二人とも快諾ですね！

——快諾！　それは興味深いなあ。

谷川　本当、本当。ホイスとサクちゃんって、お互いに特別な感情があるなって。

——ああ、あれだけの死闘をやったわけですからね。他人には理解しがたい感情は確実にあるでしょうね。

谷川　絶対に友情が芽生えてるよ。だから、本人同士がもう一回やりたいんじゃない。だって、これまでのホイスの姿勢からすると、絶対に拒否するというか、ちょっとは考えるはずじゃないですか。

——基本的に二つ返事はしないですよね、ホイスは。

谷川　たとえばマット・ヒューズが相手だったら「ファイトマネーを上げてくれ」とか「考える時間をくれ」とか言ってきそうなもんですけど、でもサクちゃんでオファーしたら、素直に「わかった」ってうなずいてましたからね。

——ちなみに、谷川さんはこの対戦はどうなると思いますか？

谷川　いやあ。人がいいほうが負けると思いますけどね。

——そうなると、いまはホイスのほうに分があるんじゃないですか？

谷川　でも、サクちゃんも本当にサディスティックだからね〜。相手へのイヤがらせを考えついたら、キャッキャ興奮しながら実行するタイプですよ。それに対して、ボクの中でのホイスはMのイメージなんだけど、グレイシーの人たちって相手を痛めつけることに対してはもの凄く平気っていうか、躊躇しないし、残酷だからなあ。


——試合前の駆け引きからして、けっこういやらしいですよね。

谷川　UFCの第一回大会のホイスなんて、絶対に人を殺めている顔つきだよ。なんか、一人だけ覚悟が違うというか、凄い目つきでしたもんね。それが、いまはお金持ちになって優しくなってなければいいけど。

——そういう意味では、ブロック・レスナーはよくMMAにチャレンジしますね。富も名誉もあるはずなのに。

谷川　彼は凄く興味あるんですよ、MMAというジャンルに。しかも、彼は純粋にアスリートコンプレックスがありますよね。アメフトとかMMAのほうがプロレスより格上だと思っちゃうタイプ。そこはカート・アングルとは違うんですよ。彼はアマチュアで頂点を極めた人だから、逆にプロレスに対する理解度がありますよね。そこは別ものとして割りきっているんでしょう。

——アメリカでは、プロレスとMMAって〝地続き〟じゃないじゃないですか。レスナーの挑戦には、どういう印象があるんでしょうね。



ダナ・ホワイト、カルビン・エア

谷

Dynamite!!

日本の切り札が考える
"わるいやつら"とは!?

SoftBank PRESENTS Dynamite!! USA in association with ProElite

桜庭和志vs
ホイス・グレイシー戦決定!

谷川　アスレチック・コミッションの人たちは、期待半分と、「あんまりできないんじゃないか」っていう気持ちが半分でしょうね。でも、へんな話、アメリカのマーケットでいうと、プロレスラーをMMAに出すとプロレスの試合になっちゃうんじゃないか？　という危惧があるみたいですよ。だからコアなMMAファンやマスコミからは叩かれるかもしれない。でも、期待度は桜庭vsホイスと同様ですね、いまのところ。

――日本のようにプロレスとMMAの歴史に接点があって、そこにロマンを感じることができないという。

谷川　MMAのファンからは単純に"ヨソ者"だという意識でしょ。だから、アメリカのヒーローでありながら、MMAにとってはヒールに見られるところはあるでしょうね。

――だからこそ、レスナーのポテンシャルよりも、彼の出場に対する反応が凄く楽しみなんですよね。



"ヌルヌル問題"における秋山の裁定が発表されたのは、大会から11日後。秋山は自ら会見場に姿を現わし、「柔道の子どもたち、桜庭さん、本当に申し訳ありませんでした」と謝罪した。



06年大晦日に開催された『Dynamite!!』メインイベントで"ヌルヌル問題"を起こした秋山成勲。試合中および試合後の桜庭和志の猛抗議は記憶に新しいが、これにより主催者側はこの日の秋山の動向を徹底究明することに。

この問題に最初に反応したのはやっぱり猪木さんじゃないですか

谷川　会場もデカイですしね。絶対に満員にしますよ！　本当に世界的な大会にしようと思ってますから。アメリカだけじゃなくて日本のマーケットはもちろん、韓国マーケットも狙ってるし、ヒスパニック系とかアラブ系とか、そういうところも含めて世界大会にしたいなって。

――チェ・ムベやユン・ドンシクの参戦は、韓国マーケットを狙った参戦なんですよね。

谷川　いや、チェ・ホンマンはそういうビジネス的な狙いはありますけど、ユン・ドンシクに関しては本当に自分から「メルヴィン（・マヌーフ）とやりたい」って直訴してきたんですよ。チェ・ムベに関しては、もうマイティ・モーの相手は韓国人だって決めてましたから。誰かがモーに勝つまで韓国人とやらせようと思ってますから（笑）。

――韓国マーケットを狙うとなると、やはり秋山（成勲）選手が出場できないのは谷川さんからすると残念なんですか？

谷川　まあ、いまは謹慎処分中なんでね。今後どういうふうに秋山選手を扱っていくのか？　ということも考えないといけないんですけど。

――秋山選手はロス大会にもともと出場する予定はあったんですか？

谷川　こんな騒動になる前は出す予定だったんですよね。でも、事が起こってからは一切、考えなかったですね。

――でも、谷川さんの中で秋山選手の復帰時期は多少なりとも考えていたりするわけですよね？

谷川　いまは考えられないです、本当に。ほかのことに時間をとられちゃっているのが正直なところですね。

――時間があれば考えたいんですか？

谷川　う〜ん、考えたいなあ。せっかくのタマだし、秋山成勲という怪物がいるぞ！　っていう思いはありますからね。

――ただ、最近のファン心理からすると、ああいった事件を起こした選手に対して、最初から拒絶してしまう傾向にあるじゃないですか。つまり「秋山なんか永久に出すな！」みたいな雰囲気がある。まあ、当然なんですけど。

谷川　う〜〜〜ん。もちろん秋山選手に関しては、やったこともよくないし処罰は厳しく受けるべきだと思いますけど……。つまり、いまのファンはピンと来てないかもしれないけど、この問題に一番最初に反応したのはやっぱり猪木さんじゃないですか。そういう感覚って、ボクらの世代には染み込んでますよね。

――要するにトラブルやスキャンダルをビジネスする感覚であり、事件や問題をいい意味で転がしていくセンスですね。

谷川　うん。そこはプロモーター側が最も腕の振るいようがある部分ですよ。

――プロモーターとしての立場ではなく、ファン目線からしてもやっぱり興味はあるんですか？

谷川　ありますよ！　でも、それはリングから遠ざかっている選手に対する興味でもあるんですよ。KID（山本KID徳郁）くんも同じことが言えますし。要するに、ターザン山本！用語でいうところの"溜め"！　その"溜め"をどう使うのかってことですよ。

――いまはターザン山本！さん自身がずっと"溜め"を利かせてますけどね（笑）。

谷川　……どうしてああなったんだろうねえ。だから、僕はもちろん考えたいし、実際いろいろ考えましたしね。

――え？　山本さんを？

谷川　んあ〜！　秋山選手！

――あ、すいません（笑）。

谷川　たとえば、サクちゃんが『PRIDE』に「出たい」って言ったときに、「秋山選手が行ったほうがおもしろいなあ」とかさあ。

――はあ。そうなったらファンはヒートするでしょうね。

谷川　あとは対戦相手でいうと、もちろん桜庭選手もそうだし、異様に噛みついてた田村（潔司）選手も観たいし、それからホイスも怒ってましたからね、秋山選手には。

――親友のサクをあんな目に遭わせやがって！　と。

谷川　うん。あとムリーロ・ニンジャ戦も観たいなあ。

――なぜニンジャ!?　谷川さんって、なぜかニンジャが大好きですよね。

谷川　ニンジャ、大好きなんですよお！

――でも、秋山選手の相手は観ているファンが感情移入しやすいような相手がいいと思うんですけどね。

谷川　でも、ニンジャみたいな強いヤツに秋山選手は勝っていくんですよ。そんな姿が観たいなあって。ニンジャにも勝って、ショーグンにも勝って、ファンが凄くくやしがって。

――たとえば、谷川さんの中では田村vs秋山戦ってピンときてない部分もあったりするんですか？

谷川　いやいや。桜庭vs田村戦よりは全然ピンと来てますよ。田村vs桜庭戦はちょっとまだ理解ができない！　なんでバラさん（榊原DSE代表）はこだわるのかなあ。

――「DSEが唯一実現させることができなかったカード」という思いもあるのかもしれませんね。

谷川　でも、田村vs秋山戦なら断然興味ある。だって、ヒールだったら田村選手だって負けてないでしょ？

――ハハハハハハ！　田村さんはサイコなヒールですけどね（笑）。

谷川　でも、秋山くんのヒール度にはかなわないかなあ。あんなにナチュラルな感じのヒールって、そうそういないですからねえ。自分でヒールになろうとしてる人はいますけど、そういう人って全然ヒールに感じられないんですよ。しかも、秋山選手って外見はベビーフェイスに見えるヒールでしょ？

ボクの中のヒールのイメージはねえ、やっぱり共通して"外面がいい"ってことですね



谷川氏が"真のヒール"だと語るボブ・サップとチェ・ホンマン。二人とも歌とダンスが軽快で、非常に陽気なモンスターに見える部分もあるが、その裏側には知られざる一面が!?

――世間的には。国技の柔道というバッグボーンもありますし。

谷川　だから、おもしろいんですよ。

――ちなみに谷川さんの中で、ヒールとして絶対に必要なものってどんなことだと思いますか？

谷川　ボクの中のヒールのイメージはねえ、共通して言えるのは、外面がいいってことですね。

――外面がいいこと。

谷川　外面が悪くてヒールに見える人っていますけど、それってあんまりヒールじゃないんだよなあ。じつは気が弱いとか、もの凄くマジメだとかってなるでしょう。でも、本当のヒールって外面がもの凄くいいですよ。

――ボクも思い当たる人間がたくさんいますけど（笑）。たとえば誰ですか？

谷川　……ボクかなあ。

――ハハハハハハハ！　その答えを待ってました。よっ、サダハルンバ！

谷川　だって、バラさんだと、外面はいいんだけどヒールまでいかないんだよね。バラさんは、どっちかって言えばベビーフェイスのほうにもっていきやすいタイプですよね。

――そういうヒールやベビーフェイスの素質ってもともと生まれ持ったものなんですかね。"自称ヒール"の谷川さんご自身はどうですか？

谷川　ボク!?　ボクは……でもボクってヒールかなあ（ぶつぶつ）。

――自分で言ってましたよ（笑）。でも、谷川さんはヒールじゃないと思いますけど。

谷川　本当ぉ!?（ちょっと嬉しそうに）。やっぱり、ヒールじゃないよね!?

――立場的にそう見えたり、ウチがヒールとして扱っているところがあるかもしれませんけど。

谷川　そうだよね、そうだよね（しつこく）。……あっ！　そういえば、凄いヒールがいましたよ!!　チェ・ホンマン!!　あれはヒールだね、人間が。

――性格が悪いという話はよく聞いてますけど（笑）。

谷川　セーム・シュルトとチェ・ホンマンだったら、チェ・ホンマンのほうがかわいらしい感じもしますけど、シュルトのほうが凄くいいヤツだもん。いつでも試合してくれるしさ、どんなルールでもOKしてくれる。

――チェ・ホンマンは面倒くさいんですか？

谷川　面倒くさい！　あと同じくらいボブ・サップも面倒くさかった。ボクは彼が人気絶頂のときに「コイツはヒールだなあ」って見抜いてましたからね。サップも外面が凄くよかったし。だから、やっぱりヒールっていうのは面倒くさいのが特徴かもしれませんね。

――じゃあ、秋山選手も面倒くさい部分があるんですか？

谷川　簡単ではないですね。非常に素直でナイスガイなんですけど、簡単ではない。



谷川氏をして「ボクは彼には弱いんだよなあ〜」と言わしめたのが、人間として"新領域"に達しているという山本KID徳郁。「オレ、神の子だから」をはじめ、確かにつかみどころのない発言は多い!?



かつて『PRIDE GP 2000 決勝戦』で90分間の死闘を繰り広げた桜庭とホイス。この闘いで、二人には特別な友情が芽生えていると谷川氏は言う。しかし、二人の再戦については非常に複雑な意見も多いようである。

面倒な人って大一番になればなるほど面倒になるからやっかいだよねえ

――秋山選手の面倒くささというのは、具体的にどういう部分なんでしょう？

谷川　いい意味で言えば、自分の美学があって、その美学に対するナルシストなんですよね。それを、正直に言わないのがわかりづらいというか。

――その美学は他人でも理解できるような美学なんですか？

谷川　他人はそういうふうに思ってないことなんですよ。だから、チェ・ホンマンなんかそうじゃない。

――ああ、あの自己陶酔ぶりは凄いですもんね（笑）。

谷川　こっちはね、『オイラはチェ・ホンマン』みたいなラップを歌って入場してくれなんて全然、頼んでないんですよ。あれはホンマンが勝手にやってるんですよ！

――しかも口パクですからね（笑）。

谷川　やっぱり一番、面倒くさいのは、自分の思いを直接言わないことですよね。で、周りには違うことをアピールする。それで混乱していくパターンがありますね。

――それは想像するだけで面倒くさいですね。でも、最近はそういう面倒くさい選手って減ってないですか？

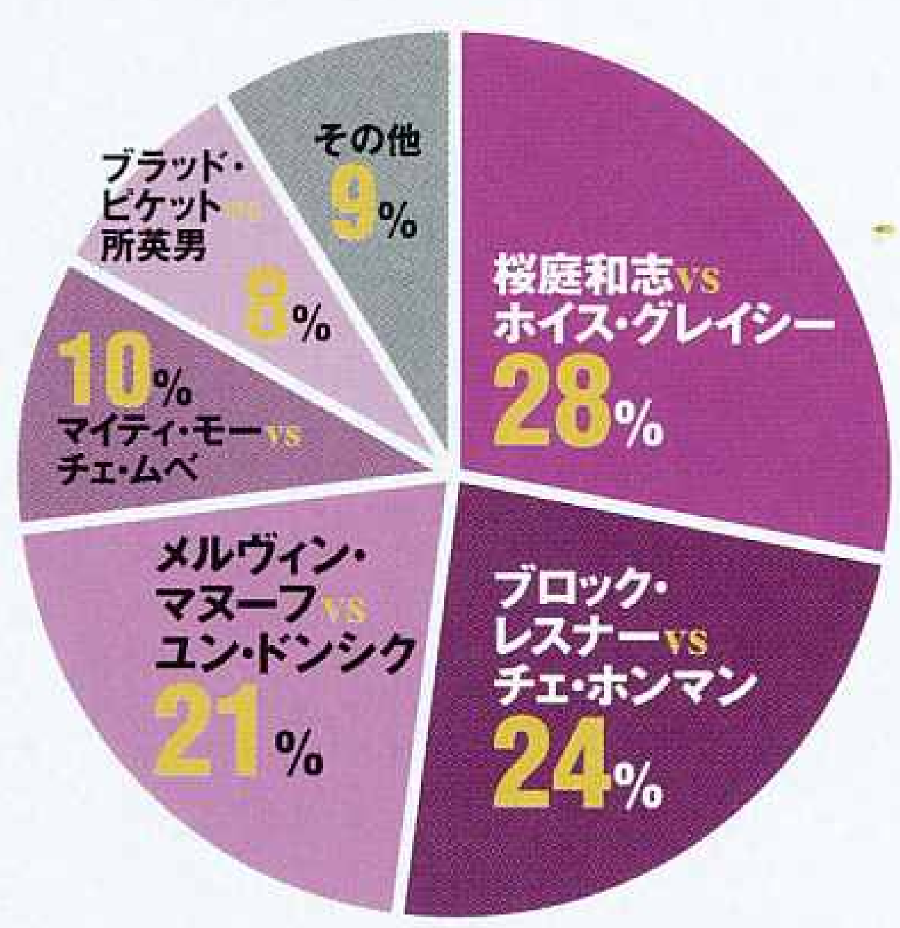
谷川　そうだなあ。外国人は数人、日本人も数人だなあ。でもさあ、面倒くさい人って大一番になればなるほど面倒くさくなるからやっかいなんだよね。本当に。

――それは根っこのところで他人を信用しないっていうことなんでしょうね。

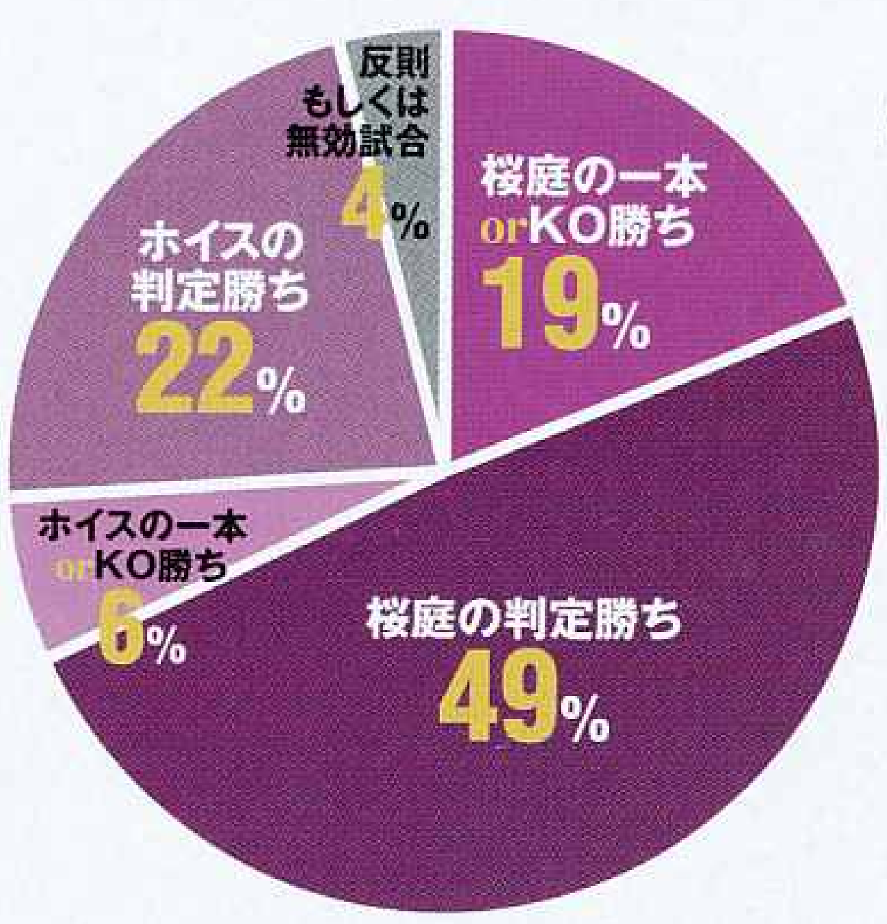
谷川　やっぱり勝負どころの嗅覚が凄く働くんでしょうね。だって、普通の選手は大一番になれば、まず相手に勝つことを一番に考えるじゃないですか。でも、面倒くさい選手の場合は「文句を言おう」「何か違うことを勝ちとろう」という意識が働くんですよね。

『Dynamite!! USA』をドウ・ザ・ジャッジ！

Q1 5月8日発表済みの『Dynamite!! USA』で一番観たいカードは？



Q2 桜庭和志vsホイス・グレイシーの勝敗予想をしてください。



ブロック・レスナーのMMA初参戦に加え、桜庭vsホイスという注目カードが発表された『Dynamite!! USA』。桜庭vsホイスに関しては「前回以上の闘いを見せてほしい」というユーザー意見もあるようだが、「伝説は伝説のままで残しておいてもらいたかった」という複雑な意見も多数。その一方で『Dynamite!! USA』で最も注目されている対戦も桜庭vsホイスであるというのは不思議な現象である。また、マヌーフvsユン・ドンシクも注目されている。

（アンケートは『kamipro Hand』にて集計）

結論からすると、秋山くんもリングに上げてその後の人生を見ていくしかないんですよね

――そういう面倒くさい選手に、谷川さんはどういうふうに対処してるんですか？

谷川　まず、ゴネてる根本を見つけ出すことでしょう。何に不満を持ってるのか？っていうことの究明ですよね。

――でも、それって予想外のことだったりしますよね。

谷川　うん。だ、か、ら、わけがわからないんだよ!! もう！

――ハハハハハ！

谷川　え？　そんなことでゴネてるの？ってビックリすることがありますから。

――で、それはゴネてることとあまり関係なかったりするんですよね。

谷川　そう、そう!!（身を乗り出して）。

――ハハハハ！　でも、選手の心理とか読むのはもの凄く鍛えられるんじゃないんですか？

谷川　昔から相手の心理を読むのは得意なほうだとは思ってますけど、凄く鍛えられますよ。

――いままでで一番わけがわからない選手って誰ですか？

谷川　一番か……（考え込んで）。わけわからないというより、つかみどころのないのはKIDくんかなあ。

――へえ〜。確かに、考えていることが読めない部分がありますよね。いまの若者はみんなあんな感じかもしれないですけど（笑）。

谷川　ボク、弱いもんなあ、KIDくんには。でも、KIDくんはヒールではないんだけどね。どっちかといえば、ナチュラルベビーフェイスだと思うんですけど。KIDくんはなんだか一つ上をいってますよ、人間として。

――須藤元気はどうでしょう？

谷川　元気くんはつかみどころのないタイプなんですけど、同時にもの凄く純真というか、自分のやりたいことに対して素直ですよね。いま、自分が何を思ってるかをちゃんと伝えてくれるし、話していけばわかるタイプですね。KIDくんはこっちが話をしても変わらないもん。そういう意味ではやっぱり突き抜けてるなあ。

――そういう性格的なことでいうと、秋山選手が身体にクリームを塗った行為も地の部分が遠因になっている可能性もあったりするんですかね。

谷川　それはあると思いますよ。ただ、いまの風潮というのが、そういったちょっと目を背けたくなるような人間性を消そうとするから、なかなか難しいですよね。でもさあ、どうしてそういうファンが多くなっちゃったのかなあ。ボクらがファンの頃はすぐ「秋山を引きずり出してブッ倒せ!!」って興奮する感じだったんですけどね。



――「誰が制裁するんだ！」って感じで。

谷川　逆に秋山選手は強いヤツを当てられても、全然潰れなくて、ファンをくやしがらせることになってもおもしろいし、そこを楽しんでたファンって確実にいたんですけどねえ。

――やっぱりいまは世の中もそうですけど、ちょっとでも臭いものはなんでも排除しようという動きがありますからね。

谷川　時代性の問題かあ。

――秋山選手の問題ではあるんですけど（笑）。でも、おそらく秋山選手がこのままリングに上がらないということは絶対にないと思うんですよ。いずれリングに上がる。だったらヒールとしての秋山選手を誰かが排除してほしいし、そこがプロレスや格闘技のおもしろさでもあると思うんですよね。

谷川　それを一番感じられるのが格闘技でしょ？　気の強さとか気の弱さとか、その人のダメなところが全部見られるし、そこを楽しむはずだったのになあ。だって、あれは珍しくいい意味でのガチンコでしたよ。

――桜庭さんも試合後にあんなに強烈にアピールをするほどガチンコだったわけですからね。普通だったらあそこで引き下がりそうな気もしますけど。

谷川　そうそう。控室でも「絶対に塗ってるよ！」って凄く怒ってましたからね。サクちゃんのガチンコ度も高かったし、ファンの反応もガチンコだったし、我々運営側のガチンコ度もの凄く高かったですよ。あのあと、徹底的に映像から何から調べましたから。

――マスコミも熱かったですよね。

谷川　あのねえ、秋山くんの前で泣いた記者もいたらしいですよ。「なぜあなたはそんなことをしたのか？」みたいな感じで。

――んあ〜！　熱いなあ（笑）。

谷川　問題としては批判されても仕方ない行為ですからね。ただ、我々としても、たとえば謹慎処分期間がちゃんと決まっていても、どこまで本人が反省してるのか？っていうのはわからないわけじゃないですか。だから、結論からすると、リングに上げて、その後の人生を見るしかないんですよ。あれだけの波紋を投げかけた秋山くんは、この次、何を起こすのか？　どう生きていくのか？　だから、秋山くんをどう導いていくかは問われてきますよね。

――谷川さんは秋山選手に勝ち続けてほしいですか？

谷川　勝ち続けてほしいですよぉ。強いヤツをどんどん倒してほしいです。たとえば、ニンジャとか！

――やっぱりニンジャ（笑）。

谷川　メルヴィン（・マヌーフ）でもいいんだけどね。馬乗りになってボコボコにしてほしいですよ。そういうところが秋山くんがもっと化ける要素ですよね。

――わかりました。アメリカ進出を含めて、谷川総統の素晴らしい手腕に期待させていただきます。

谷川　ええ。ぜひ期待してくださいよ。……それにしても、今日はなんだかデリケートな質問ばっかりだなあ。

――誌面の構成上、谷川さんに聞かなきゃならなかったんですよね。

谷川　ああ、そうなんだ。ボク、ヒールに思われない？

――いや、思われると思います（笑）。

谷川　んあ〜！　ボクはやっぱりヒールじゃないってちゃんと書いといてくださいよ！

【07年5月8日／都内・会員制クラブにて収録】



チームARMS師弟対談

柴田勝頼×船木誠勝

師弟関係から柴田の今後の動向、気になる船木復帰についても直撃！

聞き手／松澤チョロ　撮影／梅木麗子　試合写真／乾晋也

3月12日『HERO,S』名古屋大会で山本宜久相手に、わずか9秒という劇的なKO勝ちで、総合デビューをはたした柴田勝頼。

「柴田選手を日本で一番有名なプロレスラーにしてみせますよぉ！」と、日本人スター選手不足に悩むFEG谷川貞治代表も大会直後から柴田には多大なる期待を寄せている。んあ〜！


高校卒業後に新日本プロレスに入門した柴田は方向性の違いから新日本を退団すると、上井文彦率いるビッグマウスに入団。しばらくはビッグマウス・ラウド所属として『WRESTLE−1』やNOAHマットでも活躍するも、ほどなくしてフリー宣言。その後、UWAI STATIONでも浜中和宏戦をはじめ評価の高い試合を連発していたが、今年に入るとバッタリと音沙汰なし状態に。

そんな中、3月1日に突如『HERO,S』参戦を表明した柴田。その傍らには1年以上前から柴田とともにトレーニングを積んでいた船木誠勝の姿があった。前田&船木がビッグマウスラウドから撤退したあとも、変わらず船木との練習を続けていた柴田は、昨年、「総合の試合をやりたい」と船木にアピール。会見では「刀を渡され、毎日研いでいたら、それを使いたくなった」と総合進出を決めた理由を明かした柴田。この会見を機に船木と柴田は二人きりで〝武器〟を意味する〝ARMS（アームス）〟というチームを結成。

「その武器が一つでも二つでも増えていけるよう頑張っていきたい」という船木は、自ら「柴田は〝船木という名の無人島〟の中で暮らしてるような感覚だと思います」と語っているように、技術指導はもちろん、肉体改造から食事面に至るまで、24時間体勢で柴田をバックアップしているのだ。

7月にも予定されている『HERO,S』ライトヘビー級トーナメントに向け照準を絞るチームARMSの二人に、今後の展望から、桜庭vs秋山問題、さらには気になる船木復活の可能性まで、ざっくばらんに語ってもらいました！

こっちのゲノムもマッドネス！ 船木ゲノムは連鎖する!!



MSの二人に今後の展望から、桜庭V秋山問題、さらには気になる船木復活の可能性まで、ざっくばらんに語ってもらいました！

――『kami-pro』では船木さんにこれまで何度か対談で出てもらって、橋本真也さん、田村潔司さん……。

船木 （さえぎって）あと、武藤（敬司）選手と佐山（聡）さんも。

――ほかにも所英男選手、宇野薫選手とやってきましたが、今回は初めての師弟対談というわけで、よろしくお願いします。

船木&船木 よろしくお願いします。

――取材前に練習を拝見させてもらいましたけど、こういう練習がほぼ毎日のように行なわれているわけですね。

船木 そうです。ただ、まだ（柴田の）拳が完全に治ってないので満足にはできてないんですけど、できることをやってます。

――一緒に練習をやられて1年半ぐらい経ってると思うんですけど、柴田さん的には船木さんと練習するようになって何か意識とか変わりました？

柴田 1回1回の練習をムダにするつもりはないんで、1回の練習で必ず何かつかむという意識でやってます。これは無理とかやりたくないとか感じたことはないです。

――ボクなんかのイメージだと、船木さんってもの凄く怖いイメージがあるんですけど、どうでしょうか？（笑）。

船木 俺、怖いですかねえ？

――キレたら怖いみたいなイメージがたぶんファンとかにもあると思うんですが……。

船木 キレてないですよ（小力調で）。

――アハハハハ！ キレてないですか（笑）。

船木 キレることとしないですからね。

――あ、キレることはしない。

船木 柴田はダラダラ練習してないんで。ホントに1時間だったら1時間、2時間だったら2時間、ずっと動いてますからね。だから身になることしかやってないんで、まったくムカカすることがないんですよ（笑）。

――柴田さんは船木さんからパソコンをもらったんですよね。

柴田 詳しいですねえ（笑）。

――で、『You Tube』とかで、いろんな格闘家の映像が送られてくるみたいで。

柴田 そうですね。参考になる選手の動きとか、次の練習でイメージして活かしてって感じでやってます。

――いろんな映像を探して、これは参考になると思ったらすぐに送ると？

船木 そうですね。この人のこの部分がいいとか、そういうのを特集にして、5本とかまとめてアドレスを貼りつけて送ったりしてますね。

――最近でいうと、どんな選手の映像を？

船木 このあいだはティト（・オーティズ）特集を送りましたね。

――ティトですか。しかも特集で（笑）。

船木 UFCでチャック・リデルとやった試合とか、あとは、どっか凄い高い山のとこで合宿組んで練習してる映像とか。それプラス、長州力vsローラン・ボック戦をおまけでつけて（笑）。

――ガハハハハ！ そんな感じで一緒に練習するようになっていくうちに、柴田さんの中で総合の試合がしたいと思うようになったんですよね。

柴田 そうですね。試合に出たいっていう気持ちになりました。

船木 半年ぐらいして、「総合やってみたい」って言われて。ちょうどビッグマウス・ラウドから自分と前田さんが離れて。それからちょっとしてからですね。

――一緒に練習を始めた頃から、いわゆる総合的な練習をしていたわけですか？

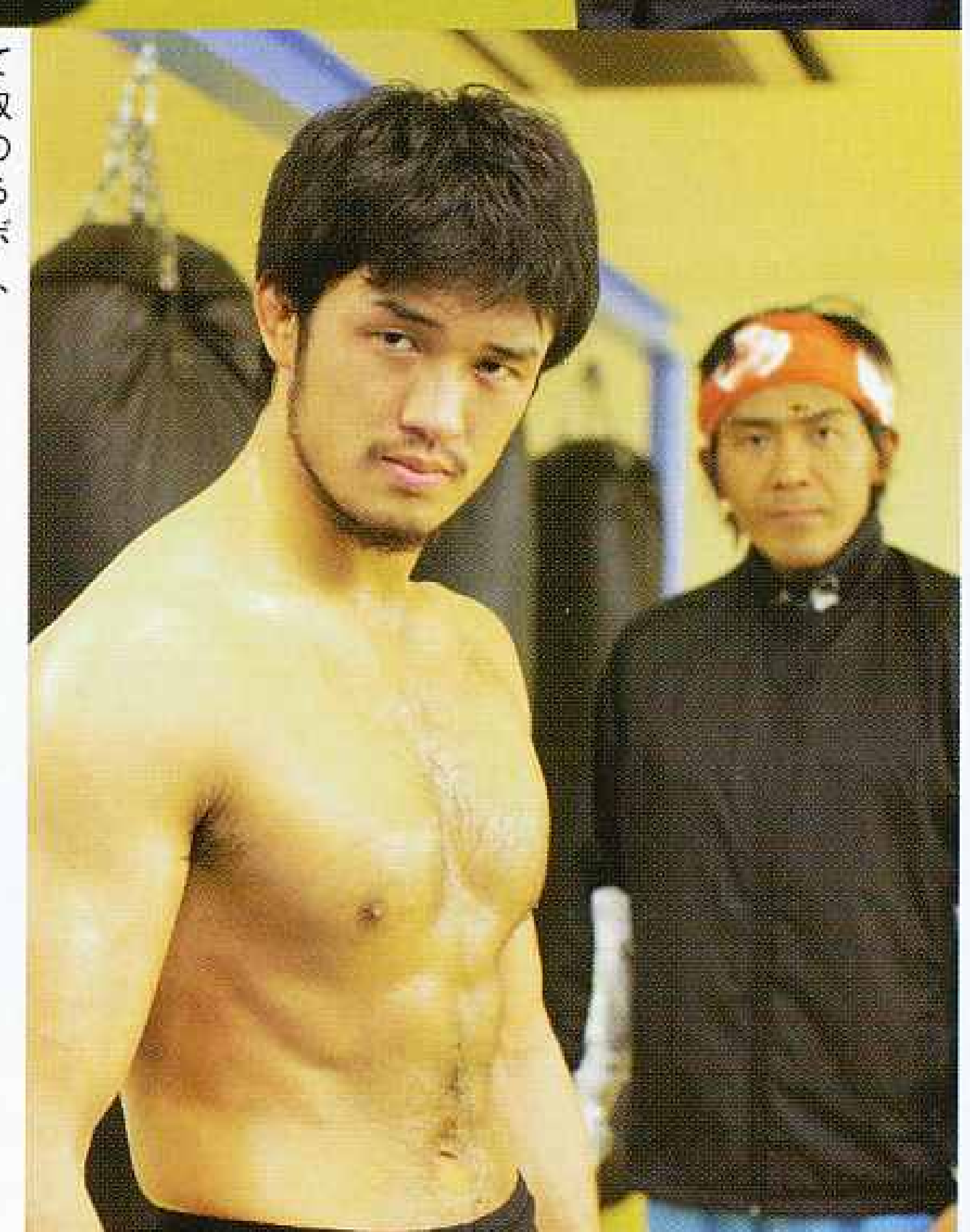
船木 ずっとやってましたよ。普通にプロレスラーとしての強さですね。いわゆるセメントの部分で強くなってもらいたいっていう気持ちで格闘技の練習を始めたんですけど、やっぱりスタミナとか、あと身体の使い方とか。当時は自分の身体を持て余してたんで。ウエイトトレーニング一つにしても自己流っていう感じでやってたんで、それを全部矯正してあげて。

――そういえば、船木さんのブログで書かれてましたけど、最近は二人で昔のプロレスの話をすることが多いみたいですね。

船木 ずっとしてますよ。新日本の昔の話とか、自分の知ってる範囲で「昔はこうだったよ、最近はどうなの？」とか聞いたり。

俺、怖いイメージありますかね？ キレてないですよ（小力調で）（船木）





船木との二人三脚で、ほぼ毎日トレーニングを行なっている柴田。取材で訪れたこの日も熱のこもった練習が取材開始時間を過ぎても延々と続いた。技術的な練習のほかにも、船木指導のもと肉体改造にも着手している柴田。現役時代の船木を彷彿とさせるハイブリッドボディとなった柴田。ちなみに取材時は85kg。もちろん、照準は『HERO'S』ライトヘビー級トーナメントだ！

柴田 昔のプロレスはおもしろいです。なんて言えばいいんでしょうかね。お互い探りながらやってるような気がして。心を許しすぎてない、みたいな。凄くいいですね。

――そういう意味で年代は違いますけど、考え方は近い部分があるのかなって。

船木 そういう感じはしますね。だから総合の試合に出たいって思ったのも、自分の知ってる猪木さんの頃の新日本の若い選手であれば、そう思ってあたりまえだと思うし。自分自身もそういう気持ちでUWFに行って、藤原組に行って、パンクラスっていうその流れは全部その気持ちだけだったんで。一人だけでもこうやって新日本の後輩にいたっていうのは凄くよかったですね。

――船木さんは引退して7年経ちますけど、要所要所で復活の話も出てますよね。

船木 そうですね。

柴田×船木誠勝



プロレスラーとか格闘家というか、自分はファイターでありたい。闘うっていうのが基本（柴田）



柴田の総合デビュー戦（※ジャングルファイトへの参戦はあるが…）となった3.12『HERO'S』名古屋大会での山本宜久戦。柴田は開始早々、ヤマヨシのミドルもかまわずパンチでダウンさせると、そのままパウンド連打で船木もビックリの秒殺勝ち。試合後はコーナーに登って絶叫!

――柴田さんと山本（宜久）選手がやるとなったら船木さんが挑発されたりとかもありましたし。以前から「今度真剣勝負をやるときは殺し合いをするときだ」みたいなことを言われてましたよね（笑）。

船木　言ってましたね。やるとかやらないとかっていうのは、たぶんやるときはやっちゃうと思うんですよね。

――やるときはやっちゃいますか⁉

船木　でもやらないときはやらないと思うんで（笑）。

――やらないときはやらない（笑）。

船木　だから自分で「もうやらない」とか「やります」とかってことは言わないようにして。いまはホントに柴田をできるだけ強く、どこまで強くするかっていうことが一番大事だと思うんで。

――実際、ビッグマウス・ラウドで復帰戦の話が具体的に出たこともありましたよね。

船木　あれは前田さんとの約束というか、UWFが解散してバラバラになって、そのあと14年間ぐらい、ずっと話してなくて、ひさしぶりに再会したときにいろんなわだかまりというか、誤解も全部解けて、「もう1回あの続きを」って前田さんが言ったんで、そのときに、UWFは途中で終わってるから、あれがいまの時代になったらどういうかたちになってるかっていうものを作ろうっていうことは興味あるなって思って。

――それがスーパーUWFとか第三次UWFって言葉で報道されたわけですよね。

船木　それがビッグマウス・ラウドだって思ったんですけどね。まあ、上井（文彦）さんも知らない人ではなかったですから。だけど始まる前からいろんな意味でまとまってなかったんです。だからビッグマウス・ラウドで復活しなくて正解だったと思いますね。

――結果的には正解だったと？

船木　その話がなくなった時点で、1回ご破算というかたちで自分の頭の中ではなってて。次にもしもやるとかやらないとかってなるときは、人に言われてとか人のためとかっていうことにはしないようにしました。あくまでも自分で、やりたくなったらやる、やりたい気持ちが起きなければ絶対やらない。人が絡むと大変だなって思ったんです。そこまで自分の気持ちを盛り上げて、たとえば前田さんと上井さんのあいだにいざこざが起きて、それで自分の状態が宙ぶらりんになったわけじゃないですか。

――そうですね。

船木　俺としては前田さんに言われてそういう気持ちになったんで、いなくなったら、やるわけにはいかないですし。そういうこともあって、人がこう言ったからっていうことではやらないことにしました。

――わかりました。柴田さんは船木さんと出会ってなかったら、いまどういう状態にいると思います？

柴田　どうなんですかね？　……わかんないです（苦笑）。

――『HERO'S』に上がってたと思います？

柴田　いや、上がれてないと思います。船木さんと出会ってなくて練習してなかったら……どうなったかってなると……わかんないですけど……ホントにわかんないですね（笑）。なんとも言えないんですけど。

船木　でも、必然的だったような気がしますしね、一昨年と去年で。一昨年から練習をするようになって、去年になって「総合で試合したい」ってなったんで、それまではいつ出すかとか、そういうことも考えてなかったですから。レベルに合わせて徐々に強くなればいいなっていうことだけ思ってて。で、今年の頭ぐらいに言われて、もしかして受け入れてくれる団体がどこもなかったら、それこそしょうがないじゃないですか。

――まあ、そうですよね。

船木　柴田に「プロレスやりながらやることは無理？」って聞いたら「プロレスやりながらはしたくないです」って言われたんで、イチかバチかで前田さんに相談をして。でもあんまり時間はかからずにすぐ返事をくださって。突然決まった感じで。

――プロレスとの両立は考えたりしなかったんですか？

柴田　要領よくやりたくなかったんですね。どっちも中途半端だと、どっちにも失礼なんで。自分の中でそれはやりたくなかったんで。

――いまはプロレスよりも総合のほうが魅力的だというふうに思ったわけですか？

柴田　いまは総合のほうが……。

――自分のことを表現しやすい？

柴田　表現？　……そうですね。自分の表現方法が総合だった気がします。

船木　「プロレスラーは強いんです」って言うプロレスラーがいるんであれば、総合に出るべきだろうし。桜庭選手がそうやって言ってたじゃないですか。それで凄く支持を得た部分ってあると思うんですよ。ほかにも言ってる人います？

――いないですね。

船木　言えないでしょうね（笑）。強いっていうキーワードを追求してるんであれば、いまは総合しかないんですよね、単純に。

柴田　そういう意味ではファイターでありたいですね。プロレスラーとか格闘家というか、ファイター。闘うっていうのが基本であリたいっていうか。単純に高校生から上京してきて道場に入って、強くなりたいからプロレスラーになって。だから変わってないと思うんですよね、入門した動機と。

――いろんな意味で、次の試合はかなり重要になってくると思うんですけど、船木さん的にはどういった相手とやらせたいとかありますか？

船木　そうですね、強い人でいいんじゃないですかね。ヘタに弱い人とやっても、いまはファンの目も肥えてますし、注目もされなくなってくると思うんで。「どうせ勝つだろ」って試合なんかべつに観たくもないですから。だからできれば強い人とやったほうがいいと思うんですよね。

——船木さんはシウバとかショーグンとか、ああいうタイプとやったらおもしろいんじゃないかと言ってましたよね。

船木　そうですね。グラウンドに引き込んで固まってるような選手とは、あんまり得るものはないと思うんで。張りつけられてるだけみたいな（笑）。だったらイチかバチかで勝負に出てくるような選手とやったほうがスイングすると思うんで。

——柴田さんは誰か闘いたい選手は？

柴田　まあ、強い選手なら誰とでも。

船木　自分が柴田とずっと一緒に練習してて思うんですけど、そういう次元じゃないような気がするんですね。たぶん人気とか、ブームだからとか、そういうの全然気にしてないんですね。名前が出てきたら「じゃあそれで」って言いますから。そうなると逆に今度は、柴田の目の前に来た選手がみんな夢のカードになっちゃうと思うんですよ。柴田が同一線でみんなを見てるんで。

——じゃあホント、谷川さん次第になってきますね（笑）。

船木　そうですね（笑）。谷川さんがどういう選手を目の前に差し出すかだけだと思うんですよ。

——谷川さんはホントに柴田さんを買ってますからね。「一番有名なプロレスラーにする」って豪語してましたから（笑）。

船木　そうなんですか（笑）。やっぱり強さとか弱さとか、あと技術を知らないから、それはまだ弱い部分かもしれないですけども、初期の総合格闘技っぽいっていうか、ある道場でスパーリングやらせたことがあるんですけど、ケンカ腰のスパーリングになっちゃうんですよ。柴田とやると練習してる相手がつい熱くなってしまうんで。そういう気質っていうか、柴田が動けば風が吹くじゃないですけど（笑）。

——波風が立ちますか（笑）。

船木　そういうのがあるんですよね。これは理屈じゃなくて、生まれつき持ってるものがあると思うんで。たぶん誰が相手でもそういう試合になっちゃうと思うんで。

——スイッチが入っちゃうんですかね。

柴田　でも、この前の試合のときはプロレスの試合以上に冷静でしたね。いい意味での緊張感はありましたけど、緊張して地に足が着かないってことはなかったですね。

——試合後は絶叫されてましたが、あそこで初めて解放されたって感じですかね。

船木　どっか行こうとしてたよね（笑）。

柴田　何か叫びたかったっていうか（笑）。煽り映像で"狂犬レスラー"って言われて、「狂犬ってイメージ全然ないのにな」って思ったんですけど、いざ試合終わってみたら自ら犬のように吠えてました（笑）。



しばた・かつより■1979年11月17日、三重県出身。1998年新日本プロレスに入門、1999年10月、井上亘戦でデビュー。その後は素顔の他に魔界4号としても活躍。2005年1月に新日本を退団し、ビッグマウスに入団。紆余曲折あり、2006年8月からフリーとなり、UWAI STATIONを中心に活躍するも、2007年3月1日、『HERO'S』名古屋大会での山本宜久戦から活動の場を総合格闘技に。現在はトレーナーの船木誠勝と結成した「チームARMS」に所属。父親はレフェリーの柴田勝久。183cm、85kg。

なんて言われても気にしないです。期待を裏切らない自信があるんで（柴田）

——じゃあしょうがないですね（笑）。あと、『HERO'S』でいうと、いまは無期限出場停止処分を受けている秋山（成勲）選手がいますよね。柴田さんと同じ階級のチャンピオンでもあるわけですけど。

船木　やったらおもしろいんじゃないですかね。体重も一緒ですから。もしも柴田がトーナメントに出るんであれば、どっかでぶつかると思うし。

——船木さん的には観てみたいですか？

船木　それはそれで。秋山選手は確かに悪いことはしましたけどね、それで引退するわけじゃないんであれば、出てもいいんじゃないかなと思うんですけどね。試合しないと意味ないですよ。

——それこそ柴田さんじゃないですけど、拳のケガも治ってるでしょうし、体調的には問題ないわけですからね。

船木　ホントに罰を与えるんであればね、二度とリングに上げないってことになるんでしょうけど、そういうわけじゃないんであれば、早いとこ出して、試合で挽回させたほうがいいと思うんですよね。でも二度



ビッグマウス・ラウドを退団し、フリーとなった柴田はUWAI STATIONでハワイアン・ライオンや浜中和宏などと好勝負を展開。写真は昨年12月30日、浜中戦のフィニッシュ、柴田命名の八方塞がり(腕極め卍固め)!



船木復帰戦が計画されていた2006年2月26日のビッグマウス・ラウド徳島大会。しかし、1月の新日本ドーム大会での柴田＆村上の試合をめぐり、上井氏と前田スーパーバイザーの関係が悪化。船木は前田とともに徳島大会を最後にビッグマウス・ラウドから撤退!



2005年9月11日、前田日明とともにビッグマウス・ラウド旗揚げ戦のリングに上がった船木は全面協力を宣言するとともに自身のリング復帰の是非をファンに問いかけると、場内のファンからは大歓声が巻き起こった。

とクリームなんて塗れないと思うけど（笑）。

――さすがにそれはないでしょうね（笑）。

船木　チェックが凄い厳しいんですよ、いま。控室の中にまでいますからね、監視が。

――（メルヴィン・）マヌーフは松ヤニを塗って反則を取られてましたけどね（笑）。

船木　ありましたね。でもホント、作戦会議もできないですから（笑）。やること多くなっちゃったよね。

柴田　まあ自分はそれが最初だったんで。

――それがあたりまえに感じた、と。

柴田　面倒くせえなとは思いましたけどね。ションベン行くのにもついて来ますし。

――クリームの話が出ましたけど、船木さんの現役時代も……。

船木　あ～、外国人選手とか、みんな塗ってましたよ。なんか滑るんですよね。でもそれがあたりまえだったんで、自分たちのときは。だからホントに汗かく前に極めるか、あとはシューズの部分は滑らないとか。そう思ってやってましたよ。金的とかもありましたけど、金的も蹴られるほうが悪いと思ってやってましたから。基本的になんでもありっていうことであれば、なんでもありじゃないですか。

――掌底ルールの時代のパンクラスで、試合中にナックルで殴られたりとかもありましたよね。

船木　ありましたよ、実際。だから禁止してもやるヤツはやるんですよ。へんな話、相手を信用しないで、かわせばいいんです。

――柴田さんにもそういう心構えを？

柴田　僕はそのまま教えてもらってます（笑）。金的は当たったヤツが悪いっていう教えです。

船木　どっかでなんでもありがなくなってきてるんですね、いま。だからなんでもありだったら、なんでもありなんで……なんでもありなんですよ（笑）。

――アハハハハ！

船木　俺が言っているのは、反則を認めるというわけじゃないですよ。だって、外国人選手は「悪かった」って謝りながらまたやってきますからね（笑）。そんなヤツと闘うとき、自分の身をどう守るかという話なんですよ。

――船木さんは経験があるからそうなるでしょうけど、柴田選手はどうなんですか？

柴田　まあ、滑るようなことされる試合があったっていうあとなんで、自分のときに初めてそうなったらビックリするかもしれないけど、そういうものもあるんだと思って。

船木　滑っても勝ちたいですよね。……わけわかんないこと言ってますね（笑）。

――いや、わかります（笑）。

船木　それでも勝てば、凄い強いじゃないですか。ホントに強いヤツは何されても強い。それが理想ですよ。もちろん、桜庭選手もホントに強いんですけどね。

柴田　まあ自分も強さを求めるうえではそう思っていたいなと思いますね。



ふなき・まさかつ■1969年3月13日、青森県出身。1985年、新日本プロレスで15歳11カ月の若さでデビュー。新日本退団後は第二次ＵＷＦ～藤原組を経て1993年に鈴木みのるらとパンクラスを設立。長らくエースとして活躍するも、2000年5月に東京ドームで開催された「コロシアム2000」でのヒクソン戦を最後に現役を引退。その後は俳優業を中心に活躍中。柴田とのトレーニングの様子も頻繁に書き込まれてる船木誠勝ブログアドレスは→　http://blog.livedoor.jp/masakatsu_funaki/

人に言われての復帰はない。自分でやろうと思ったらやります！（船木）

船木　強くなりたいって人間がいまここに確実に一人いますから。どこまで強くなれるのかっていうのは……ホント、天然記念物みたいなもんだと思いますよ。

――柴田さんは天然記念物ですか（笑）。

船木　みんなそれだけじゃない部分ってありますからね。テレビに出たいとか、お金がほしいとか。強くなったらついてくるもののほうが先に目に入っちゃって。そういう人はそれが手に入った時点でそれを守るのが精一杯になってくるだろうし。ちょっと違いますね。

――次の試合は夏ぐらいですかね？

船木　そうですね。5月中には完璧になると思うんで。

――船木さん自身は先ほども言っていたように「やりたいと思えばやる」と？

船木　思ったらやります。復帰の話にしても、まったく考えてなかったですから。たまたま前田さんと再会して出てきた話だったんで。ホントに人生って何があるかわかんないですね。

――だいぶ前のインタビューでも、今度総合をやるときは刀を持っての殺し合いか、5億円持ってきてくれたらやるみたいなことを言われてましたけど（笑）、いまは現実的に億の金も動くような時代になってきてるみたいですからね（笑）。

船木　そうみたいですね。最近よく柴田とお金の話とかもするんですけど、5億もらってもあんまりその後の生活がどうのってことでもないのがわかったので。

――5億じゃダメですか（笑）。

船木　もらったらもらったで、それも大変なんですよね、税金対策とか（笑）。

――アハハハハ！

船木　だからやるときはやります、そういうの関係なしに。ゼロ円でもたぶんやっちゃうと思います。

――それも極端ですね（笑）。プレッシャーかけるわけじゃないですけど、最近プロレスラーがいいイメージで総合で勝ったりとか、いいニュースってあんまりなかったんで、ホントに昔プロレスを観てたファンとか、プロレスに強さを求めるファンってモノ凄く柴田選手に期待してると思うんですよ。

柴田　もう勝手にどうぞって感じですね（笑）。まあでも、自分は期待を裏切らない自信がありますから。

船木　勝っても負けても……基本的にネバーギブアップの精神だと思うんで、やり続けるっていう意味では。それがあれば、おそらく観てる人たちも満足すると思うんで。何か必ず提供してくれると思います、明日への希望っていう力を。

――明日また生きるぞ、と（笑）。

船木　それがなくなったら引退ですから（笑）。

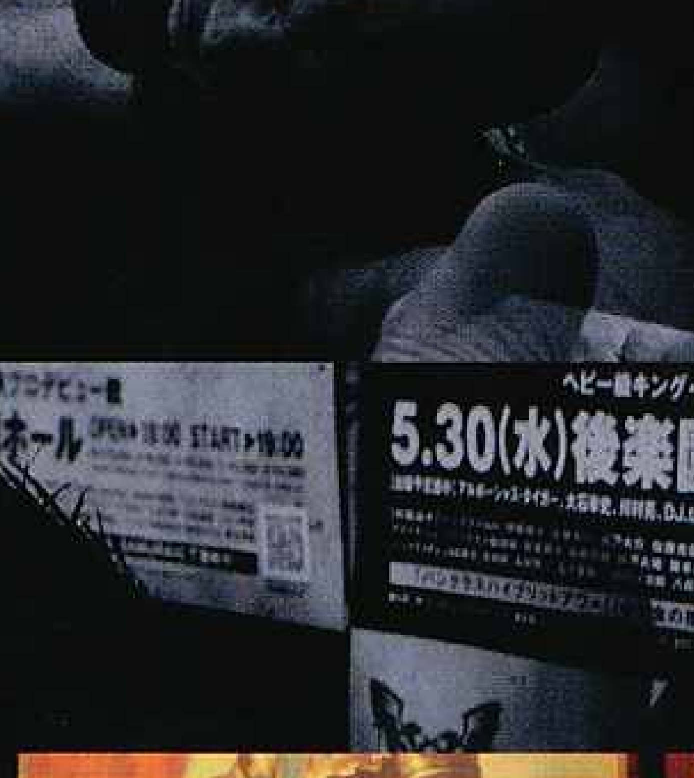
――夏ぐらいに観られるであろう試合のほう、期待してます！

柴田　はい。まだ試合も決まってないですけど、頑張ります！

【07年4月30日／都内・「レンジャー品川ジム」にて収録】

4.14ロシア・サンクトペテルブルグ大会で
ついに皇帝ヒョードル強奪達成!!
そして、さらに驚くべき野望へ——!?

ボードッグ
Calvin Ayre
10月、日本侵攻か!?



「日本のMMAファンはきっと
ボードッグを成功に導いてくれるはずさ」

ほしいものはなんでも手に入れる

ボードッグ総帥
カルビン・エアー

聞き手／高崎計三　写真協力／bodog.com、Ken Pishna (MMAWeekly)　構成／松下ミワ

プーチン大統領来場、エメリヤーエンコ・ヒョードル出場で世界中の注目を集めたロシア大会のあとも、ボードッグはうごめき続けている。大会の翌週には、主要スタッフの一人であるエリック・ニコル氏が来日し、パンクラスと会談。4月を含む後楽園ホール3大会へのスポンサードと今後の展開について話し合いを持ったようだ。

　スポンサー契約の成立に伴ない、4・27後楽園大会からパンクラスのリングにはコーナーポストなどにボードッグのロゴが入った。また、同大会ではボードッグのオフィシャル・グッズも発売。これがまた意外に売れていてビックリ！

　会談内容には、7月に予定されるボードッグの第3回PPVイベントへの、パンクラスからの選手派遣も含まれていたはず。大会後に記者に囲まれたエリックは、近藤有己について聞かれると「たいへん魅力的な選手。近いうちに、ぜひ出てもらいたい」とメチャクチャ好感触発言！　いきなり7月大会でボードッグ・デビューも充分あると見た！　不動心と大富豪の競演も興味深い！

　また、エリック氏のような主要スタッフがやってきて、ただの茶飲み話で済むはずがない。ズバリ、今年中に実現が見込まれる、ボードッグ／パンクラス共催のビッグマッチについても話し合いが持たれたのではないかと予測する。ボードッグの今年のスケジュールはまだ全貌が出てはいないが、いまのペースから考えて、次のPPVビッグマッチは10月あたりが濃厚だろう。いまから約半年後となれば、日本での準備期間も充分にある。ズバリ、ボードッグとパンクラスは10月に日本で何かを起こす！　そう予言する！

　加えて、今回ついにボードッグに参戦したヒョードルも、ボードッグとは3試合契約を結んでいるのではないかという噂も流れている。とすると、日本での知名度は抜群なだけに、ヒョードルがボードッグ日本侵攻の先駆けとして上陸する可能性も……!?　いずれにしても、カルビン・エアー率いる"闇帝国"の動向からは目が離せない！



ボードッグ・ロシア大会に来場したプーチン大統領。この日はモスクワ中心部でデモ行進が起こったと報道されたが、この余裕はいったい!?　それにしても、一国の大統領を招待できるボードッグの"パワー"は凄い！

カルビン　（席に着くなり）やあ、キミとはコスタリカでも会ったね。私は親戚に日本人がいるから、日本人には特別に親しみを感じるよ。

──親戚に日本人？　どういう関係なんでしょうか？

カルビン　弟が日本人の女性と結婚しているんだ。だから、私にも日本人の血が流れてるようなものなんだよ。

──いや、それは言いすぎな気がしますが（笑）。さて、初のロシアでのPPV大会までこぎ着けましたね。

カルビン　信じられない気分だよ。この国にはもの凄く才能のある選手がたくさんいるし、ロシアで大会を開くということは私の夢だったんだ。だから、現実になってとてもうれしい。

──今回の大会は、ロシア側の協力もかなりなければ実現しなかったのではないかと思いますが。

カルビン　そのとおり。我々ボードッグがレッドデビル／M－1と良好な関係を築いているのは知ってるよね。これはMFCの頃からのものなんだけど、今回の大会に関しても現地での準備についてはボードッグとM－1のスタッフがよく協力し合うことで実現に至ったんだ。代表のワジム（・フィンケルシュタイン）には感謝の気持ちでいっぱいだよ。私たちは最初、MFCと協力することでこのビジネスのきっかけを作ったし、ロシアのレッドデビル、日本のパンクラスなど世界中の信頼できるMMAプロモーションと協力関係を築きつつある。これが、私たちの進める世界戦略のやり方だね。最も大事なのはパートナーシップだ。

──ロシアの人々には、MMAを観るという習慣はこれまでなかったと思います。今回はそこに斬り込んでいくことになるわけですが。

カルビン　ボードッグは基本的に世界戦略をしている会社だからね。だから私たちのやり方を通じて、世界中の人々にMMAを届けたいんだ。日本はMMAに関してはとても洗練された市場を築いているけど、それと同じような市場を世界中にもたらしたいと思っているんだよ。アメリカでMMAを好きで観ているファンでも、その技術の素晴らしさを理解した上で観ている人は少ないよね。それを伝える役目もしていると思う。

──技術の素晴らしさですか。

カルビン　やっぱりどうしても殴り合いに目が行きがちだけど、技術の素晴らしさを見せることができるのは多くの場合グラウンドだ。日本のほうが洗練されているというのは、ファンがそういうところも理解しているという部分なんだ。だから日本のファンがわかっているような総合の素晴らしさを、世界中に伝えたいというのがボードッグの一つの目的なんだ。

──理想は高いですね。

カルビン　一般の人は、MMAっていうと闘鶏みたいなものに思えるのかもしれないけど、本当はチェス、痛みを伴なうチェスのゲームみたいなものだと思う。だからおもしろいよね。

──なるほど。ところで今回の大会は、PRIDEヘビー級王者であるエメリヤーエンコ・ヒョードル選手が出場することで、政治的な注目を浴びることになりました。ハッキリ言えば、勝敗への興味より政治的な視点のほうが強調されていますね。その点についてはどう思いますか？

カルビン　まず何より不幸なのは、『PRIDE』がアメリカの会社のものになってしまったってことだ（笑）。でもヒョー

べつにヒョードルをPRIDEや日本から奪おうとしてるわけじゃない

ドルってのはご存知のとおり素晴らしいアスリートだし、彼がほかの団体とどういう付き合いをしているかっていうディテールはわからないが、ただヒョードルがボードッグに出場して試合をしてくれるってことに関しては非常に光栄に思ってるよ。私にとっては、それだけで充分だ。

――今回のことで、日本のファンからあなたやボードッグは悪者的な見方をされていますよ。

カルビン そうなの？ 私は日本が大好きで何度も行ってるんだけどなあ……。

――日本の『PRIDE』で王者として君臨している"60億分の1"のヒョードル選手を奪った、と。

カルビン 私は前にも言っているとおり『PRIDE』も大好きだし、この世界の先達として非常に高く評価している。その王者であるヒョードルが、ボードッグのリングに上がることを選んでくれたのは私にとってたいへん光栄なことだ。べつに私は『PRIDE』や日本からヒョードルを奪おうとしているわけじゃない。今回はヒョードルがボードッグを選んだ。ただそれだけのことだ。

――ヒョードル選手は今後もボードッグに上がるんでしょうか。追加契約は結んだんですか？

カルビン （無視して）でも私は、日本が好きだからこそ『ボードッグ・ファイト』を日本に持ち込もうとも思ってる。だから、ボードッグが持ってる素晴らしいものをすべて日本のファンに体験してもらうことで、悪者というようなイメージは払拭できると思うよ。

――日本進出宣言ですね。何か具体的なプランはすでにあるんでしょうか。

カルビン まだ明かすことはできないな（笑）。いま、その計画をいろいろと練っている最中だから楽しみに待っててくれよ。私の考えでは、世界中で最も洗練されているのは日本と韓国のファンなんだ。だからその市場を非常に重要視している。近い将来に上陸することは、100パーセント約束できるよ。そして日本のファンに満足してもらえるものを提供できる自信は充分にある。

――大会前の記者会見でも質問が飛びましたが、UFCのダナ・ホワイトはとりわけボードッグに対して攻撃的な態度をとっています。それについては？

カルビン 会見での私の発言（「ならば私も頭を剃って会場に行くか」）はもちろん私流のジョークなんだけど、UFCという組織はもの凄く好きだ。だからダナ・ホワイトが私のことをよく言ったり悪く言ったりするのは全然OKだね。悪く言ってくれるのも、自分にとってはもの凄くいいことだから。だって、それだけ私のことを意識してくれてるってことだろう？ 私から見ればそれだけだね。

――ま、ダナがあなたをよく言うことはないんですけどね（笑）。

カルビン UFC自体凄く好きで、よく観てるんだよ。どこの団体だろうがいい試合はいい試合だから。

――あなたがMMAを好きだというのはいろんな発言からわかるんですが、政治は一切抜きで、あなたの夢のカードを挙げるとすれば？

カルビン 誰の試合というより、この前の





ボードッグと固い協力関係にあるレッドデビルのワジム氏。「ボードッグはヒョードルと3試合契約を結んでいる」という噂もあるが、今後のヒョードルの動向も、このワジム氏の返事次第というところか!?

ダナがボードッグを悪く言うのは それだけ意識してるってことだろ？

CalvinAyre

日本侵攻の前兆か!? ボードッグ関係者が 4・27パンクラスに来場!!

▼大会後のカコミ取材の全貌はコチラ！

――今大会の感想は？

ニコル いいイベントだった。印象に残った選手はヨシロウ・マエダ（前田吉朗）だね。判定だったけど、彼は圧勝だったよ。

――一部マスコミでは「今日の大会で重大発表がある」と報道されていたが？

ニコル 本当？ カルビン・エアーからは何も聞いてないよ。じゃあ、その代わりに今日はどんな質問にも答えることにしようか（笑）。

――ネットで噂されてる10億円トーナメント開催の真相は？

ニコル そんなイベントをやるんだったら、僕はいますぐオフィスに戻って「俺の給料を上げろ」と交渉するよ（笑）。

――今後のボードッグの大会の日程は？

ニコル 来週あたり、ボードッグのオフィシャルサイトで全米にPPV放送される大会の発表があると思うよ。ちゃんとチェックしてよ！

――その大会にパンクラスの選手が出る可能性は？

ニコル 正式なことはまだ何も言えないけれど、その可能性は高いと思うよ。

――ミルコ・クロコップのエージェントがボードッグとコンタクトをとっているという話が上がっているが。

ニコル ミルコはUFCと独占契約しているんだから、現時点ではそういう話はないよ。ボードッグは正式にコンタクトをとるのであれば、バンクーバーのオフィスに正式な話があるはずだ。いまのところはそんな話は聞いてないよ。

――今後、パンクラスの2大会をスポンサードするということだが、具体的な内容は？

尾崎 パンクラスとボードッグのリレーションシップの中で、二つの団体の結びつきがより強くなるということです。この関係を進めていくことがプラスになると思いますし、ボードッグさんもパンクラスに通じてプロモーションができる。今回、ボードッグの名前が入ったグローブを使ったり、ボードッグのロゴが入ったコーナーポストやロープを使ったのは、その一環です

――ボードッグとパンクラスで合同大会を開催する可能性は？

マット・セラとジョルジュ・サンピエールのUFCウェルター級タイトルマッチみたいに大番狂わせが起きる試合が大好きなんだ。負けると思われている選手が勝つ瞬間が好きなんだよ。そういう試合をたくさん観たいね。

——それは日本人に近い見方ですね。日本にも不利なほうに肩入れするという、「判官びいき」という言葉がありますよ。

カルビン　私は日本やアジアの思想、哲学というものが大好きでね。経営にも、そういったものをどんどん取り入れているんだ。ボードッグという会社の運営にもそれは浸透させている。だから日本市場に乗り込むことを楽しみにしているのは、私の考え方が日本の思想にマッチしているからでもあるんだ。だから、UFCとは闘う気はないんだよね。

——ん？　どういうことですか？

カルビン　そうやって闘うこと、企業戦争とか興行戦争みたいなことは、アジア的な思想からは外れてるだろう？

——和をもって貴しとなす、ですか。ボードッグはアメリカMMA戦争の最前線に殴り込んだ印象があるので、そういう言葉を聞くのは意外でした。和といえば、K-1がアライアンスについて発表して「ボードッグはUFC／PRIDEとK-1のどっちにつくんだ?」みたいな見方をされてますが。

カルビン　K-1は、基本的に立ち技のプロモーションだよね。私はそう認識している。確かにK-1と話したことはあるが、いまは一緒に何かをしようという話はない。ただ、ボードッグにとって一番よかったことは、UFCと『PRIDE』が一緒になったことなんだ。なぜかというと、二つが傘下に入ったことでいつでもボードッグの名前が出される状態になったからさ（笑）。この12ヵ月間に、UFCと『PRIDE』が合体して一番の団体になったことで、ボードッグは2番目になれたわけだしね。だからダナ・ホワイトさんには感謝してるよ。私の友人であるダナ・ホワイトさんのおかげで、私の会社が2番目になることができたよ（笑）。

K-1とは話したことはあるが、一緒に何かをしようという話はない



ボードッグのアライアンス加盟事情については情報が錯綜し、いまだ真相は究明できず。FEG連合軍、PRIDE／UFC同盟軍のどちらにも属さないボードッグの行方とは!?

——では、ボードッグのリングにほしいファイターは？

カルビン　素晴らしいと思うファイターはたくさんいるよ。だけど、それこそ私がむりやり引っぱってきてボードッグのリングで闘わせるというようなことじゃない。だからいろんなファイターに興味はあるが、その質問に名前を挙げて答えるのは難しいね。クオリティの高いファイターが望んで参戦してくれる……ボードッグをそんなリングにすることが始めた頃からの理想で、それはいま着々と実現されている。だから自然と最高のファイターたちが集まってくると思うよ。

——昨年まではビジネス的にはMMAとの関わりはなかったわけですよね。実際に参入して、予想外の厳しさとか難しさとかはありましたか。

カルビン　基本的にビジネスっていうのはビジネス上の理由でやることと、自分のハートの問題でやることがある。私はおかげさまでビジネスの世界では充分に成功しているので、MMAに参入した本当の理由というのは自分のハートの問題だったんだ。つまり、自分が心の底からMMAが好きだってことさ。そういう気持ちだから、どんな困難な状況になっても難しさとかはまったく感じていないんだ。それで世界中の観客にMMAの素晴らしさ、芸術性を伝えることができれば成功だと私は思ってるからね。

——でも、やっぱりあなたのやることはお金任せというイメージが強くて、「金で選手の心は買えない」という反論もあるようですよ。

カルビン　みんなからそう言われているんだけど、私は女の子たちにも同じぐらいお金を使ってるんだよね。私が女の子たちを好きだってことは誰も疑わないよ。「ど

ニコル　今後はボードッグがパンクラスの2大会をスポンサードするんだけど、それは両団体のリレーションシップの強さによるものだよね。だけど、今後、何かが起こる可能性は充分にあると思うよ。

——K-1がボードッグとアライアンスを組んだという話が上がっているが。

ニコル　『ボードッグ・ファイト』をはじめ、親会社であるボードッグエンターテインメントの使命はクライアントに極上のエンターテインメントを提供することだ。そのために僕たちはさまざまな人たちと話をしてきたけど、その中でK-1とは何も契約していないよ。

——『ボードッグ・ファイト』の日本大会開催の可能性は？

ニコル　僕たち単独で大会を開催する可能性は低いかもね。業界発展のためにボードッグはMMAに参入したけど、それはパートナー抜きには難しいことだよ。ただ言えることは、パンクラスとはさまざまな計画があるということ。将来的にはなんらかのかたちで大会をやろうと思っているんだ。

——K-1がホジャー・グレイシー獲得に動いているという話があるが。

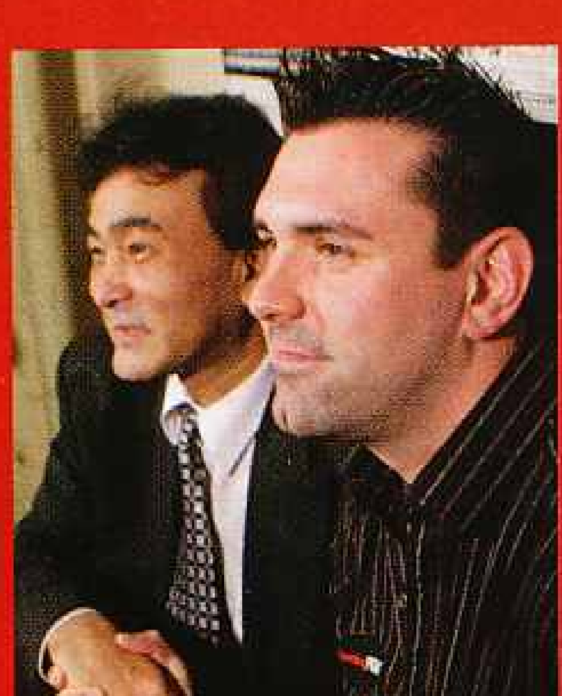
ニコル　公式なことは言えないけれど、ホジャーは去年の12月の大会で1試合契約をしたんだ。ホジャー以外のグレイシーの選手とも交渉をしているんだけど。K-1がホジャーと交渉しているという話は、僕じゃなくてK-1に聞いてよ（笑）。

——近藤（有己）選手にどんな印象があるか？

ニコル　コンドウの素晴らしさはみんな知っている。公式なアナウンスではないけど、彼がボードッグ北米大会に出場する可能性は高いと思うよ。

——『ボードッグ・ファイト』は北米では開催できないという噂があるが？

ニコル　それは完全な噂だね。近日中にアメリカ、もしくはカナダで大会を開催することを発表するよ。



MMA体験をみんなにしてほしい たとえば「MMAリゾートホテル」とか

うして彼女たちにお金をつぎ込むのか?」って質問する記者もいない（笑）。MMAも同じなのに、そっちにはみんな食いついてくるんだよなあ。

――女の子にも同じぐらい！　どんなスケールなんですか（笑）。ちなみにカルビンさんは女の子とMMAでは、どっちのほうが好きなんですか？

カルビン　……女の子だ。すまん（笑）。

――謝られても（笑）。ではあなたの中で女の子には勝てないMMAですけれども（笑）、そこでの究極のゴールはいったいなんでしょう？

カルビン　いや、究極の選択を迫られたら最後は女の子と一緒にいることを選ぶだけで（笑）、MMAを心から愛しているという部分は変わらないよ。私にとってのゴールはやっぱり、このスポーツの素晴らしさをみんなに伝えるっていうことだね。一人でも多くの観客に伝えることができたら、私の勝ちなんだよ。お金はもう充分稼いだ。だからお金を求めるためだけの決断はもうしない。これはまるっきり自分のためのプロジェクトなんだ。

――ただ、ボードッグの参入によって選手たちのギャラが高騰し、結果的に現在のMMAバブルの大きな要因となっています。そこに危機感を覚える人も少なくはないんですが。

カルビン　選手たちはこのスポーツに全身全霊を懸けている。いろんなものを犠牲にすることで、リングに上がっているんだ。そんな彼らは、いまよりもっと高いステータスを得るべきじゃないか？　ギャラが高騰しているといっても、平均してみればアメリカのメジャーリーグなんかにはまったく太刀打ちできていないだろう？　私たちも、誰でも彼でもとんでもない額をオファーしているわけではない。だから多くの人が、いまキミが言ったように「バブル」という言葉を口にするけど、私はこれをバブルとは認識していないね。もちろん、ボードッグがバブルをいたずらに膨らませて破裂寸前にしてしまっているとも思っていない。

――ボードッグのやり方はとても独特で、いままでほかの団体がやろうともしなかったようなことが次々に出てきます。次の一手は何か考えてるんでしょうか？



ヒョードルのボードッグ参戦前夜に胸を弾ませるカルビンさま。ただMMAという名のおもちゃで遊んでいるかのようにも見えるが、その先にどんな野望があるのだろうか。

カルビン　MMAの選手はみんな素晴らしいパーソナリティを持っているから、みんなに彼らのライフスタイルを伝えることを一番に考えているんだ。大会前の会見もそうだったんだけど、闘うことしかできない無知な人間じゃなくて、非常にインテリジェントな人間が多いので、それを伝えることがゴールでもあるんだ。

――それはテレビシリーズの内容にもよく表われていますね。

カルビン　それから、MMAをもっとみんなに体験してほしいということもよく考えるんだ。

――MMA体験？

カルビン　たとえば、「MMAリゾートホテル」みたいなものだね。チェックインすると、フロントに殴られるんだよ（笑）。

――そんなホテル泊まりたくない……。

カルビン　私はいいと思うけどなあ。

――この話は掘り下げても仕方なさそうなので（笑）、日本進出の話に戻させてください。ご存知のとおり、日本には大小いくつものプロモーションが根づいています。そこにボードッグが割って入るのは難しくないですか？

カルビン　さっきも言ったように、日本市場がもの凄く洗練されているということはよくわかっている。だから、そこに入っていくことが簡単でないということも認識してる。だけど、我々のいままでのやり方を継続していって、柔軟性をもってやっていけば問題はないんじゃないかと思うんだけどね。じつは、ボードッグのやり方は日本に一番合ってるんじゃないかという気がしてるんだけど。

――どういうことですか？

カルビン　これもさっき出たとおり、和を大事にするアジアの思想だね。これを経営上とても大事にしているから、それは日本のファンにも通じると思うよ。だから日本のファンにはボードッグは気に入ってもらえると思うんだけどなあ。

――ちょっと抽象的でよくわかりませんが……。でも実際、いろんな意味であなたの存在は日本のMMAファンのあいだでも注目されています。そのファンたちに伝えたいことは？

カルビン　世界でも一番の市場に日々、接してるファンだからね。だから日本のファンの手助けがあってこそ、私の「MMAを世界の人々に知らせる」という目標が達成できると思うんだ。MMAは芸術だということを多くの人にわかってもらいたいし、それを助けてくれるのが日本のファンだと思ってるんだ。まあ、ボードッグがこれからどんなことをやるか見ていてくれよ。きっとみんな、アッと驚くことになるからね。

【07年4月13日／ロシア・サンクトペテルブルグにて収録】



4.27パンクラスの会場では、さっそくボードッグ・グッズが売られるように。これがまた微妙に売れているというから、やはり日本の景気も回復しているのだろう。



ついに本腰!? ボードッグにコミッショナー誕生!

衝撃!! ボードッグの“原動力”は豊田真奈美イズムの継承者だった!

ジェフ・オズボーン氏

ボードッグは日々進化している!? なんとボードッグにコミッショナーが誕生していたのだ。左のオズボーン氏がその人物だが、この方、驚くべきことに豊田真奈美信者だったことが発覚!! 90年代、その素晴らしさに陶酔し、アメリカのプロレスマニアならびにターザン山本！さんをも狂わせた豊田真奈美だが、ボードッグのコミッショナーであるこのジェフ・オズボーンもその一人だったとは!

——まずは、簡単に自己紹介をお願いできますか？

ジェフ OK。3歳からプロレスファンでね。幼稚園でも、先生に「将来、何になりたい？」って聞かれて、みんな警察官とか消防士とか言ってたんだけど、僕はプロレスラーになりたいって言ってたんだ。1994年までは、ローカルの小さい団体で実際にプロレスラーをやってたんだ。

——プロレスラーでしたか（笑）。

ジェフ 好きなレスラーは獣神サンダー・ライガー、初代タイガーマスクだね。アメリカのプロレスより日本のほうが洗練されてたから、自分がプロレスをやってた頃は全部、日本の技を真似してたんだ。マナミ・トヨタ（豊田真奈美）も大好きさ（笑）。

——ハハハハ！ 90年代にアメリカにウジャウジャいた典型的な日本プロレスオタクじゃないですか！（笑）。

ジェフ そんなところさ（笑）。

［ここでジェフは豊田真奈美の素晴らしさを延々と語るが、大幅にカット］

——で、そろそろジェフのことを聞かせてください！

ジェフ ああ、そうだね。それで、95年にMMAの会社を始めてフックンシュートを運営してたんだけど、プロレスのコンセプトをMMAに持ち込んだのはアメリカでは僕が最初だと思うよ。真剣勝負でも、プロレスのプロモーションとかストーリーの作り方を真似したら、もっと成功すると信じてるんだ。

——なるほど。ところでジェフはボードッグではコミッショナーに就任されたとのことですが、どのような役割なんでしょうか。

ジェフ ファイターが喜んで試合をできるような状況と、安全に試合ができるような環境を作ることが最大の仕事だね。ボードッグは新しい会社だから、失敗をなるべく少なくしないといけない。僕のプロレスとMMAでの経験を、ここでもっと活かしたいんだ。

——プロレスの経験を（笑）。

ジェフ 僕がもっといろいろ提案できるようになったら、もっとプロレス流のキャラクターとかギミックを取り入れて、MMAを盛り上げていきたいね。基本的には、ボードッグという会社側と、ファイターの側が両方ハッピーになれるような状況作りが僕の役目と言えるね。あとルール面の整備は僕の仕事だ。



下心丸出しのターザン山本！さんが『週プロ』で大プッシュしまくった豊田真奈美。まさかオズボーン氏も彼女に魅了されたファンの一人だったとは！

——ボードッグはほかと違うことをやろうとしていることもあって、リング上についてはいろいろ整備しないといけないことがあるように思うんですが。

ジェフ まだまだ若い会社だからいろいろ学びながらやってるんだけど、PPVも前回よりよくなっているし、マッチメイクも次回のPPVの対戦カードを見てもらえればどんどんよくなってるのがわかってもらえると思うよ。一番初めの『ボードッグ・ファイト・シーズン1』では平均的な試合が多かった。だけど、2月にコスタリカで撮った『シーズン3、4』（現在放送中）の試合は凄くレベルが上がったよ。

僕のプロレスとMMAでの経験をもっとボードッグで活かしたいんだ

——選手のチョイスにも関わっている？

ジェフ 提案はできるけど、決定権はない。だけど、僕の意見を取り入れていけばもっとよくなると思うよ。

——自信満々ですね（笑）。で、一番改善の必要を感じる部分は？

ジェフ マッチメイクはこのままよくなっていくと思うけど、選手がどんなことを希望しているかを会社側に伝える仕組みを作りたいね。日本の格闘技団体の運営は世界で最高だと思う。日本にも何回か行ったことがあるけど、どの運営もまったく問題なくスムーズに進むので、それを学ぶべきだね。

——フックンシュートはボードッグと違って非常に堅実なイメージがあります。ギャップを感じてしまいますが。

ジェフ 僕は、選手にユニークであること、キャラクターを重視することが大事だと常に言っている。よくいるアメリカ人ファイターのように、スキンヘッドでタトゥーをいっぱいしてて、黒いスパッツを穿いているだけじゃお客さんに覚えてもらえないでしょ？ だから、もっとおもしろい格好をしなくちゃいけないというのは、フックンシュートの頃から言ってきた。その点ではボードッグと違うところはないよ。スポーツよりも、ちょっとエンターテインメント寄りに傾いてるんだ、僕の考えは。

——その考えがもっと採用されるようになると、ボードッグはWWEみたいになっちゃうわけですか？

ジェフ まあ、もうちょっとマイルドなかたちだけどね。たとえばモーリー・ヘイゼルっていう女子選手がいて、次は彼女に「キル・ビル」のユマ・サーマンの格好で入場させようと思ってる。その程度で、べつに試合までがWWEみたいになるわけじゃないよ（笑）。

——それでも充分のような……（笑）。

ジェフ ファイターたち自身がオリジナリティを持ってキャラクター作りをしてくれることが希望なんだ。日本人選手は、何も言わなくてもそれを理解してくれるんだよね。だけどアメリカ人ファイターはまだまだ理解できていない人が多いから、そこを改善していきたいね。

——ボードッグに参戦したファイターで、理想にかなっている選手は誰ですか？

ジェフ エディ・アルバレスはやっぱり凄くいいね。ピュアなスタイルで。あとは……たま☆ちゃんかなあ。

——たま☆ちゃんがボードッグの豊田真奈美になる可能性もある、と（笑）。一方、ロシア人選手たちはキャラクターづけに困りませんか。

ジェフ まあ、みんなパーソナリティがドライだよね（笑）。（おおげさに無表情を作って見せて）これがヒョードルのキャラクターでしょ？（笑）。石みたいに無表情でね。

——日本のファンのあいだでもボードッグに対する注目度は増しています。日本のファンに伝えたいことは？

ジェフ とにかく見続けてほしい。いまは新しい会社だけど、すぐにこの業界でも欠かすことのできない存在になるから。いま言えるのはそれだけだね。

——わかりました。いずれ日本大会では豊田真奈美の出場も視野に入れてください（笑）。



私は見た!

ロシア大統領官邸のすべて



大統領官邸に招待された
唯一の日本人ファイター

赤野仁美

［スマックガール・ミドル級王者］

上の写真のとんでもないメンツを見よ！　4.14ボードッグの会場にプーチン大統領が来場したのはもはや周知の事実であるが、ヒョードルおよび参戦選手全員がロシア大統領官邸に招待されたのはご存知ない方もいるのでなないか？　その中でも日本人として唯一呼ばれたのが今回インタビューした赤野仁美である。ロシア大統領官邸とはいったいいかなる御殿だったのか。真の姿を読め！

写真／ロイター/アフロ

――ボードッグ・ロシア大会で、試合後にプーチン大統領に会った唯一の日本人選手ということで、赤野さんにお話をうかがいたいと思います！　まず大会自体はどうでしたか。

赤野　どの大会に出るからどうだってのはいつもないんですけど、有名な選手がたくさん出てて、前日の記者会見とかがあるのも初めてだったんで大きな大会だなというのは感じましたけど、リングに上がってしまえば一緒なんで。

――ロシアは初めてですか。

赤野　はい。もっと堅苦しくて、あまり街とかにも出歩けないような感じかと思ってたんですけど、普通の街でしたね。

――大会では変わったことは？

赤野　セキュリティがメチャクチャ厳しかったですね。スタッフの人と一緒じゃないと会場入りできないし、「立ってたら撃つぞ」みたいなこと言われるし。

――選手なのに（笑）。なにしろプーチン大統領が来たわけですからね。来るってことは知ってました？

赤野　前日に聞いてました。でも、上のVIPルームみたいなところで観てるだけだと思ったので、リングサイドにいると知ったときは驚きましたけど。

――大会後はいよいよプーチン大統領のところへ行ったわけですね。

赤野　最初は「PPV本戦の選手のみ」って言われたんですけど、ほかの選手とかもみんな行きたいって言って、けっこう増えてましたね。私は負けたあとだったんで、あんまり行きたくなかったんですけど。

――移動はバスで？

赤野　はい。大型バスで、すっごい飛ばすんですよ。信号も全部無視して。

――信号も無視！　さすが大統領（笑）。

赤野　パトカーが先導してましたからね。夜遅かったのもあったし。着いたのが深夜12時ぐらいでしたから。

――バスはロシア人選手も一緒だったんですか？

赤野　はい。ヒョードルとか、あとカルビ

ヴァン・ダム？　ああ、あの人は北島三郎みたいだなと思いました



この日、判定負けを喫してしまった赤野。気乗りしないままにロシア大統領官邸へ向かったが、そのバスにはカルビン・エアー、そしてジャン＝クロード・ヴァン・ダムも同乗！　なんてVIPなバスなんだい!!

ン・エアーさんとか、芸能人の人とかも。

――芸能人!?　もしかしてジャン＝クロード・ヴァン・ダムじゃないんですか？

赤野　そうそう。私、よく知らなかったんですよね。あの人って有名ですか？

――申し訳ないけど、もの凄く有名です（笑）。しかし、凄いバスですね、それ。

赤野　でも負けたあとだし、ロシア語と英語だけで言葉もわからないし。みんな、気を使って話しかけてくれてましたけど。あのヴァン・ダムって人も。

――マジですか！

赤野　「日本のどこに住んでるの？」とか、「僕も日本のどこそこに行ったことがあるよ」とか。でも私、大会の関係の人かなあとか思ってて。

――ありがたみはなかった、と（笑）。その人が有名人だと知ったのは？

赤野　日本に帰ってきて、雑誌で見てからですね。ロシアのときは、北島三郎みたいだなあと思ってました。

――サブちゃんふう！　で、大統領官邸に到着するわけですが、どんな建物でした？

赤野　お城みたいでした。

――もちろん、そうでしょうね。

赤野　門から建物までが100メートルぐらいでしたね。それで、建物全体がライトアップされてて。天使の絵とか描いてあって。家具とかも金ピカでしたね。

――金ピカ（笑）。

赤野　で、着いたらガードマンみたいな人が何人か立ってて、その人たちにジロジロ見られながら「入れ！」って感じで。

――お客さんなのに（笑）。ボディチェックとかは？

赤野　いや、とくになかったですね。パスポートも出さなかったし。

――厳しいんだかゆるいんだか、全然わからないですね（笑）。

赤野　それで最初、小さな部屋に通されたんですよ。二部屋あって、適当に分けられて。そこでお菓子とか食べたんですけど、あれは準備の時間だったんですかね。メイドみたいな人がいたりして。

――ロシアン・メイド！　やっぱりメイド服ですか！

赤野　いや、そんなんじゃなくて（冷静に）。スーツみたいな格好で、高級な制服みたいでしたけどね。で、それで終わりなのかなあと思ってたら、大広間に通されて、そこにプーチン大統領が来て。

――来ましたか！　大広間ではどんな豪華な食事が出たんですか。

赤野　それが、お皿は前もって並べてあったんですけど、食事は出なかったんですよ。お菓子とフルーツとかがあって、いつ食事が出てくるのかなあと思って待ってたら、最後まで出なくて。

――なんですか、それは（笑）。

赤野　プーチンが来て10分ぐらいしゃべって、お菓子食べて、終わりです。だから、官邸にいた時間は凄く短かったですよ。

――最後まで意味がわからない（笑）。

赤野　凄い長いテーブルがあって、真ん中に凄く豪華なイスが一つだけあったんですよ。最初、「座りなさい」って言われたから、そのきれいなイスに座ろうと思ったら「そこはダメだから向こうに行きなさい」って言われて。なんでダメなんだろうと思ったら、大統領が来て座ったので、ああ、大統領のイスだったのか、と。

――そりゃダメですよ！（笑）。

赤野　それで、もう一人偉い感じの人がいて、その人もプーチンの右横のきれいなイスに座ってましたね。

――ああ、それはベルルスコーニですね。「偉い感じ」じゃなくて、現実に偉い人ですよ（笑）。カルビン・エアーはそのときどこに？

赤野　その二人の向かい側ですね。ヴァン・ダムもその偉い人の隣にいて。で、プーチンの左側にヒョードルが座って。カルビン・エアーの隣にマット・リンドランドがいて。その隣に女子選手が3人並んで。

――結局、官邸にいた時間はどれぐらいだったんですか？

赤野　最初の部屋に1時間、大広間には20分ぐらいですかね。

――プーチンは選手みんなに声をかけてくれたんですか。

赤野　そうですね、それで最後に一人ずつ握手してくれて。それで終わりです。

――握手しましたか！

赤野　あ、でも自分はしてないんです。べつにしたくなかったし、早く帰りたかったんで。すればよかったですかね。

――冷めてますねえ。たぶん、そんな機会はもうないですよ！

赤野　みんな一緒に写真とかも撮ってたんですけどね。それも私はしてなくて。

――撮ってないんですか!!

赤野　試合後だったんで、とにかく早く帰りたくて。みんなに「なんで撮らなかったんだ」って言われましたけど。

――そりゃ言われますよ！　希望すれば、撮らせてくれてたんですか。

赤野　そうですね、みんな撮ってましたよ。携帯じゃなくて、普通のデジカメで。ニコニコしてましたよ。

――でも撮らなかったんですよね!?

赤野　あ、お菓子の写真だけ撮ったんですよ。マトリョーシカ（ロシアの民芸品。開けていくと小さい人形がどんどん出てくる人形）みたいになってて。

――プーチンよりもお菓子（笑）。でも日本の首相にも会ったことないですよね？　それがロシアの大統領に会うなんて!!

赤野　なんでそんなに興奮してるんですか？（冷たく）。会いたかったですか？

――会いたいですよ!!　もしかして、芸能人とかに会ってもドキドキしないタイプ？

赤野　ああ、そうかもしれないですね。でも「キャー！」とか言います？

――キャーはないですけどね（笑）。ところで官邸を出るとき、お土産はなかったんですか。

赤野　あ、ありました。サンクトペテルブルグの写真集。街の寺院とか、名所みたいなのが全部載ってて。凄く重いんですよ。いい紙できれいな印刷なんですけど。あとはお皿。宮廷の絵が描いてあるような、きれいなヤツでしたね。

――凄く微妙ですね、それは！（笑）。いま、赤野さんの部屋にあるんですか。

赤野　あります。お母さんにあげようかと思って。プーチンからもらったって言って。

――お母さん、腰抜かしますよ（笑）。ところでプーチンはどんな人でした？

赤野　普通の人じゃない感じはしましたね。しゃべる感じは、訳してもらったからかもしれないですけど、凄く整えられてたというか。

――機械っぽい感じ？

赤野　……言ってしまえば。

――殺気漂う感じは？

赤野　それはなかったですけどね。それよりセキュリティの人のほうが怖かったですよ。ちょうどその頃、ロシアでデモとかあったみたいで、ピリピリしてたなあ。

――ホテルに戻ったあと、出発が早かったと聞きましたが。

赤野　3時頃にホテルに戻って、ほとんど時間がなかったですね。だから、フルコースが出てたら間に合わなかったです（笑）。

――出なくてよかった、と（笑）。ちなみに、ロシアにはもう……？

赤野　さぁ、どうでしょう。

――最後まで冷めてる赤野さんでした！

【07年5月1日／大森ゴールドジムにて収録】



赤野が大統領官邸で唯一撮った写真がコチラ。テーブルの上にはフルコースのテーブルセットが用意されていたが、出されたおもてなしはクッキーとフルーツのみ！　やっぱり凄いのか凄くないのか、よくわからない。



オラのTシャツ買うだ!!
ウッホ!
ど〜んな
デザインだが
楽しみだんべ!!
ジャングルを着こなせ!
ソクジュTシャツ近日発売予定!!

カルビンさま、読プレページを強奪!?

戦車に乗って、読プレ到着!!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(賞品は5月22日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦こんな人のコラムが読みたい!⑧こんな夢の対談が読みたい!

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「ビッグプロモーション」係まで

※締切は2006年6月20日(水)当日消印有効

kamipro 111 応募券 クイズ! オクタゴン!!

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!



BODOG

ボードッググッズセット

格闘界の“ビリオネア”王、カルビンさまが本誌の読プレページを強奪!? キャップ、パーカーからアンダーウェアまで、ボードッググッズを太っ腹に大放出! ゲットすれば、ヒマでモテない君にもバブリーな日々が到来!?

セットで1名様



★bodogキャップ



★bodogドリンクボトル

★bodogスパッツ

★bodogタオル

★bodogスポーツバッグ

★bodogアンダーウェア

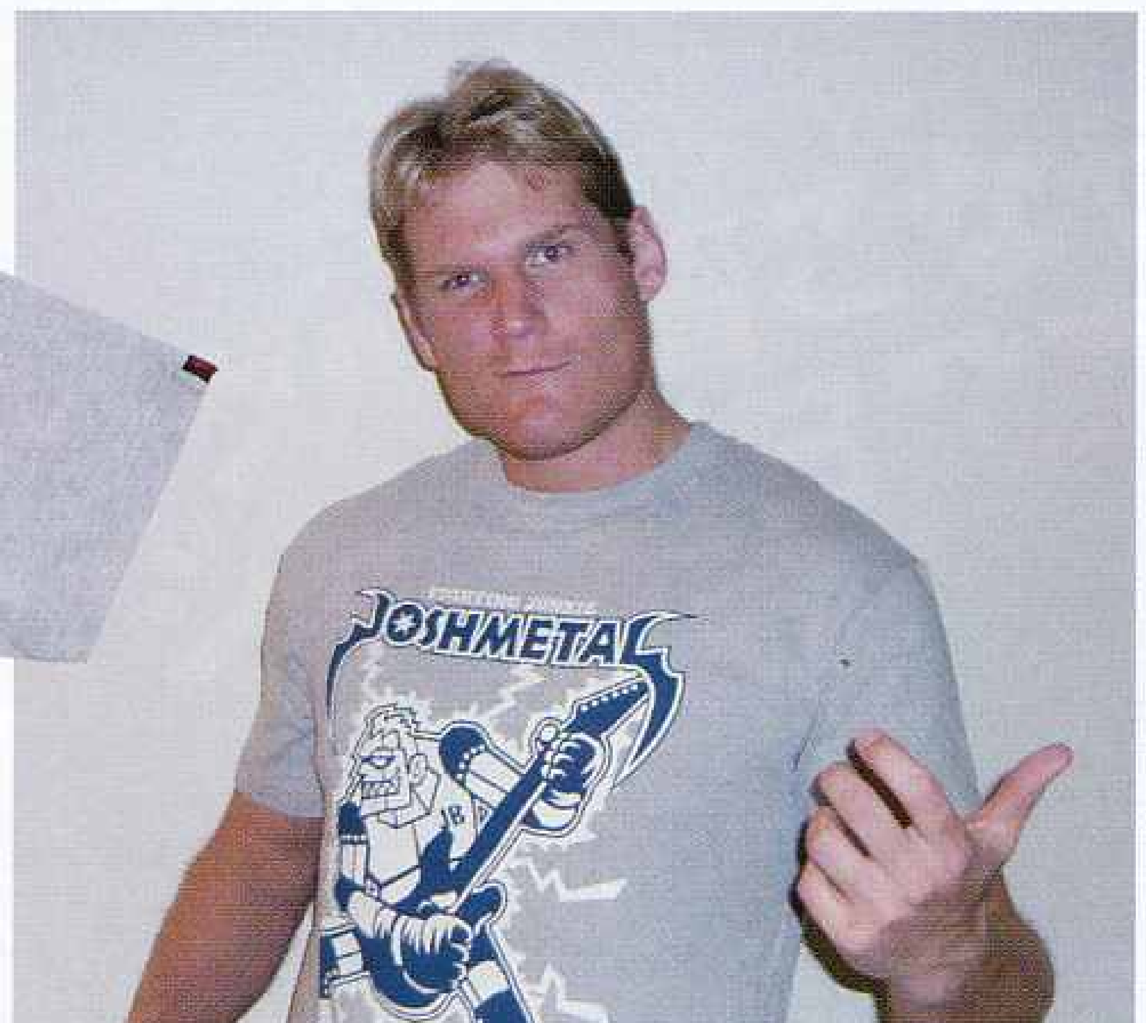
★bodogパーカー

bodogFIGHT■http://www.bodogfight.com/

WEAR



1名様



ジョシュメタルTシャツ

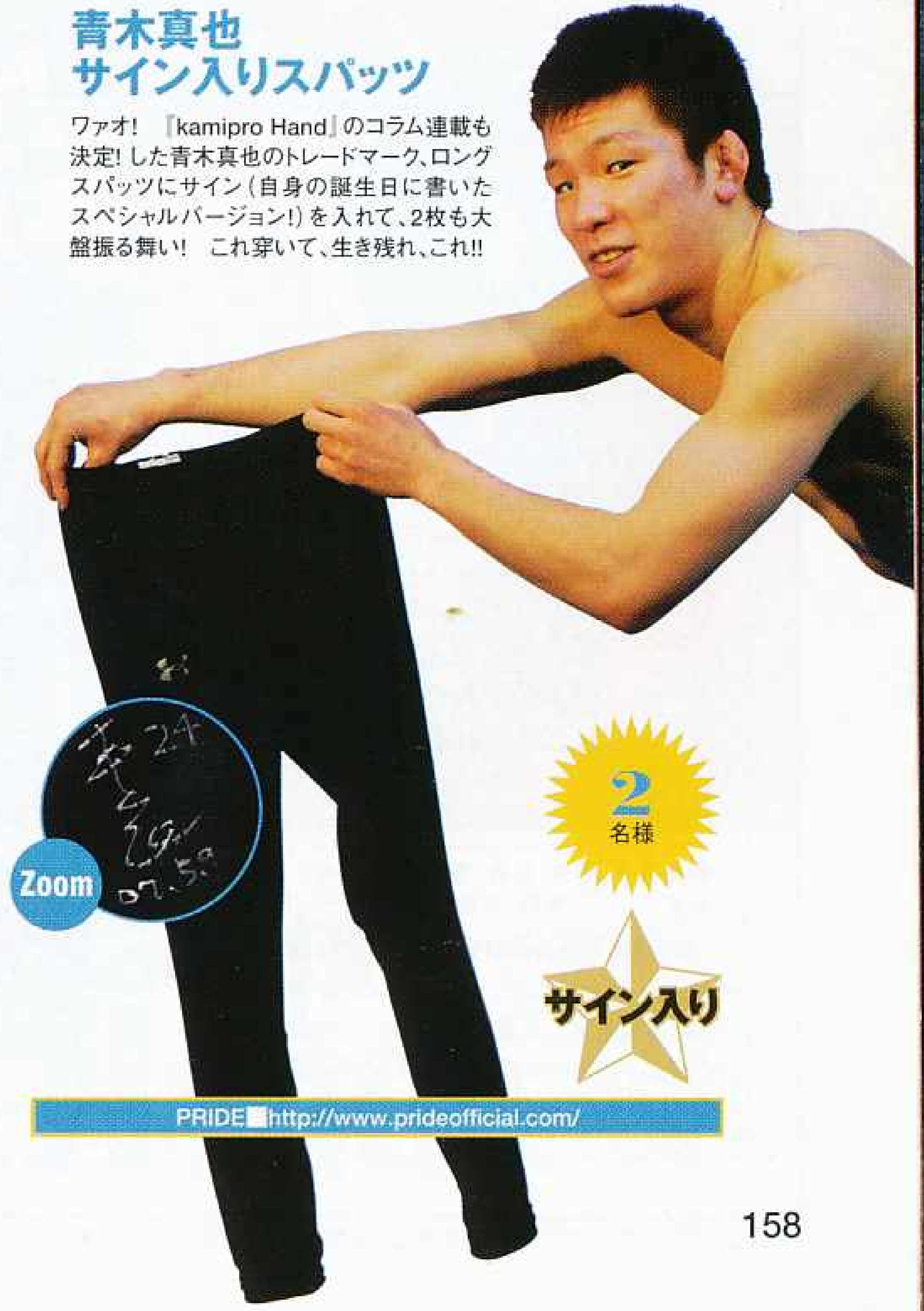
グレー/4,200円(税込)

驚天動地のIGF参戦が電撃決定! した“蒼い目のケンシロウ”ことジョシュ・バーネットの公認Tシャツが格闘技ブランド、アートジャンキーから到着。今回は架空バンド“ジョシュメタル”のツアーTがモチーフ! あたたたたっ!!

アートジャンキーウェブショップ■http://artjunkietokyo.shop-pro.jp/

青木真也 サイン入りスパッツ

ワァオ! 『kamipro Hand』のコラム連載も決定! した青木真也のトレードマーク、ロングスパッツにサイン(自身の誕生日に書いたスペシャルバージョン!)を入れて、2枚も大盤振る舞い! これ穿いて、生き残れ、これ!!



2名様

サイン入り

PRIDE■http://www.prideofficial.com/

PRO WRESTLING







各1名様

アントキの猪木Tシャツ

ホワイト、ブラック

ソントキでもアントキでもノー問題! 本誌初登場となった"猪木芸人"、アントキの猪木からは、"顎"の字がデザインされた、ゲノム魂あふれるオフィシャルTシャツをプレゼント。てめぇらの力で勝ち取ってみろ、コノヤロー!

アントキの猪木■http://park.zero.ad.jp/˜zbc12599/inoki/

5名様

IGF旗揚げ戦ポスター

やればわかるさ! ゲリライベント開催にリングアナ募集! など、闇雲に話題だけは提供しまくっていたIGFが、ジョシュ・バーネットにカート・アングル獲得!? 一気に風雲急な6.29『闘今ボンバイエ』ポスターを5名様に!

IGF■http://www.igf.jp/

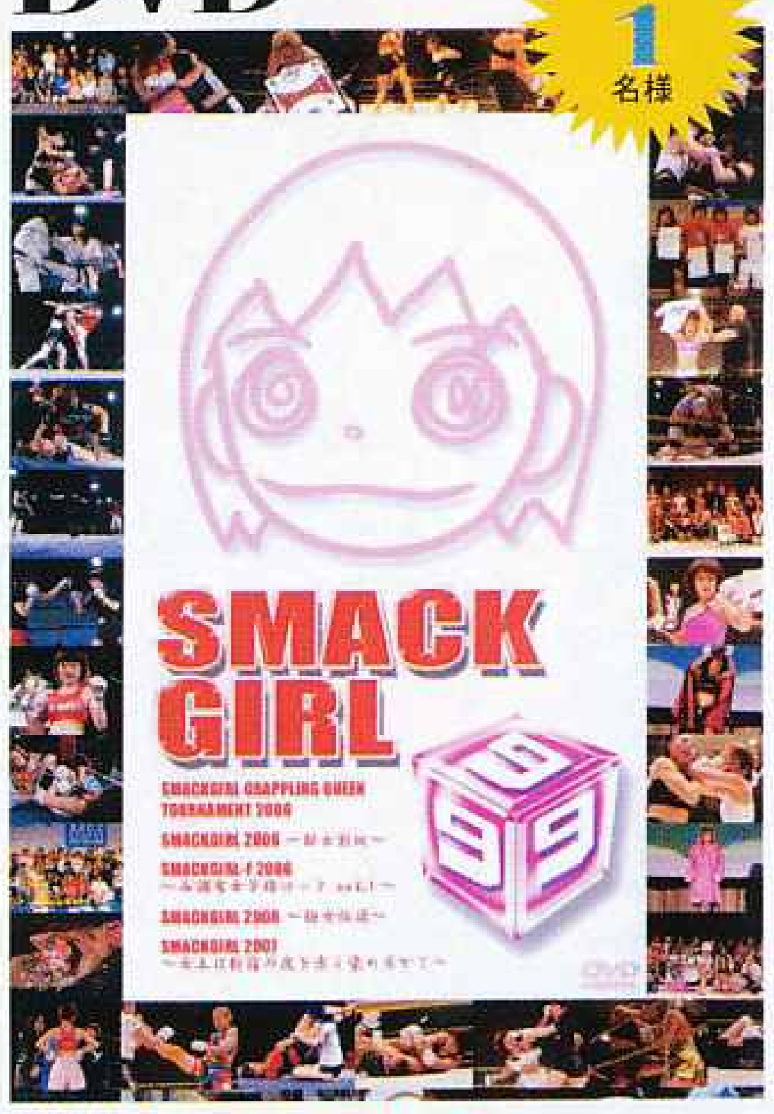
各1名様

サイン入り

平成維震軍寄せ書きサイン色紙『串焼きとちゃんこ かぶき』サイン入り焼酎ボトル

まだまだ、やってやるって!! 今号でひさびさに誌上復活した平成維震軍の越中詩郎、小林邦昭、ザ・グレート・カブキの3人からは、寄せ書きのサイン色紙、さらにカブキの店『かぶき』から、貴重なサイン入り特製焼酎ボトルを提供だって! 本隊ぶっ潰す勢いで応募してみろって!

DVD

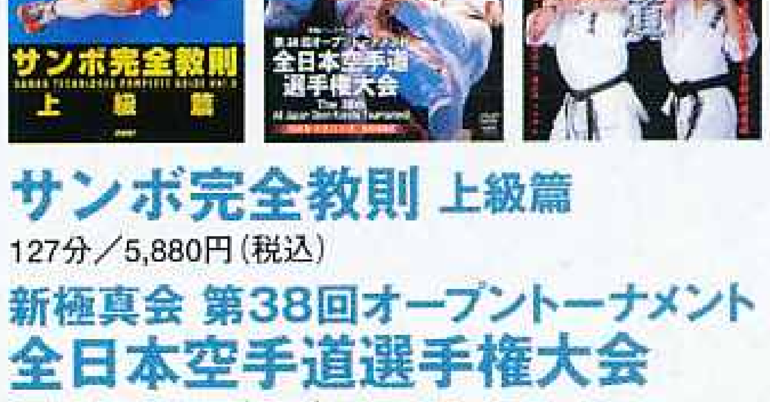


各1名様

SMACK GIRL 9

230分／5,880円(税込)

世界随一の"女子のみ"総合格闘技イベント! スマック2006年下半期の総集編DVD! 極真空手の美少女アイドル、小林由佳ちゃんの勇姿に、君も萌え上がれ!



サンボ完全教則 上級篇

127分／5,880円(税込)

新極真会 第38回オープントーナメント 全日本空手道選手権大会

123分／5,880円(税込)

心体育道 超護身

70分／5,040円(税込)

QUEST■http://www.queststation.com/

T-SHIRT



セットで1名様

プチシルマTシャツ＆タオル

♪プチ、プチ、プチ、プチ、シルマ〜♪ 『UWAI STATION』で毎度おなじみ、プチシルマ体操コンビ、ドン荒川＆ラッキィ池田のイラストつきTシャツ＆タオルが、プチシルマから提供!

株式会社レダ■http://www.leda.co.jp/



各1名様

KAKWA Tシャツ

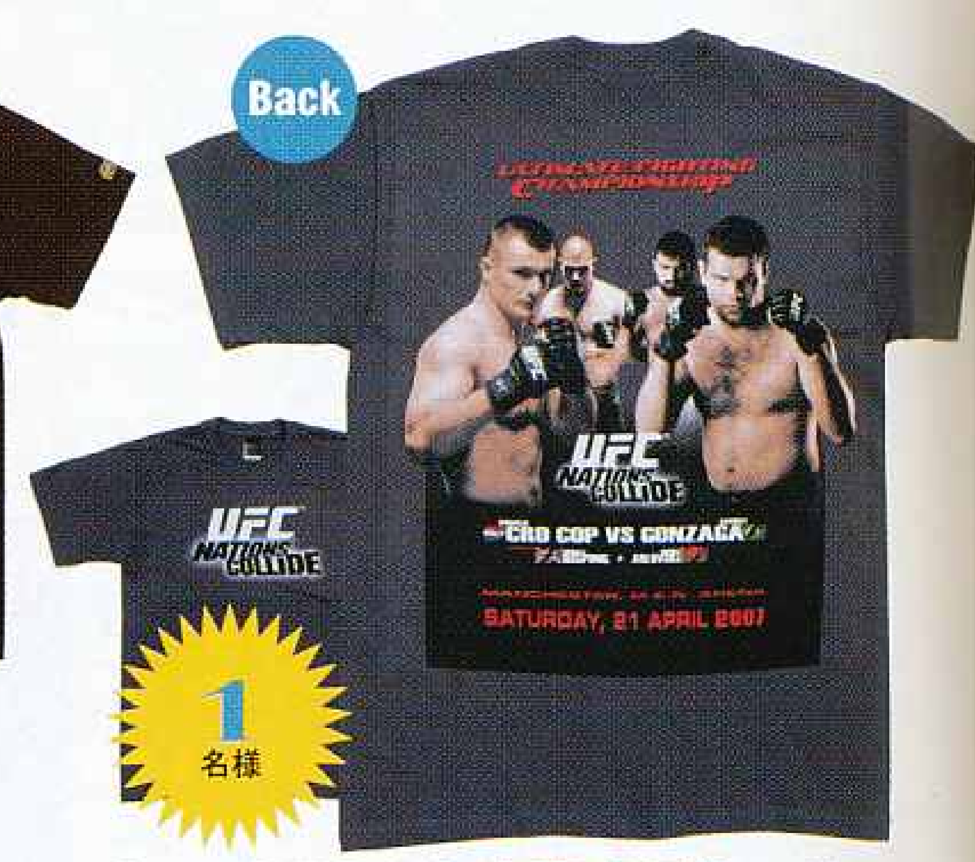
ブラウン／3,500円(税込)

HELSINKI Tシャツ

ホワイト／3,500円(税込)

あの伝説がよみがえる! ハードコアチョコレートから"人食い人種"ジャイアント・キマラのKAKWA Tシャツ。"北欧どさん子パワー!"トニー・ホームのHELSINKI Tシャツが到着!

ハードコアチョコレート■http://hardcore.hp.infoseek.co.jp/



1名様

『UFC70』大会記念Tシャツ

100年に一回級の大アップセット!? ミルコまさかの敗戦を目撃した本誌・特派員、堀江ガンツのイギリスみやげは、バックにミルコやゴンザガが勢揃いしたハイグレードな逸品!

UFC■http://www.ufc.com/

MUSCLE

各5名様

『マッスルハウス4』大会ポスター

800円(税込)

マッスルファン垂涎! 『Quick Japan』(太田出版)のマッスル特集にも登場した異能のマンガ家、ルノアール兄弟のハイテンションな『マッスルハウス4』特製ポスターを5名様に!





『マッスルヒストリー vol.6』

210分／3,000円(税込)

ハリケーンミキサー! 大日本プロレス勢を招致した大喜利大会などで大好評の『マッスルハウス4』大会を収録したDVD発売! 特典には本誌・松澤チョロもちょろっと出演!

マッスル■http://www.ddttec.jp/muscle/

ALL-JAPAN

発売元:株式会社あすなろ舎
©1976, 2007
SANRIO CO.,LTD.



各1名様

プロレスキティちゃんぬいぐるみ

グリーンM／1,800円(税込)

プロレスキティちゃんぬいぐるみマスコット

ピンク／1,000円(税込)

キティちゃんも"プロレスLOVE"!? 全日本プロレスとコラボを展開しているサンリオからキラーグッズ誕生! あのキティちゃんがマスクマンに変身! マスクの着脱も自在!

全日本プロレス■http://www.all-japan.co.jp/

BOOK



『野良犬 キックボクサー小林聡の軌跡』

エンターブレイン／1、680円(税込)

3名様

"野良犬"ここにあり! 今年3月に引退した小林聡の軌跡を藤原敏男ら関係者の証言! 本人の独占インタビューで構成した"濃密"この上ない引退記念本を3名様に!

エンターブレイン■http://www.enterbrain.co.jp/

kamipro 紙のプロレス
No.111
2007年6月5日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
真下義之
クイズ! 上杉!!
八木賢太郎（長谷寺参りのため非番）

電気部
ささきぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長（闇の御意見番）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子

お勘定&衣料部
ニュー林様

黒船野郎
イリ・エゾン（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“東大卒新入社員教育中”芳司

新弟子編集庶務
原 正典

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。



NEXT ISSUE

6.2『Dynamite!! USA』徹底総括、
6.29 IGF『闘今BOM-BA-YE』の
お祭り騒ぎをくまなくお届け!?

次号No.112は
6月22日(金)発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。

kamipro 2007 111

覇王散る！皇帝、太陽、北斗も流れゆく さまよえるPRIDE

2007年6月5日 発行人／浜村弘一 編集人／斉藤倫一 隔月刊行 発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain



定価：本体838円＋税
雑誌61955-11 Ⓗ2007.9
Printed in Japan 図書印刷

9784757735781
ISBN978-4-7577-3578-1
C9476 ¥838E
1929476008381